ラスベガス大会成功もPRIDEに再び大津波!?

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRES

enterbrain MOOK

2006
105
880yen



文句なしの年間MVP候補筆頭が
『PRIDE男祭り2006』へあたたたたたっ!

ジョシュ・バーネット

超絶!! 今年はPRIDE全戦参戦!
"プロレスラー＝スーパーマン"幻想を蘇らせろ!!

飛ぶまでやれやっ!!

鳥肌モノの全45ページ!!
"格闘黄金郷"アッメ〜リカ特集!!

進化し続ける超人が全米制圧宣言!!
ミルコ・クロコップ

再び宣戦布告! 逃げるな、リデル!!
ヴァンダレイ・シウバ

PRIDEに忍び寄るUFCの魔の手!!
ダナ・ホワイト UFC代表

シンジラレナ〜イ! まさかの敗者復活優勝!!
11.5 PRIDEウェルター級GP驚ガクの舞台裏!

W黒タイツでガッペ、バカサバイバー!
青木真也×江頭2:50

通常より20パーセント増!(当社比)
12.2 K-1 WORLD GP&
12.31『Dynamite!!』特集!!

桜庭和志戦決定!
"柔道サイコー!"男が本誌初登場!!
秋山成勲

"U"とキックの頑固者対談!!
田村潔司×立嶋篤史

大好評!『3年G組金沢先生』に
あのセクシー教師が電撃赴任!
夏目ナナ

kamipro 105 飛ぶまでやれやっ!!

東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555
印刷・製本／図書印刷株式会社

©2006 ENTERBRAIN,INC. ©2006 DOUBLECROSS


PRIDE
BUSHIDO
武士道
—其の十三—
2006.11.05 横浜アリーナ
頂点なんかじゃ止まれねえ。
DMMで
BUSHIDO
新たなる歴史の幕開け。
動画配信決定!
©DREAM STAGE ENTERTAINMENT
DMM.com
DMM.comにてPRIDEチャンネルオープン!
PRIDE GP 2000, GP2003, GP2004, GP2005 トーナメントの全試合を絶賛配信中!
ケータイならDVD、パソコンならDVD&動画配信!今すぐDMMにアクセス!
http://www.dmm.com/15
携帯からPRIDE
DVD販売中!
※3キャリア対応

2006 No.105 CONTENTS

kamipro

表紙イラスト／師岡とおる

も〜うしばらく寝ると、恒例の格闘大戦!!

胸騒ぎの大晦日決戦展望!!

※今月の『喫茶店トーク・ラウド』は、I編集長の体調不良によりお休みです。



©2006ENTERBRAIN ,INC. ©2006 DOUBLECROSS 本誌記事、写真等の無断転載、複写を禁じて良かった



ジョシュも、『PRIDE』も
飛ぶまでやれやつ!!
JOSH

大障害を飛び越えようとする姿こそ、06年の象徴的行為だ!!

2006年を振り返るのはちょっと気が早いかもしれないが――今年は〝ジョシュ・バーネットの年〟だったと断言できる。文句のあるヤツは、ホワタッ!!

あらためて説明するまでもないだろうが、〝フジテレビ・ショック〟で激震に見舞われた『PRIDE』をおおいに盛り上げた、無差別級GPの救世主伝説的な大活躍。そこで一躍ヒーローとなったジョシュは、大晦日の大一番『PRIDE男祭り』への出陣が超濃厚だ。参戦が実現すれば、驚くことに06年『PRIDE』全戦出場という偉業を遂げることになる。ほぼ隔月開催が恒例化するようになってからの『PRIDE』では、史上初の快挙だ! おそらく。ホワタッ!?

しかし、驚異的な連戦三昧のダメージが大きく影響したのか、ジョシュは10・22『PRIDE』ラスベガス大会のパウエル・ナッツラ戦で精彩を欠いてしまい、あわやあと一歩で敗北のところまで追い込まれてしまった。

そのため――ジョシュはもう、ボロボロだ!! 精神的にも、肉体的にも、北斗の勇者に休息を!――と、ジョシュの身を案じる声があちらこちらから挙がり始めている。

強豪ひしめく『PRIDE』のリング。ほぼ隔月での参戦がどれだけ過酷なことかは、誰もが理解している。充分にわかっていたが、ジョシュが『愛をとりもどせ!』を陽気に口ずさみながら闘い続けることで、現実的な常識はぶち破られた。マット界ではとっくに失なわれたはずの〝プロレスラー＝スーパーマン〟幻想すら思い起こさせつつある。

――ジョシュはスーパーマンになれるのか。死力を振り絞っていざ『男祭り』のリングへ飛ぶことで、そのまままいずれは〝ラスボス〟ヒョードルのもとへ飛び続けることで、〝プロレスラー＝スーパーマン〟幻想は、現実の伝説としてよみがえってくるはずだ。

その〝飛ぶ〟という言葉には、障害を乗り越えて上昇するという意味と、すべてを失ない、そのままどこかに飛んで消えてしまうというダークでネガティブな意味合いとしても受けとめることができる。


思い起こせば、今年の『PRIDE』には、どこか飛んで消えたくなるほどショッキングな事件や騒動が頻繁に起こり続けた。だからこそ、真っ正面からその大障害を飛び超えるようとするネバーギブアップな精神が凄みとなって浮かび上がる一年だった。うまく着地が図れず無残にも墜落してしまう可能性もあった。その危うさをも背負って飛ぼうとする姿は憧憬の的だった。

痛快さと危うさを併わせ持った。〝飛ぶ〟という紙一重の挑戦――。

2006年――まだまだ大津波襲来の兆しは、ボウッとした不安の影に見え隠れしているが――ジョシュも『PRIDE』も、なんでもいいから飛んでくれ――っ!!



©DSE



今年のPRIDE全戦参戦!! 『男祭り』も出場へ!
よみがえる! プロレスラー＝スーパーマン幻想!!

本誌が勝手に

決定! 2006年 リアル・プロレス大賞 最優秀選手賞は この男だ!

ジョシュ・バーネット

今年も早いものでもうすぐ12月。となると、そろそろ2006年の年間MVPは誰かという話題となってくる。『東スポ』制定の「プロレス大賞」MVP候補は、本命・丸藤正道、対抗・鈴木みのるというもっぱらの噂だが、ちょっと待ってくれ。『PRIDE』という過酷なリングに全戦出場し、プロレスラー＝スーパーマンという幻想をよみがえらせたジョシュにこそ「プロレス大賞」にふさわしいのではないだろうか。というわけで、本誌は勝手に『リアル・プロレス大賞』のMVPにジョシュを選定。今年、もっとも活躍した男に国際電話インタビューを試みた。

聞き手/堀江ガンツ　撮影/山口比佐夫　試合写真/乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

――ジョシュ選手! 10・21PRIDEラスベガス大会が終わってまだ間もないですけど、大晦日の『PRIDE男祭り』出場オファーが来たらしいですね?

ジョシュ　うん。このあいだ正式に出場オファーをもらったんだ。このチャンスをくれたことに感謝しているよ。

――それにしても、ラスベガス大会の試合後、お話をうかがったときは、かなり連戦の疲れが溜まっていたこともあって、『男祭り』出場について明言は避けていましたけど、もうトレーニングを開始してるわけですか?

ジョシュ　やっぱり『男祭り』は『PRIDE』年間最大のイベント。ということは、すなわち世界最大の格闘技イベントだからね。ファイターなら誰でも出場したいと思う。ただ、そんな大切なイベントだからこそ、中途半端な状態じゃ上がれないと思っていたんだけど、幸運な

ことにナツラ戦のあとケガもなかったので、疲れは溜まっているけど、自分の参加が地上波テレビ放送の獲得に少しでも役に立てればと思ってね。

―地上波のことまで考えてましたか！

ジョシュ　だって多くのファンがいま一番望んでいるのは、そこじゃないか。会場に来られる東京のファンはいいけど、地方のファンのためにも、実現できればいいと思うよ。『PRIDE』はゴールデンタイムで放送する価値があるソフトだとも思うからね。

―いや～、ホント頭が下がりますよ。ジョシュ選手は今年、『PRIDE』のGPとナンバーシリーズ全戦参加。しかも相手は中村カズ、アレキサンダー、ハント、ノゲイラ、ミルコ、ナツラと強敵ばかりですからね。こんなハードな連戦ができる選手はそうそういませんよ！

ジョシュ　だろうね。なぜボクがこれだけハードな連戦に耐えられるかといえば、やはりボクがプロレスラーであるということが大きな理由の一つだと思う。プロレスラーは巡業で各地を回って、毎晩毎晩、タフな相手と試合をするわけだからね。ほとんどの総合格闘家には、これはできないと思うよ。あと、もう一つ大きな理由は、僕はケガのため（去年）一年間休んでいたわけだから、そのぶん、少しでもファンに返したかったんだ。だから昨年10月のミルコ戦から数えて、『PRIDE』で7試合闘ったわけだけど、その価値はあったよ。

―だから試合数、試合内容の両面から考えて、今年のジョシュ選手は間違いなくMVPの活躍だったと思いますよ。ところが、日本のプロレスマスコミが選定する『プロレス大賞』の最優秀選手賞候補には、なぜかジョシュ選手の名前は挙がってないんですよ（笑）。

ジョシュ　マルフジ（丸藤正道）とスズキサン（鈴木みのる）が候補に挙がってるんでしょ？

―そんなことまで知ってるんですか！（笑）。ご自分が選ばれないのは、おかしいと思いますか？

ジョシュ　いや、もし彼ら（メディア）がボクを選ばないなら、ボクはもっと凄い試合を見せようと思うだけさ。今年はスズキサンが賞を獲るんじゃないかと思ってる。いつかボクもその賞を獲れたらいいと思うけどね。

―まぁ、『プロレス大賞』がジョシュ選手を選ばないなら、『kamipro』が勝手に『リアル・プロレス大賞』を選定して、その年間MVPをジョシュ選手にさせてもらいますよ（笑）。

ジョシュ　オ～、アリガトウ。ただ、そうなるとミノワサンが黙ってないと思うけどね（笑）。

―プロレスと言えば、先日ラスベガスで『ハッスル』で活躍中のTAJIRI選手との電撃合体が実現しましたけど、現状の『ハッスル』について、どのようなイメージを持っていますか？

ジョシュ　『ハッスル』は、厳密にいうと、プロレスじゃない。ただ、そのリングには



10.21PRIDEラスベガス大会試合後の記者会見でも、ご覧のようにやたらと仲良しなジョシュとヒョードル。しかし、いつかはベルトを懸けて闘う日が来るのだろう。

BARNETT

ボクの『男祭り』出場が地上波獲得に少しでも役に立てたらと思うよ

強い選手が集まっているよね。ボクはプロレスラーなので常に他のリングでチャレンジしたいと思っている。そして『ハッスル』には、多くの闘いたい相手がいるし、カワダ（川田利明）とのことは忘れていないよ。

―あ、まだ一昨年、新日本のG1出場を川田選手に奪われたことを覚えてましたか（笑）。

ジョシュ　もちろん、忘れるわけがないよ！

―そういえば先日、川田選手は「『ハッスル・マニア』でジョシュと闘いたい」と、ちょうど対戦希望を口にしてたところなんですよ。

ジョシュ　ハハハハ。たぶん、カワダはボクが連戦で疲れていると見て、「いまなら勝てる」とでも思っているんじゃないかな。もし闘いたいなら、『男祭り』のリングに来てもらってもいいよ。なんなら、『PRIDE』のリングまでガイドしてあげるよ。

―いや、川田選手はあくまで『ハッスル』のリングでの闘いを希望しているようですけど（笑）。

ジョシュ　（聞かずに）U-STYLEで闘うのもいいな～。闘えるならプロレスでもいいけど、カワダとボクが闘ったら、自分こそがG1出場にふさわしい選手だったことを証明できると思う。そうなったら、カワダのパワーボムやストレッチ・プラムに対抗できる新技を開発するよ。タイガードライバー'91で決めるのもいいかもしれない。

―三沢光晴の奥の手をあえて出しますか（笑）。

ジョシュ　カワダを軽く見てはいないけど、彼は『ハッスル』でずいぶんと楽をしてないか？　もしボクと闘いたいなら、オールジャパン時代のようにハードにトレーニングしないとね。

―『ハッスル・マニア2006』にスクランブル出場しての実現はさすがに難しいでしょうけど、ジョシュvs川田利明はぜひ来年観てみたいですね。ところで、大晦日の『男祭り』では、誰と闘ってほしいというオファーなんですか？

ジョシュ　まだわからないね。でも、大晦日のビッグイベントだから、強い選手が用意されると思う。もしかしたらGP準優勝者であるボクのところにヒョードル戦のオファーがくるかもしれないけど、こればかりは完璧なコンディションで闘いたい相手でもあるし、悩むところだね。

―ヒョードルとは、かなり仲がよくなったようですが、今後闘うことに支障はありませんか？

ジョシュ　ノー。だってボクはナカムラサン（中村和裕）とも仲がいいけど、ちゃんと厳しい試合をしたじゃないか。このビジネスをする以上、たまに起こることさ。でも友人と闘うことになっても、常

ヒョードルは友だちだけど、いつかは北斗神拳の力を味わうことになる

に相手のことを尊敬はしているよ。また、プロレスでもそういうケースはよくあることさ。実際、考えてみたらボクの友人のナガタサン（永田裕志）はライバルでもあるしね。

——大晦日になるのかどうかはともかく、ヒョードルと対戦したい気持ちはあるんですか？

ジョシュ　もちろん！　ボクがチャンピオンになるためには絶対に避けられない相手だからね。それにボクとヒョードルは、じつはつい最近、対戦したばかりなんだよ。

——え!?　どういうことですか？

ジョシュ　ラスベガスの試合後、「ウォッカ一気飲み対決」で対戦した……というか、させられたんだ（笑）。そのときは残念ながらボクの完敗だったんだけどね。早々とタップさせてもらったよ（笑）。

——ヒョードルは酒の席でも"最強皇帝"でしたか（笑）。ヒョードルはミルコに打撃で打ち勝ち、ノゲイラに極めを許さなかったコンプリートな選手ですけど、もしジョシュ選手が闘うとしたら、どう立ち向かいますか？

ジョシュ　その質問にいま答えることはできないね。実際に彼と闘ったときのボクの闘い方、それがすなわちその答えだよ。

——なるほど。ジュシュ選手はノゲイラ戦前、ブラジリアン柔術とキャッチレスリングの違いについて語ってくれましたけど、ヒョードルのサンボとキャッチレスリングにはどういった共通点、相違点があると思いますか？

ジョシュ　サンボとキャッチの共通点は、ともに足関節技を使うこととレスリング式のテイクダウンにあるね。ただ、サンボは柔道式の技術が多いので、裸で闘う総合格闘技で使うなら、レスリング技術が豊富なキャッチのほうがより有利だと思うね。

JOSH BAR

——ではヒョードルは『北斗の拳』のキャラクターにたとえると誰になりますか？　毎度恒例の質問で恐縮ですが（笑）。

ジョシュ　ヒョードルは、北斗琉拳の使い手、カイオウだね。ほとんど無敵のような存在でいつも一人で王座に座っている男だ。でも、いつかヒョードルも北斗神拳の力を味わうことになるよ！

——そういえば、ミルコが「もしヒョードルと闘うなら、クロアチアに来ればいい」と言ってましたよ。

ジョシュ　それはありがたいね。ぜひいつか実現させたいよ。ミルコとはこのあいだラスベガスで初めて一緒に練習したけど、凄く有意義な時間だった。ヒョードル戦がなくても一緒に練習はしたいよ。彼とのトレーニングでボクの打撃が改良できて、ミルコのようなハイキックが打てたら、チョーカッコイイ（日本語で）よね。

——それは超カッコいいですよ（笑）。いずれにしても、今年はすでに6試合闘っており、かなり疲労が蓄積されていると思いますが、『男祭り』で強豪選手を倒せるぐらいのコンディションを作り上げることは可能だと思いますか？

ジョシュ　ダイジョーブ！　ナツラ戦のときは、GP直後ということもあって、あまりハードなトレーニングをせずに、なるべく疲労を回復させようとしていたんだ。そのせいで、彼と闘ってしんどい思いをすることになったけど、それでも身体を休めることは必要なことだったんだ。いまなら、GPのときと同じかそれ以上にシャープな身体になれると思うよ。

——では最後に『男祭り』のメインイベンター候補として、ライバルイベントの『Dynamite!!』を意識したりしますか？

ジョシュ　もちろん意識はするよ。ただ、『Dynamite!!』は、MMAプロモーションというより、バラエティショーという感じだね。まぁ、マエダサン（前田日明）がいるから、ちょっと変わってくるかもしれないけど、K-1サイドにはボクをMMAで打ち負かすファイターはいないし、どのメインイベンターもボクがやってきたような厳しい試合はやってないと思う。ボクが『男祭り』に出場したら、ファンが「『PRIDE』を観に来てよかった」と思うような試合をすることを約束するよ！

【06年11月9日／国際電話にて収録】

PRIDEナンバーシリーズ&GP全戦出場！
2006年はジョシュの年だった!!



[2.26 PRIDE.31]
○vs 中村和裕
(1R 8分10秒 裸絞め)
"無差別級GP前哨戦"ともいわれた試合でジョシュは、仲のいい中村カズと対戦し完勝！GP参戦をおおいにアピールした。



[5.5 PRIDE無差別級GP開幕戦]
○vs エメリヤーエンコ・アレキサンダー
(2R 1分57秒 V1アームロック)
GP一回戦の相手は陰の優勝候補と囁かれたアレキ。だが驚くほど精悍な姿で登場したジョシュは、アレキのスタミナ切れを待ち逆転勝ち！



[7.1 PRIDE無差別級GP2nd ROUND]
○vs マーク・ハント
(1R 2分2秒 羽根折固め)
昨年大晦日にミルコを破ったハントを、ジョシュはあっさりテイクダウンを奪い電光石火の羽根折り固めで一本。一躍優勝候補に躍り出た。




[9.10 PRIDE無差別級GP決勝戦]
○vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
(2R 判定2-1)
瞬きを許されぬほどの目まぐるしい、最高峰の寝技戦が繰り広げられる中、最後にヒザ十字固めを極めかけたジョシュが、執念の判定勝ち！



[9.10 PRIDE無差別級GP決勝戦]
×vs ミルコ・クロコップ
(1R 7分32秒 KO)
ついに決勝まで来たジョシュだが、ノゲイラ戦の疲れもあり絶好調のミルコに、惜しくも勝利ならず。しかし大会MVP級の活躍だった



[10.21 PRIDE.32 "THE REAL DEAL"]
○vs パウエル・ナツラ
(2R 3分4秒 アンクルホールド)
『PRIDE』初のアメリカ大会でジョシュ凱旋勝利！序盤はナツラの組技に苦戦したが、一瞬のアンクルホールドで逆転勝ちを奪った。



M
MIRKO CRO COP

ラスベガス現地独占インタビュー
ミルコが来年の野望とアメリカ進出を語った!

俺たちの誇りを守るためにも PRIDEはアメリカで絶対に成功してほしい



ミルコ・クロコップ

9.10PRIDE無差別級GPに優勝し完全復活をはたしたミルコをラスベガスでキャッチ！　大会の感想はもちろん、ジョシュとの初合同練習、『男祭り』出場問題、さらに来年のアメリカ進出の野望まで語ってもらった。年末から来年にかけ、やはりこの男の動向から目が離せない！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
designed by hisa (TwoThree)

——今回は10・21『PRIDE・32』のゲストとして、ラスベガスに来られたわけですけど、アメリカに来るのは久しぶりなんですよね？

ミルコ　前回来たのは2001年7月。フジタ（藤田和之）と初めてMMAをやる前に来て以来だね。

——やっぱり、あのとき以来なんですか。

ミルコ　オーストラリアでマイケル・マクドナルドにKO負けして、まさかのK—1 WORLD GP予選落ちしたのが2001年6月26日。その一週間後にマネージャーのケン（今井賢一氏）がクロアチアに来て、「もう今年はK—1でお前の出番はない。MMAをやるしかない」と説得された。そこから急いでビザを取得して、7月20日くらいに生まれて初めてアメリカの地を踏んだのが、ロサンゼルスだったんだ。それもあって今回、ラスベガスに来る前にロサンゼルスに寄ってきたんだよ。

——〝総合格闘家〟ミルコ・クロコップの原点の地を訪ねてきたわけですね。

ミルコ　あのときK—1が用意してくれた俺の最初の柔術コーチであるマルコ・ジャラにも会ってきたよ。なんだかやけに懐かしかったな。いまでこそ俺は世界トップの柔術家であるファブリシオ（・ヴェウドゥム）と毎日のようにスパーリングして、寝技にも自信があるが、あの頃はマルコ・ジャラレベルの柔術家の教えを真剣に聞かなきゃいけなかったんだよな、とか思い出してね（笑）。

——マルコ・ジャラレベルですか（笑）。

ミルコ　いや、べつにオレはマルコ・ジャラを馬鹿にするわけじゃない。ここまで来るのはとんでもなく遠い道のりだったなと思い出しただけでね。当時の俺はそんな

レベルの人間だったんだ。練習内容も、いま思えば初歩の初歩だったけど、あれこそがいまの俺のスタートなんだよな。

――いまやPRIDE無差別級GP王者ですけど、わずか5年前はそんな状況だったんですよね。

ミルコ　たしかにたかだか5年なんだけど、とてつもなく密度の濃い5年間だったよ。5年前は最初にアントニオ・マーキーという小さい選手と練習させられて、タックルを取られグラウンドで押さえ込まれ何もできなかった。「俺はこんな小さいヤツ相手に何もできないのか」と愕然としたことを思い出すよ。とにかくMMAのグラウンドの厳しさというものを嫌というほど思い知らされた苦い思い出しかないロサンゼルスに、PRIDE無差別級GP王者として戻ってこれたことは、誇れることなんじゃないかな。

――ある意味〝凱旋〟なわけですよ。

ミルコ　まさにそうだよ。今回はアメリカに移住したクロアチア人でビジネスに成功した大富豪たちが、俺のために大きな会場を借りて「ミルコ・フィリポビッチを迎える晩餐会」というものを開いてくれてね。500人ぐらいの人々が集まって、驚いたよ。おそらく世界一裕福なクロアチア人はアメリカにいるんだろう。そういう人たちが〝祖国の英雄〟として自分を迎えてくれたことが本当に嬉しかった。2001年に初めてロサンゼルスに来たときとは隔世の感があるよ。

――前回は〝都落ち〟みたいな感じで、ゼロからスタートするために修行に来たわけですからね。

ミルコ　あのときは「これから俺はどうなるんだろう?」という不安でいっぱいだったからね。今回、当時住んでいたサンタモニカの長期滞在用モーテルにも行ったんだよ。「ああ、俺はこんなところに住んでいたんだな」と、ハングリー精神を思い出す旅でもあったな。

――なるほど。ロスを経由して、ラスベガスにはいつから入ったんですか?

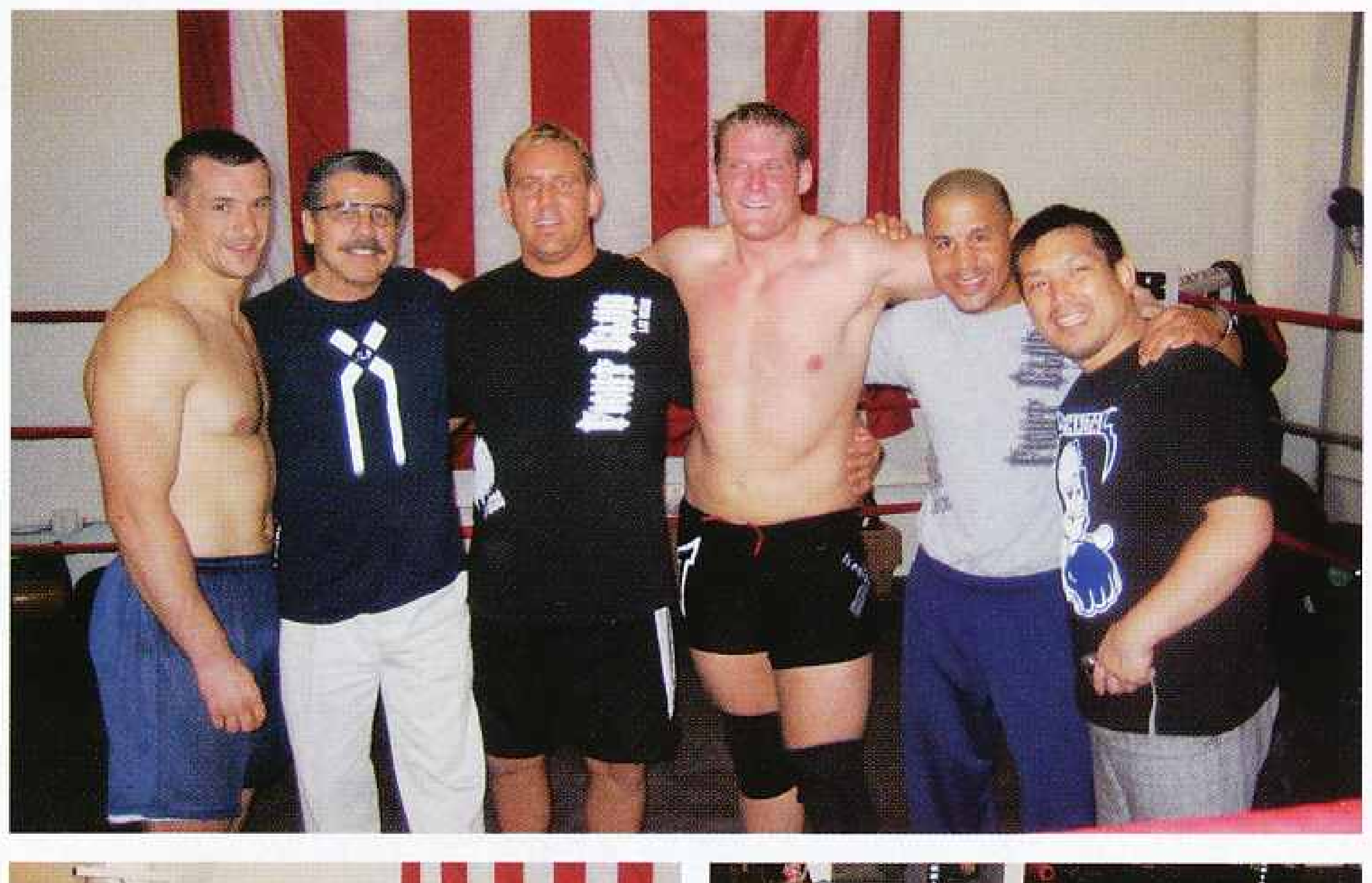
ミルコ　大会の前々日だね。

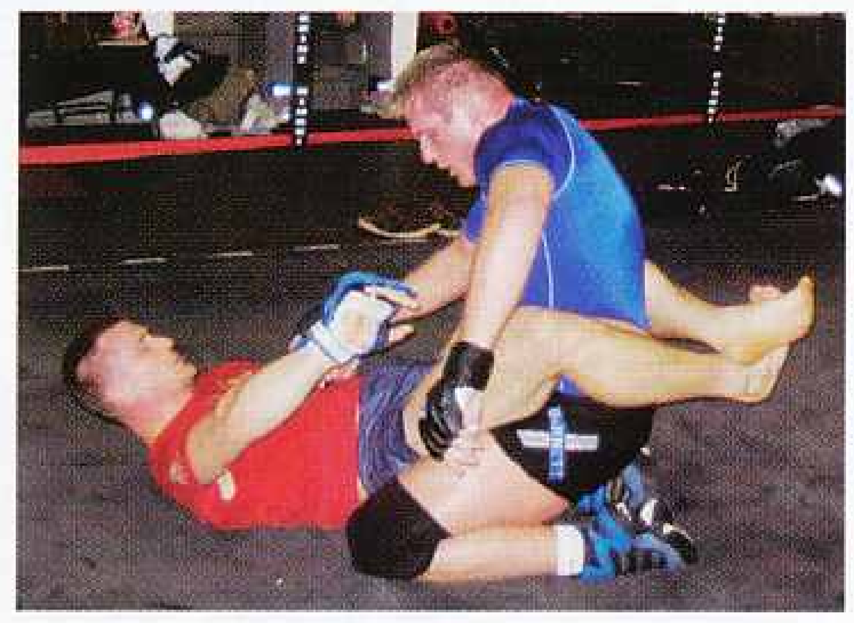
――大会前はジョシュ・バーネットと初めて一緒に練習したらしいですね?

ミルコ　ああ。ラスベガス入りした日の夜に一緒にジムに行ったんだ。

――どんなきっかけでジョシュとトレーニングすることになったんですか?

ミルコ　マネージャーを通じて、俺のほうからジョシュのトレーナーのエリック(ヘ・パーソン)に「よかったらトレーニング手伝うよ」と伝えたんだ。




無差別級GP決勝で二人が闘ったあとから約束していた、ミルコとジョシュの合同練習がラスベガスでついに実現！　このPRIDEトップファイター同士による交流はじつに夢が広がる。

――へ～、ミルコ選手からの提案だったんですか。どんな練習をしたんですか?

ミルコ　ラスベガスの『ファイトクラブ』というジムにジョシュとエリック、それから日本人のジョージ(小路晃)やアベ(阿部裕之)なんかもついてきて一緒にトレーニングに行ったんだ。そこでお互いに打撃や寝技のアドバイスをし合ったんだけど、打撃に関しては、ミットはエリックに持ってもらって、そばで俺がアドバイスをしたんだ。

――どんなアドバイスをしたんですか?

ミルコ　細かい技術をここで言うつもりはないけど、簡単に言うと「ちゃんと踏み込んで打て」ということだね。総合で踏み込んだ打撃が打てないヤツというのは、だいたい、踏み込むことで組みつかれるのが怖いから打たないものだけど、ジョシュは組み付かれたほうが好都合なんだから、思いきって踏み込んでKOが奪える打撃を打てるはずなんだ。それなのにジョシュは、打撃で後手に回ることが多いだろう?

――ジャブで距離を取って、ストレートを打つのは胴タックルに入るためだったりしますよね。

ミルコ　それじゃあもったいないし、時間の無駄だ。彼にとって打撃というものは、これまで相手に組みつくための〝きっかけ〟という考えだったと思うんだ。でも、これからは、せっかく打撃を打つなら、KOできる打ち方をするべきだと言ったんだ。

――組み技が強いジョシュだからこそ、思いきってKO狙いのパンチが打てるということを教えた、と。

ミルコ　いまのジョシュにKOできる打撃が加わったら、多くのトップファイターにとって脅威となるはずだ。それは彼と3度も闘った俺が一番よくわかっている。彼は俺より若いし身体も大きい。次世代のチャンピオンになる男だとは以前から思っていたからね。そんな彼の肉体的資質からくる奥行き、やわらかさ、いざというときの力強さ。そういった潜在能力を引き出す手助けを、いまならしてあげられる。

――ということは、もうジョシュと闘うことはない、と?

ミルコ　俺たちは二年間で3度も闘ったんだぜ。もういいじゃないか。これからは、お互いがもっと高みを目指すために協力し合えたらと思う。

――では、逆にミルコ選手も寝技を習ったりしたんですか?

ミルコ　ジョシュは試合を控えた身だから、短い時間だけどフットロック、ニーバーといった技のコツを聞いたよ。足関節技というものは、俺があまり経験したことのない分野でもあるからね。あのミノタウロ(ノゲイラ)を極めかけた彼のニーバーというものは、俺ももちろん興味がある。

――ジョシュとは、どのぐらいの時間一緒に練習したんですか?

ミルコ　時間にしたら90分ちょっとぐらいだけど、俺のほうが「試合二日前なのにいいのか?」って聞くくらい、熱の入ったトレーニングだったよ。練習後もしばらく

グラウンドでのヒザが認められないならヒジ打ちを解禁すべきだと思う

MIRKO (RO

話しをしたりして、有意義な時間だったね。

——では、ラスベガス大会でのジョシュの試合を観た感想を聞かせてほしいんですけど。パウエル・ナッツラ相手にかなり苦戦しましたが、ミルコ選手はどう観ましたか？

ミルコ　ナッツラはオリンピックで金メダルを獲るほどの実力者だからね。彼のフィールドでは簡単には勝たせてくれないさ。ただ、ジョシュに関しては、連戦の疲れが溜っているな、とは思ったよ。9月10日に俺とノゲイラの二人を相手にしてからまだたったの6週間だからね。それにジョシュはここ数年、一年に一〜二試合しかしていなかったのが、今年は急に二カ月に一回のペースになったわけだろう？　ずっとコンスタントに試合をしていた俺だって、年間7試合やったらボロボロになったからね。肉体的にも精神的にもかなりキツい状態なはずさ。

——かなり疲れが溜っているというのは、ジョシュ本人も言ってましたね。

ミルコ　いわば昨年末の俺と同じような状況なんじゃないか。俺だって8月にヒョードルと闘ったあと、10月のジョシュ戦、大晦日のマーク・ハント戦はまったく身体が動かなかったからね。少し休んだほうがいいんじゃないかとは思うよ。

——ライバルであるヒョードルの試合を久々に観た感想はいかがでしたか？

ミルコ　順当。思ったとおり。それ以外は何もないよ。

——それだけですか（笑）。ヒョードルは「休んだことで、以前より調子がいい」と言ってましたけど。そういった部分は見えましたか？

ミルコ　ヒョードルが本当に仕上がっていたかというと、俺はそうは思わない。コールマンの出来が悪かったというか、やっぱりコールマンの衰えばかりが目についたよ。まだ、俺と闘ったときのほうが動けていた。

——ヒョードルがよかったのではなく、コールマンが衰えた、と。

ミルコ　ただ、もしヒョードルのモチベーションが上がっているのだとしたら、それは俺のGP優勝に刺激を受けたんじゃないか？（笑）。

——それはあるかもしれませんね（笑）。

ミルコ　9月の試合を観たら、ヤツもゆっくり休んではいられないだろう（ニヤリ）。

——そのほか目についた試合はありましたか？

ミルコ　ショーグンはいい闘いをしたと思う。ケビン（・ランデルマン）は何をやってくるかわからないところがあるから、リスクをとらずにすぐグラウンドにいったのは正解だ。来年、彼はミドル級でやるのか、ヘビー級に来るのかはわからないけど、ショーグンとは闘ってみたいね。

——おぉ〜、ミルコvsショーグンが実現したら、ファンは狂喜乱舞ですよ！

ミルコ　一階級下といっても俺がアレキサンダーやジョシュとやるより、ショーグンのほうが体重差はないからね。これはUFCのチャック・リデルについてもいえるけど、通常体重は俺とほとんど変わらないんだから。彼らとならいい勝負ができると思うし、やってみたいよ。とくにショーグンと俺だったら「これが『PRIDE』だ」という闘いができるんじゃないかな。

——そのカードはぜひ、来年実現してほしいですね。ラスベガス大会全体を通して、印象に残ったことはありますか？

ミルコ　やっぱり気になったのはルールだね。

——今回はネバダ州アスレチック・コミッションに従い、4点ポジションからの頭部へのヒザ蹴りや倒れた相手への蹴りが認められてませんでしたよね。

ミルコ　あのルールに落ち着くまで、いろいろな交渉があったと聞いているけど、やっぱりグラウンドで決め手がないから、よほどの実力差がない限りなかなか決まらない。しかも1ラウンド5分だからね。日本でやっている試合と比べると、どうしても生ぬるく見えてしまう。だから、『PRIDE』はさらに交渉を重ねてグラウンドでのヒザ蹴りを獲得するか、ヒジ打ちを解禁にしないと、『PRIDE』本来の厳しさが出てこないと思う。

——たしかにヒジ打ちのあるUFCと比べても〝緩いルール〟と思われる危険性はありますよね。

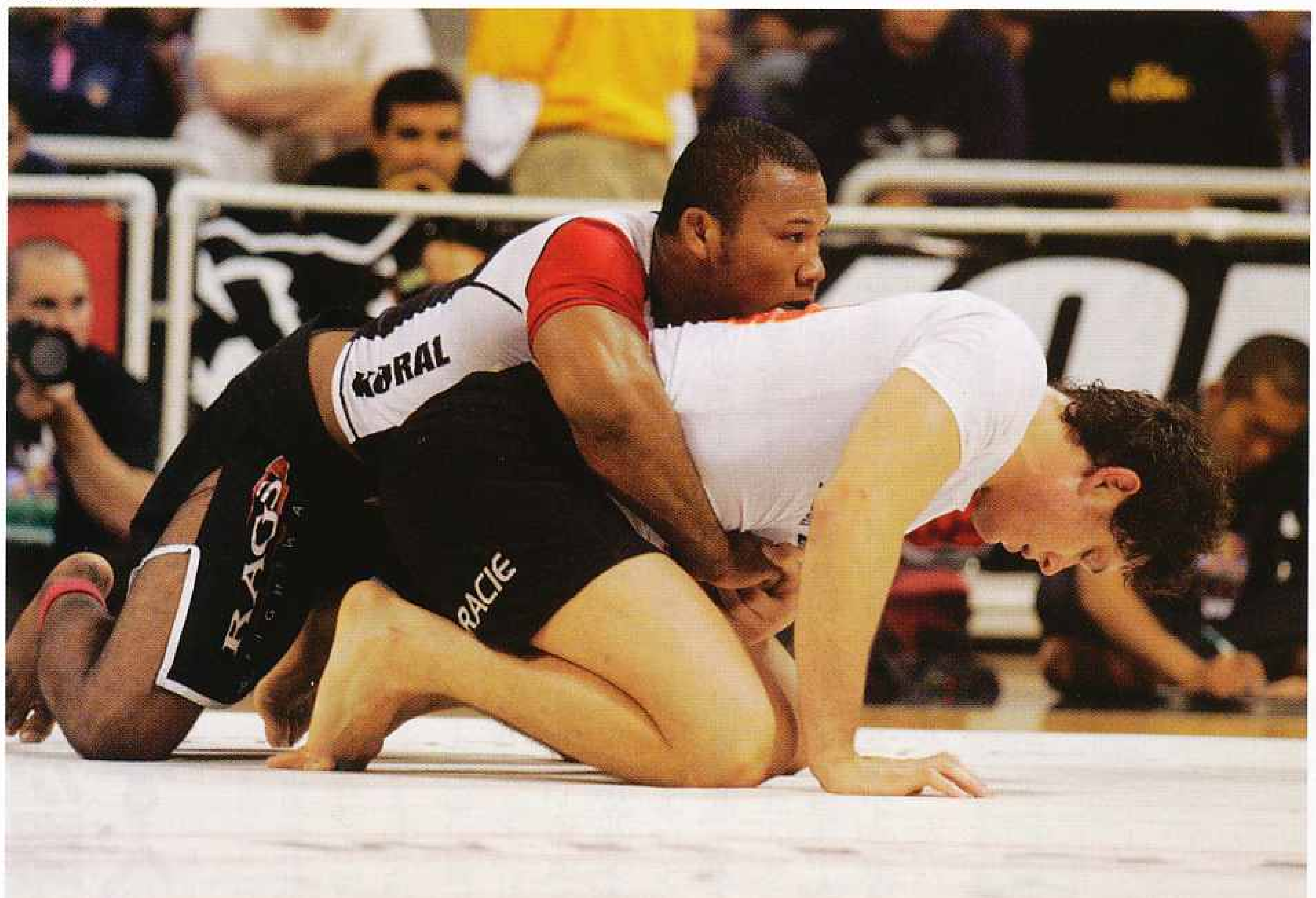
ミルコ　あとはアメリカに行ったんだから、しっかり英語で挨拶するか、きちん





PRIDEラスベガス大会前日の公開計量の舞台には登場したミルコがだ、当日はリング上の挨拶はなし。ミルコ本人はアメリカのファンへの挨拶を望んでいたようだが……。

©丸山剛史



と通訳をつけるべきだと思ったね。

―たしかに日本人3選手と高田本部長は見事なジャパニーズ・イングリッシュでしたよね（笑）。

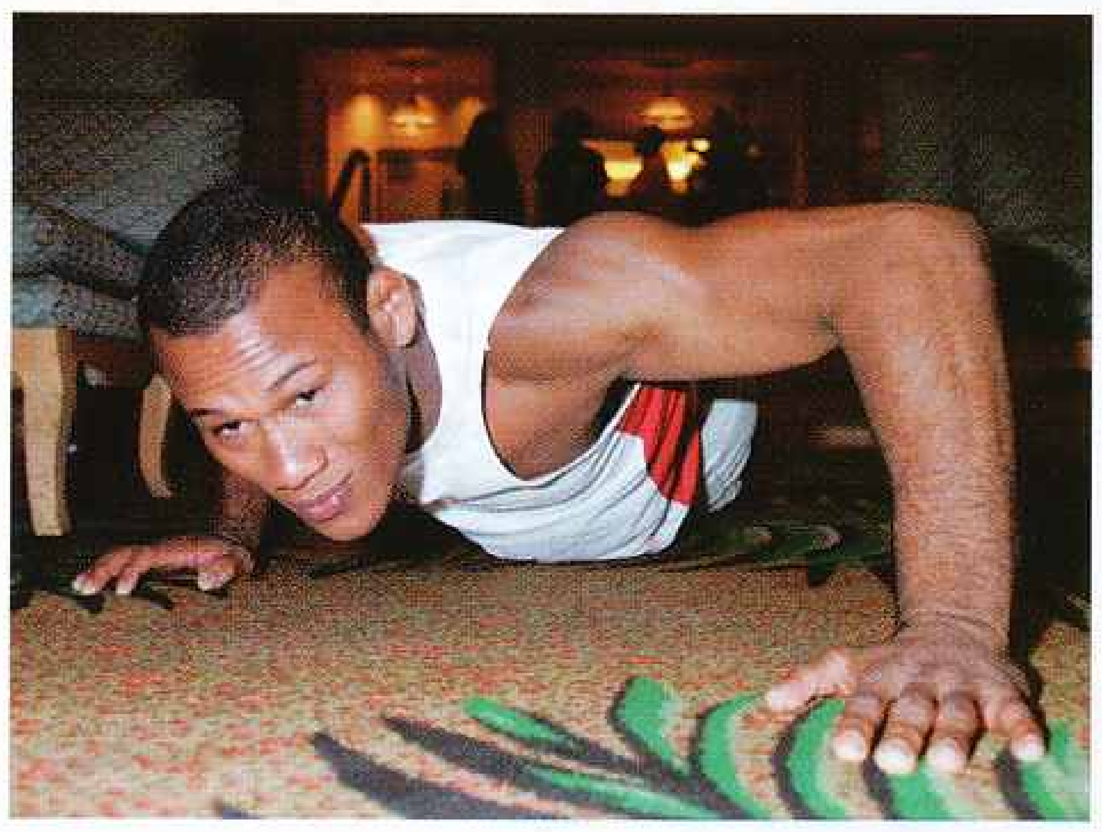
ミルコ　しゃべれないなら通訳をつければいいじゃないか。一回目だからまだ、ほほえましくもあったけれど、アメリカ人は決してそれに敬意を表す国民性ではない。見下されることにもなりかねないからね。ヴァンダレイも英語でマイクアピールするなら、もっとしっかり、少なくとも言いたいことだけは練習しておくべきだ。

―アメリカで『PRIDE』を根づかせるためには、そういったことは不可欠なのかもしれませんね。当日、ミルコ選手が挨拶に立たなかったのはなぜなんですか？

ミルコ　俺としてはもちろんアメリカのファンに挨拶はしたかったよ。でも演出上、俺の出番がなかった。

―ああ、そうだったんですか。それは残念ですね……。

ミルコ　俺自身、残念だよ。それ以外にも今回は運営面で『PRIDE』らしか



この男が来年１月にミルコと合体するホナウド・ジャカレイ。柔術ではムンジアル、コパドムンド両大会で優勝。さらに『アブダビコンバット2005』でも88kg以下級で優勝、無差別級で準優勝という、とんでもない実績を持つ世界トップのグラップラーだ。05年には10キロ以上重いホジャー・グレイシーにも勝利している。なお、右の写真は"ジャカレイ（ポルトガル語でワニの意）"の異名どおり、ワニのパフォーマンスをしているところ。床に落ちたコンタクトを探しているのではなーいのでR。

来年1月から世界トップの柔術家ジャカレイがクロアチアに来るんだ

らぬことが多かった。まぁ、初のラスベガス大会ということで不慣れな点もあったんだろうけど、バックステージはかなり混乱していたようだ。

―ミルコ選手自身、大会前日の公開計量会場を間違って教えられていたらしいですね（笑）。

ミルコ　そう。俺がもらった資料には「16時からメディアセンターで開催」って書いてあったから行ってみたら、そこはもぬけの殻さ。どうやら俺がもらったのは、変更前の古い資料だったらしい。おかげで全選手集合写真撮影に間に合わなかったからね。あとはチェックインするときの段取りが全然できていなかったりね。大会自体は盛り上がったんだから、次回は運営面を改善してほしいね。

―『PRIDE』は来年2月24日にもラスベガス大会第二弾を開催することが決定していますが、ここにミルコ選手が参戦する可能性はありますか？

ミルコ　大晦日の結果次第だね。大晦日が終わって7週間しかインターバルがないわけだから、せっかくのアメリカデビューを中途半端な状態で闘いたくないという思いはある。

―やっぱりミルコ選手にとっても来るべきアメリカ進出というのは、一つの大きな課題ですか？

ミルコ　もちろん。いまアメリカのMMAは、市場規模がヘビー級のボクシングに近づいてきているという現実があるからね。俺は日本で試合をするのが好きだし、国民性もカルチャーもアメリカより日本のほうがずっと好きだ。アメリカに行くには飛行機を二回乗り換えなければならないし、セキュリティの面倒くささを考えると、アメリカに行くことだけでストレスを感じる。でも、この業界が生み出すお金の〝サイズ〟がアメリカのほうが大きくなってくるのであれば、選手は皆、そちらに向かわざるを得ない。

―だからこそ、『PRIDE』もアメリカに進出するわけですしね。

ミルコ　これから『PRIDE』はアメリカ市場でUFCに正面から挑戦していくわけだろう。『PRIDE』のトップファイターたちは『PRIDE』で闘うことを誇りに思ってる。しかし、それは『PRIDE』が世界最強のリングであるということが前提であって、そこで初めて『PRIDE』のリングで命を懸けて闘おうというモチベーションになるわけだと思う。でも、もし『PRIDE』がその世界最強の看板を掲げ続けることができなくなってしまったら、どうなってしまうのか？　だからこそ『PRIDE』に頑張ってもらわなきゃ困るんだ。

―PRIDEファイターの誇りを守るためにも、絶対にアメリカで成功してほしい、と。

ミルコ　そう。アメリカへのマーケティングをしっかりやって、成功させてほしい。そのためにはジャパニーズ・イングリッシュを捨てることも必要だし、そんな演出上の制約で、俺がファンに挨拶する場面

ヒョードルとの再戦はMMA史上最大の闘い。軽く組めるカードじゃないよ

MIRKO CR

を作れないようじゃ困るよ。俺たちも頑張るから、『PRIDE』にも頑張ってほしいね。

―チーム・クロコップも来年に向けて、黒帯柔術家を二人加入させて、さらなる増強を図るようですね？

ミルコ 早耳だね（笑）。

―まだ名前は明かせないんですか？ 一部ではヒカルド・アローナが加入するという噂も出ていますが……。

ミルコ ハハハハ、アローナが来てくれるならウェルカムだけど、それはちょっと違うな（笑）。

―あ、ガセでしたか（笑）。

ミルコ もう名前を出してもいいだろう。まずこの11月からダニエル・ロダッキというベーリンギ柔術の黒帯が加わる。柔術ではトップクラスで100キロのヘビー級だ。そしてもう一人。来年1月から現役トップの柔術家、ホナウド・ジャカレイがクロアチアに来る予定になっている。

―あのジャカレイですか！ それはある意味、ファブリシオが加入したとき以上のビッグニュースですね。

ミルコ 彼も今回ラスベガスに来ていたけど、ファブリシオとは違うタイプだから、俺としても楽しみな部分が大きいよ。ファブリシオは柔術家としてはオーソドックスなタイプだけど、ジャカレイはもっとアグレッシブ。身体は大きくないが、無差別級でホジャー・グレイシーを下しているのだから、その実力は疑う余地はないだろう。

―ジャカレイがチーム・クロコップ入りするということは、彼も『PRIDE』参戦を目指すということですか？

ミルコ 彼はチーム・クロコップに入るというわけではなく、彼は彼のチームでやるんだ。ただ、1月からしばらく師匠のエンヒッケ・マチャドとともにザグレブにしばらく滞在して、MMAのトレーニングに没頭するということさ。そして、彼の『PRIDE』参戦はケンがまとめているので、来年のミドルかウェルター級でジャカレイがデビューするだろう。



Mirko Cro Cop■1974年9月10日、クロアチア出身。01年、総合初挑戦で藤田和之と対戦し、ヒザ蹴り一撃でTKO勝利。03年に主戦場をK-1から『PRIDE』に移し、05年8月、ヒョードルの持つPRIDEヘビー級王座に挑戦するも敗北。今年、PRIDE無差別級GPに優勝し、ついにPRIDEのベルトを腰に巻いた。188cm、100.4kg。

―そうなると、ファブリシオはどうなるんですか？

ミルコ 彼はもう独り立ちすべき時期に来ているから、独立してチームの支部でも立ち上げてもらうつもりだ。もうすでに、彼はユノラフ・エイネモと合流してトレーニングをしているしね。今度のアレキサンダー戦（11月11日、オランダ『2H2H』）は、彼がいままで俺とトレーニングをしてきたすべてを出しきらないといけない。楽しみだね（結果は肩固めでファブリシオが一本勝ち！）。

―なにかミルコ選手の周辺はどんどん増強していきますね。ますます来年の活躍が楽しみなんですけど、その前に大晦日はどうなりそうですか？

ミルコ 左足甲の手術はうまくいったから、大晦日はもちろん試合をするよ。ただ、対戦相手については、これから『PRIDE』と話をするつもりだ。

―ヒョードルとの頂上対決はなさそうなんですよね？

ミルコ 俺は手術したばかりだし、ヒョードルは復帰したばかり。そんな状況でやるような軽いカードじゃないだろう。俺とヒョードルの再戦は、間違いなくMMA史上最大の闘いになるから、すべての舞台が整ったときにやりたい。前回、俺はヒョードルの幻影に負けたんだ。ヒョードルはとてつもなく強いんじゃないかと思ってしまい、金縛りにあったような状況で闘ってしまった。でも、一度肌を合わせたことで、もう気後れはしない。次はまったく違う展開、まったく違う結果にする自信はあるよ。

―ヒョードルvsミルコに代わる大一番として、ヒョードルvsジョシュ・バーネット戦が噂されているのはご存知ですか？

ミルコ そういうプランがあることは聞いているよ。もし噂どおり、ジョシュが大晦日にヒョードルと闘うなら、クロアチアに来ればいい。いいスパーリングパートナーを用意しておくよ。でも、もし俺がジョシュのセコンドについたりしたら、ヒョードルは嫌がるだろうな（笑）。

―そりゃ嫌でしょうね（笑）。でも、その可能性もあるわけですか？

ミルコ まぁ、そんなつもりはないが、ヒョードルと本当の意味で〝勝負〟をした最後の男は俺だからね。〝生きたアドバイス〟はしてあげられると思う。ジョシュが必要とするなら助けるよ。

―では、最後に一つ。ラスベガスでは、残念ながらマイク・タイソンとの対面が実現しませんでしたけど……（笑）。


ミルコ まぁ、来ないんじゃないかとは思ってたよ（笑）。

―やっぱり思ってましたか（笑）。

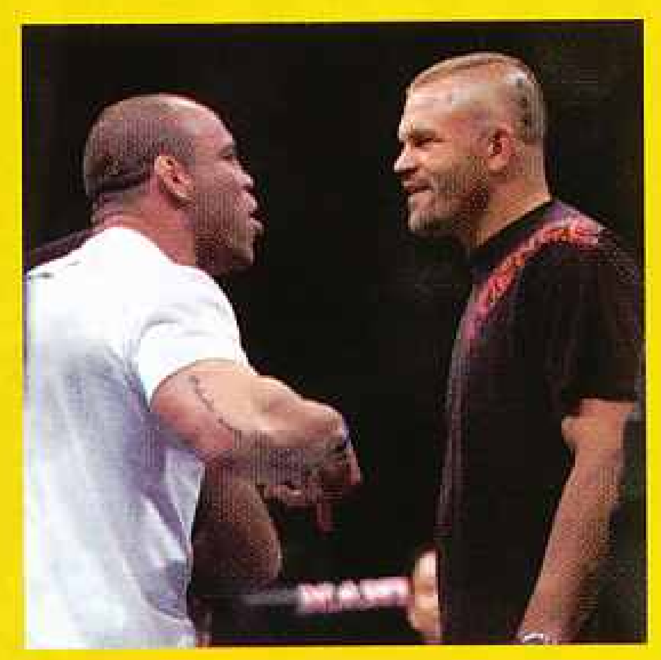
ミルコ 前から言ってるとおり、闘ってくれるのであれば、もちろんボクシングルールでも闘ったみたいけれど、彼が来ないんじゃ闘いようがないからね（笑）。

―わかりました。では来年、ヒョードル戦やショーグン戦実現には大きな期待を、そしてタイソン戦実現には小さな期待をしておきたいと思います！（笑）。

【06年10月22日（現地時間）／米国・ネバダ州ラスベガス、シーザースパレスにて収録、追加取材を再構成】



W
WANDERLEI SILVA



PRIDEミドル級タイトルマッチ、2月ラスベガス大会にて敢行決定!!

PRIDEの“切り込み隊長”がついにアメリカ本格上陸!

世界中のミドル級ファイターに告ぐ 常にベストを尽くせ そして、オレのいる PRIDEのリングに上がってこい!!

ヴァンダレイ・シウバ

ミドル級“絶対王者”、いよいよアメリカ出陣へ! 10.21『PRIDE』ラスベガス大会にて、ミドル級タイトルマッチを来年2月、アメリカのファンの前で闘うと堂々宣言したヴァンダレイ。しかし、本人はその前に行なわれる年末の格闘技戦争、さらにはUFCファイターとの対戦にもやる気満々! ヴァンダレイの勢いはもう止まらない!!

聞き手/橋本宗洋 構成/松下ミワ 写真/乾晋也、稲垣收

designed by hisa (TwoThree)

〝ミスターPRIDE〟がついにアメリカ上陸を果たす! 来年2月24日、第一回大会と同じネバダ州ラスベガスのトーマス&マックセンターで開催される『PRIDE・33』の目玉は、ヴァンダレイ・シウバのミドル級タイトル防衛戦だ。まだ正式なアナウンスこそされていないものの、10・21『PRIDE・32 〝THE REAL DEAL〟』の会場内で配布されたチラシではシウバが単独でフィーチャー、ミドル級タイトルマッチという言葉もしっかりと記されているだけに、ほぼ決定事項といっていいだろう。

何より、シウバ本人のモチベーションが早くも天井知らずの状態だ。『PRIDE・32』を前にしたマウリシオ・ショーグンの公開練習では眼科検診での塗り薬により、4時間は運動を控えるよう命じられたショーグンの代わりに、集まったファンをがっかりさせてはならないと「オレがヤル!」

と急きょリングに登場、フジマール会長のミットめがけて強烈なパンチと蹴りを披露したシウバ。そんなシウバに対するファンの歓迎ぶりも相当なもので、記者会見に登場した際には会場中が異常興奮。ヒョードルと同じような大声援を受けたのだからシウバのテンションも上がろうというもの。

さらに大会当日には、セミファイナル前にリングに登場。〝What's up America!〟を皮切りに全編、英語で挨拶してみせた（シウバは英語も日本語も勉強中らしい）。このあたりからもアメリカ進出にかける情熱がうかがえる）。しかも、その内容が11月にUFCでの対戦が噂されながら実現しなかったチャック・リデル（UFCライトヘビー級王者）への挑発だったから、会場のファンの熱狂も最高潮！

「チャック！　いろいろ言ってるみたいだけど、オレは逃げも隠れもしない。ここラスベガスにいるんだぜ！」

そんなシウバに、本誌はもちろんインタビューを敢行。大会翌日の取材をオファーしていたが、前日会見の際、シウバサイドに「DSEにインタビューを申請してるんでよろしく」と伝えたところ「OK！　じゃあいますぐやっちゃおう」とブラジリアンらしいノリのよさ。何十人というファンに囲まれながらようやくホテルの部屋にたどり着き（また偉いことにシウバが一人一人丁寧に対応するんである）、インタビュー開始とあいなった。腕もヒザも鳴りまくりのシウバ、堂々のアメリカ&世界制圧宣言である。**What's up WANDERLEI!!**

——まずは、9月10日の無差別級GP決勝大会が終わってから、どんなふうに過ごしてきたのかを教えてください。

シウバ　あれだけの試合をやったあとだったからね。しばらくはゆっくりと休んで、ケガを治すのに専念したよ。いまはもうトレーニングを再開してるけどね。

——トレーニングが再開できるようになったのは、いつ頃だったんですか？

シウバ　本格的なトレーニングに入ったのはだいたい一週間前だから、10月の中旬くらいだね。

——もう、ケガは問題ないわけですね。



『PRIDE』ラスベガス大会にて、ヴァンダレイは試合こそなかったものの、リング上で挨拶をしたり『PRIDE』のイベントに参加したりと大忙し。まだ試合をしていないにもかかわらず、ヴァンダレイのアメリカでの人気は、もはや日本での人気に勝るとも劣らない勢いなのだった。

シウバ　ああ、まったく問題ないよ。

——ミルコ選手に敗れてからの一ヵ月あまりというのは、どんな心境でしたか？　我々にとってはもの凄く感動的な試合だったんですけど、実際に敗れたシウバ選手自身にとっては、やっぱり屈辱ですよね……。

シウバ　確かに、あの試合は悔しかったよ。一言では表わせないくらいにね。言えるのは、あの日、9月10日はオレじゃなくてミルコの日だったってことだな。実際、ミルコのほうがオレよりもいいパンチを当ててたしね。あの日のミルコに勝つのは、誰にとっても難しいことだったと思うよ。

EREI SILVA

アメリカで2、3試合したら、もう出歩いていられなくなるかもしれない

——それにしても、体格差もあるのにパンチで真っ向勝負を挑んだシウバ選手の姿は素晴らしかったですよ。

シウバ　ありがとう。自分でもミルコ戦ではベストを尽くせたと思ってるよ。でも、それは決して特別なことなんかじゃないね。オレはいつでも、誰が相手でも全力を尽くすし、KOを狙いにいく。ミルコ戦でもそれをやっただけだよ。それに、無差別級GPはもう終わったことだ。いまさらどうこう言っても始まらないからね。もう気持ちを完全にスイッチしたよ。いま、オレがハードな練習に打ち込んでるのは、大晦日の『男祭り』のためだ。

——『男祭り』出陣宣言ですか！

シウバ　そう、もちろんオレが出場するかどうかは周りと相談しての話だからまだわからないけどね。自分自身としては、『男祭り』に出たいと思ってる。オレは『PRIDE』を愛してるし、『男祭り』はその最大のイベントだ。PRIDEファイターで『男祭り』に出たくないなんていう選手はどこにもいないさ。

——ミルコ選手とあそこまでの激闘をやって、しかも年内に復帰とは頼もしい限りです！　ちなみに、誰か闘いたい相手はいますか？　ミドル級で試合するか、それともまた無差別級になるのかも気になるところですけど。

シウバ　階級に関していえば、いまは本来の階級であるミドル級に戻って闘うのが一番かなと考えてるんだ。オレが最も大事にしてることはファンを喜ばせることで、そのためには自分の最高の力を発揮したいからね。まあ、無差別級に挑戦したのもヒョードルが出られないってことでファンを喜ばせるためだったんだけど、あんな結果になって申し訳ないと思ってるよ。それから「誰と闘いたいか」という質問だけど、それに対する答えはいつでも一緒だよ。

——ということは……。

シウバ　そう、「誰だってかまわない」さ。

——やっぱりそうですよね（笑）。

シウバ　いつも言うように、オレは組まれた相手と闘うだけだよ。いつでも、誰が相手でもオレは逃げないし、リングで向かい合ったらそいつをKOするために全力を尽くす。それがオレの仕事だからね。

——大晦日も楽しみなんですが、もう一つ、2・24ラスベガス大会出場という大舞台も決まりましたね。

シウバ　ああ。ラスベガスで試合をするのは本当に楽しみだね。はっきり言って、いまからエキサイトしてるよ。

——アメリカのファンも、シウバ選手の試合をライブで観るのを楽しみにしてると思いますよ。実際、記者会見に登場したシウバ選手への声援は凄まじかったですよね。

確実に言えるのは、試合が流れたのはオレのせいじゃないってことだ

シウバ　こっちに来てみて一番驚いたのはそのことだよ。みんながオレのことを知ってるんだ。凄く嬉しいんだけど、ちょっと心配でもあるね。もしアメリカで2、3試合したら、おちおち出歩いていられなくなっちまうかもしれない（笑）。

——今日もホテルで食事してたらサインと写真責めに遭ってましたもんね。そのうち日本みたいにマスクをしないと表を歩けなくなるかもしれませんよ。

シウバ　そうだね、それも嬉しいことではあるんだけど。

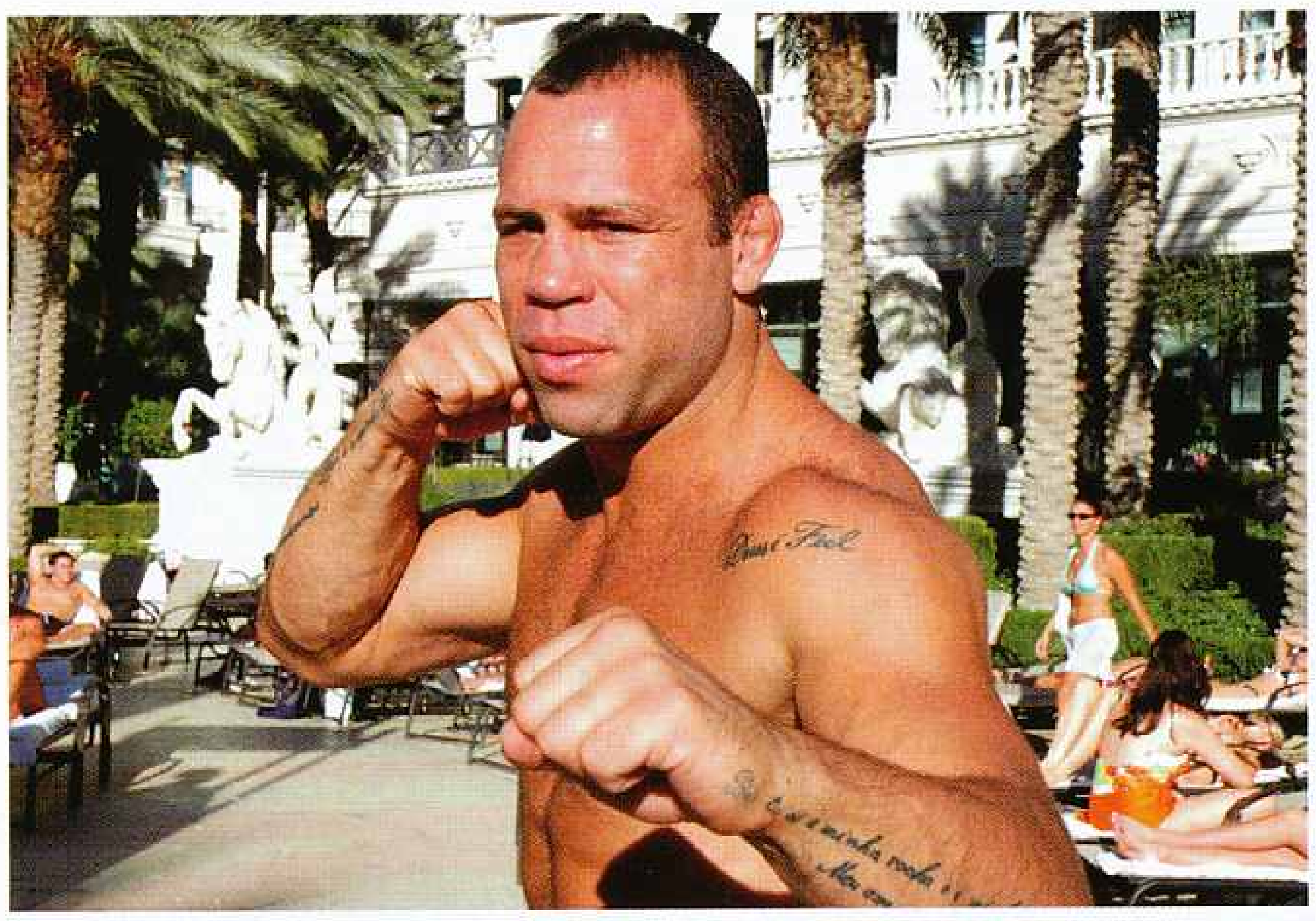
——ところで、明日の試合で期待してる選手というと誰になりますか？　もちろん筆頭は（マウリシオ・）ショーグン選手でしょうけど。

シウバ　そうだな、ショーグン以外だったらダン・ヘンダーソン、それにマーク・コールマンだね。ヘンダーソンは『PRIDE』のチャンピオンだし、ヘタな試合はしないと思う。

——コールマン選手が勝つ可能性もあると？

シウバ　勝てるかどうかはわからないよ。たぶん、相当難しいとは思う。でも試合は試合だからな、何が起こってもおかしくない。それにこっちでのコールマンの様子を見てると、何かやってくれるんじゃないかって感じがするんだよ。勝ち負けは別として、でっかいインパクトを残してくれるんじゃないかってね（翌日のヒョードル戦で、コールマンは敗れたものの試合後の"人生劇場"が大爆発！　シウバの予言は的中したことになる）。

——記者会見でも話題になってましたけど、ネバダ州アスレチック・コミッションが認定するMMAルールではグラウンド状態の相手に対する頭部へのキック攻撃が禁止になりますよね。4点ポジションのヒザ蹴りや踏みつけができないわけで、シウバ選手のファイトスタイルにもかなりの影響がありそうなんですが、そのあたりはいかがでしょう。



WANDERLEI SILVA■1976年7月3日、ブラジル出身。言わずと知れたPRIDEミドル級絶対王者。『PRIDE』のアメリカ進出に先立って、7月8日UFCに乗り込みライトヘビー級王者チャック・リデルにいきなり対戦要求。来年2月にラスベガスで開催される『PRIDE.33』ではミドル級タイトルマッチを行なう予定。182cm、102.3kg。

WANDERLE

シウバ　いや、ルールに関してはなんの問題もないね。もちろん本来の『PRIDE』ルールで闘うにこしたことはないけど。たとえ規制があっても、オレは認められた武器で充分に闘えるよ。オレの武器は踏みつけや4ポイントのヒザばかりじゃないからな。スタンドのパンチやヒザ、パウンド、寝技で一本取ってもいい。試合に応じて有効な武器を選択すればいいだけだよ。アメリカのファンにいまから言っておくよ。オレはどんなルールでも最高にアグレッシブでエキサイティングな試合をしてみせるってね。

——いま、『PRIDE』はアメリカ進出に大きなビジネス的野望を抱いてますよね。その中心選手であるシウバ選手にとって、アメリカでの成功は何を意味するんだと思いますか？

シウバ　重要なのは、ここアメリカが世界ナンバーワンのマーケットだってことだね。ボクシングにしろほかの格闘技にしろ、あらゆる選手、指導者が最終的にはアメリカに集まってくる。アメリカで認められるってことは、全世界に自分の存在を認められるってことイコールなんだよ。だからオレも、ここで自分のスキルを見せて、世界にその名を広めていきたいね。もちろんオレだけじゃなく、オレの試合を通じて『PRIDE』の存在もね。

——シウバ選手と『PRIDE』は一緒に成長してきたような部分もありますからね。『PRIDE』とともにシウバ選手も世界進出を果たすと。

シウバ　そのとおりだよ。なんといっても『PRIDE』はオレやショーグンといったベストファイターが集う世界最高の格闘技イベントだし、同時にオレの故郷みたいなもんなんだ。明日の第一回大会も絶対に成功すると思うし、来年、オレがその成功をさらに大きなものにできたら最高だね。

——11月のUFCで噂されていたチャック・リデル戦が流れてしまったのは残念ですけど、2月の『PRIDE』ラスベガス大会でうまい形でアメリカ進出の仕切り直しができれば最高ですよね。

シウバ　リデルとの試合に関しては、なんで流れたのかオレにもわからないよ。確実に言えるのは、試合が流れたのはオレのせいじゃないってことだ。

——シウバ選手自身は、やれと言われればやる準備はできていたと。

シウバ　当たり前だよ。時期なんてオレには関係ない。やれと言われれば11月にリデルとでもティト（・オーティズ）とでもやれたんだ。UFCに対しては、いつかケリをつけてやらなきゃいけないな。

——大晦日に『PRIDE』ラスベガス、さらに対UFCと、これからも休んでいる暇がなさそうですね。

シウバ　望むところだよ。『PRIDE』のためならいつでも、誰とでも闘う。世界中のミドル級のファイターに言いたいね。「いつでもベストを尽くせ。必死でトレーニングして強くなって、オレのいるリングに上がってこい。『PRIDE』はいつでも強い者に門戸を開いてるぜ」ってね。

——素晴らしい！　しかしそうなると世界中のファイターから首を狙われるわけですが……。

シウバ　それはむしろ嬉しいことだね。

——「誰でもいいからオレの首をかっ斬ってみろ！」と。

シウバ　ああ。俺と闘いたいヤツは順番に並んでくれ。プロモーターとファンが認めた選手なら、オレは誰の相手でもしてやるよ。そして全員ブッ倒してやる！

【06年10月20日／ラスベガス・シーザースパレスにて収録】

kamipro SHOPPING

時は来た!! PRIDE秋冬モノ勢揃い!

kamipro Hand、kamipro通販［TEL.03-5368-1797］にアクセス!!



BTT NYLON VEST
¥16,800（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Green / Black



CHUTE BOXE NYLON VEST
¥16,800（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Gray / Black



WANDERLEI NYLON VEST
¥16,800（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Ivory / Black



CHUTE BOXE BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



WANDERLEI BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



BTT BEANIE
¥4,095（税込）
COLOR : Black



BTT WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Green / Black



CHUTE BOXE WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Gray / Black



WANDERLEI WINDBREAKER
¥17,640（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Ivory / Black



BTT PARKA
¥13,440（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Black / Green



CHUTE BOXE PARKA
¥13,440（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Gray / Black



WANDERLEI PARKA
¥13,440（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Ivory / Black



FEDOR PARKA
¥13,440（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Black / Red



WANDERLEI FOOTBALL TEE
¥5,145（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Ivory / Black



CHUTE BOXE FOOTBALL TEE
¥5,145（税込）
S・M・L・XL　COLOR : White / Black



BTT FOOTBALL TEE
¥5,145（税込）
S・M・L・XL　COLOR : Green / Yellow

「PRIDE GOODS」通販専用NAVIダイヤル

TEL.0570-00-7100

月曜日～土曜日 AM10:00～PM6:00

PRIDE オフィシャルサイト

http://www.pridefc.com/

［商品お渡し方法］代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料約630円（クロネコ宅急便）、代引手数料約350円（いずれも地域によって異なります）がかかります。お届けはご注文を頂いてから、一週間前後で郵送いたします。オフィシャル携帯サイトからもオーダーできます。

販売元：（株）ドリームステージエンターテインメント

※掲載されている商品以外のPRIDEグッズもkamipro Handで購入できます。

こちらの商品は
『kamipro』通販でご購入できます。
電話、メール注文もできます。

非会員でもショッピング可能!!

（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1797
（平日13:00～19:00まで）

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
SoftBank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

※kamipro通販に関する詳細に関しては、P157のkamipro通販方法をご覧下さい。


PRIDEアメリカ進出で
“巨大帝国”が本性を露わにする！

本当は恐ろしいUFC



1万人を超える観衆を集め、予想以上の成功を収めた10.21PRIDEアメリカ初進出。しかし、喜んでばかりもいられない。本格的にアメリカに進出するということは、すなわちUFCとの“アメリカ本土決戦”突入を意味するからだ！　となると、“侵略者”PRIDEに対してUFCが今後、さらなる牙を剥いてくることは明白。UFCの本当の恐ろしさを知るのは、じつはこれからなのだ。



エド・フィッシュマンがフェラーリなら
ダナはベンツのオープンカーだ!

PRIDEアメリカ進出で
"巨大帝国"が本性を露にする!
本当は恐ろしいUFC

UFC代表　ダナ・ホワイト独占インタビュー

WHITE

...ican MMA World"

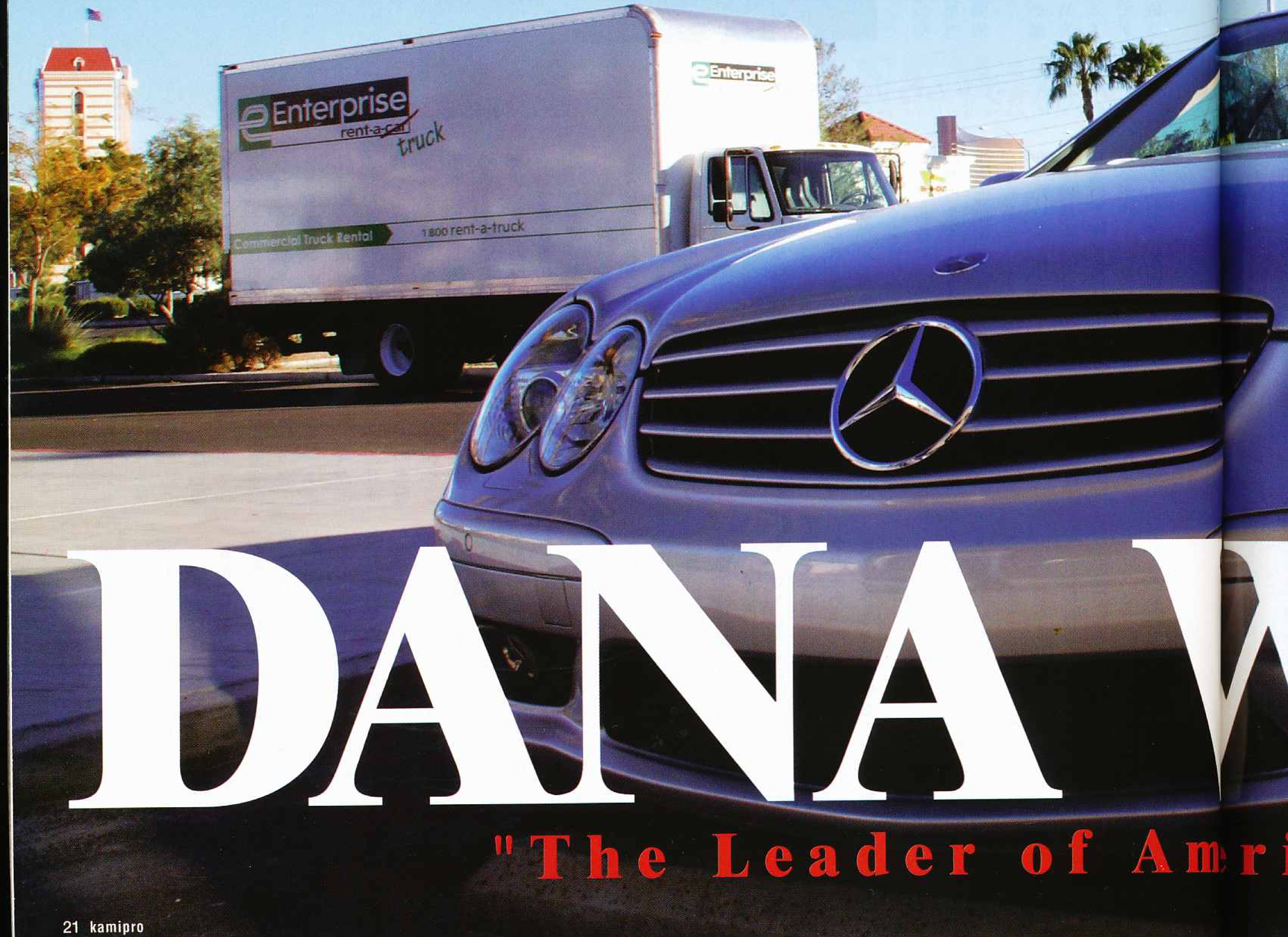
PRIDE米国初進出成功！ されど……

UFCの首領 余裕の高笑い

「米国進出を実現させた『PRIDE』はご立派だ ただ、それによって彼らは大金を失なうだろうね」

10.21PRIDE初のアメリカ大会が始まる数時間前、同じラスベガスにあるズッファ社の本社ビルで、UFC代表ダナ・ホワイトのインタビューに成功！　ライバル『PRIDE』がついに“本丸”に乗り込んできたことで、さぞや焦りの色が見えるかと思いきや……。米国総合格闘技界の首領の真の恐ろしさを見よ！

聞き手／稲垣收　撮影／乾晋也　構成／堀江ガンツ　designed by matsu（TwoThree）



DANA W

"The Leader of Amri

――お忙しい中、しかも土曜日だというのにインタビューを受けていただき、ありがとうございます！　今日は10月21日、つまりＰＲＩＤＥラスベガス大会当日なのですが、このあとトーマス＆マックセンターには行かないんですか？

ダナ　ああ、行かないよ。今夜は私の子どもたちのハロウィン・パーティがあるからね。

――『ＰＲＩＤＥ』より、子どものハロウィン・パーティですか！（笑）。

ダナ　大事なことさ（笑）。それに明朝にはニューヨークへ飛ばなきゃいけないんでね。

――先ほど、飛行機でベガスに帰ってきたばかりですよね。それで明朝ＮＹですか。相変わらずお忙しそうですね。

ダナ　ＮＹではミーティングがあってね。もうすぐ、また大発表があるんだよ。

――ついにＮＹで大会開催ですか⁉

ダナ　いや、それはまださ（笑）。いずれやるけどね。それとはまた別の大発表を近々する予定だ。これを開けばまたみんな仰天するはずさ！

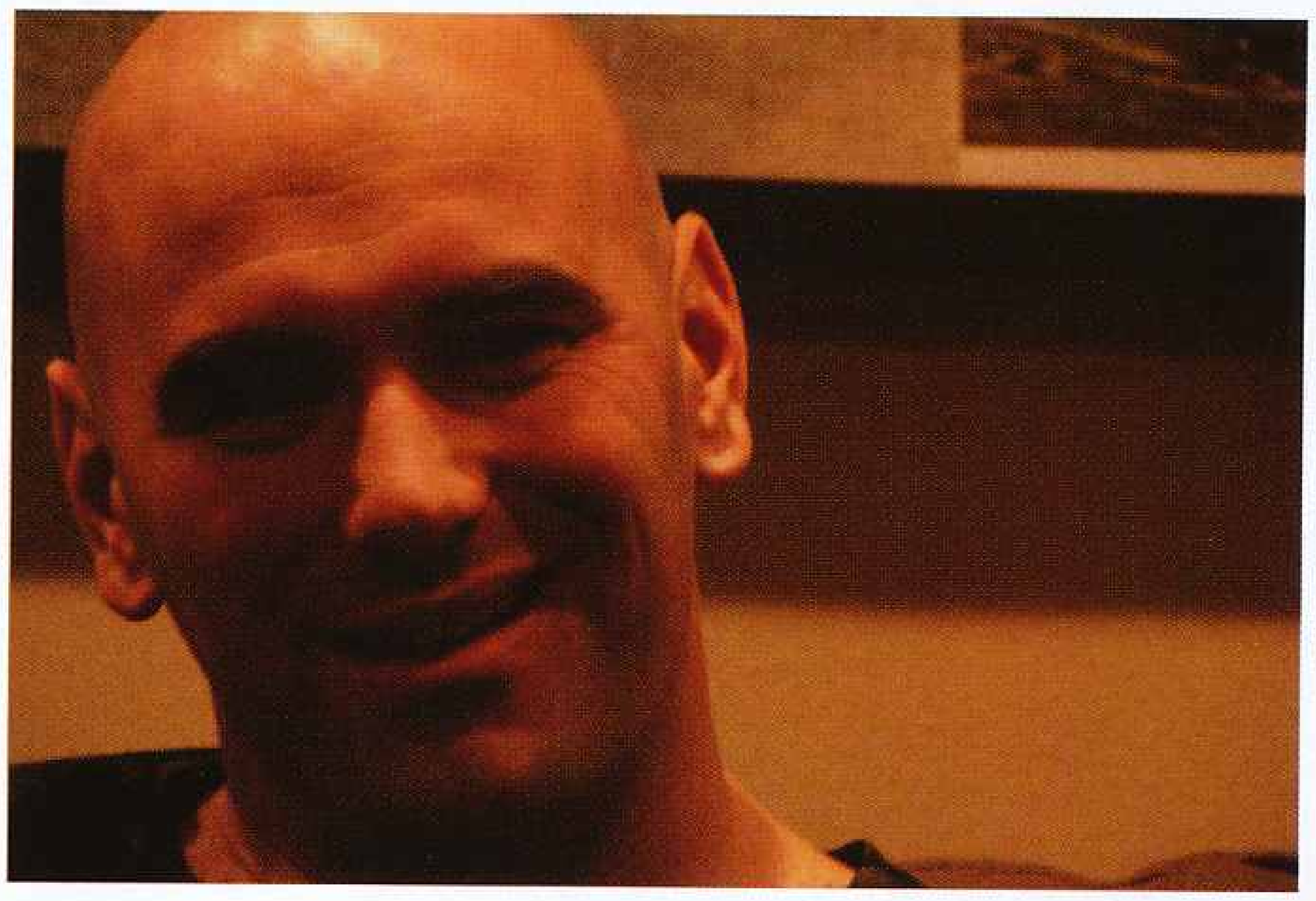
――なんでしょう？　楽しみですね。それにしても、最近のＵＦＣの勢いは本当に凄いですね。この成功の要因はいったいなんだと思いますか？

ダナ　いい質問だ。私たちは過去6年間、アメリカでＭＭＡ（総合格闘技）の地位を確立するために奮闘してきたんだ。その結果、ＵＦＣがＭＭＡの最大ブランドとして認知されるようになったのさ。日本ではＫ－1、『ＰＲＩＤＥ』が非常に大きな存在になっているけど、ＵＦＣは世界最大のプロモーションだ。

――ブランドとして認知されるようになったのは、リアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター（ＴＵＦ）』の影響もやはり大きいですか？

ダナ　そう、ＴＵＦ（ダナは「タフ」と発音する）の成功も大きかった。このＴＶ番組によって、新たにメインストリーム（一般層）のファンがついたからね。

――マット・ヒューズvsＢＪペンがメインだった9・23『ＵＦＣ63』のＰＰＶ契約数もかなりの数に上ったそうですね。



ダナ　ＹＥＳ。あの大会に限らず、ＰＰＶは非常にいい数字になっている。詳しい契約数について話すことはできないがね（笑）。

――今年は年末、12月30日にも大会を開催するんですよね？

ダナ　ああ。ティト（・オーティズ）vsチャック（・リデル）だ。過去最高のＰＰＶ契約数になるだろう。ティトは『アルティメット・ファイト・ナイト（ＵＦＮ）』でケン・シャムロックと闘って、またもや破ったばかりだが、あの試合の視聴率も凄かった。ボクシングの視聴率どころか、メジャーリーグ・ベースボールのプレーオフを凌ぐ、怪物的視聴率だったんだ！

ティトvsシャムロックはMLBのプレーオフを凌ぐ怪物的な視聴率だった

――ホントですか⁉　それは相当に凄いですね。

ダナ　テレビのスポーツ番組で年間第3位だったんだ。スーパーボウルとカレッジ・フットボールの大試合に次いでね。

――それは凄い！　昨年はＵＦＣ本戦が二カ月に一回だったのが、今年はほぼ毎月開催で、系列大会のＵＦＮやＴＵＦの決勝大会も入れると一カ月間に3大会ということすらありましたが、来年はさらに大会を増やす予定ですか？

ダナ　もっとやってくれという声があるんで、できる限りそれに応えようとしてるんだ。おかげで週末も休みなしで働いたりしてるけどね（苦笑）。今年は大小合わせて21大会だが、来年はさらに16～17ほど増やすんだ。

――全部で年間37～38大会ですか⁉　その中でＰＰＶされる本戦は？

ダナ　それだけでも16～17大会になるね。

――僕も来年はＷＯＷＯＷでの解説が忙しくなりそうです（笑）。

ダナ　我がズッファ社も、いまは社員が50人くらいだが、今後数カ月でもっと増やして80人くらいにする計画だ。01年にズッファがＵＦＣをプロモートするようになって最初の3年は、年間5試合だったが、それでも充分忙しいと思ってたんだけどね。もっとも当時は7～8人しかスタッフがいなかったけど（笑）。

――12月30日に大会を開くことにしたのは、日本の大晦日興行に触発された部分もあるんですか？

ダナ　いや、今年は月に2大会ずつ開いてきたが、12月30日は土曜日だから、その日にやることにしたんだ。

――日本では新年をクリスマス以上に祝いますが、アメリカではクリスマス休暇がメインですよね。クリスマス休暇中の30日に開催というのは、どうなんですか？

ダナ　誰もクリスマス休暇に大会を開催したことはない。クリスマスでみんなお金を使ってしまってるから、そんな時期に開催するのは無謀だと言われてる。だからこの大会開催は、我々にとって冒険なんだ。しかもビッグカードでね。でも、あえてリスクを冒しても勝負に出るのさ。ここ、ベガスのＭＧＭグランドでね。

――強気ですねぇ。ところで今日、『ＰＲＩＤＥ』がここベガスで、初のアメリカ大会を開きますが、どう思いますか？

ダナ　素晴らしいね。我々が日本で大会を開く前に『ＰＲＩＤＥ』はここでの開催にこぎつけた。ご立派だ。だが『ＰＲＩＤＥ』は相当の金をこの大会に注ぎ込んでるよ。彼らは大金を失なうだろう。まあ、それでも開催にこぎつけたのはたいしたものだ。

――『ＰＲＩＤＥ』は収益よりもはるかに多くの資金を投入している、と見ているわけですか？

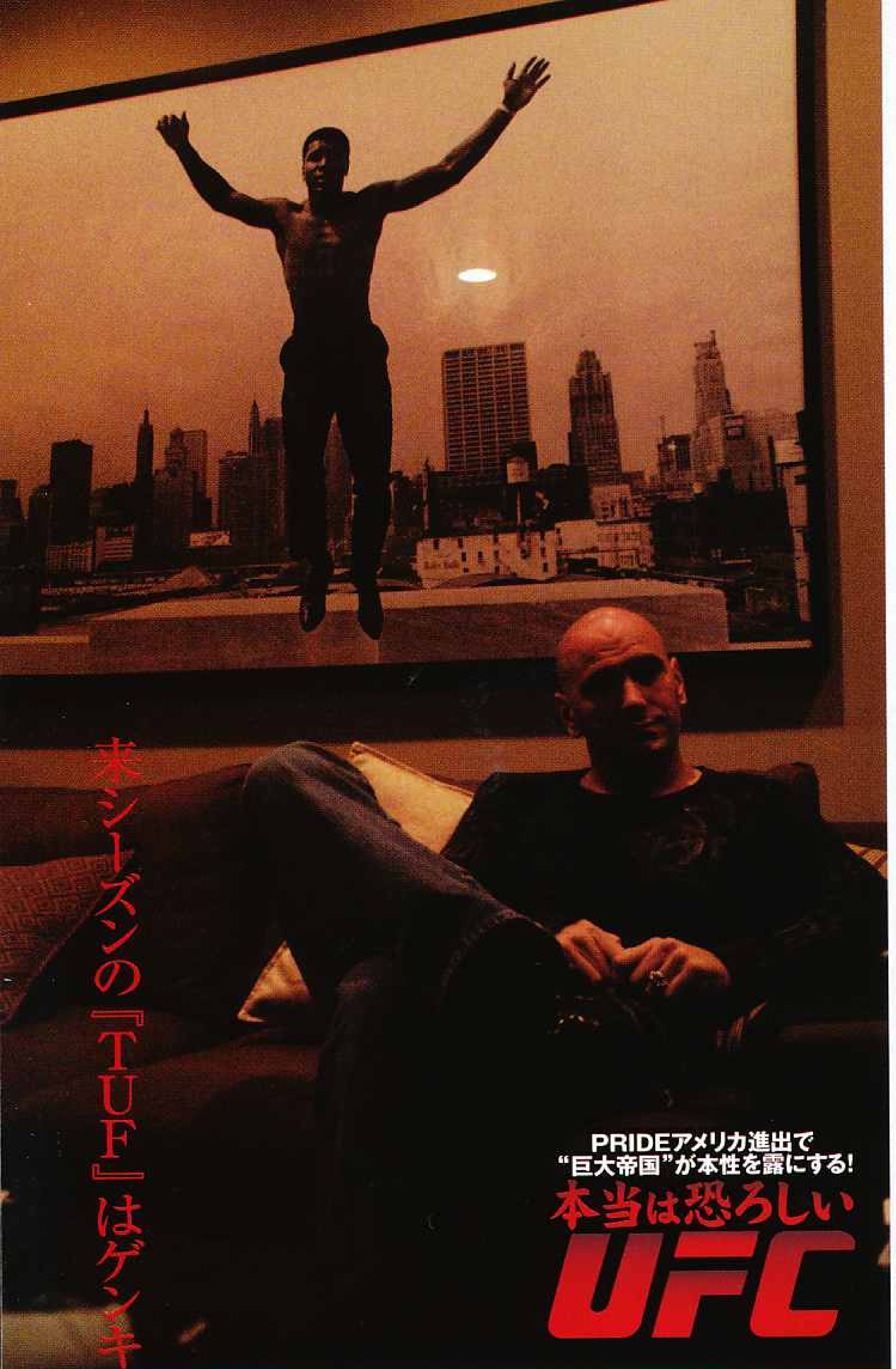
ダナ　そうだ。彼らは何百万ドルもの金を失なうだろう。宣伝費や、その他諸々でね……。

――以前、ＵＦＣは来年こそ日本大会を開くとおっしゃってましたが、いつ頃に開く予定ですか？

ダナ　まだ全然わからないな。それも大手のスポンサー次第だ。

――もし開催するなら日本にはどんな選手を連れて行きたいですか？

ダナ　ウチのトップスターたちを連れていく。チャックやマット・ヒューズ、『ＴＵ



来シーズンの『TUF』はゲンキ・スドーに出演してほしいんだ

DANA WHITE
"The Leader of American MMA World"

F』出身のフォレスト・グリフィンとかね。

――『TUF』を日本で放映する予定はないんですか？

ダナ　あれ!?　まだWOWOWで放映してなかったっけ？

――いえ、まだやってないですよ（笑）。

ダナ　日本でもぜひ放映したいね、字幕つきで。それに『TUF』については、凄くいいアイデアがあるんだ！

――なんですか？

ダナ　次のシーズンにはゲンキ・スドー（須藤元気）に出演してほしいんだよ。

――あの合宿に須藤選手を入れるわけですか!?

ダナ　そう。155パウンド級の選手としてね。ただ彼は他の団体と契約があるから難しいとは思うけど、もしできたらアメリカでもきっとスターになると思う。

――それはおもしろいですね。彼は日本では非常に有名になっていますが、「アメリカのテレビ番組に出たい」と言ってましたし。

ダナ　じゃあ、ぜひスドーに「TUFシーズン5にぜひ出てほしい」と伝えてくれ！

――わかりました！　シーズン5はいつ始まるんですか？

ダナ　1月だ。

――契約問題もありますが、うまくいくとおもしろいですね。ところで予定されていたチャック・リデルとヴァンダレイ・シウバの試合が流れてしまいましたけど、これはどういった理由からなんですか？

ダナ　試合は11月18日にする予定だった。だがヴァンダレイは9月10日、ミルコにKO負けしたから、もし我々が二人の試合を組もうとしても、アスレチック・コミッションの許可が下りないんだよ。KOされた選手は90日間は闘えないという規定があるからね。

――では90日が過ぎたら、改めてヴァンダレイにチャック戦を打診する可能性もある？

ダナ　可能性はね。

――何か、あまり積極的な感じがしないんですが（笑）。もうヴァンダレイに興味はない？

ダナ　いや、そんなことはないよ。私は決してヴァンダレイの価値が落ちたなどと思ってはいない。彼は真のウォリアーだし、誰とでも闘うあの姿勢を私は心から尊敬しているんだ。ただ、ビジネス的に、敗北直後のヴァンダレイとUFC王者を闘わせるのは得策じゃないということだよ。

――なるほど。ミルコ・クロコップが「ヴァンダレイが出られないなら、自分が代わりに『PRIDE』の代表としてチャックと闘いたい」と言っていますけど、ミルコに興味はありますか？

ダナ　ミルコが来てくれるなら大歓迎だよ！　チャック本人もミルコとやりたがってるし。

――そうなんですか!?　じゃあミルコvsチャック戦実現の可能性はある？

ダナ　あるとも！　私自身ぜひ観てみたいカードだ。やるとなったら、ミルコはライトヘビー級（93キロ以下）まで落とせないだろうから、チャックがヘビー級に上げるしかないだろう。でも、チャックは、増量は全然平気だと言ってるからね。

――あとアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラもPRIDE代表としてUFCで闘ってみたいと言ってます。

ダナ　ノゲイラも大好きだね。ぜひUFCで闘ってほしい。日本で人気のあるタフな選手たちには皆オクタゴンに上がってほしいよ。もちろんヒョードルもそうだし、ゴミ（五味隆典）もね。彼も『TUF』に出てくれるといいな。155パウンド級でね。

――今年、日本でブレイクしたジョシュはどうですか。

ダナ　私はあまりジョシュのファンではない（冷たく）。

――まぁ、過去の経緯がありますからね。（※ジョシュは02年3月の『UFC36』で王者ランディ・クートゥアーをKOしてヘビー級王者になったが、PRIDE王者だったノゲイラに挑戦状を叩きつけ、日本のリングへの転戦を公言。直後にドーピング検査で陽性反応が出たためネバダ州アスレチック・コミッションにベルトを剥奪された。しかし、ジョシュは薬物使用を否定し、ベルトを剥奪するためのUFCの策略だと主張している）

ダナ　それ以外にも日本にはUFCに出場してほしい選手がたくさんいるよ。チョーナン（長南亮）は、先日UFCミドル級チャンピオンになったばかりのアンデウソン・シウバに勝ったことがある選手だから、彼にも来てほしい。あとはやっぱり、ウノだね。

――宇野選手はいま、『HERO'S』という大会に出場しているのんですが、観たことありますか？　今年はライト級（『HERO'S』ではミドル級）トーナメントを開催して、宇野選手は準優勝だったんですけど。

ダナ　いや、観てないね。優勝は？

――アメリカン・トップチームのJ・Z・カルバンです。

ダナ　マーカス・アウレリオのところの選手か。いや、知らないな。しかしウノは素晴らしい選手だよ。私はウノの大ファンだし、親友でもある。彼のお母さんやお姉さんも知ってるけど、素晴らしい人たちだ。ウノに会ったら、ぜひ戻ってきてほしいと

本当に米国で成功するためには莫大な時間とお金がかかる『PRIDE』にそこまで費やす覚悟がはたしてあるのか？

DANA WHITE

"The Leader of American MMA World"

伝えてくれ。

—わかりました。宇野選手は最近、双子の赤ちゃんのお父さんになったんですよ。

ダナ 素晴らしいね。おめでとうと伝えてくれ。ウノにも『TUF』に出てもらえたらおもしろそうだなあ。出たいかどうか聞いておいてよ。

—ハイ。ただ、赤ちゃんがいるから二カ月間アメリカで合宿生活ってのは厳しいかもしれないですけどね（笑）。それにしても、こうやってお話をうかがっていると、ダナさんは凄く親日的ですよね。以前、インタビューで「日本人とビジネスするのは難しい」ともらしていたと聞いているんですけど……。

ダナ なんだって!? いったいどこでそんな話を聞いたんだい？

—アメリカのインターネットメディアで目にしたんですけど。

ダナ ハハハ。また奴らの仕業か。いいかい？ まず第一に、私は格闘技WEBサイトのインタビューは一切受けていない。第二に、日本人に対する敬意を欠いた発言をしたりは絶対にしない！

—そうでしたか。

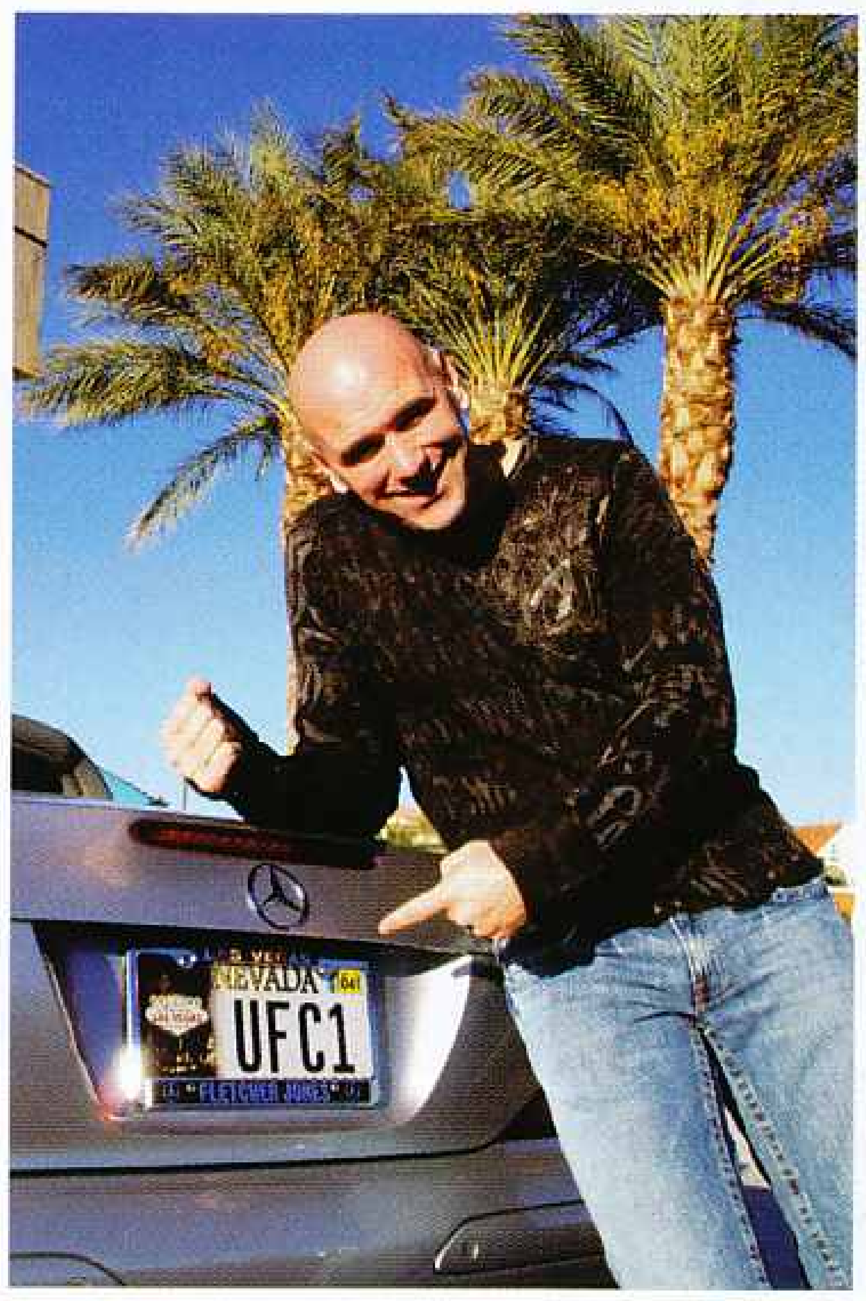
ダナ 『PRIDE』とビジネスをするのは難しい」と言ったことはあるから、それが間違って伝聞されたのかもしれないけどね。

—やっぱり『PRIDE』とのビジネスは実際、難しいんですか？

ダナ 難しいね。それについては何度も言っている（笑）。たとえば、彼らは『PRIDE』の選手をUFCに送るとずっと言っていながら、まったく送ってこなかった。UFCがいまのように大成功し、『PRIDE』が逆にガタガタし始めるまではね（笑）。

—でも、いま現在はPRIDE側が選手を送ると言っているのに、それでもまだ実現しないのはなぜですか？

ダナ さっきも言ったけど、ヴァンダレイはKOされたから、90日間はネバダでは試合ができないし、そうでなくても彼らが本当に送ってくるかどうかはわからない。たとえばヴァンダレイがミルコをKOしていたとしたら、それでも『PRIDE』は彼をチャックと闘わせると思うかい？ 私はそうは思わないね。いま、彼はミルコに負けた。そしてUFCに送って王者のチャックとやらせると言う。彼らにとって、何一つ失なうものがないからね。もしヴァンダレイが負けても「まだミルコがいる」って言えるわけだしね。だろう？



DANA WHITE

UFCを運営する会社、ズッファ社の代表。もともとUFCを運営していたSEGからUFCの権利を買収。ネバダ州のアスレチック・コミッションに人脈を持ち、交渉とルール整備によりケーブルテレビ放映を復活させ、メディア戦略でUFC隆盛に導いた。

—『PRIDE』はリスクを負わずにメリットを得ようとしている、と。

ダナ 私にはそうとしか感じられないね。

—今後のUFCと『PRIDE』の関係はどうなるのでしょうか？

ダナ いい質問だ。もし彼らが本当にPRIDEファイターをUFCの選手とやらせたいと言うならば、契約書がほしい。口だけでなく。

—今回、『PRIDE』のアメリカ初進出によって、今後、UFCの強力なライバルになる可能性はありますか？

ダナ いや、ライバルとは言えないな。彼らのテレビの視聴率はあまりよくないし、PPVの契約数もUFCと比べれば全然少ないしね。

—でも、UFCもかつてはPPV契約数も少なく、かなりの先行投資をした結果、いま花開いたわけですよね？

ダナ そう、たくさんの金を注ぎ込んだよ（笑）。はたして『PRIDE』はそこまでの大金を、アメリカに注ぎ込むつもりがあるだろうか？ 本当に成功したければ、彼らはこっちに大きなオフィスを持ち、たくさんの従業員を雇う必要があるよ。大仕事だからね。そこまでのお金と時間をアメリカで費やす気が、彼らにあるかどうか？ そして、そもそもそれだけの資金が彼らにあるだろうか？

—『PRIDE』来年2月にラスベガス第二回大会を開き、アメリカで計5回の興行を考えているようですが、そこでもかなりのお金がかかると思いますか？

ダナ 少なくとも2000万ドルはかかるだろうな。

—2000万ドルというと、24億円くらいですか!?

ダナ そこまで彼らが使うつもりがあるのか、とても興味深いね。

—『PRIDE』はアメリカで成功するために、『TUF』みたいなリアリティ・ショーもやろうとしているようです。

ダナ 幸運を祈るよ。多くのテレビ局が、似たような番組をやろうとしてるが、決してイージーじゃない。やれば視聴率が獲れるってもんじゃないんだ。これは本当にお金を儲けるのが難しいビジネスなんだよ。

—また『HERO'S』も来年、ベガスで大会を開きたい意向を持っているようですが。

ダナ そうかい？ 難しいだろうな。『PRIDE』はまだアメリカで多少知られているが、『HERO'S』のことを知っている人はこの国にはいないからね。そこにチャンスがあると思うかい？ 私にはとてもあるとは思えないね。

—日本のイベントだけでなく、巨大な資金を持つオンライン・カジノ会社がバックアップするMFCのような新興団体も出てきてますが、こういった団体は脅威ではないですか？

ダナ bodogがバックについている団体だね。まったく脅威ではないよ。bodogの社長は犯罪者だから、アメリカ合衆国に一歩足を踏み入れた途端に逮捕されるだろう（10月に、ネット・カジノ規制法案がアメリカで通過）。そんな人物が大イベントをできると思うかい？

—う～ん、現状は厳しいんでしょうね。

ダナ みんな、アメリカに来れば、UFCのように成功できると思っているようだが、それは大きな間違いだ。我々だって一朝一夕にここまできたわけじゃない。それを忘れてもらっちゃ困るね。

—わかりました。では、近々発表される"大ニュース"を期待しています！

【06年10月21日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス、ズッファ社・社長室にて収録】

UFCオフィシャル・スポンサーのトレーニングジムを徹底レポート

GOLD RUSH!!

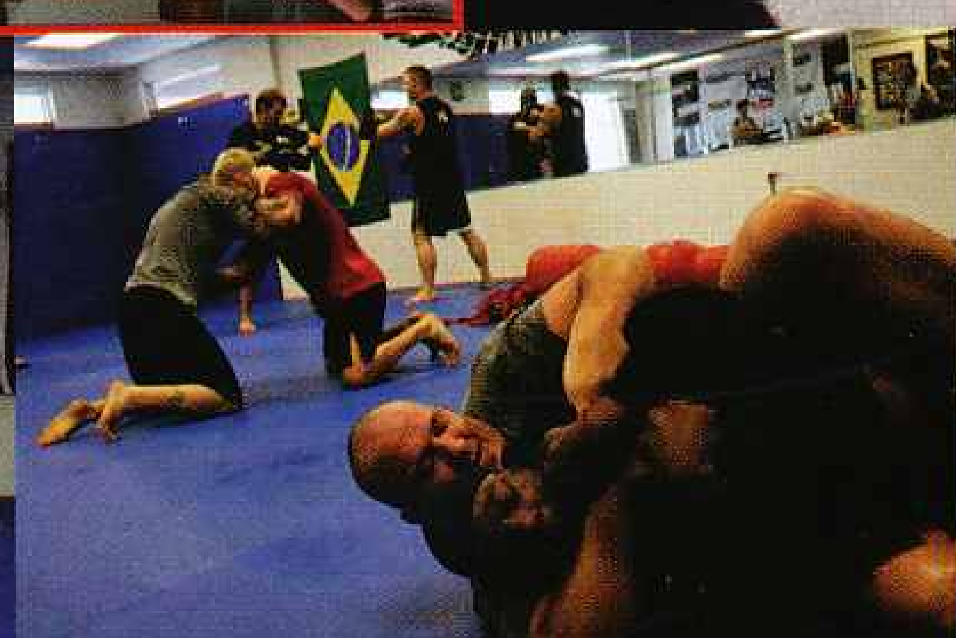
～選手発掘の現場～

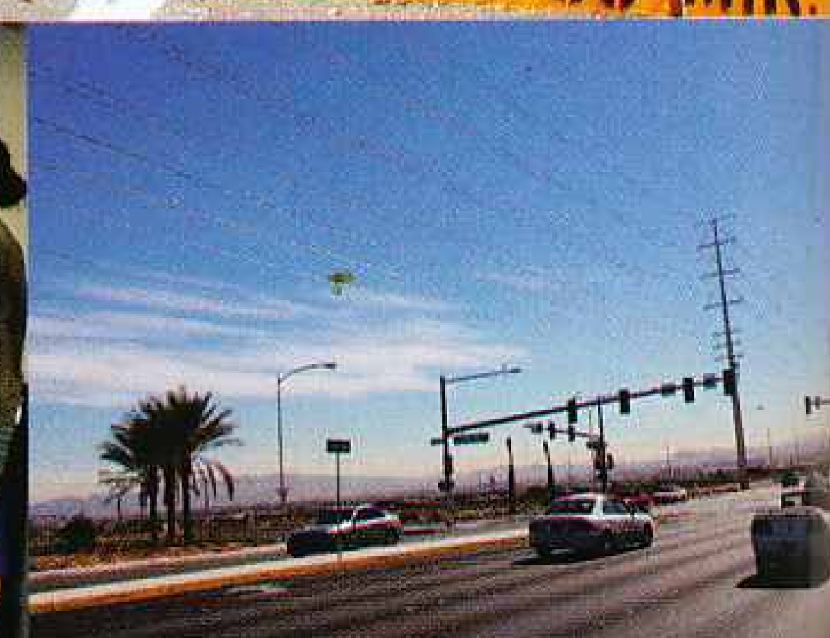
PRIDEアメリカ進出で
"巨大帝国"が本性を露にする!
本当は恐ろしいUFC





ザイエンス・トレーニングセンター会長
ジョン・ウッドが激白!



ラスベガス郊外の『ザイエンス・トレーニングセンター』は、その名のとおりUFCのスポンサー企業であるザイエンスが経営に携わるジム。アメリカ格闘技ブームはジムのあり方や選手の生活をどう変えたのか? 独占取材で"ブーム"の実態に迫る!

文/橋本宗洋　構成/辻ちゃん　撮影/乾 晋也
designed by matsu (TwoThree)



あと5年もすれば、MMAファイターは NFLやMLBの選手と同じくらい稼ぐようになる

ジムで練習していた選手の中には11.2『IFL』に出場した“アナコンダス”のメンバーも。右端のマイク・ホワイトヘッドは久々に復帰を果たしたマーク・ケアーに1RTKO勝利!

『ザイエンス・トレーニングセンター』はラスベガスの郊外にある。美的感覚のベクトルが完全にあさっての方向を向いているストリップ（大通り）の巨大カジノホテル群を背にすると車で20分、住宅街を抜けた先の幹線道路ぞい。漂う空気はどこまでものどかで、やっとアメリカに来たという実感がする（ストリップはあまりにも巨大で無国籍な〝街ごとテーマパーク〟だ）。

ラスベガス取材の最終日、我々が『ザイエンス・トレーニングセンター』を訪れたのには二つの理由があった。一つはこのジムで練習しているUFCファイター、フォレスト・グリフィンのインタビュー。もう一つはジムそのものの取材である。

知りたかったのは、かつてない総合格闘技ブームに沸く業界の〝現状〟とでもいうべきものだ。リアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』をきっかけに起こったブームのことや、UFCが巨大帝国と化していることは本誌でもたびたび伝えてきたが、それはPPVの契約件数といったデータや（UFCを主催する）ズッファ社のダナ・ホワイト社長の言葉によってだった。だが今回はそんな俯瞰からのブームではなく、選手やジム運営者の〝実感〟を聞きたかった。テレビ主導で始まったMMAブームが選手の生活やジム経営に何をもたらし、何を変えたのかを。

月曜日のお昼過ぎ。ジムのドアを開けると、すでにプロMMAコースの練習が始まっていた。11月2日、『IFL』でのマーク・ケアー戦を控えたマイク・ホワイトヘッドの姿も見える。スパーリングにミット打ち、それにサンドバッグ……といっても、天井から吊るしたものにパンチ、キックを打ち込むだけではない。マットに横たえたそれに、インサイドガードやマウント、サイドポジションからパウンドを連打していくのだ。マット部分とロビーを隔てるのは金網。

〝MMAといえばケージ〟が常識のアメリカらしい作りだ。場所柄、UFC開催が近くなるとマット・リンドランドやランディ・クートゥアー、アンドレィ・アルロフスキーも最終調整を行なうというから、いってみればここは〝MMAの前線基地〟だろう。

出迎えてくれたのは、選手とともに汗を流していたジョン・ウッド会長。まだ若いが豊富なコーチング経験を持ち、選手としても活躍していた。設立当初は『ラスベガス・コンバット・クラブ』の支部として運営されていたこのジムだが、一年ほど前から『ザイエンス・トレーニングセンター』に改称したという。ザイエンスとはUFCのスポンサーでもある企業で、ドリンク剤やサプリメント、プロテインのメーカー。アメリカのコンビニに行けば、チャック・リデルをイメージキャラクターに起用したポスターを見ることができる。

「ザイエンスのオーナーと知り合ったのは、フォレスト（・グリフィン）の写真撮影に付き合ったときだったね」とウッド会長は言う。

「ザイエンスはすでにUFCのスポンサーだったんだけど、ジム・ビジネスもやりたがっていた。『私の息子もMMAが大好きなんだよ』なんて話で盛り上がってね。『新しいクラスを作ったり、スポンサーが必要なら協力するから』と言われて、その話に乗ったんだ。彼の息子も、ウチの柔術クラスの生徒だよ」

一般企業が選手や大会のスポンサーになるのは珍しい話ではないが、ジムのスポンサー、それも企業名をジムに冠するというのは異例中の異例だろう。アメリカの総合格闘技ビジネスは、そのレベルまで達しているということだ。昨年、『TUF』の放送が開始されて以来、アメリカ人のMMAに対するイメージは驚くほど変わったという。

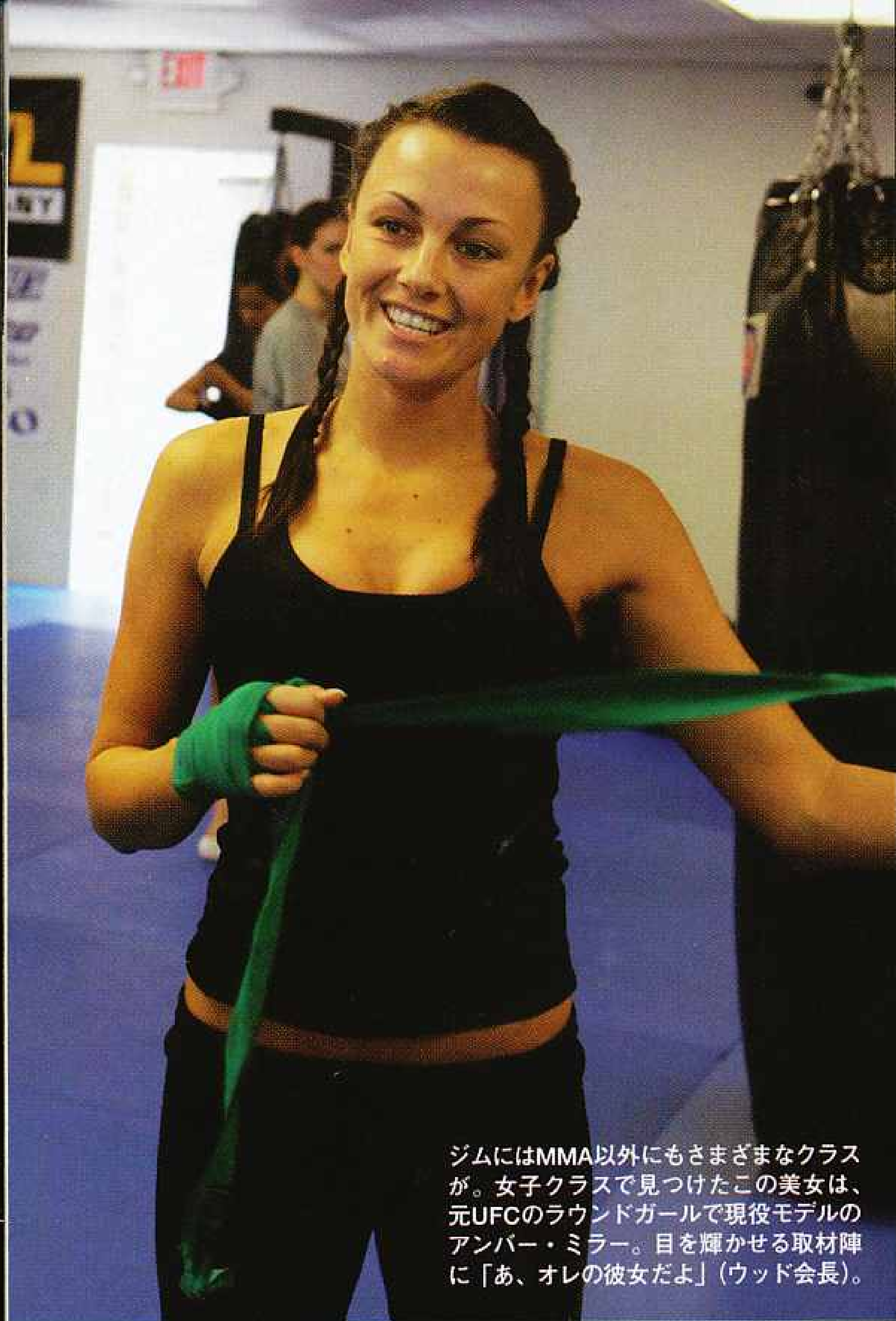
「いまやMMAは、完全にファイトスポーツのメインストリームだよ。ボクシングを追いやったといってもいい。一部のコアなマニアだけじゃなくて、リアリティショーを見る普通の人たちが注目するようになったのが大きいね。これまで、MMAは野蛮



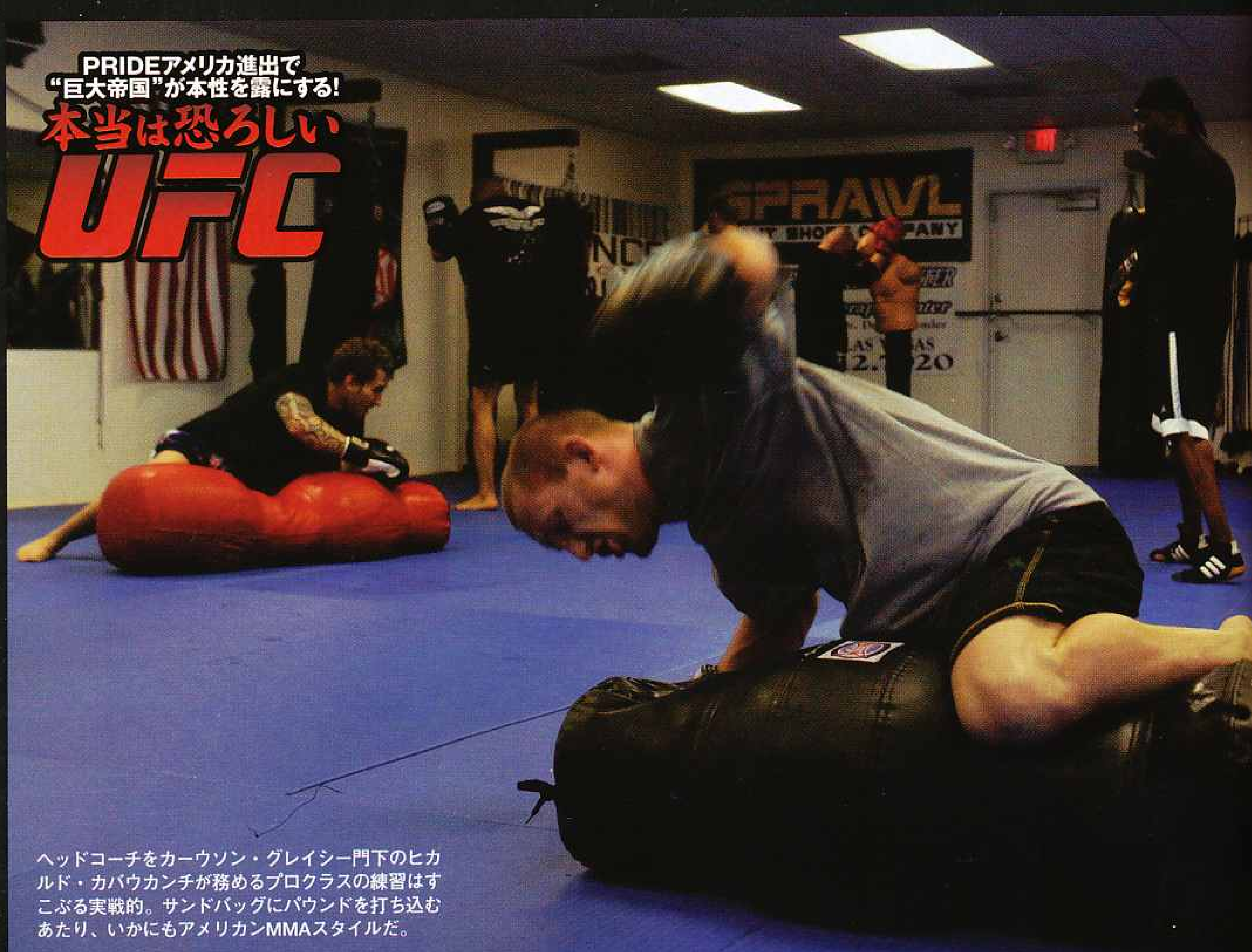
ロビーには雑誌の切り抜きや大会ポスターがズラリ。最終調整にこのジムを使う選手も多く、ポスターにはさまざまな選手のサインが入っていた。

なスポーツだと思われてきた。バーでケンカするような輩が見る類のスポーツだと思われてたんだよ」
でも、いまはそうじゃないとウッド会長は続ける。
「以前は『ここ、なんのジムなの?』って通り過ぎちゃう人も多かったけど、いまはMMAや柔術がどんなものなのかをわかって入会する人が増えてきた。下は6歳から上は50歳まで、弁護士や医者とか、いろんな職業の人がいるね」
ジム経営はすこぶる順調。来年1月にはさらに広い場所に移転し、オクタゴンを常設する予定だという。変わったのはジムのあり方だけではない。選手の生活やモチベーションも、著しく向上している。
「UFCのオクタゴンに入ったロゴを見ればわかると思うけど、この世界にはどんどん新しい企業が参入してきてる。選手の個人スポンサーになってくれる企業も多いね。おかげで選手はバウンサーとか他の仕事をせず、ファイト一本で生活していけるようになった。チャック・リデルのようなトップ選手は、スポンサーマネーで試合以外でも大金を稼ぐようになってる。なにしろ一般的な知名度が高いから、ハリウッドからの誘いもあるみたいだ。たぶん、あと5年もすればMMAファイターはアメリカン・フットボールやメジャーリーグ・ベースボールの選手と同じくらい稼ぐようになると思うよ。もう、一試合たった1000ドルで闘うようなことはなくなるんじゃないかな」


弁護士から子どもまでジムに通う時代 相当クレイジーな状況だよ(笑)


ジムにはMMA以外にもさまざまなクラスが。女子クラスで見つけたこの美女は、元UFCのラウンドガールで現役モデルのアンバー・ミラー。目を輝かせる取材陣に「あ、オレの彼女だよ」(ウッド会長)。

UFCとの対立構造がクローズアップされている『PRIDE』のアメリカ進出も、選手たちにとっては歓迎すべきことのようだ。
「『PRIDE』は素晴らしいデビューを飾ったね。『PRIDE』によって業界全体のハードルが上がると思うし、UFCにとっても競争相手ができるのはいいことだよ。IFLやWFAもあるから、選手にとっては選択肢が増えるしね。そしたら、ファイトマネーだって自然に上がっていくだろう?
いまはどの団体も有望な選手を確保するのに必死になってる。どの大会でもUFCのスカウトマンを見るし、ネットで日々、選手の情報が収集されてる。メキシコやヨーロッパにもスカウト網は伸びてるよ。その中でズッファの目に留まった人間が『TUF』に出場し、スターの座を目指す。どんどんチャンスが広がってるんだ」
現在、『サイエンス』ジムの会員は150名ほど。練習スケジュールを見ると、その多彩なクラス設定に驚かされる。プロMMAコースはもちろんムエタイ、柔術、レスリング。女性クラスにヨガ、ケトルベル・ワークアウト、そして極めつけがキッズMMAクラスだ。
「そう、最近は本当に子どもの会員が多いんだよ。60人くらいはいるかな。UFCやTUFを見て憧れた子どもたちが、親にせがんで入会しにくるんだよ。チャックやフォレストは、僕たちの世代にとってのハルク・ホーガンみたいなヒーローなんだろうね。もちろん、空手や柔術は護身術としても役立つから親も文句は言わない。中にはMLBやNBAと同じように、一攫千金を狙って子どもにMMAをやらせる親もいるくらいだよ(笑)」
ホワイトカラーや子どもたちまでも巻き込み、アメリカにおけるMMAブームは巨大化の一途をたどっている。テレビのエンターテインメントから、やって楽しむスポーツへ。あと10年もすれば、幼少時代からMMAを学び、骨の髄まで総合格闘技の闘いを染み込ませたファイターがオクタゴンに登場するようになるのだろう。そうなったとき、現在のブームが単なるバブルだったのか、それとも文化として定着したのかが明らかになるだろう。いまはその発端であり狂騒状態。ポルシェのコンバーチブルでジムにやってきた会員を横目に、ウッド会長は笑った。
「まったく、弁護士や医者、子どもまでMMAを学ぶ時代がくるとはね。猫も杓子もMMA。昔を知ってる人間からすれば、相当クレイジーな状況だよ(笑)」
【06年10月23日(現地時間)/米国ネバダ州ラスベガス郊外『サイエンス・トレーニングセンター』にて収録】



ヘッドコーチをカーウソン・グレイシー門下のヒカルド・カバウカンチが務めるプロクラスの練習はすこぶる実戦的。サンドバッグにパウンドを打ち込むあたり、いかにもアメリカンMMAスタイルだ。



USA“テレビ格闘技ブーム”の申し子

黄金(アメリカン・ドリーム)をつかんだ男

俺を見ればいまのアメリカがわかる!

“THE ULTIMATE FIGHTER”第一回優勝者

フォレスト・グリフィン

FORREST GRIFFIN

無名のローカル・ファイターからUFC屈指の人気選手へ――。全米MMAブームのきっかけとなったリアリティショー『THE ULTIMATE FIGHTER』第一シーズンの優勝者フォレスト・グリフィンは、まさに格闘技版アメリカン・ドリームの体現者だ。本誌取材班は、ラスベガス取材最終日にグリフィンをキャッチ! その出世物語と“ブーム”の実態を聞いた。

聞き手/稲垣收　構成/辻ちゃん　撮影/乾 晋也

designed by matsu (TwoThree)

日本にはまだあまり伝わっていないようだが、いまのアメリカでのUFC人気はかなりのものがある。格闘技ファンのみならず一般層にまで人気が浸透して毎回大会場が埋まり、PPVも記録的な伸びで、選手のギャラも高騰、大会数も増え続けている。その原動力となったのがスパイクTVのリアリティーショー、『The Ultimate Fighter』（以下『TUF』）だ。1シーズン13話で構成されるこのサバイバル番組を勝ち抜き、みごと第一回優勝者となってUFC本戦に出場、元王者のティト以上の人気を博しているのがフォレスト・グリフィンである。

最近人口3億人を突破した〝メガ市場〟アメリカには『PRIDE』も初進出を果たしたばかりだが、『PRIDE』やUFC以外にも巨大資本をバックにつけたMFCや、IFLなど、多くの団体が乱立、まさに空前の格闘技ブームが起こっている。そして、そのブームの申し子が〝初代アルティメット・ファイター〟のフォレストなのだ。時代の寵児の声を聞け！

——突然の取材で恐縮ですが、いろいろとおうかがいさせてください！

フォレスト　こちらこそ、よろしく。

——まず格闘技を始めたきっかけは？

フォレスト　何か軽くスポーツをやりたいと思って、ボクシングやレスリングをちょっとやってるうちに、99年頃、総合をやってる連中と知り合って、遊びで始めたのさ。

——レスリングはハイスクールでも？

フォレスト　いや、ハイスクールじゃバスケとフットボールをしてたんだ。で、カレッジでもフットボールをやろうとしたんだけど、選手になれるほどデカくもないし、足もそれほど速くなくてあきらめたんだ（苦笑）。

——その後、警察官に？

フォレスト　大学を出てからね。警官をしながら総合の小さな大会に出始めたんだ。1試合500ドルくらいのファイトマネー。アメリカでは、昼間に仕事をしながら、そういう大会に出る選手が多いんだよ。

——総合格闘技を選んだのはなぜですか。

フォレスト　ちょうど、当時、総合が格闘技の中で人気になっていたこともあるね。以前、UFC15でランディ・クートゥアーがビクトー・ベウフォートと闘うのを観たりして（※97年10月、ランディが1RTKO勝ち）「コイツはおもしろそうだなぁ」と思ってたんだ。その後、知り合った連中が総合を教えてくれるっていうんで始めたのさ。

——18歳くらいでその試合を観たわけですね。『TUF』に出ることになったきっかけは？

フォレスト　もともとUFCに出ないかって話は来てたんだ。『TUF』の一年くらい前にUFCのマッチメーカー、ジョー・シルバに会って話をしてね。



UFCの本拠地ラスベガス在住のグリフィン。親友であるジョン・ウッド会長とともに会長の彼女の家に間借りしているとか。スターとはいえ、私生活は案外寂しいのか？

監獄生活（TUF）を出てからは、会う人会う人がチヤホヤしてくれたよ（笑）

——あなたは桜庭選手とも闘ったエベンゼール・ブラガに03年に1R・一本勝ちしたり、02年にはジェフ・モンソン（UFC65でUFCヘビー級王座挑戦者）にも勝ってますもんね。

フォレスト　うん。それで、近々UFCに出場できそうだなって思ってたときに、試合で腕の骨を折ったんだ（※ブラジル、ナタウでのHEAT2でエドソン・パレダオンに腕を折られながらも闘い、折れた腕で相手を殴り倒して1R・KO勝ち）。それから13ヵ月も試合から離れなきゃならなかったから「もう引退して警官の仕事に専念しようかな」と思ってたのさ。そしたら電話がかかってきて、「リアリティショーに出ないか？」って言われたんだ。

——あの24時間カメラが回っている番組に出演するのは、どんな感じでした？

フォレスト　けっこう疲れたね（苦笑）。外の世界との接触は禁止されてて、テレビも観れず、本も読んじゃいけないし…

——合宿所はプールつきの豪邸でしたが、制約がいっぱいあったんですね。

フォレスト　うん。あの家とUFCトレーニングセンターを往復するだけでね。ほとんどプリズン（監獄）さ。二ヵ月間、丸8週間も練習だけの生活なんだ。

——厳しいトレーニングに耐え、チーム対抗のゲームで勝ち抜き、フィナーレまで3試合闘って勝ち抜かなきゃいけないし。

フォレスト　ああ。長かったなぁ……。（しみじみと）。

——選手との合宿生活はどうでした？

フォレスト　それは問題なかったよ。練習に専念できて、素晴らしいトレーニングができたし。なんの気晴らしもできないってのは、シンドかったけどね。

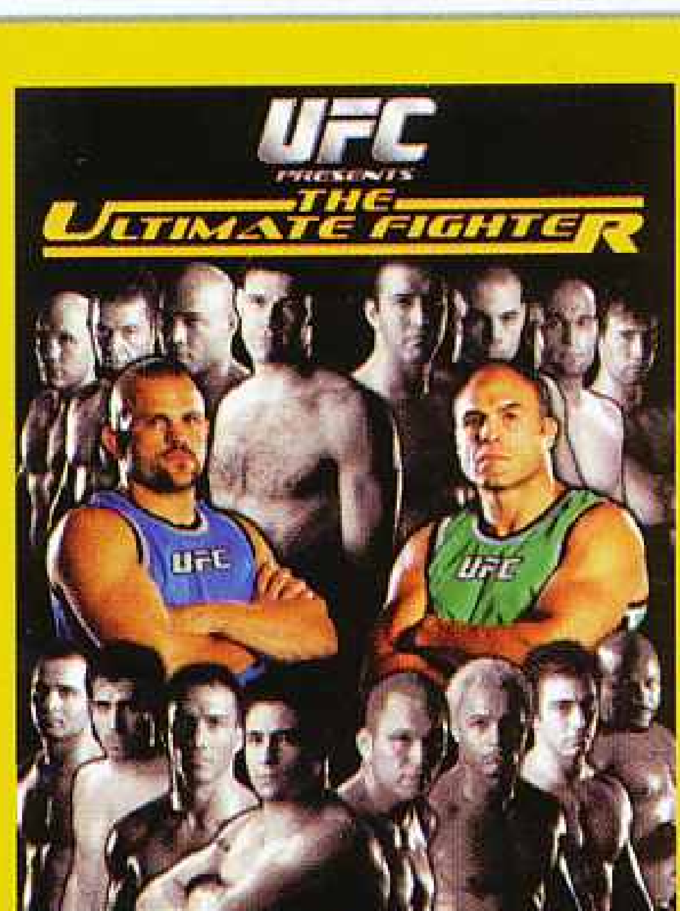
——あるインタビューで趣味がセックスって答えてましたけど、セックスどころか電話も

『TUF』とは何か？

アメリカのケーブルテレビ局で放送中のリアリティーショー。『ガチンコ・ファイトクラブ』と『サバイバー』を足して2で割ったような感じで、実際プロデューサーは『サバイバー』を手掛けた人物。実績はあるがまだ無名の選手たちが2チームに分かれ、シーズン1ではチャック・リデルとランディ・クートゥアーのコーチを受け、『風雲！たけし城』のようなサバイバル・ゲームをしたり、試合を行なって、一人、また一人と脱落していく。トレーニングに明け暮れ、プールつき豪邸で2ヵ月間の合宿生活をする様が24時間撮影され、仲違いや友情などの人間ドラマが繰り広げられ、折々に選手のミニインタビューが入って心情を吐露することで、各キャラが視聴者から親近感を持たれる仕組み。

ここで3試合に勝ってライトヘビー級で優勝したのがフォレスト・グリフィンで、ウェルター級ではヒクソンに憧れる柔術&ヨガおたくのディエゴ・サンチェスが優勝。彼らには6桁の契約、つまり10万ドル（約1200万円）とUFC本戦出場権のほか、トヨタの新車も贈られた。最新のシーズン4では、UFCに出場経験のある選手たちにセカンド・チャンスを与えるテーマで、優勝者にはタイトル戦が約束されている。

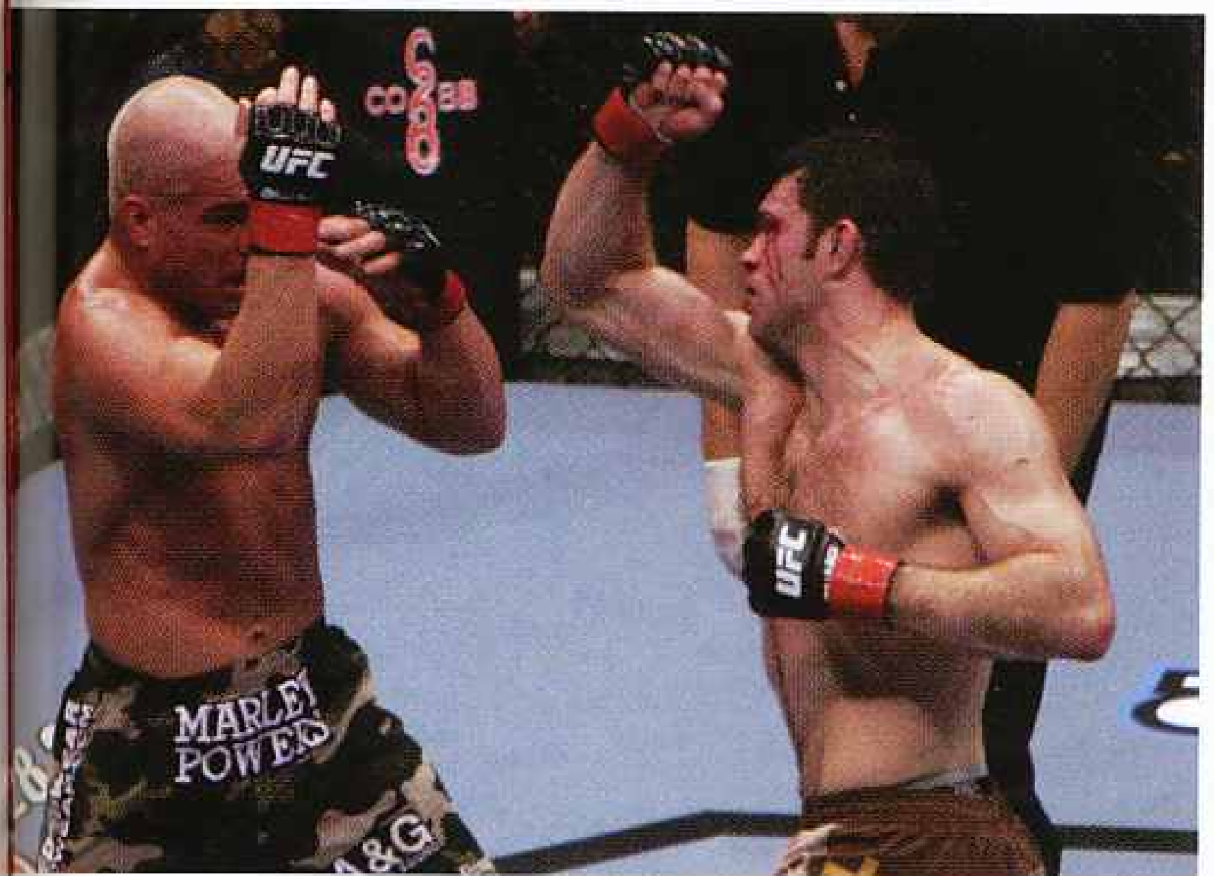
UFC本戦はペイパービューしかないが、TUFはケーブルテレビ（国土の広いアメリカでは一般に普及している）に加入すると無料で視聴できるスパイクTVで放映されたため、それまでUFCを見たことがなかった一般層にまで人気が広がり、UFC本戦も、TUF効果で大ブレイク。シーズン1と2でコーチを務めたランディとチャック、ケンとティトがシーズン終了時に本戦で対戦したこともUFC人気に拍車をかけた。



PRIDEアメリカ進出で
"巨大帝国"が本性を露にする!

本当は恐ろしいUFC

一度辞めた警官に戻ろうとは思わなかった 勝ち残って、試合で食える選手になるために



常に動き続けるアグレッシブな闘いがグリフィンの身上。4月のティト・オーティズ戦では2-1の判定で敗れたが、ファンは判定に対し大ブーイング！ UFCの"顔"の一人をよそに、ファンのハートをわし掴みにしてしまった。

テレビもダメじゃ、まさに監獄ですね（笑）。

フォレスト　そうなんだよ！　テレビだって観ることが許されたのは、ＵＦＣの試合だけでさ（苦笑）。練習や試合は好きだけど、時には気分を変えて別のことをやって、リラックスしたいよ。誰でも24時間仕事のことばかり考えてたら疲れちゃうだろ？

――そりゃあそうですよね……。番組に出るために、警察は辞職したんですか。

フォレスト　うん。だけど「ショーが終わったら警官に戻りたい」とは思わなかった。勝ち残って、絶対に試合で食える選手になろうと思ってたから。

――勝ち残れなかったら、契約も得られず、職も失なうリスクがあったわけですね？

フォレスト　まあね。でも警官を辞めても別の職には就けると思ってたし、それほど心配はしてなかったよ。だけど、この番組のせいでガールフレンドをなくしたんだ（苦笑）。

――ええっ、そうなんですか？

フォレスト　やっぱり60日間も電話すらできないってのはね、いろいろ大変なんだよ！　メールも送れないし。

――その点も監獄みたいですね。『幸せの黄色いハンカチ』みたいにはいかなかった、と。でもリスクを冒してもチャンスがほしかったんですね。不安はなかったですか。

フォレスト　もちろん不安は凄くあったよ。でも「リスクを冒す価値はある。チャンスをつかむには、時にはリスクを冒すことも必要だ」って思ったんだ。

――『ＴＵＦ』はシーズン5がまもなく始まります。あのときは第一回で実際にどんなことになるのかもわからなかったでしょう？

フォレスト　そうそう。それにプロデューサーが途中で「これはお蔵入りかもな」なんて俺たちに言ったことさえあったんだぜ。

――ええっ!?　それは頭にきませんでした？

フォレスト　もちろんだよ！　番組のために、多くのものを犠牲にしたわけだからね。

――それに最初の契約では最終回までは試合がないはずだったのが、「やっぱり何試合かしてくれ」って言われましたよね？

フォレスト　そう。だから体重を落とすのが大変だったよ。最終回までに落とせばいいと思ってたし。ブランクがあったせいで、105キロくらいになってたからね。

――ライトヘビー級は93キロですから、12キロも落とすのは大変だったでしょう？

フォレスト　うん。いまは次の試合が12月30日に決まってるんだけど、たっぷり時間があるからなんの問題もないけどね。（※ＵＦＣ66でキース・ジャディーンと対戦予定）

――『ＴＵＦ』では、多くの選手が最初はビールを飲んだり、たっぷり食事やデザートをとったりしてたんで、いきなり試合が決まったボビー・ソースワースなんかは何度もサウナに入って、ぶっ倒れて引っぱり出されて、エアロバイクをこいで、またサウナに入る、なんてことを繰り返してましたね（笑）。

フォレスト　うん。あの後、みんな普段から食事に気を使うようになったよ（笑）。

――そんな二ヵ月の監獄合宿で3試合を勝ち抜き、晴れてアルティメット・ファイターになったわけですが、恋人はなくしたけれども、いきなり有名人になってたわけですよね。そのときはどんな気持ちでした？

フォレスト　悪くなかったね。モテモテで、凄くセクシーな女の子になったみたいな気分だった。会う人会う人、みんながチヤホヤしてくれるしね（笑）。

――ハハハ、おもしろいたとえですね。その後ＵＦＣ53で本戦にデビューしてビル・マフードに一本勝ちし、エルヴィス・シノシックをＴＫＯして元ライトヘビー級王者のティトと闘いましたが、あの試合はどんな感じでした？

フォレスト　悪くなかったよ。最初、俺はスローだったけど。たぶん、ビビッてたんだろうな。でも再戦できそうで嬉しいよ。今度はもっとハードに練習していくよ。

――ティトも試合後、「再戦するぜ」って言ってましたね。スプリット・ディシジョンでしたが、二票がティトに入ったとき、大ブーイングと、フォレスト・コールが起きましたね。元王者のティトよりもあなたの人気が高いのには驚きました。もちろん、あなたの常に前に出続けるアグレッシブな姿勢が支持を得たというのもあるでしょうが、『ＴＵＦ』効果も……。

フォレスト　それは間違いなくあるね。

――警官をしながら小さな大会で試合をしていたとき、いまのようにＵＦＣで大歓声



同じ『TUF』一期生で、『TUF』決勝で激闘を演じているステファン・ボナーとは8月にも再戦。判定3-0で勝利している。打たれても絶対に下がらず打ち返す、スタミナに裏打ちされた運動量がグリフィンの持ち味。



FORREST GRIFFIN■ジョージア州出身、27歳。ジョージア大学政治学科卒。99年頃から警官をしながら、総合の試合に出始める。趣味は映画とセックスとジャンクフード。総合戦績13勝3敗。警官を辞めて『TUF1』に出場し、優勝。UFC本戦ではビル・マファッドをチョークで破り、シノシックをTKO、元ライト級王者ティトには激戦の末2-1の判定で敗れるが、ファンは大喝采。殴られても前に出てパンチを打ち続けるアグレッシブさが身上。過去にブラガやジェフ・モンソンも倒している。

『PRIDE』の選手が世界最高だとは思わない。ライトヘビー、ウェルター級ならUFCのほうが上だ

FORREST GRIFFIN

を受ける日が来ると想像してましたか。

フォレスト　UFCにはいつか出れるだろうと思ってたけど、これほどの大観衆から声援されるとは思ってなかったな。5、6年前に俺が試合を始めた頃はUFCもいまほど大きくなかったし。でも最近はホントに一般の人に認知されてきて、人気も上がってきてるから嬉しいよ。あの頃は、「格闘技でメシが食えるようになれば充分だ」と思ってたから。

——UFCがビッグになったのは『TUF』効果が非常に大きいと思いますが、その『TUF』第一回優勝者がフォレスト選手です。つまりいまのアメリカのMMAの大人気を象徴するのがあなただと言ってもいいですね。

フォレスト　ああ。でも何百人ものヤツがそうなりたいと虎視眈々と狙っているからね。次のスター候補は、UFCからの電話一本向こうのところまで来てるのさ（笑）。

——決して安心していられない、と。これから闘いたい選手はいますか。

フォレスト　誰でもいいよ。ヘビー級で試合してもいいし。ティトともまた闘いたいし。前回はティトも最高の状態じゃなかったと思うけど、俺も少しケガをしてたから、ぜひまたやりたいね。王者のチャックとも、もちろんやりたい。まだ俺には挑戦する資格がないと思うけど、何試合か勝ったら、やらなきゃいけないだろう。チャックは偉大なファイターだよ。ジェレミー・ホーンやランディ・クートゥアー、レナート・ババルといった凄い選手たちをあっさりKOしてるし。『TUF』では俺はチーム・リデルにいて、ずっとコーチしてもらったし、番組が終わったあともしばらくコーチしてもらったけどね。

——その二人以外に闘いたい相手は？

フォレスト　ニンジャやショーグンとは前からやってみたいと思ってる。彼らのスタイルはほかの選手と違っておもしろいからね。UFCのオクタゴンにやってきてくれると嬉しいな。それにヴァンダレイもね。

——『PRIDE』の選手は「PRIDEの選手が世界最高だ」とよく言ってますが、UFCの選手として、それを聞いてどう思いますか。

フォレスト　当然ながら賛成できないね。ヘビー級は別にして、俺のいるライトヘビー級はPRIDEミドル級に勝るし、ミドル級（83・8キロ）は同レベルだし、ウェルター級（77・1キロ）なら、UFCのほうがずっと上だ。

——あの階級にはマット・ヒューズやジョルジュ・サンピエール、かつて五味隆典を破ったBJペンもいますしね。

フォレスト　ああ。あとライト級（70・3キロ）はだいたい同じレベルだね。ただ、選手が団体を変わることによってギャラもよくなるから、一つだけでなく複数の団体があるのは選手にとっていいことさ。

——UFC以外に『PRIDE』や、MFC、IFLなどいろんな団体ができていることは、選手にとっては歓迎すべき状況？

フォレスト　そうだよ。選手からすればいろんな場所で闘うチャンスがあるわけだし、業界全体にとってもいいことさ。

——『PRIDE』は「敵」ではない？

フォレスト　とくにそうは思わないよ。ただ、『PRIDE』がアメリカでUFCとまともに対抗できるとは思えないな。マーケティングの問題もあるし、UFCのほうがアメリカ人選手も多いし。だから『PRIDE』がこの国でUFCほどの成功を収められるとは思えない。アメリカ人は総合格闘技というのはやはりケージ（金網）だと思ってるしね。実際、ほとんどの総合の大会がケージで行なわれてるし。

——あなたのファイトスタイルは凄くアグレッシブで、打たれてもガンガン前に出て勇敢に闘いますね。どうしてそんな闘い方ができるんですか。

フォレスト　いつも充分スタミナをつけて試合に臨んでいるから、前に出れるのかもな。俺はあまりカウンターはうまくないし、チャックみたいにトラップを仕掛けて相手をそこにハメるほどクレバーでもないし（苦笑）。それと、どんどん前に出てアグレッシブに闘うのが好きなのさ。ファンだって、そういう試合を見てるほうがおもしろいだろ？

——たしかにそうですね。じゃあヴァンダレイとやったら凄い試合になりそうですね。

フォレスト　うーん……ヴァンダレイを相手にガンガン前に出るかどうかは、わからないなァ。彼は物凄い勢いで前に出てくるからね。そういう相手には、ちょっと下がりながら迎え撃つ形になるだろう。ミルコがこのあいだやってみせたみたいに。相手が入ってくるところにガンッと入れて、下がって、前に出てきたら、またガツンと入れてね。

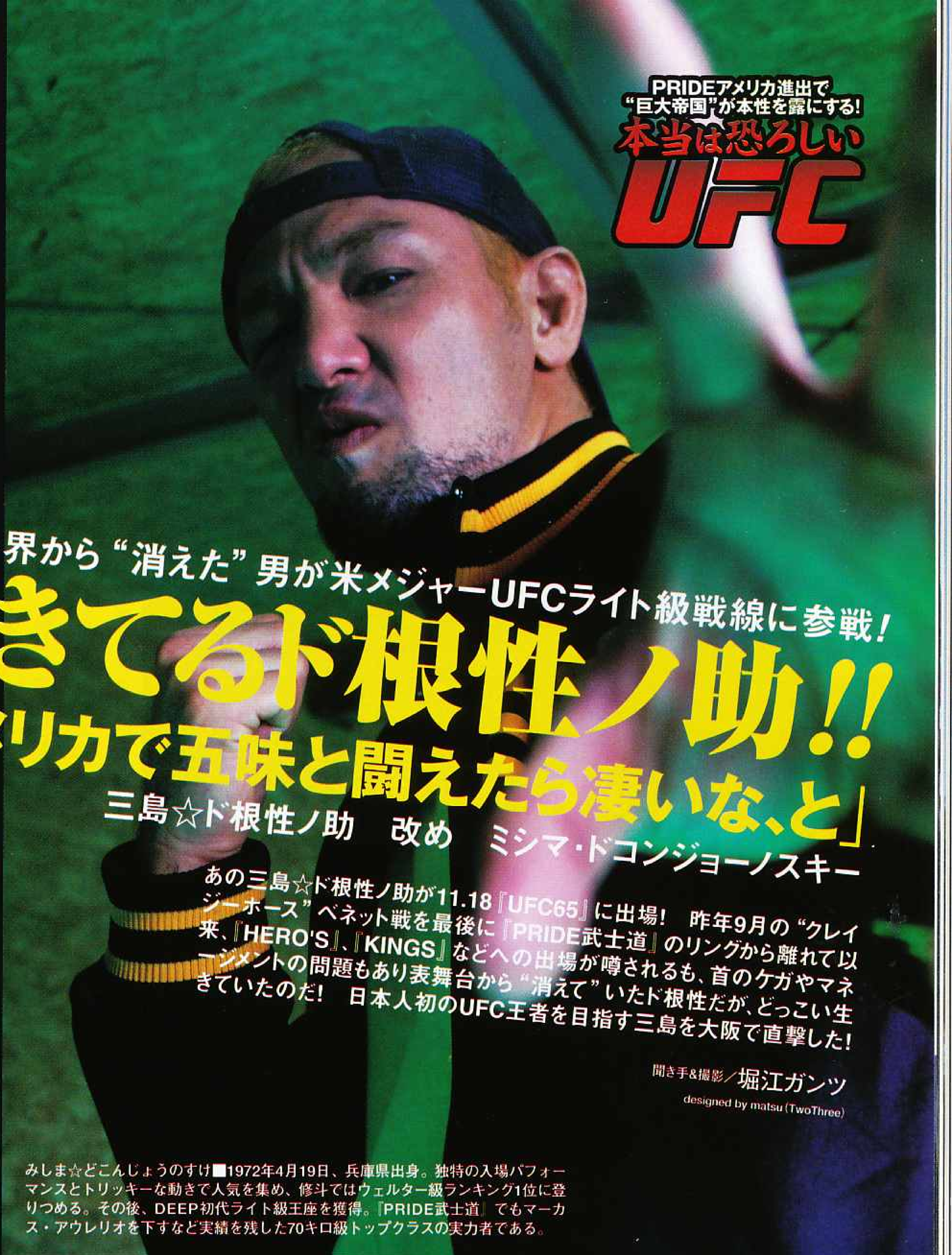
——あなたは成長の階段を登っている最中だと思うんですが、いまの目標は？

フォレスト　選手としての自分を改善することさ。一つ一つの試合をしながらね。そして最終的にはチャンピオンになりたい。

——12月30日のUFC66、頑張ってください。

フォレスト　うん。クリスマス・ディナーがあるから、ちょっと減量が厳しいけど、それ以外は問題ないよ（笑）。

【06年10月23日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス郊外『サイエンス・トレーニングセンター』にて収録】



日本マット界から"消えた"男が米メジャーUFCライト級戦線に参戦！

どっこい生きてるド根性ノ助!!

「UFC王者としてアメリカで五味と闘えたら凄いな、と」

三島☆ド根性ノ助　改め　ミシマ・ドコンジョーノスキー

あの三島☆ド根性ノ助が11.18『UFC65』に出場！　昨年9月の"クレイジーホース"ベネット戦を最後に『PRIDE武士道』のリングから離れて以来、『HERO'S』、『KINGS』などへの出場が噂されるも、首のケガやマネージメントの問題もあり表舞台から"消えて"いたド根性だが、どっこい生きていたのだ！　日本人初のUFC王者を目指す三島を大阪で直撃した！

聞き手&撮影／堀江ガンツ
designed by matsu (TwoThree)

みしま☆どこんじょうのすけ■1972年4月19日、兵庫県出身。独特の入場パフォーマンスとトリッキーな動きで人気を集め、修斗ではウェルター級ランキング1位に登りつめる。その後、DEEP初代ライト級王座を獲得。『PRIDE武士道』でもマーカス・アウレリオを下すなど実績を残した70キロ級トップクラスの実力者である。

――11月18日（米国・現地時間）にUFC出場が決定したということでお話をうかがいに来たんですけど、じつはこのインタビューが載るのは試合後なんですよ（笑）。

三島　アカンやないですか（笑）。

――ま、きっと勝ってくれると信じて話を進めます！　今回の出場が決まったのはどんな経緯があったんですか？

三島　前から声はかかってたんですよ。でも僕、前に一回アメリカで試合したときに凄い体調崩して無茶苦茶になったんで、海外は嫌だと思って無視してたんですよ。

――海外というだけで、除外してた、と（笑）。

三島　でも最近、UFCが僕のスタイルに合ってるって薦めてくれる人がいて、ビデオを観てみたらそのとおりで、「これはええな」と思って出させてもらうことにしました。日本の総合は打撃中心に変わってきたんで自分の居場所がないように感じてたところなんですけど、その点向こうはじっくり寝技やらしてくれるんで。

――いままで毛嫌いしてたのが、じつは自分に一番合ってるものだったと。

三島　食わず嫌いやったんですよ。UFCってビデオでも第4回大会くらいまでしか観たことなかったんで。

――まだホイスの時代ですね（笑）。UFCはいま興行的に絶好調ですけど、ファイトマネーなんかもやっぱりいいんですか？

三島　飛び抜けていいわけやないですけどね。勝って『PRIDE』と一緒ぐらいですか。ただ、一回勝ったら次はこの値段って感じでどんどん上がっていくシステムなんで、励みにはなりますね。

――今回の三島選手は初参戦のわりにはいいカードというか、いい扱いらしいですね？

三島　はい。ありがたいことに、ほかの人と比べてもいい待遇なんで。期待されてるんやろうなって感じますね。

――岡見選手なんかは、まだテレビには映らない試合ですけど、三島選手はいきなりテレビに映る位置なんですか？

三島　そうなんですよ。契約書にも「テレビに映る契約で～」って書いてあったんで。

――あっ、そういうことまで契約書には書いてあるんですか？

三島　全部、契約書に書いてありますね。契約書だけで28枚ありましたから。『PRIDE』は5枚ぐらいだったんですけど。UFCはスポンサーやコスチュームにも制限があったりとか。

――じゃあ、いつもの入場をやるのはかなり厳しいんじゃないですか？（笑）。

三島　たぶん、いつもの色は出せないと思いますね（笑）。

――リングネームは「三島☆ド根性ノ助」のままなんですか？

三島　変えたほうがいいですかね？

――いや、このままでいいと思いますけど。

三島　でも、あっちでは「"ド根性ノ助"の発音が凄い難しい」って嫌がられるんですよ（笑）。

――「助」が言えなくて「ドコンジョーノスキー」って呼ばれるらしいですね（笑）。

三島　それに、あっちでは☆もなくなるんですよ。

――あ、そうなんですか。

三島　ホントは「ド根性ノ助」は変えてもいいから、☆は残してほしかったんですよ。だからチャンピオンになって再契約するときになったら、「☆つけてくれ」って要求しようと思って（笑）。

――分厚い契約に記載させますか（笑）。

三島　いまはそれを目標に頑張れてるんで充実してますよ。『PRIDE』出てた頃は、大舞台のメジャーに上がるというだけで、どんだけ名前を売るかとか、道場やってくために無理してでも大きな舞台に上がっとかなとか、そんなことばっか考えてましたんで、久々ですね、純粋に「勝ちたい」という目標に向かって頑張れるのは。

――いまUFCライト級はショーン・シャークがチャンピオンですけど、連勝したらタイトルマッチとか、そういう話もあるんですか？

三島　順調に勝っていけば3試合目でタイトルマッチが狙えるらしいんです。

――そうなんですか！　じゃあ、もしチャンピオンになったら、UFC王者としてPRIDE代表の五味選手を迎え撃ったりとかも、もしかしたらあるかもしれないですよね（笑）。

三島　それができたら凄いですよね。

――三島選手はもう一度、五味選手と闘いたい気持ちはあるんですか？

三島　もちろんあります。元々五味とやれるんやったらと思って、PRIDEルールで闘ってたようなもんなんで。でも、UFCのルールでできるなら、本当の自分が出せると思います。ただ、まだ僕自身、出場してもいないんで（笑）。

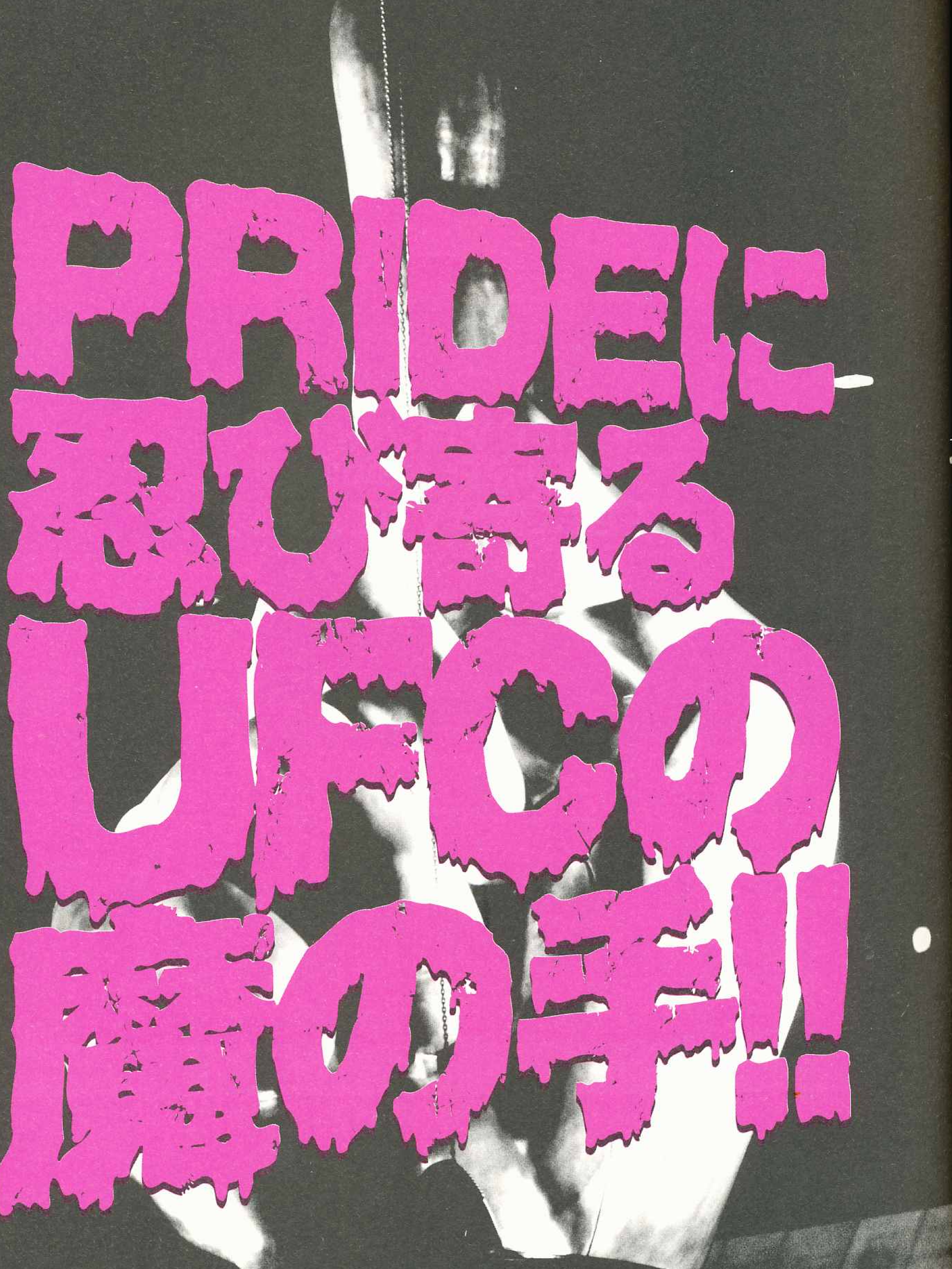
――とりあえずUFCで実績残さなきゃ始まりませんもんね。では、アメリカでの活躍期待してます！

【06年11月5日／東大阪市COBRA-KAI EAST OSAKAにて収録】

コブラ会の新しいジムがオープン！
COBRA-KAI EAST OSAKA
東大阪市鴻池本町12-48
TEL.06-6466-6999
JR学研都市線
「鴻池新田駅」下車徒歩6分
総合格闘技道場コブラ会
大阪市福島区吉野4-26-8
TEL.06-6466-6999
JR環状線「野田駅」下車徒歩7分

PRIDEラスベガス大会成功も……

PRIDEに忍び寄るUFCの魔の手!!



地上波中継打ち切りという“大津波”をなんとか乗りきって、無差別級GPの爆発させ、ラスベガス大会も大成功させた『PRIDE』。しかし、再びUFCという“大津波”が迫っている。『PRIDE』を取り巻く状況を探れ!

designed by bun-chan (Two Three)

ジャン斉藤（以下、ジャン） 今月号にはK―1GPを大真面目に考える座談会があるので、一冊に二つも対談系企画をやるつもりはなかったんですけども。〝I編集長〟こと井上（義啓）さんが体調を崩されてしまって『喫茶店トーク・ラウド』がお休みのため、急きょ『PRIDE』に関する雑談企画をやることにしました！

堀江ガンツ（以下、ガンツ） 言うちゃ悪いけど、I編集長の代打としては役不足というか、妄想不足だけどね（笑）。

ジャン 俺だってできますよ！……とI編集長ばりに叫べませんよね。

ガンツ たとえ我々がモンターニャ・シウバを語ったところで、あの超独創的な域に達するのは不可能だからね。一日も早い誌面復帰を願ってます!!

ジャン それで今回の雑談のテーマは、ラスベガス大会の総括を含めた最近の『PRIDE』を取り巻く状況ですね。まずは先日の『PRIDE武士道』ウェルター級GPの話からいきたいと思います。

ガンツ 最初は『武士道』!? う～ん。とてつもなくクタクタになって深夜1時過ぎの帰宅になった印象が強いなあ。

ジャン はあ。じゃあ、簡単に『武士道』を一言で総括してくださいよ。

ガンツ 一言で？「長いっ!!」以上。

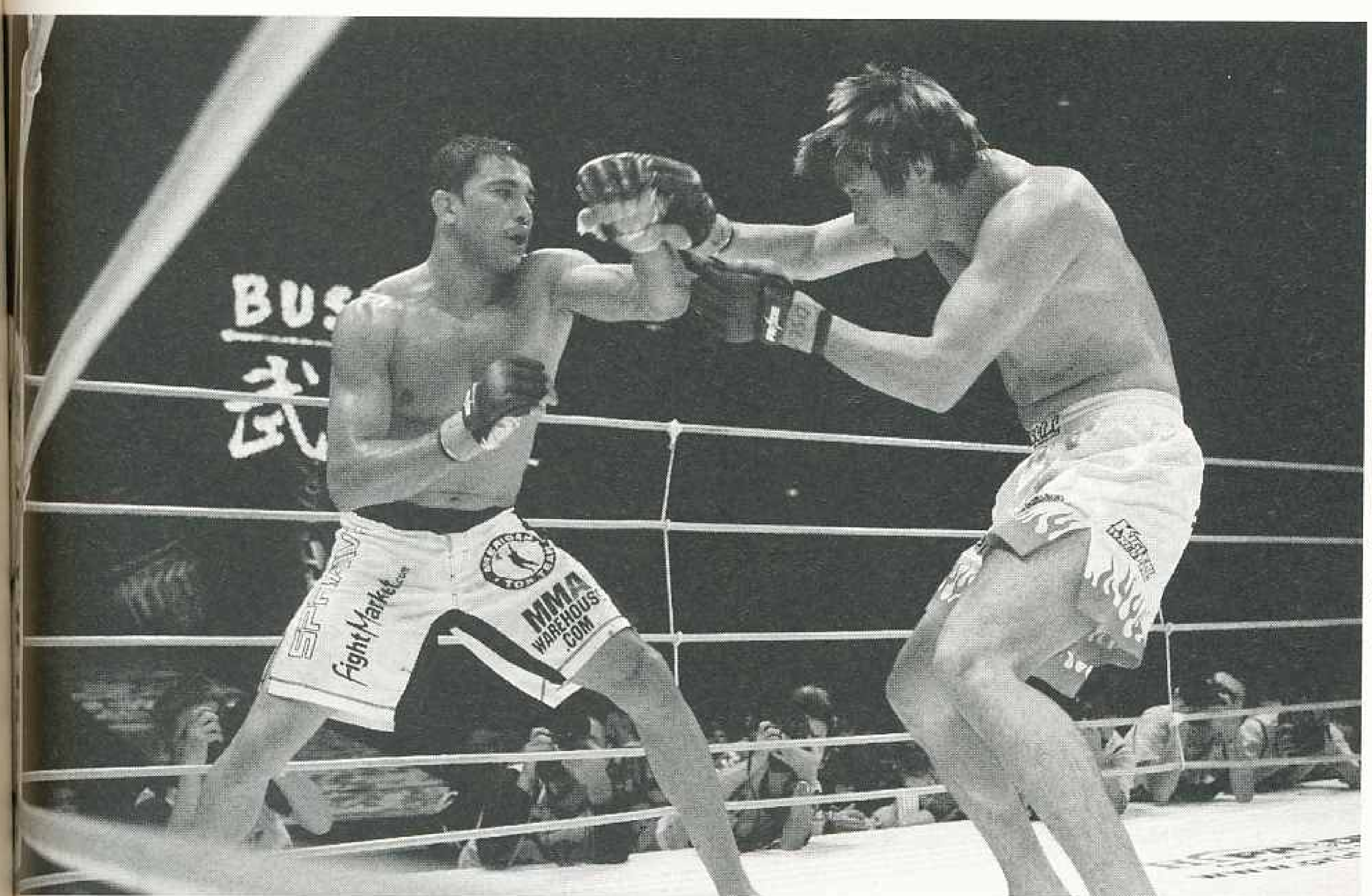
ジャン あ、ホントに一言で済ませた。あんまりだ！

ガンツ だって6時間30分だよ、6時間30分。同じ横アリであった伝説の長時間興行、全日本女子プロレス主催の女子プロ・オールスター戦（93年4月2日）と同じ長さなんだから！

ジャン あのときは午後6時試合開始で、日付を越えた瞬間、客席から「3日！」コールが起こったんですよね（笑）。それと並ぶ、史上最長興行ですかね？

ガンツ いや、史上最長は別にある。

『武士道』のオープニング映像じゃないけど今年の『PRIDE』のテーマは「やれんのか!」だった





五味にとってはアウレリオへのリベンジ戦にして、自身が保持するPRIDEライト級王座の初防衛戦。絶対に負けられない五味は、慎重に慎重を期したファイトスタイルで“間合い地獄”を制して勝利を飾った。メインのウェルター級GP決勝戦は、フィリオの棄権で“敗者復活出場”となった三崎がデニス・カーンを破って、まさかの優勝!!

ジャン なんですか？

ガンツ その翌年に行なわれた全女の東京ドーム大会（笑）。午後2時に始まって終わったのが、11時の9時間興行だからね。

ジャン さすがだなぁ（笑）。今回の『武士道』も、セミファイナルの五味隆典vsマーカス・アウレリオの試合が終わった時点で、終電の兼ね合いもあったのか、メインのウェルター級GP決勝戦を待たずに会場をあとにした観客がけっこういたんですよ。

ガンツ 五味隆典のタイトルマッチが目当てだったファンが多かったということでもあるんだろうけど、それはファンにとっても『PRIDE』にとっても残念なことだよね。今年の『武士道』の柱だったウェルター級GPの決勝を観ないで帰っちゃったというのは。

ジャン だから翌日のスポーツ新聞なんかを読んで、目を疑った人はいたと思いますよ。「はあ？ 三崎が優勝？ なんで!?」って。

ガンツ シンジラレナ～イ！って感じだろうね（笑）。

ジャン 同じく〝シンジラレナ～イ！〟出来事といえば、やっぱりオープニングの煽り映像で、ディレクター佐藤大輔氏とナレーター立木文彦氏の最強タッグ復活だと思うんですけど。

ガンツ 二人のカムバックによって〝これぞ『PRIDE』！〟という演出が帰ってきたよねえ。思いきり正直に言うと、11・5『武士道』で一番興奮したのは、オープニングだから（笑）。

ジャン ガンツさんは佐藤氏のインタビューをしたことですし、煽りVTRのどこが素晴らしいのかちょっと解説してくださいよ。

ガンツ やっぱり菊田早苗の煽り映像で、なぜかアレク戦の映像がふんだんに盛り込まれてたところとか、さすがだなと（笑）。

ジャン ハハハハ！ ほめるんならもっとストレートにほめましょうよ（笑）。

ガンツ それ以外だと、やっぱりオープニングでデカデカと「ナレーター 立木文彦」って名前を出したところでしょう。一種の決意表明でもあるんだろうけど。

ジャン オープニングで繰り返された「やれんのか！」という力強い問いかけもハマってましたよね。

ガンツ それこそ「やれんのか！」っていうのが、今年の『PRIDE』のテーマだったわけでしょ。「桜庭がいなくてやれんのか!?」「テレビがなくてやれんのか!?」「ラスベガスでやれんのか!?」って。

ジャン あとは、「ウェルター級GP、このメンバーでやれんのか!?」と。

ガンツ そのとおり（笑）。ホントにシブすぎるメンバーで、俺さ、このウェルター級GPが始まるときに「木戸修杯争奪〝いぶし銀〟世界一決定トーナメント」というタイトルの原稿を書いたんだよね。

ジャン どうでもいいですけど、いまの読者は木戸修のことを知らないですよ。

ガンツ 大昔の話で恐縮なんだけど（笑）。85年ぐらいに「UWF実力ナンバー1決定リーグ戦」っていうのがあったんですよ。

ジャン 最近の読者のために説明すると、前田日明や佐山聡や藤原喜明が出た旧UWFの総当たりリーグ戦ですね。

ガンツ そういったUWFのスター選手たちのリーグ戦を、〝いぶし銀〟の木戸修が地味に二連覇しちゃったんだよ。

ジャン う～ん。いちいち説明が面倒な話だなあ……。

PRIDEに忍び寄るUFOの悲劇!

ガンツ （無視して）で、今回のウェルター級GPも最初は〝いぶし銀〟な選手ばっかりだったのが、パウロ・フィリオという強さに個性が出てきて、デニス・カーンにも深みとスター性が出てきて、そしてDJ GOZMAが妙な弾けっぷりを見せて、三崎和雄もダンヘンに勝ったりして、決勝にくるにしたがってちゃんと4人が4人ともメインイベンターっぽくなりつつあったんだけど、最後の最後に三崎が木戸修的な優勝したっていうかさ（笑）。

ジャン うまく丸め込みましたねえ。キド・クラッチで。

ガンツ キド・クラッチこそいまの読者は知らないだろ！　でも、ホントに木戸修が優勝したときと同じように、「強いんだろうけど……」っていう微妙な気持ちになったんだよ。三崎のあの日焼けっぷりもまた木戸修的だしさ（笑）。

ジャン あと髪をポマードでビシッと固めれば完璧だ（笑）。自分はデニス・カーンが先に入場してリングに待っているのに、時間をたっぷりかけてパフォーマンスをやったDJ OZMAとDJ GOZMAにもモヤモヤしましたけど。

ガンツ 遅刻してくるゴーバーをリングで待っている『W－1』の武藤敬司じゃないんだからさ（笑）。

ジャン ガンツさんはあの入場はどうでしたか？

ガンツ 俺は好きよ。ビッグイベントらしくて。あのズラッとサンバダンサーが出てきたのも良かったし。たださ、PRIDEファンって優しいから、ひたすら待ってるデニスのことが気になって、心から盛り上がれないっていうのが絶対あったよね。

ジャン やるならデニスの入場をあとにしてやるべきですよね。あとは、GOZMAが先に踊ってるところにさりげなく〝ご本人〟登場っていう『ものまね王座決定戦』方式にするか。

ガンツ だからDJ OZMAが一番かわいそうだったよ。せっかく出てきたのに、みんなデニスが気になるばかりに、イマイチ爆発まで至らなかったでしょ。あなたに罪はないってなぐさめてあげたいよ（笑）。

ジャン それに、DJ GOZMAのパフォーマンスって、まあ安牌じゃないですか。

ガンツ うん。ハズレはないよね。大当たりでもないけど（笑）。

ジャン 個人的には、その安牌かげんがヒリヒリしないから、エンターテインメントとして積極的におもしろがれなかったんですよね。なんか会場は盛り上がってるし、GOZMAと付き合いの長いマスコミや関係者も喜んでるから、まあいっかあという感じで。

ガンツ それは演者としてギリギリのラインを踏みしめてないというか、GOZMAが追い込まれてることによって生まれる緊張感がなかったってことだろうね。たとえば、サク（桜庭和志）がマスクを被って出てきて「これで負けたらカッコ悪い」とかさ、田村潔司がUWFのテーマで入場して「これでヘンゾに負けたら、もう取り返しはつかない」というヒリヒリ感があったわけじゃない。でも、郷野の場合、GOZMAで出てたとえ負けても、「試合も入場もよくやった」とか言われそうでしょ？　そこがちょっと違うっていうのはあったな。

ジャン GOZMA本人が悪いわけじゃないんですけどね。デニスには負けましたけど、ちゃんと接戦に持ち込める力量を備えているわけですから。

ガンツ ただ、装置として、我々のような〝変態〟がシビレるところまで作りあげられてなかったということだから。ま、〝変態〟は相手にしてないのかもしれないけど（笑）。

ジャン シビれるといえば、今回はデニス・カーンに尽きるんですよ。だって、婚約者が亡くなられて、手負いの状態でGOZMA戦に臨んで、リングに上がったと思ったらずいぶん待たされて、決勝直前に相手が変わって、ほとんどの観客が三崎を応援するという状況下を満身創痍で闘い抜いて、そして負けた言い訳を一切しない。なぜそこまでして闘うのか？　そういったデニスにちゃんと光を当てることで、GOZMAや三崎らがやり抜いた凄味も相乗効果で浮かび上がってくるはずなんですけど、それをどこかの雑誌みたいに「日本に生まれて良かった」とかなんとかボンヤリまとめられたら、もうモヤモヤしっぱなし!!

ガンツ だからさ、さんざん言ってることだけど、『PRIDE』の醍醐味は〝日本人が勝った〟とか〝日本の魂〟がどうのじゃなくて、選手それぞれの生き様のぶつかり合いだからね。急きょ、敗者復活となった三崎だって相当大変だったらしいよ？

ジャン 三崎って、じつはもう帰り支度をしてたんですよね。

ガンツ そう。パウロに負けたあと、控室でセコンド陣たちと一緒に泣いて、シャワーを浴びて、ご飯を食べて、さあ帰ろうというときに「出番です！」って言われたらしいよ（笑）。

ジャン もう『元祖どっきりカメラ』の世界ですね。アフロじゃなくて赤いヘルメットをかぶったGOZMAが、野呂圭介ばりに『どっきりカメラ』のプラカードを持って出てくるんじゃないかという（笑）。

ガンツ ボディにパンチを食らったら、吐いちゃうかもしれない状態だった。6時間30分にも及ぶロング興行のエンディングが〝吐く〟だったかもしれないんだよ（笑）。だから、三崎も「やれんのか!?」『俺はやる！』って感じだったんだよね。そこはやっぱり凄いことだよ。

ジャン で、もう一つの目玉だった、五味隆典のタイトルマッチですけど、ガンツさんとしてはどうですか？

ガンツ ズバリ言うと、物足りなかったよね。

ジャン ええ。歴代の五味の試合のなかでは、一番出来が悪かったのは誰も否定しようがない事実ですよね。ただ、これまでで一番、〝人間・五味隆典〟を感じられた試合でしたね、個人的には。不安を抱えながら闘う人間らしさが出てたなっていう。



『PRIDE』がいまの規模を維持するために ラスベガスに進出するしかなかった

ガンツ だから連勝してた頃とは別の意味で、凄く五味らしいんだよ。精神状態がモロに試合に反映されちゃうというね。あの試合では、五味の人間臭い部分が見えすぎるくらい見えた。そういう意味では、凄くおもしろかったとも言える。

ジャン 試合は五味本人が反省するぐらいイマイチでしたけど、ああいった五味の姿を観ることで、いままでKOを積み重ねてきた凄さはあらためてわかりましたし。

ガンツ 10連勝のときはスーパーマリオの無敵モードばりに、輝きながら蹴散らしてたもんな。今回はその〝スター〟が切れて、ノーマル・マリオ状態のまま、なんとか逃げ切った感じだよね。

ジャン 前号の『kamipro』のインタビューでも、相当弱気な発言を繰りかえして、直前の公開練習をキャンセルしたじゃないですか。格闘技の試合って、なかなか前煽りと試合内容が直結しない場合が多いですけど、いまの五味隆典の危うい状態がストレートに浮き上がっていたんで、格闘技としては珍しい内容だなって。

ガンツ だから五味って傲慢なまでの強さと、繊細すぎる危うさという、両極端なものを持ち合わせたファイターだっていうのが改めてわかったよね。『ドラゴンボール』で言えば、少年時代の孫悟飯みたいなもので、とてつもない強さを自分で制御できない子どもというか（笑）。ホント五味の強さはヤンチャな子どもの強さだよ。

ジャン ちょっと前の五味だったら、「五味を倒せるヤツはいないだろ」っていう感じだったですけど……。

ガンツ でも、逆に五味が飛び抜けていないぶん、来年開催が噂されるライト級GPも含めて、ライト級戦線は群雄割拠でメチャクチャおもしろくなりそうだよね。

ジャン それで次の話題は、念願の初上陸を

はたした『PRIDE』ラスベガス大会です。

ガンツ　大会自体は、大成功は大成功だと思うんだよ。

ジャン　『PRIDE』という日本発の格闘文化がアメリカで通用したことは喜ばしいですけど、まだ現地のPPVの結果が出てないじゃないですか。今回の肝は、フジテレビの後ろ盾がなくなったことによって失なった財政基盤を築くことですから、ただ客が入って盛り上がったから万々歳というのではなく、もっと長期的スパンで見ることが大事ですよね。

ガンツ　じゃあ、今回はMOVE ON！ KINGSばりに、〝中成功〟ってことで（笑）。

ジャン　それは一回こっきりで終わりそうで、縁起悪すぎですよ！（笑）。

ガンツ　しかし、あんなにお客が入るなんて、正直、思わなかったね。

ジャン　ボクは日本でPPV観戦してたんですが、大会開始直前のときはけっこうガラガラだったんですよ。〝破綻型興行マニア〟としての恍惚の喜びと同時に、とてつもない悪寒が走りました（笑）。

ガンツ　試合が始まったらしっかり埋まりだしたけどね。アメリカってみんなメインイベント目当てだから、UFCなんかでも前座はガラガラだから、客足が遅いのはあたりまえなんだけど、それでも不安になるよね。

ジャン　不安になりますよ！　今回は絶対に失敗できない賭けだったわけですから。

ガンツ　そう。『PRIDE』は勢力拡大でアメリカに進出するというより、リスクを承知で外貨を稼がない限り、『PRIDE』が『PRIDE』として成り立たなくなるという、背水の陣という意味合いのほうが、ホントは強かったんだよ。

ジャン　だからラスベガス進出って、『PRIDE』にとってテレビ中継獲得と同等、いや、それ以上に飛び越えざるを得ないハードルだったんですよね。

ガンツ　だから「なんでラスベガスでやるんだ?」とか疑問に思った人がいるかもしれないけど、『PRIDE』がいまの規模を維持するためには、やるしかなかったんだよ。

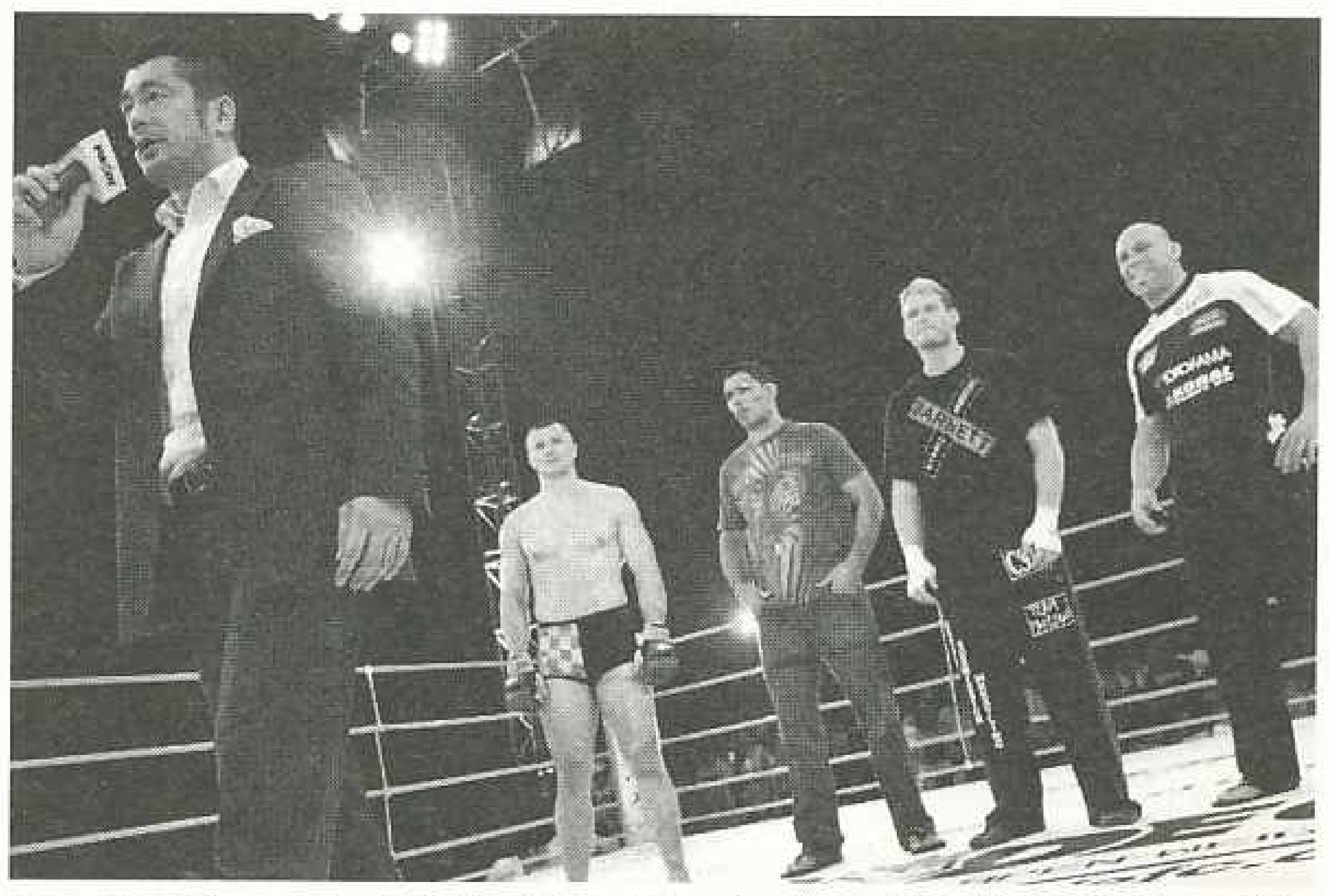
マット界のすべてがひっくり返る事態が近々起こる可能性が現実的にある!?

ジャン　でも、初のラスベガス大会ということで現地はかなり混乱していたみたいですね。怪情報をいろいろ聞きましたけど。

ガンツ　大会前はウソかホントかわからない怪情報が飛び交いまくってたよ（笑）。たとえば、非公式の招待券が出回ってる説とか。

ジャン　『LEGEND』の前日みたいだ（笑）。

ガンツ　あとは、その招待券が風俗案内所に置かれているとか……。



世界最高峰のファイターが揃いまくっている『PRIDE』。ヘビー級戦線の脆弱さに悩むUFCからすれば、ノドから手が出るほどのラインナップ。資金にものを言わせた"大津波"が襲いかかるか!?

ジャン　それは03年の新日本プロレス大阪ドーム大会の話！　しかもボクらはそのチケットで入場したんですよ（笑）。

ガンツ　『PRIDE』の場合は単なる怪情報だったみたいだけど、大会前日はそれこそ、その非公式招待券を流通させたのは、UFCによる妨害工作だとか。さすがネバダ州は「エリア51」とかUFOの本場だけあって、それこそ陰謀説が飛び交ってたよ（笑）。

PRIDEに迫るUFCの魔の手!!

ジャン　たま出版の韮沢さんなら、「ヒョードルは宇宙人」とか言いだしかねませんね（笑）。しかし、UFCの選手引き抜きの魔の手は、陰謀どころか、現実味を帯びているところはありますよね。

ガンツ　これまで日本の格闘技界は『PRIDE』vsK―1という対立構造で、ある種それで均衡が保たれていたところがあったけど、思いの外、UFCが巨大化しているからね。

ジャン　いま考えたら、『PRIDE』vsK―1の対立がかわいく思えますもんね。引き抜き合戦が起こるとしても、たとえば『HERO'S』がいますぐヒョードルを引き抜くってことは、冷静に考えたらあり得ないじゃないですか。100パーセントあり得ないとは言い切れませんけど。

ガンツ　ちょっと難しいだろうね。

ジャン　なぜかと言えば、UFCの大ブレイクで、MMAファイターのギャラは軒並み上がっていることもあって、トップどころにはちょっと容易に手は出せなくなっていて。

ガンツ　だから逆に言えば、UFCなら引き抜き可能ってことなんだよね。いまさ、日本のプロ野球界がスター選手をみんなメジャーリーグに奪われてるじゃん。それと同じようなことが、格闘技界にも起こりつつある状況なんだよね。ホントにK―1と『PRIDE』はセ・リーグ、パ・リーグみたいなもんなんだよ。

ジャン　いつの間にか日本の『PRIDE』やK―1とUFCじゃ、それぐらい資金力に差ができちゃってるんですよね。仮に『PRIDE』にフジテレビという後ろ盾があったとしても、UFCと五分の争いができたかどうか……。

ガンツ　テレビがあって、ようやくなんとか闘えるかな？　という感じだよね。これはUFC筋の関係者から聞いたんだけどさ、「その選手ならUFCはこれくらい出すかもしれない」という金額を聞いてホントびびってたじろいだよ。松坂大輔のポスティング移籍じゃないんだからって話でさ（笑）。話半分だとしても凄すぎる！

ジャン　ラスベガス大会がうまくいったばかりなのに迫ってますねえ、〝大津波〟が。

ガンツ　しかし、今年はいろいろなことがあったけど、来年もいろいろ起こりそうだなあ。

ジャン　…………じつは黙ってましたけど、ホントにとんでもないことが近々起こりそうなんですよね。

ガンツ　な、なんだよ、いきなり。

ジャン　……王様の耳はロバの耳!!　王様の耳はロバの耳!!　王様の耳はロバの耳っ!!

ガンツ　もったいぶらずに早く（笑）。

ジャン　ウソかホントかはわからないですけど、カクカクジカジカのアーダコーダで。

ガンツ　……んあ〜!!　それは超ド級のニュースだねえ。それがマット界にとって良い方向に進むのか悪い方向に進むのか見当もつかないけど、ホントだったらこりゃ大変なことになるね。脅かすわけじゃないけど（笑）。

ジャン　どうなるかわからないから、いまここで全体像を明かすことはできないですけど、『PRIDE』vsUFCがどうのこうのとか言ってる場合じゃないんですよ！　すべてがひっくり返るという。

ガンツ　噂話とはいえ、情報や状況を冷静に整理して鑑みるに、それは決してあり得ない話じゃないわな。もし現実化したら、どうなると思う？

ジャン　う〜ん。総合格闘技シーンという大きな括りで言うと、ポジティブなのか、ネガティブなのか、どちらとも判断はつかないですけど……。

ガンツ　ホント見当もつかないよね。

ジャン　しかし、たとえ現実に起こらなくても、激動の時代は続きそうな気配ですよねえ。

ガンツ　とりあえず推移を見守るしかない！　単なる怪情報で終わる可能性もあるけど。

ジャン　「ヒョードルは宇宙人」くらいの感じで（笑）。というわけで、続報は次号で!?

【06年11月14日／六本木ヒルズ内のカフェにて収録】



山口やめるな！！

（鳥取県・東田吉兵衛さん93歳＝他、同様のおハガキ2通）

ええっ!? 山口日昇が"本当に"kamipro編集長職を放棄！

山口日昇×ジャン斉藤



次期編集長はこの男に決定!?

いきなり

編集長魂（?）伝承対談

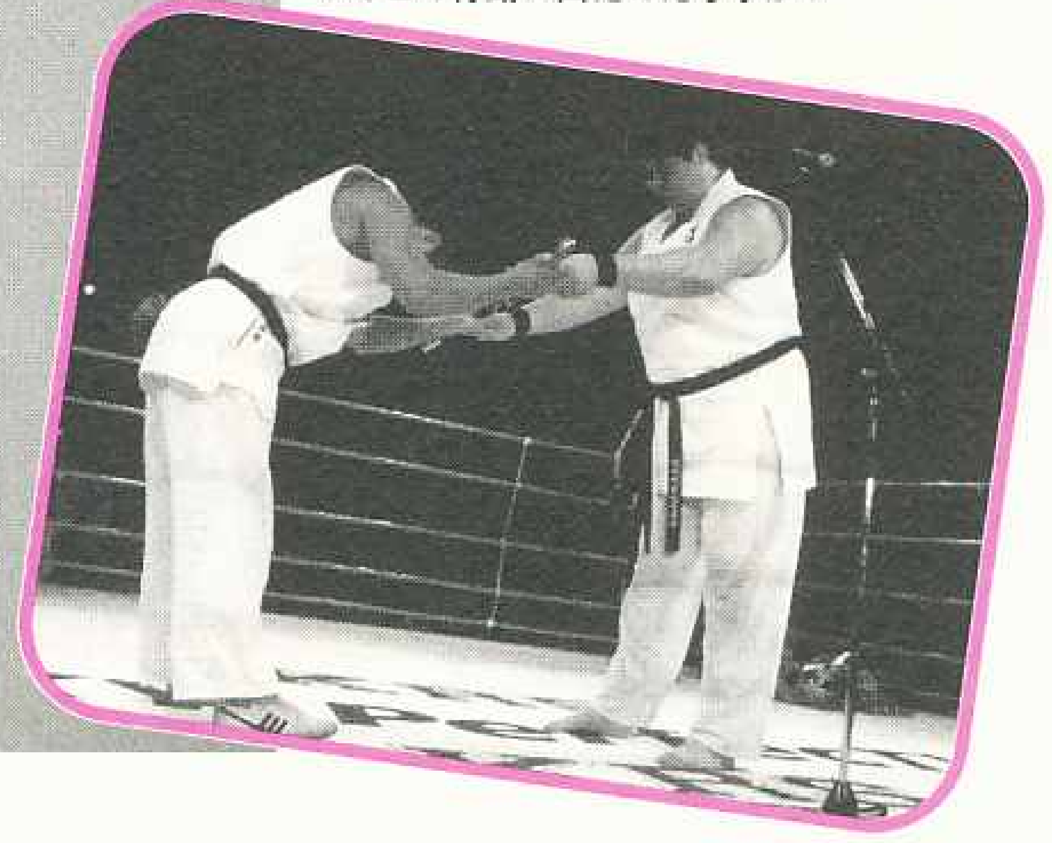
本誌"非常勤"編集長·山口日昇がなんと編集長職放棄宣言！　……と書いても「また、いつものことか」と読み飛ばそうとしている読者が大半だと思われるが、今回は本当です!! その証拠に、対談半ばで次期編集長を言い渡された本誌GENOME担当·ジャン斉藤は驚きを通り越して放心状態に。いったいこれから『kamipro』はど〜なるの?

designed by bun-chan (Two Three)

ジャン斉藤（以下、ジャン） 会長（山口日昇のアダ名）！　大変ですよ!!
山口日昇（以下、山口） だからなんだよ、いきなり。
ジャン １０３号のインタビューで会長が唐突に編集長辞任宣言をされたじゃないですか。あれから二号ぶん挟みましたが、読者からまったく反応がないんですよ!!
山口 ……冷たいよなぁ、読者は。ちょっと誌面から遠ざかると、すぐこれだから。
ジャン 〝ちょっと〟って、およそ30号近く現場からは離れてますけどね（ボソッと）。
山口 よ～くわかった、読者の冷たさが！
ジャン そんなことないですって！　そこはおおいなる誤解です。しっかりフォローすると、「またいつもの戯言、もしくは虚言か」と受けとめられたり、「え？　この人が編集長だったっけ？」って不思議がられたり、もしくは「山口日昇？　あんた誰？」ってことでスルーされただけですから。
山口 あんた誰？……俺なんか「あんた誰？」の世界でいいんだも～ん……って、コンノッヤャッロ～～!!（髙田総統調に）。おまえ、この機に乗じてストレス発散してるだろ。
ジャン いや、そんなことないです。もうかれこれ10年以上、編集長ですからね。
山口 ＲＡＤＩＣＡＬになってから丸10年、ちっちゃい版型のころから含めると、もう16年近くやってるんだよね、編集長を。
ジャン 一人の編集長でそれだけ長く続くというのは、正直、あり得ないですよね。
山口 『紙のプロレス』の場合は……いまふうに言うと『ｋａｍｉｐｒｏ』か……なんかシックリこないなぁ。誰が決めたの？
ジャン 会長ですよ！！！
山口 『紙のプロレス』に戻そうよ。
ジャン はいはい（思いきり冷たく）。
山口 いや、でも略したら『紙プロ』で、『紙プロ』も『ｋａｍｉｐｒｏ』も発音としては同じだから、いいのか（ボソッと）。
ジャン そんなことをいまさら熟考してどうするんですか!?
山口 まぁ、いいや。『紙プロ』は経営面も含んで俺が創刊から立ち上げたっていうのがあるから、ある種、特殊といえば特殊なんだけど、それにしても長いよね。もう、とっくに飽きてるもん、俺！
ジャン 飽きましたか！……って、知ってましたけど。
山口 飽きるだろ、普通。それに俺、一つのことを永続的にやっていける職人気質じゃないからね、もともと。
ジャン 会長は詐欺師気質ですよね。
山口 おまえ、事と次第によっては訴えるよ。マジメに言うと、『ｋａｍｉｐｒｏ』という雑誌を俺がつくるという状況に対して飽きたんだよね。ただ、俺はモノをつくることに対して飽きたわけじゃないから。
ジャン なんかカッコイイ言い方ですねぇ。
山口 いや、ホント。違う雑誌をつくるとなったらそれはそれでおもしろいだろうけど、もともと雑誌づくりだけにこだわってるわけじゃないから、雑誌じゃなくてもモノをつくれてればそれでいい。やりたいことややるべきことは腐るほどあるんだよ、俺。だから、聞かれる前に言っておくけど、いまさら『ｋａｍｉｐｒｏ』の読者に対してメッセージも何もないから（キッパリ）。
ジャン 読者からなんの反響がなかったからって、そんなにスネなくても……。
山口 （無視して）それと『ｋａｍｉｐｒｏ』は、某老舗団体のように、組織が〝個人商店〟にはならないように自ら改革していきたい。そういうわけで、その第一歩として、今号でボクは編集長を降ります！
ジャン 会長、それは前々号ですでに宣言してることですけど……。
山口 （さらに無視して）私、山口日昇はここにいるさいちん（ジャン斉藤のアダ名）を次号より正式に編集長に任命します！
ジャン ああ、そうですか。じゃあ、頑張ります（無表情で）。
山口 ……もう少し派手な反応しろよ!!　歴史的な瞬間なんだから。いくぞ。「やれんのかーっ!!」。
ジャン （まったく乗らずに）いやあ、驚く準備ができないぐらい唐突すぎますね。
山口 準備なんかいらないよ。物事は突然動くもんです。
ジャン またどうして自分なんですか？
山口 キミはジャン斉藤っていうくらいだから、プロの雀師だったんでしょ。ということは、状況を瞬間的に見極める目と勝負勘があるんじゃないの？　そこが、ボクの魂をキミに伝授したいと思った理由かな。
ジャン ホントかなあ。あまり嬉しくないですねぇ。『ＰＲＩＤＥ・４』で北尾光司が望月成晃に〝武輝の魂〟を伝授した以上に無意味のような……。
山口 どんなたとえだよ。
ジャン 会長から、ボクに何か望むべきものはありますでしょうか？
山口 ない！（キッパリ）。



この激動の時代の中でプロレス雑誌の編集長やるのはいい思い出になるよ（山口）

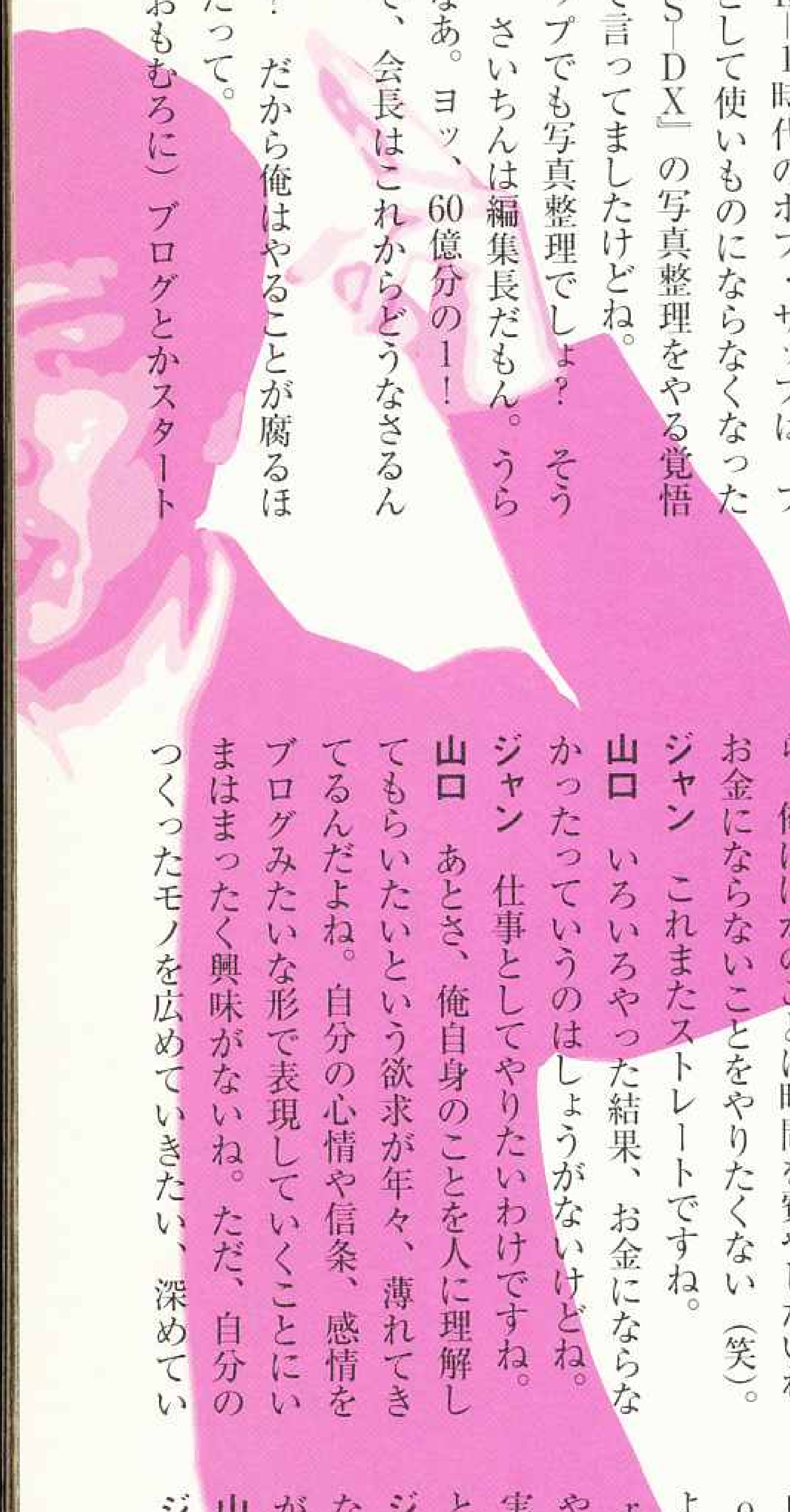


山口日昇は編集部内でしばらく放ったらかしにされていた日本刀を手に取ると、何やら仰々しくジャン斉藤に贈呈。まるで『PRIDE.4』北尾光司と望月成晃のあいだで行なわれた、真意を計りかねる“武輝の魂”伝授のシーンを再現しているかのようだが、山口は何を思ってこの行動に出たのだろうか？

ジャン　な、ないんですか⁉
山口　何もない。強いて言うならば、売れる雑誌を作ってください！
ジャン　それが一番、難しいですね。
山口　でも、売れないとおもしろくないよ。
ジャン　ただ、こういう時期に突然そんなことを言われるっていうのも、複雑な気持ちですね。おりしものプロレス不況で『週刊ファイト』が休刊して、『週プロ』編集長も代わるなど大幅なテコ入れがあって、マット界全体が非常に厳しい時代じゃないですか。
山口　ほかにも危ないって噂されてるところもあるしね。本当はさ、おもしろい雑誌もおもしろくない雑誌も、いろいろあったほうがいいんだよね。たとえば、街に映画館が5館あったとする。ところが一軒潰れ、もう一軒潰れってなっていったら、やっぱり最後の一軒も消えてしまったという状況もよくありがちなことだから。
ジャン　ヤバイですねえ……って、どんどん暗い話になってきてるじゃないですか！　さっそく、ものすご〜〜〜く不安になってきましたよ。
山口　でも、こういう状況の中で編集長になることは、いい思い出になるよ、きっと。
ジャン　〝いい思い出〟（笑）。また、他人事みたいに。
山口　だって、他人事だもん。売れる雑誌をつくってくれればあとは細かいことは言わずに任せるから。気楽にやってよ。
ジャン　……来月のいま頃は「また騙された!!」って、前田日明調で叫んでるかもしれないです。
山口　いや、マジメな話さ、これだけプロレス不況が叫ばれる激動の時代の中で、ある種特殊なプロレス雑誌の編集長を任命されるというのは、これは誰にでもできることじゃないよ。
ジャン　消極的に肯定すると、まさに〝60億分の1〟ですよね。
山口　ある種、〝60億分の1〟ですよ。だってヒョードルに『kamipro』の編集長は絶対できないもん（笑）。
ジャン　K−1時代のボブ・サップは、ファイターとして使いものにならなくなったら、『SRS−DX』の写真整理をやる覚悟があるって言ってましたけどね。
山口　サップでも写真整理でしょ？　そう考えると、さいちんは編集長だもん。うらやましいなあ。ヨッ、60億分の1！
ジャン　で、会長はこれからどうなさるんですか？
山口　俺？　だから俺はやることが腐るほどあるんだって。
ジャン　（おもむろに）ブログとかスタートするのはおもしろそうですけど。



ある種〝60億分の1〟ですよね ヒョードルにもできないだろうし（ジャン）



山口　なんなの？　あのブログって。
ジャン　要は日記ですよね。
山口　そのくらいは俺でもわかるよ！　ブログの概念はどう捉えればいいんだって話だよ。まぁでも、あれをやる時間があるなら、俺はほかのことに時間を費やしたいね。お金にならないことをやりたくない（笑）。
ジャン　これまたストレートですね。
山口　いろいろやった結果、お金にならなかったっていうのはしょうがないけどね。
ジャン　仕事としてやりたいわけですね。
山口　あとさ、俺自身のことを人に理解してもらいたいという欲求が年々、薄れてきてるんだよね。自分の心情や信条、感情をブログみたいな形で表現していくことにいまはまったく興味がないね。ただ、自分のつくったモノを広めていきたい、深めていきたいという思いは日々強くなってる。自分の心のうちを表現していくことは死ぬ間際でいいなっていうのが日々強まってるね。
ジャン　なんか、いい大人ですね。
山口　だろ（笑）。でも、俺のほうがタチは悪いんだけどね。だってモノをつくるには人を動かさなきゃいけないし、お金も動かさないといけないからさ。人に多大なる迷惑をかけながら自分のつくりたいものをつくっていく。『kamipro』を立ち上げた頃と同じく、人様に迷惑をかけまくることを、また別のことでやろうとしてる。じつにタチが悪い（笑）。
ジャン　でも、人を動かすというのはそういうことですよね。
山口　編集長という立場も同じだよ。
ジャン　なるほど。とりあえず、あと何か指導はありますか？
山口　シドウといえば、中村だね。ダーッハッハッハッハ。くだらねぇな、どうも。
ジャン　じゃあ遺言は？
山口　俺は死ぬのか！　まあね、編集長になったんだから、海外に愛人同伴で取材しに行くくらいのスケール感を身につけたほうがいいね、そろそろ（笑）。
ジャン　それは誰への当てつけですか！
山口　あとさ、俺は決して『kamipro』に愛情がなくなったわけじゃないんだよ。俺がこれからやることが『kamipro』だって思ってるからさ。俺が何かをやれば、それが『kamipro』だから、実際の『kamipro』をつくるということにこだわる必要がないんだよ。
ジャン　またじつにインチキくさく哲学的なことを言いますね！　じゃあ、ボクたちがやることは何になるんですかね？
山口　『kamipro』でしょ。
ジャン　じゃあ『kamipro』っていっ

たいなんなんでしょうね？ というより、『kamipro』の良さってどこにあるんですかね。
山口 答えはあるんだろうけど、それは自分で言うことじゃないなって思っちゃうね。「おもしろい」ということを自己申告しているうちは成長がないから。
ジャン 自分でつくったものを「おもしろいな」って言ってるうちは成長がないと。
山口 そういう時期や感情はあってもいいんだけどね。でも自己申告に溺れちゃうとおもしろいものはつくれないよね。結局、他者が「おもしろい！」と言ってくれないことには何も始まらないからさ。だから、他者におもしろいと言われる雑誌をつくれ！……って、じつにおもしろくない、至極当たり前の話だな、これ（笑）。
ジャン 原点に戻りましたね（笑）。
山口 ただ、雑誌としては当たり前のことをなかなかできないのが専門誌だから。だって、専門誌は業界の掟に阻まれることも多々あるわけでしょ。でも、その〝おもしろい〟ということをプライオリティに置いてやってきたのが『kamipro』だから、そこは崩しちゃいけないよね。業界的なことよりも雑誌としておもしろいことにプライオリティを置いたほうがいい。前にさいちんが〝土足感〟という言葉を使っていたけど、土足で世間に入っていく感覚は大事にしたほうがいいと思う。
ジャン そこをひょうひょうとやっていきたいとは思いますね。「ほらほら、ボクって土足で踏みにじってます！」って自己申告するんじゃなくて。
山口 ただ、いまのマット界に土足で入っていっても渦は起こらないよ。「世間」に土足で入っていかなきゃ。
ジャン ああ、なるほど。

“土足”で踏み入っていく感覚はこれからも『kamipro』は大事にしたほうがいい（山口）

山口 これまでの業界や『kamipro』の中では、俺が土足で歩いてることが当たり前になっちゃったりして、『kamipro』のほかの連中まで土足を履くことが当たり前の風景になってるけど、その状況は俺はあまりいいことだとは思えないね。
ジャン いまのマット界全体も土足だらけだったりするじゃないですか。足跡が多すぎて、土足が目立たなくなってるという。
山口 土足で入ることを浮き立たせるためには、ちゃんとした玄関を作ることが肝心だよね。いまのマット界って玄関がないんだよ。俺は弱体化したプロレスというジャンルに、誰でも尋ねてこれる玄関を設けたいなって思うね。
ジャン ちゃんと靴を脱ぐ場所を用意したいと。それが『ハッスル』だと？
山口 イニシエーションを受けたヤツしか入れない特殊な玄関じゃなくてね。誰でも土足を脱げば上がれる。で、土足を脱いで上がってくる人に対しては、真剣に向き合える世界をつくりたいなって思う。ま、いずれ土足で入ってくるヤツもどんどん出てくるんだろうから、そうなったらそうなったでおもしろいでしょう。
ジャン 土足の人間も目立ちますし、土足じゃない人間も逆に目立ちますもんね。『kamipro』も会長みたいな人が靴を脱げるような玄関を作りますよ！（笑）。
山口 ありがとう！（笑）。で、どうすんの？『kamipro』は。何か変えるの？
ジャン 一年前から誌面ではもう使ってないんですけど、携帯サイトのほうでもターザン山本！さんは終わりにしたいですねえ。



その“土足感”的なことは自分もひょうひょうとやっていきたい（ジャン）

山口 なんでこの期に及んでターザンなんだよ！ もっとダイナミックな話をしろよ。
ジャン よくわかりません！
山口 なんだ、それ（笑）。
ジャン やっぱり、変わろうと思っても簡単に変われるものじゃないし、変わらないと思っていても変わってしまいますから。それに、ずっと変わらないものってないじゃないですか？
山口 まぁ、変化していかないものっておもしろくないからね。少なくとも俺は変化しないものに興味はない。
ジャン だから、『kamipro』も変わったよね」なんて「昔はよかったね」的な意味で言われると、「そもそも変わらないものなんかねえんだよ、ボケ！」って心の中で単純に思ったりしますけど。
山口 でもさ、ヒトって変わらないものが好きだからね。変わらないことを売りにしたほうがじつは安全だったりするんだよね。
ジャン 安心感がありますからね。ボクも変わったものに対しては不安感があります。
山口 まぁ、でも『kamipro』もやっぱりいままでとは違うアプローチを見せてほしいよね。たとえば、たまには街頭で紙芝居やるとか。
ジャン また凄い角度からきましたね（笑）。
山口 極端にいうと、ずっと『kamipro』をつくるとか、そういうことにもとらわれなくていいと思うんだよね。ま、なんでもいいから、次号からおもしろい雑誌をつくってください。
ジャン 本当ですか？ じゃあ、ボクは麻雀雑誌をつくりま～す！
山口 つくれ、つくれ！ 自分の金で（笑）。

【06年11月8日／都内・土足厳禁の山口日昇執務室にて収録】



大成功の裏にはさまざまな問題点やドラマがあった……

10.21 PRIDE ラスベガス大会

最深部徹底検証

初上陸で大成功！　まさに「メイク・ヒストリー！」（髙田本部長調）な一夜となった10・21PRIDEラスベガス大会。スケール、クオリティともに「日本と同じ！」と好評価を受けたイベントを生み出すまで、そこには様々な障害や苦労ドラマがあった。今回は、ラスベガス大会の最深部に迫ります！

ジョシュ撮影／山口比佐夫　風景撮影／乾晋也　designed by nogu (Two three)

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンがクールなUSAニュースをお届け!!

USA Cool 宅急便

Vol.8

PRIDE初の米国進出興行となったラスベガス大会。王者・ヒョードルが強さを見せつけた一方で、コールマンが浪花節を爆発。イベント自体は大盛況のうちに幕を閉じたが、はたしてこの大会は今後のアメリカ格闘技業界に、どのような影響をもたらしたのだろうか?

聞き手/デューク東郷　助手/上杉お引っ越し

PRIDEラスベガス大会ははたして成功だったのか? そして、それが引き起こした新たな脅威とは……!?



PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居を構え、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「試合では負けたけど、喧嘩では負けていません!」。

——スコット、今日は『PRIDE』ラスベガス大会の印象を聞かせてよ。

スコット　べつにいいけどさ、デュークは観たの?

——それが観てない。

スコット　胸を張って即答するな(笑)。

——だって、日本のPPV放送は日曜日の朝10時からだったでしょ? 起きたら終わってた。

スコット　担当失格な君のために説明すると、大会は成功だったよ。なにしろあのデカいトーマス&マックセンターを1万2000人の観衆で埋めたんだからね。『PRIDE』は8000枚以上のチケットを売って、それはUFC64よりも若干少なかったけど、UFCはそれまで築いていたものがあったわけだし、毎週スパイクTVで宣伝している。そんなバックアップがないのにもかかわらず、『PRIDE』は快挙を成し遂げたと言っていい。

——ふ〜ん。それだけチケットが売れたのは、記念すべき第一回大会だったからってこともあるんじゃない?

スコット　たしかにファースト・プレミアムという側面もあるね。今回は、アメリカのファンにとって(エメリヤーエンコ・)ヒョードルや(マウリシオ・)ショーグンの試合を初めて観るチャンスだったから。

——じゃあ、次回からは厳しいかもしれないのかなあ。WJの旗揚げ直後シリーズの入りもまったくだったしさ。……いや、WJは妥当な結果かな。スコットはどう思う?

スコット　何を言ってるのかサッパリわからないけど!『PRIDE』に関してはそうは思わない。というのは、会場にいたアメリカのファンは、『PRIDE』独特の演出に目を眩ませていたから。正直言って、オープニングのセレモニーは本当にたまげた!!

——たしかにプリンセス・テンコーは、ラスベガスにピッタリでしょ!

スコット　それは『PRIDE・4』のオープニングだろ! 観てないからって勝手なこと言うな。ハッキリ言って、『PRIDE』の演出には、UFCのライブショーがかすんで見えたと思う。試合のカード自体はそんなにエキサイティングなものではなかったけど、このショーの素晴らしさはファンの口コミやネットで伝わっていくだろうから、次回大会も『PRIDE』はもっとチケットを売ると思うよ。

——よく知らないんだけどさ、UFCの演出ってそんな凄くないの?

スコット　まったく。たとえばUFCは、プロレスチックな雰囲気を排除するために、ステージを取り払った過去があるんだけど、当時のUFCのステージよりも今回の『PRIDE』のほうがはるかに大きかったし、豪華だった。アメリカのファンはこんな演出に慣れてないから感動していたんだよ! ヒョードルの入場のときなんて、宙から雪が降ってくる幻想的な演出でさあ……(うっとり)。

——はいはい。ステージを抜けると、そこは雪国だったわけね。しかしさ、ああいった花道はもともとWCWから新日本プロレスに輸入されて日本に定着したわけじゃん。今後はアメリカに逆輸入されて、『PRIDE』に追随するかたちになるのかな?

スコット　それはないと思うよ。というのは、ほとんどのオーガニゼーションはそこまでの体力がない。まだまだ小さなプロモーションばかりだからね。UFCについていえば、来場していたオーナーのファティータ兄弟はよい部分は吸収していく考えを持っている。とくにラスベガスはそういう派手なものを求めて、人々が集まってくる場所だから。ただ、ダナ(・ホワイトUFC代表)はプライドが高くて、『PRIDE』の評判がいいからといって、マネするようなことはしないからね。

——ぜひUFCでも導入してもらって、ダナには「俺たちのオリジナルだ!」って吠えてほしいところだけど。ほら、千葉ロッテ応援団のタオル応援を●●が丸パクリしたくせに、オリジナルだって主張したときみたいにさ。

スコット　(無視して)もしかしたら、うまい具合にアメリカ流にアレンジしてくるかもしれないけどね。ファンもリング内ではスポーツを求めるけど、イベント全体についてはエンターテインメント色の強いものがいいと、当然、思っているよ。

――報道によると、今回のその演出には、相当のコストがかかっているそうだけど、それを支えることになる肝心のPPVの売り上げはどうなの？

スコット　PPVの結果が出るのはもうちょい時間がかかる。まだ関係者のあいだでも話題になってないから、とくに驚異的な購入件数にはなってないと思うけど。あくまで個人的な予測だけど、通常の『PRIDE』の米国PPV購入件数であると言われている6～7万人件強ぐらいに収まるじゃないかな。伸びたとしても10万件に届くか届かないかってところじゃないかな。

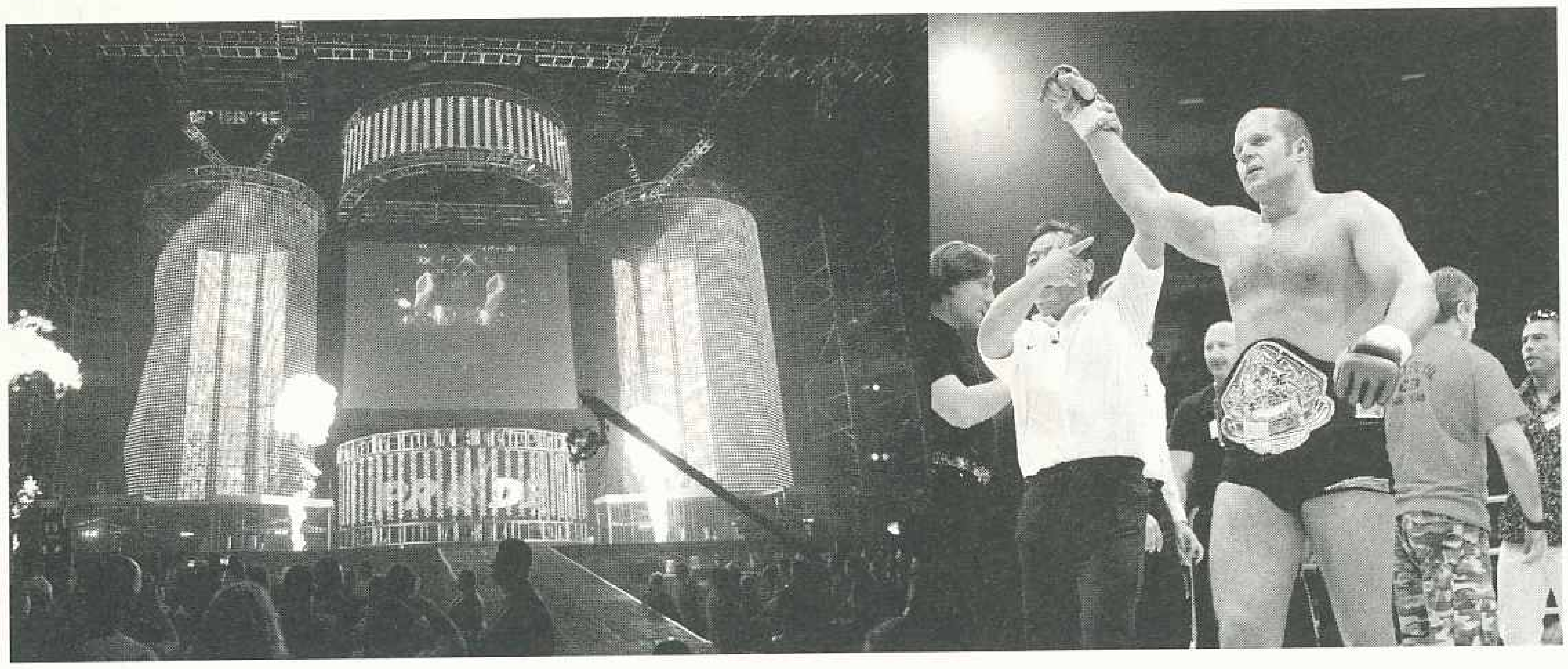
――せめて亀田興毅の6万件は超えてほしいなあ。

スコット　だからそれはPPV件数じゃないって！『PRIDE』サイドがUFCと比較して、PPVの数字を期待しているのはわかる。でも、それには条件があまりにも違いすぎるから。UFCはこのマーケットで長いあいだ活動していて、一方の『PRIDE』は日本の市場しか見てなかったわけだからね。何年にもわたる差があるんだ。だからいま、二つの団体を同じ土俵で比べるのは酷だね。UFCだって5万件ぐらいのPPV件数で長い期間を耐えてきたんだから、もし『PRIDE』のPPVが10万件を超えていたら、それは大成功だよ。

――『PRIDE』からすると、初期投資の段階という感じなんだね。

スコット　でも、今回のゲート収入は200万ドル以上で、これまでのラスベガスのイベントで歴代6位。観客数では同時期に行なわれたUFC64より800人ほど下回っていたものの、総売り上げでは上回っていた。どれくらい経費がかかっているかはわからないけど、上出来だと思うよ。





コールマンに圧勝し、その強さを“圧倒的な現実”としてアメリカ国民に見せつけ全米デビューを飾ったヒョードル。また30億円が投入されたとまで一部で報道された演出はファンを魅了した。

演出が素晴らしくて、UFCのライブショーがかすんで見えた

――今大会の成功はアメリカのMMA界にどのような影響を与えるのかな？

スコット　頭部へのエルボーが禁止されていることで流血しにくい点や、オクタゴンではなくてリングが設置されたことで、MMAがよりスポーツらしく観戦できることを証明できたことは大きかったんじゃないかな。この健全なイメージはアメリカのMMAに大きな影響を与えると思うね。それから、営業面での成功といえば、大きな収益の柱の一つでもある物販は凄かったよ。ほとんど何も残ってなかったんだから！

――噂によると、さいたまアリーナ興行時の10倍は売れたと言われてるね。

スコット　パンフもTシャツも全部売り切れ！　ただ一人の選手を残しては。

――その一人って？

スコット　それはジョシュ・バーネット！

――ウソ!?　ひでぶっ！

スコット　ボクが見た限り、唯一売れ残ってた。もしかしたら、ただ在庫が多かっただけかもしれないけどね。

――なんでだろ？　あと（マーク・）コールマンへの声援が少なかったこととか、スコットが常々口にしている「アメリカ人はアメリカのことにしか興味がない」的なMMAファン像からすると、ちょっと違った印象を受けたって声が多いけど。

スコット　そ、そうだねえ……（汗）。だからね、それだけ『PRIDE』のブランドが素晴らしいってことじゃないの？

――ふ～ん。スコットはあてにならないからなあ。

スコット　アンタにだけは言われたくない（笑）。そうなった理由として考えられるのは、アメリカは人種のるつぼだろ。でもって、さらにラスベガスは国際的なギャンブルタウン。だから観客は思ったより、PRIDE側が提示していた〝アメリカvs世界〟という構図には乗ってこなかったんじゃないかな。むしろ世界一のファイターを観たいっていうのが、観客のニーズだったね。つまり『PRIDE』というブランドがアメリカでもビジネスにつながったということだと思う。それと二番目の理由をして挙げられるのは、観客の格闘技に対する教養度が高かったということだね。

――そういえば、グラウンドでのゲームに対してブーイングが飛ばなかったんでしょ？

スコット　要するに、〝わかっている人〟が多かったってことだよね。

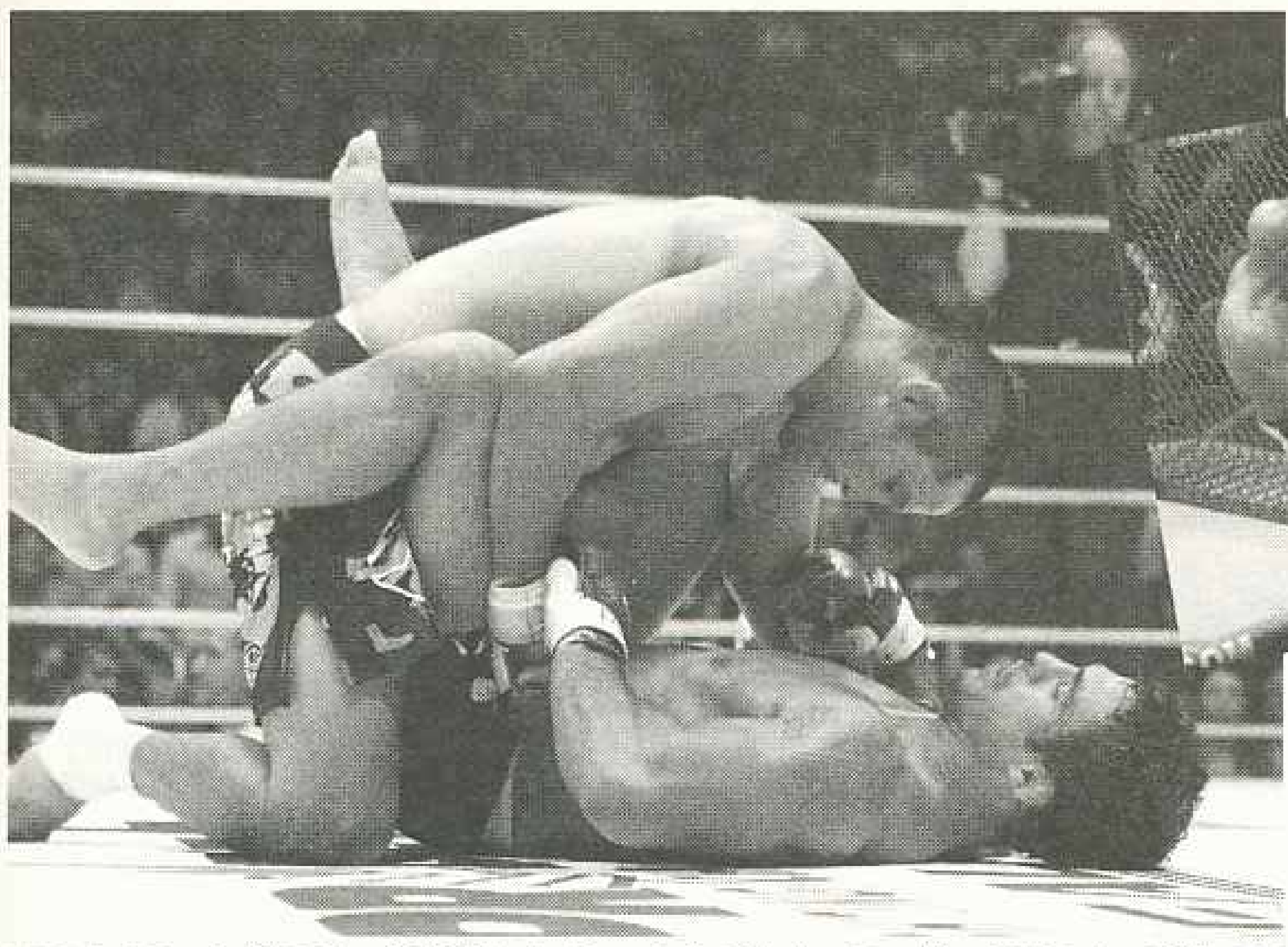
――それにしたって、菊田（早苗）vs瀧本（誠）戦はあんまりだったでしょ。レベルが高いのはわからんでもないけど。

スコット　それは去年の大晦日だろ。

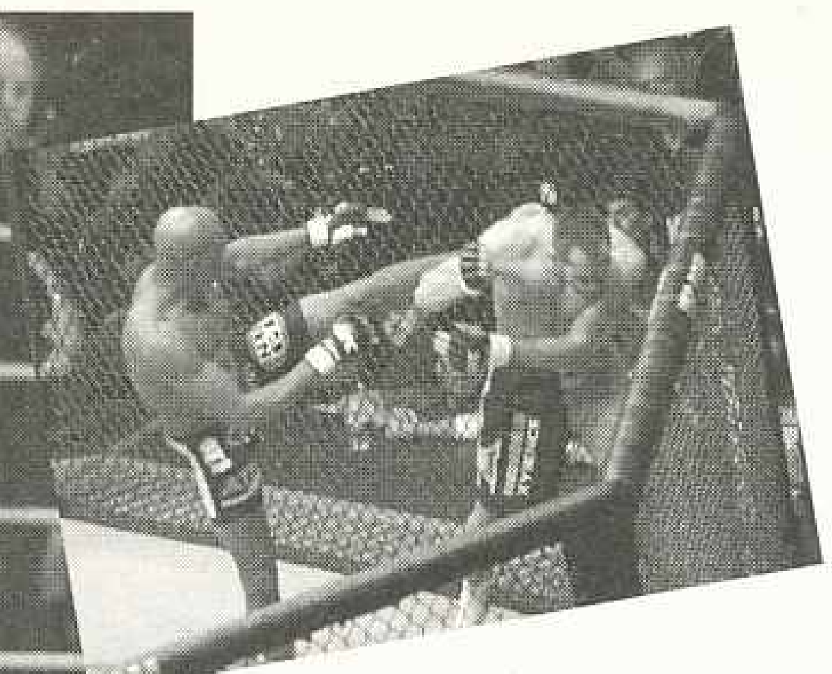
――古すぎた！　菊田（早苗）vs（ジョン・フランソワ・）レノグの間違いだ。

スコット　いま話してるのは、ラスベガス大会だよ！　グラウンドで見ごたえのある攻防を繰り広げた（ダン・）ヘンダーソンvsビクトー（・ベウフォート）の試合をUFCでやってたら、ブーイングの嵐になっていただろうからね。UFCとは別の、格闘技の価値観が誕生したと言ってもいい。ただ、一つ懸念されるのは、質の高いファンが多いことはいいことなんだけど、それは逆に新しいファンが少ないということでもあるんだ。UFCが拡大してるのは、圧倒的に多い新しいファンを取り込んでいるから。『PRIDE』もハードコアなファンだけじゃなくて、新しいファンを取り込む努力をしないとね。

――そうしないとPPVの件数も上がらないだろうし。



UFCとのファン層の違いを証明したダンヘンとビクトーの一戦。素晴らしい寝技での攻防に会場からは、ブーイングではなく感嘆の溜め息がもれた。



一方、元『TUF』人気コーチ・フランクリンが出場したUFCでは、新星アンデウソンが見事な王座交代劇を成し遂げ、会場を沸かした。

スコット　うん。コンスタントに大会を開いて、評判を得てブランド力を上げていくことが大事なんだけれども、それに加えて、もっとアメリカのウェブ媒体を有効に活用しないとね。『TUF』を経て、UFCを観るようになった新しいファンが次に情報を取りに来るのはインターネットだろ。だからDSEも英語版のホームページを改善していく努力も必要だけど、ウェブ媒体にも効果的に露出するようにしないとね。

――要するに、『MMA WEEKLY』をもっと大事に扱えと？（笑）。

スコット　いや、そういうことでもないんだけどさ（笑）。

PRIDEvsUFC 10月興行戦争の結果は?

	PRIDE（10月21日）	UFC（10月14日）
興行収入	約206万ドル （ネバダ州MMA興行成績歴代6位）	約179万ドル （同8位）
有料入場者数	8079人（主催者発表 1万1727人）	8913人（同 1万863人）

※ネバダ州アスレチックコミッション発表

――では、ウェブ媒体上での大会の評判はどうなのよ？

スコット　どのサイトも高く評価していたよ。素晴らしい演出でデビューを飾ったという論調でね。

――UFC64と『PRIDE』ラスベガス大会の日程が近かったけど、『MMA WEEKLY』上でのファンからの反響はどっちが大きかったの？

スコット　ボクのサイトだと同じくらいだね。というのは、UFCは二つタイトル戦があったし、『TUF』で人気を得たリッチ・フランクリンとアンデウソン・シウバというみんなが観たいカードを組んでいた。一方、『PRIDE』はトップファイターを並べてはいたけど、カード自体は弱かったので、試合結果に対する興味は薄かった。だから記事へのアクセスに関しては拮抗していたね。もし、UFCに（チャック・）リデルの試合があったら、UFCが大きな差をつけていたんだろうけど。

――前からささやかれてることだけど、そのUFCが『PRIDE』の選手の引き抜きを企んでいることはある？

スコット　その可能性があるかもね。平均40万件を超えるUFCのPPV売り上げからみても、キャッシュは余るほどあるからさ。

――たとえばだけど、一人の選手にワンマッチで1億円を支払うことは可能なの？

スコット　実際、UFCはもうすでにそういった金額を払っているんだ。ギャランティ以外にもPPVの売り上げや広告収入の一部を支払うという方法でね。ティト

PRIDEはコア層の支持を得たけど 米国で成長するには新しいファンの開拓が必要

（・オーティズ）やリデルといった選手には一試合で100万ドル以上の金額を支払っているらしい。

――うわ～!!　アメリカで知名度のない選手でも、そういった待遇で迎え入れる可能性もあるのかな？

スコット　そうだね。とくに今回、『PRIDE』が大会を開いて、初めてアメリカに来た選手でも強ければ歓迎されることが証明されたからね。常にタレントのほしいUFCは、資金力を武器に一気に引き抜き攻勢に出てくるかもね。そして何より、UFCはほとんどジョークみたいなヘビー級戦線を緊急に立て直す必要があるから。

――その発言自体がジョークだよ！（笑）。

スコット　ホントだって！　ヘビー級をシリアスなものにするには、『PRIDE』の選手が絶対に必要だし、もしくは世界を回って地道に選手をスカウトするかの二つしか方法はないんだからね。現実的なのは、『PRIDE』の選手を使うことだろうね。

――いまネット上のあちこちでラスベガス大会のギャランティが公表されているけど、『MMA WEEKLY』に出ている金額は、ヒョードルが約1200万円となっていて、ずいぶんと安く感じるけど、これは正しい金額なの？

スコット　もちろんだよ。これはネバダ州アスレチック・コミッションが発表した数字だからね。ただ、これが選手へのギャランティのすべてかといえば、そうでもない。というのも、UFCがコミッションに報告しているファイトマネー以外に、各種のボーナスやPPVの売り上げの一部を選手に支払っているように、『PRIDE』だって、ファイトマネー以外に公にはなっていないギャランティがあると思うんだ。

――あと、パウエル・ナッツラがステロイド・テストに引っかかっているとも報道されているね。

スコット　今回のラスベガス大会で、アスレチック・コミッションは10人のファイターをテストしている。でもこの数字は、これまでと比べて圧倒的に多いんだ。その直前に開かれたUFC64では、テストが義務づけられているタイトル戦が二試合あったにもかかわらず、合計で7人。これはちょっと奇妙だったね。

――なんで？

スコット　わからない（笑）。7人でもいつもより多いけど、10人は異常も異常。

――しばらくナッツラは試合に出場できなくなるの？

スコット　いや、まだわからないんだ。それはまず公聴会に出てからだね。最近のUFCでも、ステロイド検査で陽性反応があったステファン・ボナーは8月の試合でテストに引っかかったのに、結果が出たのは11月に入ってからだった。最終的には、9ヵ月間の出場停止処分と5000ドルの罰金という処分となっている。9ヵ月とはいえ、8月の試合日から計算するから、実質的には6ヵ月間の停止処分だね。

――そんなに厳しい処分じゃないんだ。ところで話は変わるけど、オンライン・カジ

ヘビー級戦線を立て直したいUFCは人気が証明されたPRIDEの選手を狙ってくる

ノがメインスポンサーになっている、MFC・ボードッグ連合についてアメリカ内の評価はどうなの？

スコット MFCは、まだまだ小さなプロモーションといったところさ。ボードックについても、資金力に任せてリアリティショー『ボードッグ・ファイト』を始めたけど、その番組が試聴できる世帯は全米でわずか1～2パーセントしかない。そして、11月から12月に延期になったMFCの大会は、またしても延期となりそうなんだ。

——えっ!? たしかホジャー・グレイシーのデビュー戦が予定されている、バンクーバーでの大会だよね、それ。

スコット そう。まだ正式にはアナウンスされてないから、今後どうなるかわからないけどね。延期の理由もよくわからないけど、利益を出す見込みが立たなかったんじゃないかな。そもそも公式サイトでもずーっとメインカードとPPVのスケジュール以外、開催地すら発表されてなかったし。

——彼らはホジャーに続いて、ヒョードルの獲得も狙っていたらしくて、『PRIDE』との契約の穴をついて、ヒョードルがMFCに出場するという噂もあるんだけど。

スコット （怪訝そうな顔をして）試合に？　ヒョードルが出場するとは思えないけど、何が起こるかわからないのが、この業界だからなあ。

——ボードッグの豊富な資金力があるだけに、UFCと『PRIDE』のバランスを崩すのではないかといった見方はできない？

スコット 結論から先に言うと、それはないね。というより、ボードッグは資金を引き揚げていくんじゃないかな。番組を制作してみたけど、買い手もつかない状況で、どこにも放送されていない。儲かると思って参入したはずなのにね。たしかに、ボードッグ社長のカルビン・エアーは大金持ちだけど、お金をドブに捨てるようなことはしない男。だから選手争奪戦に関しても、ホイホイとヒョードルに大金を提示して引き抜きをかけてくるとは思えない。同じく新興勢力のWFAの出資者たちも身をもって経験したことだけど、この業界は参入しやすい代わりに、成功して儲けるのは簡単じゃないんだ。

——それは日本のどこかの団体も経験していることだね。

スコット それにボードッグは、ブッシュ大統領がオンライン・カジノを規制する法律に署名したことでさらなる締めつけをくらっている。資金的には苦しくなるだろう。

——しばらくはUFCの独走は続くってわけかあ。

スコット UFCとはまた違った魅力を『PRIDE』がアメリカのMMAに落とし込んだわけだけど、これがどのような影響を与えるのか見ものですよ！



スコットに「ほとんどジョーク」とまで揶揄されたUFCヘビー級戦線。皇帝弟・アレキサンダーが参戦交渉中とのウワサも……。



USA Cool宅急便 NEWS

ダナとリデルのボクシングマッチが消滅!?

残念!　前号で報じた、ダナ・ホワイトとティト・オーティズのボクシング・マッチがキャンセルに。ティトがUFCに復帰した際に、両者のボクシング・マッチの実現が契約書の内容に盛り込まれていた、という信じ難い話から派生したこの一戦。ダナ、ティト両者の話から10月中の実現が有力視されていたが、どうやら無期限延期となったようだ。米『ボストン・ヘラルド』紙にダナが語った内容によると、3Rのエキシビション・マッチが予定されていたが、ネバダ州アスレチック・コミッションが両者の体重と経験を考慮して却下したとのこと。しかし、『MMA WEEKLY』がアスレチック・コミッションに確認したところ、UFCサイドは、この試合の申請をしていなかったことが判明。今後、UFC側からどういった説明がなされるのか興味が持たれる。

日本時間で大晦日!　UFCも年末興行戦争に参加!!

大晦日興行戦争になんとUFCまでもが参戦!　UFCはかねてより期待が高まっていたチャック・リデルvsティト・オーティズの対戦を12月30日（日本時間の12月31日!）に行なうことを正式に発表した。リデルとティトは04年のUFC42以来の再戦。二人のトップファイターの対決で、UFC史上最大のPPV購入件数が予測されている。

UFC66『リデルvsオーティズ2』
日時=12月30日（土・現地時間）
会場=米国ネバダ州ラスベガス/MGMグランドガーデン

対戦カード
【ライトヘビー級】
チャック・リデル vs ティト・オーティズ
【ヘビー級】
アンドレイ・アルロフスキー vs マーシオ・“ペジパーノ”・クルーズ
【ライトヘビー級】
フォレスト・グリフィン vs キース・ジャーディン

ヒーリングの相手はペドロ・ヒーゾに!!

テーマはアメリカvsブラジル! リニューアル第二戦を12月に控えたWFAのカード編成が明らかになった。今大会がWFA初参戦となるヒーリングの相手は、日本でもお馴染みのペドロ・ヒーゾに決定。ほかにも、アレックス・スティーブリングvsLYOTO、ユライジャ・フェイバーvsファビオ・メロ など、アメリカ人対ブラジル人の注目カードがラインアップ。なお、前大会でメインを務めたクイントン=“ランペイジ”=ジャクソンは、契約上の問題でPRIDEラスベガス大会を欠場したマービン・イーストマンと対戦する。

WFA2『アメリカvsブラジル』
日時=12月9日（日・現地時間）
会場=米国ネバダ州ラスベガス/アラジン・ホテル

対戦カード
（アメリカvsブラジル）
ヒース・ヒーリング vs ペドロ・ヒーゾ
ユライジャ・フェイバー vs ファビオ・メロ
ロブ・マックロー vs ファビアノ・イハ
アレックス・スティーブリング vs LYOTO
カーロス・コンディット vs ペレ
（スーパーファイト）
クイントン・“ランペイジ”・ジャクソン vs マービン・イーストマン

マーク・ケアー、復帰戦を白星で飾れず……。

やっぱりダメ……? 11月2日、オレゴン州ポートランドで開かれたIFL『世界チーム対抗戦準決勝』大会にマーク・ケアーが出場した。04年2月の山本宜久戦以来の復帰戦であり、かつアメリカでは9年ぶりの試合となったケアー。レスリングの猛者で『TUF』卒業生、マイク・ホワイトヘッドとのテイクダウンの奪い合いには互角に渡り合ったものの、パンチの連打を浴びてダウン。そのままパウンドを落とされて1ラウンド2分40秒でレフェリーストップ負けを喫した。なお、同大会には、アラン・ゴエスやダニエル・グレイシーなども出場。7632人のファンを集め、成功を収めた。

ケンシャムがIFLのコーチに就任!!

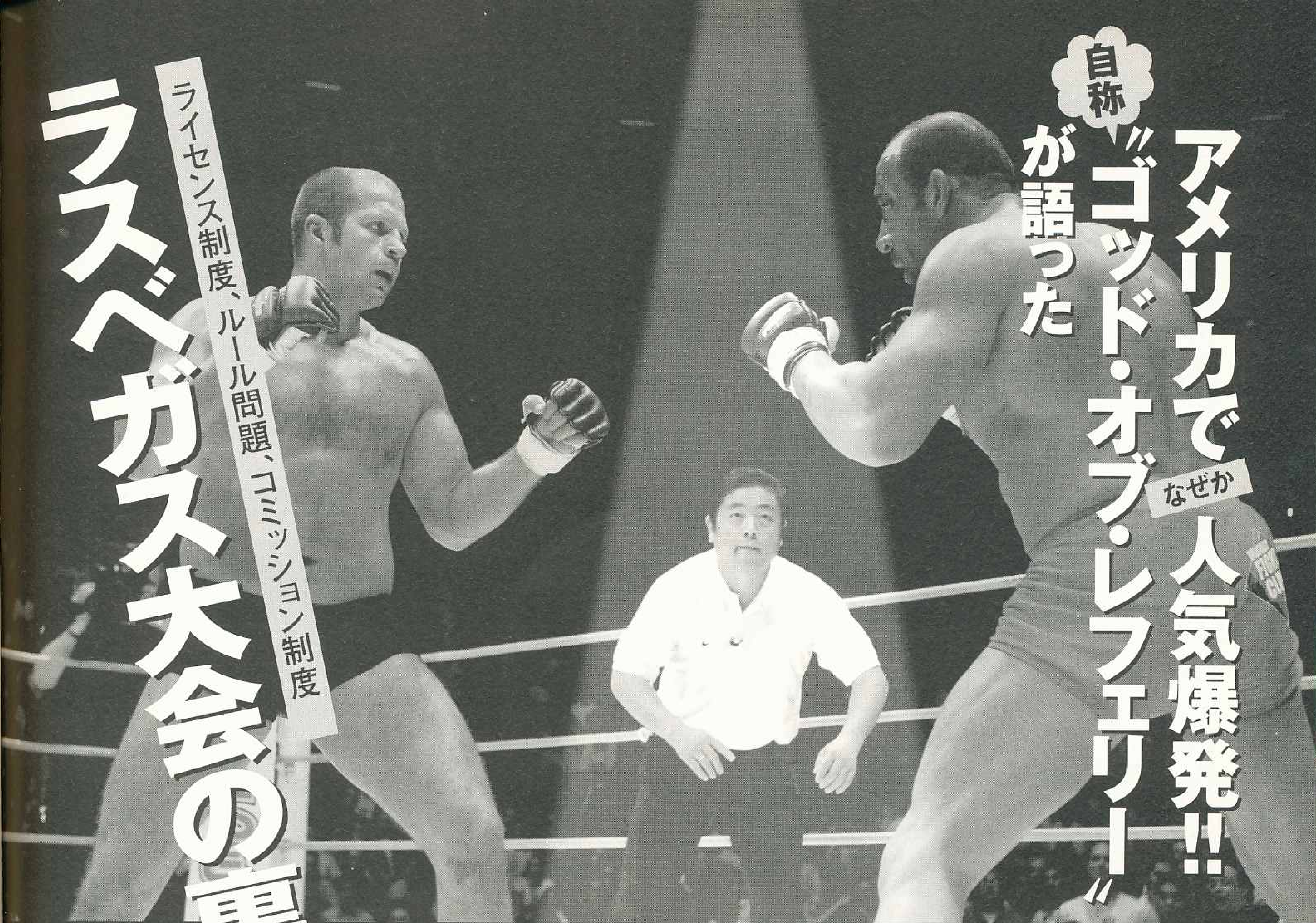
10月にティト・オーティズに敗れ、UFCで引退を表明していたケン・シャムロックがIFLのコーチに就任! 『TUF』シーズン3でコーチを務め、UFCの殿堂入りをしていたシャムロックだが、かねてからのウワサどおり、IFLに転出したことになる。今後はノーザン・カリフォルニア・ライオンズのコーチとして07年からのリーグ戦参加を果たす予定。なお、シャムロックは自身の現役復帰については、現在、試合をする意思はないとしている。

ルイジアナ州でMMAは合法!

MMAを禁止する法案が提出されていたルイジアナ州で、州裁判所はMMAは合法であるとの判断を下した。判決の中で、ドン・ジョンソン裁判官は州内で人気の高まっているMMAについて、ルイジアナ・ボクシング&レスリング・コミッションの承認を得ている限り、合法と判断。非合法化を訴えるグループの意見を退けた。ルイジアナ州では、同コミッションの認可を受けていない格闘技興行を禁じており、違反した者には1年以内の禁固刑または500ドル以下の罰金が科せられる。

ESPNがUFCのCMを拒否!!

米スポーツ専門ケーブルテレビ局のESPNは、UFC関連のテレビCMを拒否する姿勢を打ち出した。しかし、これはあくまで、ESPNや全国ネットワークABCを傘下に収めるディズニー社の「他局で放映するスポーツ番組の宣伝はしない」とする企業ポリシーによるもの。今後は、UFCに限らず他の放送局でオンエアされるスポーツ番組は、ディズニー系列局でのテレビCMの出稿ができなくなる。UFCへの影響は……？



アメリカでなぜか人気爆発!! 自称〝ゴッド・オブ・レフェリー〟が語った

ライセンス制度、ルール問題、コミッション制度

ラスベガス大会の裏側



「ミスター・ユウジ～・シマダァ～!」(耳をつんざく大歓声!)となぜか10.21 PRIDEラスベガス大会で一躍人気者となった島田裕二氏がルールディレクターとして、"ネバダ州アスレチック・コミッション公認レフェリー"として東奔西走した日々、大会裏側をいまこそ激白!

聞き手/真下義之、坂井ノブ　試合撮影/乾晋也



"真にジャスティスな人間"は俺ですよ!!

島田裕二

ネバダ州アスレチックコミッション公認レフェリー

——今日はアメリカでなぜか大歓声を受けたカリスマレフェリーに10・21PRIDEラスベガス大会の裏話をうかがいにきました!

島田　まぁ、あの大会を観た人はよくわかったと思うけど、俺様はアメリカではフェドー(ヒョードル)と並ぶ〝まだ見ぬ大物〟だから。観客も「あいつがやっと来てくれた!ジャスト・ナウ!」って感じだっただろ?

——ヒョードルと並ぶかどうかはともかく、日本での〝ブーイング男〟ぶりからは考えられない大歓声でしたよね(笑)。

島田　喜びはないけど、あたりまえかな、と(笑)。でも……その前にアスレチック・コミッションがブーイング受けちゃったからヒヤヒヤしたよ。

——ネバダ州のお偉いさんが気を損ねないかどうか(笑)。

島田　俺はこうなるんじゃないかと思ってたから「(ルール紹介を)やめませんか?」って言ったんだけど、俺らの意見を聞いてくれるような制作チームじゃないんでね(笑)。制作チームもいつもどおりの『PRIDE』を見せるって、燃えてたからね。

——アメリカのファンが4点ポイントのヒザ蹴りや踏みつけの禁止に意義を唱えた格好でしたけど、こういう制約に、島田さんはどういう立場で関わられたんでしょうか?

島田　たとえば、もともとアメリカでは総合格闘技は金鋼でやるもので、リングは認められてなかったんだよ。だから今回が5本ロープのリングでやる初の総合格闘技だったんだけど、これを認めさせるために「なぜリングでやるのか」ということをネバダに行って説明したりね。

——リングの使用許可を取ることだけでも大変だったわけですか。

島田　アスレチック・コミッションは日本のお役所みたいなもんだからね。いままで金網で事故がなかったから金網でやってくれ。も

俺のライセンスはK―1のときに取得済 今回はリニューアルに行った感じ

しリングを認めて事故が起きたら、認めた側の責任になるから「なるべく変えたくない」って感じなんだよ。

——「前例がない」ってやつですね。

島田 だから俺様が直々にリングの素晴らしさや安全性を教えてきたんですよ。ただへんな話、彼らはイベントが増えればいいわけ。だから『PRIDE』のイベントはどんどんやってほしいんですよ。でも一番大事なのは安全性と公正さだよね。……そこにはギャンブルも関わってるからね。

——より一層、公正さが求められると。となると、なぜ島田さんが認められたのかますます不思議なんですけど（笑）。

島田 馬鹿野郎！　アスレチック・コミッションは「真の意味でジャスティスな人間」にプロモーター・ライセンスを発行したいし、真の意味でジャスティスな人間に裁いてほしいと思ってるんだよ。そうなるともう……俺様しかしないだろう！

——形式的にはレフェリーやジャッジはネバダ州からライセンスを受けて、ネバダ州から派遣されるシステムなんですね？

島田 だからあの日の俺様はネバダから派遣された、ネバダ州公認レフェリーだったわけよ！もちろんMMAでは日本で初めて!!

——ネバダ州公認でしたか！

島田 でも何年か前にK―1をやってたときにキックのライセンスは取得してたんだよね。

——じゃあ、ライセンス自体はお持ちだった。

島田 そう。ちょっとリニューアルに行った感じで。

——車の免許みたいに（笑）。K―1ではいつぐらいに取られたんですか？

島田 もう5年くらい前かな〜。取得に必要なのは書類提出といままでどういった試合を裁いてきたのか？　ってレジュメだよね。

——実技や筆記試験はなかったと。

島田 しょぼいレフェリーならあるのかもしれないけど、俺様レベルになると顔パスですよ〜！　でも賭けの対象だから試合で儲かるやつがいるわけじゃん。だから俺が、正当な労働報酬以外でプロモーターや選手からお金をもらってるような人間ならダメですよ。



しまだ・ゆうじ■1966年11月24日、広島県福山市出身。東洋大学を卒業後、プロフェッショナルレスリング藤原組へ入門。92年藤原組マイアミ大会でレフェリーデビュー。『PRIDE』、K-1、リングスなどで、数々の名勝負を裁く。02年には格闘技＆フィットネスジム『BCG』設立。PRIDEルールディレクター。「ハッスル」の島田二等兵とはあくまで別人。

——そこはジャスティスが求められるわけですね。9月末にはレフェリーに関してカリフォルニアで講習会があったとか。

島田 うん。UFCがやってるときにMMAの講師として招かれたんですよ。俺とUFCのレフェリーのジョン・マッカーシーとキング・オブ・ザ・ケージのハーブ・ディーンっていうこのあいだ『PRIDE』に上がった黒人レフェリーの3人が招かれて。

——講義を受けたのはどんな人なんですか？

島田 もともとボクシングやキックのライセンスを持ってるレフェリーが多いね。でもMMAのレフェリー・ライセンスもほしいから来てる。そこで俺様はカリフォルニアのライセンスももらったたし、カリフォルニアのアスレチック・コミッションから〝ゴッド・オブ・レフェリー〟と呼ばれてたからね！（と大声で）。

——ゴッド・オブ・レフェリー！

島田 そうですよぉ！　あんなに歓待されると嬉しいねぇ。

——いっそ、アメリカに移住したらどうですか（笑）。ところでルールの交渉段階で「これだけは譲れない」って部分は？

島田 いや〜、ぜんぜん。「交渉しても無理だろうな」と思ってたから。でも最初からバイオレンスになりすぎると「やっぱりPRIDEはダメだ」って言われてもマズいんで、今回はグラウンドの4点顔面攻撃がなくてもよかったかもしれないね。

——試合時間も変更されましたね。

島田 10分、5分っていうのは選手が「5分過ぎから展開が変わってくる」って部分で設定したんだよね。でも、アメリカのジャッジは5分で10点法だから。「10分だったら20点法なの？」って根本的な見直しになっちゃう。でもそのうち基本的な『PRIDE』の試合時間にしたいね。

——それからジャッジに関しては、今回は皆さんボクシングのジャッジの方だったとか。

島田 そこは大げさに報道されすぎ！　ボクシングもやってるけどUFCもやってる人たちだから問題ないと思いますよ。それにドクター・ハミルトンとか足立さんとか、ウチでジャッジをやってる人も入れたし。あの日のためにネバダのジャッジであるドクター・ハミルトンをず〜っと使ってたわけだしね。ドクター・ハミルトンに「『PRIDE』のジャッジはこうなんだ」って二年前から洗脳活動をさせてますから（笑）。

——でもレフェリーとかジャッジが全員日本人ってのは難しいんですか？。

島田 国の事業だから、街の出身者や街に登録してる人間の仕事を管轄するのがコミッションの仕事だからね。今回、日本人のレフェリーが二人も入れたのは奇跡だね。

——レフェリーの試合担当はどういうふうに決まったんですか？

島田 アメリカのエグゼクティブ・ディレクターに「こういうローテーションでやりたいんだけど？」って投げたら「ミスター・シマダがやることはすべてアップ・トゥ・ユーだ」って、全部オッケーだったね。とくに第一試合は、俺か野口がやろうって思ってて。こういうときにストップ・ドント・ムーブとか、こういうときにドクターチェックしようって。お手本を見せるためにもね。

——そしたらすぐ終っちゃって……島田さんはかなり飛び跳ねてましたけど。

島田 あれは「このくらいオーバーアクションしろ！」ってみんなに身をもって教えたのよ！会場の一番後ろの席の人にもわかるようにね。

——一番後ろ〝もう一人のネバダ州公認レフェリー〟の席まで意識しろと、ジャイアン

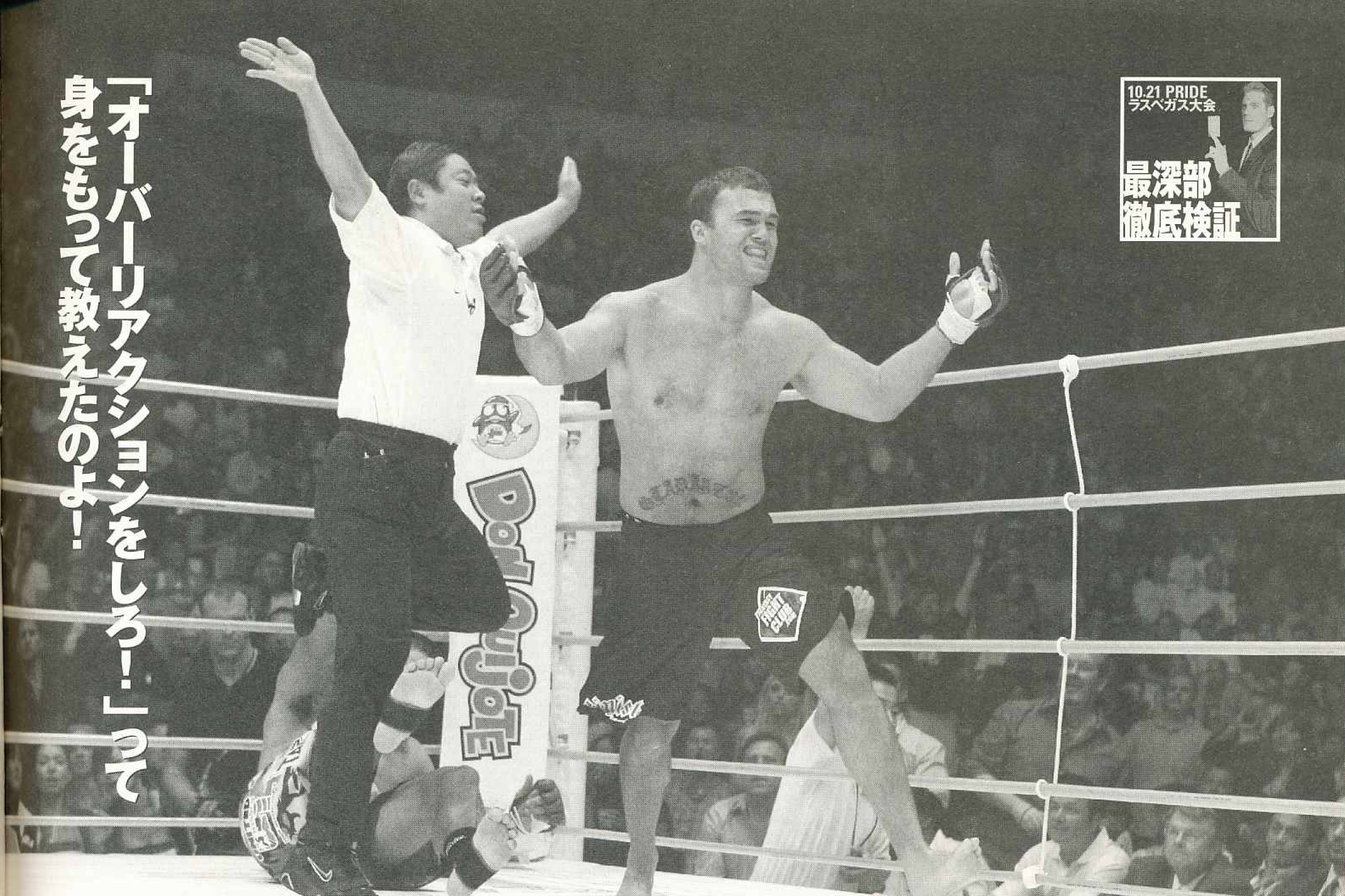
ラスベガスを裁いた、もう一人の男 野口大輔 レフェリー談

ベガスを裁いての感想ですか？　島田と同じです！（笑）。リングサイドのメンツもいつもと一緒でしたし。アメリカだからといってあまり緊張せずにできましたね。僕がレフェリングをしたランデルマンとショーグンの試合は、最後は一見、危なそうだったんですけど、あのアンクルホールドはグローブをハメてるからけっこう、極まりづらいんですよ。ジョシュがやったみたいに上からなら可能性が高いけど、ショーグンは下の位置からだっだし、彼はバンテージを厚く巻いてるから、なかなか極まらないだろうって。リングサイドから島田がしきりにアイコンタクトしてきてたんですけど、僕はわりとクールに裁いてましたね（笑）。



10.21 PRIDE
ラスベガス大会
最深部
徹底検証

「オーバーリアクションをしろ！」って身をもって教えたのよ！



見てみぃ！（道頓堀もビックリの）驚異のグリコポーズ！　これぞ、一番後ろの席まで伝わるというオーバーアクションがラスベガス大会の第一試合で大爆発。「終わりですよぉ～！」という声が聞こえてきそうだ（幻聴）。

ト馬場さんの論理みたいですねぇ。

島田　俺の根底は馬場プロレスだから（笑）。

――大会進行上の問題点はなかったですか？

島田　じつは一週間前にUFCの大会があったから、バックヤードのインスペクター（大会に不正がないかチェックする人）の動きやバンテージの巻き方とかまで偵察してきたんだよ。普通、UFCに申請しても見せてくれないじゃん？　でもネバダからライセンスをもらってる人間として観察してきたの。当日もスムーズに行ったよね。

――入念に準備したんですねぇ～。

島田　でもさ、グローブを渡す役目はインスペクターなんだけど、彼らは試合開始の一時間半前くらいにしか来ないんだよ！　日本なら会場に着いたら、すぐにグローブ渡すじゃん。

――え！　グローブが来てないんですか？

島田　あるんだけど、不正を防ぐためにその人たちが渡さなきゃいけない。でもあっちはノンビリして「何時に来られるんですか？」って聞くと、試合開始が6時なのに「5時15分に行く」って。それがネバダタイムなわけ（笑）。

――ダハハハ！　国民性の違いが出ますねぇ。

島田　でも、やることはしっかりやるし、彼らがバックステージにいることで細かいチェックもできる。日本もああいう門番みたいな人が必要なのかなって思ったよ。

――ちなみに外国人のレフェリーとはどういう話をしましたか。

島田　俺のことを「おまえはジニアスだ！」って最高の評価でほめてくれましたよぉ～。

――彼らのレフェリング自体はどうでした？

島田　う～ん。金網とリングの違いもあるだろうけど、もうちょっと選手をよく知ることは必要かもしれないね。

――試合前にミーティングされました？

島田　したけど、彼らは「試合を裁けばいい」って気持ちが強いから、試合を作る、というレフェリングじゃないんだよ。そこの見極めは感性だから、伝えるのは難しいねぇ。

――そういう意味で今年の『PRIDE無差別級GP決勝』のミルコvsシウバ戦では、シウバにドクターチェックが入って、かなり深い傷でも続行しましたけど、ラスベガスではどうですかね？

島田　あ、ラスベガスでもやらせるような気がしたなぁ～。なぜなら、その前のUFC64のライト級王座決定戦でショーン・シャークがケニー・フロリアンにヒジ入れられて、すっごい大流血したんだよ。でもドクターもレフェリーも止めなかったの。

――それは、ちょっと意外ですね。

島田　あの試合を観てたから、コールマンの試合も「これなら大丈夫」と思って、ドクターにウインクしつつ続行したの。こう見えて俺も予習してるんだよ（笑）。

――ネバダ規定では「タイトルマッチは5分5ラウンド」と聞いてますけど、来年2月のシウバのタイトルマッチはどうなりますか？

島田　それは……5分5ラウンドになる可能性もないとはいえない。でもトータルで25分。日本だと10分、5分、5分だから5分増えるだけ。……ま、郷に入れば剛竜馬ですよ！

――（無視して）今回の大成功の秘訣は？

島田　やっぱり前のK－1のときに「ネバダは下交渉が大事」って予備知識があったから、そこは大きかったよね。綿密にコミュニケーションをとってれば、何も問題はない。でも俺たちが横柄な態度で出たら、彼らもヘソ曲げちゃうよ。なにしろ国家事業ですから！

――それもゴッド・オブ・レフェリーの尽力があってこそですか。

島田　あたりまえですよ～！　俺もレフェリー生活15年だからさ。来春、エンターブレインから自伝出す予定だから、よろしくな！

――それは一言も聞いてませんけど……。今日はどうもありがとうございました！

【06年11月3日／PRIDE道場にて収録】

なぜ、日本のルールはアメリカで認められないのか？



本邦初！ アスレチック・コミッションに潜入!!

ネバダ州 アスレチック・コミッション代表

キース・カイザー インタビュー

聞き手／稲垣收　撮影／黒田史生



――はじめまして。ミスター・カイザー。まずは明日に迫った『PRIDE』のアメリカ初進出大会についてどう感じているか聞かせてください。

カイザー　オーケー。私も心の底からエキサイトしてますよ。

――あ、エキサイトされてますか（笑）。

カイザー　イエス。だって私たちが最初に『PRIDE』の関係者に会ってから、かれこれ4年も経つんですからね。

――あ、4年も前から進んでいた、と。

カイザー　だいぶ時間はかかりましたけど、ようやく開催できて本当に嬉しいです。出場する選手もトップクラスですし、明日が楽しみでしょうがないですよ。

――なぜ4年もかかったんでしょう。

カイザー　う～ん。それは我々にはわかりませんね。プロモーター・ライセンス自体は02年に下りてますから。その時点で開催することもできたはずなんですけど。

――ではアスレチック・コミッションがストップをかけていたわけじゃないと。

カイザー　いえいえ、それは違います（笑）。たぶん『PRIDE』は開催時期の一番いいタイミングを待っていたんじゃないですか。

――ただ、今回は日本の大会とルールの変更点がありますよね。

カイザー　イエス。大きな違いは3つありますね。一つめは、グラウンド状態で踏みつけができないこと。二つめは、グラウンド状態で頭部にヒザ蹴りを入れてはいけないこと。三つめは、相手が寝てる状態で頭部を蹴ってはいけないこと。

――この変更点は大きいと思いますが、禁止した理由を教えてください。

カイザー　やっぱり一番大きいのは安全上の問題ですね。たとえ『PRIDE』といえども、ラスベガスで開催するからには、我々のルールに従ってもらわなければなりません（キッパリ）。

――そこで聞きたいのは、今後、アメリカの大会で踏みつけ攻撃や4点ポジションでの頭部への攻撃を認められる可能性はあるのか？　ってことなんですけど。

カイザー　残念ですが、近い将来は無理でしょうね。

――やっぱりすぐには無理ですか……。

カイザー　でも気落ちしないでくださいね。MMAの歴史はまだまだ浅いでしょう。ボクシングだって、長い歴史の中で、徐々にルールが変更されてるじゃないですか？　だから今後、改正される可能性だってあるし、ルールが変わらないわけじゃないと思いますよ。……といってもしばらくは許可が下りることはないでしょうけども。

――もしアメリカのMMAで死者が出るような事態になったら、MMAが禁止されることもあるんですか？

カイザー　それはないと思います。ボクシングでもここ数年のあいだに、死亡事故はありましたし、MMAの試合でも死亡事故が起こる可能性がないとは言いきれません。でも、その可能性をできる限り低く、できるだけセーフティにすることが我々のミッションなんです。

――「できるだけセーフティに！」が合い言葉ですか。

カイザー　イエス。選手がよい体調でリングに上がること、ケガをした状態で出場させないこと。レフェリー、セコンド、ドクターが、選手を守れるようにすること。我々は全力でこのスポーツを最大限セーフティにしようとしてるんです。

――でもネバダ州では、選手のキャリアが違いすぎる場合、マッチメイクに異議を唱えることもあるとか？

カイザー　それもセーフティのためです。たとえば世界王者とMMA初参戦の選手を対戦させるわけにはいかないでしょう？　そういう部分は戦績だけじゃなく、試合のビデオ、専門家の意見を聞いて、試合を許可すべきか決めるんです。

「できるだけセーフティに!!」が我々の最大のミッションなんです

――たとえば、レスリング金メダリストのルーロン・ガードナーとヒョードルの対戦はどうでしょう？

カイザー　う～ん。これは明日のヒョードルの試合を観てから考えたいですね。

――ガードナーはロシアの英雄、アレクサンダー・カレリンを破ってるので、ヒョードルは闘いたがってるんです。

カイザー　ガードナーはMMAの経験は少ないけど、オリンピックで金メダルを獲ってる事実は、経歴として考慮すべきでしょうね。これはジョシュ選手と闘うナツラ選手にも言えることですし、けっして不可能じゃないと思いますよ。

――それから、体重差が違いすぎる選手同士の対戦も認めていませんよね。

カイザー　それは階級によって違うんですけど……たとえば、今回のバタービーンとショーン・オヘアの試合みたいに265ポンド（120キロ）以上の選手同士なら、どんなに体重差があってもオーケーです。でも、170ポンド（77キロ）の選手を270ポンド（122キロ）の選手と対戦させたりはしませんから。

――じゃあ、美野輪vsバタービーンのような試合はネバダ州では不可能、と（笑）。

カイザー　ええ。残念ながら無理でしょうね（笑）。

――選手のメディカル・チェックもさぞや気を使われてそうですけど。

カイザー　まず選手自身から公式の診断書を提出してもらいます。健康診断や目の検査、脳のMRIとかMRAとか。あと36歳以上の選手には、胸部のレントゲン写真もね。それでエイズやB型肝炎、C型肝炎に関する血液検査の検査結果も計量前に出してもらってますから。

――本当にキッチリやられてますね。

カイザー　まだありますよ。計量直前にはドクターがフィジカル・チェックを行ないますし、当日には4人のドクターが試合前に健康状態を確認しますから。

――さらにドーピングテストまであるわけですよね。

カイザー　イエス。おもにステロイド検査ですね。マリファナやコカインといった麻薬の検査も行なってます。場合によって、試合前と試合後に行なうこともあります。選手の安全には努力を惜しむ気持ちはありませんから！

――でもこれだけやっていただければ、選手も安心ですよ。今後もよろしくお願いします。

カイザー　オーケー。次は2月のラスベガス大会でお会いしましょう。

【06年10月20日／アスレチック・コミッションで収録】



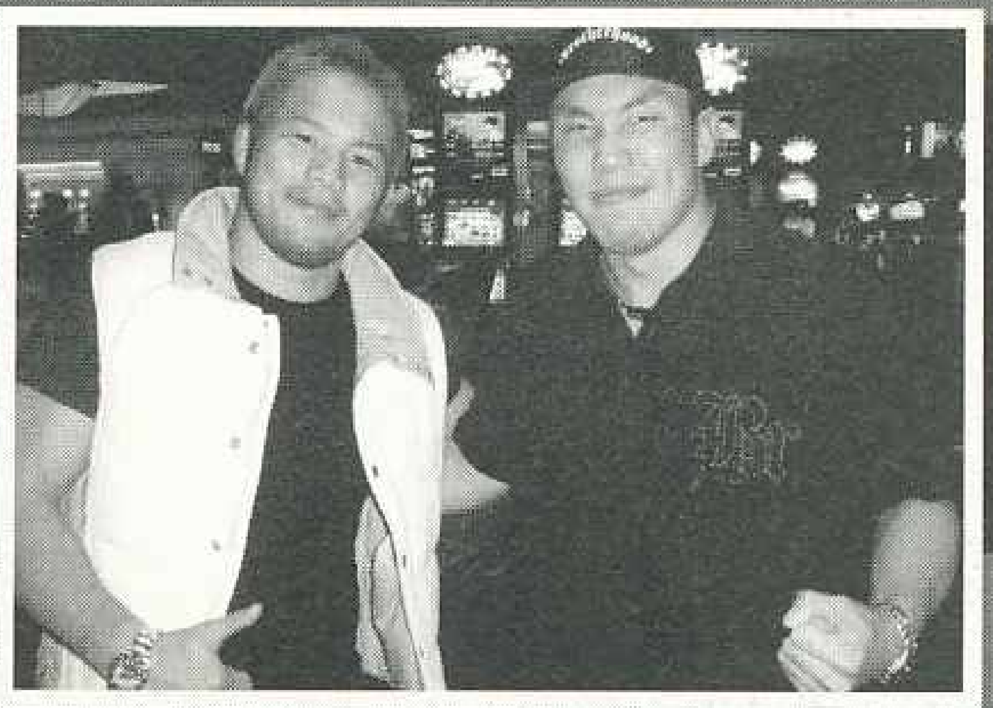
潜入!!　Kamiproスクープ！　本邦初！　ネバダ州アスレチック・コミッションの本部へ我々取材陣はついにその足を踏み入れた。そのオフィス内にはかつてラスベガスにて開催されたさまざまな格闘技大会（モハメド・アリvsラリー・ホームズなど）のポスターがズラリ！　そして大相撲のラスベガス興行の写真もレイアウトされていた。

長南亮のピラニアUSA旅日記

『PRIDE.32』ラスベガス大会編

アメリカといえば、コールマンとかダンヘン！　ダンヘンといえば、マブダチの長南亮！　長南亮といえば、おなじみのUSA日記!!　というわけで、PRIDEラスベガス大会に出場した、中村カズのセコンドとして渡米した長南が今回も激筆！　ピラニアの目から見たアッメ〜リカを読み込んでください!!

文・撮影／長南亮



マッハさんとカジノで記念撮影。この時点で、最終日にあんな惨劇が身に降りかかることをマッハさんは知るよしもない……。

●10月19日（日本時間）

『ＰＲＩＤＥ』ラスベガス大会でカズ（中村和裕）のセコンドを務めるために、成田へと向かう。前日は俺の30歳の誕生日をお世話になってる方や友人たちに祝ってもらったために若干二日酔いだったが、吉田道場の手配で、同行するチームメイトの白井（裕矢）とともに車で空港まで送ってもらう。

海外修行はいつも一人でたくさんの荷物を引きずりながら電車を使って移動していたので、大変ありがたい。空港に着けばチケットを用意してくれて、スムーズに搭乗できた。

飛行機で眠れない俺はひたすらＰＳＰで『三国志』。10時間のフライトで俺の蜀軍は中国全土を支配しようとしていた。

途中のロスでは俺が先導して難なく乗り換え。かつてロスから帰国する際、乗り換えで失敗して一泊するはめになった経験が活きている。

初めてのベガスだが観光地で観光客も多いため、税関がゆるい気がした。単身でアメリカに一カ月滞在しようと入国したときは、入国審査官からとにかくいろいろ聞かれた。最初は辞書片手に大苦戦したものだ。国内線もテロのせいで外国人に対するチェックがもっと厳しかったが、今回はそうでもなく外人に日本語で話しかける白井も税関突破！

スロットマシーンだらけの空港にＤＳＥスタッフが迎えに来てくれてホテルに移動。

チェックイン後に仮設のトレーニングスペースでカズをメインに軽く動く。最近はウェイトしながら身体作りをメインにしている俺は現在90キロ近くあるのと、エコノミークラス症候群が影響してまったく動けない。カズは調子が良さそうだった。

そこにダンヘンらチーム・クエスト軍団がやってきた。アメリカ修行に来るたびにホームステイさせてくれるダンは、ちょっと前までホテルの部屋で寝ていたが調子は良いとのこと。ビクトー・ベウフォートも強いが久々の地元での試合だけに、絶対に勝ってほしい。いや、勝つんだろうなと思い期待していた。この日は近々飯でも食おうと約束して別れた。



食事中の野口レフェリーと大城レフェリー。カレーと缶ビールの組み合わせ。やっぱりIDチェックを受けたのだろうか。

みんなで食事後、ちょっとカジノへ行ってみた。出向いたシーザスパレスの一階はカジノやショッピングセンターでほとんど占められている。

お台場のビーナスフォートはここをマネて作ったと白井が教えてくれたが、そんな物には俺は興味が湧かずアメリカときたらやっぱ田舎町。かといってほかにすることもなく日本じゃギャンブルをしない俺だけど、カジノの明るい雰囲気も手伝って記念に少しだけやってみることにした。

資金は２００ドル。

だがバカラで一瞬にしてなくなる。半か丁みたいなもので確率は2分の1だから、人にチップを借りて再チャレンジして取り返すと、１０００ドルぐらいになった。そこでやめないで続けたらまたなくなっていき、結局振り出しだがマイナスにはならずに済んだ。この日から毎日のようにバカラに挑戦して、借金しながらも最終的には３００ドルのプラスで終わった。一瞬、怖い思いもしたがおもしろさも理解できた。

●10月20日（現地時間）

二日目の昼にショッピングセンターにあるチーズケーキ・ファクトリーにマット（・リンドランド）、ブライアン（・フォスター）、ダンのトレーナーであるライアンの合計4人でランチに行く。

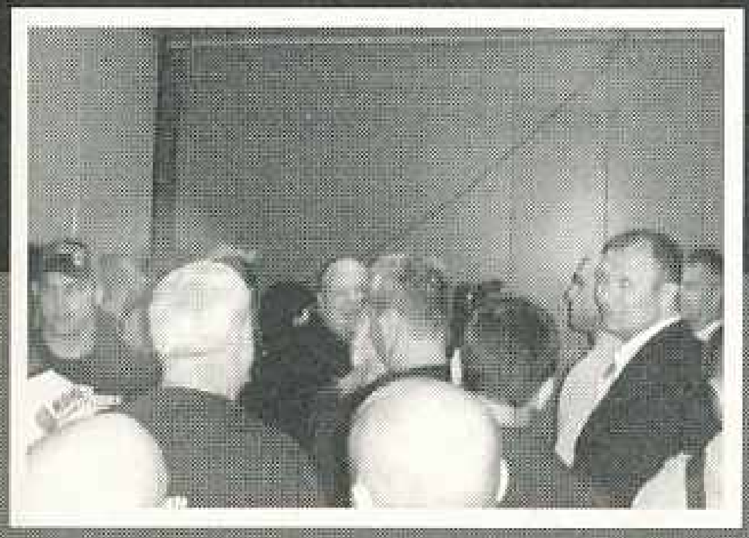
ソフトドリンクのつもりで注文しようとしたレモネードにアルコールが入っているらしく、ＩＤチェックを店員がしようとする。空港でビールを買おうとしたときもそうだったが、マットいわく日本人は実際より若く見えるらしい。30歳にもなったのにいちいちチェックかよ！

その後、また仮設トレーニングスペースでカズの練習。練習後、ホテルのプールで少し泳ぐ。ジャグジーもあり、お疲れ気味のカズもリラックス。プールはゴージャスだがアメリカのわりには浅い。

夕方にルール説明とコミッションからファイターやセコンドにライセンスの発行。グローブを選ぶのもメディカルチェックも全選手順番にコミッショナーが立ち会う。

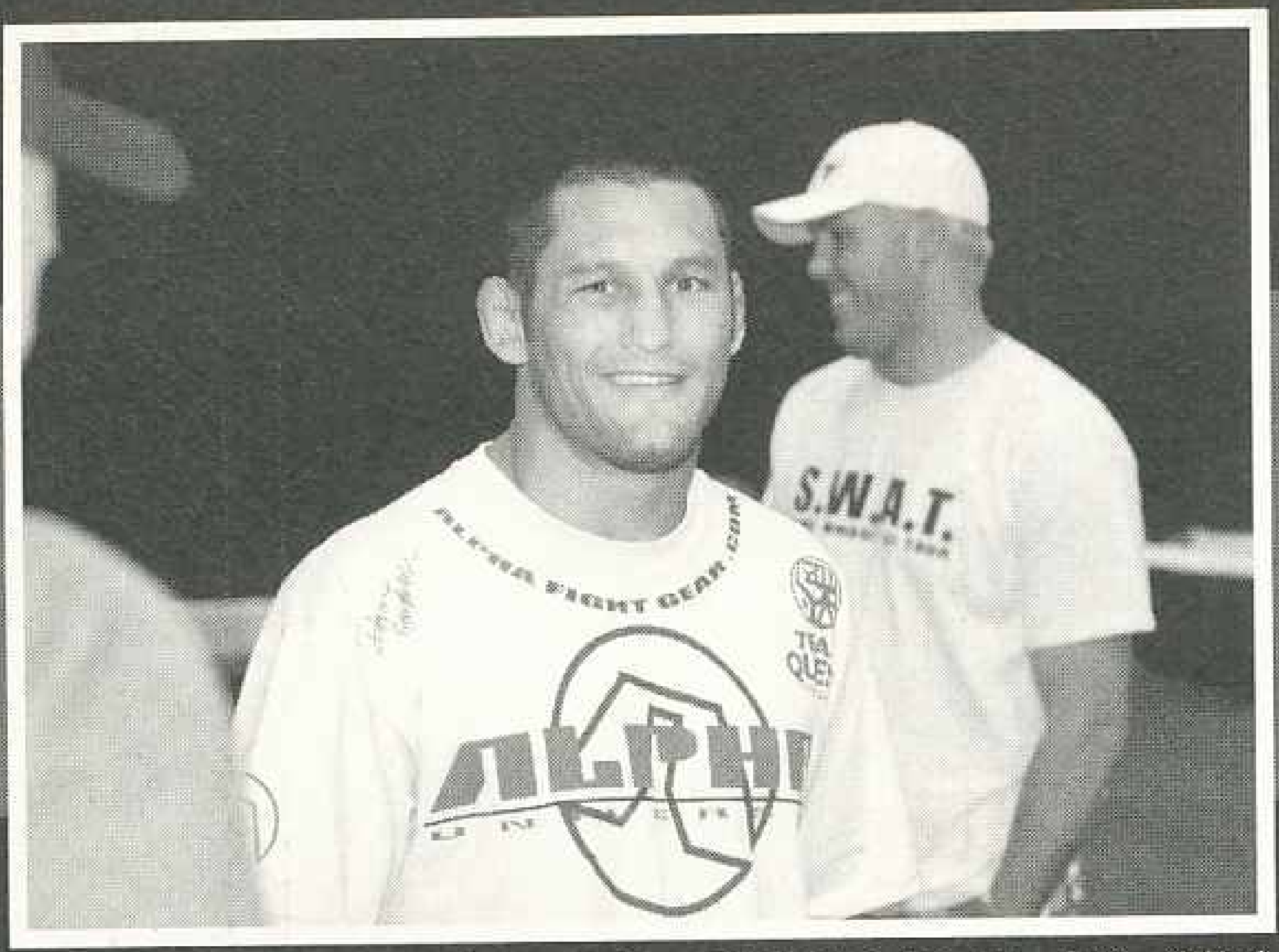
続いてファンクラブイベントに参加。高田本部長、佐伯さん、マッハ





満員でギュウギュウのエレベーターに、バタービーンも無理矢理、乗車しやがった！　定員オーバーのコールは鳴らず一安心。

さんたちと勝敗予想。会場が人数のわりに広すぎて寒かった気もするが、ミルコも記念撮影にやってきて無事成功。
翌日の計量はカジノへ行っていたために立ち会わなかったが、無事に全選手パスしたようだ。夜にダンの部屋に遊びに行ってみると、ダンが新しくスポンサードを受けている格闘用品メーカーのダンヘンTシャツとセコンド用の格好いいバケツをプレゼントしてくれた。「GOOD LUCK!」と言い残して部屋に帰る。
カジノの電光掲示板には翌日の試合のオッズが表示されていた（前号本誌参照）。ダンの試合以外は俺の予想と一緒だったが、今回の大会カードでオッズがスイングしてたのは第一試合のジョーイとロビーの試合のみ。金を賭けたら実力者同士の渋い試合も楽しめそうな気がする。ジャッジへのプレッシャーも凄そうだから、意味不明の判定などは日本より揉めることになるだろう。ひょっとしたら金を賭けてるほうが盛り上がるだろうし、いいのかもしれない。



アメリカ修行のときは、いつもホームスティさせてくれるダンヘン。見事、難敵ビクトーに勝利！　さすがだぜ。

● 10月21日（現地時間）

試合当日、バスで移動なのだが同じバスにダンと対戦するビクトーがいた。チーム・クエストのパーカーを着ていたために俺はちょっと気まずい。控室まで一緒だったので即行、カズTに着替えた。
会場は有明コロシアムより一回り大きいくらいかと思われるが、座席の並びは似たような感じだ。大学のバスケの大会が頻繁に行なわれるらしい。
ロッカールームの通路は狭く、控室も4選手ぐらいが一緒。アメリカのわりに窮屈な感じがしたが、それよりも昼食のパンが「こりゃねえだろ！」と言いたくなる悲惨なものだった。
ミーティングの日同様で細かいことにもコミッショナーが出張ってくる。飲みもの、グローブ、バンデージ。グローブを配る人間も決まってるらしく、一人の担当者がみんなのぶんを同時に配るつもりらしい。しかし第一試合の選手もメインの選手も同時では、前半選手のアップやスタンバイに間に合わないと日本人関係者が事情を説明すると「よし、俺がいま許可するから、おまえが配れ！」。……いきなりの豪快な判断にビックリした。
そしてオープニング。舞台裏にいたのだが凄い盛り上がりだったことは確認できた。日本では毎大会、大ブーイングを浴びる島田レフェリーにも大歓声！　アメリカのファンたちは『PRIDE』を待ち続けていたという感じが伝わってくる。
試合結果は皆さん知ってのとおりだが、PPVで観ていた人には伝わらなかった盛り上がりについて説明してみたい。
会場の熱気はもの凄くリングと客席も近いために選手にも歓声や野次がダイレクトに伝わる。それにアメリカ人ときたら一人で日本人の5人分ぐらいの応援をするものだから、会場のボルテージもどんどん上がる。
ヒョードル入場で会場の熱気はMAXとなり、果敢にテイクダウンを狙う血だらけのアメリカン・ファイターをもってしても容赦ない「フェードル！」コール（アメリカではフェードルと呼ばれる）。腕十字が極まる頃には観客総立ち。お世辞じゃなく日本じゃあり得ない盛り上がりだった。
終了後のインタビューを終えると、ホテルの打ち上げ会場に行く。腹が減ってたのにどこに食べものがあるかわからずビールばっかり飲んでいた。
マッハさんたちといろいろ話したが、今回の『PRIDE』はUFCより盛り上がってたとのこと。この後、マンダレイベイホテルで打ち上げしているダンたちと合流。長蛇のタクシー待ちを乗り越えてやっと辿り着けば、貸し切りバスでシーザスパレスに戻ると言う。
ホテル内のナイトクラブで明け方まで騒いでいたが、途中で別会場にまたもや移動。ウォッカやテキーラなど、昼から何も食ってないのに飲み続け、気がつけば明け方。
クラブスペースの舞台で二人のセクシーお姉さんが踊ってたのは憶えているが、そこがどこなのかは憶えていない。
朝の五時過ぎ、ホテルを探して歩く俺にマックの看板が現われる。悲しいが朝なのにやっと夕食にありつけた。しかしメニューは朝マック。酔っ払った俺はマックを食ったあとに一人歩いてホテルに向かうが、これが初めてのホテル以外のベガスの町。夜とは様子が違うが、思えば、ホテル以外にどこにも行ってなかったと、ここ数日間を振り返る。
一度、ホテルを間違え時間をロスしたが、出発時間の7時には間に合った。翌日帰りはきついが裏方のセコンドはしょうがない。荷物はまとめてあったのでチェックアウトに向かうと、巨大な人間が数人、酒を浴びるように飲んでいた。朝っぱらから恐ろしい光景。よく見るとジョシュやらコールマンやらバローニ、仕切っていたのは髙田本部長で「ピラニア、おまえも飲んでいけ！」と恐怖のお誘いを受ける……。フライトの時間があるので丁重にお断りすると、見覚えのある人がカウンターで撃沈されている。マッハさんだった。
どこで髙田本部長に捕まったのだろうか？　マッハさんとは7時間ぶりの再会であるが、もたもたしていると俺も犠牲者になるので駆け足で空港へ。
徹夜の俺は初めて飛行機で熟睡した。


打ち上げパーティでだいぶ酔っぱらったまま、宿泊先のホテルを探索。マックを発見してようやく“夕食”にありついた。


酔っぱらった俺が撮影した髙田本部長率いる酔っぱらい軍団。おもいきりピンボケしているが、これぐらいのベロンベロン具合だと思ってくれればいい。

10.21 PRIDE
ラスベガス大会
最深部
徹底検証



PRIDE広報から見た『PRIDE.32』ラスベガス大会

佐伯繁 PRIDE広報 × 笹原圭一 DSE広報局局長

大大大成功に終わった『PRIDE.32“THE REAL DEAL”』ラスベガス大会。しかし、その舞台裏では初の海外興行に悪戦苦闘するスタッフたちがいた。その筆頭が佐伯繁PRIDE広報&笹原圭一DSE広報局局長。裏方から見たラスベガス大会とは?　空港、言語、そして国民性の壁。ここに明かされるラスベガス大会秘話!!

聞き手/坂井ノブ　構成/山本宗忠(THE PEHLWANS)

「ラスベガス大会？ 糖尿病とか睡眠障害のせいなんだけど、そこらへんのケアを考えないと、体力がついていかない！」

佐伯

——PRIDEラスベガス大会大成功、おめでとうございます！ 今回はお二人にラスベガス大会の総括と来年2月のラスベガス大会に向けて語っていただければと思います。

佐伯 ……ふぅ〜。

笹原 いきなりため息（笑）。どうしたんですか？

佐伯 ラスベガス大会ねぇ……。自分は、糖尿病とか睡眠障害のせいなんだけど、そこらへんのケアを考えないと、体力がついていかないよ、もう。

笹原 遠くまで行くのが大変ということなんですか？

佐伯 成田から15時出発くらいの便だったんだけど、朝起きて、空港に行って、飛行機に乗って、向こうに着いたらまた朝なんだよね。

笹原 飛行機の中で寝ればいいじゃないですか。

佐伯 それが寝られんのよぉ〜。飛行機事故の番組とか思い出して、〝この飛行機、落ちちゃうんじゃないかな？〟って不安になってさぁ。

笹原 知りませんよ、そんなの（笑）。

佐伯 それに着いても言葉が通じない。ロスでの乗り継ぎもギリギリだったから精神的にもまいっちゃって……。そのときもわけがわからん状態で待たされてさぁ。「遅れている理由を教えてくれ」って言っているのに、「ウェイト！ ウェイト！」とか言いやがって。で、到着したらいきなりボク、携帯をなくしちゃったもんだから、もう大変よ。

笹原 完璧に自分のせいじゃないですか！ どこからどう見ても。

佐伯 あと、ボクさ、ホテルの部屋って苦手なのよぉ。

——なんでですか？

佐伯 ……オバケが怖いんだよねぇ。

——ガハハハハ!!

佐伯 ホテルって「憑きやすい」って言うじゃない。

笹原 知らないですよ、そんなの（笑）。

佐伯 それに忙しすぎて食事する時間もないしさぁ。ホテルでホットドッグを軽く食べるだけって感じだったもん。

笹原 「おいしい！ おいしいなぁ！」って食べていたじゃないですか（笑）。

——絶賛してましたよね（笑）。

佐伯 まあ、ラスベガス大会の感想としては、〝体力的にきつかった〟と。これに尽きるねぇ……。

——いきなり機関銃のように愚痴が出ましたね（笑）。笹原さんは体力的には？

笹原 まあ、きつかったですけどね。佐伯さんが「きつかった」って言うのも、一部分はよく理解できるんですよ。「言葉が通じない」とか。仕事も結局、一番しんどかったのは、コミュニケーションがなかなかうまく取れないって部分でしたからね。それにアメリカ人って仕事のペースがゆっくりしているんですよ。土日に携帯がつながらないとか。それにもすっごくイライラしました。DSEスタッフは体力的にきつかったと思います。まあでも、体力的にきついのは慣れっこなんで。

——皆さん受験前の浪人生みたいな顔していましたね（笑）。大会4日前くらいから公開練習をやっていたじゃないですか。そこでの盛り上がりはどうだったんですか？

笹原 ベガスも平日の昼だと人が少ないんですよ。だから大会前日の公開計量のときは凄く盛り上がったんですけど、公開練習のときは〝大丈夫かな？〟って感じだったんですよ。

佐伯 閑散としていたよね。

笹原 観に来ている人は少ないし、だからといって日本みたいに急な対策を講じられるわけでもないですし。

佐伯 なにより会場のスタッフの対応にイライラしたねぇ〜。

笹原 ホテルにお金を払って場所を借りているわけじゃないですか。日本の感覚だと、なんかあったらホテルに「オレたちはお金を払ってここを借りているんだよ？ どうなってんの？ ちゃんと準備してよ！」って強い立場から言えるじゃないですか。でも向こうには、その感覚が伝わらないんですよ。たとえば、「16時になったらゲートを開けてね」と伝えたんですが、16時になっても開かないときがあったんですよ。「どうなってんの？ 開いてないじゃない？」って言うと、「いや、係の人間が来ていないから」って。だったら「アンタが開けてよ！」って言うと、「いや、それは開ける人間がいるから」って。まったく融通が利かないんですよ。

——極端な分担作業の弊害ですね。

笹原 そうなんですよ。日本よりも倍以上の人口がいて、それを就労させないといけないから、どうでもいい仕事がたくさんある。もう一つたとえて言うと、メディアセンターが寒くて「空調を切ってくれ」と言っても、ずっと寒いままだったじゃないですか。

——凍えるような寒さで報道陣もDSEスタッフもみんなガタガタ震えてましたよね（笑）。

笹原 あれは、その空調のスイッチを押す係がいて、その空調係が休みだったんですよ。

——そんな理由だったんですか!?

佐伯 ボクは暑がりだからちょうど良かった、ニシシシ！ まあ、でもさ、日本の国民性と違うのは当たり前なんで、合わせなければいけない部分もあるんだけど、〝どうしてもボクらのペースではできないな〟っていうのは感じたよね。それがこれからの課題になると思う。

笹原 ホント、そのとおりですね。

佐伯 空港一つとってもそうじゃないですか。パスポート投げるんですよ、アイツらは！ 日本だったらありえないじゃん？ やっぱり我々日本人は親切なのよ。外国人が道を聞いても英語で答えようとするじゃん。「アァ〜、ドゥー・ユー・ノゥ、アァ〜……レフト！」とか。

——直訳すると、「左を知っているか？」ですね（笑）。

笹原 全然答えていないじゃないですか（笑）。

佐伯 いま、韓国からラスベガスへの直行便があるんだよね？ 「ロサンゼルス空港はトラブルが多いから、次は韓国経由のほうがいいんじゃないか？」って話があるんだけど、それは納得いったよ。

——なるほど。……それにしても、なかなか大会の話になりませんね（笑）。



笹原氏も思わず「いままでやってきてよかった」とつぶやいたオープニング。ハイクオリティな演出にアメリカの格闘技ファンもビビッてたじろいだ。

「アメリカ現地で、いかにしてPRIDEの世界観を理解して制作してくれるスタッフを育てていくかが課題ですね」

笹原

佐伯　いや、逆に言ったら、大会が成功したからこそ、違うところばっかり見えるっていうのはあると思うよ。成功していなかったら、それ以前の問題だもん。

――大会自体は言うことなしの内容でしたもんね。

佐伯　現地やPPVで見た人はわかると思うけど、あの沸き方とほとんどの試合が一本勝ち。あれ以上の盛り上がりはないんじゃないかなぁ。しいて言えば、"緊張感"はなかったけど、盛り上がりとしては最高だったよね。

笹原　そう思いますね。

佐伯　あと、ボクも感じたし、スタッフも全員感じたと思うんだけど、ヒョードルとショーグンの人気には驚いた。"見たいのはアメリカ人じゃないんだな。これは『PRIDE』を見たいんだな"って思ったよ。

笹原　とはいっても、試合が始まれば母国の選手を応援して「USA!」コールをするだろうと思っていたんですけど、まったく違いましたからね。

佐伯　"いままでやってきたように、ちゃんと伝えればいいんだな"って感じたね。

――今日（11月4日『PRIDE武士道』の会見）も高田本部長が、「（ラスベガス大会で）いままでやってきたことは間違いじゃなかったと思った」と言っていましたもんね。

笹原　まさしくその言葉を、オープニングで沸くアメリカのお客さんを見て感じました。

佐伯　オープニングも素晴らしかった!

笹原　感無量でしたよ。『PRIDE・1』から一緒にやっているスタッフと一緒に見ていて、二人とも「いままでやってきてよかった」って自然とつぶやいてましたから。

佐伯　でも、アメリカのファンはわかりやすいね。イベントを本当に楽しみに来ているんだなっていう感じがするもん。

笹原　日本のファンって、とくに『PRIDE』はとくにそうだと思うんですけど、選手に自分の人生を重ねて見るじゃないですか。アメリカのファンはそういう見方をまったくしないんですよ。

佐伯　気楽に見てるね。目の前で起こったことにのみリアクションするという感じで。

笹原　楽しんでなんぼというか、まったく頭を使った見方はしないです（笑）。

――大会自体は、試合も演出も、日本での大会と変わらぬハイクオリティな内容だったんですけど、いつもと違った点はありましたか?

佐伯　いつもと違う楽しみと言えば、スポーツ・ベッティングですよ。あれはいい!　賭けることによって、全試合気持ちが入って観られる。

笹原　某スポーツ紙の記者さんも「賭けたことによって初めてビクトー・ベウフォートを応援した」って言っていましたしね（笑）。

佐伯　日本でもできればいいのになぁ〜。どの選手にも必死で声援が飛ぶと思うし、盛り上がると思うよ。

笹原　でも普通、大事なお金を賭けるんだから、誰もが必死で応援するのは当たり前じゃないですか。そう考えると、日本のファンはそうじゃなくても応援しているんだから、こっちのほうが特殊なのかもしれませんね。

――それにしても絶妙な倍率でしたよね〜。

笹原　あれを決めていたのはバス・ルッテンじゃないかって噂も上がったくらいですからね（笑）。

佐伯　絶対に格闘技と『PRIDE』のことを知っている人間が決めているよね。

――このラスベガス大会で一番印象に残ったファイターは誰ですか?

笹原　印象に残ったのは第一試合ですね。

佐伯　ほう。なんで?

笹原　オープニングがバーンって盛り上がって、いきなり値千金のオープニングマッチでしたからね。ああいう試合が最初にあると連鎖反応でKO決着が続きますから。そういう意味で印象に残っていますね。

佐伯　ボクはフィル・バローニかな。西島と殴り合うのかと思ったら、いきなりタックルに入って。あれは衝撃的だった（笑）。

笹原　「そう来るか!」っていう（笑）。でも、フィルが良かったと思うのは、大会終了後の記者会見での名演説ですね。あれは良かったなぁ。

佐伯　……ゲェェ、ゲゲッ!　ゲホッ!　ゲホホッ!!（突然咳き込む）。

笹原　アッハハハハ!

――だっ、大丈夫ですか!?

笹原　口から何かの卵が産まれそうでしたよ（笑）。

佐伯　……ゲッ、ゲゲッ……。だ、大丈夫だよ。

――ラスベガスの後遺症ですか?　明らかに大丈夫そうではないので、急いで聞いていきます（笑）。タイソンが来なかった件についてはいかがですか?

笹原　前日にタイソンのエキシビション・マッチがあったんで、ウチのスタッフが飛んだんです。

――タイソンが試合をしたのはオハイオでしたっけ?

笹原　ええ。で、「必ず翌日連れてくるように」って話をしたんですけど

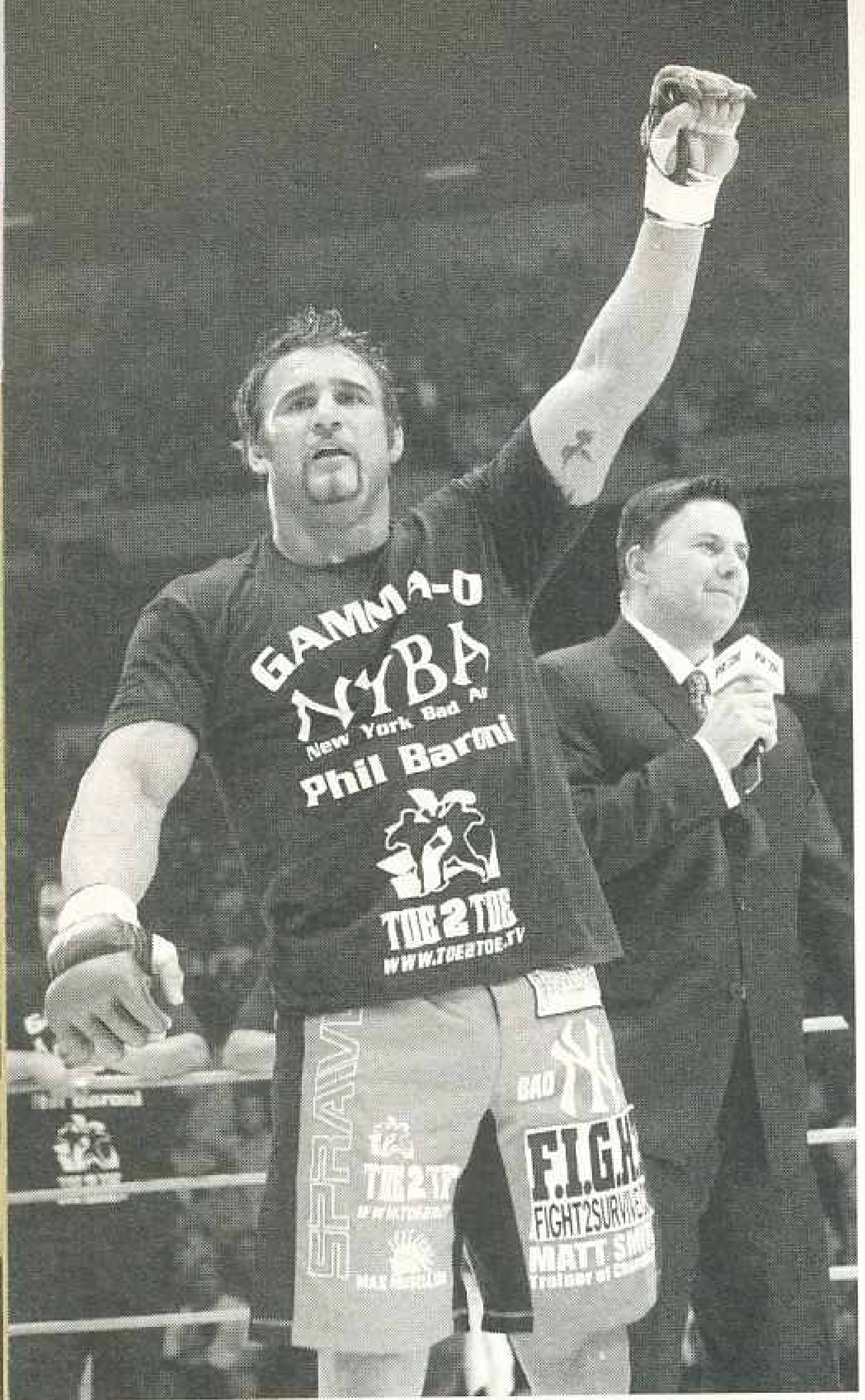




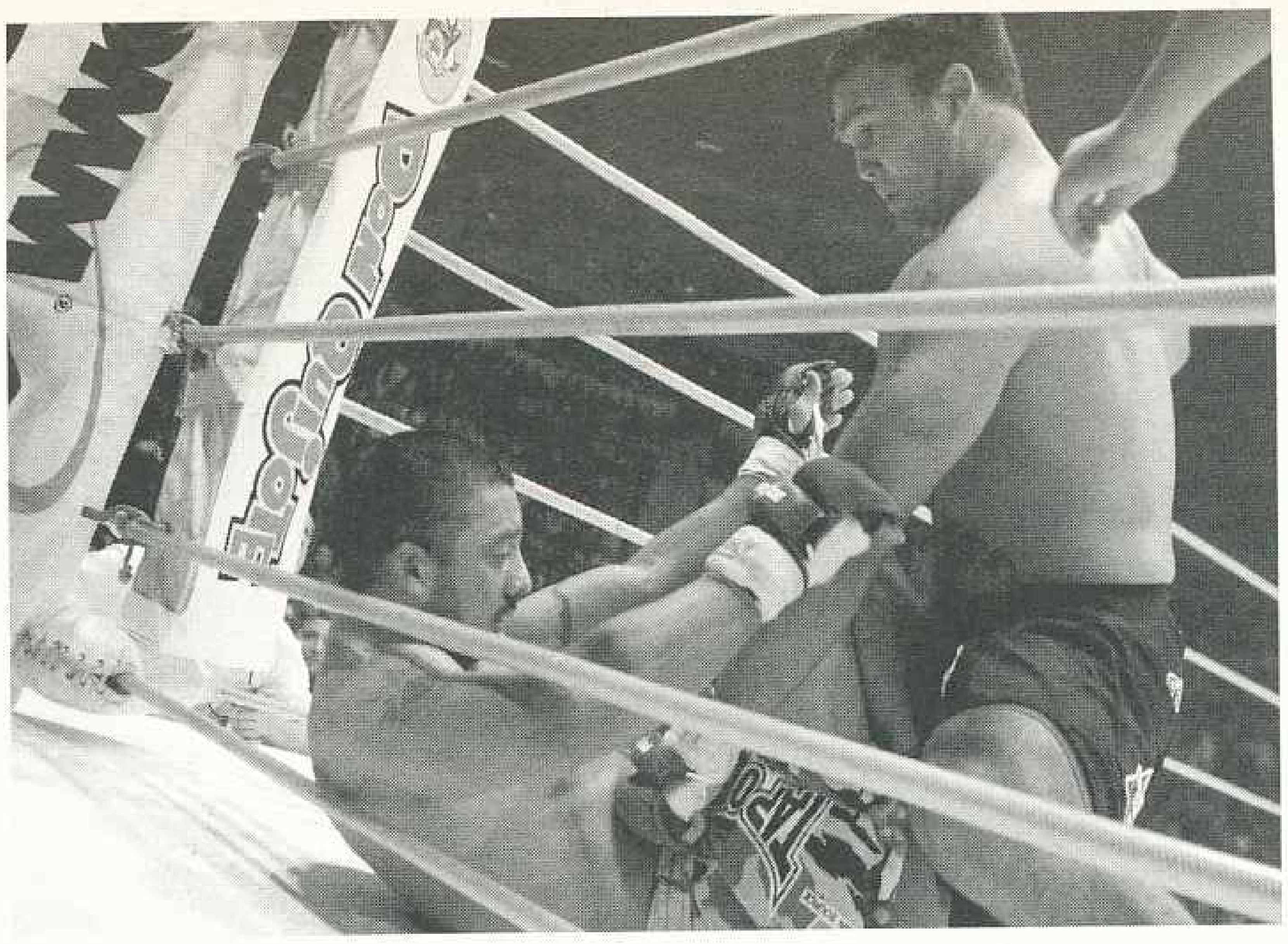
大会前日に行なわれた公開計量&公開記者会見。選手が計量をパスするたびに大きな声援が上がった。中でも一番の歓声が上がったのは、アメリカのファイターではなくヒョードル。これにはDSE関係者も驚いた。

10.21 PRIDE ラスベガス大会

最深部徹底検証



佐伯氏が一番印象に残ったというフィル・バローニ。大会終了後の名演説も含め、彼をラスベガス大会の裏ＭＶＰに推す関係者は多い。



笹原氏が「これで勢いに乗った」と語った第１試合のジョーイ・ヴィラセニョールｖｓロビー・ローラー。ＫＯ決着が続いたのも、この試合によるところが大きい。

ね……。

——で、どんな理由で来れなかったんですか？

笹原 「娘が急に病気になったので行けなくなった」って言ってたらしいですけどね。でまあ、大会の翌日に向こうのマネージャーと話はしていますけど……怖いですね。

佐伯 イベントならまだしも〝これがファイトだったら？〟って考えると怖いねぇ。

——では、来年2月のラスベガス大会に向けての意気込みをお願いします。

笹原 次はヴァンダレイ・シウバのタイトルマッチが決まっていますからね。今回以上のものをアメリカのファンに見せたいですね。

——佐伯さんは『武士道』の会見で「日本人が強い武士道というものを世界中に紹介したい」とおっしゃっていましたが？　今度は『武士道』の選手がアメリカでの大会に出るということもあり得ますよね？

佐伯 そうだね。いまの『武士道』は、ライト級に関してはまったくの日本人天国なんです。外国人が一人日本人をクリアしてもその次その次と出てくるじゃないですか。日本人の壁は厚いんですよ。そんな中でギルバート・メレンデスという選手がなぜこんなに注目されたかというと、「おっ、コイツは凄い外国人だぞ」っていうファイターだったからだと思うんですよ。日本人に勝てる外国人を見つけるのが大変になってきている現状だからこそ、この階級をラスベガス大会でやれば、「日本人もこんなに強い」ってこともアピールできますし、新たに挑んでくる外国人選手を発掘できる可能性もあると思いますから。

笹原 当初の予定だと今回も「軽いクラスの試合も組もう」という話をしていたんですけど、『武士道』のスケジュールもあって組めなかったんです。だから2月はライト級はもちろんウェルター級の試合も組もうと思っています。

——ライト級やウェルター級となると、佐伯さんも「もう行かない」なんて言ってられませんね（笑）。

佐伯 ……ん？　うーん…………。

笹原 「うーん…………」って（笑）。何を誤魔化しているんですか。

佐伯 まあ……さっ、今回の反省点を直して、よりいい大会にしたいです！

——無理矢理まとめに入らないでください（笑）。

佐伯 あまりスタッフが行っても経費がかかるしね……。

笹原 行きたくないんですか？

佐伯 いやいやいや（汗）。だってさぁ、年に4〜5回やるみたいだけど、心配しているのは、海外戦略によって日本の大会がおろそかになることなんだよね。そこの部分をボクは守ろうかな！

——よっぽどラスベガスはキツかったんですねぇ（笑）。

笹原 でも、経費の話が出ましたけど、たしかにたくさんのスタッフが移動すれば、それだけ経費もかかりますからね。今後の課題としてあるのは、いかにアメリカで、『ＰＲＩＤＥ』の世界観を理解して日本と同じようなモチベーションや気持ちでイベントを制作するスタッフを育てていくかですね。

佐伯 （急に明るい顔になり）そうそうそう！

——また嬉しそうな顔して（笑）。

笹原 というわけで、佐伯さん！　2月もラスベガスで頑張りましょう！

佐伯 勘弁してぇ〜！

【11月4日／都内・DSE事務所にて収録】



【右】さえき・しげる■DEEP代表兼、PRIDE広報。三崎和雄のウェルター級GP優勝によりボウズが確定したものの「いまはボウズはオシャレなんだよね！」と笑い飛ばすお茶目な広報。
【左】ささはら・けいいち■DSE広報局局長。初代ハッスルGM。『PRIDE.1』から大会運営に携わるPRIDE Eスタッフの一人。オシャレなスーツの着こなしにも定評がある広報。



やっぱり"生"で観ないとダメですよぉ〜!

10·21 PRIDE ラスベガス大会

"世界を駆けめぐる"史上最強の格闘技ファン
真の"勝者"は獏さんだった!!



「よかったねぇ〜（しみじみ）」と、格闘技あるとこなら、地の果てでも"一歩踏み出す"男、史上最強の格闘技ファン、獏さんが、予告どおりラスベガス上陸！　徹底した現場主義を地でゆく獏さんが観て、泣いて、笑った、10·21ラスベガス大会を大放談！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

ゆめまくら・ばく■1951年神奈川県小田原市生まれ。小説家。77年のデビュー以来『キマイラ吼』『陰陽師』シリーズなど話題作を続々と発表。また格闘技をテーマにした『餓狼伝』を20年にわたり執筆するなどその格闘技への造詣は広く深い。99年『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。ほか代表作に『陰陽師』など。

――獏さん！　先日観戦された『PRIDE』ラスベガス大会の、"獏さん流"の感想をうかがわせてくださ〜い！

獏　いやあ、よかったよ。本当によかったねえ……（心の底からしみじみと）。

――ああ、獏さんがそんなに大満足なら、なんだかボクも幸せになってきました（笑）。そのラスベガス大会は、某雑誌の取材で行かれたそうですけど。

獏　正確には、俺が「ラスベガスに行く！」って言ったら、「じゃあ、ウチでやりましょう」って。だから雑誌で企画がなくても、俺は行ってたわけなんだよ!!

――さすが獏さんです！

獏　……ただあ、今回のカードを見たときに「もう、いいんじゃないの、この試合は？」みたいな感じもあったよねぇ。

――ちょっと拍子抜けするカードがあったということですか？

獏　だってマーク・コールマンとヒョードルにしたって、過去に結果が出ているしねえ。申し訳ないけど「コールマンかよ!?」って気分はありましたねぇ。あとはランデルマンとショーグンでしょ？「おいおい、これはどうなってるんだよ！」って思っちゃってさあ。

――じゃあ、航空チケットやホテル予約するのに、二の足を踏まれたとか？

獏　……それがもうとっくに買っていたんだけどねえ。

――ワハハハハ！　最初のカードが発表されたのが8月20日だから、その前に購入されてたんですか!!

獏　でもね、結論から言うと、その二試合は凄くよかったんだよねえ。タックル、タックル、タックル。俺はもうこれだけ！　あんなに不発に終わりながらも、タックルし続けるコールマンの不器用ぶりとか。

――あの泥臭さが魅力ですから。

獏　娘さんをリングに上げる姿とか。

――TBSも裸足で逃げ出す家族愛も魅力ですから。

獏　試合前日にカジノの横で、現金をチップに替えている姿もよかったよねえ。

――まあ、そのデタラメぶりがあのオヤジの最大の魅力ですから（笑）。

獏　そういえばさ、（ヴァリッジ・）イズマイウもなんだか騒いでいたらしいんだよ。

――え！　あの"俺節"イズマイウが!?

獏　いましたよ。イズマイウはカメラマンの長尾（迪）さんに「オレが関係者スペースに入れるようにしてくれ！」って大声で頼んでたらしいんだけど、結局無理だったみたいだねえ。

――そんなデタラメな連中はともかく（笑）。獏さんの印象に残った選手は？

獏　素晴らしかったのはジョシュ！　彼はいつもの入場テーマで登場して、歌まで歌っていたじゃない？

――アニメ「北斗の拳」の主題歌『愛をとりもどせ』。

獏　アメリカであの曲を流すってことは、いままでも日本向けのサービスじゃなくて、彼は本物のオタクだという証明ですよ。これにはもう、大感激したねえ。

――獏さんが大感激！

獏　だから会場で「ジョシュ、おまえは偉いっ！」って大声援を送りましたよ！

――獏さんが大声援!!

獏　そして思わず、ホテルのロビーでジョシュと一緒に写真も撮りましたから！

――しまいには追っかけですか！（笑）。しかし、ジョシュは獏さんのことはご存知だったんじゃないですか？

獏　うん。なんか知ってたみたいよ。「『餓狼伝』知ってるか？」って聞いたら、「オー！　ガロウデン！　カクトウギ！　マンガ！」って反応してたから。小説じゃなくてマンガで知ってたみたいだけど（笑）。

――興行の感想も聞かせてください！

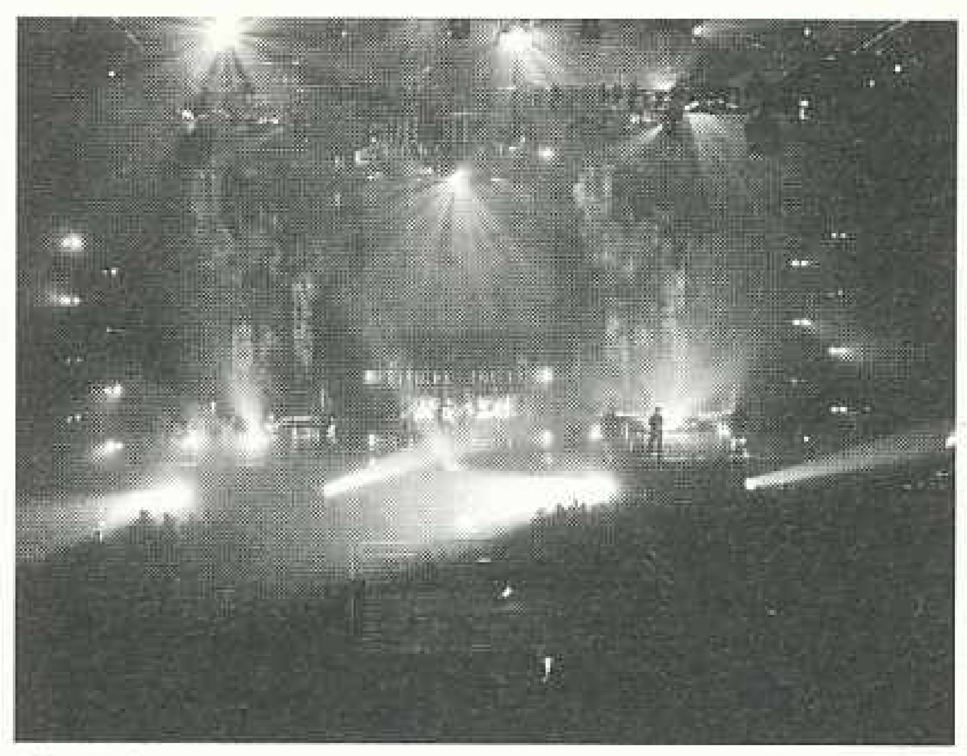
獏　いや、もうオープニングが本当に素晴らしかったねぇ。あれには……さすがの俺も涙を拭いましたもん。

――感涙モノのオープニング！

獏　うん。『PRIDE』のテーマ曲が場内にかかって、ビジョンにこれまでの『PRIDE』の風景がバーッと映し出されたとき、「日本から発信したんだぞ！」って感慨深くてねぇ……（やっぱりしみじみと）。周りの関係者もあそこでホロッときたみたい。だって『PRIDE』はいろんなことがあったじゃない？

――本当に長い道のりでしたね。

獏　前社長の森下さんが亡くなったり、地上波がなくなったり、消えた選手もいっぱいいるし……もう死屍累々なわけですよ！　そのすべてが「無駄じゃなかったんだなぁ〜」と思ってさ。


どんなもんじゃ〜い！　これが（めったに泣かない）獏さんを泣かせたラスベガス大会、渾身のオープニング！　演出機材も日本から運ぶ極上の"やりすぎ感"が大爆発。

――これぞ"格闘文化"の日本発世界でしたね。

獏　本当にねぇ。だから自分でも思いがけない感情がドッと溢れちゃったけど、その涙は『PRIDE』だけの思いじゃないんだよ。パンクラスであるとか、修斗であるとか、『kamipro』は取材に行かない大道塾であるとかさぁ（笑）。

――つまり、日本の総合格闘技の歴史が詰まった一瞬に心を揺り動かされたと。

獏　うん。いろんな格闘技があって、それぞれの歴史があって、とうとうラスベガスで大会をやるまでになったという。

――ただ、PPVではその雰囲気が伝わりきらなかったんですよ。

獏　現地は凄い盛り上がりでしたよ！　アメリカ人は本当にオカシイんじゃないか？　ってくらいはしゃぐんだよねぇ。

――獏さんと別次元の熱狂の仕方で（笑）。

獏　まあまあ、とにかく今回は歴史の1ページだったし、この記念すべき一回目を生で観なきゃあダメですよ！

――二回目で生観戦しても、その奥深さは伝わってこないもんですか？

獏　それは伝わらないよねえ。二回目を観たって、まったくダメだよね。一回目だからこそいろいろな意義が浮かび上がるんですから。二回目はねえ、こんなにドラマチックにはならないんじゃないの？

――ああ、だったら2月には二回目のラスベガス大会が予定されていますけど、あんまり行かないほうが……。

獏　（さえぎって）そうはいっても、やっぱり楽しみだよねえ……。次はミルコだよ！　ヴァンダレイが出るんだよ!!

――なんだかんだ言いながらも、獏さんは当然、自費観戦されるわけですね（笑）。

獏　もちろん、行きますよお〜!!

【06年10月25日　電話にて取材】



なんとPRIDE初観戦!

日米両国のエンターテインメントを熟知した男が『PRIDE. 32 "THE REAL DEAL"』を語る!!

長州力には20年間も"おいしい思い"をさせてもらったよ!!

フロリダ
↓
新日本プロレス
↓
ジャパンプロレス
↓
全日本プロレス
↓
新日本プロレス
↓
WJ
↓
新日本プロレス

"自由人"タイガー服部のレフェリー放浪記

「か〜ぜまかせぇ〜」全米アマレス選手権二連覇の強豪が、70年代の自由なアメリカの空気にヤラれ、やがてプロレス界へ。長州力&マサ斉藤の盟友、キャリア30年のタイガー服部がフリーダムで風来坊なレフェリーライフを激白!

聞き手/堀江ガンツ　構成/真下義之　designed by shiraki (TwoThree)



10·21 PRIDE ラスベガス大会

“世界を駆けめぐる”史上最強の格闘技ファン

真の“勝者”は猪さんだった!!

――今日はキャリア30年の服部さんにたっぷりプロレス人生を語っていただきたいと思います!

タイガー　ま、なんでも聞いてください（笑）。

――よろしくお願いします。まず服部さんは学生時代にレスリングで活躍されていたんですよね?

タイガー　あ、僕は明治大学のレスリング部出身でね。それで卒業して、すぐアマレスの世界選手権のツアーに出たの。まずアルゼンチンに行って、そこからコロンビア、ブラジル、メキシコってず〜っと巡ってね。

――アマレスで世界を回ってたわけですか。

タイガー　うん。ず〜っと転戦してたよね。で、最後はロスからサンフランシスコへ行って、そこで解散したんだけど、俺は最初からアメリカに残るつもりでいたから。あの〜松浪健四郎って知ってる?

――もちろん知ってますよ!「演壇から議員にコップの水をかけた」ことでおなじみのチョンマゲ議員さんですよね（笑）。

タイガー　そうそう（笑）。あいつと俺でアメリカに残ったの。それから、もう一人、いまアマレスを教えてる木口道場の木口（宣昭）さんもいたな。あ、そういえばいま、木口さんの生徒が凄く強いらしいじゃない。

――ええ。いまをときめくスーパースター、五味隆典や須藤元気の育ての親ですからね。

タイガー　本人はたいした選手じゃなかったんだけどね（笑）。

――そうでしたか（笑）。

タイガー　それから山本KIDの親父（山本郁榮）もいたなぁ。山本にはこないだ永田（裕志）から「服部さんに会いたがって人がいるんで行きましょう」って言われて再会したんだよ。いや〜、懐かしかったなぁ。

――いや〜、服部さんのアマレスコネクションは凄いですねえ。

タイガー　木口さんは法政大学で俺の一期上。山本と松浪は日体大の同級生で俺の一期下なんだよ。……でもさ、山本と松浪とは手が合わないんだよね（笑）。

――あ、そうでしたか。

タイガー　しかもいまだに合わないらしいよ。

――ダハハハ!

タイガー　で、そのあとはアメリカで転戦してさ、シカゴで日本レスリング協会の八田（一朗）会長の息子さんのアシスタントコーチを一年ぐらいしてたんだよね。

――服部さんはもともとアメリカに残ろうと思ってたんですか?

タイガー　うん、残ろうと思ってたよ。高校3年ぐらいからどっか海外行こうと思ってたから。

――それはレスリングで生計を立てようとか、アメリカで勝負したいとか、そういうことじゃなく?

タイガー　そうじゃない。ただ漠然と「アメリカに住みたい」って。当時でいうヒッピーみたいなもんだよな。

――いまふうにいうと"自分探し"でしょうかね。

タイガー　どっかに旅に出たいな、って思ってたし。日本でこのまま一生終わるのは嫌だ、って思ってたからさ。だからそれから日本には、10年ぐらい帰らなかったよ。

――英語は現地で覚えられたんですか?

長州とは、最初から手が合ったんだよな アマレスで共通の知り合いも多かったしね

タイガー　そうだね。行った当初はなんにも話せなかった。

――その頃って、ウッドストックとか、ヒッピームーブメントが一番盛り上がってる頃ですよね。

タイガー　そうそう。あの当時はベトナム戦争の真っ最中だからさ。どこへ行ってもヒッピーばっかりだった。いまならビートルズなんかも好きだけど、当時はアメリカの音楽が大嫌いで、演歌しか聴かなかったしね。

――アメリカで演歌を聴かれてましたか（笑）。

タイガー　で、その頃、松浪はニューヨークで柔道の教室を教えてたんだけど。彼が日本に帰んなきゃいけなくなって、俺があいつの道場を引き継いで二年ぐらい教えてたんだよね。

――そのときに、ニューヨークに行かれてるんですか。

タイガー　それでニューヨークに来て二年目くらいに、フロリダでアマレスの全米選手権があったからタンパに行ったわけ。そしたらそこで、ヒロ・マツダさんに会ったんだよ。



TIGER HATTORI

――あ〜。やっとプロレス関係者の名前が出てきましたね。

タイガー　そこで俺は優勝したんだけど。じつはその大会は、『チャンピオンシップレスリング・フロム・フロリダ』っていう地元のプロレス団体がスポンサードしてたんだよ。

――プロレス団体がアマレス大会を開催してたんですか。

タイガー　で、そのときの社長がエディ・グラハムだったんだけど、エディから「プロレスラーにレスリングを教えてやってくれ」って話になってさ。俺も独身だったし、フロリダは気候はいいしさ（笑）。それで今度はフロリダに残っちゃったわけ。そこでマツダさんと柔道とかレスリングを教えてたんだよね。

――そこでやっとプロレスとの接点ができるわけですね。

タイガー　そこから、フロリダにはいろんなプロレスラーが来て一気に世界が広がったよね。マサ（斉藤）さんが来たり、藤波に鶴田に天龍。猪木さんとか馬場さんも、みんなフロリダに来たよね。

――そうそうたるメンツですね。

タイガー　その流れで、長州力にもフロリダで初めて会うわけ。長州は専修大学で学校は違うんだけど、やっぱりアマレス人脈で共通の知り合いがいっぱいいたんだよね。

――そこでもレスリングネットワークが役に立ったと。

タイガー　だから長州ともすぐに仲良くなったし……凄く手が合ったんだよな。ただ長州はフロリダに一年ぐらいいてから、カナダに転戦しちゃったんだけどね。で、僕のほうは日本から来た選手の通訳やったり。マサさんとか高千穂（明久＝のちのグレート・カブキ）さんのプロレスのマネージャーをやり始めたりで忙しくなってきてた。……それから、おもしろいのは俺が住んでたマンションの上に、高校卒業してきたグリーンボーイのハルク・ホーガンがいたわけ。

――ホーガンと同じマンションに住んでましたか（笑）。その頃ってホーガンがプロレスラーと同時にロックスターを夢見てた頃ですね。

タイガー　そうそう。で、マツダさんの道場に練習に来てたんだけど、一日目にすぐ脚を折っちゃったんだよ。でもそのあと半年間、ずっとパンプアップして、また戻ってきた。だからホーガンは最初の頃からよく知ってたし、俺がレスリングを教えてたから。

――でも、服部さんはもともとプロレスに興味はあんまりなかったんですか?

タイガー　よくわかんなかったね（笑）。最初、入って半年ぐらいプロレスが全然わかんなかった。マサさんにしょっちゅうからかわれてたよ。

――じゃあ、マサさんにプロレスのイロハを教わったわけですね。

なんとPRIDE初観戦！

日米両国のエンターテインメントを熟知した男が『PRIDE. 32 "THE REAL DEAL"』を語る!!

タイガー　でも結局、俺はプロレスを凄いエンジョイして今日まで来ちゃったよね。人間好きなことして一生過ごすのが一番いいじゃない？　俺のプロレス人生はマサさんや長州という人間と知り合って、そこからはもう導かれるままだよね。

――プロレスの水が合ってたんでしょうね。当時から英語はしゃべれたんですか？

タイガー　ま、覚えながらという感じだよな。

――マサさんは「英語はベッドイングリッシュで覚えた」らしいですけど、やっぱり服部さんもそのクチですか？（笑）。

タイガー　それはどうかわかんないけど。俺もマサさんとずっと一緒にいたからさ。自由な時代だったし、エイズもない時代だったからさ。みんな気ままに遊んでたよね。あとは想像してよ（笑）。

――容易に想像できますね（笑）。

タイガー　そこからはキラー・カンのマネージャーやったりさ、ミスター・ヒトさん、桜田（一男＝ケンドー・ナガサキ）さんもやったなぁ。

――一番印象的なのは誰ですか？

タイガー　やっぱり、マサさんかな。それからグレート・カブキもかなりオーバーしたからね。カブキとはニューヨークのＭＳＧ（マジソン・スクエア・ガーデン）にも行ったし。

――マネージャー業は具体的にどういうことされてたんですか？

タイガー　メインはテレビのインタビューだよね。あの頃はまだ強烈な反日感情があったし。とくにフロリダはサウス（南部）だから、あっちは田舎っぺばっかじゃん？　彼らは純粋のジャパニーズは好きじゃないから。こっちも試合中にちょっかい出したり、乱入したり、日本の国旗を相手に被せちゃったりね。

――インタビューは英語でやられてたんですか？

タイガー　うん。とくに俺みたいにあまり英語がうまくないけどちょっとしゃべれる、ってタイプは、アメリカ人がかなりヒートするんだよね（笑）。完璧な英語だと「本当の日本人じゃない」って思われるけど、ちょっと日本語を混ぜると「ホントに日本から来てるヤツだ！」って。

――昔のマネージャーって、日本人キャラでも実際は日系アメリカ人だから、英語がペラペラというか母国語な人ばかりでしたもんね。

タイガー　そうそう。ああいうのは結局、現地の人だから。ああいうスタイルは俺が最初にやり出したんじゃないかなぁ。

――フロリダにはいつ頃までいらっしゃったんですか？

タイガー　10年はいたねぇ。でもこのままいたら絶対にキ●●イになって死ぬと思って、ニューヨークに戻ったの。

――ガハハハ！　そんな怠惰な生活を送ってたんですか。

タイガー　いや～。だって気候はいいし、星はキレイ、女性もキレイ。いま遊ぶものもいっぱいあるしね。いまは西村（修）も住んでるけど、本当

フロリダにこのままいたら、キ●●イになって死ぬと思って



どうだい？　このゴー・フォー・ブローク！な面構え。タイガー服部、アメリカでのマネージャー時代、バックステージでの超貴重な4ショット。左から新間寿、キラー・カン、マサ斉藤。そしてタイガー服部！



やっぱ。ダメで

10・21 PRIDE ラスベガス大会

“世界を駆けめぐる”史上最強の格闘技ファン

真の“勝者”は猪さんだった!!

にいいところだよ。それでニューヨークに戻ったあたりから、本格的に日本に来るようになったんだよね。

――それが80年代前半ぐらいですか？

タイガー　うん。それからは日本と行ったり来たりを20何年間やってる。日本にもマンションはあるけど、基本はニューヨークが主体だから。

――日本での最初のリングは、新日本になるんですよね。

タイガー　じつはフロリダ時代にちょっとだけ全日本プロレスに行ったこともあるんだよ、テリー・ファンクとかドリー・ファンク・ジュニアがフロリダにいたとき、馬場さんから「おまえも一緒に来てくれ」って言われて、レスラーを5人ぐらい連れてったことあるよ。

――それは通訳も兼ねて、みたいな感じですか。

タイガー　うん。全日本と契約したわけじゃないけど、レフェリーも何試合かやったね。で、そのあとに長州と新日本に行ったの。本格的に新日本のシリーズにちゃんと入るってのは82年ぐらいかな。シリーズが始まるときには外人レスラーと一緒に来日してたね。

――そこから、長州さんが維新軍を作り、ジャパンプロレスを設立するわけですけど。ジャパンのときも長州さんから声をかけられたんですか？

タイガー　うん。あのときも長州が誘ってくれたね。

――その維新軍、ジャパンプロレス時代って、長州さんのレスラー人生のピークみたいな時代ですよね。

タイガー　でも当時の浜さん（アニマル浜口）と長州さんは、もう真剣なんてもんじゃなかったね。気持ちは毎日シュートしてたよ。そこに谷津（嘉章）とかさ、馳（浩）、（佐々木）健介なんかがついていきて。もちろんマサさんもいてね。ジャパンプロレスは凄くピュアなチームだったよね。

――服部さんはずっとレフェリーで参加してたんですよね。

タイガー　そうだね。ジャパンのオフィスが恵比寿にあったから、ちょうどこのへん（新日本プロレスの事務所がある渋谷）に住んでたよ。そういえば健介がジャパンに送ってきた履歴書をよく覚えてるんだけど、見たら凄いデブでさ「なんだこりゃ～？」って。

――ガハハハ！「こりゃあ、使えねえ」って。

タイガー　当時は130キロぐらいあってさ。でもいまやその健介も大スターだもんな。俺なんか相手にしてもらえないよ（笑）。

――ダハハハ！　ジャパンはみんなアマレス人脈が中心で集まってたみたいですね。

タイガー　そこがまたよかったじゃない？　長州なんかそれほど頭がいいかわかんないけど大学の運動部で育ってるから、同じ時代に同じ釜の飯を食ってると、何年経っても関係がうまくいくんだよね。

――大学の先輩後輩って、そういう部分が脈々とあるんですね。

タイガー　だから猪木さんや藤波さんとかは若いときからプロレス界に入ってるけど……きっと信頼関係の面では凄い苦労してると思うよ。藤波さんもパッパッパッて自分を本当にわかってくれる、ツーカーな相棒はいないじゃん？

――仕事のやりやすさが違う、と。

タイガー　ま、同じような経験をしてるからこそ、わかる部分もあるし、



84年、長州＆A・浜口がロスでマサさんと密会、マサさんの「骨は俺が拾ってやる!」の言葉を胸に新日本離脱→ジャパン・プロレスを旗揚げ!　タイガー服部も小林邦明、寺西勇、キラー・カン、そして「目ぇつぶって30秒」でおなじみ谷津嘉章らと合流し全日本プロレスへ。驚異のハイスパートレスリングで一大ブームを築いた。

ジャパン時代の長州？ もう、真剣なんてもんじゃなかったね!!

なんと PRIDE 初観戦！

日米両国のエンターテインメントを熟知した男が『PRIDE. 32 "THE REAL DEAL"』を語る!!

WJのときは一年ぐらい給料がなかった……谷津は逃げるのが本当に速かったよなぁ〜

考え方も似てくるんじゃないの。

――プロレスに入ってからもマサさん、長州さん、谷津さんは練習でもよくアマレスをやってたらしいですね？

タイガー　やってたねぇ〜！

――練習だと誰が一番強かったんですか？

タイガー　長州が一番強かったんじゃないかな。

――ほう、長州さんですか！

タイガー　ま、本人たちみんな「自分が一番強い」と思ってるんだけど(笑)。

――やっぱり（笑）。

タイガー　それぞれ世代が違うから、本当のところよくわかんないんだよ。

――服部さんも一番楽しかった時代ってその頃ですか？

タイガー　いやいや、俺はいつだって楽しいよ！　でもその頃は長州がまだ独身で一番暴れてた頃だから、格別に楽しかった時代だったね。

――長州さんの羽振りなんかも一番よかった頃ですか？

タイガー　もちろん羽振りもいいしね。それこそ、長州は「これ、なんのお金かわかんない」っていう大金を持って遊んでたもんね。

――なんか長州さんは、自宅の大きい壷かなんかに札束をごっそり入れてて、必要なぶんだけ無造作に出してた、って話を聞いたことがあるんですけど。

タイガー　そうそう。長州は凄い面倒くさがりやだからさ。当時は、家に帰ると小銭とか札とかをその壷にブン投げてたね。

――それで出かけるときはそこから持っていくと。カッコいいですねぇ！

で、練習もガッチリやって、夜はたっぷり遊んで（笑）。

タイガー　いま考えると凄いタフだよな〜。

――その頃のジャパン勢って、みんな相当モテたんじゃないですか？

タイガー　とくにサンペーちゃん（小林邦昭）とかね。

――ガハハハ！　小林さんは誰に聞いても、みんなが言いますね（笑）。

タイガー　そうだねえ。でも俺はそんなことないですから。

――そうでしたか。で、ジャパンは全日本から新日本に戻られたわけですけど……。

タイガー　それまで全日本で3年ぐらい試合をやってて、そのくらいになると抗争も一区切りって感じだったし、テンションも下り坂になってきてたからね。その一方で、新日本が長州軍団を必要とするようになってきてて。

――抗争の賞味期限が来た、と。

タイガー　あのときは、みんないろんなこと言ったけどね……。でもビジネスとして考えたら、抗争がちょうどしぼんできた時期だった、そう考えたらいいと思うよ。でも日本人はどうしても感情論でモノを見るじゃん。だけどWWEのビンス（・マクマホン）なんかあれほど嫌ってた（元WCWの）エリック・ビショフを使ってたじゃない？

――たしかにそうですね。

タイガー　本当は殺したいぐらい嫌いなのにさ（笑）。でもプロレスはビジネスじゃん。日本はそれができないから、どんどん煮詰まってるんだと思うよ。アメリカだったら、あんなの常識の範疇だよ。

――当時、マサさんが全日本との契約書を「こんな紙切れ一枚でレスラーは縛れない」って言って『週プロ』で叩かれてましたけど（笑）、あれはアメリカのレスラーの普通の感覚だったんですかね。

タイガー　まぁ。みんなベビーフェイスになりたいから、移籍のときはもっともなことも言うけどさ、辞めたものは辞めたんだから。

――普通の会社の終身雇用みたいな気持ちでいると「裏切った、裏切らない」ってなりますけど、プロレスのテリトリーって考えたらスッキリしますね。

タイガー　でもさ、みんな「出てった人間はどうのこうの」とか言うけど、〝出る魅力もない男〟がいるから会社がダメなんだって！　いまの外資系の会社なんかみんなそうじゃない？

――そうですね。わらしべ長者みたいにキャリアを積んで、転職することで収入や地位を上げていったり。

タイガー　この業界、閉鎖的にモノを考えたら、人に夢を売る商売なんてできないよ。俺はそう思うな。嫌だったら最初から参加しなきゃいいんだよ。このビジネス一寸先はわかんないしさ。でも俺はジャパンのときに長州に誘ってもらって、それから20年ぐらいはおいしい思いもしたし。当時、長州についてきた人間だって、その頃はみんないいお米（お金の意）もらってたしさ。だから、俺は長州にもの凄い感謝してますよ！

――その気持ちは変わらない、と。

タイガー　だから、いま長州が出戻りで現場監督って立場でやってるけどできるだけヘルプしようと思ってます。でも長州もインディーの選手を使ったりとか、かなり考え方が変わったよね。

――一番、そういうのを嫌っていた方ですからね。

タイガー　やっぱり長州もWJで苦労したからねぇ。

――いまや、インディーの選手を中心にした興行をやってる（『LOCK UP』）ぐらいですからね。でも、二年ぐらい前までは本当にどこ行っても「WJの話聞かせてよ」って言われましたからね。

タイガー　あ〜。それはお米の話？

――ま、そうですね（笑）。当時、武藤（敬司）さんも全日本に移籍した時期はいろいろ大変だったじゃないですか？　だから会うたびに「WJの話ない？」って「WJの話聞くと元気出てくるんだよ」って（笑）。

タイガー　でも実際……大変だったなぁ（ポツリと）。

――WJの現場って、そんなに大変でした？

タイガー　大変だったねぇ。だって俺も一年ぐらい給料なかったもん。

――一年間、無給！

タイガー　ま、台所にお米がないんだからしょうがないよ。でも、しがらみはあったんだろうけど。嫌だったら最初から参加しなけりゃいいんだから。いまさら、ああだこうだ言ったってしょうがないよね。

――でも、谷津さんなんかは途中ですぐ消えちゃいましたね（笑）。

タイガー　あいつはホント速いよなぁ〜。スカすのが本当に速いんだよ！（と力を込めて）。

――ガハハハ！　谷津さんはさすがですよね。

タイガー　さすがだよね。でもあれも憎めないんだよなぁ。

――あのキャラですからね。天龍さんが「谷津とは組んじゃダメだ」ってよく言ってますけど（笑）。

タイガー　谷津っていえばさ、千葉に谷津の道場があるじゃない？

――あ、そうみたいですね。

タイガー　最近、西村がその近くのマンションを買ったんだよ。サーフィンとかできて、凄くいいところでマイク真木さんとかも住んでるの。

――西村さんの日本用のマンションですね。

タイガー　うん。俺も一緒に不動産屋行って「買え、買え」って言ってさ。それでそのあと、西村に谷津のとこへ「すいません。谷津さんの道場に入門したいんです」って電話させてね(笑)。

――ガハハハハ！

タイガー　谷津は群馬に戻っちゃったでしょ。本当にアイツは何考えてるかわかんないよな。

――いまだに事業への意欲もあるし、「ガチンコやらせたら俺が一番だ」って言ってますけどね（笑）。

タイガー　あ、まだ言ってるの。

――こないだも「いまでもまだ、小川（直也）あたりには勝てる」って。

タイガー　いや〜。意外と勝てるかもわからんよ（笑）。

――でも服部さんもケンカは相当強かったんですよね。マサ斉藤さんがテレビの実況席で「ケンカ最強はタイガー服部だ」って言ってたらしいですし（笑）。

タイガー　そういうのはねぇ。ま、昔

10·21 PRIDE ラスベガス大会

“世界を駆けめぐる”史上最強の格闘技ファン

はやんちゃもしたさ。

——最近は六本木方面で暴れてないんですか?

タイガー　いまやったら俺なんか殺されちゃうよ。でもアメリカでレスラーに挑戦してきた素人と試合やらされたこともあるけどね。

——あ、服部さんが試合をやられてましたか。

タイガー　マサさんに「あいつ素人だから無茶苦茶にしてやれ!」って言われてね。それでやっちゃったこともあるよ。

——素人さんをシメるために、ですか。

タイガー　昔はよくあったよ。マサさんは「プロレスラーはいつもコンディションを万全にして、やらなきゃいけないときは日本刀を抜く気持ちを持ってなきゃいけない」ってよく言ってたし。俺もこの業界をよく知らないヤツに、かき回されるのは好きじゃないからさ。

——プロレスはナメられちゃいけない、と。

タイガー　アメリカでサバイブするのは大変なんだよ!　とくに日本人なんか、どこの馬の骨だかわかんないんだから。俺なんか何回も暴動になっちゃったり、ケンカしたり、裁判所に連れていかれたこともあるしさ。

——マサさんなんか服役もしてますからね。しかも服役してるうちにトレーニングして凄い身体になっちゃって(笑)。

タイガー　ハハハ!　マサさんは本当におもしろいよなぁ〜。

——話を戻すと、長州さんと服部さんのコンビはもう30年になるんですね。

タイガー　うん。でも長州は厳しいとか怖いってよく言われるけど、心根は優しい男なんだよな。……でもこの業界、10人いたら9人が敵くらいじゃないと商売できないよ。

——わがままなプロレスラーを手なずけるには、そういう人じゃないとできないでしょうね。

タイガー　やっぱり長州みたいな独裁者がいないとさ。だってレスラーは全員、自分がメインイベンターだと思ってるから。しょっぱい試合するヤツもみんなそう思ってる。エゴの塊だよ!

——そういう人を一つの興行に束ねるんですからね。

タイガー　だから長州みたいのが必要なのよ。雷落としてさ、ワーッ!　て怒ったりさ。猪木さんも、ギャーッ!　て怒鳴り散らしたりとかやるじゃない。

——しかし、よく新日本は長州さんを戻しましたよね

タイガー　やっぱり必要だったんだろうね。だから猪木さんがそれをOKしたのは、猪木さんはこのビジネスをよく知ってるんだよ。

——プロレスの本質をよく知っていると。

タイガー　ただ長州はヘッドブッカーだけど、あれで何年保つかわかんないよ。しかしまた、厳しい時代にブッカーになったよねぇ。

——もう、プロレス界全体が厳しいですもんね。90年代後半ぐらいから景気がかなり崩れてきましたよね。

タイガー　でも崩れるのも早かったよね。新日本なんかブッチャー(橋本真也)がトップの頃なんてハウス(観客動員)も凄かったじゃん。ドームなんか一週間ぐらいでパッとソールドアウトになったこともあるしさ。

——当時は本当にギッシリ超満員でしたもんね。ところで橋本さんといえば、あの〝1・4事変〟と言われた小川vs橋本戦(99年1月4日/東京ドーム)も服部さんが裁かれてますよね。

タイガー　あ、あの試合はやってるね。あの二人の試合は、ほとんどレフェリーやってるんじゃないかな。

——一番問題になった〝1・4事変〟は、やっぱり会社内の圧力とかがあったんでしょうか?

タイガー　ん?　あるんじゃない?　ま、べつにアレはアレでいいんだよ。そのあと、ドラマとしてもつながったしさ。それに俺はレフェリーだけど……アレは俺の責任じゃないもん!

——ガハハハ!　俺は知らない、と。でもそういう問題ってのは大なり小なりあったんですかね。

タイガー　あるよ。いっぱいあるだろう。でも本人たちのコンディションもあったろうし。……俺はこの仕事、35年やってるから、ああいうのは何回も見てるよ。プロレスの試合なんかいつどう転ぶかわかんないじゃん。

——でも、ああいう試合で裁定を下すってのは大変じゃないですか?

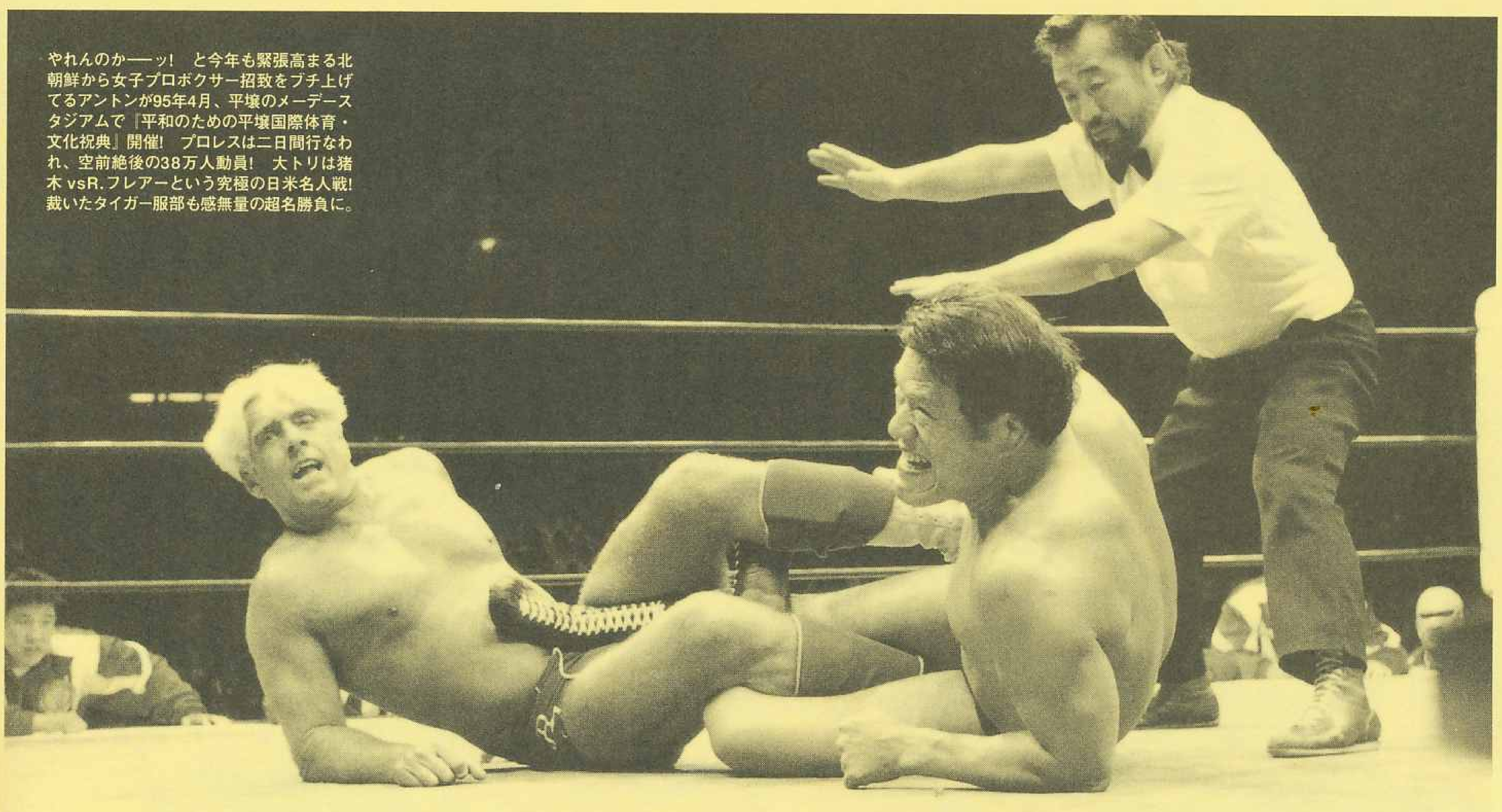
タイガー　ま、その都度その都度の流れに任せてるから。橋本と小川の試合はいっぱいありすぎて思い出せないんだよなぁ……。

——わかりました。では服部さんが見てきた選手で一番うまいレスラーって誰ですか?

タイガー　たぶん、武藤が一番うまいんじゃない?　ある種の天才だよね。頭の中の感性と、自分の動きが一致するのはあいつが一番凄いよね。感性はあっても力がついてこない人もいるし、一本調子のヤツもいるじゃない。

——アドリブ的な発想もあるし、身体も大きいですし。

タイガー　だから凄いインパクトあ



やれんのか——ッ!　と今年も緊張高まる北朝鮮から女子プロボクサー招致をブチ上げてるアントンが95年4月、平壌のメーデースタジアムで『平和のための平壌国際体育・文化祝典』開催!　プロレスは二日間行なわれ、空前絶後の38万人動員!　大トリは猪木vsR.フレアーという究極の日米名人戦!　裁いたタイガー服部も感無量の超名勝負に。

なんとPRIDE初観戦！

日米両国のエンターテインメントを熟知した男が『PRIDE. 32 "THE REAL DEAL"』を語る!!

ミスター高橋本？ 彼はあの本を書いたことで彼のファミリーのことも裏切ったと思うよ

るよ。でも武藤は猪木さんの教えのレスリングじゃないんだよな。そういう意味で、やっぱり全部の要素を持ってるのは猪木さんだよ。本当に凄いよ、あの人は。

――試合を裁いてても「なんだ、この人？」ってのはありますか。

タイガー　あるよ！　普通だったらこの程度でやめるかなと思っても、予想以上の範疇までどんどん踏み込んでくるもんな。まだまだ元気だから、これからひと暴れするんじゃない？

――では猪木さんの試合で一番印象深いのは？

タイガー　猪木さんというか、プロレスの試合で一番思い出があるのは北朝鮮での試合だね。

――あ～。北朝鮮ですか！

タイガー　北朝鮮でのリック・フレアーと猪木さんの試合（95年4月29日／平壌メーデー・スタジアム）だよね。20万人ぐらい集まった会場の雰囲気も凄かったし、あの中であれだけの試合をして……「本当にこの人たち天才だな」って思ったよ。

――観客の歓声も凄まじかったですよね。

タイガー　凄いよ～。でもあの人たちは感性が一致してるんだよな。だってフレアーと猪木さんって、お互いに口なんか利いたことないんだよ。

――ハハハ！　それも凄い話ですね。

タイガー　もう、信じられないよねぇ。全然プロレスを知らない人が20万人ぐらい入ってるんだよ。あの光景はちょっと忘れられないなぁ。あれこそ本当のプロレスだよ！

――しかも、プロレスがない国で、ですからね。

タイガー　最近は忘れちゃうことのほうが多いけど、あの試合は忘れられないね（笑）。

――忘れちゃったら服部さんは引退後に本は書けないかもしれないですね（笑）。……そういえば、かつて同僚だったミスター高橋さんが、いわゆる暴露本を出版されましたけど、



どういうふうに思われました？

タイガー　う～ん（と考え込んで）。……これはさ、あくまで俺の個人的な考え方だよ。彼もいろいろな諸事情があって仕方なく書いたのかもわかんない。でも俺にはファミリーがいるし、娘と息子も大学まで出した。でもそれは全部、プロレスでお米を作ったからできたことなんだよ。やっぱり一番裏切れないのはファミリーだと思う。でも彼はあの本を書いたことで、彼のファミリーも裏切ったと思うよ。

――プロレスを裏切ったことで、自分の家族も裏切ったと。

タイガー　これは他人を裏切るよりひどいと思うよ。それにプロレスは俺たちの飯の種じゃん。違う？　どうやって学校行かせてるの？　どうやって飯食わせてるの？　どうやって家のローン払ってんの？　一生懸命プロレスを守ってるからじゃないの？

――たしかにそうですね。

タイガー　俺はみんなが言う、プロレスの欠点とかもみんなわかるよ。あなたたちも、そういう話を聞きたいのかもしれないけどさ（笑）。俺自身はプロレスに何もないもん。俺、こんな素晴らしい職業ないと思ってるよ。それを根底を覆すようなことしたら、「なんであなたはそこにいたの？」って。彼がなぜそこまで書かなきゃいけない状態に陥ったのか知らない。他人をとやかく言えないけどさ、俺個人の考えはそうだな。

――よくわかりました。

タイガー　でもね。この業界は麻薬ですよ。みんなプロレスにとり憑かれてるんだよね。小さな団体でお客さんがいなくても、ギリギリの生活で取っ払いでお米もらってもやりたい気持ちはわかるよ。

――やっぱりリングは快感があるんでしょうね。レフェリーも快感はありますか？

タイガー　あるよ～。そりゃあ！　いい試合したときはもの凄い達成感があるからね。

――武藤さんも「レフェリーは俺たちの指揮者であり、解説者だ」って言ってましたからね。

タイガー　でもさ、この業界を引退して、歳を取ってもちゃんとした生活できるぐらいのことはしないとな。ま、俺はお米はないけどさ。ベンツ持ってるわけでもないし。贅沢してるわけでもないけど。日本とニューヨークを行ったり来たりで、楽しく毎日遊んでるよ（笑）。

――でもそれって、若い頃に夢見た生活ですよね。

タイガー　ま、楽しくやってるよ。自分がやりたいことはできてるからね。日本に6ヵ月ぐらいいてニューヨークに6ヵ月ぐらいいて。あとはどっかに行ったりね。

――ちなみに9・11のワールドトレードセンターのテロのときはニューヨークにいらっしゃったんですか？

タイガー　俺は日本にいたんだけど、大変だったよ。二日間、家族とコネクトできなかったもん。ウチの娘はダウンタウンにいたから大変だったみたい。二時間ぐらいかけてセントラルパークに逃げたって言うしね。

――それは、大変でしたね。

タイガー　それで、3日目ぐらいに西村と一緒にニューヨークに帰ったんだよ。それで……五紀ちゃんって知ってる？

――ええ。元女子レスラーの山崎五紀さんですね。

タイガー　ダウンタウンで日本料理屋やってるの。そこに板前さんを4人ぐらい集めてさ、巻き寿司いっぱい作って。ダンボールに10個ぐらい作ったかな？　それでトラックで俺と西村と五紀ちゃんともう一人で差し入れに行ったんだよね。事故現場に持ってったら、中に入れてくれたんだよ。もう、消防の人とかみんな疲れて、ひどい顔してるんだけど……。みんな喜んで食べてくれたよね。

――それはあんまり表に出てない話ですよね。

タイガー　そういうこともあったけどね……。ま、俺のポリシーは「プロレス＝ライフ」だからさ。まだまだ頑張りますよ。俺も本格的に5月から新日本に戻ってきたけど。今年の夏のG1では正直言って、それほど勢いが感じられなかった。でも先月の両国大会ぐらいからちょっとムードが変わってきてるんだよね。

――徐々に上向きになってますか。

タイガー　うん。11月のツアーもそんなに規模は大きくないけど、小さいながらもまとまってきてる。活力が出てるのがわかる。急には伸びないと思うけど、ちゃんとした結果出せばお客さんはついてくると思うよ！

――今日は本当にありがとうございました。

【06年11月2日／新日本プロレス事務所にて収録】



たいがー・はっとり■本名は服部正男。1945年7月20日、東京都出身。学生時代はアマレスで活躍し、全日本選手権、全米アマレス選手権で二連覇。フロリダのヒロ・マツダ道場でコーチを務める。77年マイアミでレフェリーデビュー。新日本プロレス入団後はジャパンプロレス移籍、全日本プロレスを経て、新日本に復帰するも03年WJへ参加、04年に新日本へ再復帰。

10·21 PRIDE
ラスベガス大会

“世界を駆けめぐる”史上最強の格闘技ファン

kamipro books

プロレス狂の詩（うた）

kamipro厳選！ 超濃密ロングインタビュー集!!

- ジェラルド・ゴルドー
- 金原弘光×高山善廣
- 後藤達俊
- 中島らも
- 真樹日佐夫×三池崇史
- 大槻ケンヂ
- 小畑千代
- ダニー・ホッジ
- シーザー武志
- ザ・グレート・サスケ×韮沢潤一郎



“プロレス狂”の胸躍る詩が聞こえてくる!! 約15年にわたり数限りないインタビューを掲載してきた『kamipro』が、このたびご覧の激渋ラインナップでスペシャル・セレクトしたインタビューを単行本化だ！ 猛読必至！

12月中旬、全国書店にて発売予定!!
B6変型判 304ページ
予価＝1890円（本体1800円＋税）

enterbrain
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
TEL.0570-060-555（代表）
［通信販売のお問い合わせ先］
http://www.enterbrain.co.jp/

なんと
PRIDE
初観戦！

日米両国のエンターテインメントを熟知した男が『PRIDE. 32 "THE REAL DEAL"』を語る!!



「"これは神がついているな"って思いましたね」

TA☆JIRI

かつてはWWE、現在はハッスルで活躍するTAJIRIが、『PRIDE. 32』ラスベガス大会を観戦した。TAJIRIにとってはこれがPRIDE初観戦。日米のエンターテインメントを知る男が、他のアメリカの興行ではなかなか見られない観客の反応を指摘。ラスベガス大会成功の秘密を探った。そしてどうやらこの大会から多くの刺激を受け「心境の変化があった」というTAJIRI。その心境とは？

聞き手／坂井ノブ　構成／山本宗忠　撮影／山口比佐夫　designed by Tani-yan（Two Three）

負けた選手に対して
スタンディングオベーションしているお客さんがいた。
そういうシーンってアメリカでは見たことないです



TAJIRI

──今日はですね、先日の『PRIDE・32』ラスベガス大会が、WWEで活躍したTAJIRIさんにはどう映ったのかを拝聴しに来ました。

TAJIRI　あっ、恐縮です。

──こちらこそ、恐縮です。ラスベガスでの生活はいかがでしたか？

TAJIRI　試合以外は、高田本部長とお酒を飲んだりすることが多かったですね（笑）。

──そんな大役があったんですね（笑）。

TAJIRI　そうなんですよ（笑）。日本から着いたその日に……その日にですよ!?　一緒に食事に行ったら、最初は「今日は私は飲まないよ」っておっしゃっていたんですけど、それから「1杯だけ飲もうかな？」になって、それから3、4杯飲んで、最後は部屋飲みでしたからね。

──大会当日夜の打ち上げパーティも凄かったみたいですね。

TAJIRI　あのときは深夜1時頃に早々に逃げたんですよ。本部長も相当飲んでいたから、200人もいる中なんで〝絶対に気づかないだろう〟と思っていたんですけど、翌日の記者会見で会ったら「てめぇ〜、昨日逃げただろう！」って（笑）。

──しかもその会見は酔ったままでしたからね（笑）。TAJIRIさんにとっては、これが『PRIDE』初観戦だったんですよね。

TAJIRI　いやぁ〜、凄い熱気でしたねぇ。ボク、テレビでも最後まで観たことがなかったんですよ。『男祭り』の小川さんと吉田さんの試合とか、そういう興味のある選手が出るとき以外は観たことがなかったんです。

──会場で大会を通してご覧になっていかがでしたか？

TAJIRI　あの会場（トーマス＆マックセンター）はWWEのときに何回やったかわからないくらいに頻繁に行った会場なんですけど、最近のWWEではあんなにお客さんは入らないんですよ。昔は入っていましたけどね。しかも『PRIDE』は舞台がかなり後ろに設置されていたでしょう？　WWEはもっと前に設置されているんですよ。

──ということは、WWEではそのぶん、客席を潰しているわけですね。

TAJIRI　そうです。それでほぼ超満員になったってことは凄いことですよ。だから客入りを見てまず〝凄いなぁ〜〟って思いましたね。あともう一つ凄いなって思ったのは、イベント前にレフェリーとかジャッジを紹介したじゃないですか。で、「ユージ・シマ〜ダ〜！」って言ったら、お客さんが「ウォ〜〜！！」って言っているのを見て、ほんとビックリしました（笑）。〝みんなマニアなんだ！　凄いなぁ〜、できあがっているんだぁ〟って思いましたね。

──ちなみに、島田さんは日本の会場だと大ブーイングなんです（笑）。

TAJIRI　あっ、そうなんですか（笑）。一緒にホテルの中を歩いていても、みんな島田さんのほうに握手を求めるんですよ。衝撃的な光景でしたね（笑）。客層が完全に格闘技ファンなんでしょうね。そう感じたもう一つの理由は、客席に子どもがいなかったことなんですよ。しっかりとした収入を持っていそうな人が多かったような感じが、ボクには見受けられました。だからWWEよりも観客の平均所得は上なんじゃないかなって感じが凄いしましたね。

──客層も違うということで、盛り上がり方に違いはありましたか？

TAJIRI　昔のプロレスの盛り上がり的なものを感じましたね。なんというか、リング上で起こることに対してリスペクトしていますよね。そして、すべてのものに対する何か深い意味を探って観ているというか。だからどんな小さな小技とかでも観ていたと思うんですよ、お客さんは。

――寝技の攻防にも見入っていましたからね。他に何か気づいた点はありますか？

TAJIRI　あとね、一つビックリしたことと言えば、ポーランドの選手の……。

――パウエル・ナツラ？

TAJIRI　そうそう、ジョシュとやった選手。あの試合、負けた選手に対してスタンディングオベーションしているお客さんがいたんですよ。WWEとか他のアメリカの団体でもそうなんですけど、そういうシーンって見たことないですからね。

――へぇ～！



TAJIRIもビビッてたじろいだPRIDEの演出。音響と声援の相乗効果、そしてスタッフの努力に「泣きそうになっちゃった」とTAJIRI。

TAJIRI　何回も経験しましたから。どんないい試合をしても負けたら、みんな「ハハハ……」って笑ってこうやっている（親指を立てて下に向けるブーイングのポーズ）だけなんですよ。だから凄く衝撃的でしたね。アメリカのお客さんが負けた人にもああやって尊敬の念を持ってたたえているっていうのは、うん。

――実際、「アメリカでやるからアメリカの選手には大歓声で、ロシアやブラジルの選手には声援がないんじゃないか？」って、当初は言われていたんですけどね。

TAJIRI　ロシアやブラジルの選手にこそ声援が集まっていましたからね。あれは『PRIDE』というものを知っているからでしょうね。

――マニア層がもうできているってことが凄かったですよね。印象に残った選手はいましたか？

TAJIRI　強さという点では、文句なしでヒョードルですね。あと、ショーグン。彼は〝『PRIDE』のエディ・ゲレロ〟というか、もしみんな体型が同じだったら一番強いんじゃないかなと思いました。あまり詳しいことはわからないですけど。

――パウンド・フォー・パウンドだったらショーグン！

TAJIRI　エディは毎年、アメリカのレスリングサイトでパウンド・フォー・パウンドの投票コーナーの一位だったんですよ。（ラスベガス大会のパンフレットをパラパラとめくりつつ）あとね……。（フィル・バローニを指さし）この選手は、プロレスラーっぽい感じですね。プエルトリコにいそうなキャラクターだなと。あっ！　あとショーン・オヘアがいたんですよね。

――オヘアはWWEで一緒でしたもんね。

これって4年前にWWEが日本に初上陸したときと同じような状態なんじゃないかなぁ？

TAJIRI　試合前に会ったのでちょっと話をしたら「もの凄い緊張している」って言っていましたよ。

――試合に関して言うと、ヒョードルvsコールマン戦で、試合後にコールマンの娘さんがリングに上がって、最後は感動のシーンがあるという、いわゆる競技じゃない部分に対するリアクションも大きかったと思うんですが。

TAJIRI　うんうん。〝いまのプロレスが無理して作ろうとしているものが自然にできているなぁ〟って思いましたね。あと、日本のプロレスと比べて、この時点で勝負あったなって思ったのは〝選手がスター〟ってことなんですよ。ふるいにかけられてかけられて、選ばれに選ばれて、最後に残った人たちですもんね。

――いまの『PRIDE』は弱ければすぐに消えてしまう。強い人間しか残れませんからね。

TAJIRI　入場シーンだけで、その選手たちから背負っているものがひしひしと伝わってきて、そういう人たちがリングで殴り合うわけだから、それはお客さんにとっては感情移入できるどころの騒ぎじゃないですよね。志す人が多い中で残った選手にはスター性も備わっていますから。

――WWEもしょっちゅうトライアウトしていますよね。ハッスルも2月にオーディションがありましたけど。

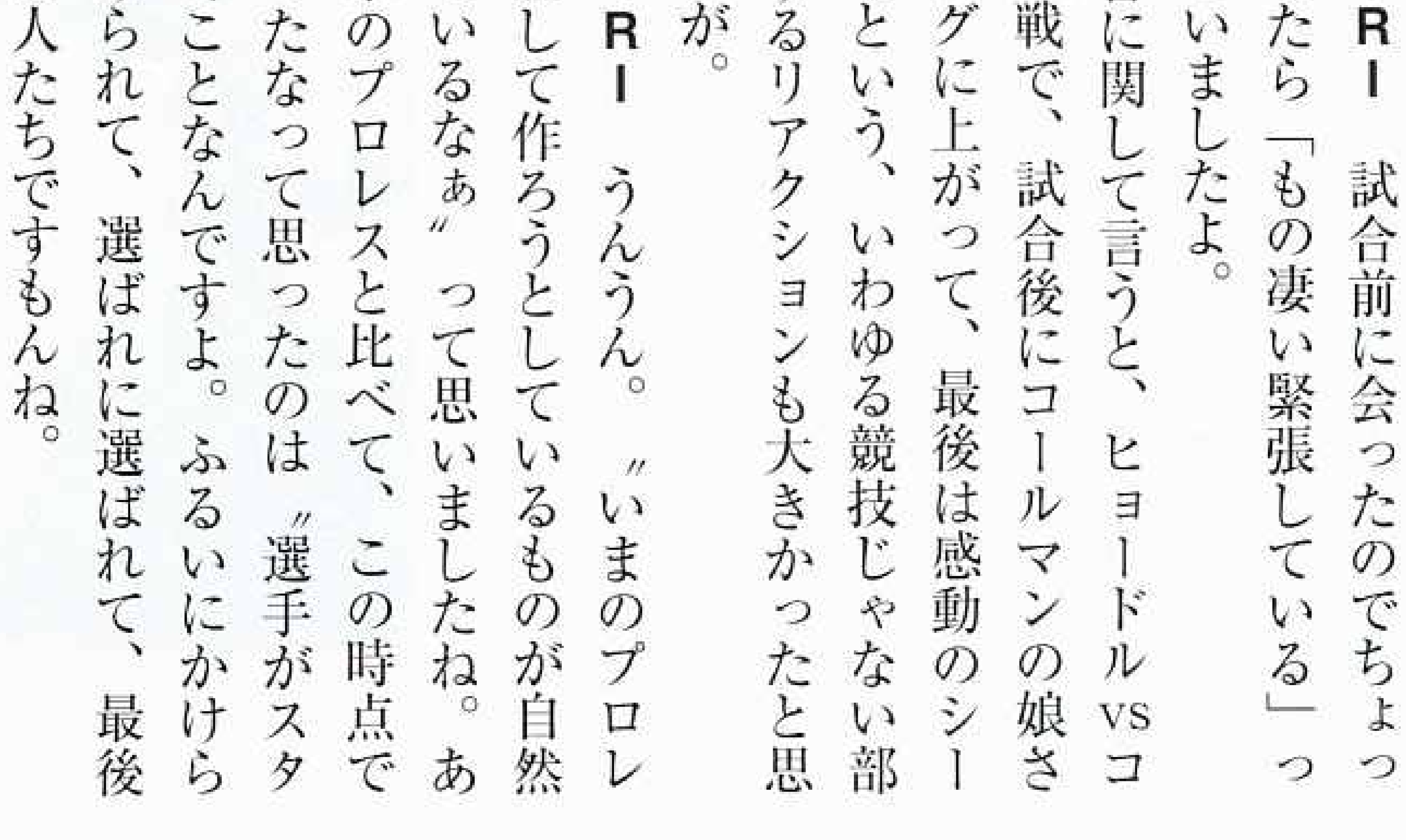
TAJIRI　ハッスルももっとたくさんやったほうがいいですね。あとですね、ボクが今回の大会を見て感じたのは、〝これって4年前にWWEが日本に初上陸したときと同じような状態だな〟って思ったんですよ。あのときの横浜アリーナのショーは、ちょっと神懸かり的な興行だったでしょ？

――ええ。2002年3月1日の横浜アリーナ大会（『SMACKDOWN！　TOUR　LIVE　in　JAPAN』）ですね。

TAJIRI　今回の『PRIDE』にも同じようなものを感じたんですよ。他の『PRIDE』の大会と見比べたわけではないけど、あれだけKOが多かったのも神懸かり的じゃないですか？　〝これは神がついているな〟って思いましたね。それと、あのときのWWEと似ているなと思うのは、まず現地のテレビで放送して、ファンの期待が高まったときに、現地で大会を開催するという。

――あのときのWWEもお客さんが待ちに待って飢えている状態でしたもんね。

TAJIRI　さらに、これは毎回『PRIDE』を観ている人にとっては当たり前のことなのかもしれないですけど、大音量



2002年3月1日に行なわれたWWE横浜アリーナ大会。TAJIRIが指摘するように、今回のラスベガス大会と状況が似ている点は多い。

の音響というのは、人間の心に何かを与えるというか心まで揺らすんだなって、入場式のときに感じましたね。入場が凄いという話は聞いていたんですけど、あの入場式を見て、日本から来たDSEのスタッフたちが毎日2時間しか寝ていなくて目の下にクマを作って裏で必死に働いているのを見ていたのもあったんですけど、泣きそうになっちゃったんですよ。大音量で問答無用に心をグラグラと揺らされたというか。日本のプロレスも……ああいう音は出せないんですかねぇ？

——いや、出せると思いますよ。もちろん音響や花火はどこでもやろうと思えばできると思うんですけど、ただ『PRIDE』には、それプラスお客さんの地鳴りのような声援がありますからね。

TAJIRI ああ、それもあったんだよなぁ！ きっと音だけ出してもダメ。音だけじゃなくてお客さんからの声援との相乗効果なんですねぇ。そうかぁ……。それにしても、あれを見たら、日本のプロレスで「最強を決めるトーナメント」とかはナンセンスですねぇ……。

——たしかにそうですね。

TAJIRI 張り手合戦とか「殺すぞ、この野郎ぉ！」とか……ねぇ？

——言わんとすることはよくわかります（笑）。

TAJIRI 10年くらい前から日本のお客さんは『PRIDE』とプロレスを見比べていたんですねぇ……。だから、こういうものとまったく対極に位置するハッスルがやっぱ、いまのところボクが出せる結論なんですよ。"これしかない"という。

——『PRIDE』と両極端のハッスルというものにどんどん重みをつけていくという。

TAJIRI あまりにもみんなが言いそうなことなんですけど、プロレスにはプロレスのおもしろさがあると思うんですよ。たとえば、リック・フレアーの"バンプ"なんかも格闘技では出せないものだし。やっぱり埋もれていると思うんですよね。いろんな引き出しがあるのに、そこに鍵がかかっちゃっている状態なんで。

——こっちが想像していた以上に、TAJIRIさんにとってはいろいろ考えさせられた大会だったんですねぇ。



TAJIRI リングに上がる者の"誇り"とか"使命"、そういうものを凄く感じた大会でしたね。じつはですね、WWEの終わりの頃からちょっと"プロレスラーである"ということに対して、投げやりというか無責任というか、ちょっとどうでもよくなっているようなところがあったんですけど、この大会を見て凄く"リングの上というのは、やっぱり選ばれた人間が上がる場所なんだな"って感じたんですよ。だから

まったく対極に位置するハッスルがやっぱ、いまのところボクが出せる結論なんですよね

TAJIRI

"ちゃんとしなきゃな"って。リングに対するリスペクトを再認識したというか。だから、この前の全日本プロレスの福岡大会が終わったときに「ちょっと欲が出てきた」って言ったのは、それはそういうことなんですよ。

——でも、プロレス以外にも出て行こうという気持ちには変わりはないんですよね？

TAJIRI ええ。でも、いままではプロレスとそれ以外の割合が半々くらいだったんですけど、これからはプロレスは7でプロレス以外は3くらいにしようかなって思うんですよ。やっぱ基本はプロレスだなって。アメリカから帰ってきて10ヵ月くらいなんですけど、ひょっとしたら、ようやく疲れが取れたのかもしれないですね。人間の細胞って3ヵ月で入れ替わるっていうんですけど、3回くらい行なわれて、完全に新しいバッテリーになったんだなって感じなんですよ。これまでのバッテリーはいくら充電してもすぐに切れちゃう状態だったけど、いまは一回充電したら何時間も使えるような、そんな感じだと思います。



ラスベガス大会ついでにグランドキャニオンを訪れたTAJIRIは、なんとエスペランサー攻略が書かれた巻物を発見！ マスコミに見せびらかすTAJIRI。大手柄だ！

——プロレスに対してすり減っていた部分がようやく回復したような感じなんですね。

TAJIRI WWEでも辞めて戻ってくる人って、やっぱり一年くらい期間をおいてそれから戻ってきますよ。人間ってそういうふうにできているんですよ、きっと。

——モチベーションが続かない状態で続けるほどつらいことはないですもんね。

TAJIRI そう。で、そういうときって、いいものは何も残せないんですよね。

——アメリカ行きがいいきっかけになったというのも……。

TAJIRI 因縁めいていますよね。とにかく、まずは資本である身体をいたわろうと。あと、もう一つそういう影響を与えてくれたのが、エディ（・ゲレロ）の自伝だったんですよ。"あの頃、エディと組んでいた頃はこういう気持ちでやっていたなぁ"とか、そういうことを凄く思い出したんですよ。

——酒に薬でボロボロになって……エディの生涯は壮絶でしたもんね。

TAJIRI これはあまり知られていないと思うんですけど、エディって、いい言い方をすれば凄くデリケートで、そうじゃない言い方をすれば気が小さい。普通の人なら気にも留めないところをずっと見て考えちゃう人だったから、人の3倍くらいエネルギーを使って生きてきたんじゃないかなって思うんですよ。

——なるほど……。さて、そのような心境の変化もあり、アメリカから帰国して第一戦目となったのが、ZERO1・MAXでの藤田ミノル戦（10月27日／後楽園ホール）ですね。試合的にはどうでしたか？

WWEでの疲れが取れたのかもしれない。いまは完全に新しいバッテリーになった感じです

TAJIRI　う～ん……ちょっとガチャガチャしてしまって、正直あまり好きではないタイプの試合になってしまったんですが、ボクが日本で変わり始める、日本で新たなスタイルを築き始める上で、いいきっかけになったとは思いますね。

——ＺＥＲＯ１のスタイルはどうでした？

TAJIRI　何をやってもいいんでしょうね、ＺＥＲＯ１は。バチバチしたものがあったり、激しいレスリングがあったり、ハードコアがあったり、レスラーの裁量に任されるというか、そういう点はＥＣＷみたいな感じがしましたね。

——なるほど。その後、全日本福岡大会（10月29日／福岡国際センター）に出場しました。

TAJIRI　風格がありますよね、あのリングは。それこそジャイアント馬場さんが生きていた頃とはメンバー的にはまったく違うんですけど、やっぱりどこか風格を感じました。日本古来のプロレスの伝道師に温かく見守られているような、そんな感じがしましたね。

——グレート・ムタとタッグを組まれましたが、いかがでしたか？

TAJIRI　ムタとは関わってよかったです、ほんと。試合中に凄く感じたのは、他の選手は自分の視点で相手を見ているんですけど、ムタはお客さんの視点から見ているなって。

——ほう。

TAJIRI　凄く相性が良かったんですよ。一緒に毒霧を吹いたんですけど、ボクが額をムタの顔に近づけたらムタも額に合わせてきたんですよ。二人で何か企んだような感じで、急にポーズを作って毒霧を吹くという。そのへんのアドリブが凄く合いましたね。それは、ボクもムタもお客さんからの視点があるからだと思うんですよ。〝自分はいま、お客さんにはどう映っている？〟という意識ですね。



たじり■1970年9月29日、熊本県出身。IWAジャパン、大日本プロレス、世界最大のプロレス・エンターテインメント団体WWEと渡り歩き、現在はハッスルのリングでA系変態レスラーとして活躍中。172cm、85kg。

——それは他のレスラーにはあまり感じないと？

TAJIRI　ええ。それはやっぱりアメリカのＴＶプロレスというのを長年経験してきたからこそできるんだと思いますね。常にカメラを意識しているという。それこそＷＷＥだったら一番デカいカメラのことをハードカメラって言うんですけど、そのハードカメラに一番大きなものが映るようにして、他のカメラに表情を見せながらやる、そこまでみんな意識しながらやっているんですよ。それがムタにはありましたね。

——カメラ＝お客さんと。常に見栄えを意識しているんですね。

TAJIRI　ハッスルってＰＰＶで観るお客さんも多いじゃないですか。会場のお客さんはもちろんですけど、ＴＶカメラも意識していますね、やっぱり。

——そのハッスルですが、この号が発売されるのは『ハッスル・マニア２００６』の前日なんです。ＴＡＪＩＲＩさんはラスベガスでエスペランサー攻略の手がかりとなる巻物を手に入れたんですよね。

TAJIRI　グランドキャニオンへ車で遊びに行ったときに、そこに住む先住民のおじいさんからもらったんですよ。『ｋａｍｉｐｒｏ』が出る頃にはある程度、博士が解明していると思うので、『ハッスル・マニア』は楽しみにしていてください。

——期待しています。その『ハッスル・マニア』なんですけど、今年は現有勢力でどれくらい力が出せるかという、そんな大会になりそうですよね。

TAJIRI　うんうん。そうですね。

——その現有勢力でハッスルの大一番を迎えるわけですが、毎度最高イベントに近い盛り上がりを見せる『レッスルマニア』に何度も携わったＴＡＪＩＲＩさんから見て、イベントまでの持っていき方というか、盛り上げ方というのはどういった手法がいいと思いますか？

TAJIRI　『レッスルマニア』はねぇ、不思議なんですよねぇ～。カード的にはたいしたことのないように見える年なのに、凄く盛り上がっちゃったりしますからね。う～ん、難しいですね……。でも、最終的には、選手の頑張りだったり、スタッフの頑張りだったりすると思うんですよ。

——気持ちの部分ということですか？

TAJIRI　うん。ボクがいままで見た『レッスルマニア』で一番良かったのは、試合後にベノワとエディが抱き合った大会（『レッスルマニア20』／２００４年３月14日）なんですよ。だから、いいカードをズラリと並べたから「凄いでしょ？」ってわけではないんですよね。だから、ＷＷＥでもそうだったし、今回のラスベガスでも感じたんですけど、やっぱりスタッフと選手の努力なんじゃないですかね。

——最後も「ラスベガス大会」というキーワードが出てきましたね（笑）。

TAJIRI　だって本当に素晴らしかった。日本やアメリカだけではなく世界中でやるべきだと思いますよ、ＰＲＩＤＥは！

【06年11月7日／都内・DSEハッスル事業局にて収録】

TAJIRIが伝説の男と激突!?
ALL JAPAN KICKBOXING 2006
「Fujiwara Festival～藤原祭り2006～」

2006.12.8（金）
東京・後楽園ホール
17:00開場　18:30本戦開始

TAJIRIの出場が緊急決定!

［チケット料金］
SRS席　20,000円／RS席　10,000円／
S席　7,000円／A席　5,000円
（当日券は各1,000円アップ）

［お問い合わせ・チケット予約］
全日本キック
http://www.aj-kick.com／
TEL.03-3365-1171
藤原ジム　TEL.03-3805-1457

今年のマニアはゴリゴリの男 vs 男、バチバチの女 vs 女に注目!

いよいよド直前!

ハッスル・マニア2006 完全攻略法



カイヤ、ご乱心!? モンスター軍入り

TAJIRIプロデュース!! ハッスルHIP-2Kが『ハッスル・マニア2006』に登場!!



今年の『ハッスル・マニア』の注目カードはなんといってもザ・エスペランサーとHGの一騎打ち! "高田総統の闘う化身"とハードゲイの一騎打ちは、今年のハッスル・マニアでしか見られない。同じくニューリン様とカイヤがお互いのプライドをかけて激突する試合も見逃し厳禁だ。まったく違う人生を歩んできた者同士が、己の持てる力をすべて出してぶつかり合うダイナミックさは他のリングでは決して味わえないハッスルだけの醍醐味だと言える。ここでは直前に迫った空前絶後のファイティング・オペラ『ハッスル・マニア2006』の魅力を徹底解説します。

構成/坂井ノブ　撮影/山口比佐夫　写真提供/DSE

designed by Tani-yan(Two Three)

【ニューリン様 vs カイヤの見どころ】

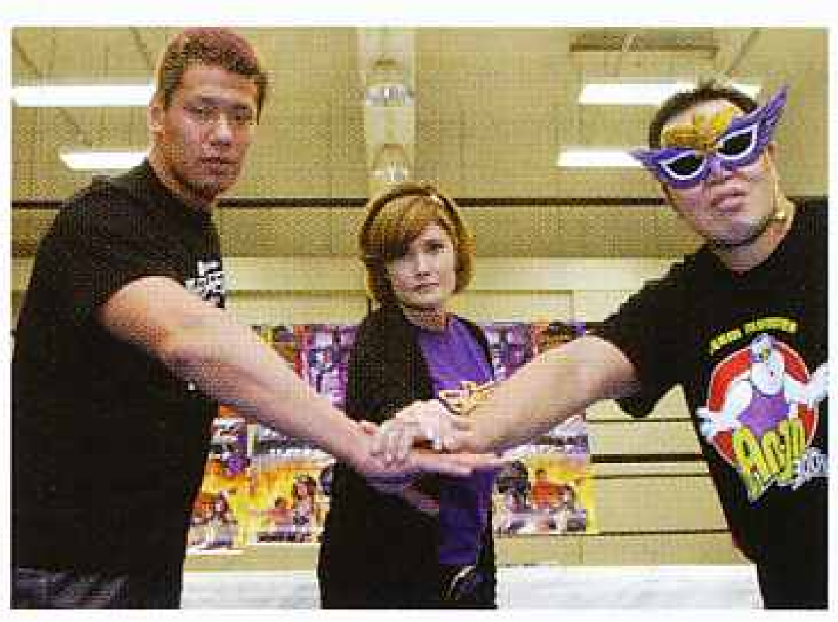
バックステージでもバチバチ状態!? 女の意地とプライドが火花を散らす

ハッスルを代表する女性ハッスラーがバチバチと激しい火花を散らしている。10月シリーズで「M字のMは真心のMだ」「M字で地球を救う」といきなり人類愛に目覚めたニューリン様と、急転直下でモンスター軍入りを表明したカイヤの因縁の対決が行なわれるのだ。

一部スポーツ紙がカイヤとニューリン様の「ヌードマッチ」の可能性を報じたが、これはカイヤとモンスター軍がワイドショーのレポーターを素っ裸にさせることで真っ向から否定した。

そもそも両者の因縁は、ニューリン様がモンスター軍に在籍したころにさかのぼる。ハッスル軍入りしたばかりのカイヤに向かってニューリン様は「(ハッスルは)ババアの上がるリングじゃねえ」と『東京スポーツ』紙上で罵倒した。カイヤはこの発言の直後からニューリン様に対して態度を硬化させたようだ、というのが関係者の見方だ。ニューリン様のファイトスタイルやM字にも噛みついていたカイヤだが、リング上ではニューリン様以上のインパクトを残すことができていない。それどころか、第一戦はジャイアント・シルバに、第二戦はアン・ジョー司令長官に敗れており、「男に勝つまで頑張る!」という目標は果たせずにいる。「このままなら、もうママの試合はもう見たくない」と愛息に言われてしまったカイヤは、なみなみならぬ決意で「強くなるために」とモンスター軍入りを決意したのだ。





一方、ニューリン様は今年4月の誕生以来、快進撃を続けている。『ハッスル・エイド2006』では仮面の下の傷をあらわにされて敗れたが、10月シリーズでは〝モンスターK〟川田利明からニューM字固めでフォールを奪うなど大活躍! カイヤとは対照的にリングの上で輝きを放っている。

今回、カイヤはニューリン様に噛み付いた原因の一つに、ニューリン様が7月にハッスル軍入りしてから挨拶がないということを挙げている。ハッスル事業局の関係者に確認したところ、両者はバックステージで顔を合わせてもピリピリした空気を漂わせていたそうだ。何があったのかはわからないが、この激しい女同士の因縁は、ちょっとやそっとで解消できるものではない。リングの上でお互いの感情が炸裂するはずだ。

眞鍋かをりの妹分・海川ひとみがハッスル・マニアで緊急デビュー

11月9日、都内ホテルで行なわれた記者会見の席上でハプニングが勃発した。『ハッスル・エイド』で大好評を博した眞鍋かをりがハッスル親善大使に就任して『ハッスル・マニア2006』でPPV放送の解説を、事務所の後輩である浜田翔子・海川ひとみは中継リポーターを務めることが発表された。その記者会見の席上、海川が突如立ち上がってハッスル参戦をアピールしはじめたのだ。あまりの突然の出来事にあっけに取られる眞鍋かをりを前に、海川は〝GMW〟坂田亘に「私もリングに立って、闘いを通して自分を表現したい」と参戦を猛アピール。「いくらなんでも試合はなぁ……そんなに甘いもんじゃないぞ」と決断を渋るGMWだったが、「私はいまお仕事もそれほどないので、練習時間に死ぬほど費やしたいと思います」と目に涙をためながら訴えた。この言葉に心を動かされたGMWは『ハッスル・マニア2006』でのデビュー戦を正式決定！「一回ボロボロになっても構わないからやってみろ、と。その中から学ぶこともあるんじゃないか」と眞鍋もエールを送った。「せっかくグラビアもやっているので、露出度高めにしたい」というコスチュームはどうなる!? またGM裁定により、デビュー戦はジャイアント・バボvsKUSHIDA&B・チエ&海川ひとみのハンディキャップマッチに決定した。


タレント眞鍋かをりがPPV中継の解説で登場

海川は1984年8月25日、愛知県出身。身長160cm、B83 W57 H82のプロポーションを持つタレントだ！

東京愚連隊が記者会見に乱入！ ハッスルに鈴木みのる初登場

11月7日、ハッスルの最高責任者を務める〝GMW〟こと坂田亘の記者会見中にいきなりNOSAWA論外とMAZADAの東京愚連隊が乱入してきた。坂田が『ハッスル・マニア2006』での対戦相手を募集していることを聞きつけた二人は、わざわざ会見に乱入してきたのだ。しかし、坂田は「ここは田舎の暴走族が来るところじゃねえぞ」と一蹴。NOSAWA論外は「僕たちはこう見えてもGMよりよっぽど有名ですよ。アメリカ、イタリア、メキシコ、南極と世界中からオファーが殺到してるんです」と下手に出て説明するが、坂田は「ハッスルはホテルに例えるなら帝国ホテルだ。お前らみたいな粗悪品をお客様にお出しできない」と一蹴した。この会見ではおとなしく引き下がった東京愚連隊だが、15日の『ハッスル・ハウスvol.21』に〝師匠〟と慕う鈴木みのるを引き連れて登場。坂田軍団との全面対抗戦の火ぶたが切って落とされた。かつてリングスに所属していた坂田と、パンクラスを背負う鈴木みのるの間には浅からぬ因縁があった。両陣営が激しい舌戦を繰り広げた当時の抗争がハッスルのリングに持ち込まれるとは考えにくいが、両者とも鼻っ柱の強い性格で試合も半端ではないハードヒットで知られている。東京愚連隊とRGという子分を従えた両チームが果たしてどんな抗争を繰り広げるのか？ 注目だ！



坂田亘と鈴木みのるが時空を超えて因縁の対決

ザ・エスペランサー攻略の鍵は少女が吹くオカリナなのか!?

先月の『PRIDE・32』を視察したTAJIRIが、グランドキャニオンにまで足を伸ばした際、先住民の家で譲り受けたという古い巻物。この中にエスペランサー攻略の鍵が隠されていた！

巻物の中身は締切りの都合で公開できないが、少女が吹くオカリナの音でエスペランサーのような魔物が苦しんでいるという絵だったという。この絵の中には古代文字で重要な文章が書かれているのだが、これも11月11日の時点ではまだ博士による翻訳が完了していない。

HGと闘うことが決定している〝髙田総統の闘う化身〟エスペランサーは超能力のような不思議なパワーを使い、指をかざしただけで相手を吹き飛ばすという特殊能力を持つ魔物。HG得意のハードゲイ殺法がどこまで通用するかまったくの不明だ。6月の『ハッスル・エイド』で対戦したTAJIRIの攻撃をすべて無表情で受けて、ハイキック一発でKOしてしまい強烈な印象を残した。攻撃・防御ともに非常に高いレベルであることは間違いない。いかにハードMなHGとはいえ無事では済みそうにない。だからこそ「芸人生活を捨てる価値がある相手だ」という言葉がHGから出たのだろう。HGとエスペランサーの対決が非常に大きな山場であり、果てしなく続く抗争についに終止符が打たれる可能性が出てきた。この謎の答えが出たとき、すべてが終わってしまうかもしれない……。


TAJIRIが発見した巻物の中身とは何か？

11月&12月ハッスル大会スケジュール

KYORAKU presents ハッスル・マニア2006
神奈川・横浜アリーナ
2006年11月23日（木・祝）開場15:30／開演17:00

［チケット料金］
ハッスルVIP（特典：ハッスルグッズ付） 20,000円／
RRS 12,000円／S 8,000円／A 6,000円／B 4,000円
※1歳以上のお子様も入場券が必要です

KYORAKU presents ハッスル・ハウス クリスマス・スペシャル
東京・後楽園ホール
part1 **12月25日（月）開場18:00／開演19:00**
part2 **12月26日（火）開場18:00／開演19:00**

［チケット料金］
ハッスルVIP 10,000円／スタンドS 7,000円／
スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円
※一日ずつの料金です　※1歳以上のお子様も入場券が必要です
※お得なセットチケットも販売！　12月25日（月）と26日（火）のお得なセットチケットも
ハッスルオフィシャルサイト・ハッスル携帯サイト・ドリームステージにて同時発売

［チケット料金］
ハッスルVIPセット 17,000円（通常20,000円 3,000円お得）／
スタンドSセット 12,000円（通常14,000円 2,000円お得）／
スタンドAセット 9,000円（通常10,000円 1,000円お得）／
スタンドBセット 6,000円（割引なし）

［問い合わせ］
ドリームステージエンターテインメント　TEL.03-5464-1731

ハッスル初のパブリックビューイング開催決定!

KYORAKU presents ハッスル・マニア2006　パブリックビューイング

ハッスルの年間最大イベント『ハッスル・マニア2006』を遠方でも大勢のファンとともに楽しむ絶好のチャンス！ ハッスルでは初となるパブリックビューイングが決定した。開催するのは新潟、大阪、広島、福岡の4ヵ所。最新鋭のデジタルシネマプロジェクターと迫力ある音響システム、そしてたくさんのハッスラーと11・23『ハッスル・マニア2006』を楽しもう！

11月23日（祝・木）　開場16:30／開始17:00（予定）

［会　場］
T・ジョイ新潟万代
（新潟市八千代2-5-7　BP2　3F）025-249-4555
梅田ブルク7
（大阪市北区梅田1-12-6　イーマビル7F）06-4795-7600
広島バルト11
（安芸郡府中町大須2-1-1　4001　ダイヤモンドシティソレイユ4F）082-561-0606
T・ジョイ久留米
（久留米市新合川2-7-10）094-241-4158
※各劇場問い合わせ番号は音声案内番号になります。オペレーター直通はダイヤルプッシュ6を押してください。

［チケット料金］
一般 4000円／学生（高校、専門、大学）3,500円／小人（中学生以下）3,000円※要学生証
※全席指定、消費税込　※ソフトドリンクつき
※入場者プレゼント有チケット販売発売日：11月11日（土）一斉発売　チケット販売場所：各劇場窓口、チケットぴあ

［パブリックビューイングに関するお問い合わせ］
株式会社ティ・ジョイ　エンタテインメント事業部　ハッスル・マニア上映担当　TEL:03-3248-8174

絶賛発売中



総力特集

ディープvsハーツvsサムソン、三強激突!

ジャパンC

特別付録



DVD

ディープ&ハーツ2006海外遠征

収録レース
凱旋門賞
キングジョージⅥ&クイーンエリザベスDS
ドバイシーマクラシック

ディープインパクトも武豊もPOGも馬券も『ダビスタ』も、ぜ〜んぶお任せ!!

ハマりたい人の競馬情報マガジン

サラブレ

毎月13日発売

世界は、広くて強い。



Now On Sale!

これ一冊で、今日からアナタも海外競馬通!

サラブレ WORLD 2006-2007

This magazine is special issue devoted to the newest overseas horse racing information. With DVD appendix on which the world best races are recorded. You can be enjoyed absolutely!

サラブレ責任編集 エンターブレインムック

これが2006年世界の最強馬ベスト20だ!

The Top 20 Horses in the World



付録 DVD

「世界のダービー」

英ダービー(サーパーシー)
愛ダービー(ディラントーマス)
ケンタッキー・ダービー(バルバロ)
ヴィクトリア・ダービー(ベニチオ)
南アフリカン・ダービー(エルシヴフォート)他

ケータイサイト
サラブレmobile
月額 315円(税込)

対応機種:一部例外あり
[iモード] FOMA:70x/90xシリーズ
mova:505/506シリーズ
[EZweb] CDMA 1X WIN
CDMA 1X
[SoftBank] S3〜S6シリーズ
※3G端末は非対応

iモード メニューリスト▶趣味/娯楽▶競馬/競輪/競艇▶サラブレモバイル
EZweb EZトップメニュー▶カテゴリで探す▶エンターテインメント▶ギャンブル▶サラブレモバイル
SoftBank メニューリスト▶趣味・レジャー▶競馬・公営競技▶サラブレモバイル

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 電話0570-060-555(代表) http://www.enterbrain.co.jp/

"U"とキックにこだわり続ける
二人の頑固者が再会対談！



煽りVTR完全復活から三崎和雄の逆転優勝まで

驚異の6時間半

—11.5 PRIDE武士道－其の十三－—

今年のPRIDEウェルター級GPは、三崎和雄の優勝という〝感動のフィナーレ〟で幕を閉じた。〝日本人が勝った〟ことが、それだけ重要だったのだろう。三崎の優勝を〝奇跡〟と呼んで感動した者も多い。

三崎のGP制覇が〝奇跡〟だったのには二つの理由があった。彼が準決勝でパウロ・フィリオに完敗を喫しながら決勝戦に繰り上がり出場を果たし、GPの頂点まで登り詰めたこと。それにフィリオとデニス・カーンのどちらかが優勝するだろうというのが大方の予想だったからである。それくらい、二人の強さは際立っていた。

以前から磐石の安定感を誇っていたフィリオは〝極め〟の威力も増し、手がつけられないほど圧倒的な存在になっていた。カーンは、このGPでファンにその実力を認知させた。初戦でムリーロ・ニンジャを秒殺KOし、続くアマール・スロエフ戦はチョークで一本。カーンが絞め上げた瞬間、スロエフの傷口から鮮血が噴き出したフィニッシュは『PRIDE』史上に残る戦慄のシーンだった。

これまで、ほぼ無風状態だったウェルター級に風を起こし、ほかの階級に負けないインパクトを観客に与えたのは、間違いなくフィリオとカーンだった。エメリヤーエンコ・ヒョードルやミルコ・クロコップ、ヴァンダレイ・シウバがそうであるように、どこの国の出身であろうと、どんな民族であろうと充分な強さとキャラクターを持ってさえいれば観客を熱狂させることができる。10月の

三崎和雄、“奇跡”の復活優勝のウラでいったい何が起こっていたのか



舞台ウラ全ドラマ

武士道-其の十三-
驚異の6時間半大解剖!

今回『武士道』で行なわれたウェルター級GPは三崎の優勝というかたちで幕を閉じた。試合後リング上は喜びの場と化したが、そこに至るまでの過程は、じつは予想以上にとんでもないことになっていた。その真相をカーン、そしてBTTの首領ブスタマンチの言葉から解き明かす。

文/橋本宗洋　構成/松下ミワ　試合写真/乾晋也

designed by hisa (TwoThree)

“U”とキックにこだわり続ける
二人の頑固者が再会対談！

PRIDE武士道ー其の十三ー
ウェルター級GP

フィリオの棄権を知ったとき、カーンはすでにグローブを着用していた

ラスベガス大会でも見られた『PRIDE』らしい魅力をウェルター級で体現していたのが、この二人だったのだ。

11月3日、横浜アリーナ。準決勝と決勝の二試合が行なわれるファイナル・ラウンドでも、両者は予想どおりに勝ち上がった。フィリオは三崎を腕ひしぎ十字固めでタップアウトに追い込んだ。技を切り返されてもラウンド終了に逃げ込めるラスト30秒からの仕掛けは、心憎いほどの巧妙さだった。

カーンは郷野聡寛を相手に3—0の判定勝利で決勝進出を決めた。ゴング直後からラッシュするいつもの戦法とは違い、この試合でのカーンは相手の出方をじっくりとうかがい、ペースを奪っていった。目には見えないフェイントの読み合い。高度な技術戦の末に敗れた郷野は試合後、「これまで自分が勝ってきたやり方を相手にされてしまった」と敗因を語っている。

「まさに、それが僕の作戦だったんだよ。ゴーノは相手に攻撃させてスタミナを奪うのが得意だ。こっちもそれをやったら、向こうは嫌がると思ってね」

大会翌日のインタビューで、カーンはそう言った。彼は大会に向けたトレーニングが佳境に差しかかるはずの時期、9月24日に婚約者のシェリー・ウォーカーさんが亡くなるという悲劇に見舞われている。死因は鎮痛剤の過剰服用だった。だが、カーンは調整不足など微塵も感じさせず、郷野戦で完璧に作戦を遂行してみせたのだ。

「この悲しみをポジティブに乗り越えることができれば、絶対にチャンピオンになれるって信じてた。彼女の死は、僕に優勝への強い気持ちを与えてくれたんだよ」

郷野とDJ OZMAによる長くて派手な入場パフォーマンスをリング上で待ち続けるあいだも、カーンはひたすらコンセントレーションを高めていたという。郷野の入場が長いのは最初からわかっていたから、気になどしなかった。

「でも“リングで待たせるくらいならゴーノの入場を先にしてくれよ”ってちょっとは思ったな（笑）」

こうして決勝戦は、フィリオとカーンのあいだで争われることになった。ドクターチェックの結果も「異常なし」。予定どおりに決勝戦が行なわれることが、場内にアナウンスされた。

両陣営とも、互いが決勝でぶつかるであろうことを予測していた。

「かなりの確率で、決勝は僕とパウロの闘いになると思ってた。だから大会前から綿密に作戦を立ててたよ」

そうカーンは言う。フィリオが所属するブラジリアン・トップチーム（BTT）とカーンのいるアメリカン・トップチーム（ATT）は、いわば兄弟分の関係にある。ATTのヘッドコーチはヒカルド・リボーリオ。BTT設立の際にも中心的役割を担った人物だ。フィリオのことも、彼がまだ少年だった頃から指導してきた。BTTはリボーリオがカーンに何を授けたのかを知っている。リボーリオも、BTTがどんな闘い方をしてくるのかを熟知している。決勝戦は、一瞬の展開のアヤが勝負を左右する神経戦になりそうだった。

この大会に選手として出場もしたBTTの重鎮ムリーロ・ブスタマンチは、“BTT対ATT”の難しさをこんなふうに表現している。

「BTTとATTは兄弟……いや、いとこ同士のような関係かな。兄弟の顔は殴れないけど、いとこならまあなんとか（苦笑）。それでも、決して気持ちのいいものではないね。GPの決勝戦でもなければ絶対に拒否したと思う。お互いのことをわかりすぎているだけに、心理的にも作戦的にも複雑な試合だ」

エモーショナルで、かつハイレベルな闘いになるはずだった決勝戦は、しかし突如としてカード変更を余儀なくされる。フィリオが左ヒザ靭帯損傷の疑いで棄権し、三崎が繰り上がり出場を果たすと発表されたのは、いままさに決勝戦が始まろうというときだった。

いったい、バックステージでは何が起きていたのか。説明してくれたのはブスタマンチだ。

「準決勝が終わった直後は、なんの問題もなかった。でも、インターミッション（休憩）の頃になってパウロが『ヒザが痛くて動けない』と言い出したんだよ。身体が冷えたところで痛みを感じだしたんだろう」

会場のビジョンに前半戦のハイライトが映し出されている頃、控室ではドクターがフィリオに痛み止めの注射を施していた。だが、それでも事態は収まらない。

「決勝戦が近づいても、パウロはまだヒザが痛むと言う。『注射が全然効かないんだ。これじゃ試合は無理だ』とね。もちろん、我々は必死で彼の背中を押したよ。これはただの試合じゃない、大事なGPの決勝戦なんだからね。それでも、最終的なパウロの決断は『闘えない』だった。」

フィリオは昨年のミドル級GP最後の出場選手を決める『ラスト1トーナメント』でも、決勝戦直前に棄権していた。

「悲しいよ。それしか言葉が出てこない。実力は申し分ないのに、なぜ



両肩の負傷が及ぼした影響をカーンは最後まで語らなかった

かトーナメントではこんな結果になってしまう。もちろん、もう一度ミサキと闘ってもパウロなら勝てるはずだ。デニスにもね。だが、彼はメインに穴を開け、プロとしての信頼を失なってしまった……」

フィリオ棄権という知らせを受けたとき、カーンはすでにグローブを着用し、ウォーミングアップを始めていた。

「10試合目（青木真也 vs クレイ・フレンチ戦。決勝戦は第12試合）の終わり頃だから、決勝開始の30分くらい前だよ。精神的な影響？ なかったね。誰が相手でも優勝してやるって、ただそれだけだったから」

ただし、事前に立てていた作戦を変える必要はあった。フィリオ戦のプランは、タックルを切りまくってスタミナ勝負に持ち込むというもの。逆に打撃を得意とする三崎との試合では、先にテイクダウンする戦法をとった。〝させない〟から〝先にする〟へ。180度の方向転換である。

試合前の国歌吹奏。韓国人の父とフランス人の母のあいだに生まれ、カナダ、韓国、アメリカと渡り歩いたカーンが選んだのは韓国国家だった。韓国は父の国であり、格闘家として出世のきっかけをつかんだ国だったが、理由はそれだけではなかった。

「フィアンセが亡くなったあと、韓国のファンから激励のメールを本当にたくさんもらったんだ。国歌を聴きながら『彼らのためにも、絶対に優勝する』って心に誓ったよ」

ゴングが鳴ると、カーンは急きょ変更した試合プランを巧みに実現させた。目論みどおりにタックルを決め、パウンドやヒザ蹴りを連打していく。三崎が仕掛けた三角絞めは、豪快に持ち上げて叩き落すバスターでクリア。あとほんの少しのところまで、勝利をたぐり寄せていた。

だが、1ラウンド終盤に火の出るような三崎の猛反撃が始まる。タックルをがぶり、頭部にヒザ。防戦一方のカーンを見て、ペイパービューの解説を務めていた高阪剛は「あくまで個人的な意見」としながらこう分析した。

「カーン選手は守りに入ると弱いのかもしれない」

じつは、このときすでにカーンの身体は満足に動く状態ではなかった。大会二週間前に練習で左肩を負傷、さらに郷野戦で右肩も傷めていた。テーピングで固めた腕を無理やりに振るってパウンドを落としたが、いつものパワーはなかった。三崎だけでなく、カーンもまた万全の状態ではなかったのだ。三崎優勝の〝感動〟ゆえか、それを気にかけた者はあまり多くなかったが（カーンの負傷を、郷野の手柄として語る者もいた）。

「こんな状態で、本当にもう一試合やれるのか？」

決勝戦を前に不安がる周囲に対し、カーンはこう言ってリングへ向かったという。

「大丈夫、何があったって俺は闘うよ。ケガの痛みなんて、『優勝するんだ』ってモチベーションに比べたらたいしたことじゃない」

しかし、2ラウンドになると試合の流れは少しずつ三崎に傾いた。右ストレートでグラつかされ、渾身の腕十字も脱出されてしまう。

〈判定2―1。勝者、三崎和雄〉

大会前から幾多のアクシデントに遭い、心身ともにボロボロであるはずにもかかわらず、今大会でただ一人、二度のフルラウンド・ファイトを闘ったカーンに訪れた結果がこれだった。

「僕はパウロ選手に試合では負けました。でもケンカでは負けてません！ あの試合でダメージを受け、ヒジも壊された。だけど命のある限り、このリングで闘います！」

ベルトを巻いた三崎が〝日本人の魂〟を叫ぶ。一方、最後の最後、ほんのわずかな差で栄光にたどりつけなかったカーンは、歓喜の輪の外でじっと佇んでいた。GP最大の立役者は、〝日本人の勝利〟という事実の前に観客の視界からも置き去りにされた。

それでも、彼は深い満足感を味わっていたという。全身疲れきっていたが、決して徒労感や虚脱感ではなかった。

「なんの後悔もしてないよ」

そうカーンは言う。

「昨日の二試合には100パーセント満足してる。ベストを尽くし、全力で闘いきったって実感があるんだ。決勝でミサキと闘うことになったのも、僕にとってはいい経験さ。いろいろアクシデントはあったけど、それも含めて昨日のことは一生忘れられないんじゃないかな。ケガ？ トーナメントにケガは付きものじゃないか。運を味方につけたことも含めて、昨日のナンバーワンはミサキだったってことだよ」

婚約者を失なった心の痛みや、両肩の負傷が試合にもたらした影響を、彼は最後まで語ることがなかった。



［PRIDEウェルター級GP準決勝］
○パウロ・フィリオ vs 三崎和雄×
（1R 9分43秒 腕ひしぎ十字固め）

一回戦でダンヘンを破った三崎は無敗のフィリオと激突。フィリオは三崎からテイクダウンを奪うと、すぐさまマウントへ。そのまま　時間をかけてコーナー際へ移行し、狙ったかのように1ラウンド終了ギリギリに腕十字！



［PRIDEウェルター級GP準決勝］
○デニス・カーン vs 郷野聡寛×
（2R 判定3-0）

DJ OZMAとともに過激な入場シーンを成功させた郷野。しかしその長い入場のあいだまったく気にせず精神を集中させていたデニスが試合では打撃を中心に郷野を攻めまくる。デニスは判定で勝利し決勝へとコマを進めた。



［PRIDEウェルター級GP決勝］
○三崎和雄 vs デニス・カーン×
（2R 判定2-1）

決勝に登場するはずのフィリオがヒザの故障でまさかの棄権！　そのため決勝戦はデニスと三崎の対戦に。前半は怒濤のパウンド攻撃でデニスが優勢し試合を運んだが、後半になると三崎が息を吹き返したかのように反撃開始。その勇姿が判定勝利を導き、GPは三崎の大逆転優勝となった。

"U"とキックにこだわり続ける
二人の頑固者が再会対談！





［PRIDEライト級タイトルマッチ］
○五味隆典 vs マーカス・アウレリオ×
（2R 判定2-1）

『武士道ー其の拾ー』でアウレリオに衝撃の敗戦を喫した五味。ベルトを懸けての再戦は両者相手の出方を見るというジリジリした展開に。"猪木アリ"状態で五味が立った状態からローを放つという試合運びとなり、結局判定で五味は再びベルトを手に。しかし、五味は試合後のマイクでも納得いかない表情を見せた。



○ルイス・ブスカペ vs 帯谷信弘×
（2R 判定3-0）

DEEPライト級チャンピオン帯谷が『武士道』二戦目で初勝利を目指す。しかし、帯谷は変幻自在な柔術テクニックを持つブスカペにテイクダウンを奪われると何もできず、判定まで持ち込んだものの、勝利とはならなかった。

武士道ー其の十三ー
驚異の
6時間半
大解剖!

6時間半ブッ通しな

武士道ー其の十三ー 試合REVIEW

お疲れさまでしたっ！ と心から叫びたくなった『武士道ー其の十三ー』。約6時間半にも及んだこの大会の試合レビューをなんと全1ページに渡ってお届けいたします！



［PRIDEウェルター級GPリザーブマッチ］
○ゲガール・ムサシ vs ヘクター・ロンバード×
（2R 判定 3-0）

ウェルター級リザーブマッチの一戦は、GP一回戦で敗退したゲガールが優勢勝ちでトーナメント返り咲きをアピール。ロンバードは『武士道』二戦目にしていまだ勝利を飾ることはできなかった。



○ムリーロ・ブスタマンチ vs ユン・ドンシク×
（2R 判定3-0）

BTTの首領ブス先生と激突したのは『PRIDE』4戦目にして初勝利を狙うユン。両者、相手を警戒しすぎたためかなかなか攻め手がなくグラウンドでも膠着状態に。勝負は判定となり、なんとか床を制したブス先生に軍配が上がった。



○石田光洋 vs デビッド・ベルクヘーデン×
（2R 判定3-0）

"さわやか高速タックラー"石田がこの日もタックル→パウンドという得意の展開でベルクヘーデンに何もさせずに完勝。これで石田の戦績は『武士道』4戦4勝に。次期ライト級タイトル挑戦者にまた一歩近づいた。



○ジョー・ピアソン vs 前田吉朗×
（1R 54秒 フロントネックロック）

パンクラス・フェザー級王者の前田吉朗は『武士道ー其の七ー』以来の登場となったが、『PRIDE』マニアを自称するピアソンに無念の秒殺負け。ピアソンは前田の首を抱え込むとそのままフロントネックロックで絞め上げた。



○菊田早苗 vs ジョン・フランソワ・レノグ×
（2R 判定3-0）

ウェルター級GP一回戦でGRABAKA勢が敗れる中、ボスの菊田は判定勝利。相手はパンクラス大阪大会で近藤有己と引き分けたレノグだったが、菊田は得意の寝技でレノグを制し『武士道』初戦を白星で飾った。



○美濃輪育久 vs マイク・バートン×
（2R 判定 3-0）

マイク・バートンとの対戦は美濃輪の戦史上に残る凄まじい展開に。美濃輪はかなり体格差のあるバートンに腕十字、ボディパンチなど超人級の攻撃を展開。バートンのゴールデンレフトをよけまくるという俊敏さも披露し判定勝ちをもぎ取った。

江頭さんって史上最強のやられキャラですよね。よくあそこまで身体張れるなって感心します!

『武士道』二戦目も文句なしの一本快勝!

青木真也

ワンクールのレギュラー!より一回の伝説

江頭2:50



夢のW黒タイツ対談 まさかの実現!!

武士道−其の十三− 驚異の6時間半 大解剖!

バカサバイバー がっぺ対談

前回のタイツ姿での戦慄デビューに続き、『武士道−其の十三−』クレイ・フレンチ戦も快勝ッ!
おそらく来年開催予定のPRIDEライト級GPの台風の目になりうるであろう脅威のバカサバイバー・青木真也が……、
えぇっ!? エガちゃんとがっぺ対談!! なんと、未だ披露していない黒タイツ姿で登場した青木は
タイツ芸人の本家本元・江頭2:50と奇跡の遭遇を果たしたのだった。

聞き手/ジャン斉藤 構成/松下ミワ 撮影/平工幸雄

designed by hisa (TwoThree)

“U”とキックにこだわり続ける二人の頑固者が再会対談！

いや、前世、俺たち絶対に兄弟だよ!! 今度、江原さんに見てもらおうよ！ 同じオーラが出てるよ!!



——がっぺ、バカサバイバー対談!! ということで、本日は奇跡のダブル黒タイツ対談が実現しました！

江頭 いやあ、絶対に対談を拒否されるかと思ってたよ！

青木 いやいや、嬉しかったですよ（笑）。ボクは中学二年の頃から、『めちゃイケ』とかで江頭さんをずっと観てますし。

江頭 良かった〜ぁ!! 今日はドキドキしながら来たけど、ホントはね、ここの近くのコンビニで青木さんを見かけてたんだよ！

青木 あ、そうなんですか（笑）。

江頭 ホッとしたよ〜！「ああ、来てくれた！」って。アンタ、コンビニで立ち読みしてたでしょ⁉

青木 読んでました（笑）。

江頭 しかも帽子を深く被って！

青木 被ってました（笑）。

江頭 俺はず〜〜〜っと、見てたんだよ！（ギラギラした目つきで）。

——ハハハハハ！ メチャクチャ怪しいですよ、それ！（笑）。

江頭「あ〜、いるいるいる！ 対談の敵がいるぞ！ どういう動きしやがるのか？」って！ ず〜〜っと俺は観てたんだよ！

青木 ハハハハハ！ やっぱり、おもしろいですねえ！（笑）。

——そんな青木さんは黄色いタイツ姿で闘うことで、一部で〝黄色いエガちゃん〟と呼ばれてるんですが、江頭さんはどこでお知りになったんですか？

江頭『東スポ』を読んで知りましたよ！

——青木さんの公開練習の記事ですね。「江頭になる！」という衝撃的な見出しで（笑）。

江頭 衝撃的だよ！ 本当に光栄でした!!

青木 ありがとうございます（笑）。

江頭 だって俺は、今年の『an・an』の「嫌いな男ランキング」一位ですよっ⁉

青木 ハハハハハ！

江頭 しかもこの一年間、10本しかテレビに出てないんだよ！ み〜〜〜んな江頭2:50を拒否してるのに、この人は「江頭になる！」っていうんだから光栄ですよ！ こんな〜なヘンなやつはいねえぞ！と。

——いままで「江頭さんになりたい」って言われたことはありますか？

江頭 誰もいない！ 初めてよ！

——でも青木さんは、「嫌いな男ランキングナンバーワン」とか、そこを含めて江頭さんになりたいわけじゃないんですよね。

青木 いや、おいしいトコは全部（笑）。

江頭（険しい表情で）ちょっとまて!! 一言、もの申〜〜すっ!!

青木 え？ ダ、ダメですか？

江頭 ……いや、オッケーだよ！ ズルく生きなきゃなあ、ズルく生きなきゃね!!（一転してかわいらしく）。

青木 はい（笑）。

——ところで、江頭さんは青木さんの試合はご覧になったんですか？

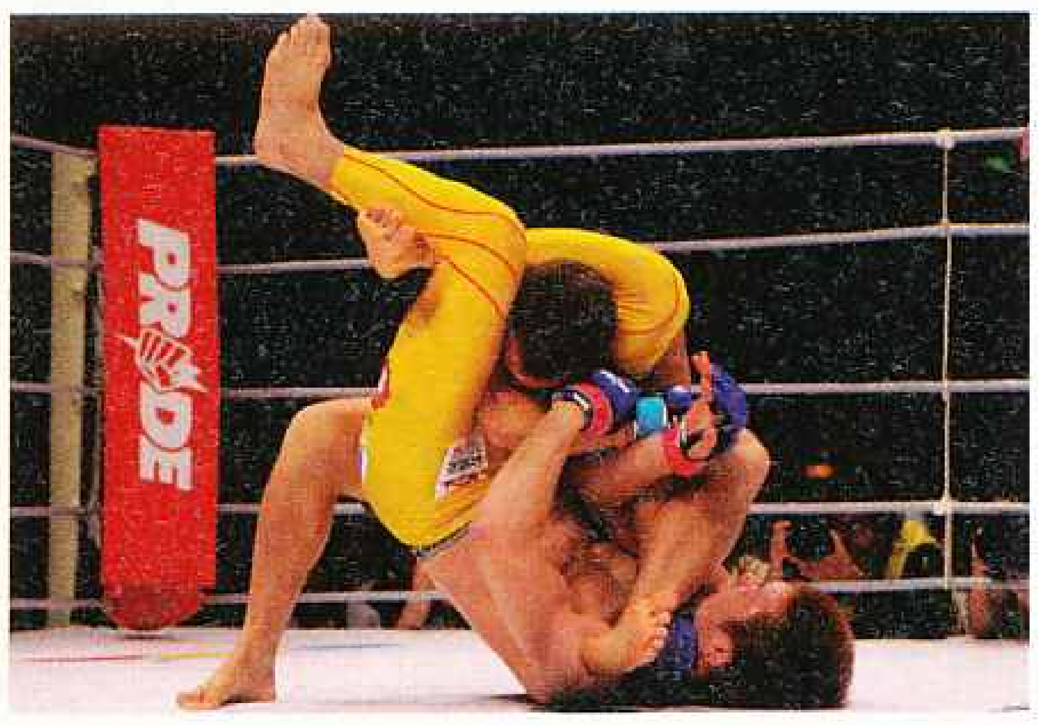
江頭 映像で観ました！ ジェイソン・ブラック！ クレイ・フレンチ！ この二試合、観ました!!（押し殺したような声で）スゴかった!! 前回の『武士道』で一番おもしろかったです！

青木 本当ですか、ありがとうございます！

江頭 これはもう、ウソ抜きで!! も〜う、ムツゴロウさんvsニシキヘビの闘いを思い出しましたよ！

青木 ど、どういうことですか？（笑）。

江頭 昔さ、テレビでムツゴロウさんがニシキヘビを首に巻いたんですよ！ そしたらニシキヘビがそのままギュ〜ッて首を絞め上げて、そのままカメラがパンッと消えたんですよ！ で、そのあとの話を聞いたら、ムツゴロウさんの首の骨が折れそうになったから、カメラマンはカメラを放り出して、スタッフ総動員でヘビを離したんだって!!



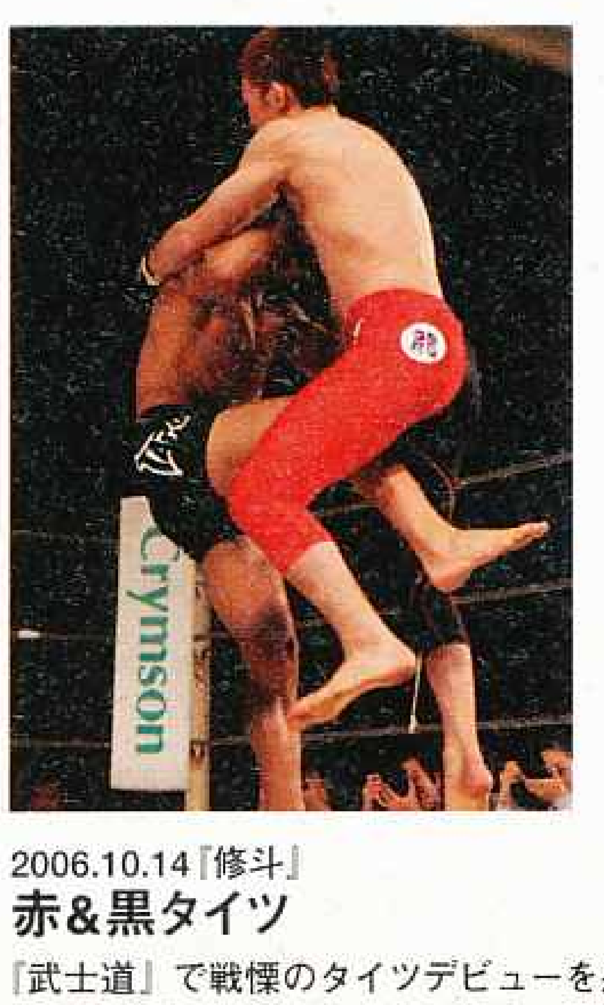
［PRIDE武士道 -其の十三-］
○青木真也 vs クレイ・フレンチ×
（1R 3分57秒 三角絞め）

この日も『バカサバイバー』のバックミュージックにノリノリで入場してきた青木。対戦相手のフレンチをひとたびグラウンドに引き込むと、そのまま三角絞めで一本！ 試合後のマイクではリングサイドにいたメレンデスをリング上に呼び込み、「大晦日、どう俺と」といきなり大舞台での対戦を要求した。

青木真也のタイツ変遷



2006.8.26『武士道 -其の十二-』
黄色タイツ
『武士道 -其の十二-』で『PRIDE』初登場となった青木は、なんと！ リング上で道衣を脱ぎイエロータイツ姿に変身。試合同様、強烈なビジュアルインパクトを残した。



2006.10.14『修斗』
赤&黒タイツ
『武士道』で戦慄のタイツデビューを果たした青木は、二ヵ月後の修斗・横浜大会で早くもタイツの衣替え。イエロータイツに比べると、赤&黒タイツは若干シックな印象となった。



2006.11.5『武士道 -其の十三-』
黄色タイツ&赤ライン
『武士道』ではやはりイエローか、と予想された青木のタイツだが、今回はレッドのラインが斜めに入るという斬新なデザインに。次のシフトチェンジを期待させる演出である。

——ハハハハ！ 命懸けのエンターテインメントですね（笑）。
江頭 そのニシキヘビだよ、この人は！ 絡みついたら、あっという間に三角絞めが極まっちゃうし！
——ということですけど、青木さん（笑）。
青木 ちょっと早口でわかんなかった（笑）。
江頭 スンマセン!! 若干興奮してますぅ！
——逆に青木さんは江頭さんをどういうふうに見てたんですか？
江頭 オッ!!
青木 史上最高のやられキャラというか。
青木 よくあそこまで身体を張るなって感心してます。
江頭 オア～ッ!!（恥ずかしそうに）……もう身体しかないんで。
青木 いつも凄く痛そうですよね（笑）。
江頭 でも本番になると、正直、ぜんっぜん痛くないんですよ。コンクリートにガンガン打っても。あとで気づくと、もの凄く痛い。すご～く腫れてたりするんですよ！ ム～！
青木 それ、なんとなくわかります。ボクも試合中に殴られても、あんまり痛くないんですよ。あとで凄く痛かったりするんですよね。
江頭 あとでねぇ!! くるんだよ、これが。じつは青木さんと「あ～、おんなじタイプだろうなあ!!」って思ってたもん！
——資質的に同じだ！ と。
江頭 う～ん!! やっぱスパッツを穿く人間は同じなんですね！ ちょっと変わってるもんネ!! でも、俺と違って、あんまり緊張しそうには見えないけど。
青木 いや、メチャクチャ緊張しますね。
江頭 え～ッ!?
青木 入場前までテンパリまくりです。
江頭 ほぉ～ん。
青木 入場の前まで凄く緊張します。たぶん江頭さんと一緒で、入場したらスイッチが入っちゃうんですよ。

ボク、試合中殴られてもあんまり痛くないんですよ あとで痛かったりするんですけど（青木）

江頭 はぁ～！ 俺はどっちかというと、「今日はこうして、こうして、こうやろう」って、ず～っとネタ帳に書いてるんですよ、じつは。でも……本番じゃまったく違うことやってんだよ!! どういうことだよ、これぇ！
青木 ハハハハハ！
江頭 ノートに何ページも書いてんのに、一行も使わなかったことが何回もあるんですよ！ 青木さんもそういうタイプじゃないかな～っと思って！ インスピレーションでどんどん変えて闘うでしょ？
青木 そこは"ひらめき"ですね、試合中の。「これ、やっぱ倒さないで引き込んじゃおう」とか。試合中の相手とか、身体の波長で決めるような感じです。
江頭 （急に立ち上がって）前世、俺たち絶対に兄弟だよ!!
青木 きょ、兄弟ですか！（笑）。
江頭 絶ッ対に兄弟！ 今度、江原（啓之）さんに見てもらおうよ!! 同じオーラが出てるよ!!
——と、とりあえず落ち着いてください（笑）。
江頭 （無視して）だけどね、一つだけ違うのが、この人は元・警察官でしょ？ かたや俺は犯罪者だからね！
——捕まえるほうと捕まるほう（笑）。
江頭 俺はトルコで○○○○を出して捕まりましたからっ！
青木 ああ、トルコの話は凄いッスよね！
江頭 （疑いのまなざしで）ホントに凄いと思ってんのぉ？

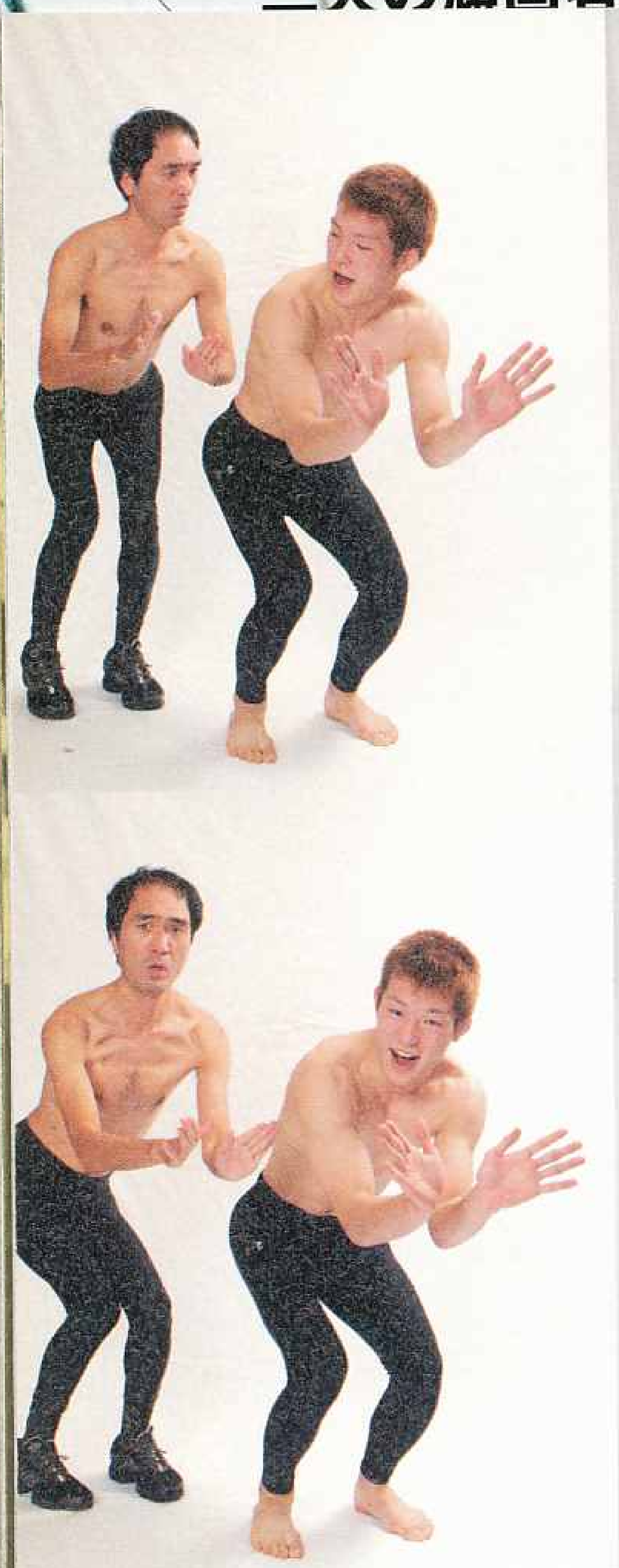

青木の前で"テポドン"を披露する江頭2：50。愛用品である黒タイツのアソコの部分が綻びている理由を、江頭は身体を張って青木に説明した。

青木 はい！ 仲間に江頭さんと対談するって言ってたんですけど、そのトルコで○○○○を出しちゃった話をみんなが絶賛してて。「次は俺も出さなきゃいけないのかなあ……」って考えちゃいました（笑）。
江頭 （手を叩きながら）そこまでやられたら俺は商売上がったりだよ!! ちょっと待ってくれよ、アンタ！
青木 いや、さすがにそれは無理です（笑）。
江頭 しかしさあ、いまはコメントとかでウケを狙ってる選手が多いじゃないですか。入場とかも笑いを狙ってる人が多いじゃん。だけど！ 青木さんはもの凄く素直に自分の感情を表現している。スポーツマンだよ！
青木 まあ、よく失敗もするんですけど。
江頭 ホンホォー!?（声が裏返って）。

そう！ コンクリートにガンガン打ってもね でも、あとですご～く腫れてたりするよね（江頭）

青木 オロオロしすぎちゃって失敗することもあるんです。
江頭 いやもう、前回もその前回のマイクもぉ、全然!!
——でも、青木さんはストレートに言いたいこと言っちゃうタイプでもあるんですよね。
青木 なんでも言っちゃう。そこも"ひらめき"ですね。
——先日の試合後、リングに倒れている対戦相手に何か怒鳴ってましたよね。
青木 ああ、あれは試合中にロープを何度もつかまれたのに立腹してたんです。
江頭 あ、あ！ つかんでたねっ!!
青木 で、一回注意されても懲りずにやりやがったでしょ？
江頭 うん、うん！
青木 試合中は全然怒ってなかったんですけど、試合終わってから怒っちゃいました。
江頭 ホ～ッ、ちゃんと言うんですねえ！
——それでお二人はロングタイツという共通点というか、今回の対談もそこがきっかけになってるんですけども。
江頭 いつもは黄色なんですよね？
青木 黄色ですね。いま穿いているのは練習用の黒タイツです。
江頭 （立ち上がって青木ににじり寄って）ちなみに、それはいくらなんですか!?
青木 これは5～6000円ぐらいです。
江頭 俺、7770円だよ！ チャコット製（ダンス用品メーカー）ですよ、これ!!
青木 でも、アソコの部分が破れて縫ったあとが……。
江頭 うん！（テポドンの構えをしながら）これやるからね！ これやりすぎて破れて、マネージャーに縫ってもらったんだよ！
青木 ハハハハ！ そうなんですか！（笑）。
江頭 でさ、みんな黒だけだと思ってるでしょ!?（いきなり黒タイツを脱いで）ほら！ 白もあるんですよ！

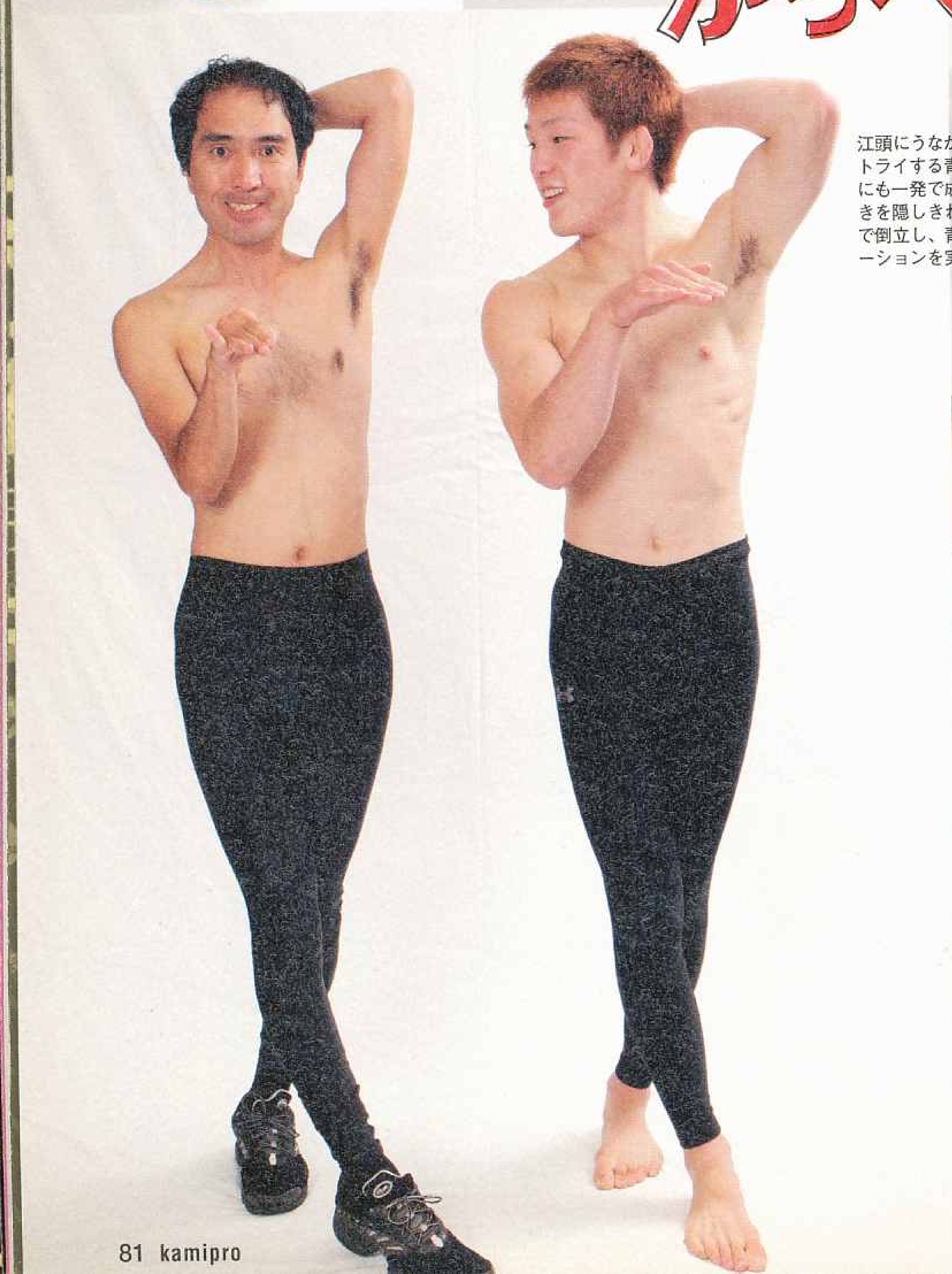
“U”とキックにこだわり続ける
二人の頑固者が再会対談！





「絶対、痛くしないでよぉ（下がり眉で）」と念を押す江頭に対し、青木は容赦なくこの三角絞め。青木の笑顔とは対照的に江頭はもはや瀕死状態に。青木が足を外すと「何すんだ、アンタ！」と江頭は涙目で一喝した。

バカサバイバー がっぺ対談





江頭にうながされ、江頭式変型倒立にトライする青木。これがなんと予想外にも一発で成功！　さすがの江頭も驚きを隠しきれずこの表情。自らも急いで倒立し、青木×江頭の倒立コラボレーションを実現させたのだった。

メレンデスと試合するならやっぱりおもしろくていい試合を心がけたいですね（青木）

青木　うわっ！（笑）。

江頭　これ、パナウェーブ研究所に行くときにわざわざチャコットで作ったんですよ！

青木　ハハハハ！　白装束に合わせて（笑）。

江頭　そう！　千乃（裕子）代表に会うために。でも先方の人間が「代表はモッコリが嫌いだ！」つって、初めてスパッツを否定しやがったんだよ!!

青木　この白タイツ、スカラー波は通さないんですかね？（笑）。

江頭　スカラー波は通さないぞ！　そっちは通しそうだなあ……（青木のスパッツを触って）アイ!?　けっこう頑丈だ！

青木　頑丈な厚手の素材です。それに汗を吸ってくれて滑らないから極めやすいんですよ。

江頭　スベらない!?（再び青木のスパッツをまじまじと触って）……ホントだあ!!　だからスパッツを穿いてるんですか!!

青木　はい。黒の練習用だけで、5〜6枚持ってますね。

江頭　まだまだだなあ!!　ロングスパッツの先輩からすると、まだまだだ！　ククク！

青木　江頭さんは何枚持ってるんですか？

江頭　俺はね、12枚ぐらい持ってる。

青木　12枚も！（笑）。

江頭　うん。やっぱ（テポドンで）破けちゃうから……。しかし、そのうち青木ファンは全員スパッツを穿くようになるんじゃないの!?

――グッズ売り場ではTシャツではなくてタイツを売ってほしいですね（笑）。

江頭　（おそろしく真面目に）そうだね。

青木　そんなの買う人いないですよ（笑）。

江頭　わからないよ〜。

――こないだの『武士道』の黄色タイツには赤のラインが入ってましたけど、新しく作られたんですか？

青木　新しく作ったんですよ。本当は今回からレインボーでいこうと思ってたんですけど（笑）。

――レインボー！　斬新すぎます（笑）。

青木　けど、レインボーって、ゲイの象徴カラーになっちゃうんですよね。

江頭　あら！　あらっ!!

青木　そういうメッセージになっちゃうと、凄く大変じゃないですか。

江頭　いやいや、これからはそこのファンも獲得しないとね！



あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。小学校の頃から柔道に励み、全日本ジュニア強化選手に選出される。06年2月にはプロ修斗5戦目にしてミドル級世界王座に君臨、さらに『武士道』二戦二勝とまさに絶好調！ 180cm、72.5kg。

えがしら・にじごじゅっぷん■1965年7月1日、佐賀県出身。大川興業所属。「ワンクールのレギュラーより一回の伝説」は江頭の決まり文句で、96年トルコでは全裸パフォーマンスをして現地逮捕されるなど、人生経験豊富。

青木　ボクは獲得したくないんですけど……。

江頭　よし、わかった！　俺もレインボーを穿くッ!!　よ〜し、よしよし！　それで一緒に獲得しよう！

――ガハハハ！　大晦日の『PRIDE』は「男祭り」というタイトルで、髙田本部長はフンドシで太鼓を叩くし、ぜひ青木さんには隠れたメッセージを発信してほしいですよ（笑）。

江頭　い〜んじゃな〜い！　新宿二丁目には格闘技ファンは多いから、そこに向けて！

青木　ククク！

江頭　（急に青木の身体をなめるように眺めだし）……しかし、青木さん。いい身体してるねえ。ちょっと見せてくださいよ。うん、スイマセ〜ン。

青木　え？　いまここで？（笑）。

江頭　そう！　いますぐっ!!

（服を脱ぐと筋肉隆々の青木の身体が現われる）。

江頭　（ツバをゴクリと飲んで）……ああッ!!　すばら……、オオオ〜ッッ!!　凄い！　ちょっと胸を触っていいですか！　スッゲ〜、キタ――ッッ!!

青木　う〜ん（笑）

江頭　試合は終わったばかりですけど、もう練習してるんですか？

青木　そうですね。もしかしたら、大晦日に試合があるかもしれないんで。今回、試合が流れたギルバート・メレンデスと白黒つけたいです、どっちが強いか。

江頭　ギルバート！　あの人、かなり強いんでしょ？

青木　相当、強いと思いますね。

江頭　どういう選手なんですか？

青木　オラオラですね、もう。寝ても立っても殴ってるような、ちょっと野蛮なヤツです。

江頭　ちょっとヒョードルっぽい感じで？

青木　どうなんですかね、もっとオラオラしてますよね。ガーッて攻めてくるような。

江頭　絶対、来るよね！　うん！　来るねえ、ギルバートの野郎は!!

青木　そこでガッと組みついて倒して、首でもこうキュッと絞められたらって思ってるんですけどね。まあ、細かくは考えてないですけどね。疲れちゃうんで。

江頭　やっぱ、あんま考えすぎるとダメなんだろうね。ガチガチになっちゃって。

青木　はい。だからそこは〝ひらめき〟で。

江頭　やっぱ〝ひらめき〟のほうがいいんだ。ああ〜、そっちのほうがおもしろいんだよな〜。しかも期待度は一番高いと思いますよ！　前回の試合が試合だけに！

青木　はい！　おもしろくていい試合になることは心がけたいですね。

江頭　絶対、攻めてね！　膠着状態、絶対やらないでね!?

青木　もうボクも苦手なんですよ、膠着するのが。我慢できないんです。

江頭　おんもッしろい試合、お願いします！　俺のモットーはね、「ワンクールのレギュラーより一回の伝説」なんですよ！　青木さんもね、「ワンクールの『武士道』より一回の伝説」で、ぜひぃ！

――「ワンクールの『武士道』」って、終わらせてどうするんですか（笑）。

江頭　いや、終わらないよ！　この人の快進撃が続くかぎり、続きますよ！　まぁだ、伝説の序盤だよ！

青木　伝説が残せるようにがんばります！

江頭　よぉ〜し！　伝説を作る前に、青木さん、一発やるぞ！

青木　は、はい（笑）。

江頭　スリー、ツー、ワ〜〜〜ンッ！

江頭&青木　がっぺムカつく!!

【06年11月8日／DSEにて収録】

絶対、攻めてね！　膠着状態、絶対やめてね!?　ワンクールの『武士道』より一回の伝説！（江頭）

“U”とキックにこだわり続ける
二人の頑固者が再会対談！

帰ってきた“60億分の1の煽りVアーティスト”

佐藤大輔 お前は男だ！





安定した生活を捨て、ロマンを選んだ 愛すべきPRIDEバカがここにいる!!

ついにあの男が帰ってきた！ PRIDE名物、心揺さぶられる選手紹介煽りVTRを作ってきた佐藤大輔ディレクターが、11.5『PRIDE武士道』から復活。なんとフジテレビ退社して『PRIDE』映像制作に戻ってきたのだ！ 熱き男の熱き決断に耳を傾けろ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

designed by hisa（TwoThree）

佐藤大輔 お前は男だ！

――今日はPRIDEファンから"神"とまで称される方にお会いできて光栄ですよ（笑）。

佐藤　いやいや（笑）。

――11・5『武士道』後、PRIDEオフィシャルHPに書き込まれた、「佐藤大輔は神」を始めとした、数々の賞賛や感謝の言葉っていうのはご覧になったんですか？

佐藤　僕はネットとか見ないんですけど、DSEに行ったらみんなが「見ろ、見ろ」って言うんで見させてもらったんですけど、ありがたいやら、照れくさいやら……。この場を借りてお礼を言わせていただきます（笑）。

――それにしてもよくぞ戻ってきてくれましたね。

佐藤　まぁ、自分としては戻ってきたというより、会社を出たという意識のほうが強いんですけどね。

――その会社というのはもちろん、フジテレビ。

佐藤　そうです。10月31日付けで退社しました。自分がホントにやりたいことをやるには、辞めるしかないなって。でも、もう辞める決心はついていて、9月の無差別級GP決勝の時点で、辞意も伝えていたんですけどね。最後にF1のビッグイベントがあって、その仕事をやらせていただいて、そこで一区切りということで。円満退社です！（笑）。

――「円満」を強調しますね（笑）。

佐藤　いやいや、ホントに。冗談じゃなくて。ホントに円満なんですよ（笑）。

――ただ、いくらやりたいことがあるといっても、「普通、フジテレビを辞めねぇだろ」って思いますよね。

佐藤　辞めないですよね（笑）。それはいろんな人からもさんざん言われました。ただ、たぶん僕の中でフジテレビに就職した実感というのが、そもそもなかったんですよね。

――そうなんですか？

佐藤　僕は「フジテレビに入りたくてしょうがなかったわけじゃない」と思ってずっと過ごしてきたんですよ。実際、そうでしたし。「じゃあ、なんでフジテレビに入ったんだろう？」って考えたら、就職試験のタイミングが一番早かったんですよね。マスコミ関係って早いじゃないですか？

――そんな理由なんですか（笑）。

佐藤　偉そうに聞こえると嫌なんですけど、僕は「フジテレビにどうしても入りたい」っていう友だちがいて、付き合いで一緒に受験したら受かっちゃったんです。だから、たまたま格闘技に出会えて、おもしろいことをやらせてもらったのは凄く感謝してるんですけど、会社そのものに対する執着心というのはそんなになかったんですよ。定年まで務めるというイメージもなかったですし。ましてや、入ったばかりの頃って、仕事なんてよくわかんないじゃないですか。

――まあ、新卒で入ったときなんてわからないですよね。

佐藤　そうですよ。とくに僕なんて、高校・大学エスカレーターで行けるみたいなとこで、部活だけやってて、その延長線上に就職があって。だから会社に勤めてるというより、専門学校に通ってるのと一緒だった気もしますからね。いま思うと。だから今回独立して、本当の意味で就職した気がします。

――初めて自分で職業選択した感じですか？

佐藤　ホントそんな感じですよ。



会社を辞めるって言ってから、もう両家は断絶状態ですよ！（苦笑）

――ただ、フジテレビは人もうらやむ会社じゃないですか？ 誰もが知ってる会社で、お金のほうもよくて。

佐藤　そうなんです。給料高いんですよ（笑）。

――やっぱり高いですか（笑）。そのフジテレビで、30歳すぎで大きな番組のチーフディレクターという地位にいて。どう考えてもこのままいたほうが安泰だと思うんですけど。

佐藤　でもね、完全に年功序列ですからね。給料から何から。

――でも、それって逆に言えば、これからどんどん給料が上がっていくっていうことじゃないですか。

佐藤　まぁ、絶対に潰れない会社ですからね。

――それをなげうってまで独立を決断したのは、どういった理由からなんですか？

佐藤　『PRIDE』がやりたいっていうのが第一ですけど、自分の中でいろいろとあとづけの理由を考えたんですよ。「なぜ人は働くのだろうか？」とかそこまで掘り下げて。もちろん仕事はお金を得るためなんですけど、「それがすべてなんだろうか？」と。「自分じゃなきゃいけないものがあるんじゃないか？」って。ガンツさんもそうじゃないですか？　いまやってる仕事を「自分じゃなきゃいけない！」って思ってるでしょ？

――まぁ……こういう仕事って、そう思うからこそやっていけるっていう部分はありますよね（笑）。

佐藤　たぶんみんな、そういうものを探して仕事してるんだと思うんですよ。だったら「それに出会えたからには、もうやんねぇとな」みたいな。

――「自分じゃないといけない」というところに、一番の比重を置いた、と。

佐藤　「自分じゃないといけない」って自分自身が思えるかどうかだと思うんですよ。人がどうこうじゃなくて。あとF1の番組制作をやってたことが自分にとって大きかったですね。F1って世界を回るじゃないですか。ヨーロッパ発のソフトで世界配信されてて、何十億人も観てるでしょ？　ふと立ち返ると、日本発のスポーツコンテンツで世界に通じる可能性があるのって、あとにも先にも『PRIDE』しかないんじゃないかと思ったんですよ。

――ああ、そうかもしれないですね。

佐藤　なんか他にあります？　プロ野球の日本シリーズも『ワールドカップバレー』も日本だけしか観てないですよね？　フィギュアスケートは日本発のイベントじゃないですし。

――そう考えるとないですね。

佐藤　ないんですよ。箱根駅伝をオクラホマ州の人は観ないですから（笑）。

――なぜオクラホマ州（笑）。

佐藤　でも、『PRIDE』はオクラホマのおっちゃんでも観る可能性があるんですよ。アメリカのテレビ局『FOXスポーツ』の方がミルコvsヒョードル戦のときのVTRを観て、「これならいける」、「このパッケージでやろう」って言うくらいのソフトですから。制作者としては、そこにベットしようかと。F1やってたからこそ、逆転の発想で、「これに賭けたほうがいいんじゃないか」と純粋に思いましたよね。

――ビジネスとして考えても、人生を懸ける価値があるものだ、と。だから11・5『武士道』のオープニングVTRで「世界を驚かせる旅、ご一緒させていただきます」というセリフがあっ



6月5日、PRIDE道場開きで、GOZMAがPRIDEガールをはべらかせていたわずか2～3時間後、フジテレビが『PRIDE』放映中止を発表。ここから激動が始まったのだ。

たわけですね。

佐藤　あれは（DSEの）笹原さんが考えたセリフなんですけど、いい言葉だと思って、使わせてもらいましたね。あと、僕がF1やってたとき、ハンガリーGPでホンダが優勝したんですよ。ご存知ですか？

——ああ、夏にやってたやつですね。『すぽると！』で見ました（笑）。

佐藤　そうそう。僕、あのとき表彰台の真下にいたんですよ。

——あっ、そうなんですか？

佐藤　それで、表彰式で『君が代』が流れる中、ホンダの若いスタッフとかみんながワンワン泣いてるんですよ。それを見て「やっぱ男ってこういうふうに仕事しなきゃいけねえんだな！」って思いましたね。なにか背中押されました。

——それこそ、このあいだの煽りVTRじゃないですけど、「やれんのか？」、「俺もやる！」って感じですね（笑）。

佐藤　ホントに煽られました（笑）。ここに留まってちゃいけないと思ったし。鈴鹿に16万人集まったときも凄いと思ったんですけど、「俺もこれと似たようなことをやってたじゃないか」とか思ったりね。そういう意味で、非常にロマンチックな何カ月間でしたね。

——怒って、悩んで、泣いて、それでも前に歩き出す。まさに青春じゃないですか（笑）。

佐藤　ホントにガンガン酔いやすい感じなんですよね。煽って煽って、自分が煽られてっていう。

——自分の中で人生の煽りVを作ってるみたいな（笑）。

佐藤　周りから「バカか」って言われますよね（笑）。

——いやぁ、やっぱり世の中に風穴を開けるのは「バカ」なんですよ。でも、大輔さんってたしか奥さんいらっしゃいましたよね？

佐藤　いますよ。子どもも二人います。

——二人もお子さんいるんですか！

佐藤　双子なんですけどね。

——じゃあ、二児の父として大変じゃないですか。フジテレビを退社するって言ったとき、ご家族の反応はどうだったんですか？

佐藤　カミさんは「辞めるんでしょ？」って言ってましたね。

——ほう。やっぱりダンナがどういう人間かわかってるわけですね。

佐藤　ただ、親がね……。

——やっぱりそっちの理解を得るのは難しいですよね（笑）。

佐藤　もうね、両家は断絶状態ですよ！（苦笑）。

——ダハハハ！「そんな男に娘をやった覚えはない」というか（笑）。

佐藤　でも、それを言ったらフリーのディレクターの方というのはごまんといらっしゃるわけで、「その人たちはなんなの？」って話ですよね。僕から見れば皆さん真摯にモノを作られてるし。その人たちから見て、「フジテレビの傘の中に入ってやってるんだろ？」って思われながら仕事するのは嫌ですからね。だから、フジテレビというものを外して、自分がどこまでできるんだろうかということも考えましたよね。

——「フジテレビの佐藤」ではなく、「佐藤大輔」としてどこまでできるか。

佐藤　だからせっかく独立して会社立ち上げるなら、『PRIDE』はもちろん、他のスポーツのディレクションもやりたいし、大きな中継や音楽モノなんかもお話が出たらやるし。最終的には映画を撮れたらいいですね。

——辞めることによって、そういう可能性も生まれてくるわけですよね。

佐藤　だからいまはもうワクワクしてますよ。

——ところで、こういった形になったそもそもの発端は、フジテレビの『PRIDE』放映中止だったわけですけど、大輔さんはこの第一報をどのようにして聞いたんですか？

佐藤　僕は電車の中でケータイが鳴って聞いたんですよ。「『PRIDE』中止ですよ。放送は今後いっさいないです」と。

——突然、電車の中でそんなことを聞きましたか！

佐藤　夕方から、スポーツ局格闘技班で『SRS』の会議があったんで、会社に向かってた途中で聞きましたね。大井町線の電車の中ですよ。忘れもしない。それを聞いたときは、「どうしよう？」っていうか、「このまま会社行って辞表叩きつければ、辞めれるのか？」とか考えて。

——もう、その時点でそこまで飛躍しましたか。

佐藤　とりあえず「なんか騒いだほうがいいんじゃないか」みたいなね。

——とりあえず、暴れてみようと（笑）。

佐藤　それで会社に行ったら行ったで、その件についての明確な説明なんて誰もできないんですよ。「わからない」、「待て」とか言われて。結局、最後まで説明は受けませんでしたね。

——巨大組織というのは、そういうもんなのかもしれないですね。

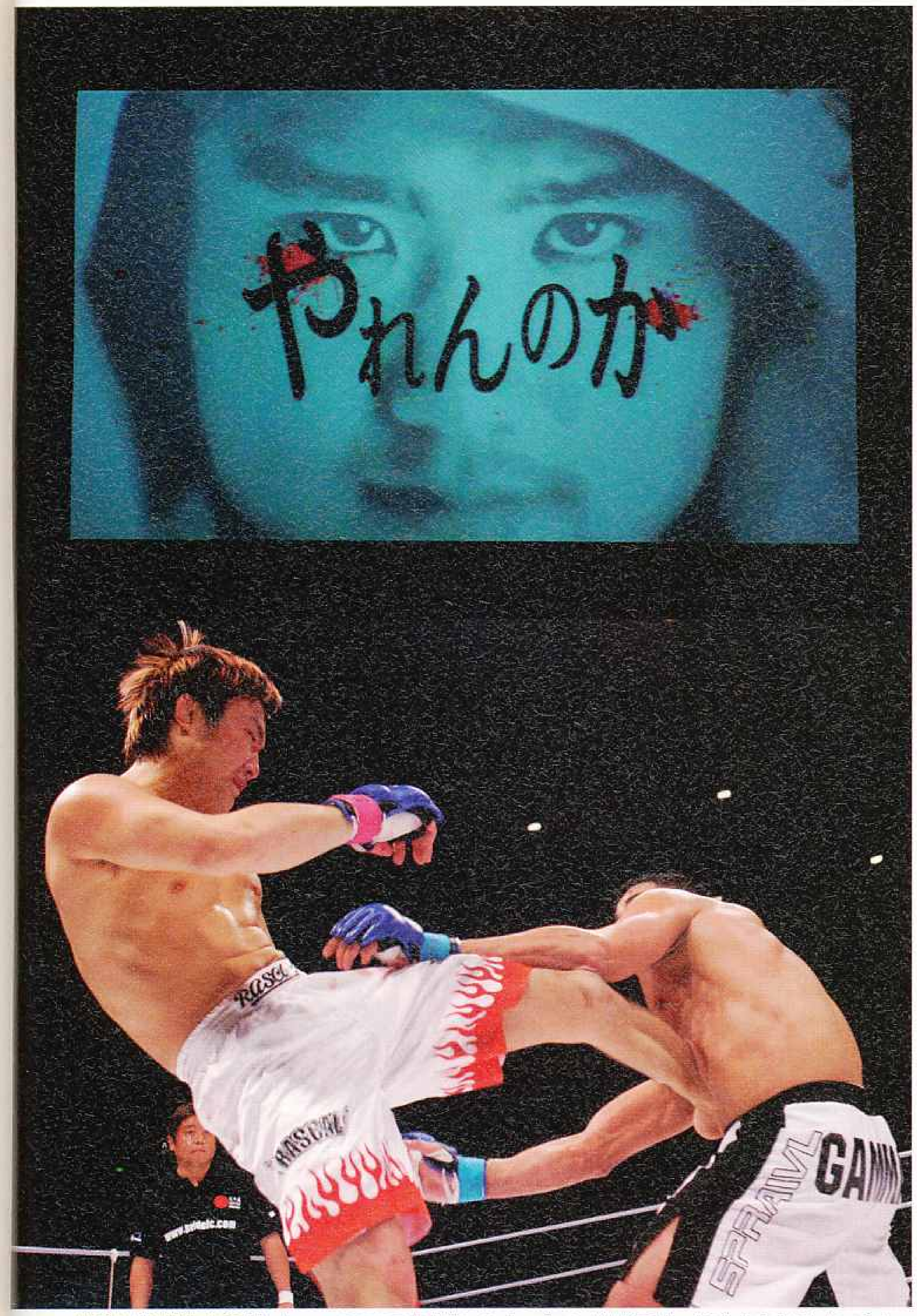
佐藤　でも、この数カ月、いろんな人と話す中で「ホントにフジテレビは『PRIDE』をやりたかったんだな」ということは凄く感じましたね。『PRIDE』というものの価値を認めてるからこそ、僕を（会社から）出したんだなというか。僕が「『PRIDE』の仕事がやりたい」、「フリーとして自分の力を厳しいところで試してみたい」と言ったら、「じゃあ、頑張れ」って快く送り出してもらいましたから。そして最後は「またいつか一緒にやろう」っておっしゃっていただいてね。ウチの会社はいい会社だなと思いましたね。

——ホントにいろいろあったんですね。

佐藤　ありましたねぇ。この一年は10年ぶんぐらいのことがありましたよ。

——フジテレビの放映中止の前に、桜庭選手の『PRIDE』離脱というのがありましたけど、あれも大輔さんの中では、相当大きな出来事だったんじゃないですか？

佐藤　僕の中でもそうだし、みんなにとっても大きなことだったでしょうね。



佐藤大輔が制作に復帰した11.5『PRIDE武士道』のオープニング映像では、「やれんのか!?」というキーワードが繰り返し問いかけられた。それは王者・五味に対してでもあり、佐藤氏、そしてナレーターの立木文彦氏自身への問いかけでもあったのだ。

僕個人としては、桜庭選手のご自宅に遊びに行かせていただいたこともあるし……つらかったですね。でも、桜庭さんは……ちょっと言いづらいんですけど、引退試合はきっと、僕らと一緒に『PRIDE』でやってくれるような気がするんですよ。そんな気がしません？

——そこまではちょっと考えてませんでしたけど……。

佐藤　桜庭さんはセンスのいい人だから。絶対にそうしてくれるだろうなって、僕は勝手に思ってるんですよ（笑）。

——桜庭選手が移籍した直後って、フジテレビのスタッフの方々は、逆に「いまこそ頑張ろう！」っていう感じだったんじゃないですか？

佐藤　ホント、そんな感じでしたよ。そのとき「WE ARE PRIDE」っていうキャッチコピーを考えたんですけど。こんなときだからこそ、みんなで頑張ろうみたいなことはたしかにありましたよね。ところが、そのわずか一カ月後ですからね……。いや〜、大変だったな〜……。というか、俺のこれからの人生が大変だよ（笑）。

——ダハハハハ！　『PRIDE』より自分が大変（笑）。

佐藤　だから独立して、どれだけその可能性を広げていけるかですよね。会社を立ち上げるからには、古舘プロジェクトぐらい大きくしたいという気持ちもありますし。

——そうなってほしいですよ。僕は『kamipro』でも前に書きましたけど、佐藤大輔の煽りVは、古舘伊知郎の実況以来のプロレス・格闘技から生まれた〝発明〟だと思ってますからね。

佐藤　ちょっと、それは言いすぎです（笑）。でも、そう言っていただけるのは嬉しいですね。もともと格闘技の紹介ビデオ、煽りVというのは、ジャンルにもなってなかったんですよ。それを丁寧に作っていたら認められた。しかも何回作っても、何試合作っても飽きないですからね。

——このあいだの『武士道』でも、自分が作った映像が、あれだけ観客に喜ばれるというのは、ディレクター冥利に尽きるでしょう。

佐藤　そうですね。幸せモンです。

——それにしても、このあいだのVTRは、ここ数カ月のうっぷんを、すべて叩きつけたかのような、力の入れようでしたね。

佐藤　たしかに怨念こもってましたね（笑）。でも、あれは僕一人じゃできないですから。立木文彦さんというパートナーに、僕は育ててもらったと思ってますし。その方が、今回一緒にやっていただけることになったのは、ホントに嬉しかったですね。

——立木さんが『PRIDE』のナレーターに復帰したのは、どういった経緯があったんですか？

佐藤　立木さんの事務所の人に、僕がフジテレビを出る相談をしたんですよ。そしたら、その話を聞いた立木さんが「だったらもうフジテレビで『PRIDE』がないってことだよね。じゃあ、俺もやるよ」って言ってくださったんですよ。

——そうだったんですか！

佐藤　「佐藤大輔がフジテレビにいる限りは、フジテレビで放送しようと動くでしょ？　動いてるうちはやれないよ。でも、大輔がフジを出るということは、俺ももう動かないということだから、俺もやる」って。僕としてはありがたい話で、泣かせる話なんですけどね。

——いやぁ、もう青春ドラマの世界ですよ！　こうして黄金コンビが復活し

"U"とキックにこだわり続ける
二人の頑固者が再会対談！

佐藤大輔 お前は男だ！

たわけですね。たしかに大輔さんが今回『武士道』で復活しても、ナレーターの声が違ったら「完全復活」とはいえなかったと思うんですよ。

佐藤　そうなんですよ。『PRIDE』にはあの声がどうしても必要なんです。今回、「やれんのか」という言葉を繰り返し、五味選手に突きつけたんですけど、あの言葉を立木さんも自分に突きつけてたと思うんですよ。もちろん僕の中でも「やれんのか!?」っていうのがあったし。そして僕らの中の答えが、「俺もやる！」だったんですよ。

——煽って煽って決意表明、と。そしてその直後に「ナレーター　立木文彦」ってデカデカと出て、あれは抜群のインパクトでしたね（笑）。

佐藤　まあ、このタイミングしかないな、と思って、やらせていただきましたね（笑）。

——あのオープニングVTRを観て、「ついに『PRIDE』が帰ってきた！」って思いましたよ。あえて『PRIDE』に帰ってきたという表現をしますけど、これからやりたいことって、どんなことですか？

佐藤　とりあえず今後、『PRIDE』のクオリティを保っていくことに関してしっかり地固めをしなきゃいけないんですけど。地固めをしながら、他の局もそうですし、他の映像にまつわるお仕事をいただければな、と。

——大輔さんの職業というのは、フリーとして番組なんかを作ってる方はけっこう多いんですか？

佐藤　多いです。というか、作ってるのはそういう人たちですよ。

——では、これからいろんな局で佐藤大輔テイストの何かが出ている可能性があると。

佐藤　まあ、出ないか、一年後になるか、半年後になるかわかんないですけど。あとは、『PRIDE』のアメリカ向きの映像を作るという作業もありますしね。やることたくさんあるんですよ。だから、この場を借りて、AD募集させていただきます（笑）。

——ダハハハ！　いま、大輔さんの新会社に社員として入る予定の人はいるんですか？

佐藤　ディレクターとADの中間ぐらいの子が一人いて。その子と一緒に『武士道』の映像を作りました。二人で3日間で作ったんですよ！

——そんな短時間でできるんですか!?

佐藤　怨念がこもってますからね。それはやりますよ。『PRIDE』から離れてるあいだもずっと考えてましたからね。デニス・カーンだったらこの曲で、とか。だから、今回は溜めていたものを吐き出す作業でしたよ。ただ、つらかったのは以前使ってた素材が使えなかったことですね。

——ああ、やっぱりそうなんですか。

佐藤　以前、僕らが録り溜めてきた映像というのはいっさい使えないわけです。でも何かそれもちょっと楽しくて。一からやっていくという意味では、それも魅力的だなと思いますね。正直言って、一年前のクオリティに戻すには、一年かかると思うんですよ。だからこれからは、自分にというか、フジテレビスポーツ局に追いつく作業ですよね。それもまた楽しみですよ。



さとう・だいすけ■1974年、東京都出身。慶応義塾大学卒業後、97年にフジテレビ入社。スポーツ局でPRIDEシリーズ、SRS、ジャンクスポーツ、F1GPどの番組を手がける。PRIDE選手紹介の煽りVTRは絶品。今年10月31日付けでフジテレビを退社し、独立。新会社名はまだ未定。

——これからまた新しく創り上げる楽しみがある、と。

佐藤　まあ、正直言って、フジテレビ時代は何試合か使い回しみたいなものもありましたからね（笑）。

——ダハハハ！　ぶっちゃけ、比較的重要度の低いカードは、使い回しみたいなものもありましたよね（笑）。

佐藤　その使い回しを使い回しと思わせない選曲の妙と言ってください（笑）。

——でも、こうやって正式に復帰したとなると、自分が作った映像を使用した『PRIDE』を地上波で流したいという気持ちはあるんじゃないですか？

佐藤　だから、僕の最高の目標はフジテレビで流すことですよね。

——フジテレビで流すことですか！

佐藤　これは絶対いつかはやろうと思ってます。僕が辞めるとき、清原邦夫さん（元PRIDEチーフ・プロデューサー）ともそんな話をしてたんですよ。「絶対いつかはフジテレビで『PRIDE』をやろう。そのときはお前が演出だ」「わかりました」と。それはもう約束ですから。

——クゥ～、しびれますねぇ。もう完全に青春ドラマの世界じゃないですか！（笑）。『PRIDE』に関わってた人は、ホントみんな熱いですよね。

佐藤　だからこそ、「WE ARE PRIDE」っていうのが僕の中でのテーマなんですよ。やっぱり『PRIDE』って凄いと思いますよ。地上波なしでここまで盛り上がって、アメリカにまで進出してね。これだけ熱い思いが集まってるんだから、それがいい感じで溜ったとき、また爆発する瞬間がきっとくると思いますよ。

——現時点で地上波はないけど、これだけ凄いものを作ってるんだっていう思いは、みんなあるでしょうね。

佐藤　だからこそ、この思いを広く伝えたいっていう思いも僕にはあるんですよ。『PRIDE』は狂信的、熱狂的なファンを惹きつけることには成功していると思うんですけど、それがややもすると箱庭感になることがあって。そういうとこにはホントに気をつけないといけないんで。

——ああ、悪い意味でクローズされた世界になるのは怖いですよね。

佐藤　だから、ライブのお客さんをもっとも大事にするというのは当然なんだけど、そこで満足しないようにしたいな、というのはありますね。万人に媚びるようなものはダメですけど、渋谷のお姉さんにもわかるものを作りながら、かつコアなファンもピリッと満足させるというようなものをね。

——コアな熱が外に溢れ出して、広く伝わっていくようなものですよね。

佐藤　そうそう。そういうことです。そのやり方も、外側から逆算するんじゃなくて、選手が発する熱のベクトルというものを伝えて、スカッと見せるというかね。だからパッケージはカッコよく。新しい、いいものを見てるような気持ちにさせつつ、伝えたいことはベタなメッセージであったりとか。そういうものをこれから創っていきたいですね。

——では、これからもホントに期待してます！

【06年11月8日／都内某所にて収録】

最高の目標はフジテレビで『PRIDE』を流すこと。これはいつか絶対にやります！

10月29日、美濃輪育久講演会「ようこそ先輩!」岐阜県羽島市立羽島中学校

リアル・プロレスラーvsリアル中学生

美濃輪育久、母校へ帰る

SRF8回……不発!



美濃輪育久が母校に凱旋!

11・5『PRIDE武士道』でのマイク・バートン戦を一週間後に控えた10月29日、美濃輪育久が母校である岐阜県羽島市立羽島中学校で講演会「ようこそ先輩!」を行なった。

「中学時代、よくマットの上でドロップキックの練習をした」という思い出の体育館で行なわれたこの講演会。美濃輪は全校生徒を前にガチガチに緊張しており、そもそも美濃輪に「講演」なんていうことができるのかと周囲に不安が漂ったが、在学当時、隣のクラスの担任だったという水谷先生とのインタビュー形式ということで、なんとか無事スタート。

中学2年のときにプロレスラーになろうと思ったこと、でも部活は女の子にモテたいためにサッカー部だったこと、3年のとき進路を決める三者面談で初めて先生と親にプロレスラーになることを告げたことなど、約20分という短い時間ながら、夢を持つことと夢を実現するために努力することを後輩たちに向けて語りかけた。

しかし、そこは美濃輪の講演会。普通の話で終わるわけがなく、「リアル・プロレスラーとはなんですか?」という質問に対して、美濃輪節を爆発させた。

「僕はずっとプロレスラーになりたいと思っていて、いま実際にプロレスラーになっている。リアルタイムのプロレスラー、だからリアル・プロレスラーです。皆さんも小学生の頃は早く中学生になりたいと思っていたと思うんですけど、いま実際に中学生ですよね? リアルタイムの中学生。だから、皆さんは〝リアル中学生〟なんです。〝今〟は〝リアル〟なんで、日々をぼーっと過ごすのではなく、〝俺は中学生だ!〟という気持ちで生きてほしいです」と、不思議説法で、後輩たちに熱く語りかけた。

さらに「試合前はどんな気持ちか」という問いに対しては、「試合のことで頭がいっぱいですね。試合が自分の中で一番輝ける場所だと思うんで。皆さんで言うと、文化祭目指して準備してる感じと同じです」と、驚愕の試合=文化祭理論を披露した。

こうして、言葉の意味はよくわからんが、フィーリングでなんとなく言わんとすることがわかる、美濃輪育久初の講演会は終了。

最後は「技をかけてほしい」という柔道部員のリクエストに応えて、なぜかマットの上で、「いま考えた技、〝肩車回転落とし〟です」と、エアープレンスピンを披露したあと、SRF(スタンディング・リアル・フィスト)8回で「オイ!オイ!」と締めくくった。

講演会後、報道陣に囲まれた美濃輪は「中学生たちに〝リアル〟というものを伝えられたと思う」と満足げ。しかし、締めのSRF8回をろくに説明せずに始めて、一体感なくグダグダに終わってしまったことにかなり後悔しているらしく「SRFがまとまらなかったのがキツかったですね……。やっぱりあれはお約束じゃなくて、試合後のノリで気持ちが上がったときにできるものであって。やっぱり説明が足りなかったのか……。恥ずかしかったのか……。試合よりダメージが大きいです。これは尾を引くかもしれない」と、弱音を吐く一幕も。

そういえば、11・5マイク・バートン戦後の「SRF8回」は、いつもよりかなりローテンションだったが、もしやこのときのことが尾を引いていたのだろうか……。

なにはともあれ、「プロレスラーを夢見ていた場所」である母校に帰り、パワーをもらった美濃輪。次は『男祭り』での大爆発に期待だ!



"U"とキックにこだわり続ける
二人の頑固者が再会対談！

君は立嶋篤史を知っているか？彼こそ90年代初頭、その鬼気迫る闘いぶりで一世を風靡した伝説のキックボクサーだ。そしてこの男と同じ"匂い"を持つのが、ご存知、田村潔司。じつはこの二人、田村がUインター在籍時代から親交がある友人同士なのだ。片やキック、片や"U"に強烈なこだわりを持つ頑固者同士が、久々に再会し互いのプロ観を語り合う！

聞き手／ゴールデン90
撮影／菊池茂夫
試合写真／乾晋也
構成／堀江ガンツ
design by さおとめの事務所

二つの孤高

ワン・アンド・オンリーな男たち

田村潔司×立嶋篤史



―お二人が会うのはいつ以来ですか？

田村 以前、西調布のジムでやった大会に来ていただいたことがありますよね？ 去年だったかな。

立嶋 調布には二回行ったんですけど、二回目は間に合わなくて、行ったら大会が終わってたんですよ（笑）。

田村 そうそう、思い出した。あとはたまに僕の試合があるときに「観に来ませんか？」とメールする感じですよね。

立嶋 そう、短いメール。

―そもそも何がきっかけで知り合いになったんですか？

田村 Uインター時代に……。

立嶋 そうです。僕が大江（慎）さんのセコンドでよくUインターの会場に行ってたんで、その関係で知り合うようになって。

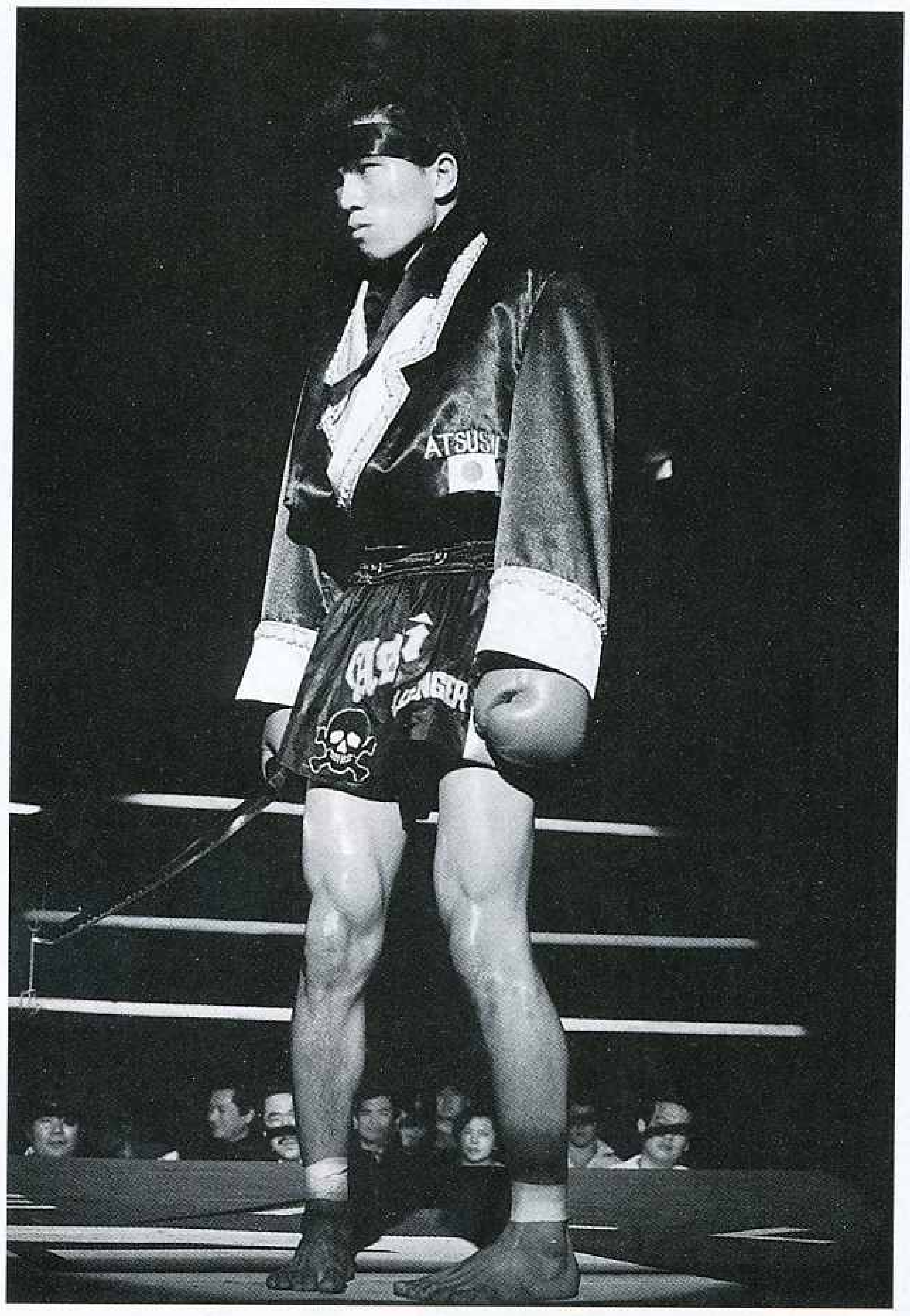
田村 あの頃、僕は毎月試合をやってた感じだから、そのたびに会ってましたよね。だから20代中盤の頃は一緒に遊んでいたというか、よくつるんでいた。あれから、もう12～13年経ちますよね。

立嶋 94～95年くらいの話ですね。僕が携帯をトイレに落として一時期交流が途絶えてしまいましたけど（苦笑）。

―そういえば、Uインターの地方会場に立嶋選手がよく出没していたという話を聞いたことがありますけど、キックボクサーである立嶋選手がUインターの地方大会についていくのは楽しかった？

立嶋 やることがないので、いつもホテルで『東スポ』を読んでいましたよ。会場に行ってもキックの会場とは空気が違うじゃないですか。かといって周囲に迷惑をかけるわけにもいかないから、控室の隅っこで大江さんにマッサージとかしていましたね。

―当時の田村選手の印象は？



会場の空気を自分の色に一変させる田村潔司と立嶋篤史の入場シーン。その存在感と醸し出すムードだけでも銭が取れる、まさに全身"プロ"の塊のような男たちだ。

立嶋 その前から田村さんのことは知っていたけど、何を話していいかわからない。流れで飲み会に誘われても、いつも隅っこのほうに座っていました。でも、飲み会のカラオケで田村さんがよく歌ってた曲は覚えてますよ（笑）。

田村 何歌ってたっけ？

立嶋 菊池桃子の『Ｓａｙ ｙｅｓ！』（笑）。

―アハハハハ！

田村 本当に歌っていた？

立嶋 ハイ。

田村 たしかにまだ歌詞は覚えてるけど（笑）。

―それは絶対歌ってますね（笑）。

立嶋 いま思い出してもあの飲み会は凄かったですね。レスラーだけじゃなく、力士の方もいて、テーブルがビールの空きビンとウイスキーのボトルで埋まりましたから。それで一口でもコップに口をつけたら、全部飲まなければいけないっていう暗黙のルールがあったんですよ。

田村 あったね～。

立嶋 僕はそんなに飲めないから、ウーロン茶をウィスキーだとごまかしながら飲んでましたね。田村さんも、どこかでごまかしごまかし飲んでいたんじゃないですか？

田村 いや、途中でどこかに抜けたりすることはあったけど、お茶をウーロン杯だとかウィスキーと偽って飲むことはなかったですね。それは反則。もしバレたら大変ですよ。

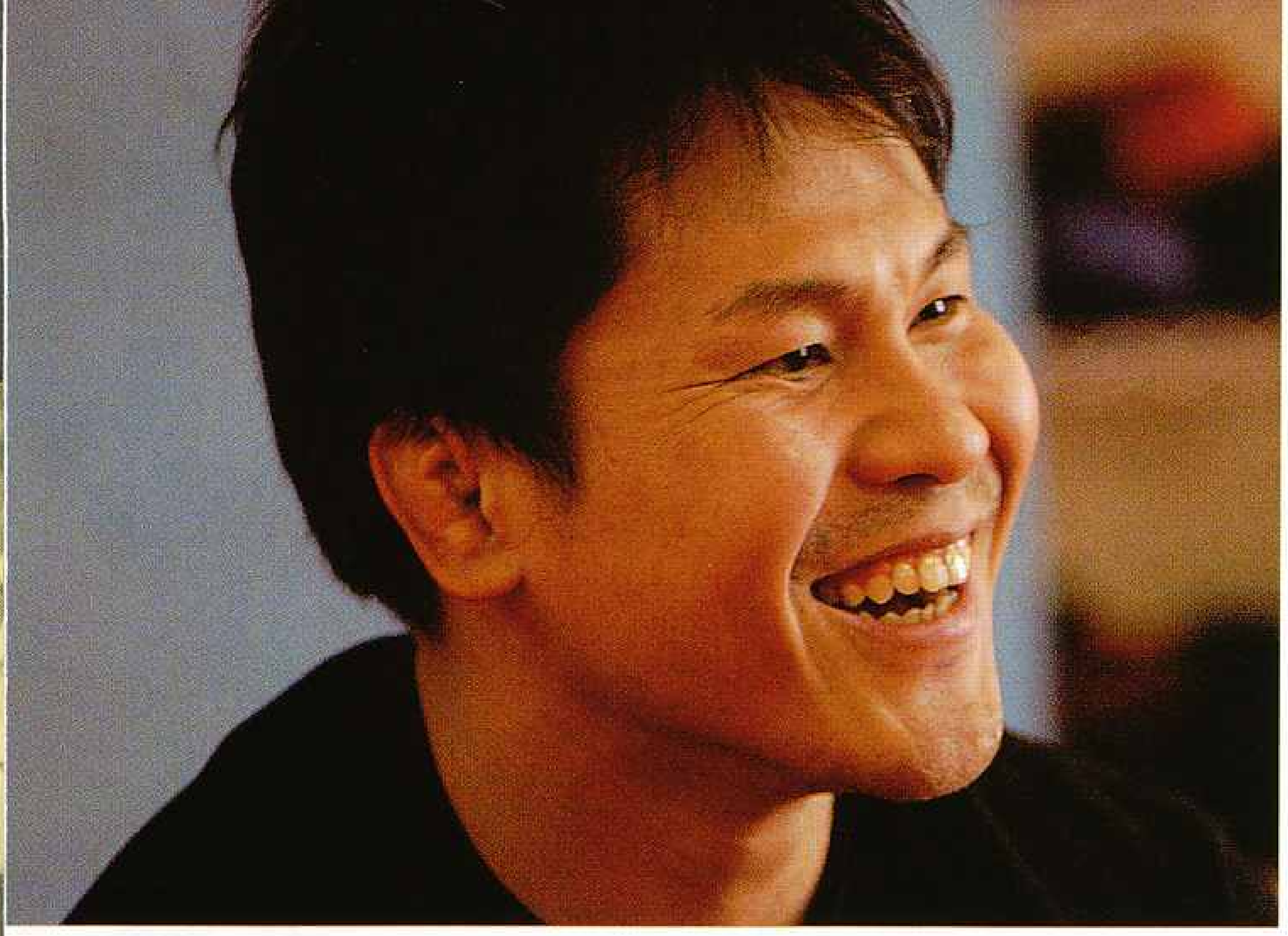
―プロレス道にもとる行為なんでしょうね（笑）。

立嶋 だから僕も飲めないといっても、自

飲み会のカラオケで田村さんが菊地桃子の『Say yes！』をよく歌ってたのを覚えてますよ（笑）



分なりに飲んでましたからね。あるとき、朝6時に田村さんに新宿駅まで送ってもらったことがあるんですよ。それから千葉行きの総武線に乗ったはずだったんだけど、気がついたら（反対方向の）西荻窪だった。反対方面に乗っちゃったと思って、慌ててホームに出たら、12月だというのにやけに



お互いすぐに打ち解けるタイプじゃないから自然とつるむようになった感じですよね

暖かくて、時計を見たら、もう午後3時30分を過ぎていた（笑）。

田村　アハハハ！　思いきり寝過ごして総武線往復してたんだ。

立嶋　半日以上意識もないまま、電車に乗っていたわけですから。

—田村選手から見た、その頃の立嶋選手の印象は？

田村　いまと変わらないですね。

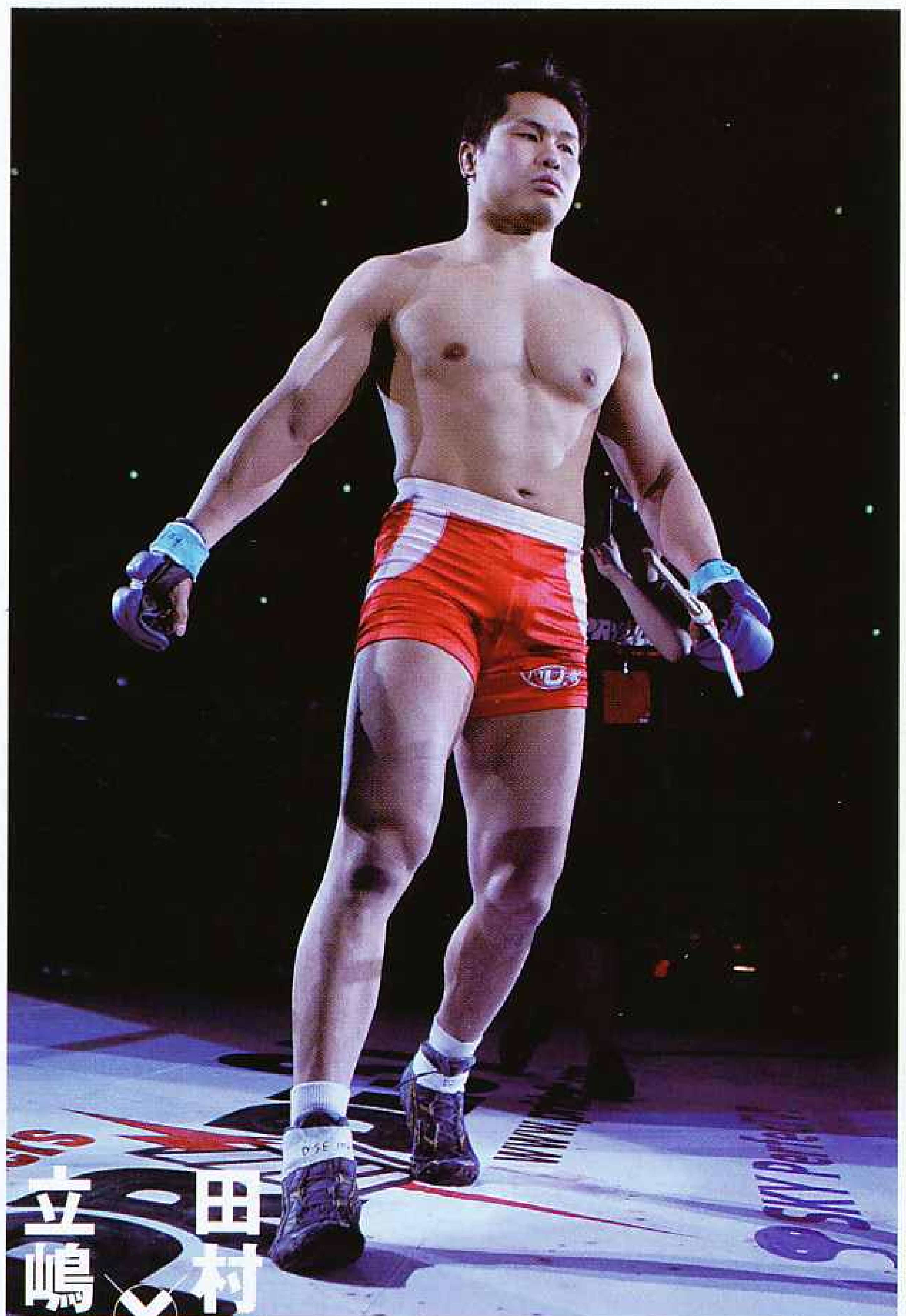
—すぐに打ち解けた？

田村　いや、全然。お互いすぐに打ち解けるタイプじゃないから（笑）。

—なんとなくわかります（笑）。

田村　かといって近寄りがたいわけでもないんですけど。まあ、自然と仲良くなった感じですかね。でも何がきっかけで一緒に飯を食いに行くようになったんですかね？

立嶋　そう言われてみたらそうですね。趣味が合うとか、何か好きなものが共通しているというわけじゃないのに、気がついたら、電話をかけ合う仲になっていた。あの頃、田村さんの自宅に呼ばれて鍋も作ってもらいましたよね。



田村　来たことありましたっけ？

立嶋　あります、あります。キムチちゃんこ、おいしかったですよ。それで作り方まで教えてもらったんですよ。

田村　あ〜、ハイハイハイ。

立嶋　あれから僕も自宅でキムチちゃんこを作るようになったんですよ。

—隠し味とか田村流のアレンジはあったんですか？

立嶋　たしか「男らしく作れ」と言われましたね（笑）。

—それは細かいことは気にせずに、豪快に作れってことですかね（笑）。

立嶋　それから渋谷とかで一緒に飯とか食うようになったんじゃないですかね。

—どこかでウマが合ったんですね。

田村　（腕組みしながら）う〜ん、なんだったんですかね。

立嶋　たぶん、僕が真冬でも半袖を着ている田村さんに憧れたんだと思います（笑）。

—ハハハハ！　田村さんはいまでも真冬に半袖で通してますよね。それはレスラーとしてのこだわりですか？

田村　いや、厚着をしたら風邪を引きやすくなると思ったんですよ。上着を羽織ったまま部屋にいたら、外に出たときに寒いじゃないですか。そうしたら、もう一枚羽織らなければいけない。そこで基準値を常に半袖一枚にしておく。

—おかげで風邪は引かないんですか？

田村　いや、それが引くんですよ（笑）。

—意味ないじゃないですか！（笑）。

田村　まぁ、他の人と比べたら引かないほうだと思いますけどね。

立嶋　僕は寒がりだから、到底真似のできない芸当ですね。

—当時の格闘技専門誌を見ていたら、よく立嶋選手の控室で試合後に一緒に記念撮影していますね。

田村　（他人事のように）へぇ〜。

立嶋　93年11月、NKホールで（前田憲作にKO勝ちしたあと）、控室に来てくれましたよね。

田村　後楽園ホールやNKホールにはよく行っていましたね。知り合いがいないと応援のしがいがないじゃないですか。僕がキックの人で初めて知り合いになったのが立嶋さんなんですよ。そこからどんどんキックにハマっていった。

—UWFとはまた違うキックの緊張感に酔いしれたわけですか？

田村　そうですね。会場の雰囲気もそうだ

田村潔司×立嶋篤史



田村さんは僕と同じ〝匂い〟がする 会場の空気が何かかぶるんですよ（立嶋）

し、技術面でも多々参考になりました。当時の僕はまだ22～23歳。ある程度形はできていたけど、細かい技術は持ち合わせていなかったので、「ああ、こういう打ち方があるんだ」という感じで勉強していました。

――当時キックボクサーの中でも立嶋選手は特異な個性を発揮していました。入場時には日本刀を持っており、試合前にそれで相手を斬るパフォーマンスで人気でしたけど、観ていてどう感じましたか？

田村　いや、カッコいいと思いましたね。あの頃は立嶋さんも上に昇る段階だったので、その流れを共有していたような気もする。同時代を生きたシンパシーみたいなものがあったんでしょうね。

――立嶋選手も田村選手の試合は観ていますよね？

田村　僕の試合には興味がないよね？

立嶋　Uインター時代は観たり観なかったり……。思い出に残っていることといえば、試合よりも一緒に（伊豆の）恋人岬に行ったことですね。もの凄く寒い日に、ただ行って帰ってきただけなんですけどね（笑）。

――なぜ恋人岬（笑）。

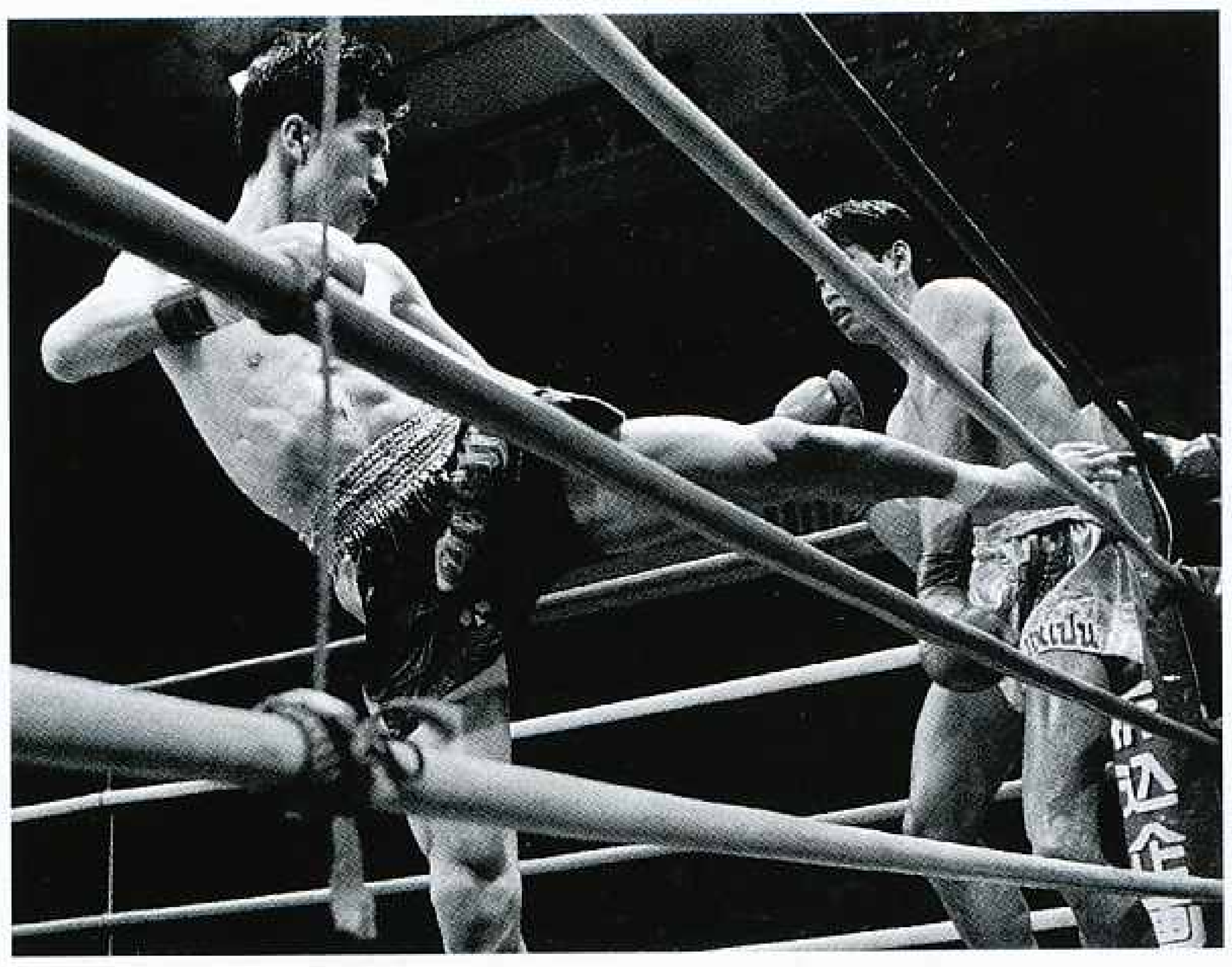
田村　あれはUインターの若い子チームで車2～3台に分乗して行ったんですよね。

――Uインター以降の試合は見ていますか？

立嶋　『PRIDE』でやった髙田さんとの試合を観ていて、その感想を携帯メールで送ろうと思っていたんですよ。でも打ち終わったら送らないで消去しちゃいました。部外者の自分が（総合の）技術的なことを語るなんて図々しいかなと思ってしまったんですよ。あとでそれを田村さんに言ったら、「もう一度同じ文章を送ってくれ」って言われましたけど。

田村　そうだよね（笑）。

立嶋　結局まだ送っていないんですけどね。全然やっている競技が違うじゃないですか。（総合には）キックと同じように蹴りやパンチもあるけど、間合いやタイミングが全然違う。ボクシングとキックの間合いとかタイミングが違うと同じようにね。そうなると蹴りに対する考え方も違ってくる。ヘタをしたら、上からモノを語るようになってしまうと思ったんで、送れなかったんですよ。



全身全霊を懸けたような闘いぶりで、90年代前半、後楽園ホールを熱狂させた立嶋。その後、徐々に勝ち星から見放されても、頑なに現役であること、プロキックボクサーであることにこだわり続けた。

田村　それでも僕は言ってもらいたいですけどね。

――最近は田村選手の試合は観てますか？

田村　最近は試合やってないからね（笑）。

立嶋　去年、有明コロシアムでU－STYLEの興行があったときには観に行きましたよ。行けないときにはテレビで観るようにしているけど、いま（田村が主戦場にしている『PRIDE』）は地上波でやっていないですよね。

田村　あ～、はいはいはい。

――立嶋さんから見て、田村さんのイメージは昔と変わりました？

立嶋　変わらないです。田村さんとは好きな女のタイプも違うと思うんですよ。昔、一緒に『ホットドックプレス』を開いて、どの娘がいいかという話をしたことがあるけど、そのときも好みは違っていた。

田村　それも覚えていないなぁ。

――田村さん、全然覚えてないんですね（笑）。

立嶋　女の子の好みだけじゃなく、食べものや映画の好みも違うと思う。これからもそういう話はしないような気がする。共通点があるとしたら、二人とも血液型はAB型であること。僕の場合、同じAB型の人とは徹底的に合うか徹底的に合わないかのどちらか。

田村　あ～、それは僕もありますね。

立嶋　こんなことをいうのはおこがましいかもしれないけど、田村さんには僕と同じ〝匂い〟がするんですよ。田村さんが入場してきたら、会場の空気が変わるじゃないですか。あの空気を作れる人はなかなかいない。僕とは違うジャンルの選手だけど、田村さんの入場を観るとやきもち焼くんですよ。だって花道を歩いているだけで、絶対的な自分だけの空気を作れるのは凄い。僕は自分の試合を傍から観たことはないけど、なんかかぶるんですよ。

――たしかに田村選手も立嶋選手も入場で独特のムードがあって、それから、リング上で四方に深々と礼をするという共通点もありますね。

立嶋　たまたまそこがかぶっているだけかもしれないけど、田村さんの礼を観ていると、田村さんの目線が自分の目線になる。僕は客席から観ているわけだけど、田村さんの目線を想像している。田村さんを観ながら、自分のことを考えているような。一度でも田村さんの入場を生で見たことがある人だったら、その感覚がわかると思いますけどね。

田村　僕はUインターのときは毎月試合があったから、試合が終わったら一週間休んで3週間練習というペースでやっていた。その練習の3週間はちゃんと節制してお酒も飲まなかった。そういう姿勢って身体にハッキリ出ると思うんですよ。もちろん空気にもね。

立嶋　最近はいろいろ派手な入場パフォーマンスをする選手も出てきたじゃないですか。たしかに観ていて楽しいけど、やっぱり僕なんかちょっと「軽い」と思ってしまいますね。大切にしているんだろうけど、なんか軽いんですよ。僕の考えが古くさいのかもしれないですけどね。会場の空気を自分にものにできる人が出てきたら、何をやってもピンと張りつめた空気になると思う。会場で試合を観た人だったらわかると思うけど、地面から歓声が湧き上がるような空気ってあるじゃないですか。辰吉丈一郎さんとかそうなんだけど、下から湧く。そして響く。田村さんの場合、たぶんサンバダンサーを連れて踊って入場しても、下



から空気や声援が湧いてくると思いますよ。

田村　さすがにそれはないでしょ（笑）。ただ、僕はもの凄く立嶋さんに影響を受けてますよ。こだわりという部分では逆に僕のほうが真似しているかもしれないですね。

――こだわりという部分で、お互い近いものを持っているような気がしますね。

立嶋　プロにとって何が大事かといったら、これだけは譲れないという職人のこだわりじゃないけど、自分の空気を持っているかどうかだと思うんですよね。プロっていうのは、人気がある、有名だ、結果を出している、それだけじゃダメだと思う。それらも必要だけど、自分だけの空気を持っている人と持っていない人とでは全然違う。持っていないと、軽くなってしまうんですよ。実際そういう選手もいますからね。いまオーラとかカリスマという言葉が軽くなりすぎていて、カリスマ美容師とかカリスマ店長とか腐るほどいますけど、そういう言葉を使わないで、自分だけの空気を作れる人が凄い。

田村　うんうん。そうですね。

立嶋　そういう空気を持つためには才能も努力も必要になってくる。観ている観客にも緊張感とか鳥肌が立った感覚って残りますからね。田村さんはそういう空気を作れる数少ない選手の一人だと思う。

――それが作れるというのは才能ですか？

立嶋　才能ですね。技術的な才能でいえば、田村さんは「天才」とか安っぽい言葉で持ち上げられているけど、だったらそう言っている人に「何が天才なの？」と聞いてみたい。格闘技を知らない人が見たら、「そんなに天才、天才って言うなよ」ということになりますからね。たいしてその人を知らない人ほど、そういう陳腐な言葉を使いたがる。僕は田村さんと一緒に練習したこともなければ、練習を見せてもらったこともない。察するに、ほとんど独学でやっているじゃないですか。僕は寝技はわからないけど、凄いなぁと思いますね。結局そういうものは教えてもらうのではなく、自分で拾っていくしかない。

――盗むのではなく、拾うという発想は斬新ですね。

立嶋　最近でこそキックボクサーは当たり前のようにボクシングジムへ行くようになったけど、僕が最初に行った頃にはボロクソに言われたんですよ。ボクシングの方からは「打ち方がなっていない」と怒られ、キックのほうからは「キックとボクシングでは打ち方が違うんだから」と言われ。それでもボクシングジムに行ったら吸収するものはいっぱいあったんですよ。だったら自分でいいところだけを拾えばいい。たぶん田村さんもキックのジムに練習しに行って、自分で拾っていくしかない。やったら蹴りの種類は増えるだろうし、変わることもできるでしょう。

――田村さんは、立嶋選手にキックを習いたいと思ったことはあるんですか？

田村　いまでもありますよ。

僕はもの凄く立嶋選手に影響を受けてる。真似てるのかもしれない（田村）

田村さんは自分だけの空気を作れる僕は嫉妬することもありますね（立嶋）

立嶋　僕の立ち方はオーソドックス（右構え）だけど、田村さんのそれはサウスポー。オーソドックスの僕から見たら、サウスポーにやられたら嫌なことっていっぱいある。サウスポーというだけで一歩半リードしているんですよ。

――それはどういうこと？

立嶋　人間の肝臓は右についている。心臓は左。左に肝臓がついている人はいない。サウスポーの場合、利き足（左）が後ろにくるから、最初からタメがある。つまりあえてタメを作ることなく、凄い左ミドルを蹴ることができる。パンチにしろ、ジャブを打たなくても、いきなりストレートから入れる。それがサウスポーの最大のメリットでしょうね。

――そういったことは、総合やってても感じますか？

田村　総合はやることが多すぎて、自分で自分の型を決めないと勝てなくなってきているんですよ。

立嶋　（話をさえぎるように）サウスポーだったら右に回りながら闘うのが常識。それでも左に回る人もいるんですけどね。髙田さんと闘ったとき、田村さんはオーソドックスの相手に右フックを引っかけたと思っ

おまけ　お手柄！　立嶋篤史、泥棒にマウント事件を語る

――先日、立嶋さんは自宅に侵入した泥棒を捕まえ、テレビのワイドショーでも大きく取り上げられましたけど、田村さんはそのニュースご覧になりました？

田村　テレビでは見ていないけど、ネットと新聞で見ました。ビックリしましたけど、「ああ、捕まえたんだ」という感じで。

立嶋　あの事件があったから僕は一瞬だけ色モノになれたんですよ。そうでなければ、あるいは犯人に逃げられていたら、この対談の話だってなかったでしょう。

田村　いやいや、そんなことはないでしょう。で、その犯人は家の中にいたの？

立嶋　ハイ。

田村　（真顔で）それは怖いなぁ。

立嶋　本当に怖かったですよ。自宅の二階で寝ていたら、一階にいる猫が騒いだ。それで一階に降りていったら、180センチくらいの男が立っていた。

田村　（さらに真顔で）それは怖いなぁ。

立嶋　それから外に逃げた泥棒を裸足で追いかけたんですよ。自分がキックボクサーで良かったと思いましたね。ウチの前は砂利道なんだけど、キックボクサーだから裸足で走ってもなんともない。

田村　犯人は抵抗してきたの？

立嶋　軍手で僕の顔をつかんできましたよ。それで指を噛んでやろうと思ったんですけど、僕は前歯がないので、歯茎で軍手を噛んでいた（笑）。

田村　ハハハハハ。

――泥棒を捕まえるとき、生まれて初めてマウントポジションを取ったんですよね？

立嶋　おこがましい話ですけど、ちょっと勉強になりました。やっぱり泥棒を捕まえたりするときは、組技の技術を持ってる人が有利だな、と思いましたね。たぶん、僕は路上で殴られたら殴り返せるけど、捕まえるときは手が出ない。だから首相撲の要領で倒したんですけど、あれ田村さんだったら簡単に捕まえることができたでしょう

田村　でも僕にはそういう経験がないから。ケンカを止めたことはあるかな？

立嶋　田村さんは冷静な人だから、たぶんケンカみたいなことにはかかわらない。

田村　確かに冷静だけど、熱くなるときには熱くなりますよ。ただ、ケンカを売られることはないですね。

立嶋　それは田村さんは冬でも半袖でいるからでしょう。その腕見たらケンカ売らない（笑）。

田村潔司×立嶋篤史



たむら・きよし■1969年12月17日、岡山県出身。第2次UWF、Uインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。今年2月には20キロの体重差があるノゲイラ兄に挑むも完敗。はたして頑固者が次に闘う相手、そして舞台は？ 180cm、86kg。

たてしま・あつし■1971年12月28日、東京都出身。中学卒業後、タイに渡り、90年代前半、後楽園ホールを熱狂させた伝説のキックボクサー。03年に交通事故に遭って以来リングから離れているが、現在も現役にこだわる。173cm、63kg。

たら、すぐに右に出たんですよ。そういう動きをしたら、完全に髙田さんの視界から田村さんは外れますからね。凄い技術だと思いましたよ。仮に右フックで倒れなくても、次に左ストレートか何かを打てば倒れたんじゃないですかね。じつを言うと、そのことを僕はメールで送ろうと思っていたんですよ。

田村 （照れながら）いや、それが基本的な動きですからね。

立嶋 あの一戦は感動しましたよ。

田村 僕も立嶋選手の試合を観ていて、聞きたいことはいっぱいあるんですよ。なぜあの距離からローキックが当たるのかとかね。でもそれは質問を投げかける前に自分で考えないといけない。何も考えないで、「右足にフェイントをかけて打つ」と説明されてもピンとはこないし、試合で使うことはできない。教わるというのではなく、見て盗んで考えて身につけた技のほうが自然に使える。

立嶋 大事なのは自分の工夫じゃないですかね。工夫できる奴とはできない奴の差は大きい。自分なりの工夫ができない人って、適当なところで成長が止まってしまう。僕はよく後輩に「自主性がない奴はダメ。人に言われて積極性を出すような奴もダメ。自分で勝手に工夫して自分で勝手に打ちやすいフォームを考えている奴がいい」と言っていますよ。せっかく試合をしても、そこから何も学ばない奴も多いですからね。

――そういう姿勢があったからこそ、二人とも一時代を築き上げることができたわけですね。立嶋選手は〝黒い頑固者〟だったら、田村選手が〝赤い頑固者〟ですかね？

立嶋 頑固者ですかね？

――そう言われることに抵抗がある？

田村 （立嶋に比べたら）僕のほうがどちらかといえば大人だと思う（笑）。そうしなければやっていけない部分がありますからね。

立嶋 それはそうでしょう。僕はすぐにムキになってしまうから。

――いずれにせよ、田村潔司の代わりがいなければ、立嶋篤史の代わりもいない。それだけは確かですよ。

立嶋 田村さんとの決定的な違いは人の上に立てるかどうかでしょう。僕は絶対に人の上には立てない人だから。

田村 そんなことはないですよ！

立嶋 こんなにたくさんジムを増やしながら、人の上に立ってやっている。僕には絶対に真似できませんね。

田村 自分でジムをやる気はない？

立嶋 そういうのは苦手なんですよ。

田村 誰か参謀がいたらできますよ。

――では、お話は尽きませんが、今日はこのあたりでお開きとさせていただきます。ありがとうございました！

【06年11月7日／U-FILE CAMP登戸にて収録】

U-FILE CAMP 登戸&調布
「kamipro見た」で入会金無料キャンペーン実施中！

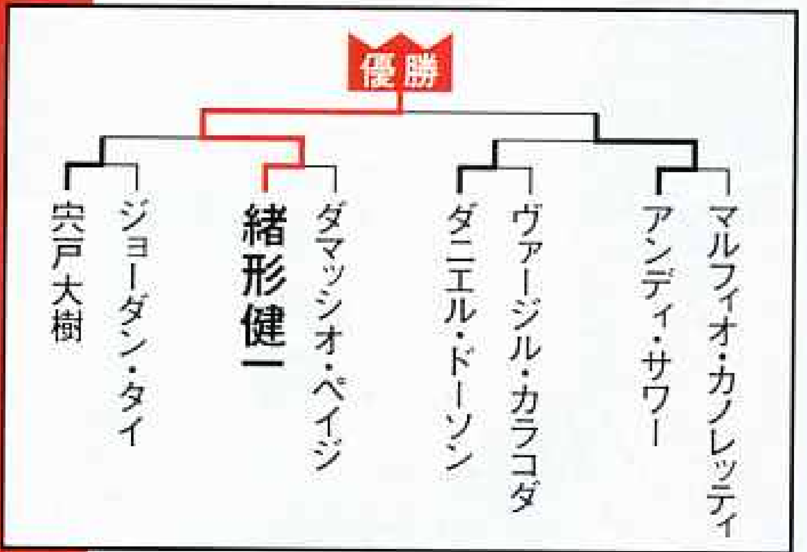
U-FILE CAMP 登戸
神奈川県川崎市多摩区登戸1568
TEL.044-932-0282

U-FILE CAMP 西調布
東京都調布市上石原2-40-6 B1F
TEL.0424-80-3731

2006.11.3 シュートボクシング『S-CUP2006』両国国技館

アンディ・サワー3連覇ならず……
緒形健一、悲願の『S-CUP』優勝ッ!!

構成／ささきぃ　写真提供／シュートボクシング協会





シュートボクシング生活15年、悲願の『S-CUP』優勝を成し遂げた緒形健一。『S-CUP』史上４人目の王者に輝いた。



決勝の相手は前回王者、『S-CUP』3連覇を狙うアンディ・サワー。緒形は1Ｒにダウンを奪って判定勝利！



準決勝で対峙したのは同門の後輩・宍戸大樹。粘る宍戸を退け、勝利した緒形だったが試合後は「同じ釜の飯を食った仲間だし、やりづらかった」と複雑な心境を吐露した。



「両国の熱い闘いは、夏だけではない！」リングアナで登場したのはケロちゃん！　大一番はやっぱりこの衣装だ!!

緒形健一と宍戸大樹の同門対決、そして決勝はアンディ・サワーと緒形の一騎討ち。随所に数々のドラマを創り上げた上で、シュートボクシングの祭典『S―CUP2006』は、シーザージム・緒形健一の優勝で幕を閉じた。

04年の『S―CUP』初出場で開始わずか54秒でカットによる流血TKO負けを喫した緒形が、初戦のダマッシオ・ペイジの前にダウンを奪われた瞬間、両国の観客が一斉に「おいおい待ってくれよ」という突っ込みを無言で送る。しかし悲願の優勝に懸ける緒形は、パンチとヒザの猛ラッシュから左ボディでダウンを奪い返し、自らの手で悪夢を沈め準決勝へ進出。同門の後輩・宍戸大樹を重いパンチとローで振り切り、決勝でサワーにリベンジを果たすとともに、吉鷹弘に続く歴代二人目の日本人『S―CUP』王者へ輝いた。

大会二日前にイアン・シャファーとアイヴァン・メンジバーが欠場になるという、SBに時折訪れる〝大会直前の波乱〟も起きたが、両国国技館に6512人の観客と11人のラウンドガール（多すぎ）を呼び込み、緒形の優勝という、シュートボクシングファンが待ち望んでいたハッピーエンドに加え、初戦でマルフィオ・カノレッティ、準決勝でダニエル・ドーソンという過酷なブロックを勝ち抜いたサワーや、非情な同門対決に挑んだ宍戸、そして優勝した緒形の「これから」に対する期待も残った。この日だけに懸けた選手が出し惜しみせずに燃えまくったからこそ、今後が見たいと思える大会になりえたのだ。

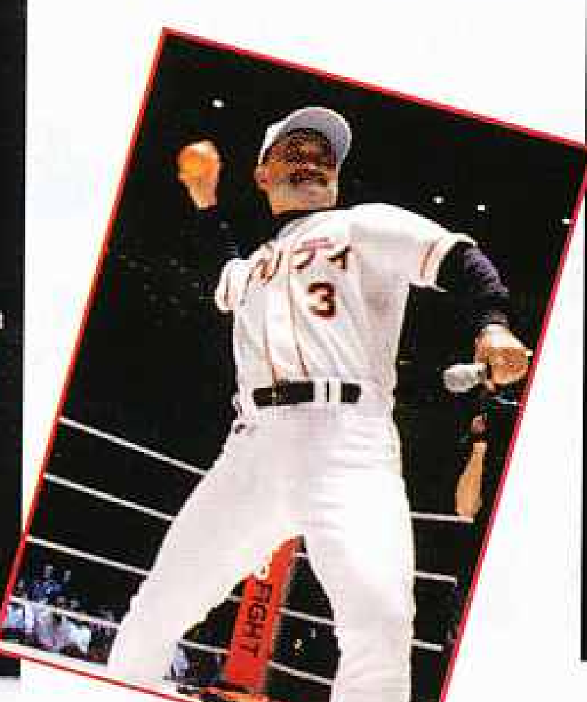
10.28 MARS 05 "MARCHING ON" in 両国国技館

MARS両国でまたしても問題発生！
休憩明けからちょっとまたドタバタしてしまいました
（by天野氏）

構成／松下ミワ　写真／平工幸雄



—マルセロ・ブリッド vs 金原弘光—
［協議中］
8.15『心』に続き、金ちゃん二連勝なるか!?　と、拳を握りしめていた人もいるかもしれないが、残念ながら無念の腕十字！　しかし金原はこの裁定に「タップしてないよぉ」と猛抗議。よって結果は後日正式に発表されるという異例の事態に！



8.26 MARS
両国大会に続き、今回もプリティ長嶋さんが休憩明けに登場〜。しかも、この日はサインボールを客席に投げ込むという嬉しいパフォーマンスまで付いてきた！



○ダニエル・タペラ vs ブライアン・ラフィーク×
［3R　判定　2-0］
8月の両国から始まった-83キロ契約のミドル級トーナメント。その優勝者がスペインのダニエル・タペラに決定〜ッ！　しかし優勝の喜びに浸る間もなく「このトーナメントはあくまでAブロックですから」と天野氏から衝撃発言が!!



—桜木裕司 vs ファビアーノ・サイクロン—
［ノーコンテスト］
天野氏の言う休憩明けトラブルの一発目がこの試合。開始早々鋭いかかと落としでファビアーノを威嚇した桜木だったが、ファビアーノの反撃の強烈なキックが金的に！　空しくも桜木は試合続行不可能の状態となってしまった。

MFCとの提携、8・26両国大会の中成功、DEEP佐伯氏との仲直り……。最近のMARSは、まさに〝上り調子〟という言葉がピッタリであったが、ここ二度目の両国にきて若干足踏み状態となってしまった。

10・28両国大会、前半戦は正当な意味で見どころの多い試合が続いたのだが、上の天野氏の言葉にもあるとおり、歯車が狂い出したのは休憩明け以降、桜木vsファビアーノから。この試合は偶発的ではあったのだが、ファビアーノの強烈な蹴りが桜木の金的にヒットしたため、もはや試合続行不可能に。続く金原vsブリッドは、ジャッジの裁定に金原がリング上で猛烈に抗議するという緊急事態になってしまった（そのため、この試合結果は〝協議中〟とされ、後日改めて発表されることに。ちなみに11月10日現在は未発表のまま）。両試合とも本当に偶然の出来事ではあるのだが、今回のMARSにとってその二試合は目玉だっただけに非常に残念な結果となってしまった。

しかし、そんなことよりももっと気になるのが、この日無事に終了したミドル級トーナメントに関する天野氏のコメントである。「優勝したタペラはAブロックの優勝者。なので王者ということではありません。来年以降、またBブロックを開催しますので」——。今回このMARS初のトーナメントに二年越しの壮大な計画が練られていたなんて、いったい誰が予想しえただろうか。この言葉を聞いたとき、やはり天野氏にはまだまだ目が離せないと痛感させられたのだった。



“猪木遺伝子（イノキゲノム）”とは何か？

“悪の社長”の素顔に迫りますかーッ!!

サイモン猪木

元気ですかーっ！　電機ですかーっ！　延期ですかーっ!!『INOKI GENOME』の延期に次ぐ延期で俄然、注目を集める我らがアントン総帥。もしかしたらそれは『kamipro』誌面上だけなのかもしれないが、もちろん今月もやってやるぜ！　それでは、アントンの娘婿で新日本プロレス社長のサイモン・ケリー猪木氏を通じて、“猪木遺伝子”を感じますかーーっ!?　ンムフフフフ!!

聞き手／ジャン斉藤　写真／平工幸雄　designed by shiraki (TwoThree)

2006.11.3 シュートボクシング『S-CUP2006』両国国技館

アンディ・サワー3連覇ならず……





――社長っ！　今日はよろしくお願いいたします。

サイモン　こちらこそ、よろしくお願いします（物腰柔らかく）。

――社長は本誌初登場ということで、もう根掘り葉掘りおうかがいしたいんですよ。

サイモン　はいはい。なんでも聞いてください。

――あとで撮影のほうもビシッとお願いしたいんですよ！

サイモン　ああ、もちろん、わかりました。

――撮影の際には、社長のトレードマークになっているグラサンをかけていただいて。今日はお持ちになってますでしょうか？

サイモン　サングラスはいつも持ち歩いてますから、それも大丈夫です（ニッコリ）。

――……なんか、最近売り出し中のバッドなイメージとはだいぶ違いますね、社長。

サイモン　（目を丸くして）えぇ〜？　そうですかあ？

――もう〝いい人〟のオーラが漂いすぎて、正直、戸惑ってますね。

サイモン　フフフゥ。そうですかねえ。

――ええ。『週刊プロレス』の表紙を飾った、葉巻をくわえて下品に凄むビクター・キョネスばりのビジュアルからは、想像もつかない物腰の柔らかさですし。

サイモン　ああ、あの表紙。あれにはボクもビックリしましたねえ！

――ひょっとして、表紙になるお話は聞いてなかったんですか？

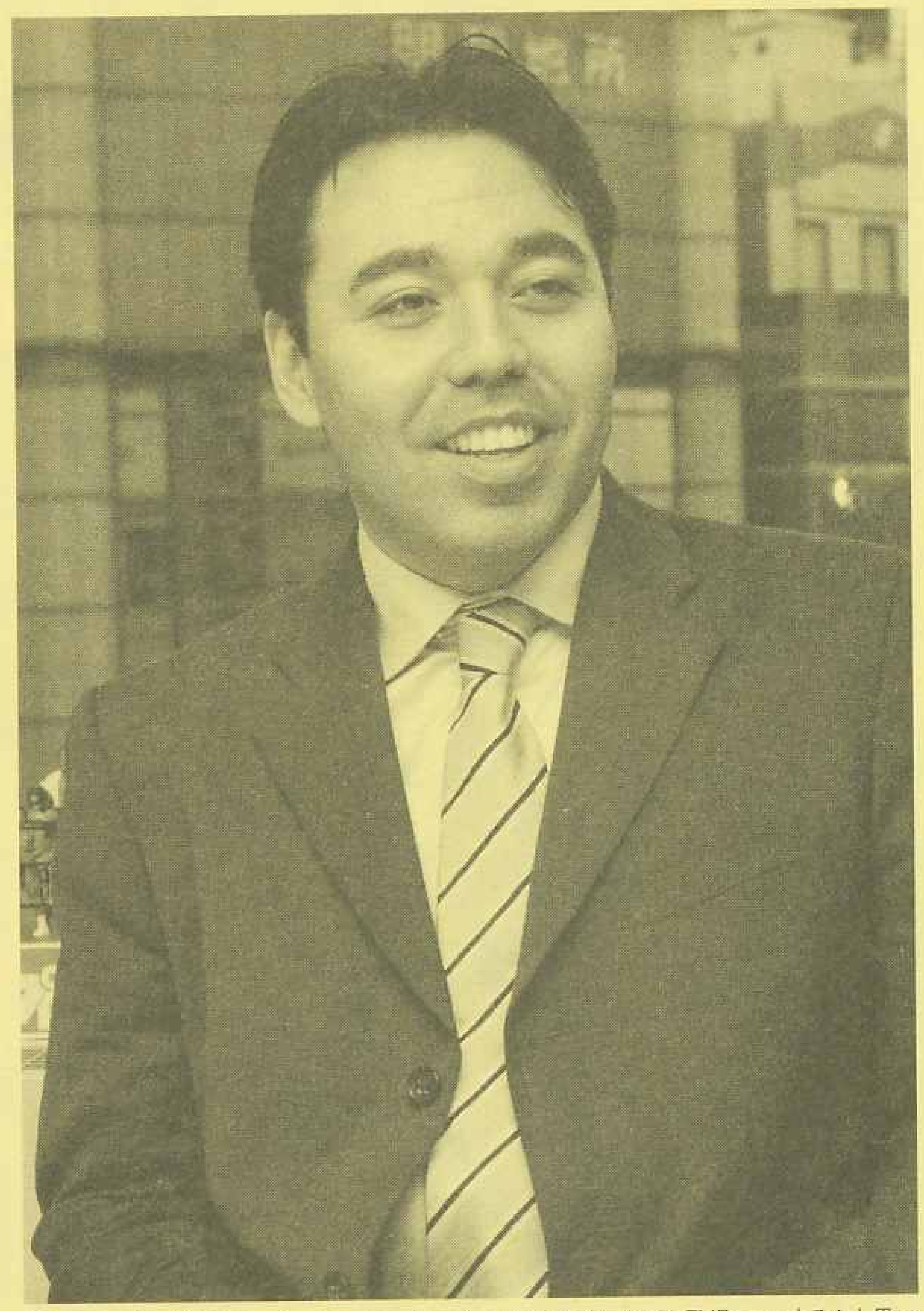
サイモン　そうなんですよ。ボクは全然聞いてなかったんです。ロスにいるときにネットで見て知ったぐらいですから。

――「あぁ〜!!　表紙になってる〜！」と。

サイモン　とにかくビックリですよね。「あれ〜、ボクでいいのかな〜？」って。でもまあボクじゃなくても誰でも、とにかく表紙は新日本で飾っておきたいですからね。

――新日本の話題のためなら、もうサングラスだってかけちゃうぞ！　と。

新日本の宣伝なるんだったら、もうなんでも！



「アイ・アム・サイモンッ!!　エーッ、オラ!!」と黒く絶叫しながら登場!……するかと思いきや（妄想）、至ってノーマルに姿を現わし、取材中は終始気さくな受け答え。その癒し系ぶりは、あの夢枕獏さん、MARS天野氏のそれと匹敵するほど!

サイモン　そうです、そうです。とにかく新日本の宣伝というか、少しでもプラスになるんだったら、もうなんでも！

――あ、いまたしかに言いましたね。ホントに〝なんでも〟できますかーっ!?

サイモン　あ〜ぁ、そうかあ。〝なんでも〟というのにはこれから気をつけないといけないですね。え〜っと、ほぼ、なんでもやらせていただきます。

――そうはいってもレスラーでない社長が表に立つことで、内部からの批判もあるんじゃないですか？

サイモン　そこはわかんないです。

――わかんないですか。

サイモン　でも、本音では、ホントのホントは出たくない。

――ホントのホントは（笑）。

サイモン　そうですね。でも、ボクが出ることでちょっとでも盛り上がればいいかなって。で、新日本もかつての勢いを取り戻したら、ボクはフェードアウトしようと思います。

――しかし、社長はタッパがあるし、胸の厚みもありますからレスラー的な見栄えがしますよね。

サイモン　ああ、最近はとくに鍛えてますからねえ（ちょっと自慢げに）。前までは時間があれば鍛えてたんですけど、まあ、蝶野（正洋）といろいろ揉めているんで。

――ああ、蝶野さんとの抗争。そこはいつ何時の精神ですね。

サイモン　前はリングに上がることにもの凄く緊張しましたけど、いまはそんなに……。

――あ、もう慣れてきましたか（笑）。

サイモン　はい。慣れてきましたねえ。



本文中でも触れられている『週刊プロレス』表紙がこれだ。表紙をめくると「この秋、ブレークの予感……」というナウでポップでキャッチーな見出し。ブレイクと表記しないところが秀逸。

――それはちょっと寂しいですねえ。

――いずれ快感になりますよ。

サイモン　ね。だからあんまりハマりたくないなって。

――ちょっと前には、奥様の寛子さんがアリの娘（レイラ・アリ）と闘うんじゃないかっていう仰天記事が出てましたよね。

サイモン　ね！（笑）。寛子本人は、あまり表に出たくないみたいですけど。

――どうですか、旦那さんからすると。なぜか奥様がレイラ・アリとの対戦をささやかれているというシチュエーションは。

サイモン　う〜ん。あんまりさせたくないし、本人も「やりたくはない」って言ってましたけどねえ。

――でも、新日本のビッグニュースになるかもしれないですよ。

サイモン　切り札になるかもしれない（笑）。

――社長、打ちましょうか！　切り札を。

サイモン　でも、難しいでしょうねえ……。

――家庭内で、そういったお話はされてるんですか？

サイモン　いやあ、たまに冗談半分ですよね。「何やってんだ？」っていう感じでね（笑）。

――じゃあ、奥様からは「ちょっと、何やってんのよ？」とか言われたりとかも。

サイモン　ま、そういう冷たい感じじかなあ……。

“猪木遺伝子”とは何か？



サイモン　うん。
——で、サイモンさんはなんて返すんですか？
サイモン　「仕事だからいいじゃない!!」って。
——ハハハハハ！　これが俺の仕事だ！と（笑）。
サイモン　うん。自分なりに新日本のためにやっていることですから。
——奥様のモチベーションはなんですかね。これが私の仕事よ！　というわけでもなさそうですし。
サイモン　いや、それが仕事なんですよ〜。
——え？　それはずいぶん興味深い発言ですね。
サイモン　彼女の場合は、ＬＡ道場の選手たちともっとコミュニケーションを取るためにキックボクシングを始めたら、そのままハマってしまったという感じなんです。それでいままでは彼女が道場を仕切っちゃってるところがありますから。
——つまり、奥様が道場長！　まあ、〝闘魂継承者〟ですから、ズバリ言ってまったくなんの問題もねえです（笑）。
サイモン　本当に彼女はある意味で道場長なんでしょうね（ニッコリ）。
——ちなみに、家庭内の〝道場長〟はズバリどちらになるんですか？
サイモン　それは彼女かなあ。いやあ、完璧に彼女ですね！
——ズバリ、社長はまったく奥様に頭が上がらないと？
サイモン　本当に勝てないですよねえ……あの〝闘魂の血〟には。
——やっぱりそこですか！　もう〝ゲノム〟が違うと（笑）。
サイモン　そうですね。全然違いますね。
——ボクは、熱海市長選に出馬した快守さんや、電機会社社長の啓介さんら猪木さんの兄弟を取材したことがあるんですけど、皆さんとにかくスケールがケタ外れなんですよね。社長と奥様は幼なじみの間柄ですが、その〝ゲノム〟の凄さは昔から感じられていたんですか？
サイモン　そういうナチュラルな部分はありますよね。父親譲りのものもあるし、あと母親の（倍賞）美津子さん（元・アントン夫人）のセンスでもあるし。表現力にしても、誰かに習ったというより、自然にいつも踊ったりしてますから。
——自然に踊りだすとは、なんてミュージカルな！（笑）。そういえば奥様って、ミュージカルの『アニー』で主演をやられていましたね。
サイモン　フフフ。やってましたねえ（笑）。
——それはご覧になりました？
サイモン　いや、それが観てないんですよ。ちょうどそのときボクは家族の仕事の関係で韓国に行ってたんで。彼女とは幼稚園からインターナショナルスクールと、ほぼずっと一緒の学園生活でしたけど。
——幼なじみの間柄でご結婚というのは、非常にロマンチックな印象を受けますけど。
サイモン　そう……でもないですよね。フフフゥ。
——な、ないんですか！　ちょっとは肯定してくださいよ、社長。
サイモン　だって、彼女には小さい頃から、よくイジメられてましたんで！
——あ、小さい頃から頭が上がらない（笑）。アントニオ猪木さんの娘さんということへの特別な感情はあったんですか？
サイモン　べつにあんまり。小っちゃい頃は逆に、「寛子のお父さんがプロレスをやってるんだあ」っていう感覚だった。ただ、プロレスを見始めるきっかけにはなりましたよね。
——社長がプロレスに携わるきっかけも、奥様とのご結婚になるんですよね。
サイモン　そうですね。猪木さんがＵＦＯの旗揚げをするときに「ちょっと手伝ってくれ」ということで、軽いアルバイト感覚で手伝うつもりでやったのが、いつの間にか抜け出せないっていうか、けっこう大変になってきたんで（笑）。
——じゃあ奥様とのご結婚がなかったら、この業界には入ってなかったんですね。
サイモン　まったくないでしょうね。
——話は戻りますが、奥様と正式な交際を始められたのはいつぐらいになるんですか？
サイモン　ちょうど大学3年の頃ですよね。お互いにボストンに住んでいることは知ってたんですけど、なかなか会う機会がなかったんです。でも、ある日、突然彼女から電話がかかってきて、そのうちに自然にくっついて。
——結婚の報告をしたときの猪木さんの反応はというと？
サイモン　それがですねえ、猪木さんには「……本当にいいのか、おい？　もっといいオンナを嫁にもらえよっ!!」って（笑）。
——ハハハハ！　さすが猪木さんですね（笑）。
サイモン　らしいですねえ、本当に。おもしろいですよ、猪木さんは。もうプライベートから仕事まで幅広く話をしますけど。

in池袋

ゲノム度満点!!『アントニオ猪木酒場』で飲もう!



アントンカラー100パーセント全開の店内には、リングが置かれ、アントンの巨大フィギュアもセット！　記念撮影するのもよし、拝むのもよし！



オープニングセレモニーには春一番も来場！『本格米焼酎 燃える闘魂』を手にゲノムなスリーショットが実現。さっそく飲みますかーーっ!?（ヨダレ）。



「まるごとチキンのなんだコノヤロー焼き」や「狂虎のラム肉バーベキュー」や「海賊男の反則地獄鍋」など、アントンにちなんだオリジナルメニュー。注文する際は恥ずかしがらずにフルで叫ぼう！



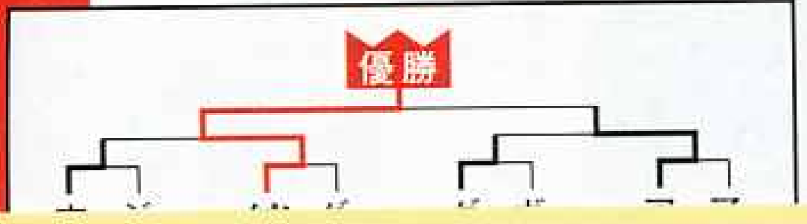
誰でも来やがれ！　といった感じで広い広い店内！　所在地は豊島区東池袋1-41-4池袋東急ビル4F（JR池袋駅、徒歩1分）。営業時間は17時～翌朝5時。定休日はなし！



ハタリハタマタ！　あのジェット・シンばりに「狂虎のラム肉バーベキュー」にかじりつくサイモン社長！　説明文がないとまるで理解不能な絵ですが、この調子でいってくれ！

2006.11.3 シュートボクシング『S-CUP2006』両国国技館

アンディ・サワー3連覇ならず……





——最近だと、どういった話題が多いんですか？

サイモン　ボクの子ども、猪木さんにとっては孫の話が多いかもしれないです。寛子と3人でいるときは、あんまり仕事の話はしてないかもしれないですね。

——その3人が集まったときに一番よくしゃべるのは誰なんですか？

サイモン　猪木さんかなあ。寛子もよくしゃべるけど。

——で、一番しゃべらないのが社長とか？

サイモン　そうなんですよ！　話さない順でいったらボクが確実ですね。あの二人はもうしゃべりっぱなし！

——もう止まらない感じですか？

サイモン　そうですね。猪木さんに一つ何かを振ると、ちゃんと10で返してくれる。寛子もちゃんと返してるような感じですね。

——あと猪木さんってダジャレが大好きですよね。

サイモン　好きですねえ。昨日の夜もお会いしたけど、いろんなダジャレを連発してました（笑）。

——最近のお気に入りのダジャレは、「今度、パラオで酔っパラオう！」らしいですけど（笑）。

サイモン　フフフフ。

——いまさら言うことじゃないですけど、猪木さんって一般のモノサシでは測りきれない独特のセンスを持ってますよね。

サイモン　ありますね。いやもう全部！

——ああ、もう存在すべてが常人と違いますか（笑）。

サイモン　やっぱり、普通の常識じゃありえない発想を持ってますから。

——だからこそスーパースターであって。

サイモン　そうなんですよねえ。できるだけみんなに猪木さんを追い越してもらいたいって思いますけど。

——でも、世の中が猪木さんばっかりになってもちょっと困るんじゃないかなって（笑）。

サイモン　それはそうですねえ（笑）。

——社長はそんな猪木的感性があると思いますか？

サイモン　（自分を指差して）ボク？

——ほかに誰がいるんですか（笑）。

サイモン　だったら、寛子のほうが優れてるっていう感じですよね。

——奥様の幻想が高まるなあ。そんな〝闘魂の血〟でいうと、猪木一族ってリング外のビジネス欲も盛んですけど。社長の事業意欲はどうですか？

サイモン　それはないです。そういう余裕がないです（笑）。自分としては新日本プロレスが一番で、新日本プロレスに早く本来の姿になってもらいたいだけで精一杯ですから。

——猪木さんから事業のお誘いはありそうですけどね。「どうだい？　珊瑚の養殖をやってみねえかい？」みたいに。

サイモン　まあ、猪木さんはいつもああいうの好きですからね（笑）。ボクがUFOや猪木事務所にいたときは、いろいろ手伝ってたんで、関わっていたことは関わってたんですけど、いつも頑張ってるんで早く成功してもらいたいなと思います。

——猪木さんはそういった大事業にポンと札を置くわけじゃないですか。

サイモン　猪木さんは好きなほうですね。

——「なんだかわからねえけど、やりゃあいいじゃねえか！」っていう男らしさ。そんな猪木さんのセンスで、いままで一番驚いたことはなんですか？

サイモン　なんだろなあ……。まあ最近だとボクが社長になったことかな。ハハハハ！（大爆笑）。

——そんな他人事みたいに！（笑）。社長就任の話は、前もって打診はなかったんですか？

サイモン　それがないんですよぉ。「もしかしたら……」とか「なんとなく……」っていう空気はありましたけど。ホントにビックリ。フフフフゥ!!

——そこでも笑いますか！（笑）。

サイモン　でもまあ、最近は開き直っていろいろやってますけどね。最初は何がなんだかわからないところもありました。

——そりゃそうですよねえ、いきなり「社長やれ！」って言われても。

サイモン　いまは新しいスタッフとかいろんな人たちに恵まれたこともあって、ちょっとずつ新日本も結果が出てきているので。この勢いでいきたいですね。

——プロレスデビューのほうも勢いに乗ってやりますかーっ!?

サイモン　いやいや。デビューのほうは前から言ってますけど、やりません！

——ホントにやりませんか？

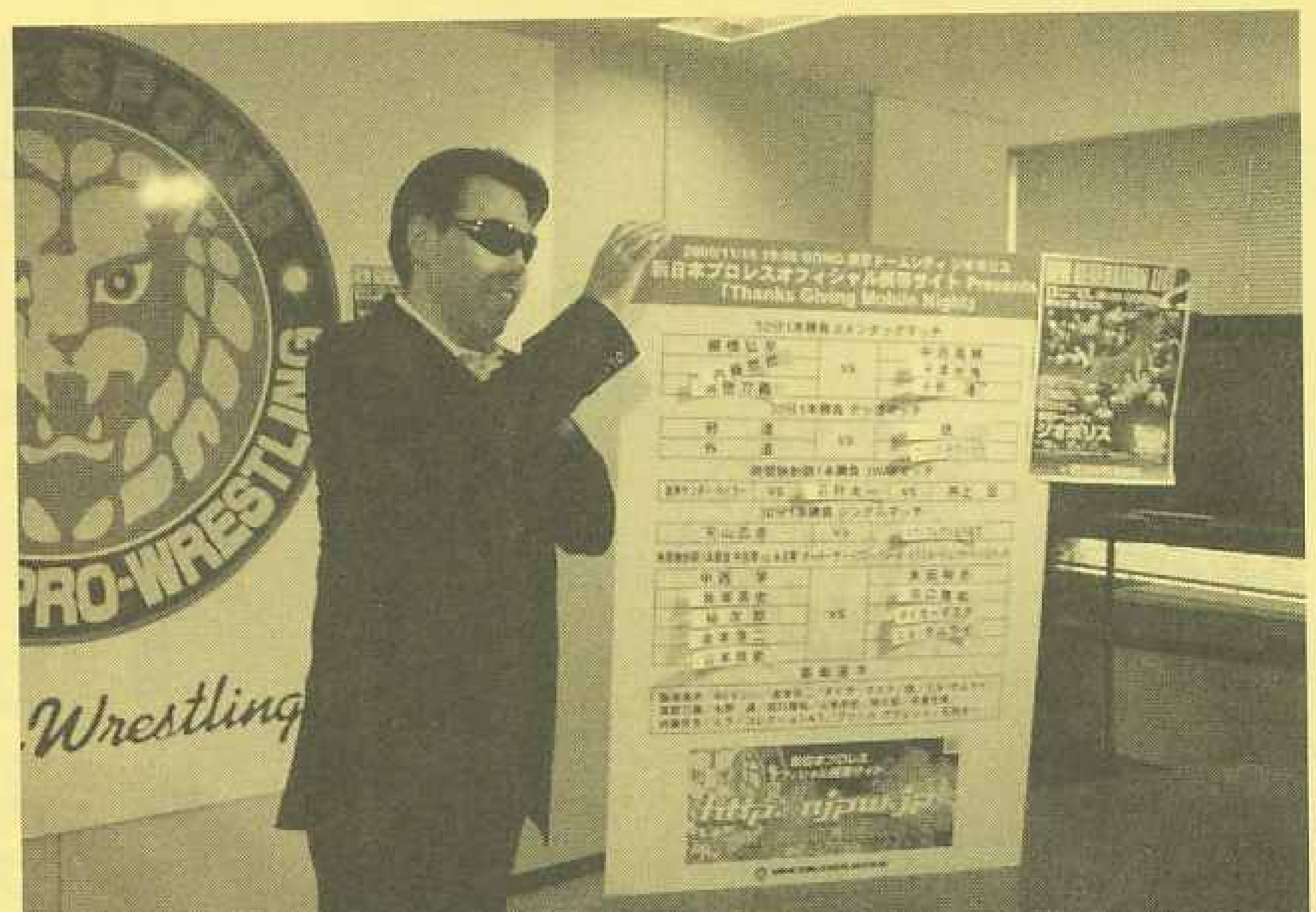
サイモン　しないですねえ。

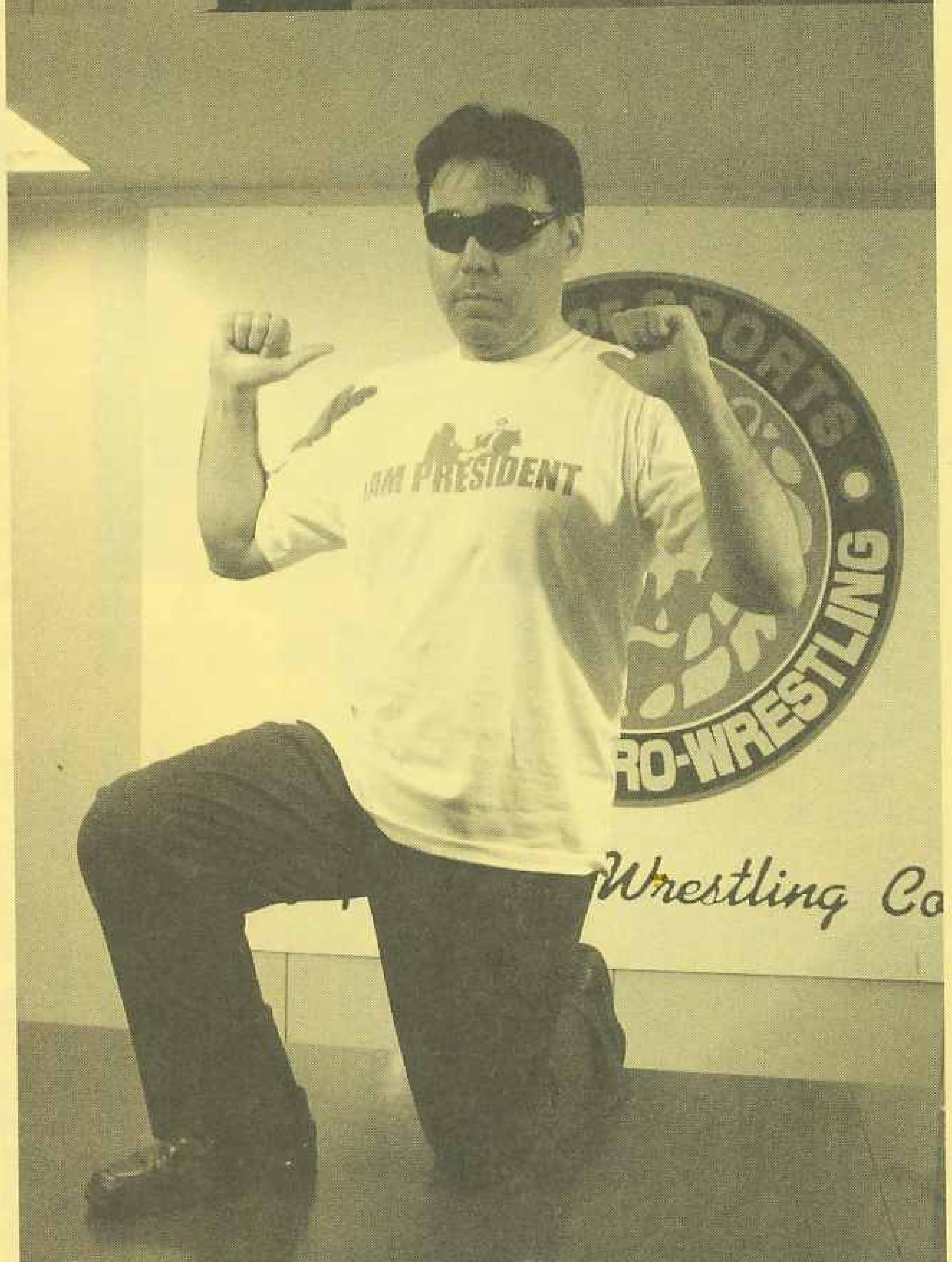
——話題になるかもしれませんよ？

サイモン　う〜ん……やりません！

——しつこいようですけど、来月には試合してるんじゃないですか？

サイモン　いや、そんなことはないですすっ





蝶野正洋との抗争を勃発して以来、グラサン姿で行なうことがすっかり恒例となったサイモン社長の記者会見。「蝶野を潰す!」と吠えたり、机に上がったりと大暴れだぜ!

て！（笑）。

――じゃあ、社長の中には格闘本能的なものはあるんですか？「リングに上がって怒りを表現したい」とか。

サイモン　どうですかね、ん～っとね。

――猪木さんの場合は、リング上で血まみれになって、ヨダレを垂らして絶叫できる人じゃないですか。

サイモン　そうですね。それは蝶野によって引っぱり出されるかもしれないし。でも、新日本のリングはとくにですけど、みんなそれぞれ厳しい練習に耐えてデビューしてるわけですから。ボクがデカいからといって試合ですぐに闘えることはないですね。

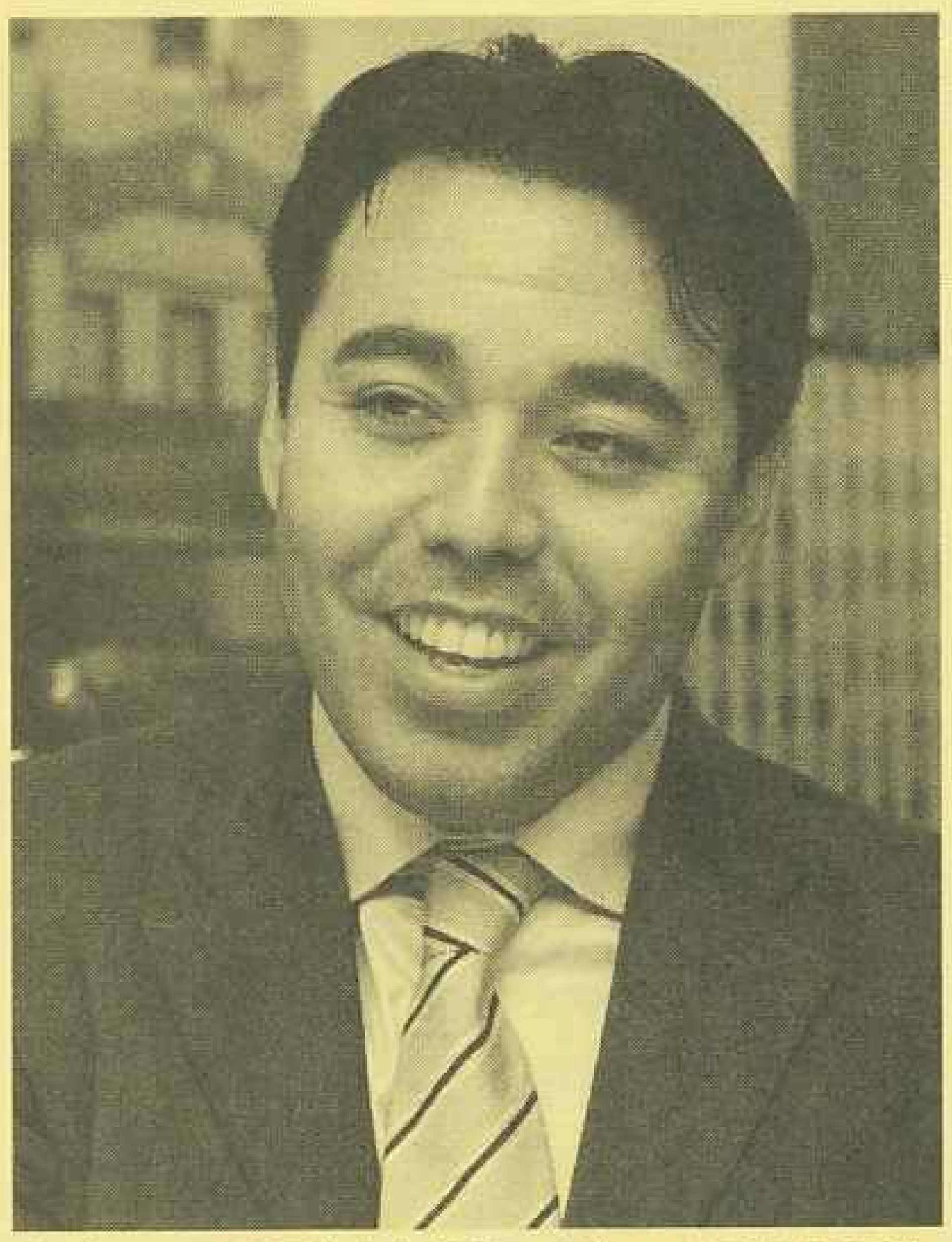
――そこはプロレスを低く扱ってしまうことにもなりかねないですもんね。

サイモン　そうなんですよ！　新日本プロレスはそんな甘くはないですから。

――それで新日本に関連するところでボクが一番聞きたいのは、やっぱり『INOKI GENOME』の行方なんですよ。

サイモン　そのへんはまったくわからないです。猪木さんに聞いていただきたいです。

――じゃあ、新日本プロレスとしては、『INOKI GENOME』には直接タッチはしないんですか？



さいもん・いのき■本名サイモン・ケリー。1972年12月2日、神奈川県川崎市出身。アメリカ人の父、日本人の母を持つ。アメリカの大学卒業後、電通、コカ・コーラ社に勤務。アントンの愛娘・寛子さんとの結婚をきっかけにUFOアメリカ支部でエージェントとして活躍。05年、新日本プロレスの代表取締役に就任。183cm、102kg。

サイモン　そうですね。猪木さんから「手伝ってもらいたい」という相談があるんだったら、新日本内部で協議したうえで、はい。できる限り手伝いたい気持ちはありますけど、ビジネス的に成立しなかったら、できないかもしれませんし。

――でも、「やればいいじゃねえか！」って言われたらどうします？

サイモン　まあ、そのへんはそのへんで。

――社長って、猪木さんに何か言われて「それはちょっと……」って渋ることはあるんですか？

サイモン　あ、それはありますよ。けっこうありますよ。凄くありますよ！

――ああ、そこまでありますか（笑）。

サイモン　ボク、けっこう言ってますよ。ダメなときはダメだって。

――しかし、興味深いのは、断ったときの猪木さんの態度なんですよね。

サイモン　う～ん、ムッとするときもありますし、そのときによります。でも、そこは大人のビジネス的な部分ですから。ボクは新日本プロレスの社長ですし、やはり優先すべきは会社の利益になりますよね。

――社長になられて一年近く経ちましたけど、手応えのほうはいかがでしょう？

サイモン　徐々にですけど、良くなってますよね。手応えという部分では、へんな危機感というか、一つの興行には必ず何かしらのハプニングがあるもんなんですよ。「今回はダメだ……」と思っても乗り越えて、なんて言うのかなあ……。

――つまり、障害があったからこそ生まれる達成感ですかね。

寛子には、ボクはもちろん猪木さんも勝てないですよ（笑）

サイモン　そうそう。そこが快感というわけじゃないですけど（笑）。障害があればあるほど、ハードルが高ければ高いほどおもしろい！　っていう。ここまでくると、「普通の仕事をやれ！」って言われても、もうできないなっていうような感じですね。

――じゃあ、いまはプライベートとビジネスのボーダーはあまりないんじゃないですかね。

サイモン　も～う、趣味が新日本プロレスになってますね。旅行するのが好きだし、あとゲームも好きですけど。

――社長はゲーム好き！　最近のお気に入りはなんですか？

サイモン　（即座に）いまは『レッスルキングダム』に決まってるんじゃないですか！（笑）。

――ハハハハ！　そりゃあ、もちろん『レッスルキングダム』ですよね（笑）。話題が出たところでうかがいますが、親会社のユークスさんとの関係はどうなんでしょうか？

サイモン　いまはホントいい感じになってますよね。いろんな部分で手伝ってもらったり、お互い新日本のためにいろいろ改革してますね。それがいまになってやっと結果が出てるかなって。

――関係が良好なら、次回の『レッスルキングダム』にはぜひ社長のキャラを出してほしいですね。

サイモン　隠れキャラとかで？

――さらに隠れキャラで奥様が出てくるっていう。

サイモン　ハハハ！　やってもらいたいですねえ。

――実際のリングでも、猪木一家の揃い踏みをぜひ観たいですけどね。

サイモン　そうですかねえ。

――で、WWEのマクマホン一家みたいに家庭内抗争を始めて。

サイモン　（間髪入れずに）そうなったら、寛子が勝ちますよ!!

――そ、そんなに強いんですか!?（笑）。

サイモン　……強いですねえ（しみじみと）。

――猪木さんもタジタジになりそうな……。

サイモン　そうですね。KOされる場面を何回も見てますんで……もう勝てないですよ。フフフフゥ！

――え～、奥様の幻想が最高潮に達したところで、お開きにしたいと思います（笑）。今日はありがとうございました、社長！

サイモン　いえいえ。読者の皆さまも今後とも新日本プロレスをよろしくお願いします！（深々とお辞儀して）。

【06年10月31日／新日本プロレス事務所にて収録】

“猪木遺伝子”とは何か?

1.4東京ドーム大会開催決定
新日本プロレス大会情報!

［11月］

25日（土）	東京・後楽園ホール	18:30～
26日（日）	神奈川・藤沢市秋葉台文化体育会館	18:30～
29日（水）	青森・八戸市体育館	19:00～

［12月］

2日（土）	京都・京都市体育館	18:00～
3日（日）	徳島・鳴門市市民会館	17:00～
5日（火）	愛媛・テクスポート今治	18:30～
7日（木）	大阪・大阪市中央公会堂	18:30～
9日（土）	石川県産業展示館3号館	18:00～
10日（日）	愛知・愛知県体育館	18:00～
24日（日）	東京・後楽園ホール	18:30～

［WRESTLE LAND］

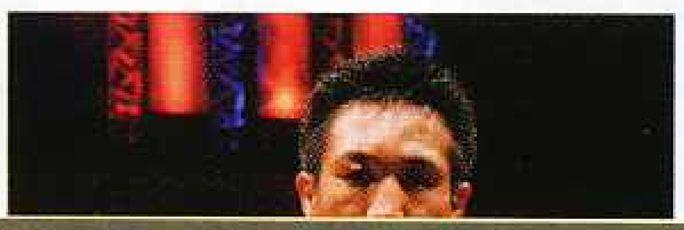
12月8日（金）	大阪・大阪市中央公会堂	18:30～
12月23日（土）	東京・後楽園ホール	12:30～

［1月］

4日（木）	東京・東京ドーム	17:00～

新日本プロレス　TEL.03-6407-3111





2006.11.3 シュートボクシング『S-CUP2006』両国国技館
アンディ・サワー3連覇ならず……

っ先についていったよね。もう、慣れてる

闘魂の愛娘であり、サイモン社長の妻
彼女の謎に包まれた部分に迫る!

ジミー鈴木が語る
猪木寛子



幼少期にはミュージカル『アニー』に出演。可憐な姿で『トゥモロー』を歌っていた少女も32歳の立派な女性になった。その人の名は猪木寛子。現在、アメリカに在住し、新日本プロレスのロス道場代表を務めている。日本で報道されることが極めて少ない寛子さんはいったい、どんな人なのか？　彼女を取材した経験があるジミー鈴木氏に語ってもらった。

聞き手／小松伸太郎（THE PEHLWANS）　構成&撮影／辻ちゃん

――今日は新日本のロス道場に一番出入りしているというジミーさんに、猪木寛子さんのお話を聞きに来ました！

ジミー　いまはね、寛子さんがロス道場を仕切っているんですよ。

――えっ！　そうだったんですか!?

ジミー　だってそこの代表だからね。選手と一緒に練習だってしてるよ。

――練習もやってるんですか！　ああ、なるほど。だから『ＩＮＯＫＩ　ＧＥＮＯＭＥ』でモハメド・アリの娘のレイラ・アリと対戦」という話が出てきたんですね。

ジミー　それはべつに試合するための練習じゃないんだけどね。要はね、プロレスラーの心理として、受け身を取らない人間はどこまでいってもよそ者なんだよ。毎日仲良くして、毎日飯食っても、最後の一線で同業者じゃないんだよね。寛子さんはそれを肌で感じたんだと思うんだよ。

――寛子さんの感性がそれを感じ取ったということですか？

ジミー　そうだね。だから、受け身を取るというのは一つの表現だけども、一緒に練習することによって、痛い思いとか苦労を分かち合うことによって仲間になれる。仲間になることによって、道場が円滑に運営できるし、自分が浮いた存在ではなくなる。自分で受け身取らなきゃ、社長だろうが道場長だろうが、どこまでいっても浮いた存在なんですよ、プロレスラーの中では。それは世界共通のプロフェッショナルレスラーの心理なんですよね。

――レスラー特有の共通心理ですか。

ジミー　彼女が自分の感性でそこに気がついて実践したことに、俺は凄く感心したよね。さすが"闘魂の娘"だなって。だから、自分が格闘技戦で誰かと闘うとか、そういうことじゃないんですよ。

――あくまで練習の目的は選手と一体になることだったと。

ジミー　本人はそう言ってた。でね、ＷＷＥでマクマホン家がリングに上がったじゃん。ビンスもそこに気づいたんだろうね。だから、自分で受け身取ったんだよ。

――そこも寛子さんが練習を始めたのと同じ理由ですか？

ジミー　そう。ファミリーみんなプロレスラーにしちまったのは、そうしないと丸く収まらないってことに気づいたからなんですよ。それによって、ＷＷＥが円滑に回っているじゃん。で、いまここで、サイモン氏がそれに近づこうという空気が流れ始めてきたと。

――サングラスかけてやってますね（笑）。

ジミー　最初は「素人がこんなことやりやがって！」って思われるかもしれないけど、実際に受け身取ったら勝ちだよ。

――奇しくも、同じような時期に夫婦揃って、そこに気がついたと。

ジミー　草間さんも率先して受け身取っていたら、ちょっと違った結果が出てたかもしれないよ？　どこまでいっても、そこの一線は厳然としてあるんだよね。

――やるなら、とことんまでやってほしいですね。寛子さんは具体的にはどんな練習を一緒にやっているんですか？

ジミー　前回り受け身ででんぐり返ししたりとか、ウサギ跳びなんかもやってるよ。あとキックボクシング。あのね、寛子さんは山登りをよくしてたから、すげえ体力あるよ。

――山登りですか？

ジミー　猪木さんは山登りが好きで、普段から山に登ってたんだよ。そのとき娘は真

彼女の「パパは黙っててちょうだい！」で あのアントニオ猪木が一発で黙ったからね（笑）


東京スポーツ
平成18年（2006年）9月16日（土曜日）
カシンも土下座!!
猪木娘（カリスマ）
ついに独占直撃
アリ娘と本当にやるんですか
寛子さん
IFL大会 ロス道場チーム完敗におかんむり!?
アイ・ドント・ノー…噂かもしれないしそうじゃないかも
アリ娘のビデオは見てないわ
1ラウンド3分ルールなら…
人前で水着姿で戦うのはイヤ
それなら絶対に出場しません
みこすり半劇場
岩谷テンホー

今夏、『INOKI GENOME』開催が発表されてからというもの、『東京スポーツ』紙上では何度か"猪木寛子 vs レイラ・アリ"の文字が踊り、二人の対戦が噂された。上の記事は9月16日付『東京スポーツ』の裏一面。9月9日（現地時間）、米国オレゴン州で行なわれたIFLの5対5対抗戦で、新日本のロス道場選抜チーム＝東京サーベルズが、バス・ルッテン率いるロサンゼルス・アナコンダスと対戦したが、無惨にも5戦全敗という結果に。あまりの不甲斐なさに、サーベルズのコーチを務めるカシンがロス道場代表である寛子さんに土下座で謝罪している場面だ。一般人はおろか、格闘技に詳しい人でも「いつそんな試合があったの？」と思わず口にしてしまったことだろう。取材したのは、もちろんジミー鈴木氏。

小川直也が寛子さんに「デブ」って言ったらサイモン氏が本気で怒っちゃったんだよ!

っ先についていったよね。もう、慣れてる慣れてる。

—そもそも体力のある人なんですかね?

ジミー　やっぱり"闘魂の娘"だからね。それに気も強いよ。一回だけ、彼女がぶち切れたところを見たことがあるんだよね。

—闘魂着火の現場を目撃しましたか!

ジミー　覚えてねえんだけど、誰かに対して腹が立ったんだな。でも、その人のことを怒鳴りつけているとかじゃなかったんだよね。で、なんかメラメラ怒っているところに、アントニオ猪木が「まあまあ、いいじゃないか」みたいな感じでなだめにきたんだよ。そうしたら、「パパは黙っててちょうだい!」って(笑)。

—猪木さんがとばっちりを食った(笑)。

ジミー　"闘魂"が一発で黙ったからね(笑)。

—貴重な現場を目撃しましたね(笑)。

ジミー　まあ、彼女はデリケートで繊細なんだよね。そういうところを俺は感じる。

—わりと接しづらい人なんですか?

ジミー　見た目、ムスっとしてるからね。でもね、彼女はシャイなんだと思うよ。

—恥ずかしがり屋なんですか?

ジミー　子どもの頃にミュージカルの『アニー』に出てたけど、表に出るのが恥ずかしくてしょうがないわけ。俺が『東スポ』のインタビューで写真撮ったときもサイモン氏が横で、「ユーは『アニー』とかに出たりして、本来ならボクより表に出ていける人なんだから」って援護射撃してくれたから、やっと撮れたんだよ。それと、彼女は子どもの頃にアメリカンスクールに行ってたんだけど、教育はすべて英語で受けているわけよ。だから、日本語がね、99パーセントであって100パーセントじゃないんだよね。

—自分で日本語が100パーセント完璧じゃないっていう意識があるんですかね?

ジミー　そうそう、そういう意識があるんだよね。俺はそれに感づいたの。だって、「寛子さん、インタビューしたいんですけど」って言ったら、黙っちゃったんだから。それで、「英語にしましょうか、日本語にしましょうか?」って言ったら、即座に返ってきたのが「英語でお願いします」って言葉だったの。正解って思ったね。空気がコロッと変わったもん。



じみー・すずき■本名・鈴木清隆。1959年12月30日、東京都杉並区出身。米国テキサス州ダラス郊外在住。日本語、英語、スペイン語を駆使し、世界を飛び回るプロレスリング・インターナショナル・ジャーナリスト。現在、一番の楽しみは世界各国でマッサージを受けること。体重120kg。

—うまいことやりましたね。でも、練習に参加することでレスラーの仲間になるってことに気がついたということは、けっこう、気配りのできる人なんじゃないですか?

ジミー　そうそう。デリケートって言ったのは、そういう部分も含まれているんですよ。練習後にホットプレートで焼き肉を用意していたとかさ。そういうことを自ら率先してやる女らしさも持ち合わせているんだよね。また、うまいんだよな、料理が!

—そこはイメージしづらかった側面ですね。じゃあ、いまでは道場にいるレスラーから信頼されていると。

ジミー　信頼されていると思うよ。ケンドー・カシンともウマが合ってるしね。

—ケンドー・カシンですか! あの気難しいカシンとウマが合う要因はどういったところなんですか?

ジミー　波長が合うんだろうな。カシンって合う人は合うけど、嫌うと徹底的に嫌うじゃん。たぶん、人を選んでいるんだろうけど、寛子さんも選ぶんだよな。で、お互い、アリアリってなったんだろうな? これはなんの根拠もないけど、俺が肌で感じた部分だよね。で、一方でサイモン氏と合わない人は小川直也だな。前に一回大ゲンカしたことがあるんだよ。

—サイモン社長と小川直也がですか! 何が原因なんですか?

ジミー　小川が寛子さんに「デブ」って言ったんだよ。それでサイモン氏が本気で怒っちゃったんだよね!

—ダハハハ! 子どものケンカみたいですね。でも、サイモン社長は男らしいじゃないですか! 尻に敷かれている印象があるんですけど。

ジミー　でもね、尻に敷かれているように見えて、言葉は悪いけどちゃんと手なずけている部分もあるんですよ。だって、俺のインタビューも、サイモン氏の援護射撃でなんとかできたんだから。

—操縦方法は心得ているんでしょうね。

ジミー　受け身の取り方がうまいんだろうな。引くとこは引き、押すとこは押し、そのさじ加減が世界一うまい人なんじゃないの、寛子さんに対して。だから、彼しかいなかったんだろうね、寛子さんには。で、サイモン氏にしても寛子さんしかいなかったんだろうね。そういうことでしょう。

—やっぱりなるべくしてなった夫婦なんですね。ところで、肝心の試合をする気はあるんですか?

ジミー　『東スポ』に出てたでしょ? 「私は水着でリングに上がんのだけはや〜よ」って。「それで察してください」ってことだよね。でも、みんなに担がれたら担がれちゃう雰囲気はあった。

—担がれたら担がれちゃう! 猪木ゲノムを受け継いでいるんですね(笑)。

ジミー　でも、うまく担がなきゃ上がらないよ。だから、サイモン氏が必死に口説かないとリングには上がらないだろうね。父親が言っても上がらないよ。

—すべてはサイモン社長に懸かっていると。最後にジミーさんは仮に寛子さんがレイラ・アリと対戦したらどんな試合になると思います?

ジミー　徹底的にアリキックでしょう!! それでいいんだよ。たぶん、その練習もするだろうね。で、彼女の体力を考えたら、それで15ラウンドいくぐらいまで仕上げることができるんじゃないかな?

—その場面はぜひ見たいですね! 肝心の『INOKI GENOME』が無事開催されればいいんですけど(笑)。

【10月29日/都内・新宿ヒルトンホテル近くのロイヤルホストにて収録】





2006.11.3 シュートボクシング『S-CUP2006』両国国技館

アンディ・サワー3連覇ならず……

毎度お騒がせします!! 本誌だけが追っかけるミラクル・イベント

『INOKI GENOME』韓国の評判

日本での開催予定が二転三転した『INOKI GENOME』。奇怪な理由で延期が発表されたかと思うと、なぜか今度は「韓国で猪木vsアリ30周年記念大会を『GENOME』名義でやります!」と宣言され、実際に元FMWのリー・ガクスー会長が11月24日に開催するWXFと合作（便乗）興行が発表された。

韓国での立ち位置を確固たるものにしようとしたリー会長は、自らの大会WXFの名誉会長にアントニオ猪木を推戴し、昨年7月にもアントンを会場に呼んで実際に大会を開催している。リー会長としては大会にハクをつけるために、"アントニオ猪木"の名前がほしかったんだろうし、世界戦略を目指すアントンとしても、願ったりかなったりのタッグパートナーだったのである。

前回の「インサイドコリア」のインタビューには掲載はできなかったが、リー会長は「イノキサンの世界構想は、まったく俺の戦略と同じ! 俺たちは一心同体なんよ!」などと鼻息も荒く語っていたものだった。

しかし、韓国進出を明らかにしたアントンが日本で何かを発言するたびに、プロレス的発言に免疫のない韓国の地元格闘技メディアはヒステリックに反論した。その内容は、まるで漫才の天然ボケとマジツッコミのような展開で、"アントン免疫"のある『kamipro』読者にはまず見られない見事な批判のされっぷり。以下にその例を紹介していこう。

アントンが発言するたびに、プロレス的発言に免疫のない韓国メディアはヒステリックに反論

アントン「師匠である力道山の意を受け継いで韓国を世界格闘技界の中心に跳躍させたい」

韓国メディア「……（猪木が）このような発言をして話題を呼んだ。しかし、いざ力道山が残していった遺志が何かを正確に知る者は誰もいない」（05年7月WXF大会開催時）

アントン「興行を定着させるため、猪木の看板を前面に出して売りこんでいく。連盟には世界51ヵ国のネットワークがある。年内には都内で大会を開く。将来的には新日本プロレスと連携が取れれば理想」

韓国メディア「一年一ヵ月が経ったいま、これを振り返ると守られたものはただの一つもない。猪木の約束を憶えている人を見つけるのさえ難しい。世界的な大物として通用している猪木は、『アリの娘と自分の娘を対決させる』、『朝鮮半島38度線で超大型の格闘技イベントを開催する』などの無責任な発言で、世間注目を引いているものの、実際にはここ2〜3年のあいだで約束をまともに守ったことはほとんどない。ホラと偽りの連続である」（05年の猪木の発言を振り返って06年9月にこれを酷評）

アントン「韓国はいま格闘技ブームが来ている。韓国の格闘技団体WXFがやらせてくれると言ってきた。韓国でアリ戦を放送する企画もあるみたいだし、交渉がまとまれば、大会に猪木の名前がつくかもしれない」

韓国メディア「最近の猪木の言動を考えたとき、韓国大会を開催するという発言を喜んでばかりはいられない。日本国内でも新日本プロレスの経営権を失なって自分の勢力さえ曖昧となった猪木の現在は、モハメド・アリと闘った名声を除いて、残っているものはないと言っても過言ではない。このような視点から、猪木の名前の価値だけを信じてしまっては、おびただしいロイヤリティばかりを取られてしまうだけで、猪木が約束した『世界的な大会』に成長させられるのかどうかは、誰も保証できないのは明らか」（06年9月17日の猪木の発言を受けて）

アントン「1万5000人規模の会場でやることが決まった。今回はキャンセルはない。韓国では非常に格闘技が盛り上がっている。ぜひ来てほしいということなので」

韓国メディア「しかし、当初猪木側が提案した『両家間の娘による二世対決』は実現されないと発表された」（06年10月5日パチンコメーカー「CR燃える闘魂・アントニオ猪木」機発表会での発言に反論）

アントン「11月に韓国で開催される大会ではアリ氏の娘・レイラが来場することが内定した。体調がよければアリ氏も来場する予定だ」（06年10月25日『アントニオ猪木酒場』一号店の開店イベントで）

韓国メディア「格闘技大会WXFが結局中止になった。最近WXFが、国内の出場選手と関係道場に『大会中止の公文書』を発送していたことが明らかになったため。関係者たちは今回の事態で、中小団体の一つが国内格闘技市場全体の水を濁ごしていると遺憾の念を表明している」（06年10月23日にすでに発表済み）

韓国メディア、ちょっと言いすぎだよ!

……とまあ、じつに痛快なまでの叩かれっぷりなわけだが、大方の予想どおり、結局WXFとのコラボ大会は消滅。11月12日時点で日本での延期発表はされてないが、3度目の沈没となった。


WXFはもともと中規模団体だが、03年に旗揚げして以来、年間興行数は少ないものの延期や中止は一度もない安定した団体であり、信頼感もある組織だった。

今回も選手も金原弘光、『PRIDE』経験者のキム・デウォン、オ・ウォンジン、また韓国の有力選手の出場も決定しており、裏情報に詳しい格闘技関係者も「今回はスポンサーもしっかりしてるし、テレビもついているのでとりあえず、中止ということはないでしょう」と断言していた。……しかし、アントンの磁場や宿命がそうさせるのか、結局WXFも見事に撃沈。WXF側からも正式に延期の発表があり、今回も見事に"ゲノムって"しまった……。

しかし、こんな騒動を起こしたアントン張本人は、10月27日には亡くなった大木金太郎の告別式に韓国にやってきたが、すでに中止発表のあったWXFの大会について、まるで何事もなかったかのように悪びれることもなく、華麗にスルー。これには韓国メディア関係者も唖然としていた。さすがアントン! やっぱりスーパースターはそうこなくっちゃ! 結局いいように振り回されたのは、リー・ガクスー会長と韓国メディアだけだったってことで（笑）。

これを機会に、韓国格闘技界もアントニオ猪木がいかなる人物であるかということを少しはわかったことだろう。さて次の『INOKI GEMOME』のターゲットはいったい、誰なのか?（大川"隊長"義之）

※11.24『INOKI GENOME』の延期顛末は、携帯サイト『kamipro Hand』の「kamipro一週間」や『インサイドコリア出張版』で馬鹿馬鹿しく報道してますよ!



イナズマKの
Special

こんなときだからこそ振り返る怪奇派レスラーの真実

ホラー映画顔負けの仰天顛末

レザーフェイスは生きていた

10月下旬、一部報道で、日本でもレザーフェイス、スーパー・レザーとしてW★ING、FMW等で活躍したコーポラル・マイク・カーシュナーの訃報記事が掲載された。しかし数日後、レザーフェイスが生きていたことが判明。ホラー映画顔負けの仰天顛末に迫る！

構成／松澤チョロ　試合写真／平工幸雄　designed by Tani-yan（Two Three）

怪奇派レスラーがよみがえった？
マット界も右往左往
レザーフェイス死亡騒動とは？

文／松澤チョロ

「レザーフェイスは生きていた」。

字面だけ見ると、生存が確認されたいまとなっては、なんだか不思議な感じもするが、とにかく、怪奇派レスラー、レザーフェイスは生きていたんです。とりあえず一安心！

今回の一連のレザーフェイス死亡騒動に関して、ご存知の方も多いとは思うが、まず最初に、ホラー映画も顔負けのその顛末を説明しよう。

事の始まりは、アメリカ時間の10月19日、WWE公式ウェブサイトにて掲載されたマイク・カーシュナー死去報道。日本ではレザーフェイスやスーパー・レザーとしてお馴染みだが、WWF（当時）時代は〝コーポラル〟マイク・カーシュナーとして活躍していたレザーフェイス。日本でも90年3月、新日本に素顔のコーポラル・マイク・カーシュナーとして来日。タッグマッチながら坂口征二の引退試合の相手として登場したのを覚えている人も多いだろう。

WWEの公式サイトに掲載されたのは「〝コーポラル〟マイク・カーシュナー（本名トーマス・スピア）が先週の日曜（15日）、メリーランド州ホワイトマーシュの自宅で死去」との情報です（死因は自然死となっていました）。WWEの公式サイトの情報だけに、「レザーフェイス死去」報道はまたたく間に日本にも伝わりました。

WWEの公式サイトが出所だったため、誰しも誤報とは思わなかったのだろう、「レザーフェイス死去」報道は日本時間の20日にはインターネットのプロレスサイトや選手&関係者のブログはもちろん、スポーツ紙や専門誌等の携帯サイトにも掲載されてしまったのです（ちなみにkamipro Handでは、幸か不幸か、正式な情報と確認できるまで掲載を見合わせていたためアップしませんでした）。

20日の深夜にはレザーフェイスとプライベートでも仲が良かったという金村キンタロー（以下・金ちゃん）からメールが届きました。内容は「頼むからkamipro Handの待ち受け（中川画伯）でオリジナル・レザーフェイス&〝コーポラル〟マイク・カーシュナーの絵を出してほしい。お願いします」といったもの。じつは金ちゃんからは、レザーと同様、思い入れが深いビクター・キニョネスが亡くなった際にも同じようなリクエストがあり、中川画伯に書いてもらったという経緯があります。その文面からも、普段はエロ話全開の金ちゃんらしさは一切感じられず、よほどショックが大きいのだろうと判断し、あえて電話はせずメールで「了解しました」と返信すると、すぐさま「本当にありがとう！」とメールが返ってきました（レザーの待ち画は絶賛配信中。113ページ参照）。



こちらが、ありし日の……いや、無事生存が確認されたレザーフェイスと、プライベートでも仲が良かったという金村キンタローとの試合写真だ。W★ONG時代は一方的にやられまくっていたという金村だが、FMW時代に一度だけ勝利を収めている。いつの日か、もう一丁！

翌日、金ちゃん率いるアパッチプロレス軍の新木場1st RING大会があり、そこで金ちゃんはレザーフェイスの追悼セレモニーを行ないました。アパッチにはプロデューサーの伊藤豪氏や、黒田哲広、マンモス佐々木といったFMW時代にレザーフェイス（スーパー・レザー）とゆかりの深い選手が多く、リング上では各選手がレザーとの素敵なエピソードを披露。セレモニー中、ずっと涙ぐんでいた金村は「彼のことを忘れないでください！」と遺影を掲げ、最後に10カウントゴングでレザーを天国に送り出したのです。

それから数日後、海外のプロレスサイトでレザーフェイスの母親が登場し「私の息子は死んでいません」とアピール、さらには死んだはずのレザーフェイス本人も「（本名として名前が出た）トーマス・スピアなんてヤツは知らない。オレは生きているし、病気もしていない。いまはトラックドライバーをしている」とのコメントを発表したから、さあ大変。

この報道と同じくらいのタイミングでWWEの公式サイトからは〝マイク・カーシュナー死去〟の記事は削除されています（訂正文はナシ）。

レザーフェイスが主人公の人気ホラー映画『テキサス・チェーンソー ビギニング』の公開（現在、絶賛上映中）が同時期という抜群のタイミングだったため、一部では「今回の騒動は大がかりな映画のパブリシティなんじゃないか」といった噂話も飛び出す始末で、情報は錯綜三昧。

結局、「レザーフェイスは生きていた」と確実に判明したのは、アメプロ博士として有名なフミ斎藤氏がレザー本人と話をした10月26日（日本時間）のことでした。最初に死亡報道が流れてから約一週間、ホラー映画のキャラクターでもあり、日本ではナンバーワン怪奇派レスラーとして評価が高かったレザーフェイスは、本人の関知しないところで生死をさまよっていたことになります。

フミ斎藤氏がレザー本人に、金ちゃんらアパッチプロレスが10カウントの追悼セレモニーをやってしまったことを告げると、驚きつつも「みんな、オレのことを覚えていてくれたんだ。カネミューラにも会いてえな」と懐かしがっていたそうです。

リング上ではチェーンソーを振り回し見る者を恐怖のドン底に叩き落としてきたレザーですが、いったんリングを降りると正反対のジェントルマンぶりで金ちゃんら選手関係者からレスラーとして、そして人間としてリスペクトされていたのです。

次のページからは金ちゃんをはじめ、レザーとゆかりの深い人たちに、今回の騒動や知られざる真実を語ってもらってます。ウガー！



レザーとゆかりの深いアパッチ軍が語る
あんなことやこんなこと

語ろう レザーフェイス

余計なことまで大放出!

今回のレザーフェイス死亡報道を聞き、誰よりも悲しみに暮れていたのが金村キンタローだ。10.21アパッチ新木場大会ではフライングで追悼セレモニーを行なってしまった金村とFMW時代のレザーをよく知るアパッチ勢による、語ろうレザーフェイス！ ウガー!!

聞き手／イナズマ★K　構成／松澤チョロ

——今回の一連のレザーフェイス騒動を金村さんをはじめ、ゆかりの深い方々に振り返っていただければと思っています。まあ、生きているってことがわかって、皆さん、ホッとしたと思うんですけど。

黒田　……え？　レザーって生きてたんですかっ⁉

金村　あ、黒田は知らんかった？

黒田　いや、誤報じゃないかとか言われてたのは聞いてたんですけど、今日はてっきりレザーを偲ぶ座談会だと思ってて。……いやあ、生きてて良かったです！（笑）。

伊藤　やっぱり、今回の件で一番印象深いのは（金村を指差し）この人が引きつけを起こしたことですね（笑）。

金村　いやいや、もう恥ずかしいからやめましょうよ（苦笑）。

伊藤　（聞かずに）マイク（レザーフェイス）が死んだって聞いたら、ホントに気が狂ったかみたいに号泣して、引きつけ起こしたんですよ（笑）。

——そんなことがありましたか（笑）。

伊藤　たまたま事務所で寝てて、ボクが外から帰ってきたら、なんだかわからないけど泣いてるんですよ。大会前日の忙しいときに。どうせ、女にフラれたかなんかだろうなって思ってたんですけどね。違う女に間違ってメール送ったとか（笑）。

——金村さんなら充分ありえますね（笑）。

伊藤　そしたら「レザーが死にましたぁ……」って号泣しだして。（金村を指差し）それでこの人、レザーが死んだって聞く前に稲松三郎にどっきり仕掛けて呼んでたんですよ。「オイタして、この野郎！」ってメチャクチャ怒ってるっていう設定で。稲松はビビって事務所に来たんですけど、来たら引きつけ起こして泣いてるんですよ？

——違う意味でビビりますね（笑）。

金村　それで、伊藤さんが「ジャックダニエルを買ってこい！」って稲松に買いに行かせて、その日はみんなで飲んで。

——弔いの酒盛りみたいな感じですかね。

伊藤　そうですね。そしたら、なぜか飲んだ稲松も「ボクもレザーのファンでした！　テキサスマスカラーとか凄かったですよ」って。一応、知ってんだぁと思って。稲松のどっきりはナシになったんですよ。だから、レザーの誤報のおかげで、いまの稲松があると思ってください（笑）。でも、「偽善になるから絶対、俺は10カウントはやらないんや！」って言ってた男が初めてやりましたからね。結局は誤報でフライングになっちゃいましたけど（笑）。

黒田　いままでアパッチでは10カウントはやってないッスもんね。

もう誰が死んでも、絶対に追悼式はやりません！（金村）

金村　ビクター（・キニョネス）のときも、破壊王のときもやってないし。だから、今回の誤報の件で決めたんです。誰が死んでも、絶対に追悼式はやめようって（笑）。

伊藤　このあいだ、大木金太郎さんが亡くなったじゃないですか。それでも「やらない、やらない」って言ってましたから。

——"キンタロー"だけに、大木さんとも接点があるんですよね。

金村　ボクと伊藤さんで、韓国で一緒にメシ食いに行ったことあるんですよ。それに冬木（弘道）さんは国際プロレス時代、大木さんの付き人してて。そういうのもあって、漢字で"金太郎"はダメだからっていって、オレのリングネームは"キンタロー"になったんですよ。

伊藤　「キンタロー」っていうのは最初、シャーク土屋が呼び始めたんです。FMWで韓国に行ったとき、大木さんがいるのを知らずにシャークが「キンタロー！」って叫んだことがあって（笑）。

伊藤　大木さんは振り向いて「はあ？」って言ってましたね（笑）。

——アハハハ！　マンモスさんはレザーと、よく相撲を取ってたみたいですけど。

佐々木　自分が元相撲取りだって知ってからは、会うたびに相撲取らされてましたね。

伊藤　でも、ガイジンだから腰が高いんだよな。

佐々木　そうなんですよ。腰が高

いから、すぐに寄れるし、すぐに巻いて転がせるんですよ。でも、勝つと怒るんですよ（苦笑）。

――元力士相手に怒ってましたか（笑）。

マンモス　「ファック！」って怒るんで、またやるんですけど、何回やってもボクが勝つんで。でもホント、相撲は好きでしたよ。3時から相撲中継を観てましたからね。

――じゃあ、幕下から観てたんですかね。

佐々木　そうッスね。「昨日観たか？　最初のほうでやってた取組」とか言われて「わかんないなぁ」って困らされたり（苦笑）。でも、プロレスのことでも、よく目にかけてくれて、アメリカンレスリングを教えてもらいましたね。

金村　ボクはレザーとは組んだり闘ったりしてて、よく地方とかで一緒に飲んでましたね。バスの中でとか。そんで、アイツはいつもタイメックスの時計をしてたんですよ。九州の小倉のホテルの部屋で一緒に飲んでたんですけど、アイツの時計をボクは酔っぱらったらいつも窓から投げるんですよ（笑）。

――ひっどいことしますね（笑）。

金村　それでも怒らんかったんですよ。でも一回、大事なタイメックスだったか知らないですけど、「ちょっと、その時計見せて」って言ったんですよ。アイツも捨てられるの知ってて渡すんですよ（笑）。

――アハハハハハ！

金村　その大事なヤツを窓から投げたときは、さすがにホントにキレてブン殴られましたからね（笑）。

マンモス　一回、正規軍にレザーが来たときがあって、そのとき、徳島かどっかの体育館で、その日がボクの誕生日だったんですよ。それで、試合はレザーとのタッグで。そしたら試合前に「オマエ、今日は誕生日だから、オマエがこれ持って入場しろ」って言ってチェーンソーを渡すんですよ（笑）。

――素敵な誕生日プレゼントですね（笑）。

マンモス　それで、自分で持って「ウワ～！」って言いながら入場したんですけど、誰もべつにビビんなかったですね（苦笑）。

――やっぱり、レザーじゃないとダメだったと（笑）。そういえば、ヒクソン・グレイシーにまつわるレザーとの思い出話があるんですよね。

金村　ちょうど、ヒクソンが話題になってた頃、「ヒクソンってホントに強いの？」ってレザーに聞いたら「オマエ、ホントにそんなこと聞いてんのか？」って言って「ホントのシュートっていうのは、ラリアットをかまして、バンプ取って、血を噴き出して、パンチでド突き合ってやるのがホントのシュートだ」って言ってて。

俺らの血をマスクに垂らして試合に向かってましたから（金村）

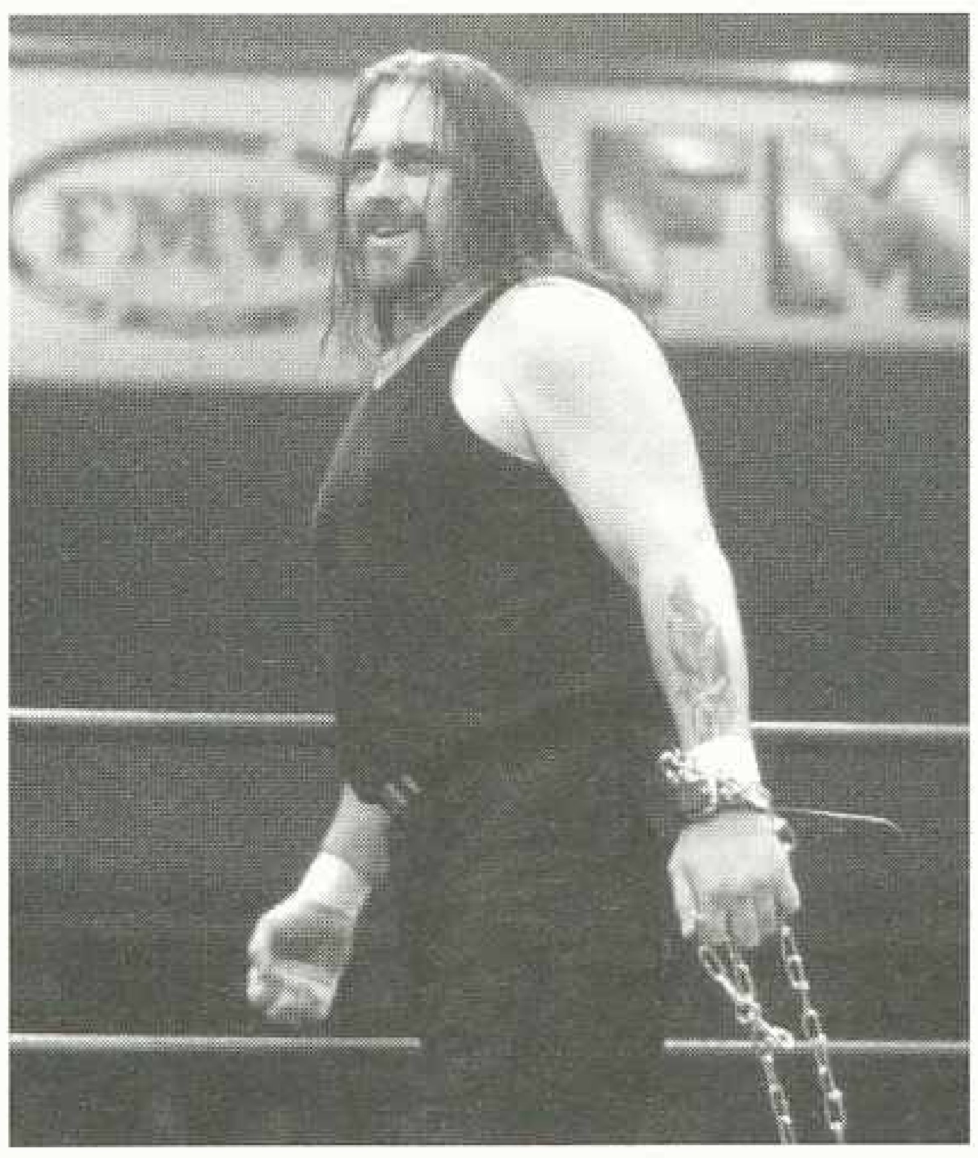
――へぇ～、それは、いい話ですねぇ。

金村　そのときも頭ブン殴られましたけど（笑）。

黒田　俺はレザーとは何度も闘ってましたけど、しんどかったなぁっていうのが一番ですね（苦笑）。ちょいちょい組まされましたからね。「また、レザーかよ!?」みたいな（笑）。

金村　当時、マッチメイカーは伊藤さんやから（笑）。

伊藤　沸くんですよ、黒田がデッカいヤツと闘うと。当時は、レザーも、グラジ（エーター）もデカいじゃないですか？



WWF（現WWE）や新日本での坂口引退試合、そしてFMWでも何度か素顔のコーポラル・マイク・カーシュナーとして闘っているレザーフェイス。素顔とレザーフェイスでのファイトスタイルは、まったくの別物という徹底ぶり。

金村　（ホーレス・）ボウダーも（ビッグ・）タイトンもデカかったし。

伊藤　普通、シングルはやりたくないけど、でも、当時の黒田はレザー、グラジエーター、ヘッドハンターB担当でしたから（笑）。

黒田　デカかったッスもんねぇ……（しみじみと）。ホント、嫌でしたね、当時は（苦笑）。

伊藤　で、臭いんだよね（笑）。

黒田　そうそうそう（笑）。

伊藤　コスチューム洗わないんですよ。

黒田　キレイなレザーはダメじゃないですか。キャラ的に。

金村　だから、ある意味、プロに徹してたのはマスクですよ。マスクも、ボクたちが血を流して控室に戻るじゃないですか。ボクらがセミとかでレザーがメインだと、流血してる俺らに「来い！」って言って、おでこをガンガン殴るんですよ。そんで、グワ～ッて血を出して、自分のマスクにボトボトボトって血を垂らして、それで試合に向かってましたからね。

――うわ～、それはカッコいいですねぇ。

金村　そのまま汗と血が一緒になっていて、いい具合のマスクになっていくんですよ。

伊藤　でも、レザーがメシ食べてるとこは見たことないよね。

金村　いっつもビールばっか飲んでましたからね（笑）。

黒田　新宿（鮫）さんみたいッスね（笑）。

金村　そうそう（笑）。ほんまレザーは、ビールだけ。ウチに泊まってたときも、嫁さんが気を遣ってステーキとか焼いても少ししか食わなかったですから。ただ、ビールは何ケースも一人で飲んでました。だからっていっても酔っぱらって暴れるわけでもなく、ホント凄い優しいし紳士でしたね。

黒田　ホント、温厚でしたよ。試合のときはメチャクチャでしたけど（笑）。

金村　ほんで、これは出せない話だけど、アイツ、当時●●●●と付き合ってたんですよ（笑）。

伊藤　●●●●と話すために、当時、すでに携帯電話を持ってたからね。だから、日本の携帯電話を初めて持ったガイジンレスラーはレザーじゃないですかね（笑）。

金村　ほんで、その当時、●●が凄い問題になってて、いっつもマイクは軍服みたいなアーミーの服を着てたんですよ。●●●●と一緒に電車に乗って、普通にくっついたりするじゃないですか。本人は日本で●●●●を相手にしたら問題になるってわかってたんで、凄く困ってましたね（笑）。

伊藤　あと、（金村を指差し）この男、ひどいんですよ。レザーは一回、捕まってるじゃないですか（傷害事件のため）。それでビールばっかり飲むんで、おしっこが近いんです。それで、立ちションするたびにこの男は、「警察に電話するぞ！」っ言ってましたからね（笑）。

黒田　最悪や（笑）。

伊藤　レザーは執行猶予があったんで、立ちションも絶対ダメなんですよ。

金村　「シャレにならないから、それはやめろ！」って言われてたけ

ど、調子に乗って毎回言ってたんです。そんで、いつだったか、また立ちションしようとしてたんで、「おまわりさ〜ん！」って叫んでたら、もうそのときは執行猶予が終わってて、思いっきりブン殴られましたからね（苦笑）。

—自業自得だと思います（笑）。その傷害事件って、W★INGの頃の話ですよね。

伊藤　そうです。某若手ガイジンレスラーが女を引っかけたら、その男が出てきて殴られちゃったんですよね。それで、そのとき一緒にいたレザーが「プロレスラーをナメるな！」って感じでブッ飛ばしちゃったら捕まってしまったという。

金村　相手の男はチンピラじゃないんですけども、レスラーっていうので、ゴチャゴチャいちゃもんつけてたんですよね。それで、しょうがなしに殴ったら、大ケガしてしまって。で、留置所入ったんですよ。そんで、そのあいだに、バカのジェイソン（ザ・テリブル）がレザーフェイスのコスチュームを売っちゃったんすよ（笑）。

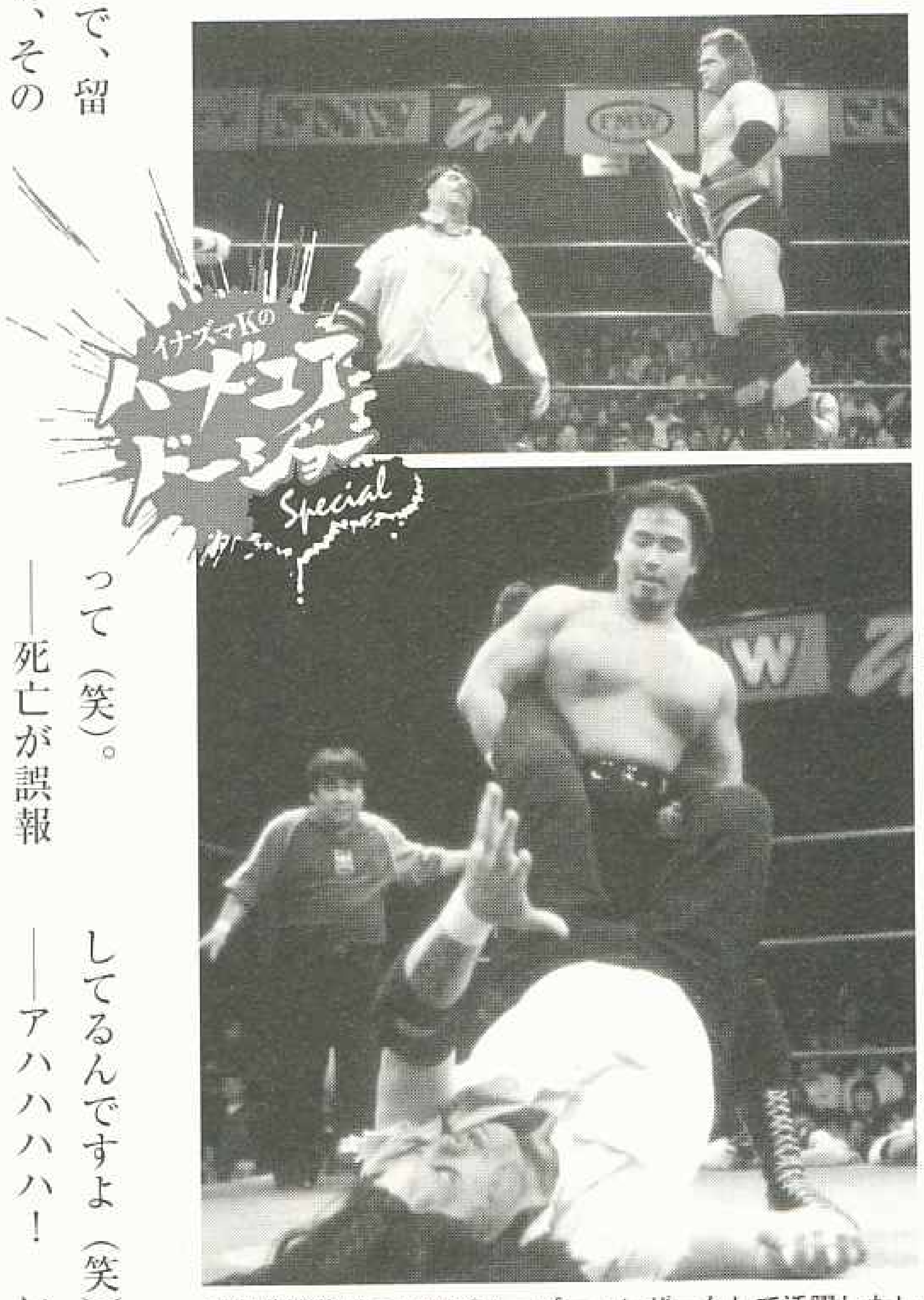
—アハハハハハ！　それもまたひどい話ですね（笑）。

金村　そっから、ボクと茨城（清志）さんとビクター（・キニョネス）で接見に行ったんですけど、会えなかったんです。そのあと強制送還されて、しばらくしてW★INGが潰れてしまって。

伊藤　それで、FMWになってから、また呼んだんですけど、当時はレザーの前でジェイソンの名前は禁句だったんですよ。「アイツだけは許せない！」って言ってて。

黒田　そりゃあ、そうッスよね。あの温厚なレザーでも自分のコスチューム売られたらね。

伊藤　だから、レザーの話が出てくるときは、必ずジェイソンの話も出てきますね。「あのバカがさ〜」って（笑）。



90年代後半はＦＭＷでスーパー・レザーとして活躍したレザーフェイス。当時のＦＭＷはレザーの他にもグラジエーター、ビッグ・タイトン、ホーレス・ボウダー、ヘッドハンターズなど動ける巨漢外国人レスラーの宝庫だった。レザーとは何度も闘っているという黒田だが勝ったのは一度だけ。当時、まだ新人だったマンモスは一度も勝ったことがないという（ちなみに相撲では全勝）。その勇姿が再び見られる日は来るのか!?　カムバック、レザーフェイス！

—死亡が誤報じゃないかって報道は早くからされてましたけど、確実に生きてるってわかったのはどのタイミングだったんですか？

金村　最終的にはフミ（斉藤）さんが本人と連絡取ったっていうのを須山（浩継）さんが教えてくれて。で、伊藤さんに携帯と家の番号とアドレスを教えてくれたんですよ。で、ボクはアドレスを間違えちゃってメール送っちゃったんですよ。アドレスの最初が「ｆｕｃｋｙｏｕ」でしたから（笑）。

—それじゃあ届かないでしょうね（笑）。

金村　で、ちゃんと見て、もう一回メール送ったんです。それから携帯に電話したら本人の声の留守電になってて。ほんで、家のほうに電話したら奥さんが出たので、その瞬間に、伊藤さんに電話渡しました（笑）。そしたら、伊藤さんは伊藤さんで、「金村です」って話してるんですよ（笑）。

—アハハハハ！　いまは報道によると、レスラーはやめてトラックドライバーをやってるとか。

伊藤　そうみたいですね。でも、5年ぐらいはホントに連絡つかなかったんですよ。これは誌面にできないことなんですけど、「本名トーマス・スピア」って出てたじゃないですか。マイクが日本に来れなくなったのは……（レザーが日本に来れない理由についていろいろと語ってくれたものの、大人の事情で掲載不可）。

—亡くなってたらともかく、いまとなっては書けない話ですね（笑）。

伊藤　……書けないんですけどね（笑）。でも、そのへんがクリアになれば呼べるんですよ。

金村　呼びたいですけどねぇ。一応、本人のオッケーは出てるんで。

伊藤　……でも、（金村が）引きつけを起こしたときの画像とか撮っておきたかったなぁ。

金村　だから、あれは引きつけじゃないから（笑）。俺が女を殴ったときになるのが引きつけや！（なぜか得意げに）。

黒田　そんなこと言ったら載りますよ！（笑）。

—え〜、前号に続き危ない話になりそうなので話題を変えます（笑）。

金村　……あ、そうだ。俺、『ｋａｍｉｐｒｏ』訴えますから。

—エッ、なんでですか!?　突然思い出したかのように（笑）。

金村　前号で俺のプライベートの秘密、全部バラしやがって。

—いやいや、秘密も何も、あれでも、かなりソフトにしたみたいですよ。そのまんま載せたらホント、金村さんの人間性が疑われるようなトークばっかりだったみたいで。

金村　いや、違うんや。オレが言ったとおり載せてくれなかったから訴えようかと思って（笑）。

—そんなの初めてですよ（笑）。じゃあ今度、そういう話をしたら、ありのままを載せさせてもらいますので勘弁してください。

金村　じゃあ、最後に女話を一つ。俺がケブラーダやるときは、その会場に女がおるときや（笑）。

黒田　その話、さっき聞いてビックリしましたよ！　ちょっと怒りを覚えましたね（笑）。本人、足ケガしてるのに「黒田ちょっと待ってて。ケブラーダいくぞ！」とか言って。「なんでこの人、無茶すんのかな。プロやなぁ」と思ってたら、結局（小指を立てて）これでしたよ（笑）。

佐々木　自分はケブラーダで二回、カカトで顔面蹴られてますからね。それで喜んでるのは、この人の彼女ですからね。次は絶対よけますよ。

金村　いまの「よける」っていうのはカットしてね（ニコッ）。

—いや、ありのままを載せさせてもらいます（笑）。

【06年11月2日／後楽園ホールにて収録】

恐縮です！　今年は残り3大会!!

アパッチプロレス軍大会日程

「アパッチファン感謝DAY～ピンチはチャンス～」

11月26日（日）東京・新木場1st RING　19:00試合開始

◎第1部　16:30～18:00

※フリーマーケット、アパッチ激闘史上映会

◎第2部　18:30～20:00

※アパッチファイティング

第1試合　15分1本勝負　新宿鮫 vs 橋本友彦

第2試合　20分1本勝負　Hi69 vs そのまんまMIYAWAKI

セミファイナル　BLTデスマッチ　時間無制限1本勝負

佐々木貴 vs BBH

メインイベント　ハードコア6人タッグデスマッチ

時間無制限1本勝負

金村キンタロー&黒田哲広&マンモス佐々木 vs

葛西純&本間朋晃&GENTARO

◎第3部　復活!クラブアパッチ　試合終了後～21:30

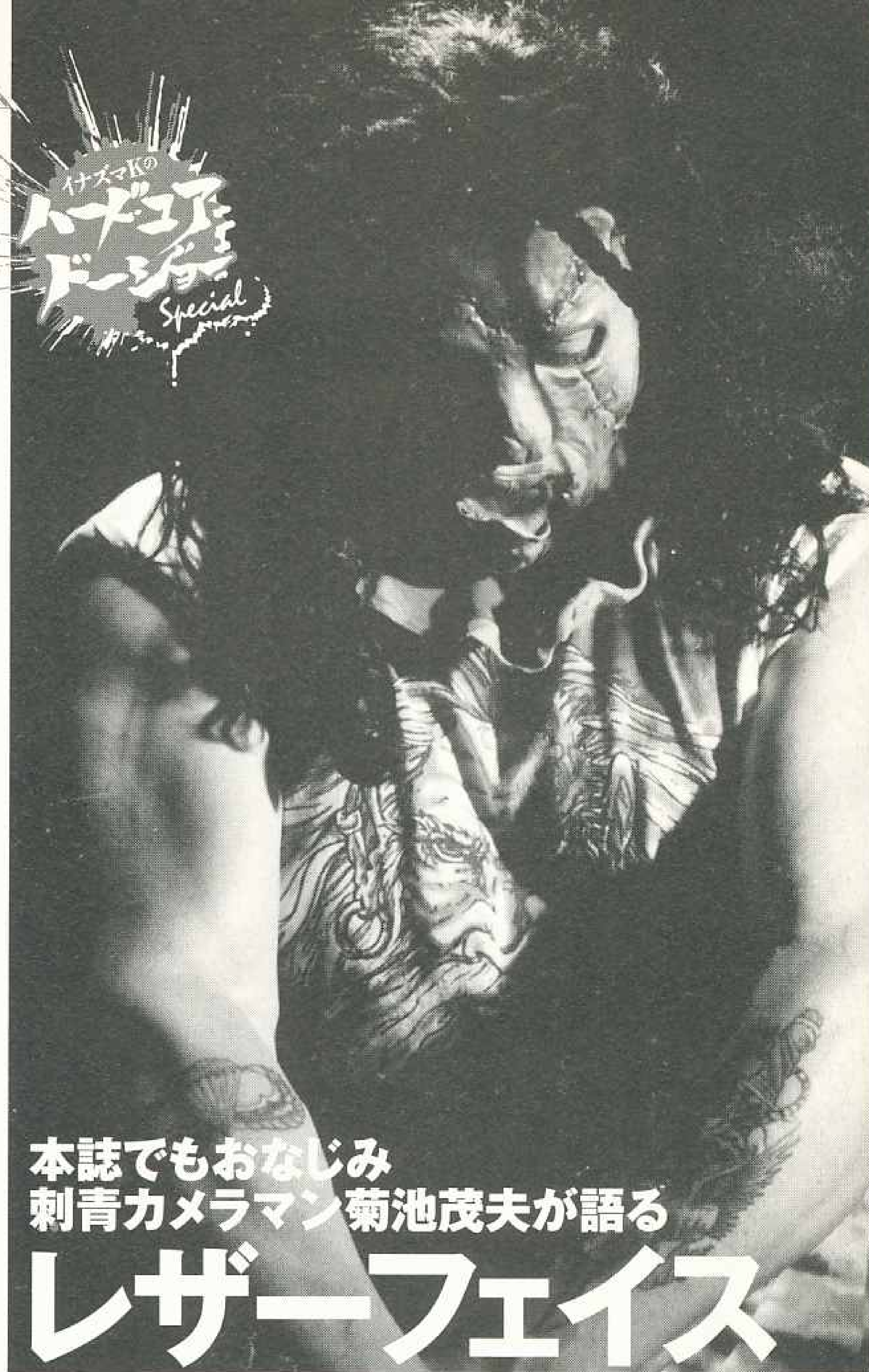
［チケット料金］

全席自由 4.000円　※ドリンク、フード代は別途

12月16日（土）東京・新木場1st RING　19:00開始

12月25日（月）東京・新木場1st RING　19:00開始

［問い合わせ］アパッチプロレス軍 TEL.03-5610-2609



イナズマKのハードコア・ドーショー Special

本誌でもおなじみ 刺青カメラマン菊池茂夫が語る

レザーフェイスの素顔

全盛期のレザーフェイスのスタジオ撮影を二度敢行しているのが、現在は音楽関係を中心に『kamipro』でも活躍中のカメラマン・菊池茂夫氏だ。レスラー顔負けの巨漢＆刺青を持つ菊池氏に、リングを降りた怪奇派レスラーの素顔をたっぷりと語ってもらいました！

聞き手／チョロ　撮影／菊池茂夫

――菊池さんはレザーフェイスを何度か特写したこともあるみたいなので、ボクらの知らない素顔を語っていただければと思っています。

菊池　うぃ～っす、了解です！

――一番最後にレザーを撮ったのはどのくらい前になるんですか？

菊池　レザーを最後に撮ったのは、もう7～8年前になるかな。撮り下ろしを二回やって、試合は遊びに行って、なんとなく撮るっていうのはFMWの時代によくやってたね。

――たしか、菊池さんの弟さんがFMWの関連会社にいたんですよね？

菊池　弟はFMWのスポンサーの会社にいたんで、毎回のように遊びに行ってて。もともと、W★INGとIWAは、知り合いが多いのもあって、ちょこちょこ撮ることも多くて。

――菊池さんはミュージシャンの撮影も数多くされてますけど、パンクやハードコア好きは、それこそレザーフェイスやW★INGのホラー系レスラーファンが多かったですよね。

菊池　そうッスね。オレなんかは、もともとホラー映画も好きだったんで、レザーフェイス、フレディー（・クルーガー）に、クリプト・キーパーはいるはブギーマンはいるは、ホントにW★INGは一番好きだったんすよねぇ……（しみじみと）。でも当時はプロレス関係で仕事になる撮影ってなかなかなくて、『別冊宝島』でたまに誰かを撮るとかしかなくて。なんかいいのないかなぁって思ってたんだけど、その頃、『BURST』って雑誌が刺青特集をよくやってて。

――残念ながら、『BURST』は、いまは休刊中みたいですけど。

菊池　そこでプロレスラーの刺青特集の連載をやりたくて、企画を持ち込んで通ったんだけど、その一回目がレザーフェイスだったんすよ。なんか、スゲーたくさん入ってるイメージがあったんだけど、実際脱いでもらったら、たしか4つくらいしか入ってなくてね。

――たしか腕にでっかく〝レザーフェイス〟ってカタカナとチェーンソーの刺青が入ってましたね。

菊池　そうそう。手首からヒジの間の内側、外側に両腕とも入ってて、右手のヒジから手首のあいだの内側のとこに、自分がいた軍隊かなんかの刺青を入れてましたね。そのときは、ノリノリでポーズ撮ってくれて、「刺青はそんな入ってないんだけど」なんて言いながら、気さくな感じで接してくれましたね。それから一年以内に今度は『GON!』って雑誌でプロレスラーの凶器特集って企画で、また撮ったんですよ。

――『GON!』は、よくプロレスネタをやってましたよね。

菊池　その取材のときに180センチぐらいで100キロぐらいあるライターがいて、プロレスファンで、いいヤツなんだけど根性なしで有名なヤツがいて、「アイツがプロレスのことをバカにしててナメてるから、ちょっとイジメてやれよ！」ってレザーに言ったら、撮影が終わって最後に記念写真撮ろうってなって、横に近づいた瞬間にボディスラムの体勢で逆さにして持ち上げて、ユサユサ揺らし始めたら、そいつが悲鳴あげて半べそかいて、みんなで爆笑したこともあったね（笑）。

――レザーと一緒にどっきりを仕掛けたわけですね（笑）。

菊池　そうそう（笑）。そのあともレザーから「また撮影頼むよ」とか言われてたんだけど、いい企画がなくて。そのうちFMWも立ち消えになって、しばらくして今回の騒動があったって感じだよね。

――今回の死亡報道があって、みんな思い出したって感じですよね。

菊池　そうだよね。そういえば、FMWが潰れたあとに、事務所にあるものをドンドン片づけてるって弟から連絡が来て「有刺鉄線バットと五寸釘ブラシが余ってるけどいるか？」っていうから、まあ、記念だからってもらって。で、ロマンポルシェ。がDVDを作るときに、ヤクザ役で出てくれって言われたんすよ。

――はまり役ですよね（笑）。

菊池　それで「有刺鉄線バットと五寸釘ブラシあるけど、オマエら、それ撮影に使う？」って言ったら乗り気になったんで使わせて。そのあとに「記念だからあげるよ」っていって預けておいたら、なんか「事務所から契約解除された」とか「売れなくなった」とか、全部、オレがあげた五寸釘ブラシのせいにされて。『紙プロ』で一回、掟が書いたでしょ。

――書いてたような気がします。

菊池　あれは、オレがあげたレザーが使ってた五寸釘ブラシだから（笑）。呪われて縁起が悪いものをオレがロマンポルシェ。に押しつけたに違いないとか、掟が『紙プロ』で書いてたんで、ホントに呪ってやろうかと思ってたんだけど（笑）。

――アハハハハハ！

菊池　でも、せっかく生きてたんだから、ホント、レザーフェイスには復活してほしいよねぇ。映画のパブでもいいから日本に来てもらって、また、そのときは撮影したいね。

――その際は、ゼヒ『kamipro』でやりましょう！

菊池　うぃ～っす、そういう機会があったら、ゼヒ撮らせてください！

【11月10日／代々木の喫茶店にて収録】



きくち・しげお■1965年生まれ。パンク、ハードコア等々、ロックンロール全般のかっちょいい写真を撮りまくっているレスラー顔負けの巨漢刺青カメラマン。プロレス＆格闘技関係では「kamipro」のほかに、昨年は須藤元気の初の単行本「幸福論」の撮影も行なっている。HPアドレス→http://www.shigeojones.com/

〝レザーフェイス死亡騒動〟を法の立場から徹底検証!!
法学博士 板倉教授がまたまた提言!!
「レザーフェイスさんは、WWEに慰謝料を請求できます!!」

聞き手／真下義之　試合写真／平工幸雄

前号に続き、法律のわかりやすい解説に定評ある法学博士、板倉宏教授がまたも登場！　今回は〝レザーフェイス死亡騒動〟を法の立場から徹底検証!!　はたしてレザーフェイスはWWEを訴えられるのか？

——板倉教授！　今回も教授にプロレス界の出来事に関して、法学博士の立場からお話をうかがいたいんですが。

板倉　はい。よろしくお願いします。

——といっても、今回も教授とは縁遠いお話だと思いますが、じつは〝レザーフェイス〟というレスラーがですね。

板倉　えっ？　レザー……フェイスさん？

——ええ。チェーンソーを振り回しながら入場する、そういう名前の怪奇派レスラーがいるんですが。さすがに教授はご存知ないですよね？

板倉　ごめんなさい。プロレスはあまり詳しくなくてねぇ。

——いや、大丈夫です（笑）。彼はじつはアメリカで長いあいだ、消息不明だったんですけど、先月「自宅で死亡した」というニュースがアメリカの最大手のプロレス団体、WWEの公式ホームページで発表されたんです。でも、これがじつは誤報だったんですよ！

板倉　はぁ～。誤報だったんですか。

——結局、母親が「息子は生きてます！」とWWEに電話をして記事は削除されたんですけど、日本でも死亡報道されたので、ちょっとした騒動になって、追悼セレモニーまでやった団体もあって。

板倉　それはまた大変でしたねぇ。

——こういう場合、当事者のレザーフェイスさんこと、マイク・カーシュナーさんは死亡記事を出した会社を訴えることができるんでしょうか？

板倉　そうですねぇ。……これ死んでないのに「死んだ！」と出ちゃったわけですね？

——はい。でもレザーフェイスは生きてたんです！

板倉　日本のマスコミも報道したってことですけど。ま、公式サイトだったら、みんな信じますよねぇ。ブラック・ジャーナリズムみたいなところに出てたのを確認なしで伝えたら、不法行為でしょうけど。

——じゃあ、最初にニュースを載せたところにはかなり問題がある、と。

（11月11日の時点で）まだ、訂正文やお詫びもないんですけども。

板倉　その……WWWでしたっけ？

——あ、WWEですね（笑）。

板倉　WWEは、誤報ということをお詫びしなくちゃいけないですよね。

——じゃあ、レザーフェイスさんはWWEを訴えることはできますか？

板倉　それはできると思いますよ（キッパリ）。不法行為に謝罪広告の要求、あと損害賠償に慰謝料もね。

——あ、慰謝料も請求できますか？　こういう場合、どれくらい請求できるんですか？

板倉　う～ん。海外だからよくわからないですけど……。〝訴訟社会〟になっているアメリカなら凄い額になるかもしれない。ま、日本のケースだとしたら、300万円くらいだと思いますけどねぇ。

——300万も！　もしかしてアメリカだったらもう一ケタ増えますか？

板倉　可能性はあるかもしれないですねぇ。あの国のことですから（笑）。

——ガハハハ！　追悼セレモニーは問題になりませんか？

板倉　それはしょうがないじゃないですか！　死んじゃったって思ったわけですからねぇ。

——ちなみに日本でこういう前例ってありますか？

板倉　う～ん。死んでないのに死んだ、と。ないと思いますけどねぇ……。おそらく有名な判例はないでしょう。事故や災害のときに、死亡に関する誤報はありますけど、そういうときはすぐ訂正しますから。

——ちょっとケースは違うと思いますけど、教授も頻繁に登場される『東京スポーツ』なんかは、意図的に飛ばし記事を書かれたりしますよね。たとえば『プレスリーは生きていた』とか（笑）。

板倉　（困った表情で）あれは……だけど、『生きていた』って書いてあってもねぇ。

——ほとんどの人は「『東スポ』だからしょうがない」って思ってますよね（笑）。

板倉　まぁ、プレスリーは亡くなってるから、そう書かれても名誉毀損とかないわけですからねぇ。消費者が「そう書いてあるから買ってしまったから訴える」のも難しいでしょうし。だって『東スポ』って、120円でしょう？

——ええ。それに見出しを最後まで見ると『？』がついてたりしますし（笑）。あれは『？』があれば法律的にセーフってことなんですか。

板倉　ま、一応セーフなんでしょうね。

——個人的には『マドンナ、痔だった』っていう見出しを強烈に覚えてるんですけど。

板倉　それは……死んでるマドンナさん？

——いやいや、マドンナさんは生きてます！

板倉　いま生きてるマドンナさんね。ま、その場合は名誉毀損で訴えられるでしょう（笑）。

——わかりました。で、最後に今日はもう一点、うかがいたいことがあるんです。前回、セクハラのことで教授にお話を聞いた金村キンタローさんという人が先月号の自分の記事（TAJIRI×金村のエロ対談）を読んで怒ってるんですよ。

板倉　（本を見ながら）あ、この人ね。それは記事の内容に？

——ええ。「俺はもっと過激な話をしたのにソフトになってる！　編集者を訴えてやる！」って。

板倉　それもへんな話ですねぇ。ソフトをハードにされたんならわかりますけど。その逆なんでしょ？（困りはてた表情で）。

——ズバリ、この場合は担当編集者を訴えられるんでしょうか！

板倉　う～ん……（と腕を組んで）。それは難しいんじゃないですかねぇ。こんな前例は聞いたことないですし。でも……怒ってるのも冗談なんでしょ？

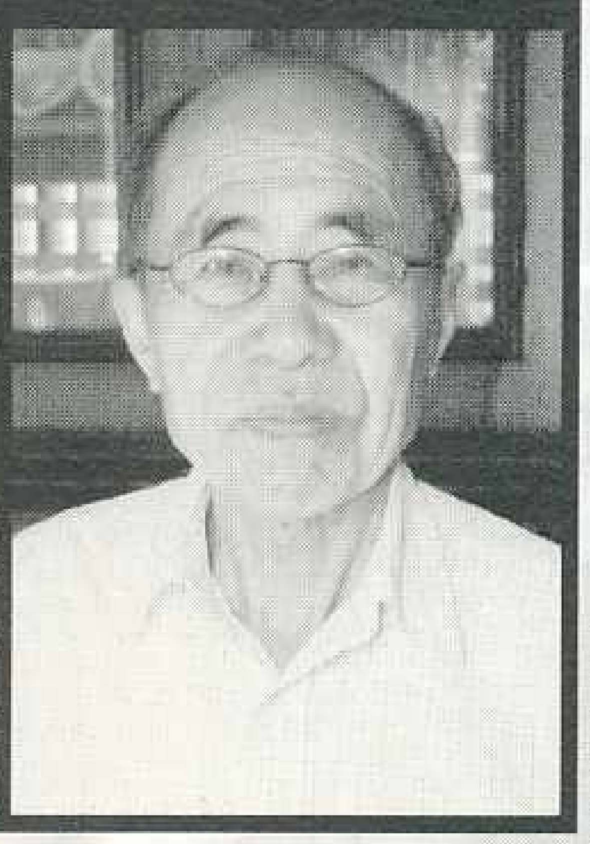
——いや、教授が「できる」なんて言ったら、本当に訴えるかもしれないですから。

板倉　しかし、あんまり過激な発言は、今度は倫理的な問題になるかもしれないし。マスコミには規制やタブーがあるんだから、ソフトにしたのは仕方ないと思うけどねぇ。

——わかりました！　これで担当者も安心です！

板倉　……しかし、君たちもいろいろ大変だねぇ（笑）。

【06年11月6日／日本大学大学院にて収録】



いたくら・ひろし■1934年生まれ。刑法学者、弁護士。日本大学大学院法務研究科教授（刑法）。法学博士として知られ、法律をわかりやすく解説することからマスコミにコメントを発表することが多く、『アッコにおまかせ！』（TBS系）で板倉教授の特集が組まれたこともある。

Back Number

やれんのか〜っ!! な大晦日特集

一寸先はハプニング!!


no.45 '01.12 880yen

『猪木祭り』とは何か？／悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

驚ガクの6周年記念号


no.57 '02.11 840yen

サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

04年末の格闘戦争を大総括!


no.70 '04.01 880yen

シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介&北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞&語録発表

ミルコ激白! 打倒皇帝!


no.83 '05.01 880yen

04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談



"大晦日格闘技戦争"の
歴史はRADICALで!!
そういうことです!!

（大晦日まで）もうちょっと、
時間ください!!

注 新装刊となった「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797
平日 13:00〜19:00　販売元 （株）ダブルクロス

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERは すべて50%OFF

特集 神秘とは何か？
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木&永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16〜87

格闘ノストラダムス!
no.16 780yen '99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32 840yen '00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34 840yen '01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ボブ&オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35 840yen '01.02
[表紙：サクマシン（イラスト）] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36 840yen '01.02
[表紙：橋本真也（イラスト）] ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン──ノゲイラに狼の伝言

純プロレス戦国絵巻!
no.37 840yen '01.04
[表紙：小川直也（イラスト）] 安田忠夫が借金から自殺未遂までを語る！／アブダビコンバット01一大探検記！

小川直也は是か非か?
no.38 840yen '01.05
[表紙：髙田延彦（イラスト）] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39 840yen '01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40 880yen '01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター&キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41 880yen '01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42 880yen '01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43 880yen '01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44 880yen '01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣&杉浦貴

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46 880yen '02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47 880yen '02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no.48 880yen '02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49 880yen '02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山&金原&和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50 880yen '02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川&橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51 880yen '02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52 880yen '02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53 880yen '02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54 880yen '02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚" ホイス&エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55 880yen '02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

夢の対談、大連発号!
no.58 880yen '03.01
[表紙：武藤敬司&船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59 880yen '03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60 880yen '03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61 880yen '03.04
[表紙：橋本真也&小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62 880yen '03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63 880yen '03.06
[表紙：橋本真也&小川直也（イラスト）]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64 900yen '03.07
[表紙：桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65 880yen '03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66 880yen '03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67 880yen '03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68 880yen '03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69 900yen '03.12
[表紙：橋本&小川] 出てこい！ 泣き虫！ 橋本&小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71 880yen '04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ&ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72 840yen '04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73 880yen '04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74 880yen '04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75 880yen '04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76 880yen '04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77 880yen '04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78 840yen '04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79 840yen '04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80 880yen '04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81 880yen '04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82 890yen '04.12
[表紙：桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84 880yen '05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85 860yen '05.04
[表紙：前田日明&髙田総統] PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、高田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

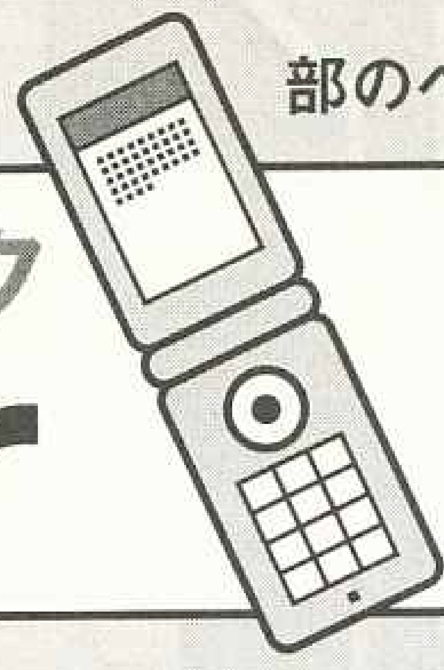
PRIDE GP直前大解剖号
no.86 860yen '05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87 860yen '05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法
▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamiproHand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com
※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

携帯サイト『kamipro Hand』を宣伝したいダブルクロス電気部のページ

エレクトリック Hand Power



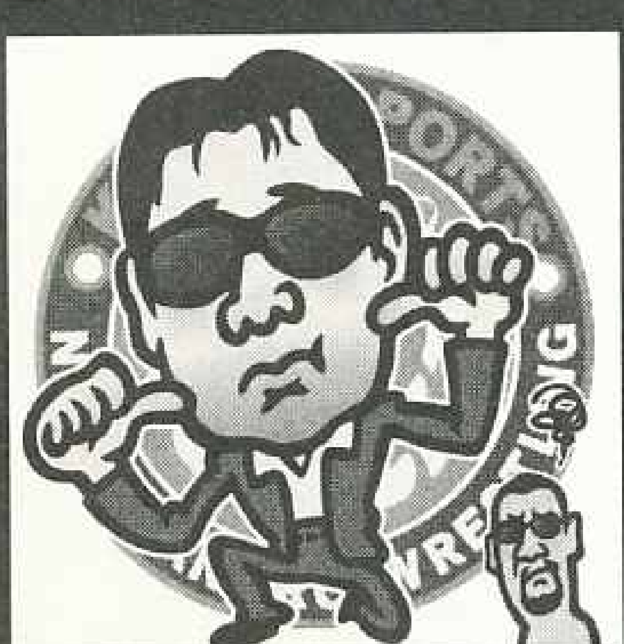
宇宙一おもしろい携帯サイト『kamipro Hand』では、日々のニュース・コラムを毎日配信中！ 一度加入したら絶対やめられなくなる、過剰な更新頻度とおもしろさの『kamipro Hand』をこのページではちょっとだけ紹介させていただきます！

今月の中川画伯 イラストギャラリー

11月のカレンダーはエスペランサーvs HG、秋山vs桜庭!! イラストはサイモン社長、レザーフェイスを更新！ レッツ・ダウンロード!!









読書の秋、食欲の秋！ 巨漢ライター・橋本宗洋の「まいう〜通信」から、裏話&ちょっといい話特盛の火曜コラム&不定期更新の「denkiブログ」をご紹介!!

携帯サイト『kamipro Hand』では、曜日ごとにコラムを配信中。レギュラーコラム紹介の最後は、本誌『kamipro』でもおなじみの巨漢ライター・橋本宗洋氏の水曜コラムと『kamipro』編集部員による火曜コラム、"できるだけ多く更新"のdenkiブログ！ 千本桜ホールから大晦日格闘技大戦争までリカバーするニュースに加え、コラムにブログまで読める携帯サイトは『kamipro Hand』だけです!!

水曜コラム 橋本宗洋の格闘まいう〜通信（10月17日更新分より抜粋）

10月15日、『アイスリボン』千本桜ホール大会を見てきた。ほんのちょっと前まで、筆者はこの『アイスリボン』のことをまったく知らなかった。だが『kamipro Hand』の『denkiブログ』で所属選手・真琴を知り、もう見たくて見たくてたまらなくなってしまった。なにしろこの選手、対人恐怖症で引きこもりだったっていうんだから。

そういう真琴の存在が、あろうことかメカマミーのセンサーに引っかかった。ユニオンプロレスでセコンドについていた真琴に襲いかかるメカマミー。真琴は恐怖のあまり通路にしゃがみこみ、控室にも戻れなかったという。そして『アイスリボン』での対戦決定。これは見なければなるまい。見なくてどうするという話である。

試合当日。初めて生で見る真琴は、まぎれもない"本物"であった。柔らかいマットに足を取られながら登場、目は不安げにあたりを見回し（でも角度は常に斜め下）、手は口元を抑えてみたり胸に当ててみたり、むやみにコスチュームの裾を引っ張ってみたりと落ち着かないにもほどがある。MCを務めるさくらに意気込みを聞かれると「わ、わかりません…」（著しく緊張した、消え入りそうな声で）。じゃあ作戦はと問われれば「わ、忘れました…」（おそろしく動揺した、死にそうな声で）。試合前から"ワールド"全開。メカマミーが登場しても、そのマイナスの存在感は決して薄れることがないのだから恐るべしである。

火曜コラム「kamipro一週間」by坂井ノブ（10月8日更新分より抜粋）

ジム・キャリー主演の映画『ブルース・オールマイティー』は普通の男が"神"になることで引き起こす騒動を描いたドタバタコメディだ。自分の不幸を呪って神にイチャモンをつけた主人公が、ひょんなことから神の仕事を任されるようになり、なんでも思い通りに操ることが出来るようになる反面、あまりに多くの祈りを聞き入れなければならず、その重圧に押し潰されていく、というのがだいたいのストーリーライン。ここで描かれている神の仕事はメールで世界中の祈りを受信して、どれをかなえるか選別して、たまに奇跡を起こす、というものだ。

プロレス界の神といえば、"神様"カール・ゴッチか、「このリングの上に神がいる」（by蝶野）のアントニオ猪木というところが定番だったが、10月8日、聖地・後楽園ホールで新たなる神が登場した。「プロレスハッピーランド」を標榜する『レッスルランド』に本格参戦を果たした中西学だ。

以前は「頭固い」だの「野人」だの「馬鹿」だのと散々な罵られっぷりだった中西も、たぶん『さんまのスーパーからくりTV』で他人にいじられて輝く醍醐味を知ったのだろう。『レッスルランド』のプロデュースの上で、気持ちよく神様をやっていた。「日本のプロレスで神様っていったら誰や？ 力道山しかおらんやろ！」ということで黒のロングタイツを履いて、チョップをガンガン打ちまくる試合内容は大味だけどすごくハマってる。

できるだけ多く更新 denkiブログ

ダブルクロス電気部・ささきぃ、松澤チョロ、上杉が随時更新！

「嘘だろ!? 掟ポルシェが史上最狂のヒール軍団に加入!!」by松澤チョロ（11月5日更新分より抜粋）

アイム・俺様が先日、『kamipro』の人気連載コーナー『掟ポルシェの萌え萌え女々苑』の取材でDDT事務所に行ったときの話だ、エーッ！ その際にDDTの事務所に、たまたまいたのがファッキン・ガッデム・DDT社長にして反体制の"群れない、媚びない、産経新聞"なヒール軍団のボス"アイム・チョーノ"高木三四郎だ、エーッ！

取材が終わったアイム・我々にサングラス片手に近づいてきた"アイム・チョーノ"三四郎は掟さんの前に来ると深々と頭を下げ「すいません。いまチーム2サウザンアイランドっていうヒール軍団をやってるんですけど、サングラスかけて一緒に写真撮らせてもらえないですか？」と非常に丁寧な悪のファッキン・勧誘を行なっていたぞ、エーッ！ 掟さんは「全然いいですよ。活躍ぶりはサムライTVで見させてもらってますんで」と、あっさりサングラスをかけると、三四郎とともに"チーム2サウザンアイランド"のポーズを決め記念撮影に応じていたぞ、ファッキン・ガッデム！



本家"チーム2000"に負けじと、レスラーのみならず、ミュージシャン、芸能人、スポーツ選手、文化人の軍団加入にも着手し始めた"アイム・チョーノ"三四郎。ファッキン・スポークスマンとしては、これ以上ない人材といえる掟ポルシェを強引に加入させてしまった"チーム2サウザンアイランド"の今後の動向からますますをもって目が離せなくなってきたぞ、アーッ！

「ロープ」byささきぃ（10月16日更新分より抜粋）

……『kamipro』の『マッスル』特集に向け、AKIRA選手のインタビューに同席してきました。インタビューでは『マッスル』の面白さの他、年末から上演される野田秀樹氏のお芝居『ロープ』のことも、ちょっと聞いてきました。

インタビューのときにも言ったんですけど、野田秀樹の芝居に出る、って、私は本当にすごいことだと思っているし、それは『男祭り』や『Dynamite!!』出場にひけをとらない、世間的にも誇れる大舞台だと思います。

そういうことを言う私は、高校時代演劇部にいて、卒業してからもしばらく友達と劇団をやっていたので、野田秀樹（と鴻上尚史）は神様みたいな存在でした。もう10年近く演劇からは離れていたんですけど、野田秀樹がプロレスを題材にお芝居を作ると聞いたときは本気で動揺しました。つきあっていたわけでもないのに、昔の恋人に会ったような気分です。

野田秀樹、という世間的に名前のある、そして力のある演劇界の人が、プロレスを題材に物語を紡ぐというのは、けっこうな事件だと思います。

「ロープ」というお芝居そのものと、そのお芝居が与える影響を、自分自身の心の動揺含め、全部をしっかり見とどけたいと思っています。

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法（「kamipro」で一発検索!!）

DoCoMo	iMenu ▶	メニュー/検索 ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲 ▶
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
Soft bank	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶	スポーツ ▶	総合 ▶	
	エンターティメント ▶	TV・メディア・本 ▶	本 ▶	

kamipro Hand

［QRコード］

Handユーザーだけのスペシャルプレゼントは毎月5日更新！ 月末まで応募できます！ いますぐアクセス!!

新 卓球少女(仮)松下ミワの ハガキ愛ランド



裁いて、裁いて、押し出す!(充血)。……そんな壮大なドラマは誰もができるわけではない。でも、できるかできないかを決めるのは、やっぱり……テレビの前の、あなだだだぢです!!(絶叫)。と、『爆笑オンエアバトル』を真似してみましたが、いかがだったでしょうか。あ、どうでもいい。そりゃそうですよね! 私も同感です!! それではさっそく始めましょう。せーの、3、2、1、ドンマイ、ドンマイ、う〜、100KB!!(合格)。

kamipro104号へのお便り紹介

ジョシュ・バーネットの話がおもしろかった。でも、試合を見てても思いましたが、顔がげっそりして大丈夫かと心配になりました。やはり疲れがたまっているんじゃないかなあ。次はもっとベストな状態での試合を楽しみにしています。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

⬇確かにジョシュは凄い。今年闘った対戦相手を見ると、無差別級GPだけでもエメリーヤーエンコ・アレキサンダー、マーク・ハント、それからノゲイラとミルコですよ! しかもノゲイラとミルコは一日のうちに怒濤の二連戦。ゲッソリしててもぜんぜんおかしくない! だいたい、一日にノゲイラ、ミルコと闘ったら、そりゃ、あんた普通だったら死にますよっ!!

デニス・カーンの記事がよかった。彼の生い立ちや現在の状況を知らずにウェルター級GPを見るべきではない! 彼が郷野選手を倒し、さらに決勝で勝利するのは間違いない。
【茨城県・和田智裕さん・学生・23歳】

⬇という期待もおおいにありましたが、残念ながらデニスは準優勝に終わりましたね。しかし、パウロ同様、両肩をケガしながらも決勝のリングに立ったデニスはやっぱりいい選手!

104号でおもしろかった記事は「TAJIRI×金村キンタロー」のエロ・タッグ対談です。私はどちらかというとTAJIRI選手のエロに近いと思います。黒ブチメガネのOL最高!
【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇これは、"どちらかというと"という問題ではないですよね。でも、あの企画におけるMVPは誰がなんと言おうと板倉教授に決定です! ドサクサにまぎれてエガちゃんも公然わいせつ罪の罪に問おうとしている部分なんかをみると、これは人生まったく油断大敵です。

やっぱり星野勘太郎! 星野氏の発言にはシビレまくりでした。久々に「プロレスラーのあるべき姿」に触れられた気がします。現役選手たちにも、ぜひ読んでもらいたい記事でした。
【栃木県・稲葉修さん・会社員・34歳】

⬇以前、レッスルランドの会場で私は星野総裁にビッシビシ!と言われましたが、前号のインタビューを読んで、凄い方にビッシビシ!してもらったんだなあと非常にしんみりしました。星野総裁、ありがとうございました!!



眞鍋かをりインタビューが一番! 『kamipro』でこんな可愛い娘が出ただけでOK牧場でしょ?(笑)。
【福島県・長谷川隆さん・自営業・42歳】

⬇この原稿を書いているたったいま、グラビアアイドル海川ひとみのハッスルデビューが発表されましたが、いつかは眞鍋かをりのリングデビューもあるのか!? もしくは、髙田総統の古くからの友人の髙田本部長との「フォトノート」vs「ここだけの話」のブログ対決でもいいかもしれませんね!

ベニー・ユキーデの記事がよかった。『JUMP』がユキーデのための曲だったとはビックリです。後世に伝えなくてはならない人物の一人だなあと思いました。
【石川県・浅井清治さん・会社員・34歳】

⬇私は、ユキーデがミスター・サヤマと催眠の重要性について深く話し合っていたことにビックリです。催眠とか、スピリチュアルとか、やっぱりマット界は奥が深いですね! 勉強になります!!

ヒョードルとマーク・コールマンの記事がよかったです。僕は、それを見て心から感動してしまいました(涙)。
【千葉県・平山拓磨さん・中学生・14歳】

⬇個人的にはアメリカンなナイスガイ、フィル・バローニの「人生はそもそも残酷なものなんだ!」という熱い一言に非常にシビレました。う〜ん、そうだ! 世の中にはこういう"熱血"が足りない!!

掟さんの萌え萌えに、今回は僕も萌えてしまいました。あの非常に端正なお顔立ちははっきり言って、僕の好みです! あの泳ぎがちな目の奥に、僕は非常に芯のある力強さを感じます。もし、僕が東京に住んでいたらアイスリボンは絶対見に行くと思います!
【沖縄県・山田冬彦さん・学生・20歳】



⬇それは、一目惚れというものです! ま、そんなことはどうでもいいのですが、掟さんは先日のメカマミー vs 真琴の試合を見るためにわざわざスカパー!に加入したそうです。最近の掟さんはますます凄い! もちろん、今号も異常事態となっております!!

J・Z・カルバンのページがよかった。試合だけではわからないカルバンの意外な人柄を感じることができました。マジメな方なんですねえ。
【岡山県・澤伴明さん・学生・25歳】

⬇そのビジュアルからは、「オレはラップしか歌わねえぜ!」というような印象を受けてしまいますが、さすが"家族愛"と腕に彫ってるだけあって、J・Z選手は本当に礼儀正しい方でした。背筋が伸びる感じがしますね!

『PRIDE』ラスベガス特集全部よかった。ラスベガスの空気感が伝わってきた感じがしました。
【佐賀県・内川祐輔・学生・18歳】

⬇ただいま、『kamipro』編集部にもアッメ〜リカッ!! なお土産がいっぱいあるので、非常にラスベガスな感じになっております。それにしても、『PRIDE』ラスベガス大会での名言の飛び出し具合には頭が下がりますよね。皆をハイテンションにさせる場所、それがアッメ〜リカッ!! なんでしょうか。

104号・おもしろかった記事ランキング

- **1位** ジョシュ・バーネット
- 星野勘太郎
- **3位** ベニー・ユキーデ
- PRIDEラスベガス特集
- **5位** 五味隆典インタビュー
- 3年G組金沢先生

104号ランキングはビッシビシ! な感じになりました。1位は魔界のドン・星野総裁とジョシュが同率首位。ここ最近、毎回のように掲載されているジョシュのインタビューの人気がまったく落ちないのは凄い! 続いては"四角いジャングル"ベニー・ユキーデ。さらに、タイトルマッチを控えていた五味選手もやはりニーズが高い。波紋を呼んでいる3年G組金沢先生はランキング初登場達成!

kamipro読者が告白! いままでに出会ったマット界の人々

突然ですが、人生、一期一会ですね。そういうわけで、出会いの窓口「ハガキ愛ランド」では読者の皆さまがいままでに出会ったマット界関係者のお便りを募集いたしました。ほんの一部ですが、素敵な出会いをどうぞ!

●マーク・コールマンに会いました!
『PRIDE』の会場外で見かけたので、握手とサインをお願いしました。すると、すぐさまボディガードの人が止めに入ったのですが、コールマンはそれを振り切って応じてくれました(もの凄い笑顔で)。
【岡山県・澤伴明さん・学生・25歳】



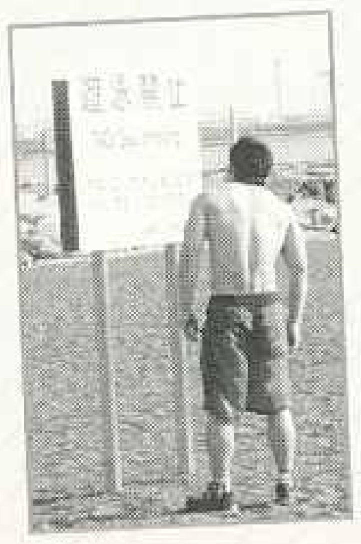
●T1の二見社長に会いました!
何度かチケットを買いにいったことがあるので。会見などで、あんなに弾けた姿を見てビックリしております。
【茨城県・和田智裕さん・学生・23歳】

●剛竜馬選手に会いました!
神戸の震災後、チャリティプロレスで剛竜馬選手を間近で見ました。商店街をTシャツ姿で歩く剛選手には独特のオーラがありました。さすがプロレスラー!
【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

●ジョニー・エースに会いました!
昔、オレが働いていたビル内のサンドウィッチ屋でオレの前に並んでいた。そのときは声もかけられず、サインも求められずじまい。あのTシャツ&短パン姿のお兄さんが、いまじゃWWEの重役だと思うと、ナイスな転職だなあと思った。
【三重県・水谷順一郎さん・小売業・33歳】

●五味選手、美濃輪選手に会いました!
握手会で五味選手、美濃輪選手に会いました。五味選手はシャイで目を合わせてくれませんでしたが、美濃輪選手にはガン見されました。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

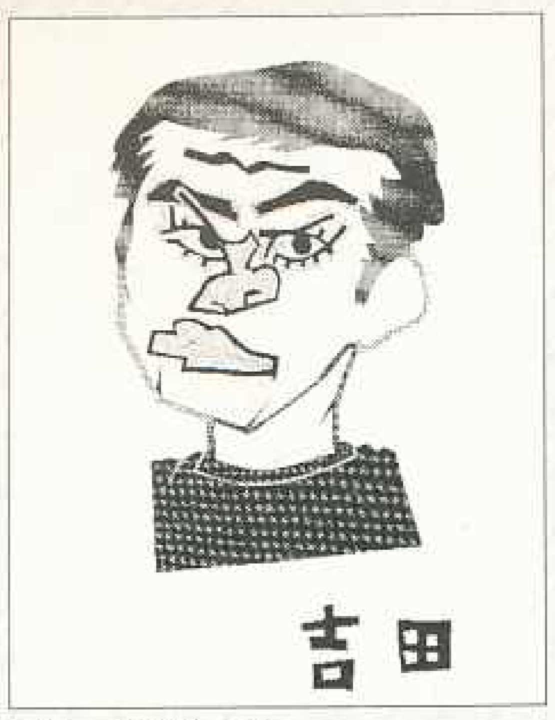




●長南亮選手に会いました!
自分は新聞記者をやっているのですが、取材で一度お会いしたことがあります。地元の山形県鶴岡市で



長野県・市川学さん・作家志望・27歳
➲12月2日パンクラスでプロデビューが決定していた話題の坂口征夫選手ですが、欠場になりましたね。これは、深読みすべき何かがあるのか!?



埼玉県・大崎洋二さん
➲昨年の大晦日ではオーちゃんとの大勝負がありましたが、今年はいったい誰と闘うのか。今年もvsオーちゃんとかはどうでしょう？ "柔道好き" vs "ハッスル！ ハッスル！"



シンペイタナカさん
➲次回、2月開催予定の『PRIDE』ラスベガス大会では、ヴァンダレイはもちろん、ミルコも登場ということになるのか？ いや、その前に大晦日があるぞ!!



埼玉県・稲葉聡さん
➲タイトルマッチといえば、次期挑戦者はやっぱり三崎選手になるのか？ そうすると三度目になるけど、どーですか、お客さん？

スクープ！ ザ・目撃!!

●**代々木駅前の交差点**付近を歩いていると、うしろから**「ラーメンにする？ 定食にする？」「任せるわ」**というごく平凡な会話が聞こえてきました。しかし、振り向くとそれはパンクラスの**近藤有己**と**レフェリーの梅木さん**。おおっ！ と思い、声をかけようとも思いましたが、せっかく二人で話しているのでそっとしておこうと信号を渡ろうとしたその瞬間！ なんと今度は**高瀬大樹**が向こうから歩いてくるではありませんか。これはもう何かに取りつかれているとしか思えない一日でした。
【東京都・職場は代々木さん・29歳】

●先月、**日本武道館で行なわれたWWE**に僕も行ってきました！ 僕が行ったのは二日目の10月19日。会場に入って観戦していると、僕のすぐ近くの席になんと**"カッキー"こと垣原賢人さんが家族連れで**座っていました!! 垣原一家は売店で買ったと思われる**おにぎり弁当を食べながら**、ワイワイ観戦していました。UWFインター時代から見ていたので、めちゃめちゃ嬉しかったです!!
【千葉県・クワガタムシさん】



●あれは忘れもしません、10月25日。都内の**西武信用金庫**で僕は**高木三四郎さんを発見**しました！ なんで僕がそれを覚えているかというと、その日の『kamipro Hand』の『インディー・サミット』の記事で高木三四郎さんがちょうど**「年末は資金繰りで忙しい」**という話をしており、ミックエンターテインメントの佐々木康隆さんに「『社長ランブル』をやるんだったら**賞金100万円を用意しろ！**」と怒っていたからです。この日、高木さんはきっと資金繰りをしていたんだろうなと思うと、非常に劇的な目撃だったんだなと思えました。
【東京都・株主総会さん・32歳】

●もう、ちょっと前のことですが、**JR新宿駅**で**アメージングコング**さんを見かけました。アメージングコングさんは、**自分より大きい黒人女性**と一緒に歩いていましたが、よくよく考えると、あれは**アフリカ55**さんだったのかな……。それにしても、二人とも異様なオーラを放っていたのでめちゃめちゃ目立ちました。
【埼玉県・鳥越さん・28歳】



kamipro初！ メカが相談役に!!

メカマミーの人生相談

さあ、今回の人生相談もさっそくメカマミーさんにぶつけてみましょう！ 今回はなんなんなあに？ おっと、プロレス大賞に関するお悩みのようですね。では、どんどん相談いたしましょー。

プロレス大賞を教えてください

お悩みごと

■愛知県・メカ次郎さん・23歳・（23歳・フリーター）

メカマミーさん、はじめまして。インディー好きのメカ次郎といいます（FU★CK！もほぼ毎大会観戦しています）。相談というか、今年のプロレス大賞をメカマミーさんはどう占いますか？ 一部ではMVPはメカマミーさんと闘った鈴木みのるかNOAHの丸藤正道のどちらかなんて、すでに決まったかのような報道がされていますが、インディー好きのボク的には『どうかなぁ？』というのが正直なところです。ただ、新人賞はブッチギリでメカマミーさんだと思っています。元インディー好きのメカマミーさんが考える2006年のプロレス大賞をこっそり教えてください！

メカマミー

プロレス大賞？ この世の中、まだそんなものに惑わされている者がいたとはな。それもおろかな人間が考えることだから仕方がないのか。まあ、いい。オレが教えてやろう。おそらくメカ的にはこの線が濃厚だ。

2006年度 プロレス大賞

MVP 沢尻エリカ
年間最高試合賞 沢尻エリカvsメカマミー
最優秀タッグチーム賞 メカマミー＆メカマミーLite組
殊勲賞 長澤まさみ
敢闘賞 ディープインパクト
技能賞 メカマミー博士
新人賞 のじりくん（FU★CK！）
話題賞 沢尻エリカ
女子プロレス大賞 真琴（アイスリボン）

今年はメカ、インディー界含めてなかなかスターが出なかった年だ。その中で沢尻エリカがMVPなのは、まあ、しょうがないことだな。彼女はアイドルグループ「沢尻会」を率いる芸能界の新進気鋭のアイドル界のボスであり、彼女と長澤まさみをめぐる遺恨劇は充分プロレスだったとオレは思っている。殊勲賞の長澤まさみは2007年度の躍進が期待される。巨乳をカミングアウトすればMVPも夢ではないだろう。敢闘賞は薬物検査で引っかかったディープインパクト。メカながら、薬物に頼ってまで敢闘する姿勢に心を打たれました。……しかし、オレはやっぱりメカとしてマット界には"活"を入れたいな。ん？ オレがMVPじゃないのかって？ フフフフ……。そんな野暮なことはオレにはできない。メカにだって美意識がある。そういう意味でも、やはりMVPは沢尻エリカしかいない！

※人生相談ドシドシ送ってください。メールでもハガキでも可。宛先は左記参照。
メカマミーの近況＝10月14日『アイスリボン』vs真琴戦、真琴＆チェリー戦でメカマミーが完勝！ メカ、万歳!!

インタビューする約束をしていたのですが、土地勘がなく道に迷っている私を電話でナビしてくれ、さらには建物の外で待っていてくれました。苦労人は違うな～と感じた出来事でした。
【宮城県・加藤敦さん・新聞記者・35歳】

●**アントニオ猪木さんに会いました！**
トークショーに行ったときにお見かけしました。特別ゲストとして春一番が来ました。猪木さんは糖尿病の話をしてくれました。
【石川県・浅井清治さん・会社員・34歳】

●**大木金太郎さんに会いました！**
昨年の3月、大木金太郎さんのお見舞いのために韓国の病院に行ったことがあります。そのとき、大木さんはいままで闘った中で一番強かったのはルー・テーズさんだと言っていました。さらに、病室に過去の試合の写真がいっぱい飾ってあったのですが、一番大きな写真は昭和49年10月の猪木戦でした。亡くなられて非常に残念です。
【神奈川県・佐々木学さん・会社員・41歳】

●**江頭2:50に会いました！**
昔、長崎大学の学園祭で江頭2:50が大暴れするのをわざわざ山口から見に行きました。妹と二人で興味本位に見に行ったのですが、江頭さんは僕たちの前で、なんと全裸になってしまう始末。まだ若かった僕と妹は、帰りの電車で非常に気まずくなり、ひと言も会話を交わせませんでした。でも、僕は江頭さんが大好きです！
【山口県さん・ハト新沼・会社員・30歳】

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！ お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

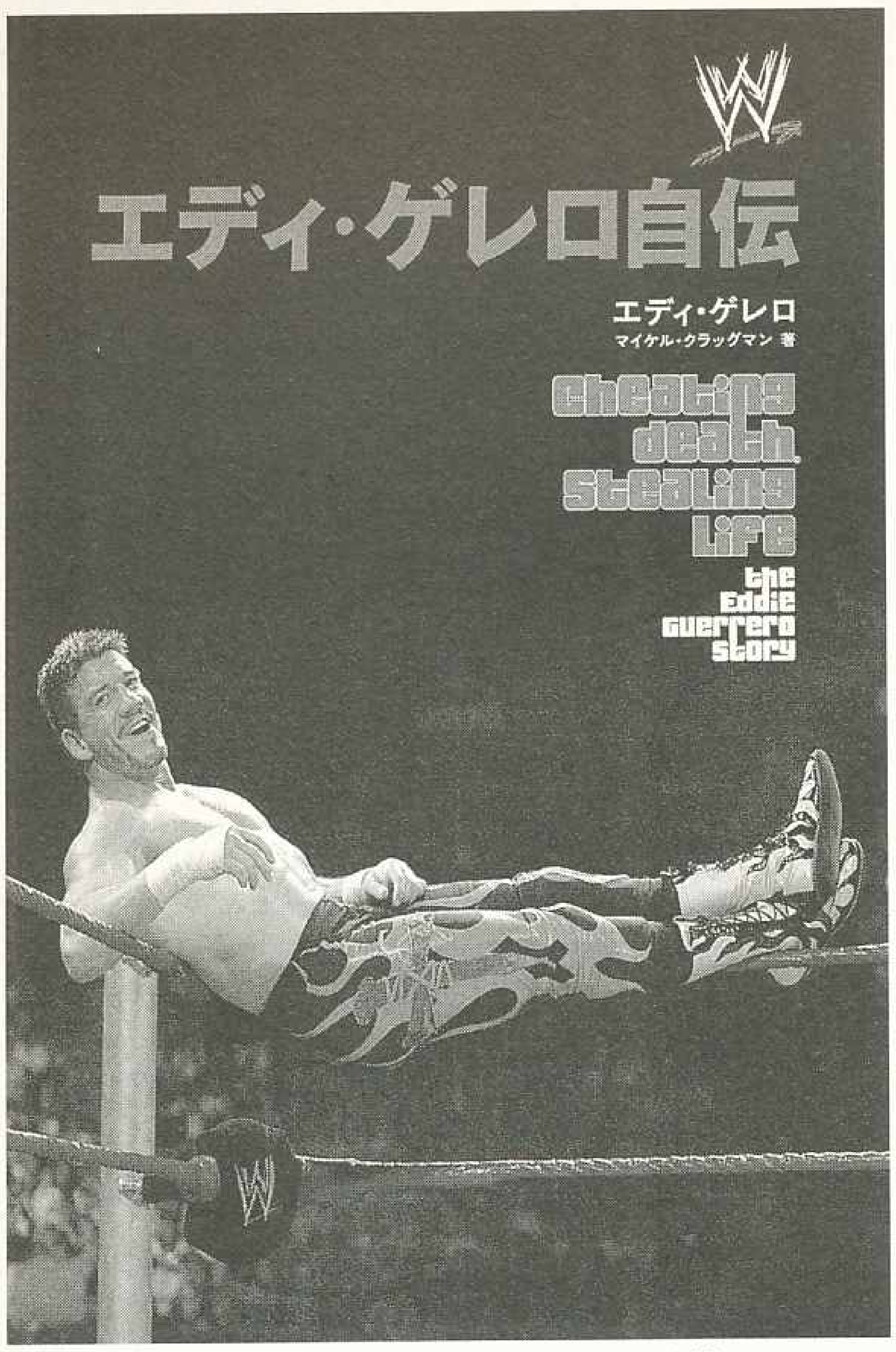
●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先＆メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部 「監禁」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。



ついにきた!
パート2
絶賛制作中!!
吉田豪の
セメント!!
スーパースター列伝
ストロング小林
田代まさし
猪木快守
イーデス・ハンソン
阿修羅原
鶴見五郎
サムソン・クツワダ
康芳夫
倉持隆夫
田中健一
小川宏
パート1
kamipro終身名誉アドバイザー
吉田豪
セメントインタビュー
11連発
必読! プロレス
インタビュー本の
最濃傑作!
驚ガクの全344ページ!!
プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー——数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは“下調べの鬼”が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ!
全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判 344ページ
定価=1890円(本体1800円+税)
enterbrain
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
TEL.0570-060-555(代表)
[通信販売のお問い合わせ先]
http://www.enterbrain.co.jp/
吉田にニラまれたら、
生きてる心地がしない。
リリー・フランキー

ラティーノ・ヒートの生き様がこの一冊に凝縮!



四六判ハードカバー　432ページ　定価＝2520円(本体2400円＋税)

"遺作"となった自伝の日本語訳版、ついに発刊!!

エディ・ゲレロ自伝

エディ・ゲレロ
マイケル・クラッグマン 著

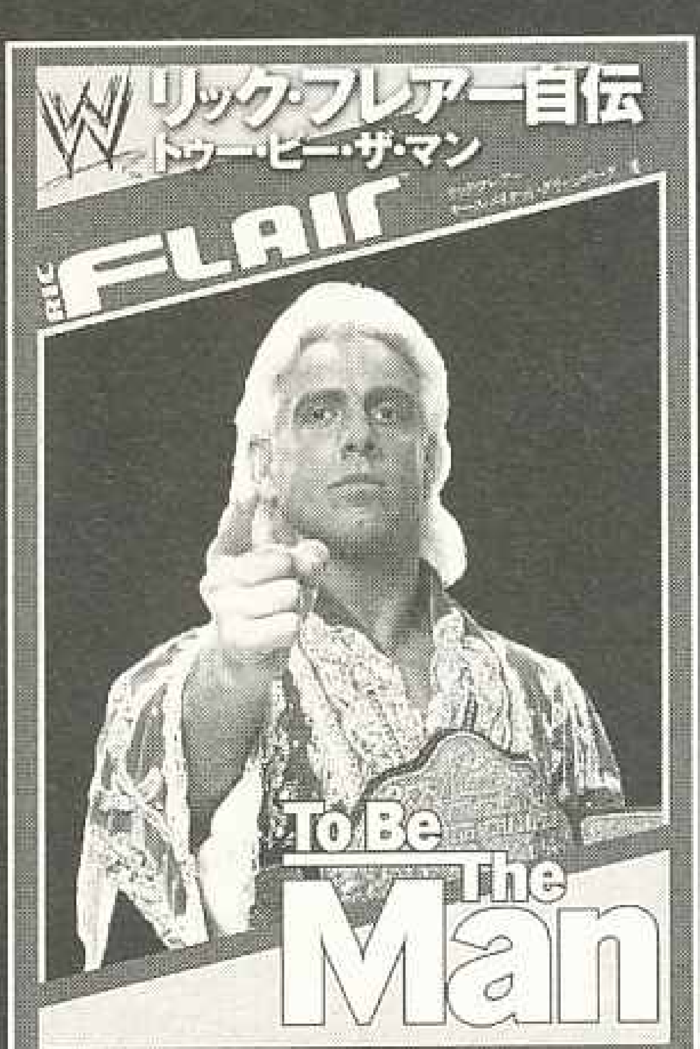
2005年11月13日、米ミネアポリスのホテルの一室で急死。38歳という若さでこの世を去ったWWEスーパースター、エディ・ゲレロ。本書は処女作にして"遺作"となったラティーノ・ヒートの壮絶な自伝である。
ルチャ・リブレの伝説である偉大なレスラーを父に持ち、名門一家の出であるがゆえに期待が重荷になった。メジャー団体のリングに上がり、やがてそのプレッシャーから酒とドラッグに溺れるようになる。
この自伝はひとりの非凡なレスラーが陥ってしまった地獄絵図と、そこから這い上がる勇気を一切隠すことなく明かした衝撃の書だ!

酒とドラッグと愛と勇気の壮絶人生!
全国書店にて"ビバ・ラ・ラッサ!"で絶賛発売中!!

TAJIRI推薦!「オレは知っている。夢を持てない野郎だろうと、過去に振り回されている野郎だろうと、ニートだろうと、ろくでなしだろうと、エディの生き様を真似してみれば、きっとおまえの人生に、希望の光が射してくるであろうことを」

好評既刊!　エンターブレインの海外レスラー自伝シリーズ

30年間"最高の男"に君臨してきた過激な人生!!



リック・フレアー自伝
トゥー・ビー・ザ・マン To Be The Man
リック・フレアー
キース・エリオット・グリーンバーグ 著
四六判ハードカバー　504ページ　定価＝2625円(本体2500円＋税)

"プロレス"に魅せられた"レジェンド"の激白!



テリー・ファンク自伝
人生は超ハードコア!
テリー・ファンク
スコット・E・ウィリアムス 著
四六判ハードカバー　500ページ　定価＝2520円(本体2400円＋税)

リングの上だけでなく人生のすべてがまさにキング!



ハーリー・レイス自伝
キング・オブ・ザ・リング
ハーリー・レイス
ジェリー・トリッツ 著
四六判ハードカバー　328ページ　定価＝2520円(本体2400円＋税)

eb! enterbrain　株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)■通信販売のお問い合わせ先　http://www.enterbrain.co.jp/

マット界の日程と情報が、友情パワーでマッスルドッキング!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

全日本プロレスの『世界最強タッグ』の季節がやってきました。去年はチーム3Dがぶっちぎりの強さで全勝優勝。今年の優勝候補はテンコジ、武藤&川田組といったところでしょうか。ザ・ファンクス、ハンセン&ブロディ組、鶴田&天龍組、ウィリアムス&ゴディ組など名タッグを輩出した同大会。ちなみに妙に僕の記憶に残っているタッグは、ラ・パルカ・オリジナル&パルカ・ゲレーラ組です（※03年大会に出場し、6戦全敗）。担当は辻ちゃんでした。

Fight & Event 11 November

22 WED.

◆全日本／茨城・水戸市民体育館（18:30）
◆El Dorado／東京・新宿FACE（19:00）
◆J-NETWORK／東京・後楽園ホール（17:00）
◆押忍闘夢／東京・新木場1st RING（19:30）

23 THU.

所、小谷、レミーガ、勝村……
ZST4周年記念興行はオールスターが勢揃い!



ZST『ZST.11』
東京・ディファ有明（17:30）

決定対戦カード
【フェザー級シングルマッチ】
勝村周一郎 vs 今泉堅太郎
【ライト級グラップリングマッチ（GT-Fルール）】
矢野卓見 vs フーベンス・シャーレス
【ウェルター級シングルマッチ】
伊藤博之 vs 奥出雅之
その他、数試合を予定
出場予定選手
所英男、小谷直之、レミギウス・モリカビュチス、バレット・ヨシダ
チケット情報
VIP=15,000円、SRS=8,000円、S=6,000円、A=4,000円（全席種当日500円増）
プレイガイド
チケットぴあ 03-5237-9999［Pコード 594-770］
◎問＝ZST事務局 03-5388-0808

◆ハッスル／神奈川・横浜アリーナ（17:00）
◆ZST／東京・ディファ有明（17:30）
◆NJKF／東京・後楽園ホール（17:00）
◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆NOAH／岩手・サンレック北上（17:00）
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第1競技場（17:30）
◆大阪プロ／東京・新宿FACE（12:30）
◆DDT／東京・新宿FACE（19:00）
◆FTO／大分・イベントホール（18:00）
◆THE WOMAN／東京・新木場1st RING（18:00）

24 FRI.

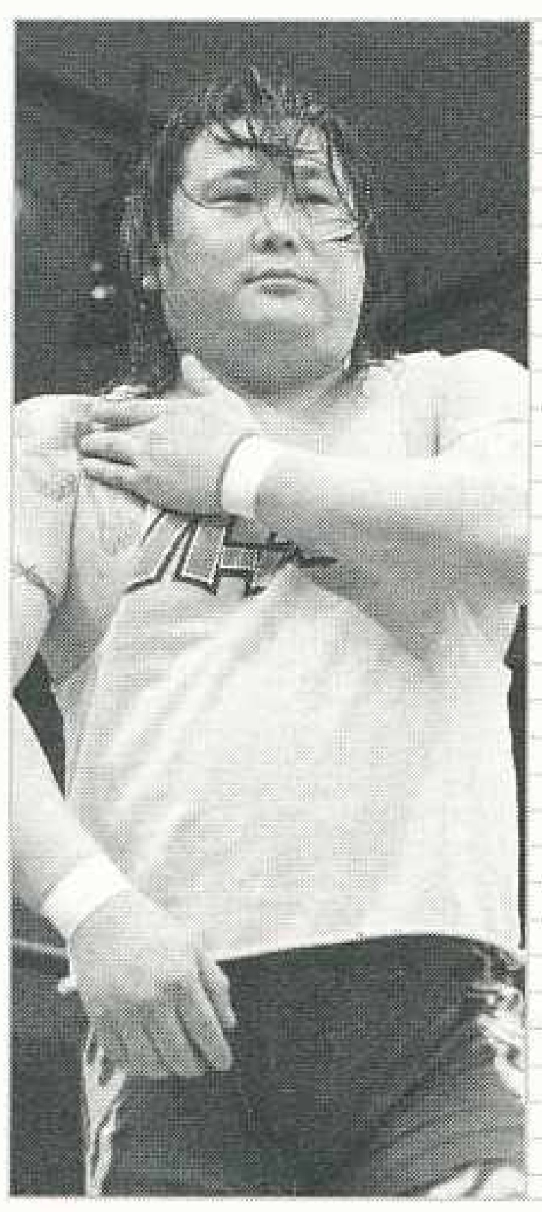
◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール（19:00）
◆全日本／千葉・千葉公園体育館（18:30）

25 SAT.

◆CAGE FORCE／東京・ディファ有明（17:00）
◆新日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆NOAH／北海道・札幌STVスピカ（17:00）
◆DRAGON GATE／岡山・倉敷市山陽ハイツ体育館（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
◆BRAVES／東京・西調布格闘技アリーナ（18:30）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（18:30）
◆ニュー全日本女子／栃木・鹿沼総合体育館サブアリーナ（18:30）

26 SUN.

試合はもちろん、フリマ、上映会まで!
アパッチがファン感謝イベント開催



アパッチプロレス軍『アパッチファン感謝DAY～ピンチはチャンス～』
東京・新木場1st RING（16:30）

【第一部】
16:30～18:00
フリーマーケット、アパッチ激闘史上映会
【第二部】
18:30～20:00
【ハードコア6人タッグデスマッチ】
金村キンタロー&黒田哲広&マンモス佐々木 vs 葛西純&本間朋晃&GENTARO
【BLTデスマッチ】
佐々木貴 vs BBH
【シングルマッチ】
Hi69 vs 未定
【シングルマッチ】
新宿鮫 vs 橋本友彦
【第三部】
試合終了後～21:30
復活！　クラブアパッチ
チケット情報
全席自由＝4,000円（※ドリンク・フード代は別途）
プレイガイド
チケットぴあ 0570-02-9944［Pコード 594-210］
◎問＝アパッチプロレス軍 03-5610-2609

◆新日本／神奈川・藤沢市秋葉台文化体育会館（18:30）
◆全日本／京都・京都KBSホール（17:00）
◆NOAH／北海道・札幌STVスピカ（16:00）
◆ZERO1・MAX／埼玉・本川越ペペホールアトラス（16:00）
◆バトラーツ／埼玉・越谷市桂スタジオ（17:00）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00 & 16:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
◆DRAGON GATE／香川・高松シンボルタワー1F展示場（17:00）
◆下町プロレス／東京・浅草インディーズアリーナ（時間未定）
◆JWP／東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
◆NEO／東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
◆修斗／愛知・Zepp Nagoya（15:00）
◆R.I.S.E.／東京・ゴールドジム大森（17:30）
◆ANGEL'S／東京・伊原道場（時間未定）
◆NKB／東京・ディファ有明（15:30）

27 MON.

◆大日本／東京・後楽園ホール（19:00）
◆ZERO1・MAX／福島・いわき市総合体育館サブアリーナ（18:30）
◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）

28 TUE.

◆全日本／新潟・長岡市厚生会館（18:30）
◆NOAH／秋田・秋田市立体育館サブアリーナ（18:30）
◆DRAGON GATE／滋賀・滋賀県立文化産業交流会館（18:30）

29 WED.

元・我闘姑娘、市井舞が総合初挑戦!
大室と吉田がパウンドありルールで再戦

◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆WMF／東京・新木場1st RING（19:00）
◆橋本友彦自主興行／新木場1st RING（25:00）
◆ClubDEEP／東京・新宿FACE(13:30&18:00)

10 SUN.

◆NOAH／東京・日本武道館（17:00）
◆新日本／愛知・愛知県体育館（18:00）
◆パンクラス／東京・ディファ有明（16:00）
◆DRAGON GATE／愛知・名古屋国際会議場(16:00)
◆K-DOJO／東京・後楽園ホール（12:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆NEO／東京・板橋区赤塚公会堂（14:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（13:00）
◆新日本キック／東京・後楽園ホール（17:00）
◆J-NETWORK／東京・ゴールドジム大森(16:00)
◆DEMOLISION／東京・新木場1st RING(17:30)
◆かきだみし(キックボクシング興行)／沖縄・CLUB ECHO(15:00)

12 TUE.

◆リアルジャパン／東京・後楽園ホール(18:30)
◆JWP／東京・板橋区グリーンホール(19:00)

13 WED.

◆大日本／福井・福井市体育館（18:30）

14 THU.

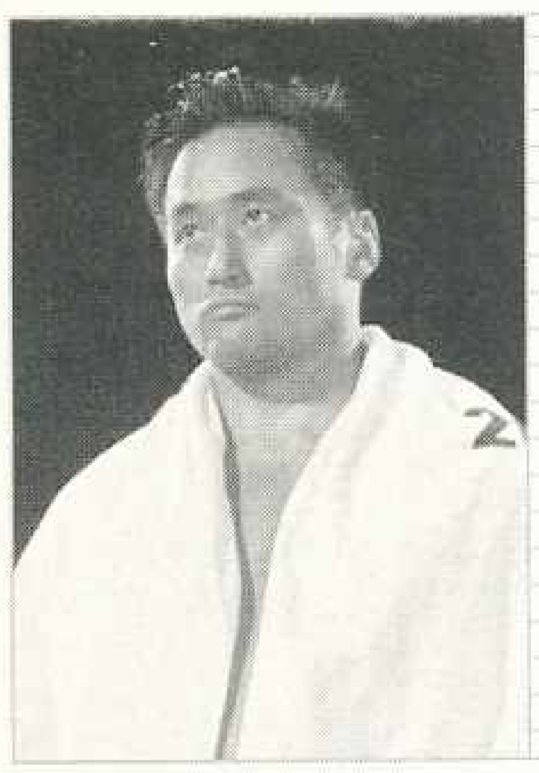
◆びっくりプロレス／東京・後楽園ホール(19:00)

16 SAT.

◆DRAGON GATE／岐阜・岐阜商工会議所大ホール（18:30）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

17 SUN.

駅弁固めよ永遠なれ……
チョコさん、お疲れさまでした！



チョコボール向井引退興行
『ダブルインパクト』
東京・
新宿FACE
(19:00)

決定対戦カード
チョコボール向井&マンモス佐々木 vs 石川雄規&竜司ウォルターズ
加藤鷹 vs ゴージャス松野
その他、数試合を予定

チケット情報
指定席＝5,000円
スタンディング＝4,000円
◎問＝大会事務局 03-3765-5801

◆みちのく／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DRAGON GATE／兵庫・明石市立産業交流センター（17:00）
◆DDT／新潟・新潟フェイズ（15:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
◆WMF／愛知・豊橋市総合体育館（15:30）
◆K-DOJO／千葉・Blue Field（13:00&16:30）
◆息吹／東京・新宿FACE（12:00）
◆ZST／東京・大森ゴールドジム（17:00）
◆R.I.S.E.／東京・ディファ有明（16:00）
◆POWER GATE／大阪・フラミンゴ・ジ・アルージャ（17:00）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

3 SUN.

地元・前橋で大暴れの予感……
ヨッシーが凱旋！



無我ワールドプロレスリング
『吉江豊 ふるさと祭り』
群馬・
前橋グリーンドーム
サブイベントエリア
(18:00)

チケット情報
SS席＝7,000円、A席＝6,000円、B席＝4,000円
プレイガイド
チケットぴあ 0570-02-9999[Pコード 594-320]
ローソンチケット 0570-084-003[Lコード 34927]
チケット取扱店
【前橋市】
ホシノスポーツ前橋店 027-221-2222、ホシノスポーツ東部店 027-243-2293、イソベスポーツ 027-231-8277、ラッキースポーツ027-232-2388
【高崎市】
ホシノスポーツ 027-325-2222、ホシノスポーツバイパス店 027-363-2202、美津和スポーツ 027-323-4847
◎問＝無我ワールドプロレスリング 03-3402-2474

◆大日本／神奈川・横浜文化体育館（15:00）
◆上井ステーション／東京・後楽園ホール(12:00)
◆新日本／徳島・鳴門市市民会館（17:00）
◆ZERO・SUN NEXUS／埼玉・越谷市桂スタジオ（15:00）
◆DDT／愛知・名古屋市中村スポーツセンター(13:30)
◆DRAGON GATE／北海道・札幌テイセンホール（14:30）
◆フーテンプロモーション／東京・北沢タウンホール（17:00）
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆北都／北海道・札幌レンガの館ホール(18:00)
◆仙台ガールズ／宮城・Zepp Sendai（15:00）
◆JDスター／東京・新木場1st RING（13:00）
◆MA日本キック／東京・ディファ有明（16:00）
◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール(18:00)

4 MON.

◆アイスリボン軍／東京・千本桜ホール(17:00&19:30)

5 TUE.

◆新日本／愛媛・テクスポート今治（18:30）
◆ZERO1・MAX／埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
◆アリスリボン軍／東京・千本桜ホール(17:00&19:30)

6 WED.

◆ZERO1・MAX／岐阜・高山マウントエース(18:30)
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）

7 THU.

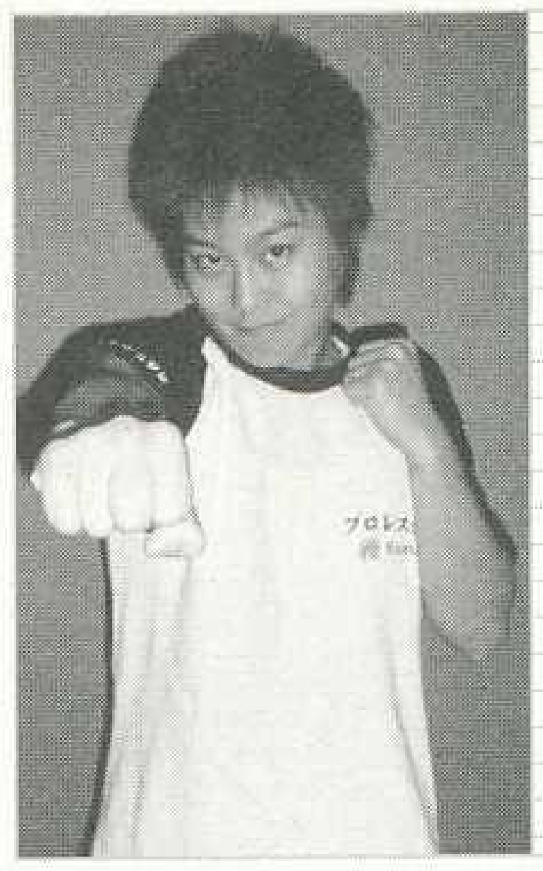
◆新日本／大阪・大阪市中央公会堂（18:30）
◆ZERO1・MAX／岐阜・多治見市セラミックパークMINO（18:30）

8 FRI.

◆WRESTLE LAND／大阪・大阪市中央公会堂(18:30)
◆ZERO1・MAX／長野・長野運動公園総合体育館（19:00）
◆大日本／愛知・名古屋市体育館（18:30）
◆全日本キック(藤原祭り)／東京・後楽園ホール(18:30)
◆NEO／長野・佐久創造館（18:30）

9 SAT.

◆新日本／石川・石川県産業展示館3号館(18:00)



SMACK GIRL
『SMACK GIRL 2006〜極女伝説〜』
東京・
後楽園ホール
(18:30)

決定対戦カード
【フライ級5分2R】※グラウンドの時間制限なし。パウンドあり
大室奈緒子 vs 吉田正子
【フライ級5分2R】
瀧本美咲 vs リサ・ワード
【ミドル級5分2R】
瑞貴代 vs 森藤美樹
【53kg以下級契約5分2R】
市井舞 vs 藤野恵美
その他、berry15(ベリーイチゴ)の引退セレモニーあり
チケット情報
SRS＝10,000円、RS指定席＝7,000円、A席＝5,000円、B席＝3,000円(※全席種当日500円増)
プレイガイド
チケットぴあ 0570-02-9999[Pコード 594-760]
後楽園ホール 03-5800-9999、フィットネスショップ水道橋 03-3265-4646、東京イサミ 03-3352-4083、秋葉原BACKDROP 03-3255-8701書泉ブックマート 03-3294-0011、LUTADOR FIGHT 03-3382-3205、レッスル池袋 03-3989-0056、UPPER LIFE 03-3530-3315
◎問＝株式会社キルゴア／スマックガール実行委員会 03-3331-7426

◆新日本／青森・八戸市体育館（19:00）
◆全日本／富山・富山テクノホール（18:30）
◆NOAH／宮城・仙台サンプラザホール(18:30)
◆DDT／東京・新木場1st RING（19:30）

30 THU.

◆ZERO1・MAX／福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ（18:30）
◆北都／北海道・北見市常呂町スポーツセンター(18:00)
◆修斗／東京・北沢タウンホール（18:00）

Fight&Event December 12

1 FRI.

◆全日本／愛知・名古屋国際会議場（18:30）
◆SUPER CREW／東京・新木場1st RING(19:00)

2 SAT.

◆K-1／東京・東京ドーム（17:00）
◆NOAH／神奈川・横浜文化体育館（18:00）
◆全日本／静岡・浜松市体育館（18:00）
◆新日本／京都・京都市体育館（18:00）
◆DRAGON GATE／北海道・札幌テイセンホール（18:30）
◆華☆激／福岡・さざんぴあ博多多目的ホール(18:30)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆北都／北海道・檜山郡上ノ国町小学校体育館(19:00)
◆パンクラス／東京・ディファ有明（18:00）
◆修斗／東京・新宿FACE（18:00）

団体INDEX（50音順及び アルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■我闘姑娘
03-3524-1071
〒104-0061 東京都中央区銀座4-14-17渡辺ビル4F
JNT事務局内
http://www.gtkn.com

■キングスロード
03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-5-11-605
http://www.kings-road.jp

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531（PRIDE）
03-5464-1731（ハッスル）
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com
http://www.hustlehustle.com

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ
nanaracka.or.tv/blog

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP：http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GIRLS DOOR
0462-63-2323
〒242-0029 神奈川県大和市上草柳94-3コンフォート緑野104
株式会社EWF

■G-SHOOTO
03-5380-3295
〒165-0026
東京都中野区新井1-3-6 セントラルパレス中野202

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■UFO
0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193－11
http://www.hiromitsu-kanehara.com

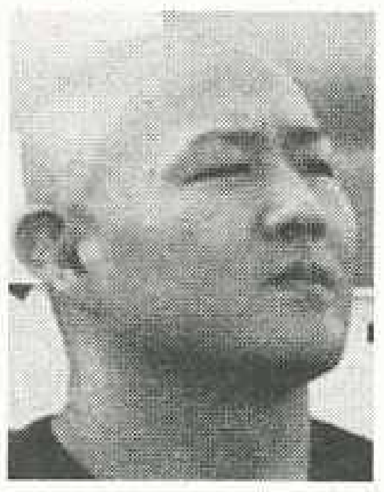
■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WWS
0270-24-8991
〒372-0812 群馬県伊勢崎市連取町1669-2 グリーン・シティ・マンション103号

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

Event
トークもやって、カクテルも作る!
アレクが猫ひろしとコラボイベント



年に何度かプロレスラーや格闘家を招いてイベントを行なっている栃木県宇都宮市（春日町13-8）のスポーツcafe Round87が、アレクサンダー大塚選手の『ランパチ☆ナイトvol.12』を開催。日時は11月25日(土)。料金は前売り1,500円、当日2,000円。17時～18時30分を第一幕として、アレク臨時店長がオリジナルカクテルをお客さんにご馳走。20時からは第二幕として、猫ひろしさんとトークイベントという内容になっている。

★問 スポーツcafe Round 028-615-0870

Tour
ビバ、メヒコ!
飯伏幸太&田島久丸と闘龍門を観に行こう



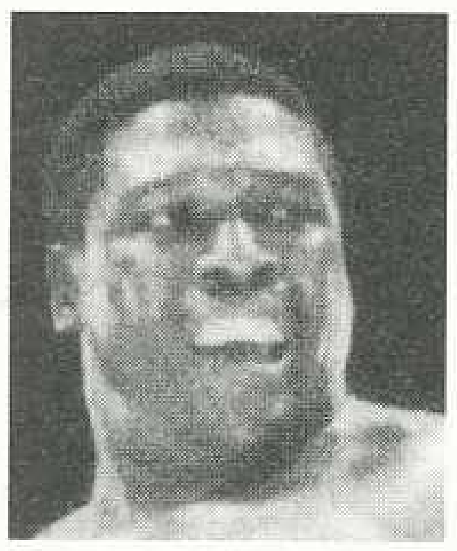
DDTの飯伏幸太と田島久丸が参戦する闘龍門MEXICO自主興行の観戦ツアーが実施される。日程は12月7日～12日まで。料金は19万8,000円（ローン利用可能）。8日はメキシコ市内観光、EMLL観戦。9日はルチャ（CMLLなど）観戦、お部屋訪問。10日は闘龍門自主興行観戦、打ち上げパーティが組まれている。申し込みは近畿日本ツーリスト東京イベント・コンベンション店（03-3263-5581 担当＝国武、百瀬、松隈）まで。

Televison
東海地区にプロレスLOVEを大放出!
武藤の名前が冠につく深夜番組がスタート



全日本プロレスの社長であり、トップレスラーとしても活躍する武藤敬司が、『武藤敬司のスポーツ大百科』（11月10日から毎週金曜深夜1時30分～2時、東海テレビで放送）のMCを務めることが発表された。同番組はあらゆるスポーツにタレントが挑戦し、史上最強のスポーツ大百科を編集していくという内容になっている。編集長にはもちろん武藤が就任。秘書としてタレントの優木まおみ、セミレギュラーとして神奈月が出演する。全日本の試合映像も流れるので、お楽しみに！

Obituary
ショック……元WBCヘビー級王者
トレバー・バービックが遺体で発見される



ジャマイカ生まれ、カナダ国籍の元プロボクサー、トレバー・バービック氏が10月28日、ジャマイカ・ポートランドの教会の中庭で遺体で発見された。享年52。死因は頭部を斧で殴打されたと見られており、すでに容疑者は逮捕されている。同氏は85年にWBCヘビー級王者となったが、翌年、マイク・タイソンに敗れ、王座から陥落。91年12月には両国国技館で高田延彦と異種格闘技戦ルールで対戦し、1R、試合放棄により敗れている。同氏は03年に窃盗容疑で逮捕されており、近年もトラブルが絶えなかったという。

Show
プロレスラーが漫才、コントに挑戦
林リングドクターがお笑いショーを開催



12月28日（木）、東京・シアターVアカサカで19時に開始されるイベント・『ファイティングバラエティショウープロレスの逆襲ー』をリングドクターの林督元氏がプロデュースすることが電撃決定した。同イベントでは、吉江豊や邪道&外道、ディック東郷らプロレスラー、タイガー服部といったレフェリーたちが漫才やコントに挑戦。その他、強豪レスラーの参戦も予定しているという。チケット料金は全席指定で3,500円となっている。

★問 ファイティングバラエティショウ運営事務局 03-3686-7003

Recruit
三又と西口がプロレスで全面戦争
お笑いライブが観たけりゃ新宿FACEまでらっしゃい!



三又忠久、ケンドーコバヤシ、ユリオカ超特Q、ハチミツ二郎らが出演するお笑いライブ『ギブUPまで待てない!! リターンズ vol.2』が12月16日（土）、19時30分から東京・新宿FACEで行なわれる。同イベントでは三又プロレス軍団 vs 西口プロレス軍団の全面戦争や春一番、神奈月、猫ひろし等の出演も決定。さらに大物現役レスラーXの参戦も予定している。チケット料金は前売り3,000円、当日3,500円。

★問 マジックファクトリー 03-3774-8655
協力 ファイティングカフェ・コロッセオ

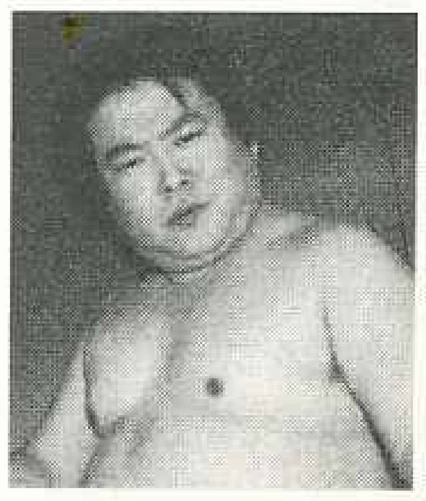
Recruit
格闘技&料理が得意な人、大歓迎!
水道橋・コロッセオがスタッフを緊急募集!



プロレス・格闘技の映像を見ながら食事を楽しめるお店・ファイティングカフェ・コロッセオ（東京都千代田区三崎町3-7-13 田中ビルB1）が、リニューアルに伴ない、ホールスタッフ、キッチンスタッフを募集する。年齢は20歳～30歳位まで。時給は1,000円以上（随時昇給）。交通費支給。社員登用あり。勤務時間は16:30～24:00、時間・曜日等応相談。面接は同店まで電話で連絡後、履歴書（写真貼）持参で行なわれる。

★問 ファイティングカフェ・コロッセオ 担当=大森 03-3512-0522

Exercise
いまなら入門金1,000円!
DEEP道場『IMPACT』秋のキャンペーン実施中

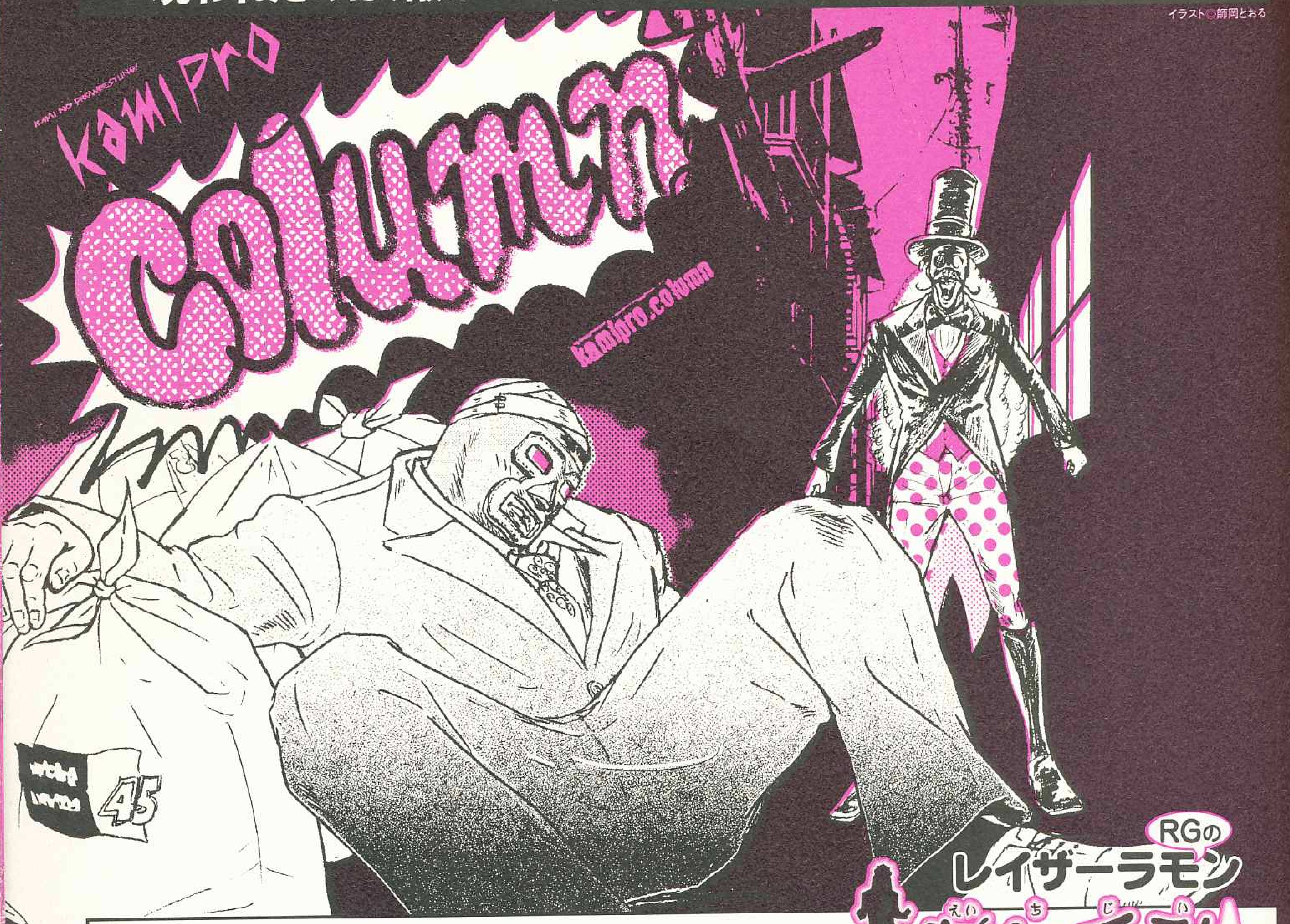


「食欲の秋だから太らないように運動しよう!」（佐伯繁代表が鼻息荒く）とDEEP道場『IMPACT』がキャンペーンを実施。11月30日（木）まではなんと1,000円で入会できる。さらに女性は2ヵ月、男性は1ヵ月の月会費が無料! しかもインストラクターは長南、今成、滑川といった有名格闘家たち。これは入るしかないでしょう!

★問 DEEP道場『IMPACT』 03-5348-6977

現われたのは、敵か？ 味方か？ 疾風怒涛！ kamiproコラム!!

イラスト◎師岡とおる



RGのレイザーラモン英知自慰（えいちじい）

第14回 RG、東大一直線!? 受験は格闘技だヨウ!

イラスト◎出渕誠

どうもー！「RGはリアル（R）にガンバル（G）の略」（by『週プロ』）でお馴染みRGでーす。

とうとう先日の『ハッスル20』（名古屋大会）では金村選手たちとハードコア戦までやってしまい、これからどんな試合が組まれるか本当に怖い……。あくまで僕は芸人、HGは特別なんですよ〜。

そう、僕の本職は芸人！ そして、いまテレビ東京系の『ド短期ツメコミ教育 豪腕！コーチング!!』（毎週月曜夜8時54分より放送中）という番組の企画で、今年、東大受験をすることになっている僕は、〝芸人兼、レスラー兼、受験生〟なんです。もう三足のわらじを無理矢理履いてますヨ〜！

毎日、10時間近く勉強また勉強！ 受験生にまじっての模試！ カバンには常にRG衣装と参考書！ そして現役東大生が勉強をビッシビシ鍛えてくれています。

たとえば数学の問題をやりすぎてぼろぼろになっていても、「まだやれるよね？ それ本気の力？」とコーチ。

「はい……」

「本気で解いてみて！」

「……（タラダラと何か書くフリ）」

「それが、本気かって言ってんだよォ!!」

とコーチに追い込まれて追い込まれて、やっと一問解けると、

「できるじゃん、これが〝本気の力〟ってやつだよ（ニコニコ）」

と、まるで初期修斗の合宿時の佐山聡ばりの猛烈指導！ もちろん先の割れた竹刀は持ってないですが……。このコーチ、僕が歯が立たない問題にボコボコにされても、バーリ・トゥード参戦時の骨法の堀辺師範ばりにいつまでもタオルを投げてくれない。腕を組んで睨みをきかせてます。

こんな感じで、ここ最近は「受験とは格闘技だ！」と実感する毎日です。日々出される問題とのガチンコスパーリング。お笑いはプロレスに通じるものがありますが、受験はどこか格闘技に通じるところがあるんでしょうか。

ん？ ……ということはかつて格闘技界で行なわれていた数々の修行が受験にも生かせるかもしれない！

そう、受験とは知識や解法のテクニックをできる限り頭に詰め込んで本番で一気に解き放つもの。その作業に膨大な時間と精神力を必要とするんです。

僕もいままで何度も睡魔と戦い、そして負けてきました。そんなとき、隣に黒崎健時先生がいたら……。藤原敏男先生がいたら……。きっと血尿が出るまで問題やらされるでしょう。でもね、それくらいの意気込みないときっと受からんのですよ！

やっぱり、行き着くところは「頭」であり「ハート」なんですよ。あの須藤元気選手も催眠の先生をセコンドにつけてたっていうし、先月のベニー・ユキーデインタビューでも催眠をやるって言ってたし。ヒクソンや船木やアニマル浜口がやってたヨガの「火の呼吸」もいわば精神面の強化ですよね。そう！ この厳しい受験戦争を勝ち抜くにはなにより強靭な精神力が重要なんですヨー！

というわけで、今回名前を出させてもらった格闘家の皆さま、もしRGが東大受かったら一緒に〝塾〟を開きませんか？「勉強はRGが！ 精神はベニー・ユキーデが教えます！」なんてどう？

誰も来ないヨー……。



Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）
HGを〝アレンジ〟した「ヨウヨウヨウー」をキメ言葉に活躍中だったが『ハッスル・ハウスvol・20』にてGM職から失脚！ 坂田新GMの補佐官へ転身。

第13回

PRIDEラスベガスにいたらしい……

花くまゆうさく リングの汁 ミニ

長かったが『PRIDE武士道』、家でのんびりPPV観戦で正解でした。まずは、ピットブル系の犬を見るように癒し効果を与えてくれる、なんだかかわいいパウロ・フィリオ。ヒクソンとこでチェックしてもらった安定感バツグンのマウント披露で完勝。しかし休憩時に流れたバックステージ映像で足ひきずってる……ケガしちゃったのかしら？　ちと不安になるが案の定その後……。

そして郷野。まず、はじめに出てきたDJ OZMAの気合い入ったダンスにちとグッときてしまった（その後のしゃべりは、長くてちとくどかったが）。そんでOZMAのコールで登場した郷野の姿に、感動しちゃった。

これまでの郷野ヒストリー（『トーナメント オブJ』のハイキック～ちと不遇だった修斗時代～SPEEDへのちいさなラブコール～後楽園史上、最もツボに入った伝説の応援「俺だけの郷野」～そしてパンクラスへ）を見てきてるからね。メジャー芸能人と絡むとこまでたどり着き、こうしてハレの舞台で踊る姿にグッときたわ。

衝撃的だったのは、前田（吉朗）秒殺負けでの女性レポーターのコメント「血管が浮き出てきたときの表情が凄い苦しそうだったんですけれどぉ、凄いカッコ良かったですぅ」。この瞬間、ズッコケたのは僕だけじゃないよね？

この日の五味の消極的な闘いにはガッカリしたね。あれを中村カズがやったら、大ブーイングじゃないの。誰も思い入れのない外国人があんなことしたら、ブーイング、プラス、イエローカードが出ると思うな。エース五味には、vs青木、vsメレンデス、vsハンセン、この3つは絶対実現してほしい。旬が過ぎないうちに、さっさと至急頼みますDSE。

それにしても6時間以上とは長すぎるね。五味が前に出る闘いして、KOするか、また一本負けすれば印象変わっていただろうけど。2時間半以内でちゃんと終わらせることをちゃんと意識してるZSTの考えを、少しは参考にしてほしいね、全団体には。

そのZSTだが、次のフーベンス・シャーレスvsヤノタク戦のグラップリングマッチが楽しみでしょうがない。現地点（11月8日）では、所とバレット（・ヨシダ）の相手が決まってないが、そのまま所vsバレットのグラップリングにしてくれないかな、と上原さんへ念を送っとこう。

グラップリングといえば、今月は海外でヒクソンの天才息子クロンvsビル・クーパーもあります。見てぇ～!!



Hanakuma Yusaku◎「デビルズ・リジェクト」「ホステル」「スネーク・フライト」「プレスリーvsミイラ男」と最近いい映画ばかりだね。

第10回

私だけが知っている“ロッポンギ・グレイシー”

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

つい先日、キーラ・グレイシーが柔術大会に出場するため来日しました。彼女のマネージメントをしていた私は、彼女に会うためにホテルの部屋を訪ねたのですが、運悪く彼女には会えませんでした。何度となく部屋のドアをノックしたのですが……。

あとになって彼女は、「ジェットラグのせいで部屋でずっと寝ていた……」と言うのですが、たぶんセミナーをほったらかして、どうやらマーシオ・フェイトーザと六本木に遊びに行っていたようなのです。

8月に『最強女王は誰だ!?　筋肉美女世界NO・1決定戦KUNOICHI2006』の撮影のために来日したときに、六本木は彼女が泊まっていたホテルから近いこともあって、連れて行ってくれとせがまれたのですが（キーラは六本木へ行ったことがありません）、ちょうど8・26『武士道』の翌日で私は疲れきっていたので「NO」と答えてました。今回が初の六本木でした。彼女に限らず外国人選手は六本木や夜の街が大好きなのです。

なかでも印象深いのは、4年前、リングスKOKでアンドレイ・コピィロフにまさかのヒザ十字で敗れた柔術世界王者カステロ・ブロンコ。彼はその試合で選手生命に関わる大ケガをヒザに負ったのですが、その夜、足を引きずりながら大阪の街をヘンゾ軍団と徘徊！　一緒に付き合わされた私も大変でしたが、そこまでして遊びたいブラジル軍団のために我慢しました（笑）。

念のため彼らの名誉のために言っておきますが、こういうこともたいして珍しいことではありません。それくらい外国人選手にとって、“夜のファイト”というのは重要な息抜きの場であるのです。

たとえばヴァンダレイは、試合当日の夜は自分の人気を確かめるため六本木に足を運んでいます。まあ、あくまで、シウバは六本木のドン・キホーテへ行ったと言いますが……（笑）。

そういえば、ちょっと前にあるボクシングチャンピオンが傷害事件で逮捕されましたが、その六本木の店にヴァンダレイがたまたま居合わせたことがあったそうです（飯田 崇人／A3 GYM ブログ参照）。殴り合い寸前の空気を察知したヴァンダレイは、セキュリティ役の飯田君に「俺が仲裁してやろうか？」と冷静に申し出たそうです（結局、店外で傷害事件に発展したそうですが）。ヴァンダレイ自身はあまり酒を飲むことはなく、飲んでも食前にワインをたしなむくらいなので、いつ何時冷静なのです。

最後に確信をもって言いますが、一番の六本木好きはヘンゾ・グレイシー一派です。クラウスレイとダニエル・グレイシーなどは、自ら「ロッポンギ・グレイシー」と名乗るほど！

ヘンゾ軍団くらいになると、六本木に繰り出した翌日は、朝帰りというよりほとんど昼帰り。それでも元気にホテルにご帰還。あるとき、その場に居合わせたケビン・ランデルマンから「俺のセコンドに付いてくれないか」と頼まれたら、まだアルコールがたくさん残っている酩酊状態で「OK！　OK！」と快諾していたことがありました。

そうそう、忘れてならないのは、最後のシメにセンスが見えるというか、江戸っ子というか。築地で寿司を食べて帰ってくるのが彼らの定番なのです（笑）。並の日本人より日本を知り尽くした遊び人なのでした。

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

金ちゃんのどこまでやるの？



イラスト◎中川画伯

●第9回●『不運のすすめ』読んでます

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

いや～、なんで俺ばっかりいろんなことが起こるんだろうね。

これまでも試合前にケガしたり、試合中にパンツが破れたり、いろいろあったけど、今度は納得いかないかたちで試合を止められちゃったんだよ！

10・28『MARS』両国大会に出て、柔術黒帯のマルセロ・ブリッドっていう選手と闘ったんだけどさ。その試合は試合開始早々、寝技でパッと腕十字取られたんだけど、俺はすぐ切り返して上になったんだよ。ところが腕取られたとき、俺が「あ！　やば！」って声出したら、それをレフェリーが極められたうめき声だと思って試合止めちゃったんだよね。

でも、止められたときは、俺が切り返して上になって動いてるときだったし、片足しか乗ってない十字だったから、あれは90パーセントぐらいの選手は逃げられる技だしね。十字ってしっかり両足乗せて腕伸ばしてもポイントが少しずれてるだけで極まらない技じゃん。俺だって去年、韓国でハリッド・〝ディ・ファウスト〟をガッチリ極めたのに逃げられたしね。それを一瞬腕取られて、〝サルーン〟っていう切り返す技で上になったのに止められたらたまらないよ！

いま抗議してる最中なんだけどさ、どうなることやら。ここ数年、ずっと打撃系の選手ばかりと闘ってきたから、柔術家相手に寝技の攻防をするのが楽しみだったんだけど、まさかこんなことになるとはね。実際、少しの時間しか闘ってないけど、相手はたぶん強かったと思うよ。だからこそ、俺が上になったあそこからもっと寝技をやりたかったよね。

だいたいさ、試合前に入場するとき「金原ミツヒロ選手の入場です！」って、思いきり名前間違えて呼ばれた時点で「こりゃヤバいとこ来ちゃった」と思ったんだよ（笑）。俺、Uインターから数えてもう100試合以上やってるんだけどさ、海外も含めて名前間違えられたのは初めてだよ！「金原ミツヒロ」って呼ばれたとき、ホントにずっこけて、そこで一回、集中力途絶えたからね。

それでリングに上がってから、また名前をコールされるわけじゃん。そのとき「こいつまた俺の名前間違うんじゃないか」っていうことが心配でさ、リングに上がっても試合に集中できないんだよ（笑）。主催者側は最低限、試合に集中できる環境を作ってほしいよね。前日の計量だって「2時スタート」って言われてたから、みんなその時間に合わせて腹減らして水も飲まずにギリギリの体重で待ってたのに、平気で30分遅れでスタートするしね。やっぱり、仕事は選ばなきゃダメなのかな～（笑）。

しかもさ、ホントは『MARS』のあと、11月に韓国で試合が決まってたんだよ。だから、10月、11月と二連戦だなと思ってたらさ、その韓国での試合があの『イノキゲノム』の関連イベントでさ、なんだか韓国では中止が発表されてるらしいんだよね。コラムを書いている11月7日の時点でも、まだ俺のところには連絡ないけどね（笑）。

これで11月の韓国がなくなったら、10月の『MARS』が早くも今年の仕事納めになっちゃうよ～。

もう、なんかいろんなことが起こりすぎてさ、笑うしかないよね。だからいま『不運のすすめ』っていう本読んでるんだよ（笑）。将棋界の人が書いてる本なんだけど、たまたま本屋でパッと手を取った本が『不運のすすめ』でさ、「俺のいまの状況に似てるな」と思ってさ、いま読んでるところなんだけど、これがおもしろいのよ。「苦労は買ってでもしろ」っていうのと同じで、不運になったほうがのちのちいいらしいんだけど、そろそろ俺にも運が向いてきてもいいよな～。

ささきぃの

"STAND BY ME" second season

私の立ち技への旅はまだ終わらない

第7回 "Sの魂"百まで!! 緒方健一のシーザージム物語の巻

11・3、両国国技館で開催されたシュートボクシングの祭典『S－CUP』を制したのは〝魂の継承者〟緒形健一だった。前回の『S－CUP』初戦でまさかのTKO負けを喫してから、再出場にたどり着くまでの道は決して平坦ではなかった。

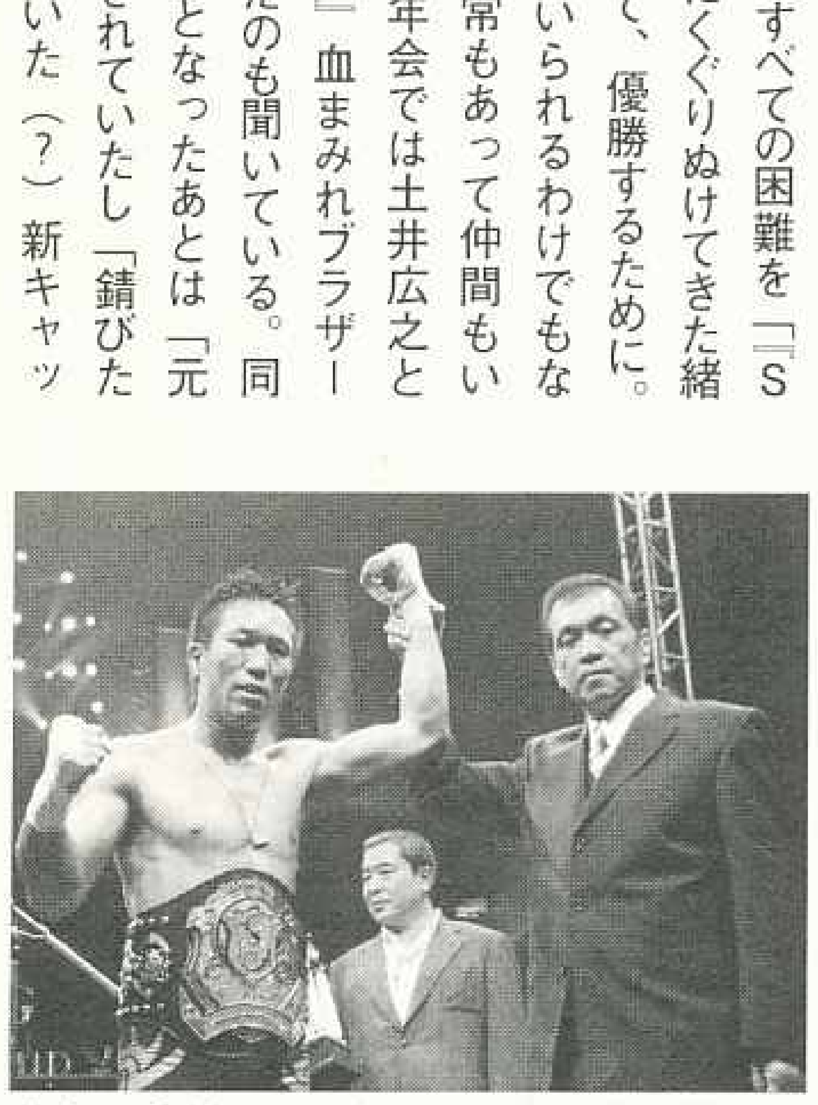
敗戦後、しばらくのあいだは「夜、試合の夢を見て跳ね起きて『試合、いつだっけ？』って思って、あぁ、もう終わってたんだ……って思うような毎日だった」という緒形。敗戦後から今年の開催まで試合を重ね、出場資格を獲得。2004年の敗北後3つの勝利をあげ、運気アップを感じさせた直後、イム・チビンとの試合で目を負傷。TKOに追い込まれて「ふりだしに戻る」みたいな状態にもなっていたし、今年に入ってからも『S－CUP』前すでに4試合を行ない、すべての試合に勝利。ついでにいうと今年2月にも試合は決まっていたが、試合直前の計量後に相手が倒れて救急車に運ばれ、大会開始直前になって試合がなくなってしまうという嫌がらせみたいな事件も起きた。

それでも腐らずに、すべての困難を「『S－CUP』のため」にくぐりぬけてきた緒形。もう一度参戦して、優勝するために。闘いだけに集中していられるわけでもなく、生きていれば日常もあって仲間もいて、2004年の忘年会では土井広之とともに「『S－CUP』血まみれブラザーズ」と紹介されていたのも聞いている。同大会で宍戸が準優勝となったあとは「元エース」呼ばわりもされていたし「錆びた鉄拳」という気の利いた（？）新キャッチフレーズも聞いた。ジムメイトの勝負に懸ける思いを知っていたら、普通そういうことは笑いにしないのではないだろうか、と思うけれど、それを笑いにするのがシーザージムである。『K－1MAX』で宍戸大樹がブアカーオ（・ポー・プラムック）に敗戦したあとなど、試合翌日からダウンのモノマネつきで繰り返しリピートされ、からかわれていた。小学生か。

そういう状況で、自分の夢を腐らせずに持ち続けるのは偉業だと思う。自分の夢を、美しい状態で保ち続けることができるのなら、なんと簡単なことかと思う。緒形の物語は、きれいなところだけすくい取っても充分に耐えうる話だ。でも、過酷で果てしなく長く続く日常の中で揉まれながらも夢を保ち続けられた精神のタフさと、己をどこかで笑い飛ばす理性があってこその「『S－CUP』優勝」なんだ、ということを、私は評価したい。

それはリング上のファイターだけでなく、現代を生きる人すべてに摘要できる、夢や希望を現実にするための心構えだと思うのだ。

そして、準決勝の同門対決で敗れた宍戸大樹は「あいつ、仲間なのに本気できやがって」とからかわれ続けている。ブアカーオ戦に続いて新たな「燃料」を投下してしまった宍戸大樹の物語もまた、次に向けて始まっている。



勝利した直後、シーザー会長とともに記念撮影を行なう緒形健一。「リング上でお世話になった会長にベルトを巻いてあげたかった」と語った緒形だが、会長は大会前、先に巻いて重さを確認していたことものちに発覚（写真提供／シュートボクシング協会）

せき詩郎のサムライニ味 シロー

第8回

GBHとは何か？

街を歩く。もちろん下を向いて歩く。小銭、エロ本等、何か良いものが落ちていたら困るからだ。

順調に歩く。「この捨ててある『ジャンプ』、『べしゃり暮らし』が表紙だから新しいやつじゃないのか」「畜生、またパチスロのコインか！」などと落ちているものすべてチェックしていると、思わぬ障害物が立ちはだかる。買いものした物を詰め込んだカートを押しているおばあさんだ。

この手のおばあさんはマイペースで進む。自分の前方にいると自然におばあさんのスピードに合わせることになる。結果、歩みは遅くなる。

追い抜きたい。だが道幅は狭い。わずかな隙間を縫って行こうとしても、おばあさんは微妙に蛇行しており、測ったかのように阻まれることになる。抜けに抜けない状態が続く。もどかしさが募る。

こんな状況を打破するためにGBHは生まれたのかもしれない。

街を歩く。すれ違う若い女子ばかり見る。もうすぐ行なわれる文化祭の話をしているようだ。羨ましくなるほどの若さだ。いや、若さだけではない。自分にない物をすべて持っている気がする。

そのとき、踵に違和感。靴が脱げそうになる。後ろの誰かが私の踵を踏んだらしい。

歩いていて誰かの踵を踏んでしまうことはよくある。とくに都会の人ごみでは珍しくない。

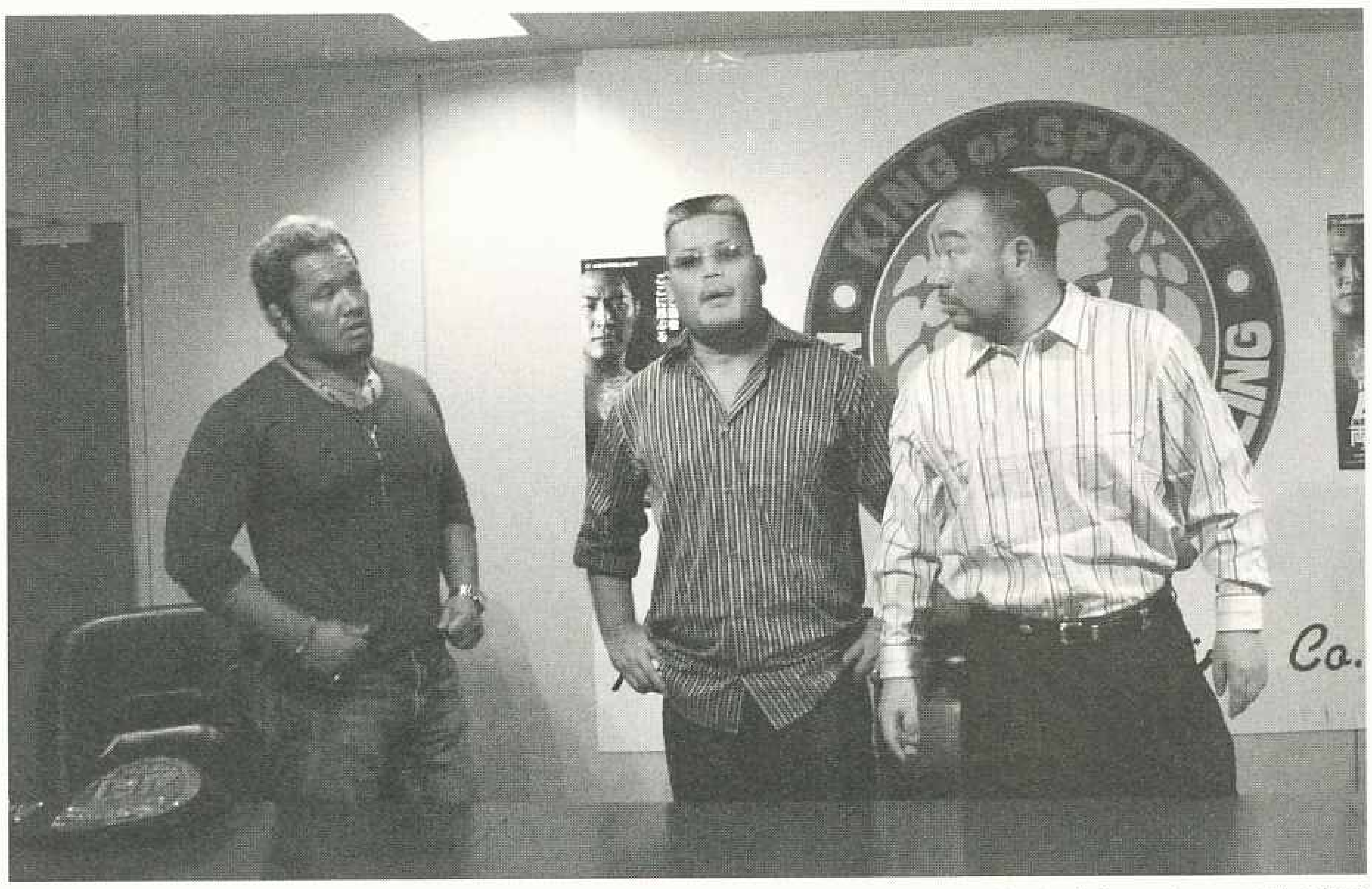
もちろん意図的に踏むわけではない。試してみるとわかると思うが、むしろ意図的に踏むほうが至難の業だ。

踏んでしまったほうは焦る。慌てて進路を斜めにとり、自分は後方にいなかった、だから踏んでませんよと偽装したり、もしくは足早に通り過ぎていくしかない。立ち位置的に謝罪することも困難であり、後ろめたさがしばらく残るものだ。

逆に踏まれた場合もまた振る舞いが大変だ。意図的ではないことはわかっているので怒りをぶつけるわけにはいかない。そのときの機嫌によっては何か言いたくなってしまうこともあろうが、振り向いたところに血気盛んな若者がいたら困る。何ごともなかったように靴の踵を直すしかない。

後方の若者に踵を踏まれる。自分よりスピードが速いことの表われか。後ろから歩いてきた若者にいつの間にか、せかされているようだ。追い抜かれるのも時間の問題か。

こんな状況にいる者たちが集まったのがGBHだ。



これが、いま新日本プロレスで一番悪い軍団GBHの中心人物、天山、越中、真壁の3人だ。天山いわく「nWoやT2000は中途半端な悪党で終わった。今回は会場に入っただけで客が逃げるまわぐらい徹底的にやる」と極悪化を宣言。頑張れ、GBH!

カートを押す老人ほどベテランでもなく、勢いのある若者でもない。その間に挟まれている世代。前が邪魔で歩みが遅くなったところに後方からの踵踏み。そんな現状を打破しようともがき始める。天山は、いまこんな状況にいるのかもしれない。

そこで作ったのがGBH。天山が真壁、越中と結成した軍団名である。

先ほどから何度か登場している『GBH』という単語だが、これは私たちの世代に馴染みの深いUKハードコアバンドとは関係がない。「グレート・バッシュ・ヒール」の略。意味は「なんかもの凄いヒール！」みたいな感じだ。「グレート・ビッグ・ハイテンション」くらいの略かと思っていたので驚きだ。

さて年末が近づいてきた。何かと慌ただしくなる季節だ。しかし楽しみだってある。そう、それは忘年会。思いっきりお酒を飲み、羽目を外せる。きっと、いまからわくわくしている人も多いことだろう。

今年の忘年会で話題になることといえば断然GBHに他ならない。あの天山が蝶野と袂を分けてまで作った軍団。新日本プロレスの起爆剤となり、いい意味でも悪い意味でもリングをかき回しているのだ。たぶんこの原稿が載る号が発売される頃には「GBH」が流行語大賞を獲っているはずだから、人が集まればGBHの話にならないわけがない。

「ねえ、GBHってなんの略か知ってる？」から始まるトークで女性の気を引くことだってできるはず。ありったけの知識を披露しても良いし、わざと間違っても良い。「わー、なんておもしろいの！」と言われるためにはわざと間違うほうが得策だろう。永田は「ビッグ・フェイス・ラウド」と言っていたが、読者のみんなはどんな間違い方をするだろうか？

そういうわけで、締め切りまであと30分。今回は本当に時間がないらしいので、いくつか例を書いて終わりにします。みんなも考えてみてね！

私は来年から頑張ることにします。良いお年を！

みんなも考えよう！ GBHってなんの略？

G→ガンバの大冒険で
B→爆笑した
H→はしのえみ

G→『がんばれ元気』は
B→ボクシングの漫画だろ？
H→走る漫画のほうだよ、俺が訊いてるのは

G→外国人留学生が
B→バンバン抜かしていく
H→速いぞ、山梨学院大学！

G→ガンダムは
B→無事か？ 無事なのか！ と
H→ヒムロックがビートに乗せて歌う

G→ガルベスが
B→ボールを投げてきた！
H→判定に納得いかなかったのだろう

椎名基樹のサムライ三昧

第8回

バカサバイバーな、あの男

今月の格闘技&プロレス界の話題で、もっとも注目したのは、やはりロングタイツのあの男である。バカサバイバー。バカこそが生き残るとは、言い得て妙。

あの男とは、そう、11月8日、後楽園ホールで行なわれた、新日本主催の『WRESTLE LAND 5th』で、力道山に扮した、中西学選手である。

黒のロングタイツをヘソ上まで上げて、腰に両腕をあてがう力道山ポーズの中西選手の写真を見たときは、まったく意表を突かれて、不覚にも立ち読みしたコンビニで爆笑してしまった。

昭和30年代の人気テレビドラマ『チャンピオン太』のテーマに乗って入場した中西選手は、力道山ばりの空手チョップでベイダー組に快勝し、用意周到なことに大会ロゴも『NAKANISHI LAND』に勝手に変更。「1、2、3、ホーッ!」で強引に大会を締めくくると「中西ランドどうだった? お客さんの心の中にプロレスの花を咲かせるよ!」とご満悦だったそうである。

オメーはそれでいい! 中西が咲かせるプロレスの花。ぜひ、見てみたいものである。

と、中西先生のことはこのくらいにして、本題のロングタイツ野郎、『PRIDE武士道』で快勝した、〝バカサバイバー〟青木真也選手の話題に移らせていただきます。先月、時期尚早と書いたギルバート・メレンデス戦が流れてしまったわけであるが、流れたら流れたで、やはり残念。PV観戦の一番の楽しみがなくなってしまい、両選手が相対しただけでドキドキするような興奮は、今回の興行では味わうことができなかった。

それにしても、青木選手、強い。TKが解説で、「青木選手の関節技は打撃のような一発がある」と語っていたが、まさに飛びついた一瞬で極めてしまった。離れ際に何発かパンチをもらいそうになるシーンもあり、青木選手の打撃の実力はどの程度なのだろう? と思ったりもしたが、もし青木選手が打撃を猛特訓し、バランスの取れた選手になってしまったら、そのへんにいる選手と同じになってしまいおもしろくない。ああいうヒヤリとするシーンもあって、その中で極めていくのが青木スタイルであろう。

それを思うと、青木スタイルの対極といえるであろう、寝技を徹底カットするミルコ&シウバ&(もっとも端的な)リデル型(ライト級でいうと五味選手であろう)の対戦も早く見てみたい気にさせられる(もっともミルコもシウバも柔術の実力も相当なものだろうけど)。

青木選手が、かいくぐって組みつくことを目的としたスタンドのみで、どこまでいけるか非常に楽しみである。総合格闘技で勝つために、まさに総合的にバランスよく技術を修得していく傾向は当然だし、競技の確立という意味で素晴らしいことなのだが、そうなることで、それぞれの格闘技の持つ奥義や必殺技といったロマンが失なわれていくのが残念に感じるので、青木選手には「青木スタイル」で旋風を巻き起こしてほしい。

思えば桜庭選手も、組みついて寝技に持ち込むためのスタンドのスタイルであったが、グラウンドでの蹴りが解禁され、「いつ何時でも上になる」ことができた片足タックルが、ヒザを打ち込まれる最も危険なポジションになってしまったことで、桜庭スタイルが瓦解してしまった。組みついて寝技に持ち込むスタンドスタイルを可能にするためには、青木選手のように寝技で下になっての強さが必要なのだと思う。「絶対上になれ」が総合の唯一の勝ちに近づくセオリーだと思うので、「迷わず下を選ぶ」青木スタイルは危険なスタイルともいえる。それだけに青木選手は魅力的だ。

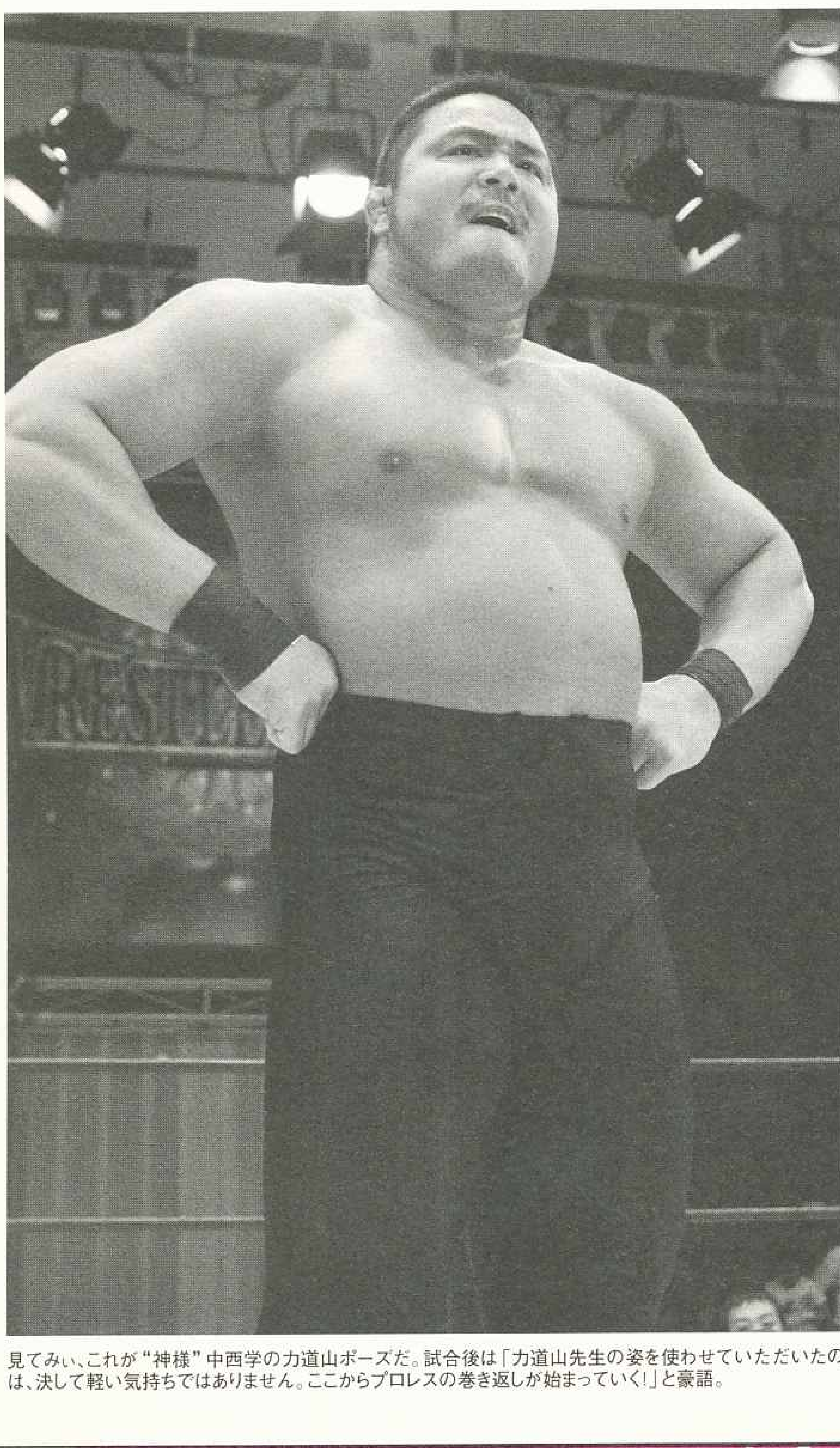
もう一人、今回の『武士道』でその寝技の強さに舌を巻いてしまったのが、パウロ・フィリオ選手である。「絶対上になれ」の寝技で青木選手とはまったくタイプが違うが、感嘆してしまうのは、そのマウントポジションの強さである。

格闘技も長く見ていると、したり顔になってしまい、マウントポジションは弱く、すぐ崩されてしまうと思い込んでしまっていたが、パウロのそれはまったく崩れることはなかった。相手の身体の上に乗るという単純なことが、ここまで極められるものだろうか? 驚かざるを得ない。マウントポジションが崩れないなら、こんなに恐ろしいことはない。格闘技であるのに、いじめっ子といじめられっ子の立場である。ヒクソンのマウントもこれほどなのか? また幻想が広がってしまう。

同じように驚いてしまったのが、石田光洋選手の強さだ。非常に申し訳ないのだが、石田選手の実力を信用しきれてない部分があったのだが、タックルはもちろん、パウロ選手と同じく寝技で上になったときの安定感は舌を巻いた。

それにしても、パウロ選手と石田選手を見ると、あの手足の短いズングリとした「両津勘吉体型」が、寝技の押さえ込みと、ハーフガードにおける足の抜けの良さ、ヒザで歩くかのようなグラウンドでの機動力を支えているような気がするのだが、どーだろうか?

誌面も尽きてきたので、今回ウェルター級GPで優勝した三崎選手について触れられなくて申し訳ないのだが、やはり最後に五味選手。いったい、どーしちゃったのだろうか? 不調の原因は素人目にも内面にあるのは明らか。強くあり続けることはかくも難しいのかと思わされる。



見てみぃ、これが〝神様〟中西学の力道山ポーズだ。試合後は「力道山先生の姿を使わせていただいたのは、決して軽い気持ちではありません。ここからプロレスの巻き返しが始まっていく!」と豪語。

世界に羽ばたく夫婦コラム
チーム鈴木の明るい未来



Suzuki Kenzo&Hiroko
◎メヒコ修行中の健想と妻・浩子の夫婦タッグ。今回は健想が遠征中のため、浩子のコラムをお届けします!

大逆転の巻

アッという間に今年も年の暮れ。鈴木家にとって今年は大荒れ。

「とにかくいまは一試合でも多くプロレスをすることが大事! いまを逃したら素直に真摯に一から取り組む機会ごと失なってしまう!」とにもかくにも行かせてしまったメキシコ。いろんな面で大変になるのは目に見えていたけど、プロレス道をまい進して実力をつけてほしい。いまここであえて選ぶ苦労は絶対に今後の糧になるはず。そう思ったのだ。

健想がメキシコに腰を据えた当初、二人の不安はばりばり的中! 言葉は通じない、とめどなく下痢は続く、おまけにアリーナじゃどこに行ってもトイレにゃ扉も便座すらもない。かろうじてTVショーだけは毎週入っているものの、それ以外は一試合もない週もあった。精神的にも肉体的にも限界。

「俺はここに来て本当に良かったのか……」

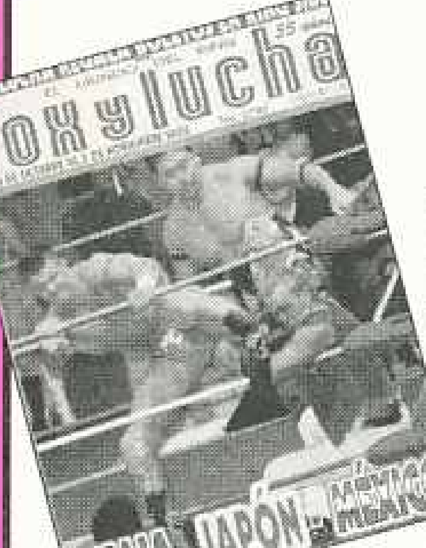
彼はこの状況にショックを隠しきれず、地層をはるかに越え、地の奥深くまで沈みまくった。

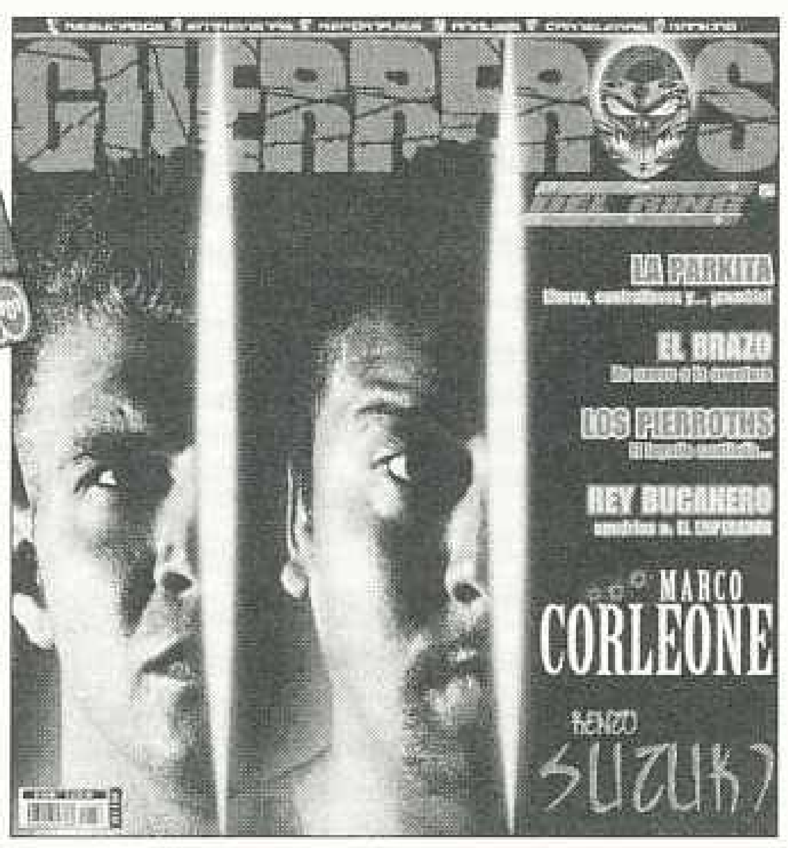
ここでのつらい状況に落ち込んではみるものの、日本に帰ったところで行くあてもない。この世界は〝客〟を呼べれば絶対に使ってもらえる。健想はやる気になった。どんな試合も健想は文句も言わずに必死に闘った。試合後の移動で朝方の帰宅でも、早朝7時からの練習にもフル出席し続けた。メキシコでもアメリカでも日本でも、結局自分が注意される点は一緒だと気がついた。気づいていて直せなかった多くのことに、「あぁ、こういうことだったんだ」と気がつけた。それからスペイン語の教室に通い、話もできないのにメキシカンの友人を作り、沈黙の気まずい食事も食べた。できることはなんでもやった。

そのうち気がつくと試合が増えていた。休みがなくなった。一日に近くの会場で2、3試合かけ持ちすることも当たり前になった。考えてみると、メキシコ入りしてからはTVショーに一回の休みもなく連続登場しており、しかも常にメインかセミだったことにあとから気がついた。ギャラも増えた。そのうちプロレス番組以外からも声がかかるようになった。自分が習ったスペイン語が女言葉であることに気がついていなかった健想は、カタコトの女言葉でしゃべりまくった。……ウケた。ハポン(日本)から来た極悪の大男は、リングを降りると「メキシコの好きの食事は良いわよ~」と意味不明なオカマ言葉をしゃべっていた。

そうしてメジャー雑誌のカバーを次々と飾った。街の大看板になり、CMLLが年に一枚だけ制作し、一年間使われるポスターに健想の顔は載った。健想の気迫は、神様にも上司にもちゃんと伝わっていた。運だけはやたらと強いプロレスラー・鈴木健想の大逆転だった。

こうして強運男・鈴木健想の2006年も暮れる。健想はいまや扉も便座もないトイレで、他人に見られてもひるむことなく用を足せるまでに成長している。





『boxy lucha』(ボクセルチャ)はメヒコで最も歴史のあるルチャ雑誌、『GUERREROS』はメヒコで最もメジャーなルチャ雑誌。ルチャの世界での健想への高い評価がうかがえる。



イラスト◎エロコエロオ/Photo◎平工幸雄

No.7 人材難で窮地! どうする? どうなるECW!

マイコプラズマ(風邪の一種)で、〝全身倦怠感〟全開のホセです。季節の変わり目にまんまと風邪をひいてしまいました。しかも幼児がかかりやすい風邪です。

そんな中、ホントにショック! 聞くところによるとWWEは12月からECW単独で開催するハウスショーの規模を縮小する決断を下したとか。この決断に至った経緯はなんといっても観衆の不入り。現在ECWは『SMACKDOWN!』のTVテーピングの前に行なっている。ここにおける観衆の入りはスマックダウンとニコイチのため、槍玉には挙がらなかった。しかしながら、単独となるとこれがじつに厳しい数字が続いていた様子。

現在サイファイチャンネル(日本ではJスポーツ)で放送している1時間番組枠は継続されるものの、ECWとしてのハウスショーは、『RAW』もしくは『SMACKDOWN!』のハウスショーに組み込まれることになった。ECWは思いのほか人材難で、柱となるストーリーが進行できていない。大爆発した復活劇から5ヵ月経過したが、早くも大きな局面を迎えている。

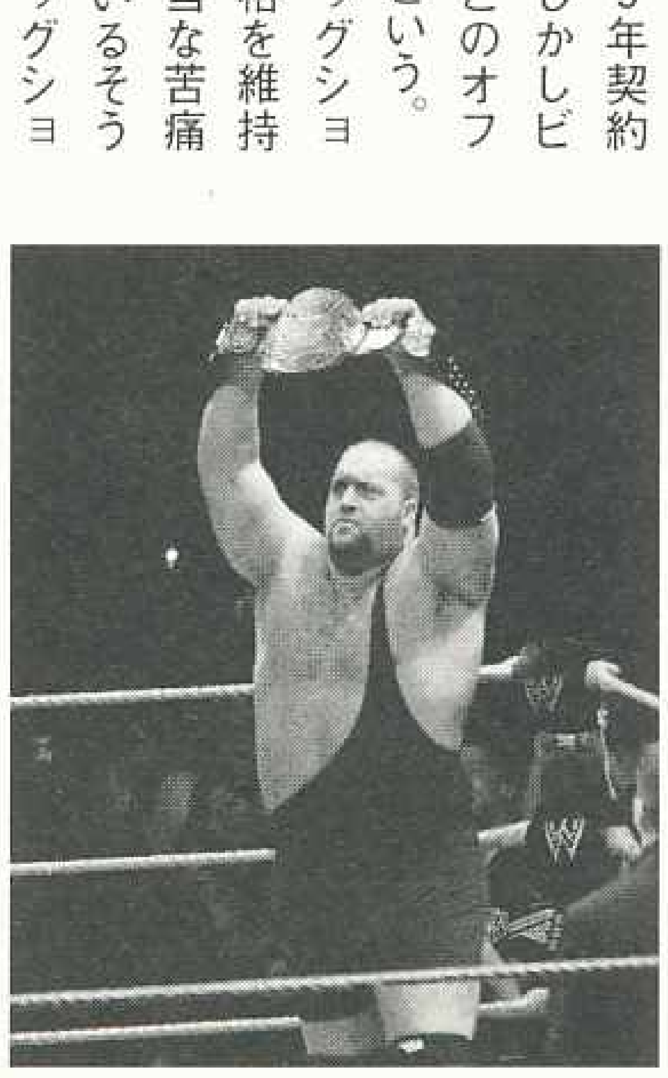
そんな中、さらに痛手となりそうな噂がある。ビッグショーが2007年2月で契約満了となりそのまま引退か? というモノ。ジョン・ローリナイティスがビッグショーと契約更新のミーティングを重ねており、新たに5年契約をオファー。しかしビッグショーはこのオファーを断ったという。

なんでもビッグショーは、あの体格を維持するのに、相当な苦痛に見舞われているそうだ。現在のビッグショーの体重は約230キロ。この体格で日々バンプを取り、肉体的疲労が癒えぬままサーキットを周るのはハードこの上ない状況。実際にビッグショーは体調不良でTVショーの起用は短時間で、ハウスショーのメンバーから外されることもしばしばだ。

それに彼自身がリスペクトしているアンドレ・ザ・ジャイアントが、同じような体格を持ち心臓マヒで他界した。彼の死因は少なくも同じ境遇である自分に降りかかるのではないかと危惧しているそうだ。

契約満了後、多くのWWEスーパースターズは現役を引退して、ハリウッド進出を目論んでいるように、ビッグショーも第二の人生を俳優として活動することも視野に入れているという。

現在ビッグショーはECW世界王者。年末に予定されているECW単独PPVでは、ひょっとしたらタイトルを外され、そのまま引退か? というネガティブな噂がファンのあいだで巻き起こっている。そうなると次期王者は誰? という点。それがなかなかいないというのがECWの現状だ。RVDやサブウーは数ヵ月前に逮捕されたこともあり、フロント陣が難色を示しているようだから、まさにスパイラル。12月のECW単独PPVでは何かしら方向性が生まれそうな予感がするのだが。人材難の頭痛が癒えないECW(WWE)のウルトラCはあるのか? それでは今月はこのへんで。Hasta luego(ほんじゃ)!



10月の日本公演に来日したビッグショー。しかし11月初旬に行なわれたヨーロッパツアーは欠場。武道館大会が日本における最後の雄姿なのか!?



イラスト◎ゴローちゃん

ええい、もう萌えればなんでもよし！　萌え無手勝流こと自由すぎ連載『萌え萌え女々苑』。今月はなんとバスト120センチ！　ヒャッホーッ！　Eカップ巨乳！　ヒューヒュー！　でも、男！　ゲッ、マジかよ！　先日DDT&ユニオン出場のために来日したアメリカンバルーン選手が登場！　おっぱいを駆使したプロレス技に、とことんこだわる男の生き様、しかと見よ！

掟　今回は〝巨乳〟ということで特例！　コーナー初の男性レスラー登場です！　いや～、この見事なおっぱいは〝萌え〟ですね！

アメバル　（流暢な日本語で）じゃあ、僕の写真を撮ったらこのコーナーでは初めておっぱいが出るんじゃないデスカ？

掟　『萌え萌え』初のポロリレスラーの登場ですよ！　いや～それにしても素晴らしいお乳ですねぇ！

アメバル　フフフ。最近は、おっぱいの下にも筋肉がありますンデ……（とTシャツをまくりあげ、噂のおっぱい登場！）。

掟　うおおぉ～～!!　凄いっ！（おっぱいに大興奮）。こ、このおっぱいはいつぐらいから大きくなったんですかッ!?

アメバル　子どもの頃から大きかったッス。

掟　しかし、どうしたらそんなに巨乳になるんですか？

アメバル　毎日、おっぱいストレッチを。

掟　お、おっぱいストレッチ!?（ゴクリと生ツバを飲む）。

アメバル　エエ。たとえばこういうの。フンッ！（と、両手でおっぱいを思いきり上にグォーッ！と持ち上げる）。

掟　うぉぉぉぉ～！

アメバル　あと、もちろんクロスストレッチも。ホアッ！（と、左右のおっぱいを思いきりクロスさせる）。

掟　うわぁぁ～！　モチだ！　新日本プロレス年末恒例のモチつき大会を彷彿!!

アメバル　そしてサイドストレッチ！　ヌアッ！（と、右のおっぱいは右方向、左のおっぱいは左方向に思い切りひっぱる）。ハァッ、ハァッ、いつか小さなおっぱいの女の子のためにエクセサイズビデオを作りマスヨ。

掟　ハァッ、ハァッ、ぜ、ぜひお願いします！　しかしアメバル選手のおっぱいはとんでもないアピールポイントですよねぇ。

アメバル　ウン、僕のアピールポイントはおっぱいだけじゃないと思いマス。飛び技もできますンデ。

掟　おっぱいがあるのに、飛び技もできる！　グラビアタレント的に言うと「巨乳だけど、バカじゃない」みたいな感じ！

アメバル　飛び技プラスおっぱいで、威力は倍ッス。こんな感じ（とおっぱいを持ちあげて、思い切り机にダーン！　ダーン！と打ちつける）。

掟　うわぁああ！　机が、机が揺れました！　―編集長が激昂したときみたい！

アメバル　（ダーン！　ダーン！　とさらに机に打ちつけながら）このインパクトは飛び技に使えマス。小橋選手がチョップを使ったら、相手の胸の皮が黒くなりマスヨネ。僕のムーンサルトでも相手の胸は、おっぱい叩きつけられて黒くなりマスヨ。

掟　小橋のチョップ並みの乳破壊力！　しかし初来日のわりには日本のプロレスに詳しいですね。

アメバル　ロスの実家の近所にジャパニーズ・ビデオレンタル屋がありましたカラ、全日本とか新日本とかレンタルしまシタ。

掟　たしかおばあちゃんが日本人なんですよね。フェイバリットレスラーは？

アメバル　たぶん……馳浩。でもいま一番好きな選手はケンドー・カシン。私のロス道場のときのコーチですネ。



あめりかん・ばるーん■1987年2月23日、ロサンゼルス出身。05年に新日本プロレスロス道場に入門、ケンドー・カシンや中邑真輔に師事。05年末は登龍門メキシコでルチャ修行。祖母が日本人で本人は来日を熱望もサイモン猪木社長に拒否され、最終的にネット経由で知り合った日本のファンが（本人も入会してる）mixi経由で高木三四郎を紹介し来日決定！　19歳ながら自分でネット系会社を経営（社員は自分のみ）。英語、日本語、オランダ語、スペイン語、ロシア語も堪能（韓国語も少々）と天才肌な異色＆巨乳レスラー。

掟　カシン選手がこの肉体の秘密兵器を見抜いたわけですか！

アメバル　でも、カシン選手は僕のおっぱい、最初は「プロレスでは使えない」と思ってマシタ。だから、自分でおっぱいは通用することを証明してゆきマシタ。おっぱいドラゴンスクリューとか……。

掟　おぉ！　おっぱいの吸着力を利用すれば相手は絶対逃げられませんね！

アメバル　そうッスネ。手よりもおっぱいのほうが強いノデ。

掟　「ペンは剣より強し」みたいな。いい話してます！

アメバル　グリップがいいッスカラ（笑）。

掟　グリップがいい！　青木功のゴルフ教室みたいな話だ！　でも残念ながら、先日はメカマミーに乳首を洗濯バサミ攻撃されて、もんどりうって倒れましたけど。

アメバル　アレはい～たかったデスヨ！　おっぱいは一番強い場所なんですケド、まだまだ一番弱い場所と思いマス（と残念そうに）。

掟　敏感なんですね……。

アメバル　トレーニングしマスヨ。乳首は強くなりたいノデ、痛くなくなるまで鍛えたいッス！

掟　じゃあ若き日のスタン・ハンセンがラリアートを開発するために腕でタイヤを殴ったり、ブッチャーが地獄突き開発のために焼けた石の中に手刀を突っ込んだ訓練を、乳首でしなくちゃいけないですね！　梶原一騎先生原作の『プロレススーパースター列伝』には、乳首特訓のヒントがいっぱい詰まってますよ！

アメバル　ハハハハ！　そのマンガは知らないケド、ぜひ読みたいと思いマス（笑）。

掟　ちなみにいま、おいくつですか？

アメバル　19歳ッス。

掟　じゅ、19歳!?　じゃあ、おっぱいはまだまだ発育中？

アメバル　ウン。最後はZカップになりたいッス！　新しい技が作れると思いマス。おっぱいチョークスリーパーとか。

掟　おっぱいで首が一周できちゃう！　おっぱいアナコンダだ！

アメバル　あとはおっぱいだけを筋肉コントロールで動かシタイ。インドの神様って4つ腕がありますよネ。僕はおっぱいと腕でそれをシタイ（真剣な表情で）。

掟　神の領域にオッパイで近づく、と……。

アメバル　練習中の技はおっぱいキャッチ。パンチをおっぱいでキャッチして十字固めでカウンター。おっぱい逆十字ネ！

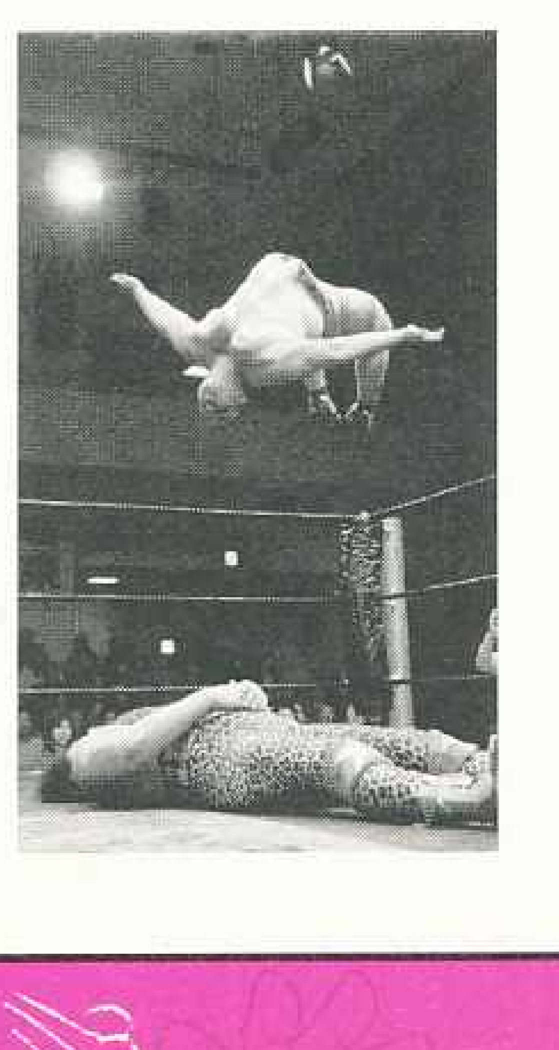
掟　いや～、技の名前を聞いてるだけで、手に汗握ります！　アメバル選手絡みのカードは、夢もおっぱいもふくらみますね！　『無我』で闘う姿も見たい！

アメバル　西村さんの団体デスヨネ？　『無我』に上がれたら、〝おっぱいブラツイスト〟と〝おっぱい字固め〟を使うつもりッス！

掟　おっぱい字固め！　おっぱいは字じゃないけど面白いのでオッケーです！

アメバル　おっぱい字固めハ、私の足と相手の顔の間におっぱいを挟ム。痛いだけジャナク、気持ちが悪くなりマスヨ！

掟　俺なら確実にうっとりするけどなぁ……。無茶なこと言いすぎました……。


見てみい、これが噂のバルーンサルト！重力によっておっぱいが華麗に宙に舞い「インパクト！」する衝撃1秒前！　この秋のインディー界を蹂躙したアメバル、なんと2ちゃんねるで知り合ったWJファン（マグマメイツ）からもらったWJキャップ&Tシャツを絶賛愛用中。

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
■ロマンポルシェ。ライブ情報！　12・7（木）新宿ロフト（03-5272-0382）。対バンはDMBQ、ELECTRIC EEL SHOCK、ミドリ。その他の出演情報は掟ブログを各自参照！　【http://blog.excite.co.jp/porsche】

인 사이드 코리아
（インサイドコリア）

第9回

アントンもビックリの凄玉!!

"韓国格闘技界のドン・キホーテ" イ・ヒョピル迷走と迷言の日々

「イ・ヒョピル」という選手――日本ではまったく無名だが、韓国では有名な格闘技選手の一人である。もっともそれは「冷笑」の対象としてであるが。

韓国格闘技界は現在、日進月歩の速度で成長を遂げているが、一方で虚実入り乱れた魑魅魍魎が跋扈していたりもする。イ・ヒョピルはおそらくその筆頭に挙げられる選手だろう。今回はそのイ・ヒョピルの迷走と迷言の数々を紹介する。

創成期の異種格闘技対決を制す

イ・ヒョピルは現在48歳のボテ腹オヤジである。経歴は97年全国ボクシング大会新人王、83年にキックボクサーに転向。87年までに11戦11勝11KOを収めた。03年にボクシング時代のライバルであるパク・ジョンパルとの異種格闘技戦を行なうと発表した。パクは元WBAスーパーミドル級の王者であり、80年代を代表する重量級ファイター。

しかし、両者15〜16年ぶりの現役復帰となる試合で、40代半ばのロートル同士の対決は世間の失笑を買ったが、韓国においてはほぼ初めてのボクシング対キックボクシングの異種格闘技戦ということもあって、それなりに注目された試合だった。試合はローキックを有効に使うヒョピルのペースで試合は進み、4ラウンドに入ってローでパクがバランスを崩したところにヒョピルはさらに攻撃を加えてしまう。この反則に激怒したパク側は試合続行を拒否し、一時は場内も騒然となったが、結局イ・ヒョピルのTKO勝ちが宣告された。

しかし試合後、口の軽いヒョピルは「パクは中学生。私は大学生!」と発言。ファンからは「ガキ大将みたいな発言をして、どっち小学生なんだよ」と批判される。

「タイソンとやる!」……ヒョピルのズンドコ劇場

これで調子に乗ったイ・ヒョピルは、以降、ズンドコ劇場を連発する。パクとの試合の数日後、「次はタイソンとやりたい。もう交渉を進めてます」と高らかに宣言。どう考えてもタイソンになんのメリットもなく、高額なファイトマネーを考えれば実現する可能性はゼロなのは明らかで、「現実感のない甚だしい売名行為」と様々なメディアで叩かれた。

しかし、その後も「資金が足りなくて……」（←当然だろ!）と呑気な言いわけを展開しつつも、タイソンとの対戦をあきらめないヒョピルは、03年の11月にまだ無名だったポール・スロウィンスキー（現・K―1オセアニア王者）を指名して「これはタイソン戦の前哨戦だ!」となんの根拠もなく宣言。しかし数日後、スロウィンスキーのビデオを観て「強すぎるじゃねーか……」と慌てふためくヒョピル。

結局、試合当日にはなぜか（やっぱり）スロウィンスキーは会場に姿を現わさず、代役のロシアン・アマレスラー（キック経験はゼロ）とキックルールで闘った。試合は1RKO勝ちを収めたものの、ファンからは「出稼ぎに来た一般人みたいなロシア人を相手にして楽しいか?」とさんざんに批判された

禁断の果実 アントンとの接近

04年の末には、禁断の果実であるアントンと接近し、突然猪木事務所と専属選手契約を結んだことを発表。この会見の内容は、「早ければ05年1月4日の東京ドームで行なわれる新日本プロレスの『アルティメット・ロワイヤル』に出場し、2ヵ月後に米国ラスベガス大会で中迫剛とK―1マッチを行なう」というものであった。

アントンも一服盛られたか「イ・ヒョピルのローキックが気に入っていますぐ出場させたいと思い、韓国を訪れた」と呑気なリップサービスを残したが、結局、ヒョピルが新日のリングはおろか、ラスベガス大会に出ることはなかった。

その後、ヒョピルはなぜか猪木事務所の韓国支部の代表となり、リー・ガクスー会長と韓国における猪木争奪戦の気配を見せつつ、05年3月には再びアントンをソウルに呼んで大規模な記者会見を開いた。

会見に訪れた人は150人を超え、その席でアントンは「イ・ヒョピルを10月のK―1大会に出場させる。彼がタイソンと闘いたいと言ってきているので、私が直接交渉する。タイソンはいま、裁判中だが、それが片づけば対戦も可能」と発言。会見ではタイソンとの対戦に必要な資金は5億円であることも合わせて発表された。……どう見てもヒョピルに5億円投資する奇特な人なんていないワケで、当然タイソンとの試合はいまも実現していない。

引退? そしてプロモーターへ?

同時に、ヒョピルは3月19日にK―1デビューするチェ・ホンマンについても言及し、よせばいいのに「もしホンマンが格闘家としての準備ができていなかったら、3月の大会前に私と闘って勝ったほうがK―1に出ようじゃないか」という売名発言を放つ。

さらにキックの先輩からのアドバイスとして「キックの一番いい練習方法はサッカー。球を思いきり蹴る練習をしていればローキックの練習にもなるし、走っていればスタミナもつく。私はずっとその方法で練習している」というヒョピル流の素敵な練習方法を紹介。

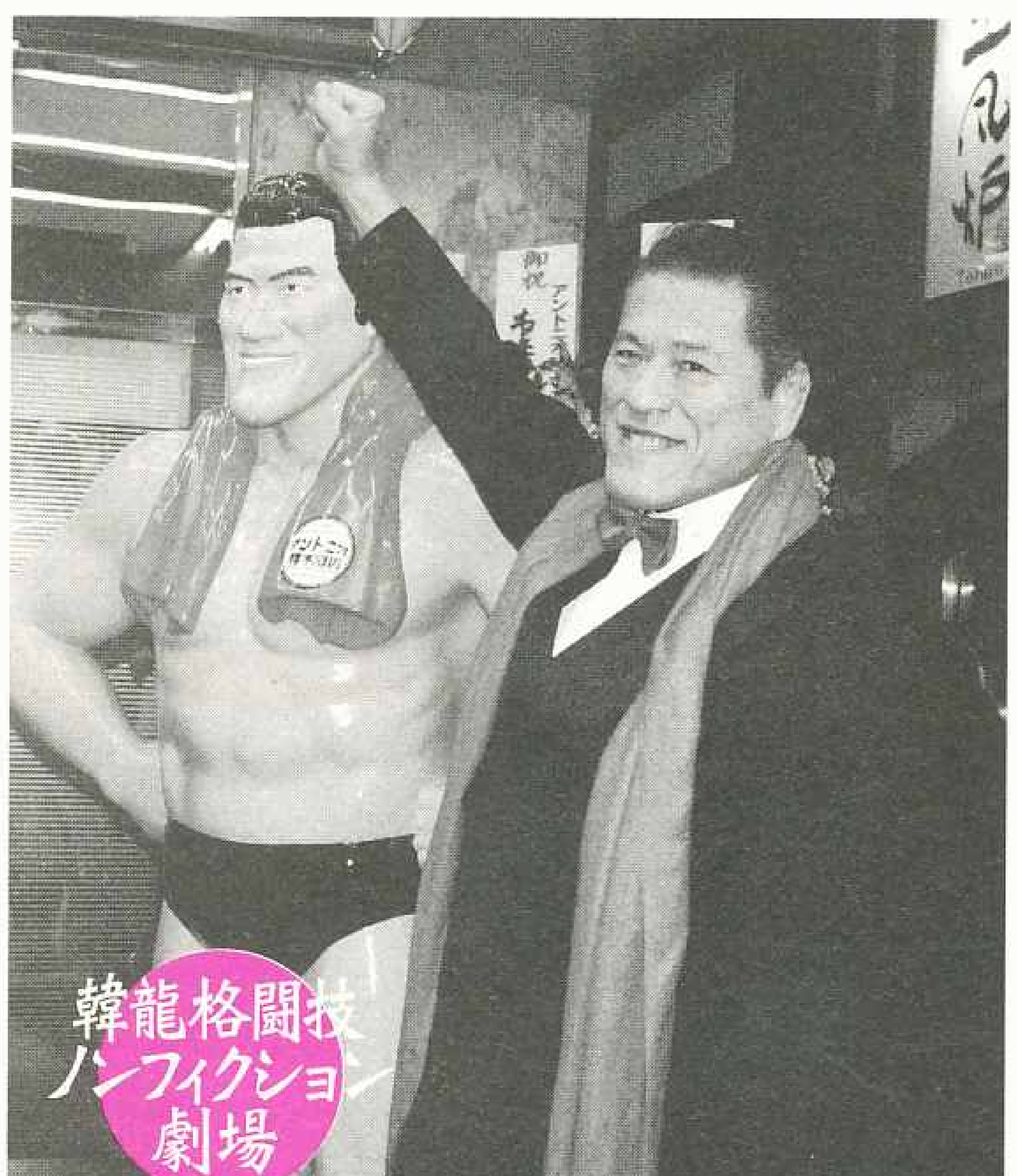
ここまできたらもう誰にも止められない。しかし当然ホンマンからは黙殺されるかわいそうなヒョピルさんなのであった。

のちに猪木側からも「歳を取りすぎで、現役選手としては使いものにならん」と言い渡されたヒョピルは、いいかげん引退について考えざるを得なくなり、06年の初めには、今度は自らがプロモーターとなる「King Man」というセンス溢れるネーミングのキック大会の立ち上げについて触れ、「スポンサー（ニューワールドモダン住宅）もついてくれたので、準備は80パーセント終了してます。一年に3大会開催し、一億円規模の大会になるでしょう」と発言したが、06年もそろそろ終わりに近づいているが、「King Man」は一度も開催されていない。

彼の迷言の数々は、まさに現在のドン・キホーテにふさわしく、大風呂敷を広げる者が多い韓国でも、これほど発言したことを実現しない人も珍しいと言える。

ネットでは彼が何か発言するたびに「またウソか!」と言われるのが常で、世間的にはほとんど相手にされていないが、ここまできたら、行き着くところまで行ってほしい。

「インサイド・コリア」は彼を応援しま〜す。



ズンドコはズンドコを呼ぶのか!? "韓国のドン・キーホテ" イ・ヒョピルは我らがアントンとガッチリ手を組んでいた過去を持つ。11.24『INOKI GENOME』は延期になったが、まだまだ韓国市場からは目が離せないぜ!


曙さん、今年はプロレスマッチ出陣か!?
2006年大晦日は
TBS
だけ見てりゃいいんだ!!
視聴率も、興行も、めざせ!
Dynamite!!

独占放送！

和志

ドーム大阪　秋山成勲戦決定！

る“秋”となれ！

12・31『Dynamite!!』のメイン級カードとして、桜庭和志vs秋山成勲が早々と発表された。

10・9『HERO'S』で「ライトヘビー級世界最強王者決定トーナメント（改めて書くと凄い名称だ）」の準決勝として組まれていながら、サクがドクターストップを受け、一度は流れたこの一戦。『HERO'S』ライトヘビー級の日本人頂上対決であり、文句なしの好カードだ。しかも秋山がトーナメントに優勝し、王者となったことで、そのバリューは確実にワンランク上がった。

そんなビッグカードにもかかわらず、いまのところファンのあいだからは爆発的な期待感というものが感じられない。なぜか。〝無風〟と言ってもいいほど、この一戦について語られていないのだ。

サクの体調問題がファンの心にブレーキをかけているのかとも思ったが、どうもそれともまた違う感じがする。カードは発表されたものの、この闘いの見どころ、ポイントがつかめていないと言ったほうがいいかもしれない。

谷川プロデューサーは先日、『ゴング格闘技』誌のインタビューを受けた際、「誰が桜庭vs秋山戦を活字でうまく伝えられるか興味がありますね。優勝した秋山選手とビッグネームの桜庭選手のどちらが強いかってことなら誰でもできる」と語っていたが、これは裏を返せば、どっちが強いか以外の見どころをまだ誰も伝えてない。ファンにも伝わっていないということだろう。

好カードには違いないのに、テーマが見つからないために〝心の煽りV〟が見えてこない。できればサクに勝ってほしいけれど、〝絶対に勝ってほしい〟とか〝絶対に負けてほしくない〟というほどの気持ちは、なぜだか湧いてこない。いま、ファンの気持ちはそんな状態ではないだろうか。

たしかにそうなのだ。〝王者に挑戦〟といっても、『HERO'S』の王座はまだ設立されたばかりで、そのベルトの価値はこれから高めていくもの。桜庭がここでその王者に勝ったところで「桜庭健在」を示すことはできても「完全復活」というには語弊がある。ベルトより遥かに上の実績をこれまで残してきた桜庭にとって、このベルトは〝上位概念〟足り得ないのだ。だからこそ、「絶対に勝ってほしい」という気持ちが湧いてこない。

また、日本人新旧ヒーロー対決ということで、よく言うところの「桜庭銀行」に預けていた〝貯金〟を奪われるのではないかという危機感から、「絶対に負けてほしくない」という気持ちになりそうなものだが、それもあまりない。それはそうだ。「桜庭銀行」の貯金は『PRIDE』からサクを見続けてきたファンの心の中にあるものであって、いま『HERO'S』を観ている多くのファンには存在しないのだから。

『PRIDE』時代からの桜庭ファンと、『HERO'S』から観始めたファンの見方、感じ方の違い。じつは、これこそがこの一戦を考える上でのポイントなのである。ここまで、あくまで〝桜庭目線〟でこの一戦を考えてきたが、見る方向が逆だったのだ。

思い出してみてほしい。この一戦が決定したとき、スポーツ紙やテレビでどう報道されたか。

「秋山成勲が大晦日、桜庭和志と対戦」



TBS/MBS系列独

桜庭

12.31『Dynamite!! 2006』京セラド

真っ赤に燃え



こう書いてあったはずだ。決して「桜庭復帰戦の相手は新王者・秋山」ではないのである。

あくまで主語は「秋山」という世界。それがすなわち『HERO'S』なのである。

桜庭を「主語」として観る以前からの格闘技ファンが、『HERO'S』を観たときに感じるなんとも言えぬ違和感はそこに生まれる。

この一戦は、秋山を「主語」として組まれたカードだからこそ、"桜庭目線"からはなかなかテーマが見えてこなかったのである。

逆に言えば"秋山目線"で見れば、この闘いのテーマは簡単なのだ。現王者としてかつてのスターを迎え撃つ。それは乗り越えるべき壁というより、自分の王者としての地位を証明するために宿題のようなものだ。

これと非常に似た状況にあったのが、今年5月にUFCで"チャンピオンvsレジェンド"として行なわれたマット・ヒューズvsホイス・グレイシー戦。この一戦もホイスを「主語」で考える日米のマニアは、「なぜいまホイスがヒューズと闘うのか」と不思議に思ったことだろう。しかし、この試合をPPVで観たアメリカ人の多くはホイス時代のUFCを知らない新しいファンだったはずだ。彼らにとって、この試合は伝説上の大物を王者ヒューズがどう倒すかという、じつにシンプルな見方をしていたに違いない。この一戦もまたヒューズを「主語」として組まれた試合だったのである。

だから、桜庭vs秋山に関しては、我々も観るスタンス、位置を変える必要がある。しかし、いまさら"秋山目線"で観ることはできないだろう。ならば、初めて主語で語られない桜庭和志を主語として観る。こんな反語的な見方が必要になってくるのだ。

『PRIDE』時代のサクは常に「主語」で語られる存在だった。その桜庭が『PRIDE』を離脱したということは、自分が「主語」とされる世界から脱却したということだ。そこから新しい世界が見えてくるはずだった。ところがスミルノヴァス戦は、「主語」でなくなったはずの桜庭が、『HERO'S』でも「主語」としての立場を用意されてしまったばかりに、悪い意味で『PRIDE』時代とあまり変わらない空気ができあがってしまったのである。

しかし、今度は違う。あくまで「主語」は秋山。サクはようやく自分が「主語」で語られる状況から解放されたのだ。

「プロレスとは人間の春夏秋冬を見せるもの」

これは故・橋本真也の言葉だが、桜庭は総合格闘家として初めて、この春夏秋冬を見せようとしている。

ここ数年のサクは、いわば"夏をあきらめきれなかった"のだと思う。それはファンも同様だ。ずっとあの輝く太陽が戻ってくることを願っていたのだ。しかし、季節は戻ることがない。そして『PRIDE』を離れたことで、サクが主語で語られる夏の季節は終わりを告げた。

夏の終わりはさみしいものだ。だが、その先には実りの秋が待っている。

季節は夏から秋へ——。桜庭自身がそれを自覚し前向きに受け入れたとき、新しいサクが見えてくるはずだ。

桜庭和志よ、真っ赤に彩られた美しき"秋"となれ!

(文/堀江ガンツ)

HERO'S 2006ライトヘビー級王者　早くも『Dynamite!!』で桜庭和志戦決定!!

「やっぱり柔道はサイコーッ！」

〜ファッション、みのさん、桜庭戦を聞く『kamipro』初インタビュー〜

秋山成勲

Yoshihiro Akiyama



柔道サイコーッ！　でおなじみ、『HERO'S』ライトヘビー級チャンピオン秋山成勲が『kamipro』に初登場ッ！　ベルト獲得後、早々とDynamite!!での桜庭戦が決定した秋山だが、その心の内とは？　さらに、いつもパリッと決まったファッションから、交友の深いみのさんのことまで気になることを直撃！

聞き手／松下ミワ　撮影／吉場正和
designed by matsu (TwoThree)



果たして秋山は本当におしゃれさんなのか⁉

視聴率も、興行も、めざせ！
Dynamite!!

――秋山さん、今日はよろしくお願いいたします！

秋山 よろしくお願いします。

――今回は『kami-pro』初インタビューということで、秋山さんの人物像に迫りたいと思ってます。

秋山 そ、そうなんですか。なんか、怖いですね、『kami-pro』は（真顔で）。

――そんなことはありませんよ！（笑）。

秋山 そうですか。

――それでさっそくですが、まず〝ファッション〟というテーマでお話をうかがわせていただこうかなあと。

秋山 いきなりファッションですか！（笑）。

――いや、秋山さんって、『LEON』の中から飛び出してきた人のようなオシャレなイメージがあるので（笑）。

秋山 そうですかねえ？

――今日はNIKEのスエットを着ていらっしゃいますけど。

秋山 ああ。そうですね（笑）。ちょうどNIKEのコマーシャル撮影があったもんで。

――あっ！ しかもキャップもNIKE‼ たしか秋山さんは『HERO'S』の翌日、NIKEのコマーシャル撮影のためにバルセロナへ飛んだんでしたよね。

秋山 ええ。だから試合翌日から4日間くらい、ずっとバルセロナにいたんですよ。

――それってたしか、タイガー・ウッズとかロナウジーニョも出演するというお話なんですよね。

秋山 そうです、そうです。でも、タイガー・ウッズのほうは日程が違ったみたいで会えなかったんですけど、ボクの撮影をした翌日にロナウジーニョがちょうど来てはって撮影してたんですよ。

――おお！ じゃあ、ロナウジーニョには会えたということですか？

秋山　会えたんですよ、コレが！（自慢げに）。それが一番嬉しかったんですよねえ。

—へえ～。秋山さんって、ロナウジーニョがお好きだったんですね。

秋山　めっちゃ好きなんですよ！　正直言って、サッカー自体はそんなに一生懸命観ないんですけどね。

—サッカーは観ないけど、大好き（笑）。

秋山　いや、でもロナウジーニョだけは気になって、試合も観てたんですよね。だから、ロナウジーニョは大好き！　ただ、会えたといってもほんの短い時間だったんで、写真撮って握手しただけなんですけどね。ボクもその場には一時間くらいしかいなかったんで。

—じゃあ、そんなにお話はできずに？

秋山　あいさつ程度でしたね。あのリフティングを間近で見れただけでもほんまもう満足でしたけど。ボールがぜんっぜん落ちないんですもん。もう、ボールが勝手にくっついてくるみたいな！（興奮気味に）。

—ハハハハ！　秋山さん、相当興奮されてますね（笑）。

秋山　いや～、本当に凄いんですよ、ロナウジーニョ。

—もしかして、ロナウジーニョに会うことが先日のトーナメント優勝のモチベーションになったりしたんですか？　もし負けたり、ケガしちゃったらバルセロナに行けなくなるかもしれないですし。

秋山　いや、さすがにそれはないですけどね（苦笑）。だって、そもそも、CMの話ってぼんやりしか知らされてなかったんですから。実際には試合の一週間前くらいからオファーはあったらしいんですけど。まともに聞いたのは試合が終わってだったんですよ。まあ、試合次第でどうなるかわからないところって格闘技だからあるじゃないですか。だから、ボク自身も話半分にしか気にしてなかったんですよね。





『HERO'S』ライトヘビー級王者という栄冠を手に入れた秋山は、試合後その喜びを抑えきれず、マイクを持って「柔道サイコーッ！」と絶叫。このような喜びのシーンには、秋山と交友の深いみのさんやプロ野球の清原和博選手がリング上に駆けつけることも。

みのさんには『朝ズバッ!』の収録後に「メシでもどう?」って誘っていただいたんですよね

—ちなみに、そのコマーシャルって、もちろん日本でも放送されるんですよね。

秋山　もちろん、もちろん。アジア、オセアニア圏全域ですね。オンエアは来年2月ということらしいですけど。

—楽しみにしてます！　それで話は戻りますけど、秋山さんって普段はどういう格好が多いんですか？

秋山　あ、まだファッションですか（笑）。

—ぜひ！　お気に入りのファッションをおうかがいしたいんです。

秋山　お、お気に入りですか？

—秋山さん、ファッションはやっぱり気にされるほうですよね。

秋山　ま、まあ多少は気にしますよね（照れながら）。

—やっぱり秋山さんなりのこだわりがあるわけですよね。

秋山　こだわりですか？　う～ん、こだわりというか、やっぱり基本は自分に似合うものばっかり探して着ますよね。

—それはスポーティな感じなんですか？

秋山　いや、そんなにスポーティではないですね。

—スポーティではない。では、どんなファッションなんでしょう。

秋山　う～ん、そう言われると困りますね（苦笑）。でも、普段はわりと凄いラクな格好ばっかりですよ。ちゃんとした格好というのは、それこそ『HERO'S』の会見のときくらいで。やっぱりあの場では皆さんの前に出るので、わりとちゃんとした格好はしてるつもりですけど。でも、普段は本当にラクで動きやすい格好ですよね。

—周りが思っているほど、そんなに気になされていないんですね。

秋山　あんまり気にしてないです（笑）。

—でも、髪の色も毎回鮮やかですよね。いつもは銀髪気味なカラーリングですけど、今回は黒でしたけど。

秋山　黒でしたね（笑）。でも、それはたまたまだと思うんですけど。

—何か特別な狙いがあったりするのかなって思ったんですけど。たとえば……願掛けとか！

秋山　願掛けってなんですか？（笑）。

—選手の中には〝げん担ぎ〟じゃないですけど、ラッキーカラーの色で染めるという方もいらっしゃるとうかがったので。

秋山　はあ～、そういう選手もいてはるんですか。正直、ボクはなんにも考えんと、今回はただ単に黒でいいかなって。もう面倒くさかったんで。

—じゃあ「テレビに映るから」とか「決勝戦だから」とか、そういう特別な気持ちがあったわけでもないんですか。

秋山　そんなのないです、ないです（笑）。

—本当ですか？（笑）。じつは深いこだわりがあるんだけど、あんまり人には言いたくないとか？

秋山　いや～……。

—どうなんですか？

秋山　……もう、勘弁してください（笑）。

—ワハハハハ！　いや、秋山さんには見栄えを意識しているイメージがあるので。あと、秋山さんって芸能界の方とのつながりも深い印象がありますよね。

秋山　そうですかねえ。う～んと、思った以上にはそんなにないんですけどね。

—みのもんたさんなんかはリングサイドで秋山選手を必死に応援していらっしゃる姿をよくお見かけしますし、公開練習にも応援に駆けつけていらっしゃいましたよね。

秋山　ああ、みのさんは、ボクのことよく

秋山成勲

Yoshihiro Akiyama

やっぱり柔道技で一本取るほうが一番わかりやすいですよ!

応援してくださるんですよね。

──みのさんとの交友というのはいつ頃から始まったんですか?

秋山　今年からですよ。みのさんの番組に出演させてもらったんですよね。ほら、あの朝の番組の。ええっと……。

──もしかして、TBSの『朝ズバッ!』じゃないですか?

秋山　あっ! そうです、そうです。そのときに「もしよかったら、メシでもどう?」って言っていただいたんですよね。

──みのさんのほうからですか!?

秋山　じつはそうなんですよ。でも、最近は全然ご一緒できてないんですよね。まあ、今回は『HERO'S』のトーナメントも一段落して自分自身ちょっとゆっくりしようと思ってるんで、みのさんにも近々にはお会いしたいなとは思ってるんですけど。試合前とかは、電話で「体調はどうだ?」「勝てそうか?」とか、いろいろ心配して声かけてくださりますし。

──プライベートな〝おもいッきり生電話〟! 人生相談とかはしないんですか? みのもんたさんだけに。

秋山　じ、人生相談ですか?(困惑ぎみに)。たしかに、みのさんはそんな話が得意なんやろうけど、ボク自身はそんなことはしたことないですねえ(笑)。

──格闘技についての悩みとかは?

秋山　……それは相談しても、たぶんみのさんも困るでしょう。

──あ、それはそうですね(笑)。

秋山　じゃあ、機会があったらしてみましょうか?(笑)。

──ハハハハ! いや、みのさんが困るだけです(笑)。やっぱり秋山さんは3歳の頃から柔道を始めているわけですから。

秋山　そうですね。柔道は3歳からスタートしましたね。

──柔道を始めようと思ったのは自分の意志だったんですか?

秋山　いや、3歳は普通に意志ないと思うんですけどね(笑)。

──あ、そうですね(笑)。

秋山　だから、柔道に関しては全部親父の影響でやってたんですよね。

──じゃあ、楽しいとか苦しいとかいう感覚もなく。

秋山　そのへんは記憶にないんですよ。もう、ご飯を食べるのと一緒というか、ボクの中では遊びの範疇だったんだと思います。



10月23日行なわれたDynamite!!カード発表記者会見では、秋山の念願かなって、秋山vs桜庭の天王山対決が決定。「胸を借りるつもりで挑む」と遠慮がちにコメントした秋山だったがその真相とは?

──格闘技に漬かることを疑問に思ったりすることはなかったんですか?

秋山　いやー、もうそれすらわかりませんね。その時点でのめり込んでたんでしょうね。だから、ボクも柔道以外のスポーツもやったりしたんですよ。球技では野球もやったしサッカーもやったし、それから水泳もしてましたね。でも、いろんなスポーツやってきたわりには、柔道以外はのめり込むことはなかったですね。

──じゃあ、唯一柔道以外ではまっている競技が、いまやっている総合格闘技であると。

秋山　あ、よう考えたらそうですね。

──総合格闘技は柔道技を活かせる場所ではありますけど、その〝柔道一筋〟の状態から総合格闘技に転向されたときっていうのは、いま改めて振り返るとどういった感覚だったんですか?

秋山　新しいことをイチから始めるということで凄い冒険だったとは思うんですけど、そのときは「また新しいことができる!」っていう期待感が凄くありましたね。ほかのスポーツとは違った好奇心みたいな感覚が自分の中に湧いてきて。

──長年の柔道時代と比べて、総合格闘技に没頭するいまの生活ってどうですか?

秋山　いや、大変ですよ。柔道と比べてもこれは大変なところにきたもんやなって。

──なかでも一番大変だなと思うところってどこでしょう。

秋山　全部ですよ。試合も練習も、もう全部です!!

──全部! 柔道と違う点は打撃のあり・なしということもありますが、秋山さんは柔道出身とは思えないほど、打撃でのKO勝利が多いですよね。

秋山　ボク、そうでしたっけ?

──だって、『HERO'S』ソウル大会の奥田正勝戦はパウンドで決着をつけて、今年5月の永田克彦戦も後ろ回し蹴りでKOですよね。それに、つい先日のスミルノヴァス戦もKOだったじゃないですか。

秋山　ああ、そっか。そう言われてみればありますね。

──自分ではそういう意識はないんですか。

秋山　やっぱり柔道技で一本取るほうが一番いいですよ! わかりやすくて。

──でも、KOもわかりやすいですよ?

秋山　でも一本のほうがなんかしっくりきますよね。まあ、KOで一発ダウンさせたほうがラクはラクですけど。

──柔道技はラクじゃないけど、一本取ったほうがいいと。

秋山　ボクはそういう感じがします。やっぱいままで柔道でやってきたからですかね。それに、それが柔道に対しての恩返しになるんじゃないかなという思いもありますし。

──いまって、多くの柔道出身の選手が総合で活躍されてますよね。

秋山　多いですよね。でも、ボクはもっともっと柔道の選手に頑張ってほしいし、もっと増えればいいなと思いますね。やっぱりボク自身、柔道出身の選手がたとえばボクシ

秋山vs桜庭をDo Judge!!

Dynamite!!の超目玉カードであるこの一戦。いったい、テレビの前の格闘技ファンはどっちが勝つと思ってるの? ってことでジャッジした結果が下のグラフ。なんと、『HERO'S』での優勝も手伝って現時点では秋山やや優勢ダー!!



『kamipro Hand』で集計した結果、年齢別に分析すると、不思議なことに、30歳以下の若いファンは桜庭派が多く、逆に秋山派は熟練組31歳以上のファンが多く支持している。この結果はいったい何を意味するのか!?

秋山成勲
Yoshihiro Akiyama

ング出身の選手とか、ほかのバックボーンを持っている選手に勝つと嬉しいですしね。

――秋山さんのそういった柔道に対する思いの根っこというものは……。

秋山　う〜ん、ただ単に柔道が好きでというだけだと思うんですよ。それをたとえばボクがほかの競技をやってたら、同じようにほかの競技が好きでリングに上がってると思うんですけど。

――そんな柔道が嫌いになったことってないですか？

秋山　ある程度、歳を取っていろんな壁にもブチ当たることがあって、そういうときはイヤだなと思うことはありましたけど、それはただの壁なだけで、本当に柔道が嫌いになったことはないですね。

――そういうのも含めて、やっぱり柔道サイコーッ！　ということなんでしょうか？

秋山　ええ、そうですね。柔道はサイコーッ！　ですよ（照れながら）。

――そうですか（笑）。ところで、今回の試合をご両親がリングサイドで観戦されてましたよね。

秋山　ええ。大阪から来てくれたんですよね。親父は試合を観に来たのは二回目ですね。ボクの総合デビュー戦と、先日の二回。親父もまだ仕事があるんで、そうそう休めないというのもありますし。ただ、母親は毎回来てくれはりますけどね。

――今回の劇的な優勝には、かなり喜ばれたでしょうね。

秋山　いやあ、もう本当にめちゃめちゃ喜んでたと思うんですよ。

――お母さまは試合をまったく観ずに祈ってらっしゃって、優勝が決まったときは飛び込むようにリングに駆け込んでましたし。

秋山　あ、そうだったんですか。ボクもボクでわけがわからないし、凄く混乱してたんで何がなんだかって感じであのときのことはあんまり覚えてないんですよね。

――覚えてないですか（笑）。

秋山　たぶん、半分半分くらいですね。

――あのときのリング上では前田（日明）さんが秋山さんに耳打ちでわりと長々とお話をされてましたけど。

秋山　まあ、「おめでとう」とか言われたと思うんですけど……。正直、それ以上のことは何を言われてたか覚えてないんですよね（笑）。だから、会場も凄く混乱してたし、リング上も凄く混乱してたし、みんながみんな叫んでたと思うんですけど、ボクの中ではあのときの記憶というのは、自分の叫んでた声が一番大きかったんちゃうか、という印象だけですね。

――それほど感情が高揚していたと、そういうわけですね。



あきやま・よしひろ■1975年7月29日、大阪府出身。01年講道館杯日本柔道選手権81kg級優勝、02年国際柔道81kg級優勝など柔道で数々の栄冠を残した後、04年Dynamite!!でプロ格闘技デビュー。その後は柔道という強靭な武器をもって総合10戦を闘い、10.9『HERO'S』ではスミルノヴァス、マヌーフを立て続けに破り見事初代ライトヘビー級王者に。177cm、81kg。

前田さんには「おめでとう」って言われたんですけど 正直それ以上のことは覚えてないんですよね

秋山　はい。そういう感じでした。

――でも、さすがにリング上で桜庭選手に対戦要求したのは覚えていらっしゃいますよね？

秋山　ハハハハ！　それは覚えてますよ（笑）。あのときは……、というか、今回の『HERO'S』で最初は桜庭選手と闘う予定だったじゃないですか。それが一度ボツになったんでね。やっぱりそれは決着つけたいなという気持ちはありますし、ボク的にはチャンピオンになったといっても驕らずに、また気持ち入れ変えてやりたいなというのがあったんでね。……まあ、あんまり自分のことチャンピオンやて思うてないんですけどね。

――まだ王者だという実感はないですか？

秋山　実感もないし、あの日はたまたまボクが勝っただけに過ぎないという捉え方をしてるんですよ。本当、たまたま重なった運が強かっただけやなって。

――では、大晦日での桜庭戦はそのチャンピオンの実力を証明するためにも闘わないといけない試合だということもあるんですね。

秋山　それもありますね。だから、自分の証明ですよね。桜庭さんは凄く頭を使う人ですし、気持ちも強い選手ですし、経験も豊富ですし、ボクなんかたまたまこんなベルトを巻かせてもらってるだけで、本当であればやっぱり強い選手はいてると思うんで、そういうつもりでいかないと失礼ですし、それができてこそって感じですからね。だから言ってしまえば、チャンピオンってのは関係ないんですよね。

――もう、チャンピオンになったばかりですけど、初心に帰ろうと。

秋山　そうです。実際、桜庭さんのうまさを考えると、ボクはまだまだ。桜庭さんって、やっぱり打撃にしてもかなりのレベルやと思わされるし、寝技もボクのような柔道技とはまた違う動きをしてきはるし。

――また突拍子もない新技が出る可能性もありますもんね。

秋山　だから、注意せなあかんことが多いと思って、気を引き締めないとなと思いますね。僕はまだまだやなって。だって、桜庭さんて本当にこの世界のパイオニアですからね。やっぱりボクはずっと柔道をやってきてるとはいえ、あくまでも挑戦者という感じですよ。ただ……。

――ただ、なんですか？

秋山　まあそんなこと言っても大晦日なんでね。桜庭さんとの試合は凄く楽しい試合にしたいなと、ボク自身はそう望んでるんですけどね。お客さんもテレビの前の人も喜んでくれはるような。やっぱり、やるからには紅白には負けたくないですしね（笑）。

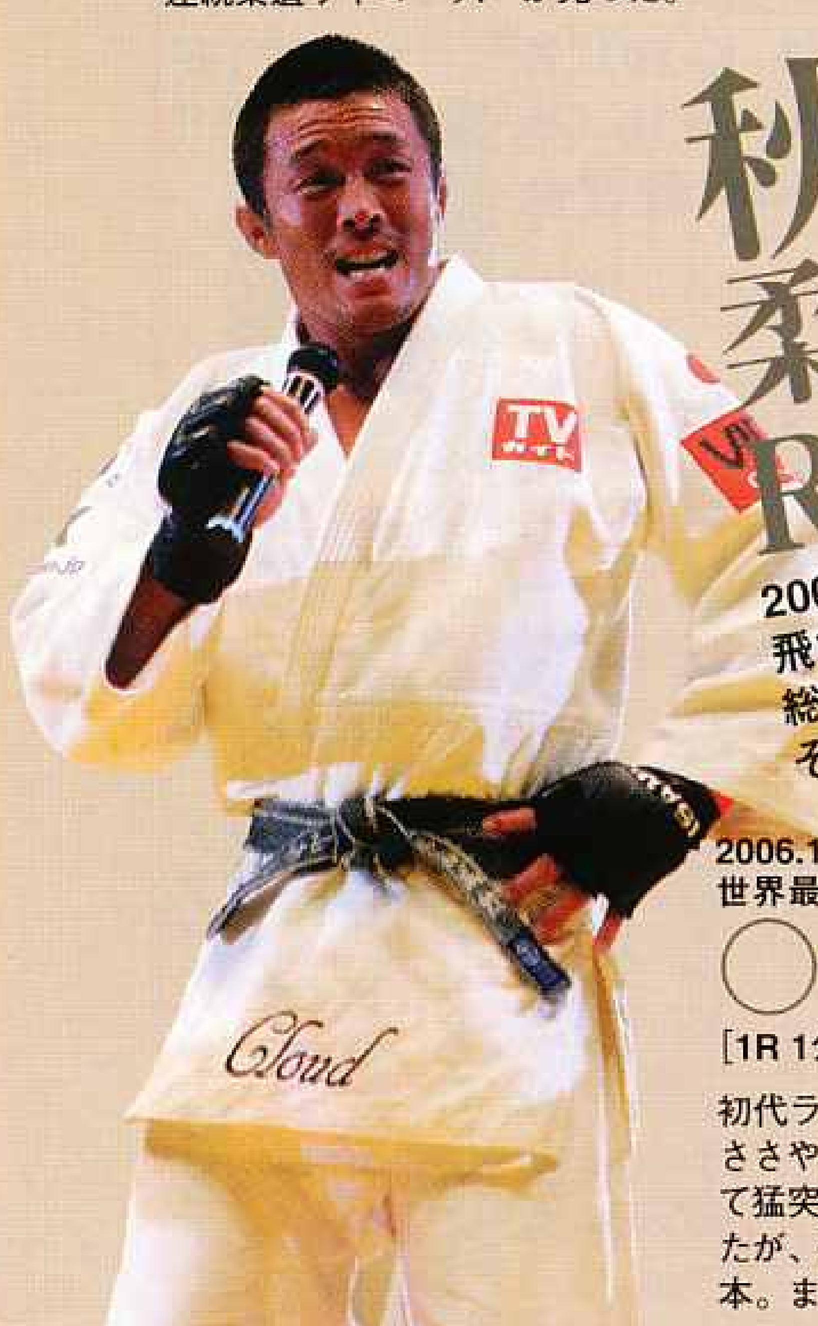
――ああ、やっぱりそこは考えますか（笑）。

秋山　はい（笑）。っていうのは半分冗談ですけど、桜庭さんとの試合はボクの中ではやっとかなった試合なんでね。ボクの全部を全力でぶつけてみたいと思てます。

――わかりました。では、全力の桜庭戦、おおいに期待させていただきます！

【06年10月16日／都内ホテルにて収録】

K-1 PREMIUM 2006
Dynamite!!
[大阪・京セラドーム大阪]
12.31（日）15:00（開始予定）
[対戦カード]
桜庭和志 vs 秋山成勲
[出場予定選手]
山本KID徳郁、須藤元気、曙、武蔵、宇野薫、所英男、永田克彦、金子賢ほか
※出場選手はケガなどの理由により変更となる場合あり
[チケット料金]
SRS 32,000円／RS 22,000円
SS 18,000円／S 12,000円
A 6,000円 ※全席指定・税込
[問い合わせ]
(株)FEG TEL.03-3796-5060



秋山成勲の柔道サイコーッ! REVIEW

2004年Dynamite!!で「柔道サイコーッ!」が飛び出して以来、早くも10戦を闘っている秋山。総合全試合レビューで、そのサイコーッ! 具合をもう一度確認してみよう。



2004.12.31 K-1 PREMIUM 2004 Dynamite!!

○vsフランソワ "ザ・ホワイトバッファロー"ボタ

[1R 1分54秒 腕ひしぎ十字固め]

柔道から総合格闘技に転向して初の試合。セコンドについた友人の清原和博のパワーも手伝って、ボクシングIBFヘビー級元世界王者のボタに腕十字で一本。「柔道サイコーッ!」という名言はこの試合後に飛び出した。



2005.3.26 HERO'S

×vsジェロム・レ・バンナ

[1R 2分24秒 KO]

総合二戦目にして早くもメインを務めた秋山。K-1トップファイターであるバンナと総合ルールでの対戦を迎えた。しかし体格差に悩まされた秋山は得意の柔道技を決められずKO負けに。無念にも、柔道サイコーッ! ならず。



2005.7.6 HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者 決定トーナメント

○vsカール "トゥームストーン"トゥーミィー

[1R 0分59秒 腕ひしぎ十字固め]

バンナに敗れたあと、ハワイのB.J.ペン道場で猛特訓を積んだ秋山。その成果もあってか、ムエタイをベースに闘うトゥーミーに、なんと秒殺腕十字! 7ヵ月ぶりに十八番の"柔道サイコーッ!" 劇場が展開された試合となった。

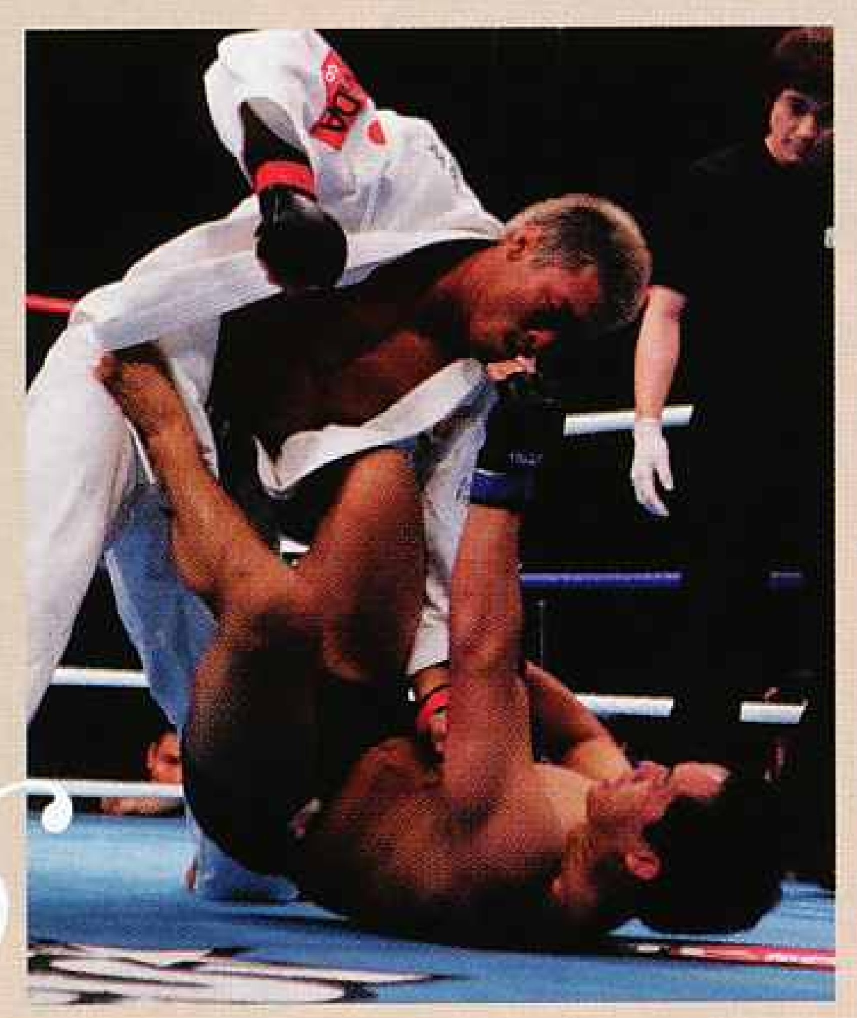


2005.10.12 K-1 WORLD MAX 2005〜世界王者対抗戦〜

○vsマイケル・ラーマ

[1R 2分47秒 TKO]

2005年Dynamite!!出場を懸けて、秋山はボクサーのラーマと対戦。秋山はラーマを払い腰で投げマウントを奪うと、あえて極めにいかず打撃攻めに。柔道を封印しても勝てるという秋山の自信が垣間見られた一戦となった。



2005.11.5 HERO'S 2005 in SEOUL

○vs奥田正勝

[1R 3分31秒 TKO]

"韓国vs世界"をテーマに行なわれた『HERO'S』ソウル大会、秋山は韓国名チュ・ソンフンの名で韓国の総大将として登場。地元・韓国のリングで活躍する奥田からパウンド連打でTKO勝利を奪い、韓国の格闘技ファンから大喝采を浴びた。

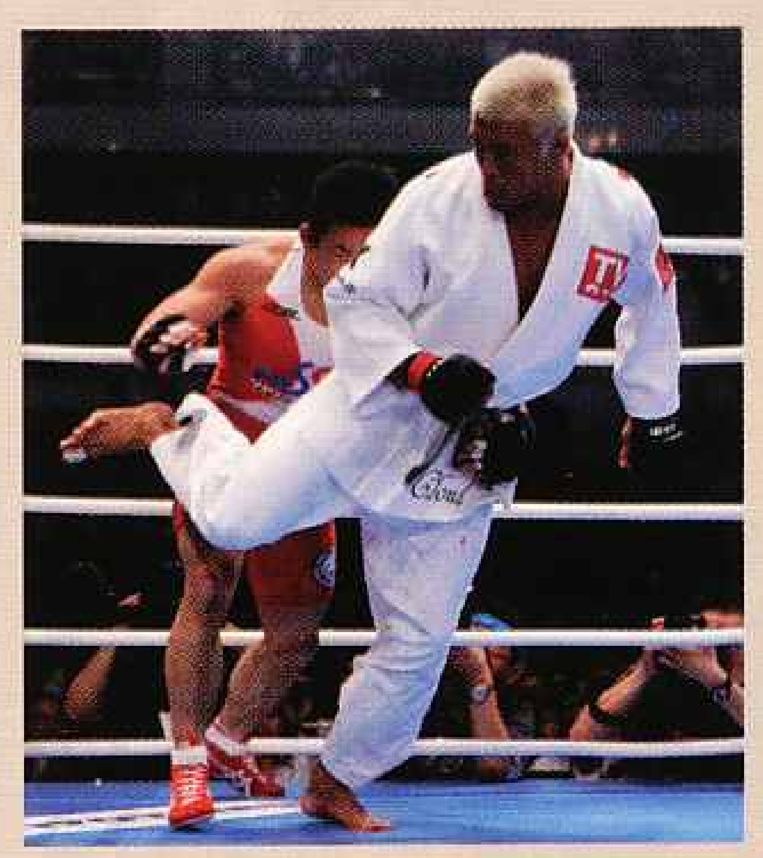


2006.3.15 HERO'S 2006

○vs石澤常光

[2R 1分41秒 袖車絞め]

五輪レスリング金メダリストのカラム・イブラヒムの欠場により、急きょ決まった石澤常光との対戦。2ラウンド、秋山は柔道技の大外刈りでテイクダウンを奪うとそのまま袖車で一本。秋山の連続柔道サイコーッ! が光った。

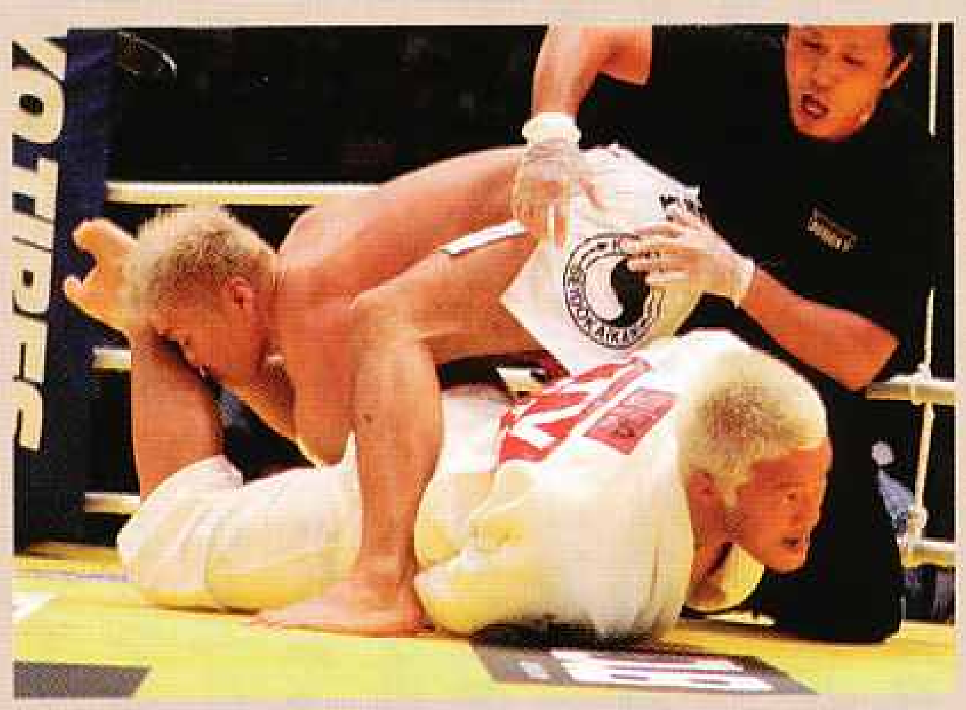


2006.5.3 HERO'S 2006

○vs永田克彦

[1R 2分25秒 KO]

五輪レスリング銀メダリスト永田さん弟との対戦は、秋山が後ろ回し蹴りでKO勝利。試合後、秋山は「レスリングは最高です」と永田の勇姿をたたえ、さらに最後にやっぱり「柔道サイコーッ!」と叫んだのだった。



2006.8.5 HERO'S 2006 ミドル&ライトヘビー級 世界最強王決定トーナメント準々決勝

○vs金泰泳

[1R 2分01秒 判定3-0]

総合初のトーナメント初戦の相手は打撃の師匠である金泰泳。柔道サイコーッ! と言わんばかりに秋山が金に腕十字を仕掛けたが、レフェリーがこれをなんとも不思議なタイミングでストップ。金の不服申し立てもあり、最終的には"秋山の判定勝ち"という結果に。



2006.10.9 HERO'S 2006 ミドル&ライトヘビー級 世界最強王決定トーナメント準決勝

○vsケスタティス・スミルノヴァス

[1R 3分01秒 KO]

トーナメント二回戦の相手は桜庭の予定だったが、ドクターストップにより桜庭が欠場に。そのため秋山は一回戦で桜庭をおおいに苦しめたスミルノヴァスとの対戦となったが、これを右ハイで一蹴。ほぼ無傷で同日の決勝戦へとコマを進めた。



2006.10.9 HERO'S 2006 ミドル&ライトヘビー級 世界最強王決定トーナメント決勝戦

○vsメルヴィン・マヌーフ

[1R 1分58秒 腕ひしぎ十字固め]

初代ライトヘビー級のベルトを懸けた一戦は優勝候補の一人とささやかれていたマヌーフとの対戦。ゴング後、秋山に向かって猛突進するマヌーフ。一発当たればアウト! という勢いだったが、秋山は一度マヌーフに組みつくと腕を放さずそのまま一本。まさに柔道サイコーッ! で見事王者に君臨したのだった。

12.2 K-1 WORLD GP 2006直前！
格闘技イベントの本家本元はこう観て楽しめ!!



kamipro的 K-1 WORLD GP大好き!! になる座談会？

開催を間近に控える『K-1 WORLD GP 2006 決勝戦』だが、この時期になるとどうしても大晦日の格闘技興行に話題が集中しがち。というわけで、『kamipro』の"K"は、K-1の"K"！ と自負（妄想）する本誌が、ちゃんとK-1について考えてみた!!

司会&構成／ジャン斉藤　撮影／乾晋也

designed by matsu（TwoThree）

坂井ノブ（以下、ノブ） 今日はK－1の何をしゃべればいいの？

――K－1本戦ですね。FEGが手がけるK－1MAXや『HERO'S』、大晦日『Dynamite!!』が話題を占めるなかで、ファンやマスコミの視点がいまいち定まらないK－1本戦をどう捉えたらいいのか？ と。

押切伸一（以下、押切） 12月2日にはK－1 GP決勝ラウンドが控えていることだしね。

――ええ。いつもの座談会のメンバーだと結論が見えがちとところもあるので、今日は趣向を変えてK－1にゆかりの深い4人の論客の方々に集まっていただいた次第です。

ノブ いまのK－1を語るのっていまいち想像できないなあ。どういうオチになるんだろう？

松林貴（以下、松林） それはさ、間違いなくK－1からお叱りを受けるようなオチに決まってるよ（笑）。

ノブ それはわかってるんで、余計に語りにくいというか（笑）。

――非常に嫌な出だしだ（笑）。まず簡単に、皆さんとK－1とのそれぞれの関係を紹介すると、押切さんはフジテレビ格闘技情報番組『SRS』の放送作家で、松林さんは谷川さんや柳沢（忠之／ローデス社長）さんと一緒に仕事をしていた愉快な過去があって、坂井さんはボクが知る限り、谷川モンスター軍の最大の理解者なんですよね。

ノブ ……それって"ゆかりが深い"って言うの？

――（無視して）で、井上さんはつい最近まで谷川さんと柳沢さんの会社に10年近く在籍していて、お二人のもとでさまざまな任務を遂行してたわけですけど。

井上崇宏（以下、井上） ポジション的には"将軍様の専属料理人"だから（笑）。俺とK－1のゆかりは深いよ。なんせ10年近く前、大会パンフ用のフォトセッションのときにマット・スケルトンの身体にオイルを塗ってたの、俺だから（笑）。

ノブ そういう意味でも身近だったという（笑）。

井上 でも最近はご無沙汰ですね。だから座談会に出席するにあたって、いろいろと調べてきたんですけど、今年の日本開催大会って、札幌のアンディ・メモリアルと大阪のワールドGP開幕戦しかやってないんですよね。それにまずビックリしたよ、俺は。

松林 いまのK－1のGPシリーズってさ、年間の大会数自体はかなりやってるんだけどね。

井上 かなりやってますよ。海外大会をカウントすると8大会。でも、こんなにやってるイメージがない。

ノブ 海外大会は、05年に『K－1ジャパン』が廃止されてから、頻繁にやるようになってますよね。

押切 『K－1ジャパン』がなくなった最大の原因は、日本人選手が思うように育たなかったということだろうけど、じつは日本でもまだまだやれたと思うんだけどね。こないだのアンディ・メモリアルの札幌大会も、やっぱりお客さんの反応は温かいんですよ。

ノブ テレビに出てくるスターが地方に来たら、必ずお客さんは入りますし。

松林 だから俺は海外にシフトして

日本での興行が減少したから、身近じゃなくなったという気がしてならないんだよね。こういうものって習慣性でしょ。近年、気がついてみれば、K—1ってテレビで観ている印象が強いんだよ、俺は。

井上 その海外戦略の理由づけとしては、世界各地でGP予選をやって最後に日本で決勝大会をやるということなんですけど、K—1って93年にスタートしてから、日本国内ではもうやり尽くしちゃった部分があると思うんですよ。毎年、ドーム興行をプラチナチケット化させたりしてたけど、それを超えるエクスタシーを海外で見つけちゃったと思うんですよね。

押切 それはあるだろうね。アンディ・フグを主役としたK—1スイス大会の成功を見ちゃったこともあって。スイス大会は二年続けて行ったけど、やっぱりアンディは〝スイスの力道山〟的な人気で、本当に凄い盛り上がりだったから。

井上 で、こないだ『PRIDE』が初の海外開催をやったじゃないですか。そこでヒョードルvsコールマンというカードをメインに組んだけど、実際にアメリカで人気があったのはヒョードルだった。あれ、K—1の海外攻略法だったら、やっぱりコールマンがヒーローになるべきカードだよね。そこは『PRIDE』とK—1のブランドの違いだけど、要は『ハッスル』で言うところの〝ご当地モンスター〟を確実に主軸に据えるのがK—1のやり方なんですよ。

ノブ 大阪大会のKIDATA・ローとか、名古屋大会のひつま武士みたいに（笑）。

井上 そうそう（笑）。でも、そのシステムだと、最終的に決勝GPには〝ご当地モンスター〟だけが集まって、日本のファンからするとあまりピンとこないっていう。

押切 海外だけで実績があってもなあ。K—1のターゲットは一般層だから、〝ご当地モンスター〟をマニアックに追いかけるファンはあまりいないでしょう。

井上 ましてや今年にいたっては、日本の〝ご当地モンスター〟である武蔵が開幕戦で負けたからね。

松林 そう考えると、俺が今年のK—1ソウル大会に行ったのは、みんなが見向きもしなかった〝ご当地モンスター〟をわざわざ観に行ったっていうことだよね（笑）。

——観に行きましたね。キム・ミンスら〝シルム三銃士〟を（笑）。

井上 あ、チェ・ホンマンじゃないんだ（笑）。

ノブ あの〝シルム三銃士〟もそうですけど、谷川さんの選手を見る目って凄く確かですよね。強さだけじゃ絶対に見定めないという。

松林 うん。これは直接本人に聞いたんだけど、谷川さんが韓国でジム視察に行ったらしいのね。で、そのときにユン・ドンシクがいて、ユンの寝技に「これは凄い！」って感心したんだけど、「でも、興味が湧かなかった」っていう、そのモンスター指向の鼻の利き方はお見事だね。

ノブ そんな谷川さんのセンスで選りすぐられたモンスター集団、いわゆる〝谷川モンスター軍〟ばっかりがおもしろくなっちゃったのがボクだったんですよ（笑）。いわゆる正統派のK—1ファイターたちに年齢的な衰えも見えるなかで、彼らが築いたK—1をブチ壊しにかかる〝谷川モンスター軍〟という構図がおもしろく見えて。

——坂井さんは当時から一貫して〝谷川モンスター軍〟を絶賛してましたよね。

ノブ ホント大好きだよ。一番象徴的だったのは武蔵vsモンターニャ・シウバ。シウバが有無を言わさぬ反則暴走で武蔵をボコボコにして現場をグチャグチャにして、角ちゃん（角田信朗）が大激怒するっていう（笑）。

——でも、そういうモンスター路線って熱心なファンから大反発を受けていたわけじゃないですか。

井上 ……俺も嫌いだったなあ。べつにあれはあれでいいんだけど、なんか「これうめえから食えよ‼」って谷川シェフが言ってない気がした。いわゆる〝シェフおすすめメニュー感〟がなくて、「お口に合いますかね……？」っていう感じで出してなかった？ 「そんな感じで出されても、なんか当たりそうで食いたくないなあ」っていう（笑）。

松林 そこは無意識なんだよね、きっと。モンターニャの反則暴走のときってさ、俺個人のなかでは「これ、なんか反則暴走したらおもしろいな」っていう感覚があったんだよね。そしたらそれがそのとおりになって、大会終了後のバックステージで〝黒幕はこいつだ！〟みたいな感じで谷川さんが記者に囲まれちゃってさ（笑）。

ノブ 谷川さんは「ボクじゃないですよぉ！」って、いまとちょっとも変わらないスタンスでしたけど（笑）。

松林 本人はまったく無意識だということを前提に考えると、何かを引き起こすK—1の力はとてつもないよね。

押切 初期のK—1もそうだったよ。K—1の始まった頃の立ち技最強はモーリス・スミスで、最初のGPは「佐竹が決勝ぐらい行くのかなあ」なんて思ってたら、日本では知られていないホーストとブランコ・シカティックがやったことでK—1の世界が拡がった。そういった運がK—1にはありますね。

ノブ そのホーストが負ける場面にしても、アーツが負ける場面にしても、なんかこう崩し方がうまいんですよね。いままで最強とされていた選手がスコーンと負けるドラマの見せ方が凄くうまい。

押切 その世界観に触れた吉田秀彦が「格闘技って、負けてもいいんだ」と驚いたわけだよね。そりゃそうだよね。それまで〝勝ち〟しか許されないアマチュアの世界で闘ってきたトップアスリートからすれば。つまり、「負けても光れるんだ」いう発想の転換なんだけど、それは亀田三兄弟にはできていない。

松林 手元にデータがないからよくわからないけど、アンディ・フグってK—1の戦績はそんなによくないよね。

押切 全体的に勝ち越してはいるけど、けっこう負けてもいる。後半はけっこう安定してたけど。

——その〝常勝チャンピオン〟じゃ

正統派なファイターたちが築いたものを破壊したのが〝谷川モンスター軍〟（ノブ）

K-1大好き出席者



押切伸一
ライター。コラムニスト。大学生時代からライター事務所に所属し、精力的に活動。やがて趣味だった格闘技観戦が活発化し、『Hot Dog Press』（講談社）の格闘技特集構成を手がけたことが遠因で、フジテレビ系列格闘技情報番組『SRS』の放送作家に。



井上崇宏
プロレス・格闘技の携帯サイト『スカパー！バトルLIFE!!』の編集ほかの業務を行なっている『ペールワンズ』の総帥。『SRS-DX』を制作していたローデスに在籍。『グレート・アントニオ』営業本部長の経験も。最近、ターザン山本!にシュートを仕掛け話題に。



松林貴（右）
『kamipro』編集次長。小っちゃい『紙のプロレス』時代から、谷川氏や柳沢氏ら現K-1首脳部と愉快な愉快なつながりを持つ。ロシアではRTT総監督のパコージン氏をも「サムライ!」とうならせるほどの酒豪っぷりを見せつけ泥酔! 日本の恥をいかんなくまき散らした。



坂井ノブ（右）
本誌企画制作部。kamiproでは、WWEやハッスルなどを担当。エンターテインメントの側面から、K-1の魅力を切り取り、谷川モンスター軍が猛威を振るっていた02～03年をK-1の絶頂期とする独自の持論を持つ。基本的に何事にもやる気が見られない。



ジャン斉藤（左）
『kamipro』編集部、冷酷な本誌進行役。“雀鬼”桜井章一の内弟子を経てダブルクロス入り。アントンの永久電気情報整理にモチベーションを燃やす毎日。そのアントンの婿養子であり、新日本プロレス社長であるサイモン氏とダーッ! と記念撮影。次はいよいよアントンだっ!?

なくても成立する筋はいまでもビシッと通ってますけど、昔からK―1を観ているファンにとってはだいぶイメージが変わってきてますよね。

松林　そういう意味では、ここ数年は海外での予選があまりにも多くてさ、どんな選手が出てるのかわからないのは勉強不足って言われちゃうかもしれないけど、馴染みの薄さが確実に影響してるよね。

ノブ　いま「これぞK―1！」っていうのは、なんなんだろうなあ。それは人によって違うとは思うんですけど。ボクはやっぱりさっきも言ったようにモンターニャ・シウバvs武蔵なんですよ。

――自分の場合は、実況席を固める藤原紀香と長嶋一茂かな。なんとも言いようのないK―1らしさが、あの二人からビンビン感じます（笑）。

井上　世間的にはもう少しで谷川さんかな。だいぶ前に、『リンカーン』っていうバラエティ番組で歌合戦コーナーがあって、グッさん（山口智充）が凄くうまいんだけど。グッさんが歌い終わったあとに、蛍ちゃん（蛍原徹）が「こいつ、ホントにうまいでしょ？　うまいでしょ？」って騒いでいたら、松ちゃん（松本人志）が「おまえ、何、自分が連れてきたみたいに言うてんねん。おまえはK―1の谷川か!?」って突っ込んでたからね（笑）。

一同　ガハハハハ！

井上　もう、松ちゃんがそう言っちゃうぐらい谷川さんのキャラは認知されてる。しかも画面の横に谷川さんの写真がポンッて出て、ちゃんと「©FEG」ってついていて（笑）。

松林　いまの話からすると、谷川さんの写真を出させて「©FEG」って出させるぐらい、K―1はちゃんと大衆に理解されてるってことだよね。

井上　で、そんなK―1に俺が持っていたイメージは、ジャニーズとかのアイドルが登場してきたときの『POP JAM』の会場と同じノリ（笑）。

ノブ　どんなノリですか（笑）。

井上　俺、ああいうの大ッ好きだから！　『POP JAM』とか音楽番組で「次は●●で～すッ！」ってアイドルが出てきたときの会場の「キャーッ！」っていう歓声が大好きなの、俺は（笑）。

ノブ　それってK―1というスポーツを楽しんでるのとは違いますよね。

井上　その黄色い歓声込みでK―1。いまでいうと、K―1 MAXのコヒvs魔裟斗を会場で観てるときなんか、ホント頭おかしくなりそうになるもん（笑）。

――ハハハハ！　それは「自分も声援を浴びたいぜ！」という願望も込みですか？

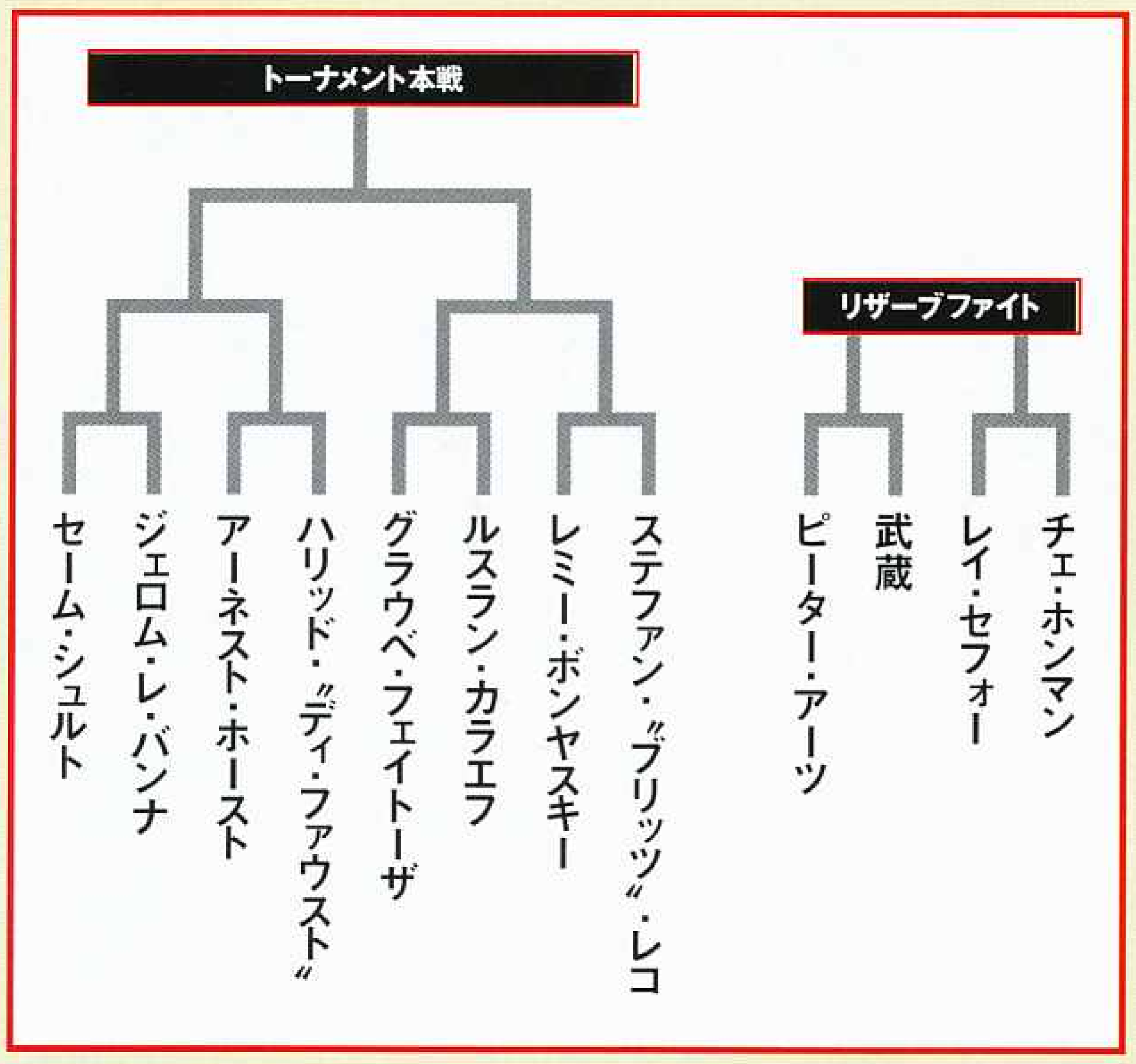
井上　いや、それはなんなんでしょう……？　単なる黄色い声援フェチというか、モテモテの人を見てるだけでこっちも気持ちがいいというか（笑）。そういう意味では西城秀樹をスーパーマンのごとく見てたような感じでピーター・アーツとか、アンディを見てましたけど。

押切　『SRS』でマイク・ベルナルドの引退特集をやったんだけど、昔は街を歩くと「キャ～！　カワイイ～！」とかさ、一般人に騒がれるわけよ、あれで。

ノブ　今回の決勝ラウンドに残った8選手には、そういった『POP JAM』的雰囲気はないですよね。

井上　いまは一見してちゃんとした競技っぽいよね。整備されたGPの予選システムとかにしても。

押切　最近は判定がしっかりしているところも、モンスター路線の批判に対して、ずいぶん正直に修正を図ったとこ



比較的出場メンバーのキャラが薄いトーナメント本戦は01年大会以来、5年ぶりに日本人選手がゼロという事態に！　しかし、しかしである。リザーブファイトで武蔵が出場するのだ。ということは、武蔵も優勝の可能性がないわけじゃない。谷川マジックは起きるか!?

黄色い声援を浴びていたアンディをスーパーマンのごとく見ていた（井上）

はあるんだろうし。

――そのモンスター路線をひも解いてみると、03年から加速してるんですよね。

井上　その前年にサップが大ブレイクして、K―1開幕戦でホーストに勝って、リベンジ戦でも勝って。で、翌年の3月にミルコがそのサップを潰して、そのままミルコは『PRIDE』に転出したんですね。

――その03年は、『PRIDE』がどんどん格闘技としての純度を深めていった年でもあるんです。その〝60億分の1〟路線の向こうを図らずも張るかたちで、K―1はモンスター路線に向かって、その最たるものが大晦日のサップvs曙。

ノブ　サップvs白いサップ（ステファン・ガムリン）とか、中西学vs TOAがあったりして、やっぱり03年が一番、おもしろかったなあ……。

松林　〝60億分の1〟で思ったけど、K―1ってさ、かなり大げさに言っちゃうと、60億人全員にチャンスがありそうっていう、凄い懐の深さが感じられるでしょ。

ノブ　ハハハハ！　明日のスターは〝60億分の60億〟。

松林　でも、60億人にチャンスがあるぶん、そのハードルはメチャクチャ高いわけだよ。単なる強さ以外にいろんな要素が求められるから。

ノブ　でも、そのわりには、谷川さん好みのモンスターが次から次へと出てきますよね。

松林　それは冷静に考えるとけっこうぜいたくな話でさ、ここ数年で考えたら、ボブ・サップ、曙、チェ・ホンマンだよ（笑）。

ノブ　ほかにも関脇、小結級のモンスターがウジャウジャいたし、相当ぜいたくですよね（笑）。

松林　ところで、K―1って最近はおもしろくなくなってきているっていう論調はあるの？　いや、つまらないって言ってるわけじゃないんだけど（笑）。

――一大会における観客の前のめり具合が薄くなってるところはありますよね。

押切　大会の熱、つまり期待感という点では落ちている。そこはさっきも話に挙がった海外大会の多さが影響してると思うけど。

井上　いま、熱狂的なファンっていうか〝K―1信者〟っているんですかね？　『PRIDE』にはいわゆる熱狂的な〝PRIDE信者〟がいるわけですけど。やっぱりファンもMAXや『HERO'S』に流れてるよね。

ノブ　熱狂的なK―1ファンがたくさんいた頃って、やっぱりアンディ・フグが活躍してた時期になるんですか？

押切　97年に極真からフランシスコ・フィリオがやってきて、アンディ・フグとか、ベルナルドとか、アーツに勢いがあってシンプルに熱狂できた時代が一番よかった頃なのかな。ただ、ボブ・サップvsホーストの二回目の対戦のときは、会場全体がホー





02年に日本マット初登場以来、マット界の常識のすべてを覆してしまったボブ・サップ。現在K-1とは関係がこじれたままだが、本文でも触れられているように電撃的な復縁を期待したい。そして、坂井ノブ、I編集長の心を捕らえて話さないモンターニャ・シウバの復活も!

kamipro的 THE K-1

サップは絶対に戻るべき 彼が一番光るのはやっぱりK-1（松林）

ストの応援してたよね。急に「K−1を守れ！」みたいな感じになって。
ノブ　あのときのボブ・サップって、軒並みK−1を壊しちゃうんじゃないか？　っていう空気があったと思うんですよね。何を壊されたのかはわからないけど、サップ以降、K−1の何かが変わったところはありますね。
井上　だからねえ、いまはまだボブ・サップの時代が続いてるんだと思うよ。いまのK−1のリングに必要なのはサップ物語の続編だよ。それに現時点での「K−1に帰ってきたボブ・サップ」はかなりインパクトがあるし。
――サップって、それまでのK−1どころか格闘技のあらゆる常識を覆して、そのサップ本人はもういませんけど、じつは概念的な存在としてK−1に残ってるということですよね。要するに、K−1はサップ以降の新しい世界観を体現できる選手がいなかった、と。
松林　サップが出てくる前のK−1って、いまの『PRIDE』と観客対象はそれほど変わってないでしょ。
押切　『POP JAM』と硬派な世界が両立してたわけだよね。
松林　そう考えると、客観的に見てここ数年、K−1に低迷感があるっていうのは、サップ・ブームの反動なんだろうね。
押切　そうでしょう。だってテレビに露出するということをK−1の一つの尺度とすれば、あんなにテレビに出たヤツもいなかったからね。サップ時代のK−1の視聴率は史上最高だったし、クリスマスの明石家さんまとSMAPの番組で、「今年の顔」としてサップが出てきたぐらいだから。
井上　グッズもサップ絡みはメチャクチャ売れましたからね。あのブームに便乗した直後に『グレート・アントニオ』は潰れるんだけど（笑）。CDや写真集も出て、原宿にサップのオフィシャルショップなんてのもできてたし。
――ありましたねぇ（笑）。あと、プロレスが最後にゴールデンタイムでやったのだってサップのおかげですよ。『W−1』なのにテレビでは「ボブ・サップのバトルエンターテインメント」というタイトルになって放送されて（笑）。
松林　それくらいのとんでもない逸材だった。サップが示したレベルメーターがそれまでの格闘技界になかった部分まで上がっちゃったんで、そこが基準となるとそりゃ大変だよ。その点から考えてもやっぱりK−1のレベルって、とてつもなく高いんだよ。60億人にチャンスがあるだけに。
押切　サップはホントに舞台を選ばず、総合格闘技もやって、K−1もやって、プロレスもやって、テレビにも出て、おもしろい顔するし、紙を食うし（笑）。
――そんなモンスターがいたら、どんなシリアスなキャラクターが出てこようと、当然サップ的なものが求められちゃうじゃないですか。「おまえはサップになれるのか？　サップはこれだけやったんだぞ！」と（笑）。
ノブ　レミー・ボンヤスキーなんて二連覇しているのに。
押切　そういうモンスターの悲しみでいうと、ミルコ戦で負けたとき、その事実をみんなわりと許容しなかったんだよね。「サップは弱い」とか「気持ちがちっちゃい」とか。あのときサップを切り捨てるほうに向かったのが、最近の日本人の余裕のなさっていうか。
ノブ　あの試合まで、誰もがサップは強いと信じてましたよね。
押切　サップが強いのは疑いなかったでしょ。ノゲイラとあんな死闘をやって、ホーストを二回も倒して。あれで弱いとは誰も思ってなかったでしょ。ただ、その熱狂の渦に格闘技界全体が飲み込まれてたけど、唯一ミルコだけが冷静に闘って勝っちゃったっていう（笑）。
ノブ　逆にあそこでミルコが浮上しましたよね。
――そのミルコがK−1に残っていれば、また新しいK−1のステージに進めたと思うんですけど、ミルコがすぐ『PRIDE』へ移ったことで、サップの後遺症だけが続く結果になったわけですよね。幻想を壊すには、新たな幻想を作んなきゃいけないですけど、幻想を作ったミルコをそのまま『PRIDE』が持ってっちゃったという。だから、もう一度サップが戻ってこないことには、次のK−1の扉が開かないような気がしますね。
井上　戻ってきたらおもしろいよ〜。いまはホントにリング外で対立してるわけだからね、谷川さんが「あの野郎、シュルトを当ててやろうかな……」って言うぐらい（笑）。その抗争をリアルにK−1のリングでやったら、エンターテインメントとしては最高だよ。
――谷川さんもサップ問題には相当に必死ですよね。問題が問題だけに過敏にはなるんでしょうけど、あんなに息巻く谷川さんは見たことないから、よっぽどほかのリングにサップを上げたくないんだなっていう。
松林　そこは谷川さんの本能だと思うよ。皮膚感覚でいまでもサップはK−1の象徴だっていう意識があるんだと思うんだよね。
井上　谷川さんだけが知っている、ボブ・サップの本当の価値（笑）。
松林　こうやって話をしてみると、サップは絶対にK−1へ戻るべきだな。サップが一番光るのは、やっぱりK−1だよ。『kamipro』の総力を結集して「サップをK−1に！」運動を展開しなきゃいけない（笑）。
ノブ　しかし、東京ドーム大会の煽り企画の締めが「サップよ、おまえはK−1に戻ってこい！」でいいんですか（笑）。
松林　いや、俺が思うに、いまのK−1って無理に煽らなくても楽しめ



ハードパンチが売り物で、K-1を支えた名優マイク・ベルナルドが9.30大阪大会で引退セレモニー。時代はたしかに移り変わっている。

ちゃう世界なんだよ。それはやっぱり安心できる大衆感があるからでしょう。イメージするとK−1って下町とかにある洋食屋の名店みたいなもんで、ハンバーグもあればエビフライもカニグラタンもなんでもある感じでさ。誰でもおいしく食べられるし、誰の口にでも合うという。

井上　それ、けっこう食いたいですよね（笑）。そうすると、MAXはカフェブームのカフェめしみたいな感じで。いまのMAX人気はサップの反動もあるかもしれないですね。

押切　それもあるでしょう。大味だけじゃ物足りない人たちが増えた。

ノブ　いや、大味なら大味でホンットにね、吉牛みたいにならなきゃダメですよね、K−1は！

——ハハハハ！　いまは米牛肉が輸入解禁されたけど、おそるおそる出してるイメージがありますね、K−1も吉牛も。

松林　大味さが足りないね。この前の大阪の開幕戦で一番物足りなかったのは、試合後のコメントのチェ・ホンマンの謙虚さ。凄く物足りなかったね、俺は。

押切　ホントはそんな男じゃないのにね。帽子を斜めに被ってる自分をカッコイイと思ってるあたりで、それはよくわかる（笑）。

——そのホンマンにいまいちモンスターさを感じないのって、ちゃんと練習して勝ってるアスリートしての姿が見えるからじゃないですか？

押切　うん。努力が見えるよね。俺はチェ・ホンマンにね、「ジャブとストレートは禁止！」って言いたい（笑）。勝ち負けはともかく、フックとアッパーで振り回す系だけで闘えば、もっとスターになると思うんだけど。

松林　要するに、いまのホンマンって、ボブ・サップが高山善廣に腕十字で勝っちゃうようなつまらなさがあるじゃない。

ノブ　あの試合はつまらなかったですねえ。モンスターが技術を覚えちゃダメなんですよ！

松林　根はプロフェッショナルであってでも、キャラに徹するところがないとダメなんだよね。そういう意味でもやっぱり、いまのK−1にはサップカラーが必要なんじゃないの（笑）。

井上　だから俺はね、12月2日に試合は間に合わなくていいから、サップはGP優勝者にぜひ噛みついてほしい（笑）。それでもう2日は満足。フィナーレが終わったときに、「それで勝ったつもりか!?　フハハハハ！」って声が会場に響いてさ。

——ドームの上空から、〝黒いタマアゴ〟が舞い降りてほしいですね。まさにK−1のエスペランサ（希望）という（笑）。

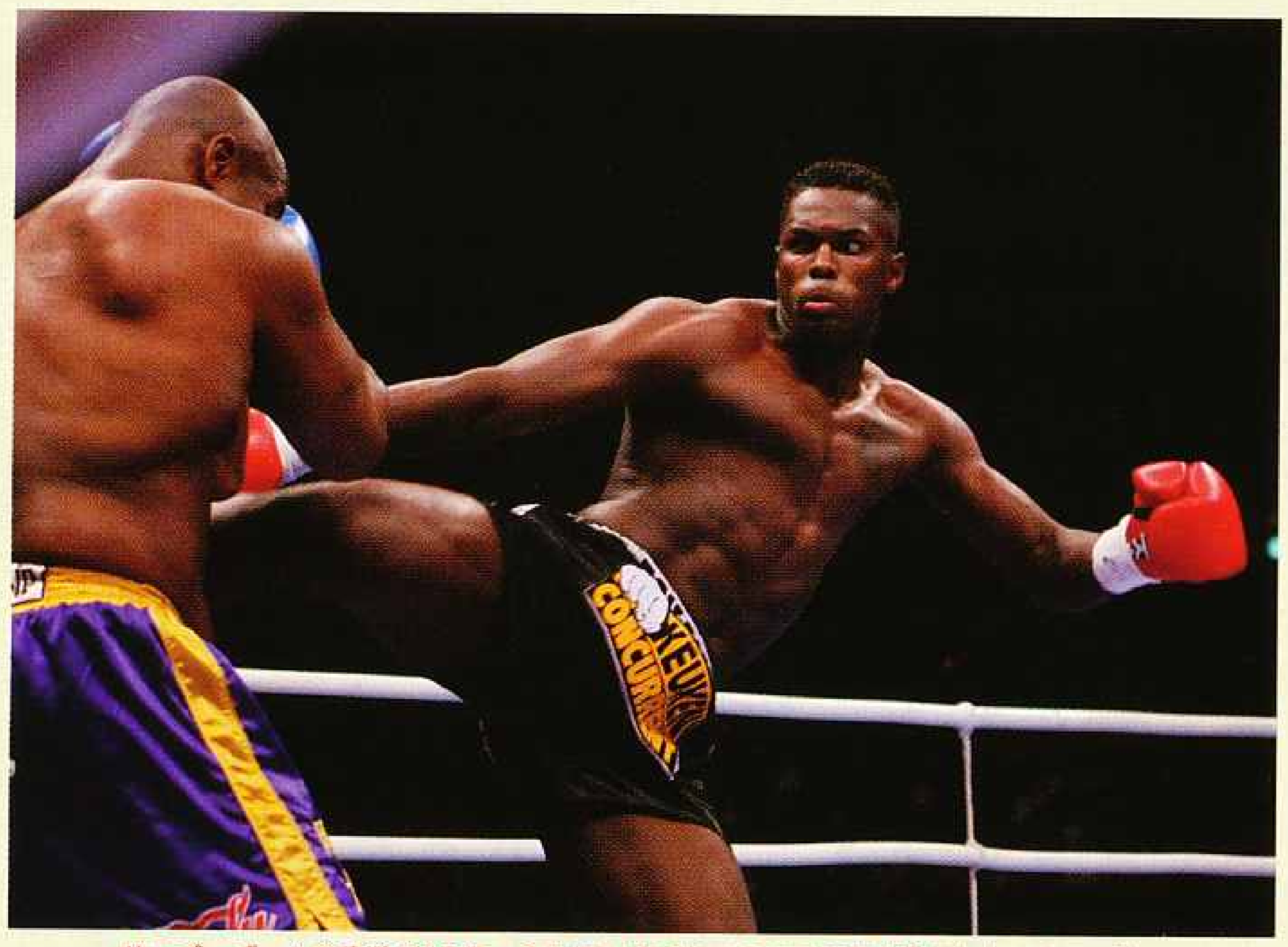
ノブ　それぐらいやってくれないかなあ。最近のK−1は襟を正しすぎてるから。ここぞというときの襟の正さなさこそ、エンターテインメントの正しい姿勢ですよ。盛り上げるためには、なんでもやる！　という。

——でも、FEGの全体を俯瞰すると、いまはバランスが取れてますよね。『POP JAM』的なMAXや『HERO'S』があって、襟を正さないお祭りの『Dynamite!!』があって、とりあえずK−1本戦はちょっと真面目にやってます！　っていう。

押切　GPの開幕と決勝は特別なものという意識はテレビの制作側にもありますよ。

ノブ　それはそれで正しいですよね。3つのカラーをちゃんとハッキリさせてるから。

押切　逆に『PRIDE』のファンは、『PRIDE』に勝負論を絶対視しているんですかね。それとも、バター・ビーンと美濃輪が出てくると、あれはあれでいいと認めたりするのか……。



サップ・ブームの直後の03年、そして04年のK-1GPで連覇を果たしたレミー・ボンヤスキー。ヘビー級随一のテクニックを誇っているが、K-1のアイコンと化すまでには至らなかった。サップ・シンドロームの最大の犠牲者と言えるのかもしれない。

やっぱりGPの開幕と決勝は特別なもの　その意識はテレビの制作側にもある（押切）

ノブ　美濃輪に関してはそうですね。あと最近でいえばDJ GOZMAとかはわりと許容気味ですよね。

押切　たとえば、批判もあったみたいだけど『PRIDE』ラスベガス大会が勝負論的にそんなに拮抗してなくても、全体的には許容の範囲？

——極端に言うと、『PRIDE』の場合はあくまで個人に向けられるんじゃないですか。美濃輪なら美濃輪、コールマンならコールマンに。批判がある場合も『PRIDE』のイメージが……」みたいな批判のされ方で、結局、個人の能力やカラーに求められう側面があって。K−1の場合はその逆で、「やっぱりK−1は……」という感じで最終的に団体のカラーとして受け止められるところはありますね。

押切　個人に興味ないってことかあ。でもまあ、武蔵が疑惑の判定とかになれば攻撃はしたいっていう層はいるわけだろ。

ノブ　最終的に批判を背負わされるのは誰なのか？　っていうことなんですよね。いまだと谷川さんになるんでしょうけど。

——あとK−1って大会があるたび批判されますけど、ファンもそうしたいところはありますよね。

押切　批判の余地をあえて残してるんじゃないの（笑）。ファンが批判して大会が完結する。K−1は参加型のイベントとして。

——それが快感になってるところはあるんじゃないかなって。何もなかったら何もなかったで、「つまんねえなあ……」っていう。

井上　でも、そのスタンスに飽きてきた結果が、『kamipro』でK−1について語ろうっていうことなんだよね？（笑）。

——そうなんですよ！（笑）。

井上　もうその見方も飽きたし、どうすりゃいいんだよっていう（笑）。

押切　トーナメントの歴史が長くて、定着しているから、とにかくそれを観れば楽しめる、という安定感はある。すんなりと勝負が決まらないし。

ノブ　やっぱり一日に3試合やると、決勝に上がってくるときにはボロボロですから波乱は起きますよね。

押切　バックステージは野戦病院みたいですよ。

ノブ　そこまで無理してやるかっていう。

押切　そこはさ、もう空手イズムなんじゃないの。

松林　ちょっと強引な大括りかもしんないけど、K−1を観るときに、大山倍達を許容するかしないかの差はかなりあると思うんだよね。

押切　もの凄くある！　だって石井館長がいて谷川さんがいるんだから、それはありですよ。梶原一騎の劇画

を頭に描いてた世代なんだから。

松林　だって熊と闘うんだよ？　新日本勢まで出てるんだからね（笑）。そのイメージはいまも昔も変わらないんだから。

――K―1カラーは進化した梶原一騎ワールドだったんだ（笑）。ノブさんは、梶原一騎的な世界があるから許容できるところがあるんですか？

ノブ　俺はそれほどでもない。むしろデカい人がバカバカ闘ってるっていう全日本プロレスとか、言っちゃえばNFLとか、そういうのがK―1カラーだと思ってるから。あと強いて言えば、「いままであるK―1やプロレスの価値観を壊してしまえ！」っていう組織ぐるみの企みが透けて見えてくるのがいいな。いまハッスルで髙田モンスター軍がやってる「古いプロレスの価値観を壊す」っていうことを、先取りしてやってたイメージがK―1にはあったんですよ。

井上　そういえば、K―1が新日と交流してたときさ、俺が仲良かった●●関係者の人が「谷川さんにはどんどん新日に協力して選手を送り込んでほしい。このままいくと新日は潰れますよ〜」って言ってたんだよね（笑）。

一同　ガハハハハ！

ノブ　やっぱり谷川さんは〝壊し屋〟なんですよ。谷川モンスター軍っていうのはデカいヤツが暴れてるっていう意味じゃなくて、「古い価値観を壊す役割の人たち」っていうことなんだよね。中邑真輔がイグナショフにボコボコにやられたりとか。柴田勝頼が天田ヒロミにやられたりとか。武蔵も柴田勝頼とプロレスやりましたよね。

井上　柴田と武蔵が会見で乱闘して、その後ろで谷川さんがクスクス笑ってるっていう。そのありさまも全部誌面に載ってたし（笑）。

ノブ　プロレスをあらゆる意味で壊してんだよなあ。石井館長が何かを創造する生産性の人だとしたら、きっと谷川さんは破壊する人なんですよね。今年のGPは、何を壊してくれるのかなあ。

――誰が優勝するかよりは、どう転がっていくのかっていう過程は見ものですね。

ノブ　メンバーは地味だけど、逆に言えば、主催者側からいったら、これほどマジックの起きやすい大会はないからね。

kamipro的 THE K-1



最高の結末は武蔵とホンマンの"リザーバー同士"で決勝戦!（ノブ）

座談会の結論は、なんと武蔵とチェ・ホンマンの"リザーバー"決勝戦!　これでいいのか!?　と疑問を挟まれても、いいんです!!　と胸を張って返答できるドラマを生み出す気配が満点だ。

押切　……どれがハッピーかはわかった！　やっぱり武蔵だ。リザーバーから上がって優勝したら、これは凄いよ。

ノブ　まさしくK―1ですね（笑）。

松林　たとえつじつまは合ってなかろうと、K―1は「細かいこと言わないの!!」っていう感じでオッケーだからね。

ノブ　あの大味のスケール感はハリウッド超大作なんですよね。それが『武士道』で起きちゃうと、なんかモヤモヤしちゃうけど。

押切　武蔵は第一リザーブファイトでアーツとやるね。第二リザーブファイトがセフォーvsチェ・ホンマン。

ノブ　ホンマン！　わざわざ〝第一〟〝第二〟と銘打つところに、谷川さんの意気込みをビンビン感じるなあ。

松林　暗黙のうちに、もう本戦トーナメントには期待してないんじゃないか？　っていう観る側の妄想が成り立つよね（笑）。

押切　02年に、サップに一回戦でKO負けしたホーストがサップの負傷欠場によって、そのまま勝ち上がって優勝しちゃったけど。これぞゴット・アングルでしたよ（笑）。

ノブ　あれは最高のシナリオであり、最高の結果ですね。つじつまよりも、ドラマ性を優先するそんなK―1が大好きですけどね。

――このK―1らしさがなくなったら、じつは本当にプロレス冬の時代を迎えそうですよね。プロレスを単なるハードヒットなものでしか提示できない時代に。

松林　だから、今年のプロレス大賞が鈴木みのるとか丸藤になって、ベストバウトが丸藤vsKENTAだったら、俺は心置きなくプロレスとおさらばできる。あの試合にベストバウトをあげてたら、第二、第三のハヤブサが生まれるおそれがあるから。だからこそ「いまこそK―1からプロレス大賞を！」って言いたいね、俺は。

ノブ　というわけで、今回の最高のシナリオは、武蔵とホンマンの〝リザーバー対決〟の決勝戦で、終了後にサップが現われて、優勝者と『Dynamite!!』で対決、と。これはおもしろそうだなあ。

松林　そうなったらさ、「んあ〜！　一年間かけてやってきた海外GP予選ってなんなの？」ってことになるけどさ（笑）。それも谷川ワールドの醍醐味だからね。楽しみだなぁ。

井上　冒頭の話じゃないですけど、K―1を身近に感じさせなくなった海外予選システムをぶち壊すという意味でも、最高の結末！　いまのK―1に必要なのはサップとポップですよ！

【06年11月2日／新宿・某所にて収録】

『K-1 WORLD GP 2006 IN TOKYO 決勝戦』

東京・東京ドーム　12月2日（土）17:00開始

【対戦カード】
［決勝トーナメント］　※140ページ参照
［スーパーファイト］バダ・ハリ vs X

【チケット料金】
SRS 35,000円（アリーナ特典DVDつき）
RS 22,000円（アリーナ特典DVDつき）
SS 15,000円／S 10,000円／A 6,000円／B 4,000円

【お問い合わせ】
FEG　TEL.03-3796-5060

MMAはブームになっているが私にはK－1のほうが魅力的だ

――ホースト選手は今年のワールドGPで引退を表明されていますよね。ということはあらゆることが最後の経験になるわけで、かなり感慨も深いんじゃないですか。

ホースト　そのことはよく聞かれるんだよ。でも、やってる本人からすると意外にそうでもないんだ。「言われてみればそうなのかな」って程度でね。

――あ、そんなもんなんですか（笑）。

ホースト　とにかくこっちは試合に勝つために集中してるからね。

――感慨に浸ってる場合じゃないと。今回のベスト8メンバーを見ると、当然ながらホースト選手より若い選手ばかりですよね。メンバーの変遷が、K－1の13年間の歴史を感じさせるというか。

ホースト　K－1での13年というより、私の場合はデビューしてからの23年間というものに思いを馳せてしまうね。開幕戦で負けてしまったけど、バダ・ハリという選手がいるだろう？　彼はいま21歳なんだ。ということは、私がプロになって二年後に生まれたということだ。

――ホースト選手の現役生活より、彼の全人生のほうが短い、と。

ホースト　そういう選手とGPで闘う可能性もあったんだと考えると「あぁ、私もずいぶん長いこと闘ってきたんだな」と思うね。

――K－1の頂点に4度就いたホースト選手ですが、K－1が始まったことで人生が変わったという感じはありますか？

ホースト　やはり大きいのは、K－1に出たことでファイターとして食べていけるようになったことだね。有名にもなったし、試合を通じて人に勇気とか感動を与えられる立場になった。K－1がなければそんなふうにはなれなかったわけだから、K－1に対する特別な思いというのは確実にあるよ。

――この13年間の中で、ホースト選手が「このときが一番、充実してたな」って思う時期はいつになりますか？

ホースト　99年から2000年の二年間だろうね。

――連覇を果たした時期ですね。

ホースト　そう。あの頃の私はあらゆる面で充実していたし、しっかり練習さえしていれば誰にも負けないんだという自信があったな。手強いライバルたちがいて、それでも勝ち抜くことできたという意味で、私はあの頃の自分を誇りに思ってるよ。

――この13年間、K－1自体の変化はどう感じていますか？

ホースト　レベルは年々上がり続けてると思うよ。昔は〝とりあえず8人集めて闘わせる〟って感じもあったけど、いまはその8人に残るために開幕戦を勝たなきゃいけないし、それ以前に予選で優勝する必要もある。選手間の力の差は、どんどんなくなってきてると思うよ。

――力の差がなくなってくると、重要になるのは技術や戦略ですよね。ただ、K－1は競技であると同時にエンターテインメントでもあるわけで、そのジレンマというのもファンや主催者にはあると思うんですよ。

ホースト　それは難しいね。選手のレベルが上がれば、確かにKOは少なくなってしまうから。私としてはレベルが上がった闘いをエンターテイメントとして楽しんでほしいと言うしかないね。いまのK－1にもおもしろい闘いは間違いなくあるんだから、そこをしっかり見てほしい。それでもKOが多くなきゃダメだというんなら、もう極論に走るしかないだろうね。

――極論？

ホースト　ルールを抜本的に変えるとか、16人のワンデー・トーナメントにするとか、そういうふうにしていけば何かが変わるかもしれないってことさ。でも、いきなりそれをやるのは難しいからね。できれば、テレビや雑誌でK－1ファイターがどんな練習をしているのか、どんな生活をしているのかをもっと紹介してほしい。みんな、本当に信じられないような努力の果てにK－1のリングに上がってるんだ。それを知れば、もっと興味深く試合を見てもらえると思うんだよ。

――K－1では、ホースト選手のようなハイレベルでシリアスな選手が活躍する一方で、キャラクター重視の選手もたくさん出てきましたよね。たとえばジョー・サンとか（笑）。

ホースト　ジョー・サン。ああ、いたねぇ。

――ブルース・ドラゴン・ジョーとか。そういう選手たちのことを、ホースト選手はどんな目で見てたんですか？「アイツらと一緒にすんな！」みたいな気持ちってなかったですか。

ホースト　まったく気にしてなかったよ。

――眼中になかったと（笑）。

ホースト　そういう選手は、最初はファンの目には留まるよね。イレズミを入れてたり、奇抜なルックスをしたりって選手は。でも結局、そういう選手は3回くらい試合をしたところで消えてしまうんだよ。実力がなければK－1では生き残っていけないわけだから、とくに自分が目くじらを立てる必要はなかったね。

――K－1誕生以降、さまざまな格闘技団体ができましたよね。そういった他団体のことはどう思ってますか。

ホースト　いまは総合格闘技がブームになってるけど、私にはK－1のほうが魅力的だね。ルールのしっかり確立された競技として、K－1ほど完成されたものはないと思う。

――ここ数年でバンナ選手やアーツ選手など、総合の試合に挑戦するK－1トップファイターも増えましたよね。でもホースト選手はやろうとしなかった。それもK－1へのプライドゆえですか。

ホースト　K－1ではトップレベルになれたけど、総合ではトップまで行けないなと判断したからね。もしトップになれないんだとしたら、手を出すべきじゃないと思ったんだよ。何かに挑戦するんなら、絶対にトップを獲らないと気が済まないタイプだからね、私は。

――という一方で『レッスル1』には出場しましたよね。ということは、プロレスの世界ではトップになれると……。

ホースト　いやいやいや。さすがにそうは思ってなかったけどね。でも、いい経験をさせてもらったよ。プロとして何かやるんならちゃんとやりたい、恥ずかしい試合はしたくないと思ってやったんだけど、やっぱりグラウンドの動きは向いてないなってわかったね。でも、やってよかった。楽しかったよ。

――最後に、今後のK－1に望むことは何かありますか。変わってほしいこと、あるいは変えずにいてほしいこととか。

ホースト　いや、私としては何も変える必要はないと思う。視聴率のことは私にはわからないけど、さっきも言ったように選手たちが頑張っていて、レベルが上がっていることは確かなんだ。その闘いに目を凝らせば、絶対にK－1はおもしろいものなんだって私は確信してるよ。

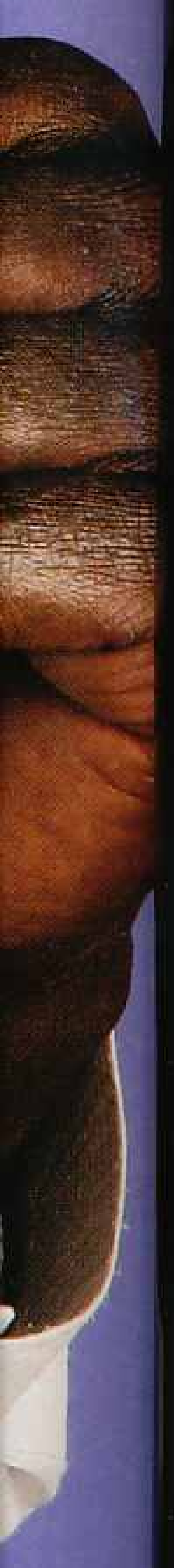
【06年10月2日／お台場・フジテレビにて収録】


9.30 GP開幕戦では、日本の藤本祐介と対戦。“ブンブン丸”のパンチに苦戦するシーンも見られたが、序盤からコツコツと利かせたローキックで3R KO勝ち。



ワールドGPをじつに4度も制する偉業の一方、02年1月には、『WRESTLE－1』でプロレスに挑戦。K－1で敗れたサップに、なぜかプロレスでリベンジするという、驚愕の展開を見せた。





「絶対にK-1はおもしろいんだと私は確信している」

すべての歴史を知る男は
有終の美を飾れるか?

4タイムス王者が語る K-1の13年

原点回帰してみました
K-1 WORLD GP
2006
12.2 TOKYO DOME

アーネスト・ホースト

第一回の『K-1グランプリ93』から出場し、以後13年間にわたりK-1のトップとして闘い続けたアーネスト・ホーストが、今年のGP決勝大会を最後についに現役を引退することとなった。K-1の黎明期、成長期、最盛期、そして現在……、K-1のすべての歴史を知る男は、はたして有終の美を飾ることができるか？　決勝大会を前にこの13年を振り返ってもらった。

聞き手／橋本宗洋　撮影／乾晋也

designed by matsu（TwoThree）

ERNEST HOOST
1965年7月11日、オランダ出身。93年の第一回『K-1グランプリ』から出場（準優勝）。その後、世界最高峰のテクニックとコンビネーションを武器に、97年、99年、2000年、2002年とGPを4度制覇。さらに94年に一度だけ行なわれたライトヘビー級のトーナメント、K-2グランプリでも優勝。その完璧な闘いぶりから、「ミスター・パーフェクト」と呼ばれる。昨年、引退を表明したが一度は撤回。今年、改めてGPに優勝し「5タイムス王者」となっての現役引退を目指す。189cm、100kg。



STEFAN "BLITZ" LEKO
1974年6月3日、ドイツ・クレフェルト出身。稲妻のように鋭い右ストレートを武器に、K-1新世代の旗手と目されていたが、2003年、主催者側とのトラブルからK-1を離脱。伝説の『イノキ・ボンバイエ2003』を経て、04年PRIDEヘビー級GPに電撃参戦するも小川直也に完敗。その後も美濃輪、中村カズに敗れ『PRIDE』では一勝も挙げることができずにフェードアウト。05年、K-1に復活するもバダ・ハリ、ルスラン・カラエフと新世代に二連敗し、限界説も出るが、今年、世界最終予選をオールKOで勝ち抜き、見事K-1 WORLD GP出場の切符をつかんだ。187cm、97kg。

「俺が本物のK-1に戻してやる」

帰ってきた毒舌伊達男

ステファン・“ブリッツ”・レコ

03年にK-1離脱後、主戦場を『PRIDE』に移すも一勝も挙げることができず、地獄を見たレコ。昨年K-1復帰後も結果が出ず限界説も囁かれたが、今年8月の「世界最終予選」をオールKOで優勝。GP開幕戦でも実力者セフォーを破って決勝大会進出と、執念の完全復活をはたした。それとともに持ち前の“毒舌”も完全復活! 12.2決勝はこの男に注目せよ!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也
designed by matsu（TwoThree）

PRIDE参戦は最大の過ちだ もう二度とMMAはやらない

——4年ぶりのK—1 WORLD GP決勝戦進出、おめでとうございます！

レコ ありがとう。

——開幕戦のレイ・セフォー戦ではかなりの接戦でした。この試合をご自身ではどう感じていますか？

レコ 時間はかかったが自分のゲームができたと思う。レイはK—1でも有数のハードパンチャー。とにかく彼のパンチをまともに食らわないことが大事だった。しっかりと彼のパンチを見切って自分の打撃を入れることができたので、結果には満足しているよ。

——若干、観客からは不満の声も出ていたようですが、内容にも満足していますか？

レコ 観客からしたら、少し派手さには欠ける試合だったかもしれないが、とにかく今回、俺はどんな形でも勝って決勝トーナメントに行かねばならなかった。それに簡単な選手ならともかく、相手はレイだ。君は彼の実力をどう思っている？

——まぁ、GP優勝経験こそありませんが、それに準ずるぐらいのトップファイターだとは思います。

レコ 俺はそんな相手と開幕戦から闘わなきゃならなかったんだ。他の試合は強いヤツとそうじゃないヤツの闘いだったが、俺たちの試合だけ、決勝戦クラスのカードだった。お互い負けられない試合だったということだね。

——それにしても、レコ選手は4年前にK—1を離れて『PRIDE』に参戦し、K—1復帰してからもバダ・ハリやルスラン・カラエフに敗れたことで限界説もささやかれていましたが、よくぞ復活しましたね。

レコ 昨年は長くK—1の実戦から離れていたことで、勘を取り戻すまでが大変だったが、もう大丈夫。以前は勢いにまかせた闘い方だったが、いまはより賢く闘えるようになったので、4年前より自分は強くなっていると思う。

——K—1を離れて『PRIDE』を主戦場としていた二年間というのは、ご自分ではどう総括していますか？

レコ そのことについては話したくないし、思い出したくない。俺の格闘家人生で最大の過ちだった。

——では、もうMMAをやることはありませんか？

レコ ああ。もう二度とやることはないね。

——K—1を主催しているFEGは、『Dynamite!!』、『HERO'S』といったMMAを行なうイベントも開催していますけど、そこでMMAマッチのオファーが来たらどうしますか？

レコ 絶対にやらない（キッパリ）。K—1ルールの試合ならもちろん出場したいが、MMAはお断りだ。MMAは自分に向いてなかったし、途中からはMMAの練習を一切やめて、K—1の練習ばかりしていた。K—1を離れたことで、逆に自分がK—1ファイターであることをより強く意識するようになったんだ。

——では、レコ選手が離れていたあいだのK—1というものは、どのようにご覧になっていましたか？

レコ 俺が留守にしているあいだのK—1は……、正確には俺がいたころからその兆候はあったが、ボブ・サップやアケボノを始めとする〝ニセモノ〟が横行するモンスターショーに変わり果ててしまったと思っていたよ。

——モンスターショーでしたか（笑）。

レコ そうじゃないか？ 君はどう思っているんだ？

——う〜ん、たしかに去年ぐらいまでは、そういう傾向はあったと思いますね。

レコ だからこそ、俺が本来のK—1に戻さなきゃいけないとも思った。そして今年、俺がWORLD GPの決勝戦に帰ってきたし、チェ・ホンマンやサップ、アケボノがいない。ようやく本物のK—1が戻ってきたんだよ！



8月にベガスで行なわれた「世界最終予選」を勝ち抜いたレコは、9.30GP開幕戦でいきなりレイ・セフォーと激突。実力者同士ということもあり、どちらも踏み込めない展開となったが、延長戦の末、レコが僅差の判定勝ちを奪った。

——WORLD GP決勝大会の一回戦で当たるレミー・ボンヤスキーはレコ選手がK—1を離れている間、二度に渡ってGPを制覇した2タイムス・チャンピオンですが、彼についてはどのように評価していますか？

レコ 俺はレミーをチャンピオンとは認めていない。

——認めてない！

レコ ああ。2003年は俺もホーストもジェロムもいないという、レベルの低いメンバーの中での優勝だし、2004年は俺が観た限り、準決勝でアーネスト・ホーストに負けていた。あんな闘いぶりで〝2タイムス・チャンピオン〟を名乗っても俺は認めない。今年俺と闘ったら、化けの皮が剥がれることになるだろうな。

——厳しいこと言いますねぇ。そこまで自信がありますか？

レコ 彼には以前も勝っているし、俺みたいに常にプレッシャーをかけてくる相手が彼は苦手なんだと思う。もちろん彼も成長しているとは思うが、正直言って、俺にとってラッキーな組み合わせだと感じているよ。

——一回戦に勝つと、次はルスラン・カラエフvsグラウベ・フェイトーザの勝者と当たりますが、これはどちらが勝ち上がってくると思いますか？

レコ う〜ん、リーチの長いグラウベが有利だとは思うが、自分としたらルスランに上がってきてほしいね。以前、判定で負けているから、借りを返しておきたい。

——そして決勝ですが、ズバリ誰が上がってくると思いますか？

レコ セームかハリッドだろうな。

——思いっきり同じゴールデン・グローリーのチームメイトですけど（笑）。

レコ いや、べつに身内びいきで彼らの名前を挙げているわけじゃない。セームはディフェンディング・チャンピオンだし、ハリッドには勢いがある。普通に考えても彼らのどちらかだと思うけどね。

——ハリッドが開幕戦で武蔵選手を破ったのは驚きだったんですけど。

レコ 驚くことじゃない。俺は最初から、おかしな判定にならなければハリッドが必ず勝つと思っていたよ。順当な結果だ。

——順当ですか（笑）。では、セームやハリッドも含めて、今大会で一番強敵となりそうなのは誰ですか？

レコ セームだろうな。でも、俺はジムではセームを倒している。自信はあるよ。

——あの……セーム・シュルトもK—1有数の大巨人ですけど、彼とチェ・ホンマンの違いというのはどこにあるんでしょうか？

レコ ……。おまえ、それは本気で聞いてるのか？

——いや……とりあえず聞いておこうかな、と（笑）。

レコ 一方は〝本物〟で、一方は〝サーカス〟。以上だ。

——了解しました（笑）。ただ、今年6月にソウルでセーム・シュルトとチェ・ホンマンが闘ったときは、判定でチェ・ホンマンが勝利を収めたんですけど……。

レコ 君は、その試合を観てどう思ったんだ？

——う〜ん、かなり微妙な判定ではあったと思いましたけど……。

レコ 俺が観た限り、あの試合はセームの判定勝ち。以上だ。

——了解しました（笑）。では、最後に決勝大会への意気込みをお願いします。

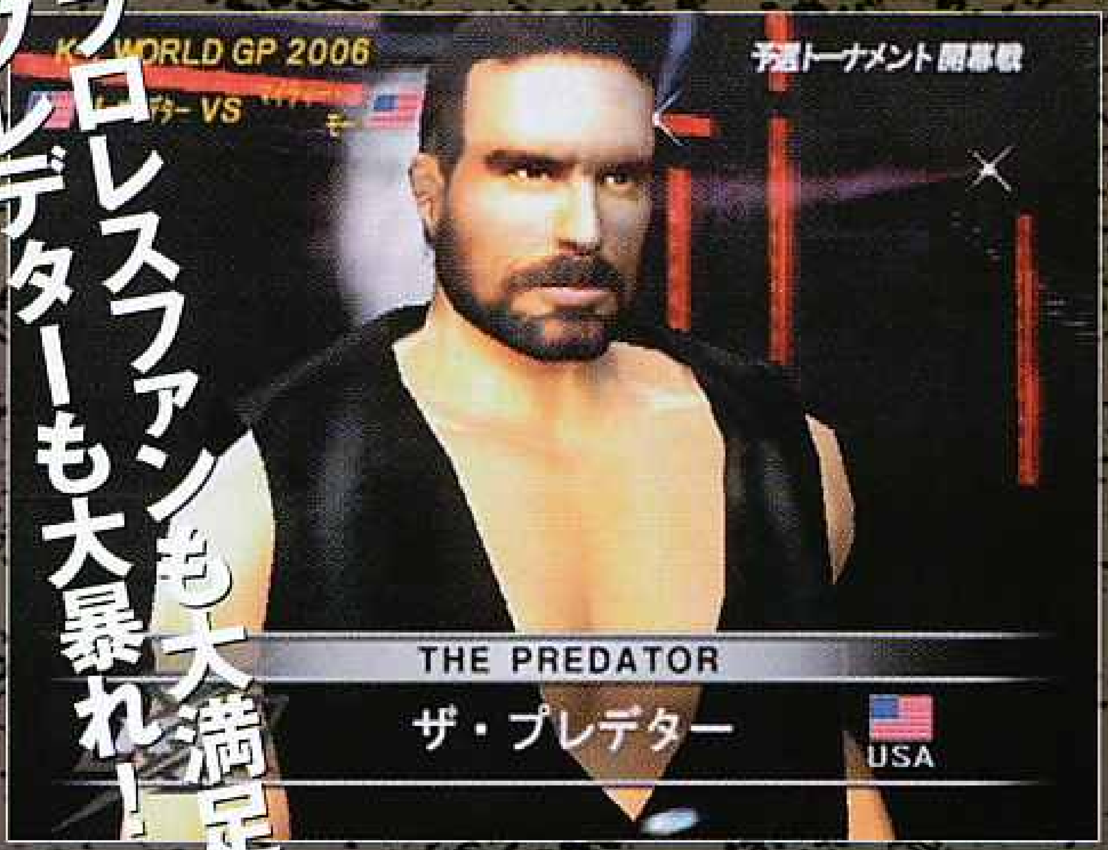
レコ 俺はしばらくGPから離れていたが、それだけに誰よりも優勝したい気持ちが強いと思うし、優勝に一番近いのも自分だと思っている。俺が優勝することで、本物のK—1に戻してやるよ。

【06年10月2日／お台場・フジテレビにて収録】

ドームもいいけどゲームもね!!

K-1 WORLD GP 2006

プロレスファンも大満足!? プレデターも大暴れ!



お待たせしました！　12・2『K―1 WORLD GP 2006』東京ドーム大会を前に、これまでK―1関連ゲームを数多く手がけてきた株式会社ディースリー・パブリッシャーが、またもやプレイステーション2版『K―1 WORLD GP 2006』を発売！

今回のゲーム版『K―1 WORLD GP 2006』は隠れキャラ的な角田信朗、さらにはプロレスファンには嬉しいザ・プレデターを含め、ドドンと27選手が登場。入場コスチュームはもちろん、各選手の必殺技や特徴的な動きも忠実に再現されている。さらに前回同様、解説＆実況は谷川貞治イベントプロデューサーやフジテレビアナウンサーが実際の試合と変わらぬハイテンションでしゃべりまくり。ラウンドインターバル中にはリングサイドリポートも飛び込んでくるから芸が細かい。

肝心の試合だって、これまでのシステムから大幅に進化。特定の部位を狙っての一点集中攻撃や、フェイント、スウェー、さばきといったテクニカルな攻防も楽しめる仕上がり具合だ。

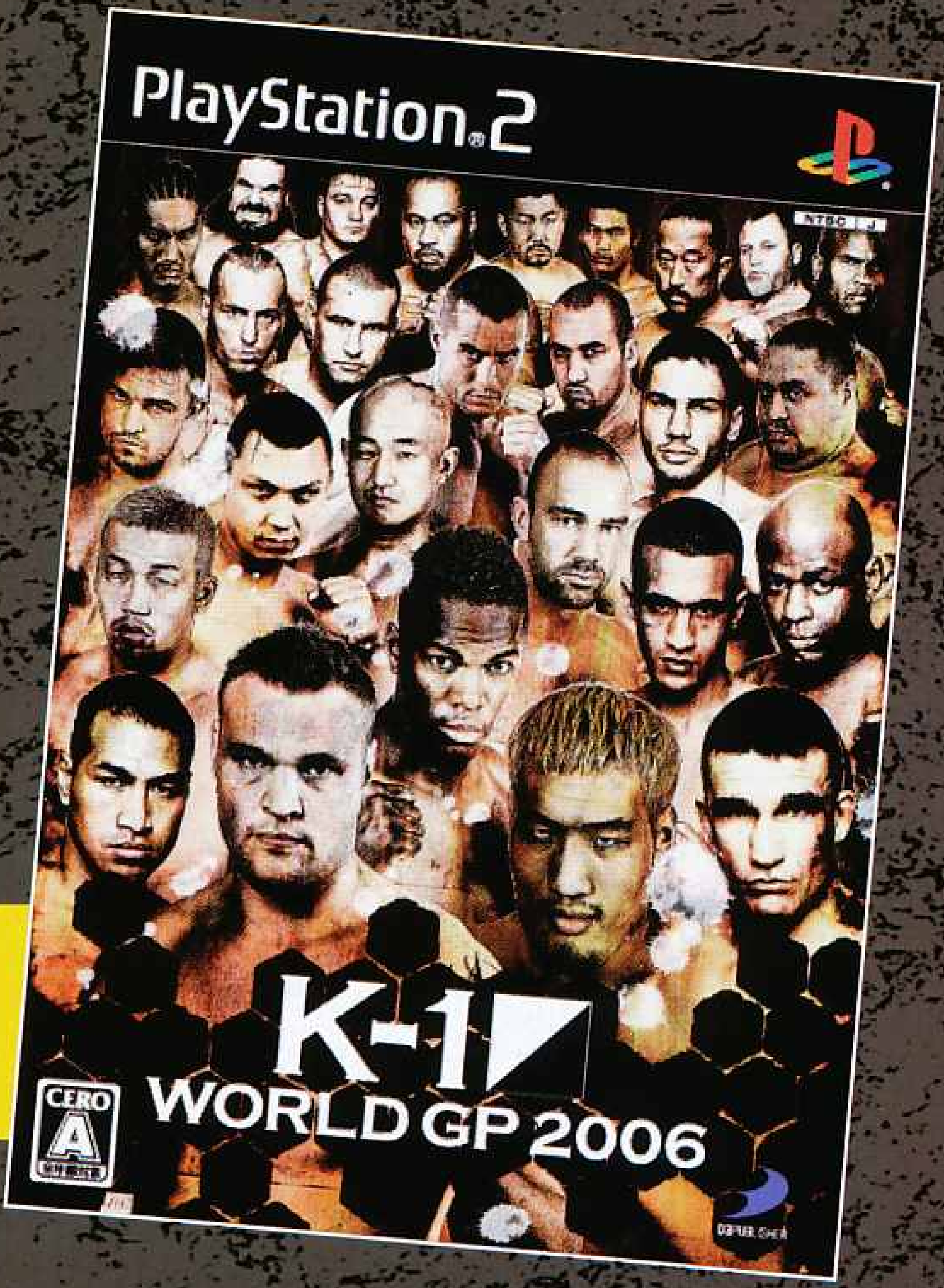
一刻も早くゲットして、今年のグランプリを一足早くゲームでシミュレートしてみるのもいいだろう。

進化を遂げたのはそれだけではない。今回、ユーザーからの要望の高かったオリジナル選手育成モード『K―1 LEGEND』を新たに搭載。ボクシング、空手、ムエタイ、キックなど好きなバックボーンを選択。身長、体重、体型はもちろん、髪型、コスチュームからタトゥーだって自由に選べちゃうのだ。

トレーナーの指導のもと、しっかりとトレーニングを積み、実戦で結果を上げ続けていけば谷川プロデューサー直々にオファーがかかるのだ。んあ〜！

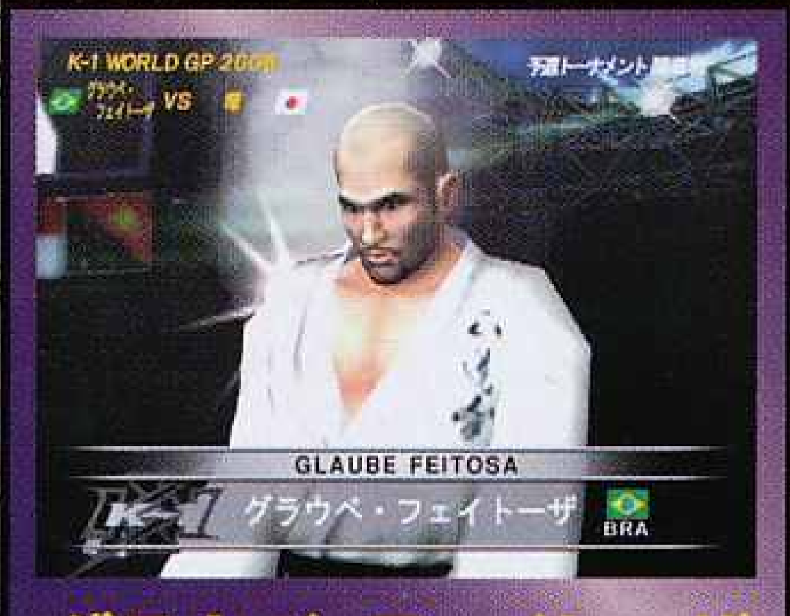
目指すは、もちろんWORLD GP王者！　無名で終わるのも、レジェンドとして名前を残すのも、すべてはあなたの腕次第！　さあ、レッツ・K―1!!





11月22日発売!!
価格￥7140（税込）

ゲームでシミュレートだ!!



グラウベ・フェイトーザ
（ブラジル／極真会館）



ルスラン・カラエフ
（ロシア／フリー）



レミー・ボンヤスキー
（オランダ／チーム ボンヤスキー）



ステファン"ブリッツ"レコ
（ドイツ／ゴールデン・グローリージム）

K−1にギブアップなどない。

究極の進化を遂げた二大ゲームシステムはコチラ!

進化2
オリジナル選手育成モードを搭載!



K-1王者になるためにはハンパなトレーニングでは不可能。筋力、スタミナ、パンチ、キック、実戦的な対策トレーニングを重ね、試合へ向けひたすら頑張れ！　打倒シュルトだ！



オリジナルの選手を育成し、K-1王者を目指す選手育成モード『K-1 LEGEND』。まずはスケジュールの作成から。トレーニングや出稽古に励みましょう。たまには休みも必要ですよ！



いい試合を続けていくと、登場するのがご存知、谷川イベントプロデューサー。谷川プロデューサーからのオファーが来るようになったら選手としては一人前。王者となる日も近い？



こちらが育成モードに登場するトレーナーです。トレーナーから現状のコンディション、トレーニング内容や試合のアドバイスを受けて、とにかく、練習しまくって強くなるんだ！



アフロでやせ形の見るからに弱々しいファイターを育成してみました。このように頑張ればトップファイターのセフォーとだって闘えるんです！　結果は？……聞かないで（泣）。

進化1
ゲームシステムの大幅強化!



武蔵のローキックを食らい、脚にダメージを負うボタ。右下に出ているとおりダメージを受けた部分は黄色くなり、さらに攻撃を受け続けると赤く表示されるぞ。一点集中攻撃だ！



某ファイターのドタキャンにより母国オランダでのホースト引退試合の再現となるアーツ戦だって、お手のもの。画面は打撃を食らいフラつくホースト。左スティックを回して回復だ！



K-1には判定も付きもの。ゲームでも本物同様、岡林レフェリーが登場。ジャッジも平直行氏や大成敦氏といった本物が登場します。疑惑のレフェリングなんてありませんよ！



昨年のグランプリ準決勝、そして今年の札幌大会でも激突した武蔵vsグラウベ戦をゲームで再現。タイミングがバッチリ合えば一撃KOだって可能です。立ち上がるんだ、武蔵!!



フジテレビの協力によりゲームでは本物のK-1の映像もたくさん入っているので、それを見るだけでもファンにはたまらないはず。もちろん、ゲームモードも盛りだくさんです！

一足早く今年のトーナメントを



セーム・シュルト
（オランダ／正道会館）



ジェロム・レ・バンナ
（フランス／Le Banner X tream Team）

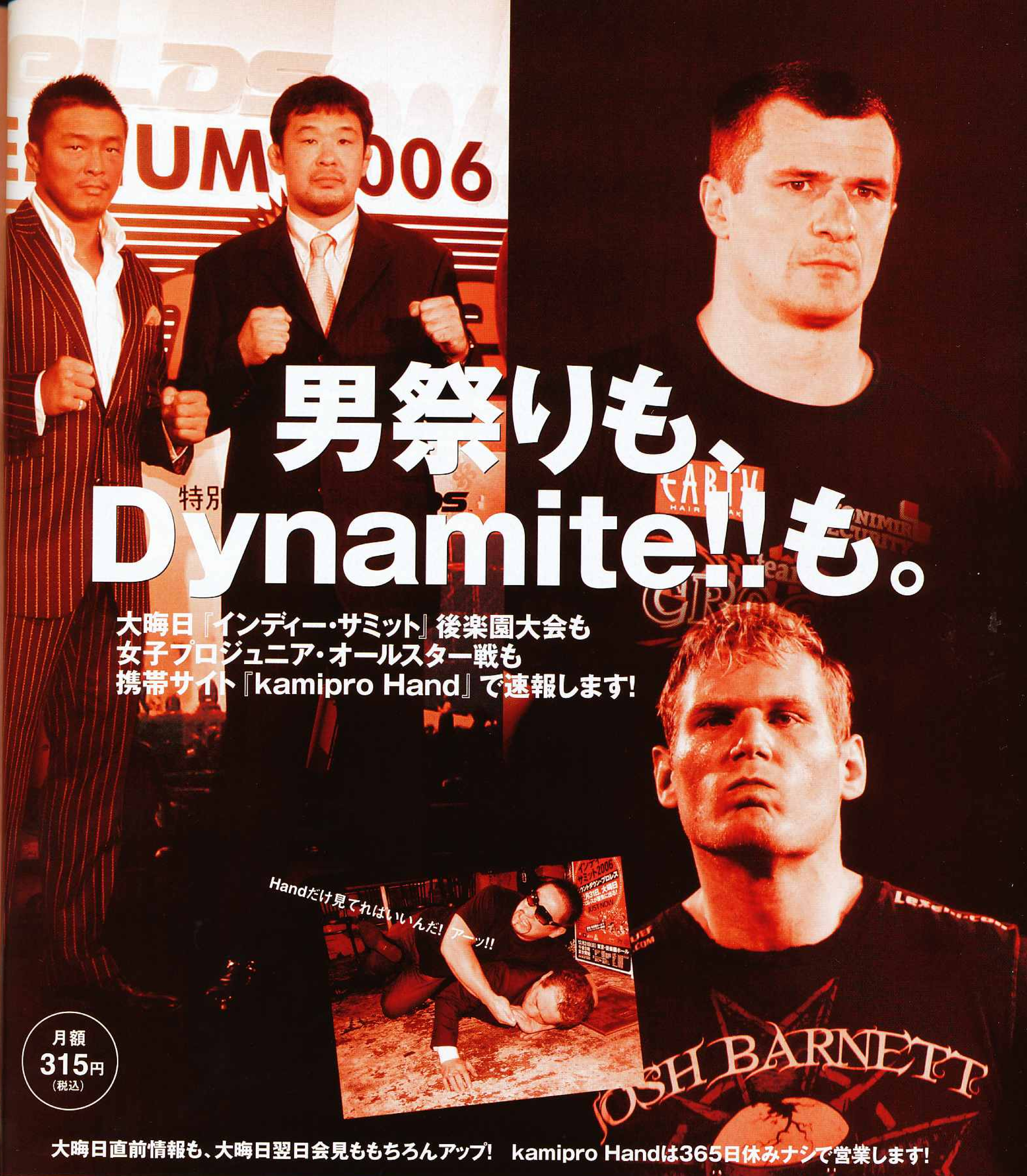


アーネスト・ホースト
（オランダ／チーム・ミスター・パーフェクト）



ハリッド"ディ・ファウスト"
（ドイツ／ゴールデン・グローリージム）

[お問い合わせ] 株式会社ディースリー・パブリッシャーサポートセンター HP http://www.d3p.co.jp [東京] TEL.03-5428-3458 [名古屋] TEL.052-774-0638
©FEG/K-1 ©D3 PUBLISHER 映像協力／株式会社フジテレビジョン



携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo	iMenu ▶ メニュー／検索 ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
	※もしくは「kamipro」で一発検索!!
au/TU-KA	トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
Softbank	メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
WILLCOM	趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
	エンターテイメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

11月更新のボイスは坂田亘GMが登場! 物騒な言葉で電話&メール着信をお知らせ!!

[お問い合わせ] (株) ダブルクロス 03-5368-1795



GK大暴走！ ミワ困惑……。

金沢克彦

かなざわ・かつひこ■『週刊ゴング』の名物編集長として活躍後、フリーライターとして絶賛活動中。新日系レスラーからの信頼度は絶大！ な凸凹大学校特別講師。

先生、デレデレしすぎです！

『レッスルランド』登場5秒前!?

ゲスト **夏目ナナ**（人気AV女優）

松下ミワ

まつした・みわ■『PRIDE』やダンヘンに豊富な知識を誇るも、プロレスは超初心者。だが、新日本道場に一日入門！ などその動向は業界に波紋を投げかけている。

3年G組 金沢先生

新日本プロレス凸凹大学校SPECIAL
特別授業“保健体育”編

いけない!! ナナ先生♥

～教えて!! プロレスのイカせ方の巻～

「この～バカチンがぁ～！」（教科書で頭をこづきながら）と今回の凸凹大学校は金沢先生が問答無用の大暴走！　筋金入りの“プロレスLOVE”を自負し、『レッスルランド』でもネタになっている超人気AV女優、夏目ナナさんが登場！　ナナさんに夢中の金沢先生は“生徒”ミワをおいてきぼり？

講師／3年G組 金沢先生　生徒／プロレス超初心者　松下ミワ　撮影／平工幸雄　構成／真下義之

design by きおとめの事務所

教えて!! プロレスとAVの不思議な？関係





「エロになれ～！」（大合唱）とばかりに今回の凸凹大学校の授業は金沢先生がハジケまくりの大暴走！　夏目さんに突如、鈴木みのるとの共著『風になれ』（東邦出版刊）贈呈！　インタビューでは夏目さんに完全フォーカス！　で〝生徒〟ミワをおいてきぼり……。己の欲望に忠実すぎる態度は取材陣をある意味、感服させたのだった。いいぞGK！

ミワ　金沢先生！　今日は保健体育の特別授業だと聞いてるんですけど……。もしかして前回の〝首投げ〟って言葉と関係あるんでしょうか？

GK　ズバリ、大アリですよ！　グフフ……（と満面の笑顔で）。今日は前回の永田選手もビックリの大物ゲストを用意してますから。AV界の超人気者、夏目ナナさんです！

ナナ　よろしくお願いします～！

ミワ　キャ～！　かっわいいですねぇ！……ん？　でも夏目さんと新日本プロレスの関連は？

GK　ダメだなぁ～（とあきれながら）。ミワの好きな新日本の『レッスルランド』で田中選手と稔選手が夏目さんのDVDをめぐって劇場を展開してるじゃない？　それに夏目さんはストロングスタイルに傾倒する筋金入りのプロレスファンでもあるんですよ。

ナナ　はい。プロレスむっちゃ好きですね～。

GK　だから今回は、先生がインタビューのお手本を見せましょう。ミワも彼女を見習ってプロレスを勉強しなさい！

ミワ　はぁ。……それはわかりましたけど異様にはりきってませんか？

GK　（無視して）さて、と！　まず夏目さんは、デビューして何年くらいになるんですか？

ナナ　3年ですかね。

GK　なんと、資料によると夏目さんの作品だけでいままでの売上げ累計が35億円以上！　ということなんですけど。

ミワ　さ、35億円以上？！

GK　ということは、ユークスの年商と同じなんだよねぇ。つまりナナさんも新日本を買えるわけですよ！（キッパリ）。

ナナ　いやいや、買えませんって！（笑）。でも新日さんも大変じゃないですか。サイモンさんがへんな格好したりとか。

GK　よく知ってますね～。というかそもそも僕のこと知ってます？

ナナ　ええ。もちろん！　お名前だけは……。

GK　ガクーッ！　名前だけかぁ～。

ナナ　いやいや、有名な方じゃないですか！

GK　本当に知ってる？　ターザン山本！じゃないからね（と疑いのまなざしで）。

ミワ　先生……ちょっとしつこいですよ（あきれながら）。

GK　ちなみに紙媒体は何を読んでますか？　……どうせ『週プロ』って言うんでしょ!?（と牽制しつつ）。

ナナ　いやいや『週刊ゴング』さんと『週刊プロレス』さんは毎週買ってます。（バッグから雑誌を取り出して）ホラ、今日も持ってますから。

GK　あ、ホントだぁ～（と嬉しそうに）。いつぐらいから買ってるの？

ナナ　事務所の上の人に凄いプロレスファンがいて、いつも事務所にプロレス雑誌があったんです。それでテレビ観たり、技をかけられたりしてたんですよ。それからだんだん好きになって……。自分で買うようになったのは半年くらい前かなぁ。

GK　半年前！　ということはやはり俺の存在は知らないということだなぁ～（と寂しそうに）。

ミワ　先生はちょうど『ゴング』を辞めてますもんね。

GK　で、夏目さんは『馬鹿になれ！』というアントニオ猪木の詩集が愛読書だと聞いたんですけど、今日は鈴木みのると私の共書の『風になれ！』を贈呈しようかと。

ナナ　あ～。これ買おうと思ってたんですよ！

GK　どうぞどうぞ（とやや照れながら）。

ミワ　私には「自分で買いなさい！」って言ってましたよねえ（冷たく）。

GK　（無視して）さらに、このインタビューで僕の期待に応えてくれたら、最後にこの封筒の中のモノをプレゼントしようと思ってるんですよ！（と封筒をかざしつつ）。

ミワ　ま、まだあるんですか!?

ナナ　え～っ！　なんだろう！

AV売上げ累計35億円以上!? 新日本買えるよ!!〈GK〉
いやいや、私には買えませんって!!〈ナナ〉

GK　お楽しみに！　それで、このあいだは自分のDVDがネタになってる新日本の『レッスルランド』の後楽園に行ったんだよね？

ナナ　そうなんですよ！　知り合いの人からお誘いいただいたので、どんなふうにイジられてるのかな？　って（笑）。

GK　実際に観てどうでした？

ナナ　それが「私が来てる」って聞いていたのか、田中選手に場外乱闘を目の前でしていただいたんです！　ちょっと目が合ったかな？　って感じで。

GK　TARU選手に、自分のDVDがグチャグチャにされるところ（下段参照）はどうでした？

ナナ　泣いちゃいそうでしたねぇ。もう乱入したろうか！　って感じで。

GK　やっぱり自分のDVDを割られたら頭に来るでしょ？

ナナ　そうですね。TARUさんは……ちょっと許せないですねぇ。

GK　で、ブログに「『レッスルランド』の試合は、ファミリーが楽しめるプロレスでよかったけど、それはストロングスタイルという土台あっての賜物」って書いてたでしょ。

ナナ　あ、ちゃんとブログを見てくれてはるんですね！

GK　にわか勉強ですけどね。でも、ずーっとさかのぼって見ても「新日本には全然、行ってねぇなあ！」と思って。

ナナ　でも、新日本さんは事務所の恒例行事で1・4の東京ドームに毎年行ってたんですよ。ただ……最近はそれ以来行ってなかったですね。

GK　いまは新日本よりNOAHに夢中と聞いてますけど。

ナナ　ええ。私はずっと「新日本バンザ〜イ！」って感じだったんですけど、NOAHさんを観たとき「こんなおもしろい試合があるのか!?」って感動したんですね。笑えるとこもあれば激しい試合もある。……新日さんって最初から最後まで力が抜けないから、けっこう、肩凝るじゃないですか？

GK　NOAHには田上明が出て、みんなが思いっきり和んだりするからね（笑）。

〈ここで突然、夏目さんの携帯の着信音で『スパルタンX』のテーマが!!〉

GK　素晴らしいタイミングで三沢選手のテーマがかかりましたね（笑）。

ナナ　いや〜。三沢さんが大好きなんですよ！（リズミカルに手拍子をしつつ）「ミッサワ！　ミッサワ！」って感じで。



ミワ　凄いなぁ〜。

ナナ　もう〜NOAHさんはみんな大好き！（リッキー・）マルビン君から小橋さんまで……。そうだ、『kamipro』さんで小橋さんのお見舞いに行かせてもらえません？

——大変、恐縮なんですけど、ウチの雑誌ではNOAHが唯一取材できない団体なんですよ。

ナナ　うそやん！　え〜っ？　なんでなん？　なんでなん？

GK　ま、この業界もいろいろ難しい問題があるんですよ（笑）。

ナナ　はぁ〜。そうですかぁ。

GK　でもさ、普通はこういう若くて、キレイで、知名度ある人って、みんなK—1や『PRIDE』を観に行くんだよね。

ナナ　あ、そうですか？

GK　いま若い女性でプロレスにハマる人って本当に珍しい！　格闘技とかは興味ないですか？

ナナ　『PRIDE』はあまり観ないですけど、K—1はテレビで観てますね。……じつは、いまキックボクシングやってるんですよ！

GK　え、キックボクシングを？

ナナ　ええ。ウェイトトレーニングをしながらキックボクシングのエクセサイズをやってるんです。

ミワ　凄い！　じゃあ、『Dynamite!!』から声がかかるかもしれない！

ナナ　いやいや。でも、基本は〝プロレスLOVE〟ですから。

GK　う〜ん。ミワちゃんと本当に真逆だね（笑）。彼女はプロレスを全然知らなくて、『PRIDE』ばっかり観てる子なんですよ。

ミワ　だから金沢先生には怒られてばっかりで……。

GK　でも、先月の新日本プロレス道場入門で改心したみたいで。山本小鉄さんに説教されたり、永田選手にナガタロックを決められたり。

ナナ　ハハハハ！　痛かったですか？

ミワ　いや、あれを掛けられたら、ミルコもタップすると思いますよ！（と真剣な表情で）。

ナナ　そうに決まってますよ（笑）。

GK　ところで、プロレスとAVってよく比較されるじゃないですか。よく言われるのは「プロレスはモザイクの入った市販のAV」で「総合格闘技は、モザイクの入らない裏ビデオ」とかね。

ミワ　は〜。そんな論理がありましたか。

GK　プロレスは〝全部見せない〟ところに肝があって「本当はどっちが強いんだ？」って想像する余地がある。そういう意味で、夏目さんも自分のビデオがモザイクなしで出たらイヤだと思うけど。

これが『レッスルランド』で展開中 夏目ナナ(DVD)劇場だ！

①


新日本の“稔”と『レッスルランド』の“田中”は先輩後輩の間柄。この両者を結ぶ接点こそ（稔所蔵の）夏目ナナDVD！　DVDを4ヵ月借りっ放しの田中は10.8『レッスルランド』の第一試合前、返却の決意をMCしていたが……。

②


そこに「ま、そういうこっちゃ！」でおなじみ最凶軍団ブードゥー・マーダーズが稔を急襲〜ッ!　TARUは大事な大事な夏目ナナDVD（ちなみにタイトルは『夏目ナナ 新僕だけの女教師ペット』）を破壊する暴挙！　ひどいよ！

③


なんとか邪道＆外道が救出！　ブードゥーを蹴散らすも、すでにDVDは粉砕……。このTARUの暴挙によって、試合前からすでに「心を折られた」状態の田中はリング上で茫然自失……。胸に去来するのは稔先輩のことか。

④


怒りの稔はブードゥーとの試合前に割られたDVDを持参で登場！　試合はノーコンテストの末、各自が凶器を手にする中、ひとり割れたDVDを手にする田中！　中西からも「俺が買ってやる」と励まされたりと、この展開まだまだ続く？

ナナ それはイヤですね。私はモザイクあったほうが好きですから。AVも想像する余地があって「全部見せたらおもろない」って思うし。

GK 世の中、全部見たらがっかりすることって多いよね。最近で「これは見たくなかった」もの、ありますか?

ナナ ありますねぇ。タレントさんなんかも「え、こんな人やったん?」ってことはよくありますし。……でも名前は言えませんよ。言ったら消されますから!(笑)。

ミワ あの~。その逆ってないですか? 真実を知ってよかったことは。

GK お、やっと質問したな!

ナナ ありますねぇ。だって、このAV業界に入る前は「きっと○○が絡んでるに違いない」とか、めっちゃ考えてたんですよ。実際は全然、絡んでなかったですけどね。でも「きっと使い古されて、香港あたりに流されるんやろなぁ……」とか(笑)。

GK ハハハハ!

ナナ でもこの業界はむっちゃキッチリしてるんですよ! 女優さんとかも撮影に入る前には絶対に病院に行って検査するし。

GK それは所属してるソフト・オン・デマンドさんが、特別ちゃんとしてるんじゃないですか?

SODプロデューサー そういうわけでもないと思いますよ(笑)。男優さんも検査はきちんとやられてますね。

GK そもそもきっかけは、スカウトされたんですか?

ナナ ええ。街角でスカウトされたんです。最初はAVじゃなくて「グラビアでやってみぃへん?」って話だったから軽い気持ちで。

GK 最初はグラビアモデルとしてスタートしたと。

ナナ でもグラビアって言っても、新人だから仕事がないわけですよ。それで一、二年仕事がなくて……。そっからAVに売られたわけですよ(笑)。

GK いま、いい話をしたばっかりじゃないか!

ナナ それはギャグですけどね(笑)。

——デビューされたときは、先生は夏目さんのことはご存じだったんですよね?

GK まぁ、そういうときって「大型新人デビュー!」とか出るじゃない? で、夏目さんはビデオ屋さんに行くと一番いい位置にドバーッ! と置いてあるしね。

ミワ く、詳しいですねえ。

GK ビデオ屋さんにはそういうコーナーがあるんだよ! ただ俺はテレビに露出するようになってから、あんまり入れなくなったんだよねぇ……(無念そうに)。

ミワ く、悔しそうですねえ。

GK それでもたまに帽子を被って入ったり。

ミワ く、食い下がりますねえ……(あきれた表情で)。

GK でもまぬけなことに、キャップに"GK"って名前が入っているのをかぶっていっちゃったりして(笑)。AVコーナーで「あっ、GKだ!」とか「金沢さんですよね?」って声をかけられることが、なぜかやたらと多いんだよね~。

ナナ あ、そういうとこで声かけられます?

GK ええ。だからハッキリ言って、プロレスファンとAVファンはモロ被りですよ!

ナナ アレ、なんでなんですかね(笑)。

GK 両方とも、人前に裸を見せる職業……ではあるけどね。

SODプロデューサー そういう意味で、デビューしたての女優さんって恥ずかしいから、みんな動きが硬いんですよ。でも本数を重ねて、セックス自体を楽しむ余裕が出てくると身体も動くし、自然に声が出てくるんですね。

——プロレスでも若手はよく「声を出せ!」って言われますし(笑)。

GK まさにプロレスのキャリアと似てるよね。それが「丸藤(正道)が三沢さんに勝っても、三沢さんは超えられない」と言った秋山準の発言なわけですね!

ナナ ハハハ、そうですね。

GK でも撮影は大変でしょう? ときにはイヤなこともありそうだけど。

ナナ 嫌いな人はあんまりいないんですけど、イヤなことされたら言っちゃうタイプです。ファンの撮影会で「ちょっと脱いでよ~」とか卑猥なこと言われたりすると「おまえが脱いだらな!」とか(笑)。

GK ハハハハ!

ナナ あと、撮影のときにも一人よがりの男優さんがいて……。

GK ほう~。(と身を乗り出して)。

ナナ 若手の男優さんだったんですけど、お風呂がないお寺のロケ撮影で、夏目もスタッフも用意して待ってんのに、勝手に一人で銭湯に行っちゃって二時間くらい帰ってこなかったんですよ。「それは許したろ」と思ってたけど、現場に戻ってもグダグダしてたから「いいかげんにしろ! ボケ!」って。

GK 勝ち気ですねえ。

ナナ 絡みは撮りましたけど、それ以降、唯一のNG男優になってしまって……。

GK やっぱり気持ち良く仕事ができないと、いいものを見せられないよね。

ナナ でも、たいがいのことは我慢するんですよ。口臭くても!

GK ハハハ! 口が臭くても!

ナナ 「身体のことだからええやん」って。でも性格だけはダメですねぇ。それ以外は「好きにしてよ」って感じですけど(笑)。

GK あと資料によると「監督から顔射の指示があったとき、逆らって口でイカしてしまったり、猪木ばりの裏切りをすることもある」と。……そうなんですか?

ナナ あ~。あったかもしれないですねえ。

GK それはその場の雰囲気で、「こっちだ」という選択をしたんですか。

ナナ 「こうしてください」と言われても、そのときの状況で、どうしてもそっちに自分がいかないかんときはあるんで。そういうときは自己判断ですね。

SODプロデューサー あんまり細かく言うと、彼女の良さが封じられちゃう場合があるんですね。

GK まるでアドリブの天才、武藤敬司だねぇ! ところで、夏目さんは「リングに上がりたい」という気持ちもあるんですか?

ナナ 登場人物としてなら上がってみたいですけど、プロレスはできないです。

GK あ、プロレスはできない? でも最近、グラビアアイドルのインリン……いやニューリン様なんか川田や天龍というプロレス界のトップ級のトップと闘ったりしてるけど。

ナナ ……私はたぶんダメですね。もし大好きなプロレスに入っちゃったら、そこにドップリになる。やるとなったら「かわいいとか、そんなんはナシで!」って感じで。

GK インリンはもともとプロレスファンじゃないから、躊躇せず試合ができると思うんだよね。それはそれで素晴らしいし、彼女の感性で試合ができてるよね。

ナナ 「試合をする」となったらインリンちゃんみたいにかわいくはおられへんと思いますね。この業界に入ったら……きっと丸坊主でやってると思います!

GK ハハハ。もう眉まで剃ったりね。

ナナ 絶対、そうなりますもん! 身体も作ってムキムキになって。いまの仕事は絶対にできへんって思います。

GK しかし、試合はともかく登場人物としては『レッスルランド』からオファ



なつめ・なな■1982年1月23日生まれ。大阪府出身。身長163cm、バスト90cm(Gカップ)、ヒップ85cm、ウエスト58cm 。ソフト・オン・デマンド専属のAV女優としてカリスマ的人気を誇る。現在はAVだけでなく、舞台、テレビタレントとしても絶賛活動中。今年8月には『赤道小町ドキッ』でCDデビュー。愛読書はアントニオ猪木詩集『馬鹿になれ!』という熱狂的プロレスファンでもある。『夏目ナナのレインボー日記』はhttp://blog.livedoor.jp/natsumenana/

プロレスファンとAVファンはモロ被りだよ！〈GK〉
アレ、なんでなんでしょうかね（笑）〈ナナ〉

ーが来るんじゃないですか？

ナナ だから関係者の人に「出してよ！」って言ってるんですよ！ でもいつも「いろいろ考えてますから……」って逃げられて。

GK あ〜。それはなってないなぁ！（と激しい怒りをにじませつつ）。

ナナ 金沢さんからも怒ってください！

GK ……ただ、あんまり僕が言うとまた「新日本のマッチメイクやってる」とか根も葉もない噂を言われちゃうからなぁ〜。

――あ、またそんな噂が流れてましたか。

GK もうねぇ。フリーになるとどたんに態度を変える人間がいっぱいいるわけなんだよねぇ。女優さんもフリーだったら大変でしょう？

SODプロデューサー 夏目みたいに専属の人のほうが少ないですね。でも専属を辞めさせるつもりはないんで、死ぬまでやらせようかなと（笑）。

ナナ もうしばらくしたら〝熟女〟に行こうかなって。

GK ということは……いずれは『マドンナ』？

ミワ ん？『マドンナ』ってなんですか？

GK 熟女もののレーベル！ そんなことも……それはさすがに知らないか（笑）。

ミワ 知りませんよ！（怒）。

SODプロデューサー 『マドンナ』は他社さんなので……ウチだと『ウーマン』ですね。

GK それは失礼しました（笑）。しかし話を聞いて、ナナさんはAVってくくりをはみ出すような立派なタレントさんだなって、凄い好印象を持ちましたよ。

ナナ 光栄です！

GK よし、では私から最後のプレゼントを贈呈しましょう！ これがあなたにとってどんなものかわからないけど……（封筒から切手シートを取り出して）。

ナナ えええ〜っ！ こ、これは!!

GK これ、わかります？

ナナ キャ〜〜〜！（絶叫）。

GK 猪木さんが95年にやった新日本の北朝鮮興行の記念切手。現地で買ったんだけど、こないだ家から出てきたんで差し上げます！

ナナ い、いいんですか？

GK フフフ。これはいまでも凄く価値があると思いますよ。

ナナ ありがとうございます！ 嬉しいなぁ〜。金沢さん、今度は会場でお会いしましょうね。

GK フフフ。……それで、最後に夏目さんとちゃんと一枚、撮りたいんですよ。もちろん、こんな帽子はなしでね！（と先生帽を脱ぎ捨てて）。

ミワ ……私、もう帰りま〜す！ 先生！ さようなら！

【06年11月1日収録】



やりますか〜ッ！　と最後に夏目さんがご褒美？のコブラツイストを敢行〜ッ！ これを渋々引き受けた金沢先生……だが、誰がどうみても口元が"嬉しそう"なのもこれまた隠しようのない事実である。



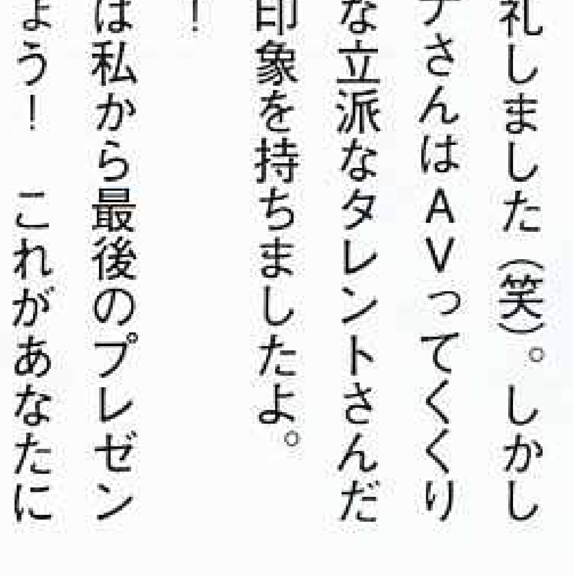




「聞いてないよ！」（上島竜平調）とミワも驚愕！　……もうGKは誰にも止められない！　なぜか95年4月の新日本プロレス北朝鮮興行の記念切手まで夏目さんに勝手に贈呈！

"田中"も思わず応募する？ ナナちゃんの新作DVDプレゼント!!

「夏目ナナにもついてこ〜い！」（ちょっとキザっぽく）と"田中"も大興奮間違いなし！ 11月16日発売の新作DVD『Gカップ美人巨乳秘書10発連続！ 野獣中出し』（ソフト・オン・デマンド）を抽選で一名にプレゼント！（応募方法は158ページを各自参照〜！）



［金沢先生　今月の通信簿（？）］

"大ペケ！""のち""さすが先生"



松下ミワのコメント

……こんなの、授業じゃない！（ドンッ）。先生、たしかに私はできの悪い落ちこぼれかもしれません。でも、授業中ずっとナナ先生に夢中で、終始、生徒に背を向けたままだなんて、あんまりじゃないですかっ！　というわけで、今回の先生は大ペケです!!　ただ、取材前の下調べの完璧さ、そして取材対象者への情熱の示し方というのは、正直、非常に勉強になりました。なので、採点はちょっと譲って、"大ペケ"のち"さすが先生！"ということで。う〜ん、やっぱやめよっかな。



金沢先生のコメント

素晴らしい企画、最高の特別授業だったねえ！（ドンッドンッ）。夏目ナナ先生の講義はプロレス愛に溢れている。もはやナナ先生なくしては、この『凸凹大学校』も成立しないかもしれないよぉ〜！（ドドド〜ンッ）。もうレギュラーだ、レギュラー決定だね。何かが不足していると思っていたら、保健体育が履修不足だったんだよ、そうだよ！　ハッ、ミワちゃん〜背中を向けた程度でイジケルようでは、ターザン山本！と変わらないね。まだまだ"愛"の勉強不足だねえ。

kamipro SHOPPING

その一歩が“道”となる！ kamiproグッズで師走に備えろ！



ハリトーノフ パラシュートパーカー
アッシュグレー／ネイビー ¥6,300（税込）
M・L・XL



ハリトーノフ ジャージ
ホワイト&レッド¥7,350（税込）
M・L・XL





ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150（税込）



ハリトーノフSTAR Tシャツ
レッド ¥3,990（税込）
S・M・L・XL



ハリトーノフ“死神”Tシャツ
ホワイト ¥4,200（税込）
S・M・L・XL



ハリトーノフFACE Tシャツ
カーキ／ホワイト／レッド ¥3,990（税込）
S・M・L・XL



コピィロフTシャツ［★］
ホワイト ¥3,990（税込）
S・L・XL



ヴォルク・ハンTシャツ［★］
ホワイト ¥3,990（税込）
S・XL



ミーシャTシャツ［★］
ホワイト ¥3,990（税込）
S・M・L



ハリトーノフ パラシュートTシャツ
ホワイト／レッド ¥3,990（税込）
S・M・L・XL

［★］の商品は在庫終了次第、販売終了となります

『PRIDE』HPで絶賛販売中!!
http://www.prideofficial.com/
『kamipro Hand』でも購入可能!!



「俺だって着れますよ！」と人気沸騰!!

I編集長“殺し”Tシャツ
ブルー ¥3,990（税込） S・M・L・XL



コラムからスカイハイ！

kamiproマスクTシャツ
ホワイト×レッド ¥3,990（税込） S・M・L・XL



“藤原イズム”を着用せよ！

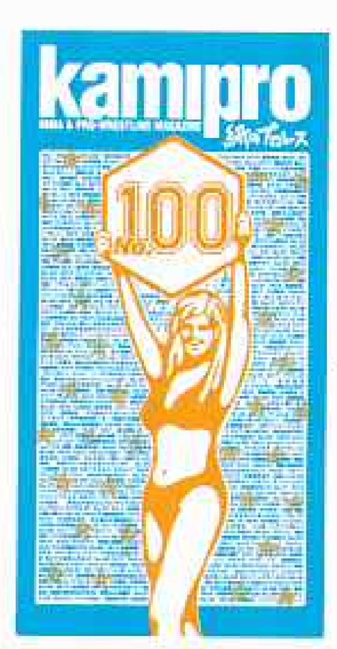
藤原敏男Tシャツ
ホワイト×ブラック ¥3,990（税込） L・XL

緊急予告!!

今年もやるっていったら、やるんです！

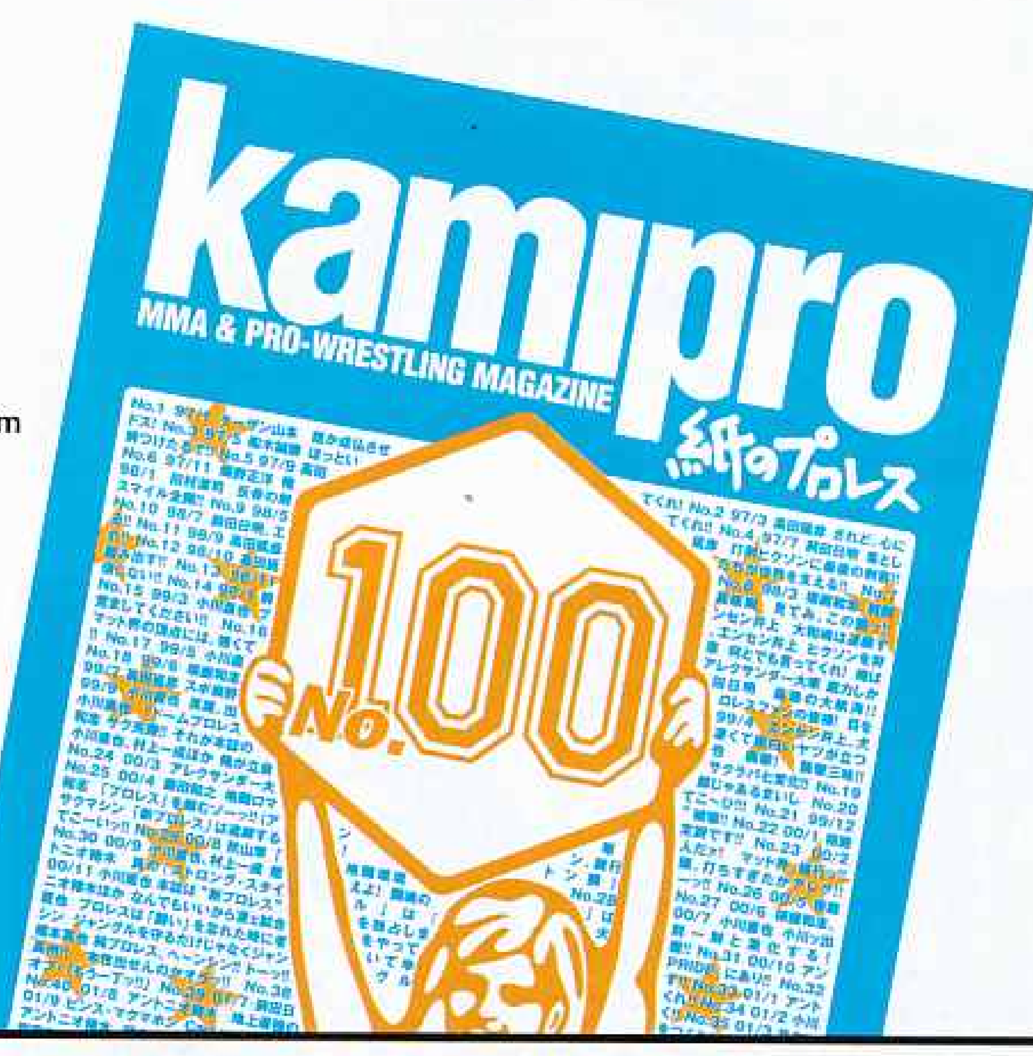


年末といえば……
おなじみkamipro福袋!
※詳細は次号（No.106）をチェック！



タテ 132cm
ヨコ68cm

100号記念特製
巨大バスタオル
ブルー×オレンジ
特別定価 ¥3,150（税込）



［kamiproオリジナルTシャツ サイズ表］



（単位はcmです）

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

★左ページの商品も同様のサイズです。

★kamipro Handでは、このほかにもおトクな商品をたくさん取り揃えております。ぜひアクセスしてください。

非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

- **DoCoMo** iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
- **au/TU-KA** トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- **SoftBank** メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- **WILLCOM** 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
- エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

［通販の問い合わせ先］
株式会社ダブルクロス
TEL:03-5368-1797
（受付時間／13:00〜19:00）
販売元：株式会社ダブルクロス

kamipro SHOPPING まだまだ“祭り”は終わらない！ ニューハッスルグッズ、大豊作！

ハッスル & kamipro Collaboration Goods

オイ！ オメーら、アタシのシャツをチェックしやがれ！



Lady's

ニューリン様の額の石が光る！
ラインストーンつき
（サイズはLady'sMのみです）



ニューリン様 “BERO” Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990（税込）
※Lady's M サイズ（身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm）

Men's



ニューリン様 “BERO” Tシャツ
[M・L・XL ブラック] ¥3,990（税込）



「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3,990（税込）



高田総統ライオンTシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3,990（税込）



「ビビったか？ たしろいだか？」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック] ¥3,990（税込）

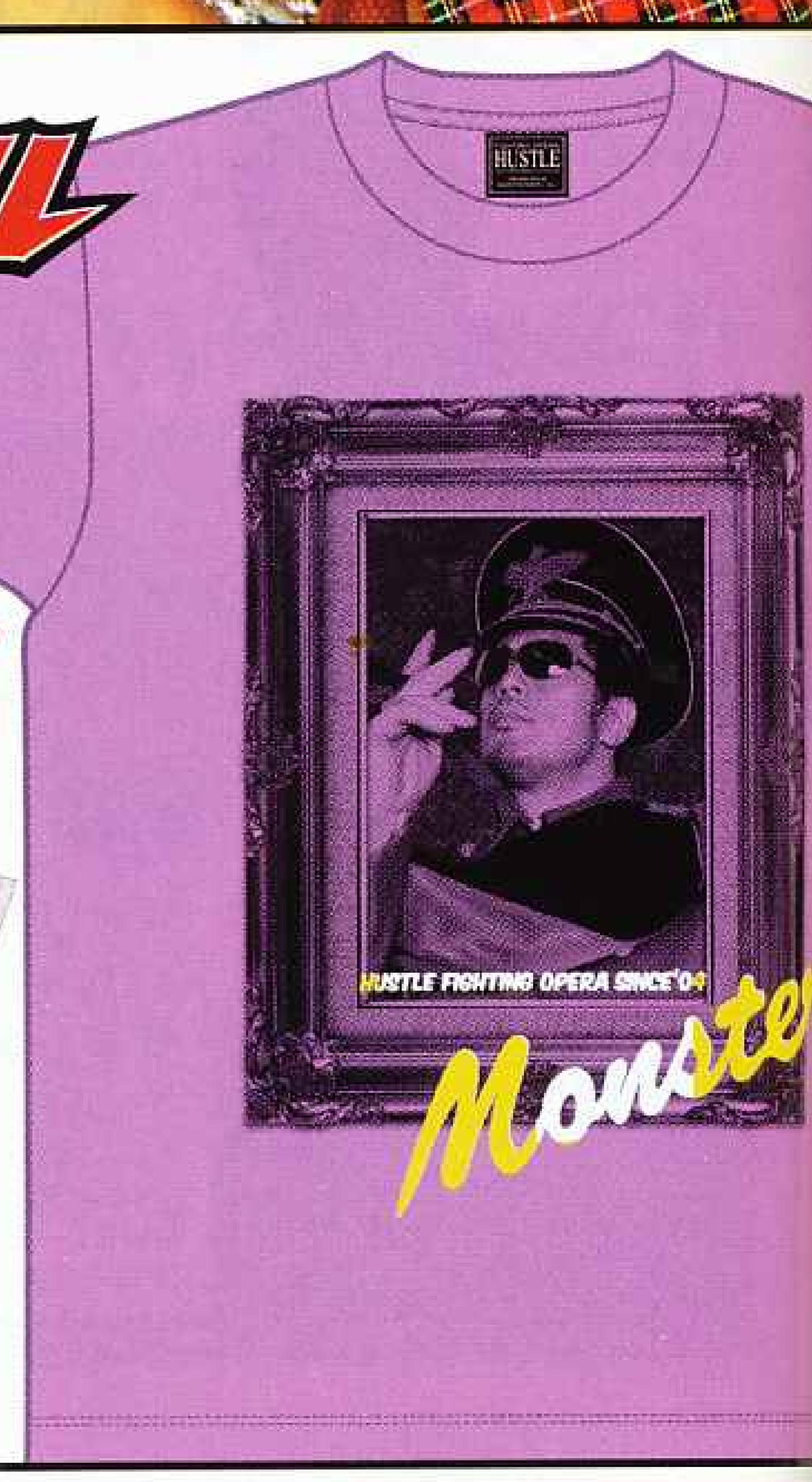
ハッスル Goods



HG PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL シルバーグレー]
¥3,990（税込）



MONSTER K PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトイエロー]
¥3,990（税込）



高田総統 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ラベンダー]
¥3,990（税込）



GMW PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトブルー]
¥3,990（税込）



司令長官&二等兵 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライム]
¥3,990（税込）



ニューリン様 PHOTO Tシャツ
[S・M・L・XL ライトピンク]
¥3,990（税込）

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00～19:00
(株) ダブルクロス
03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承ください）。
販売元：(株) ダブルクロス

※価格はすべて税込みです

読プレサイコーッ!!

平成の迷勝負、零士vsマッキー。とことんやれやっ!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は12月16日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦UFCで興味のある選手⑧あなたたが初めて観戦したプロレス・格闘技の興行

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「約束の場所」係まで

※締切は2006年12月15日（金）当日消印有効

kamipro 105 応募券 999

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!



秋山成勲サイン色紙

HERO'Sライトヘビー級トーナメント覇者であり、大晦日に桜庭戦を控える秋山成勲選手のサイン入り色紙を2名様に。「プレゼントが……当たってしまいました」と言えるように応募しよう。

HERO'S■http://www.hero-s.com/

あ・げ・ちゃ・う♥

夏目ナナ サイン色紙

GKの新日本凸凹大学校でフェロモンたっぷりのお色気を振りまいてくれた我らがナナ先生。もしかして『WRESTLE LAND』で活躍中の田中やGK先生も応募してくるかも!?



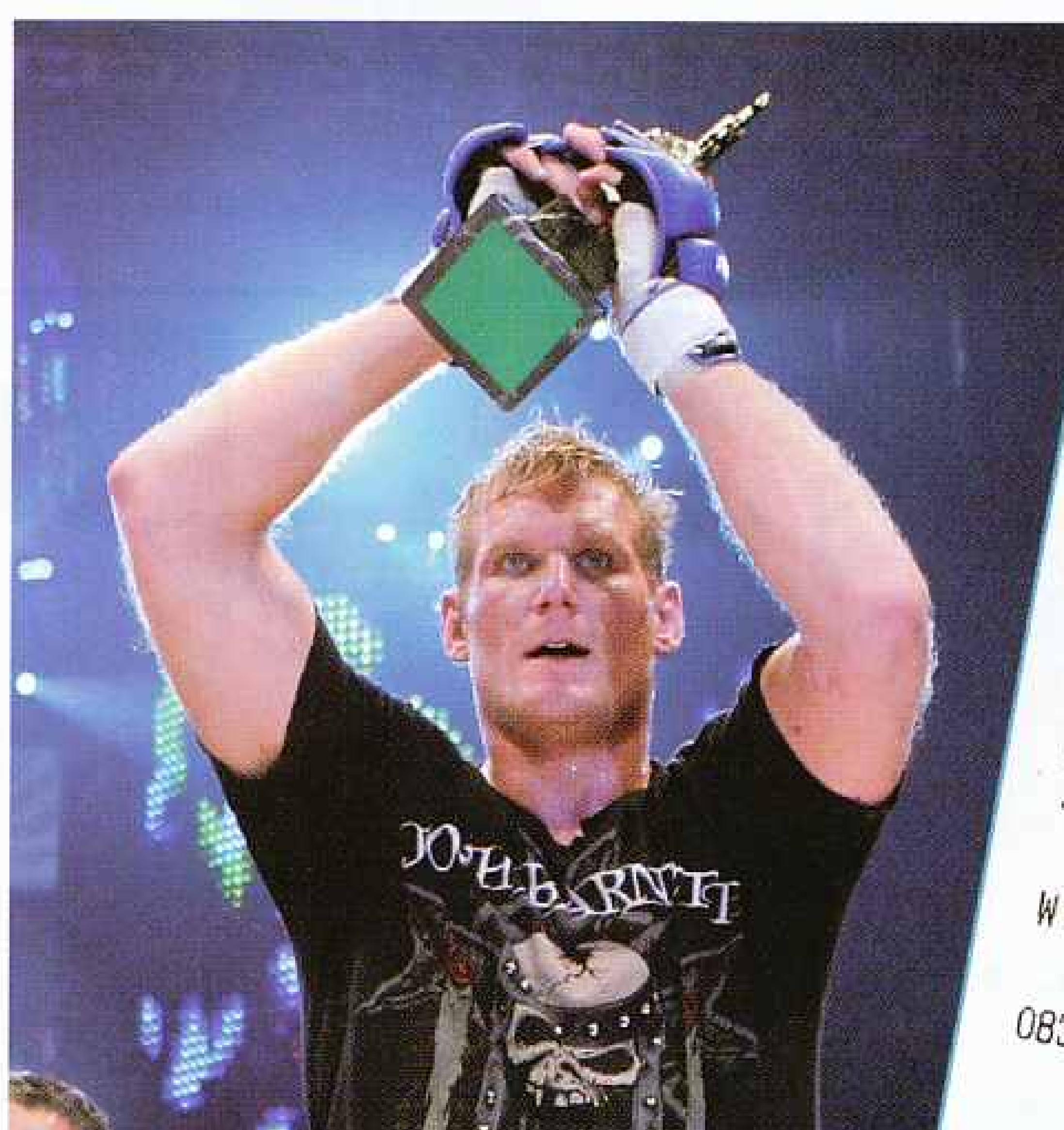
SIGN



アメリカン・バルーン サイン色紙

"インテリデカパイ男"アメリカン・バルーンのサイン入り色紙をボヨヨ～ンとプレゼント。おっぱいと風船をモチーフにしたイラストと"アメバル"の文字が映える!

DDT■http://www.ddtpro.com/



ジョシュ・バーネットのサイン入り当たり券

No.104の『ギャンブル大将!!』でジョシュ勝利を当てた巨漢フリーライター・橋本宗洋氏が、本人のサイン入り当たり券をご提供。ということは……そうです。換金できなかったんです。

PRIDE■http://www.prideofficial.com/



WEAR

UFC Tシャツ

莫大なゲート収入とPPV効果で人気爆発のUFCからTシャツをどどど〜んと大放出。グレーからブラウン、迷彩など色も豊富だ。この季節でもタンクトップを着て歩こうぜ！　サイズはすべてL。

各1名様



［グレー］　［ブラウン］　［迷彩］



タンクトップ［ブラック］

ロングTシャツ［ブラック］

UFC■http://www.ufc.com



1名様

チャック・リデル “THE ICEMAN”Tシャツ

［サイズL／ブラック］

“THE ICEMAN”といっても、F1レーサーのキミ・ライコネンではありません。もちろんUFCライトヘビー級王者のチャック・リデルです。「ヴァンダレイ・シウバ、俺はいつでもやってやるぜ!」とばかりにモヒカン男が咆哮!



1名様

ザイエンス・トレーニングセンターTシャツ

［サイズL／ブラック］

ジョン・ウッド会長やフォレスト・グリフィンのインタビューを行なった場所・ザイエンス・トレーニングセンターのTシャツ。これを着て練習を積み、UFCの舞台に立とう。

1名様



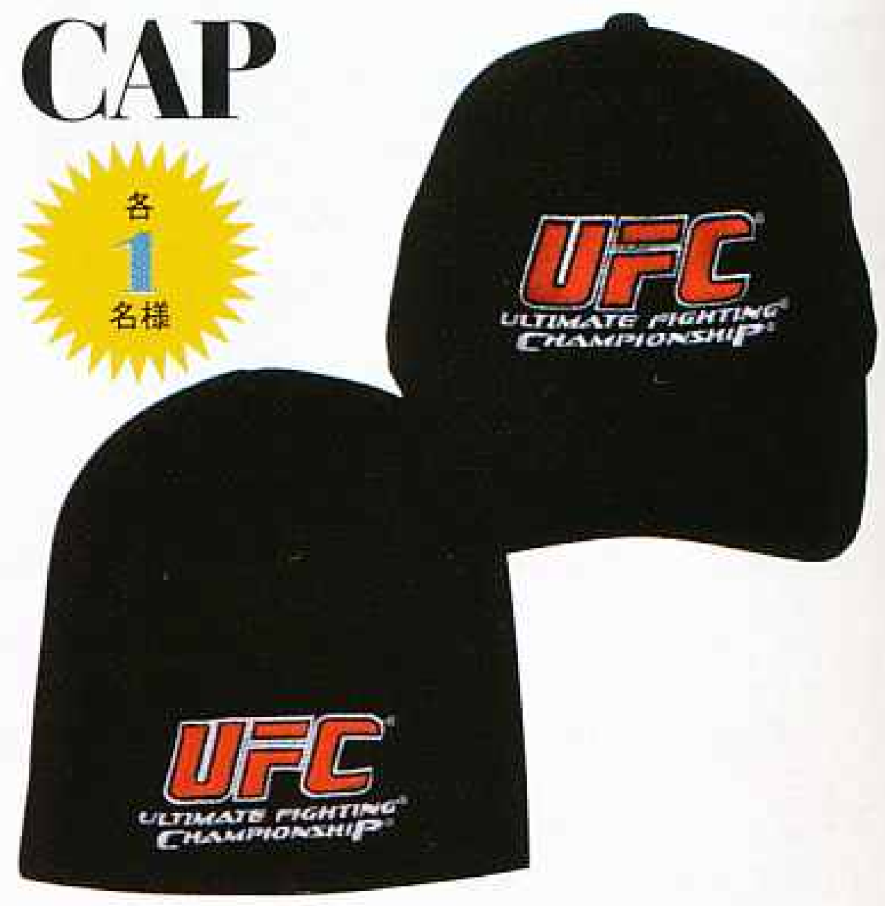
DEVILOOSEビッグドッグ サウスパーク パロディTシャツ

［XLサイズ／ホワイト／2,400円（税込）］

恒例となったビッグサイズ専門店デビルーズさんから身体が大きい人のためにTシャツをプレゼント。ワンちゃんが大好きな人にはたまらない一品です。

CAP

各1名様



UFC キャップ／ニット帽

UFCのロゴが入ったおしゃれなキャップとニット帽をプレゼント。とくにニット帽はこれからの季節におすすめ。あとは革ジャンを着て、ジーンズを穿いて、煙草をくわえて、「おい!　おい!!」と叫ぶだけ!

WWE

3名様



WWE応援うちわ&ステッカー

本誌ノアヲタ記者・真下義之より素敵なプレゼント。あまりに感動したのか、数日経っても真下は編集部で「DX!　DX!!」と連呼していました。というわけでいきますか〜っ!　3、2、1、ましブレ! ましブレ!!

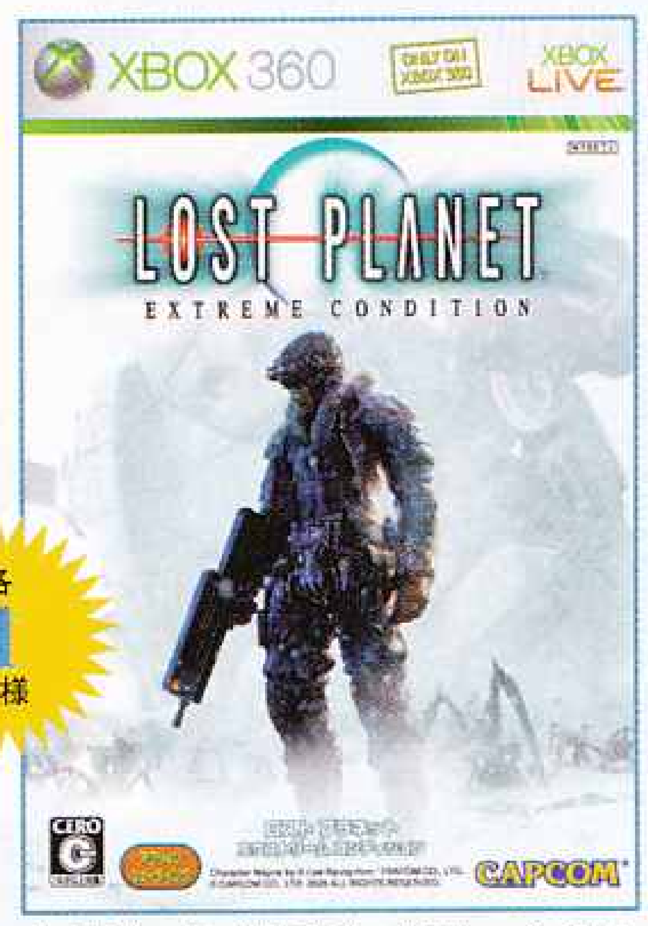
GAME



パワーストーン ポータブル／PSP ［¥5,040（税込）］

各1名様

99年、アーケードゲームに登場した『パワーストーン』シリーズ2作がついにPSP1本になったぞ!　とめどない展開にきっとあなたはとりこになる。



ロストプラネット エクストリーム コンディション／xbox360

12月21日発売予定［¥8,379（税込）］

主人公ウェインを韓国のトップスター、イ・ビョンホンがモデルのアクションシューティング。その臨場感と映像美に鳥肌が立ってもらいないぞ!

CAPCOM■http://www.capcom.co.jp/

BAG

1名様



UFC バッグ

上にあるTシャツや帽子も楽に収納できるUFCロゴ入りのバッグをダナ・ホワイト氏がご提供。当選したからには、これに荷物を詰め込んで渡米して、本場のUFCを見ないと!

DVD

UFC44

［約140分］

ランディ・クートゥアー vs ティト・オーティズ、ティム・シルビア vs ガン・マッギーなどの激闘を収録。

UFC48

［約140分］

キモとケン・シャムロックが激突! シルビア vs ミア、エヴァン・タナー vs フィル・バローニも必見。

WWE 『D GENERATION X』

［約56分／¥3,990（税込）］

最高にイカしたDX（トリプルH、ショーン・マイケルズ、チャイナ）が縦横無尽に暴れ回る!

アイドルコロシアム 『ザ・バトルヒロイントーナメント』

［98分+特典映像21分／¥5,040（税込）］

グラビアアイドルたちが水着でプロレス!　12代目ミニスカポリスや元祖スジドルも出てるぞ!

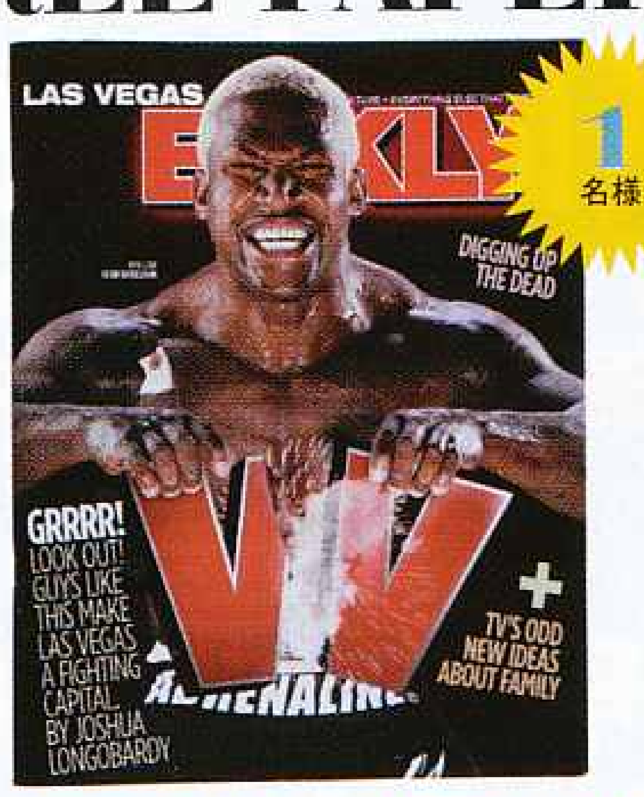


各1名様

ローランズフィルム■http://www.rolans-film.com

FREE PAPER

1名様



LAS VEGAS WEEKLY

本誌企画制作部・坂井ノブがベガスの『ボナンザ』（お土産物屋）を歩いていたところ、ゲットしたフリーペーパー。試合には惜しくも敗れたケビン・ランデルマンが“W”の文字を折る!

NEWS PAPER



1名様

現地の新聞

本誌取材班が『PRIDE.32』ラスベガス大会翌日、現地の新聞を購入。それにはなんとヒョードル vs コールマンの記事が!　ちなみにタイソンの記事の見出しは「もうタイソンのことは重要じゃない」。

(C) CAPCOM CO.,LTD.2006 All RIGHTS RESERVED.
Character Wayne by (C) Lee Byung Hun／FANTOM CO.,LTD, (C) CAPCOM CO.,LTD.2006 All RIGHTS RESERVED.

kamipro 紙のプロレス
No.105
2006年12月6日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（ラー博入場待ちのため非番）

編集見習い
辻ちゃん

電気部
ささきぃ
松澤チョロ
上杉お引っ越死

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
＼(^o^)／ジャイ子

編集次長（コマンダー・イン・チーフ）
松林 貴

デザイン総統
出田さん（TwoThree）

デザインの闘う化身
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
丸山剛史
平工幸雄
山口比佐夫
松本 崇
黒田史夫
吉場正和
平 専英

お勘定&衣料部
ニュー林様

量産型
入江ジム（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“一人暮らしデビュー”芳司

“年末も引き続きハッスル・マニア”な編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

●本書の一部あるいは全部に株式会社エンターブレインから文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

© 2006 ENTERBRAIN,INC. © 2006 DOUBLECROSS
Printed in Japan



NEXT ISSUE

今年も
格闘大戦総力特集!

次号でなんとkamipro10周年!
100号記念号に続いてマット界に何かが起こる!!……かもしれません。

次号No.106は
12月21日(木)発売予定!

※地域によっては多少発売日が遅れます。


Pure i
2006年、出会いの
ラストチャンス!
2006年も残りあとわずかとなりました。
ピュアアイではクリスマスシーズンにあわせ、
最大級のプロモーションを開始いたします。
より多くのお客様に、理想の出会いをご提供するために
様々なキャンペーン、イベントを年末にかけて毎週開催。
この機会にピュアアイで大切な人を探して、
ハッピーなクリスマスをお過ごしください。
小倉優子
クリスマスまでに、
恋人を見つけよう!
ケータイ版
パソコン版
■無料エントリーはこちらから iモード・ez-web・Yahoo!ケータイ・パソコン対応
エントリーは5分で完了!すぐにご利用可能!
http://pure-i.net/bbgy
クリスマス特別プロモーションついに開始!
ユーザー数大幅アップの今がチャンス!
ピュアアイの人気の秘密は、携帯電話・パソコンから理想の異性を瞬時に検索できる「お相手検索機能」です。10のキーワードを組み合わせて、お相手を検索する「理想のお相手検索」、好みの単語でお相手を検索できる「キーワード検索」など、充実の検索サービスで会員様の出会いをサポートいたします。
理想のお相手検索
理想のお相手の条件を入力してください。
日本全国毎週開催
東京・大阪・名古屋・横浜・仙台・福岡・札幌 etc...
全国で毎週開催!カップリングパーティー
年末にかけてピュアアイではカップリングパーティーを日本全国で毎週開催いたします。参加費は男性4,000円~、女性1,000円~とリーズナブルですのでお気軽にご参加ください。開催日程はホームページに掲載しております。
女性のお客様でも安心!
女性の皆様に負担をかけない、安心のサービスをご提供!
女性のお客様は無料※でご利用いただけます!
※女性会員様はカップリングパーティーにご参加の際のみ、参加費として1,000円~発生いたします。
18歳未満の方(高校生を含む)、既婚の方のご利用はお断りいたします
株式会社エーディーアンドディー 東京都渋谷区渋谷2-11-8 第二種電気通信事業 A-15-5933
■お問い合せセンター
03-5469-0291
受付時間10:00~19:00(年中無休)
■男性会員様のご利用料金説明…ピュアアイは登録費・会費等は一切かかりません。お相手のご紹介も無料です。料金は女性会員様とご連絡をとる際に、500円発生いたします。またご利用いただかない時に料金は発生いたしません。

kamipro 2006 105
"プロレスラー＝スーパーマン"幻想を蘇らせろ!!
飛ぶまでやれやっ!!

2006年12月6日
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳晶行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社
©2006 ENTERBRAIN,INC. ©2006 DOUBLECROSS

enterbrain



定価: 本体838円 +税

雑誌61954-54 Ⓗ2007.3
9784757730564
ISBN4-7577-3056-X
C9476 ¥838E
1929476008381
Printed in Japan 図書印刷
©2006 ENTERBRAIN,INC. ©2006 DOUBLECROSS